
鹿屋市 子育てに関する生活実態等調査
報告書

令和6年6月

鹿 屋 市

目 次

I	調査概要	1
1.	調査目的	1
2.	調査時期	1
3.	調査対象及び調査方法	1
4.	回収状況	1
5.	集計上の留意点	1
II	調査結果の総括	2
1.	就学前児童・小学校児童アンケート調査結果	2
2.	小学5年生アンケート調査結果	22
3.	子どもの貧困対策計画策定に係るアンケート調査結果（小学5年生保護者）	28
4.	こども・若者の意識と生活に関する調査結果（15～39歳の市民）	33
5.	事業所調査結果	53
III	調査結果（未就学児）	61
1.	住まいの地域について	61
2.	未子のお子さんご家族の状況について	63
3.	子育ての環境について	65
4.	未子のお子さんの保護者の就労状況について	70
5.	未子のお子さんの平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について	77
7.	未子のお子さんの地域の子育て支援事業の利用状況について	85
6.	未子のお子さんの土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望について	90
7.	未子のお子さんの病気の際の対応について（平日の教育・保育を利用する方のみ）	95
8.	未子のお子さんの「不定期」の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について	102
9.	【未子のお子さんが5歳以上（回答日現在）である方】 小学校就学後の放課後の過ごし方について	110
10.	育児休業や短時間勤務制度など、職場の両立支援制度について	118
11.	鹿屋市の子育ての環境や支援について	130
	自由回答	134
IV	調査結果（小学校児童）	179
1.	住まいの地域について	179
2.	封筒の宛名のお子さんご家族の状況について	180
3.	子どもの育ちをめぐる環境について	182
4.	宛名のお子さんの保護者の就労状況について	186

5. 宛名のお子さんの放課後（平日の小学校終了後）や休日の過ごし方について -----	192
6. 宛名のお子さんの病気の際の対応について-----	196
7. 鹿屋市の子育ての環境や支援について -----	202
自由回答 -----	207
V 調査結果（小学5年生）	250
VI 調査結果（小学5年生保護者）	264
VII 調査結果（こども・若者）	285
1. あなた自身のことについて -----	285
2. 家族や友人などとの関わりについて -----	296
3. 外出の状況について -----	303
4. あなたの思いやこれまでの経験について -----	311
VIII 調査結果（事業所）	366
1. 事業所概要 -----	366
2. 事業所の活動状況について -----	370
資料編（調査票）	383
1. 未就学児	384
2. 小学校児童	409
3. 小学5年生	421
4. 小学5年生保護者	432
5. こども・若者	445
6. 事業所	466

I 調査概要

1. 調査目的

令和7年度から令和11年度までの5年間を計画期間とした、「第3期鹿屋市子ども・子育て支援事業計画」の策定に向け、この計画で確保すべき教育・保育・子育て支援の「量の見込み」を算出し、市民の皆様の教育・保育・子育て支援に関する「現在の利用状況」や「今後の利用希望」を把握し、計画策定の基礎資料とするために、アンケート調査を実施した。

2. 調査時期

令和5年12月～令和6年4月

3. 調査対象及び調査方法

- ①就学前児童保護者：保育所等を通じた配付・インターネット上での回収
- ②小学校児童保護者：学校を通じた配付・インターネット上での回収
- ③小学5年生：学校を通じた配付・インターネット上での回収
- ④小学5年生保護者：学校を通じた配付・インターネット上での回収
- ⑤こども・若者：市内在住の15～39歳の住民を無作為抽出、郵送による配付・回収
- ⑥事業所：市内在住のこども等が利用する事業所を対象、郵送による配付・回収

4. 回収状況

対象者	配付数	回収件数	回収率
①就学前児童保護者	4,017件	1,042件	25.9%
②小学校児童保護者	4,574件	892件	19.5%
③小学5年生	1,033件	670件	64.9%
④小学5年生保護者	1,033件	294件	28.5%
⑤こども・若者	2,500件	515件	20.6%
⑥事業所	81件	32件	39.5%

5. 集計上の留意点

- (1) グラフ中の「n=」は、母数となるサンプル数(回答者数)を示している。
- (2) 集計結果は百分率で算出し、四捨五入の関係上、百分率の合計が100%にならない場合がある。
- (3) 複数回答の場合は、回答者実数より多くなっている場合がある。
- (4) 回答者が無い場合の設定では一部集計表・グラフを省いている。

Ⅱ 調査結果の総括

1. 就学前児童・小学校児童アンケート調査結果

(1) 子どもの育ちをめぐる環境

- ・主に子育てを行っている人について、就学前児童保護者では、「父母ともに」が59.4%で「主に母親」が39.5%であり、平成30年度調査と比較すると大きな変化はみられない。小学校児童保護者では、「父母ともに」が59.3%で「主に母親」が38.1%となっている。
- ・子どもをみてもらえる親族・知人等の有無について、就学前児童保護者では、64.5%の人が「緊急時または用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」、27.4%の人が「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」環境にある。平成30年度調査と比較すると大きな変化はみられない。小学校児童保護者では、62.4%の人が「緊急時または用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」、26.1%の人が「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」環境にある。

①主に子育て（教育を含む）を行っている人

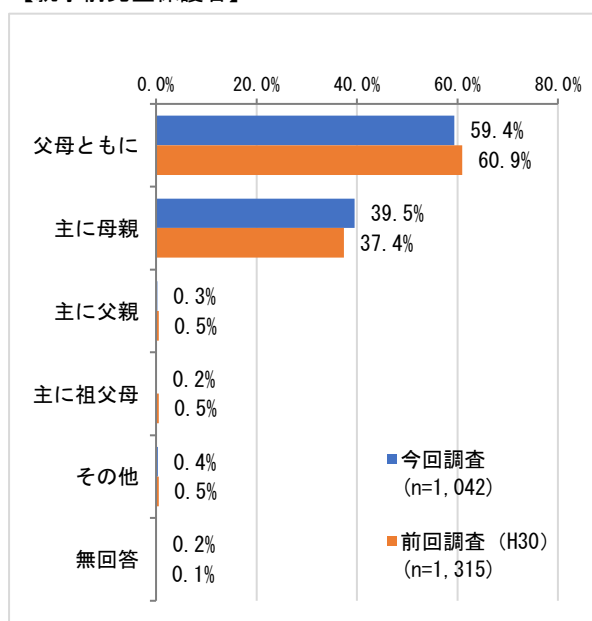
【就学前児童保護者：問6、小学校児童保護者：問6】

就学前児童保護者では、「父母ともに」の割合が59.4%と最も高く、次いで「主に母親」の割合が39.5%と続く。

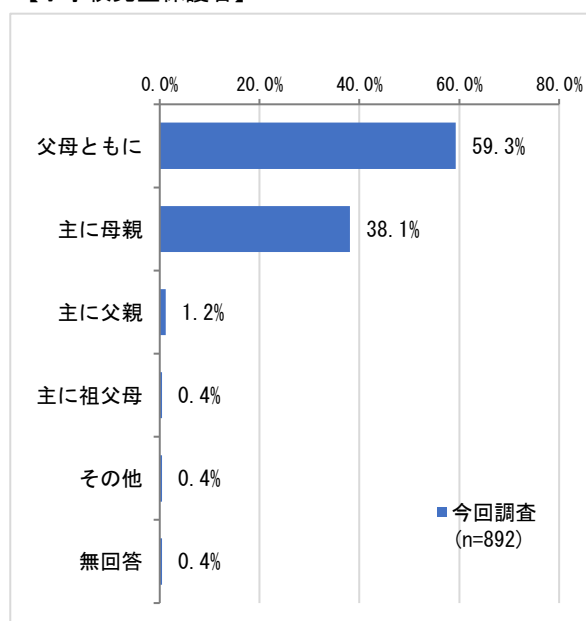
平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられない。

小学校児童保護者では、「父母ともに」の割合が59.3%と最も高く、次いで「主に母親」の割合が38.1%と続く。

【就学前児童保護者】



【小学校児童保護者】



②子どもをみてもらえる親族・知人等の有無

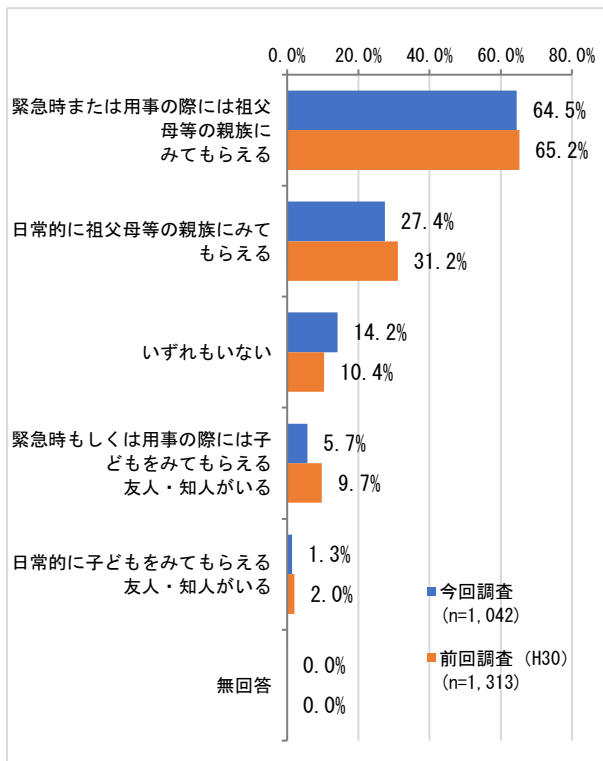
【就学前児童保護者：問9、小学校児童保護者：問7】※複数回答

就学前児童保護者では、「緊急時または用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」の割合が64.5%と最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」の割合が27.4%、「いずれもない」の割合が14.2%と続く。

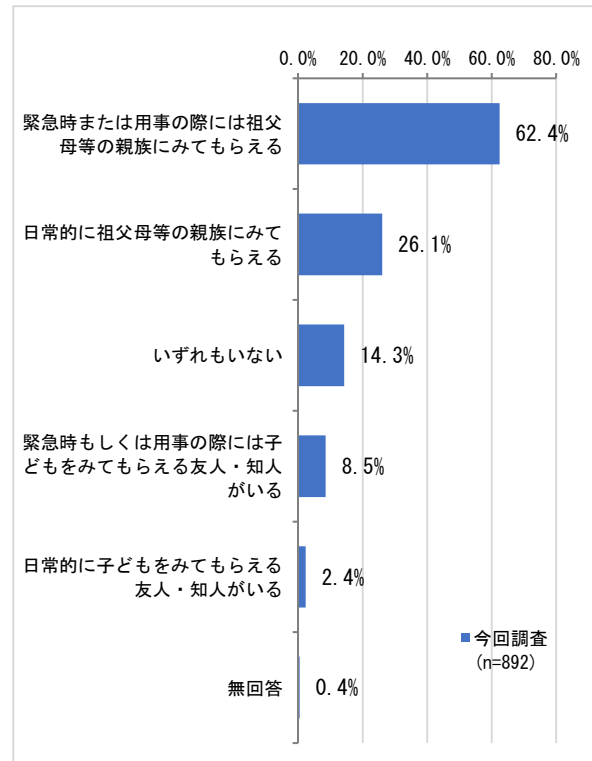
平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられない。

小学校児童保護者では、「緊急時または用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」の割合が62.4%と最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」の割合が26.1%、「いずれもない」の割合が14.3%と続く。

【就学前児童保護者】



【小学校児童保護者】



③子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人（または場所）の有無

【就学前児童保護者：問10、小学校児童保護者：問8】

就学前児童保護者では、気軽に相談できる人が「はい（いる）」の割合が92.6%、「いいえ（いない）」の割合が6.8%。

小学校児童保護者では、気軽に相談できる人が「いる／ある」の割合が89.5%、「いない／ない」の割合が10.0%。

④子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先

【就学前児童保護者：問10-1、小学校児童保護者：問8-1】※複数回答

※就学前児童保護者の問10、小学校児童保護者の問8で相談できる人（場所）がある人に限定した設問。

就学前児童保護者では、「祖父母等の親族」の割合が82.4%と最も高く、次いで「友人や知人」の割合が66.4%、「保育士や幼稚園教諭」の割合が38.7%と続く。

小学校児童保護者では、「祖父母等の親族」の割合が76.8%と最も高く、次いで「友人や知人」の割合が71.8%、「小学校の担任等」の割合が32.5%と続く。

(2) 保護者の就労状況

- ・母親の就労形態の現状をみると、就学前児童保護者では、「フルタイム」が45.5%、「未就労」が19.2%、「パート・アルバイト等」が34.0%となっている。平成30年度調査と比較すると、「パート・アルバイト等」は大きな変化がないものの、「フルタイム」が7.2ポイント増加、「未就労」が10.8ポイント減少していることから、保育が必要な家庭が増加していることがうかがえる。小学校児童保護者では、「パート・アルバイト等」が43.7%、「フルタイム」が41.9%、「未就労」が12.9%となっている。
- ・就学前児童保護者では、「パート・アルバイト等」で就労している母親のうちの5.6%は「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」に回答している。また、未就労の母親の30.0%が「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」としている。小学校児童保護者では、6.2%は「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」に回答している。また、未就労の母親の33.0%が「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」としており、潜在的な保育需要がみられ、保育・教育サービスニーズの増加が予測される。

※「フルタイム」：「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である」

「パート・アルバイト等」：「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」「パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である」

「未就労」：「以前は就労していたが、現在は就労していない」「これまで就労したことがない」

①保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）

【就学前児童保護者：問12、小学校児童保護者：問10】

《母親》

就学前児童保護者では、「フルタイム」が45.5%、次いで「未就労」が19.2%、「パート・アルバイト等」が34.0%と続く。

平成30年度調査と比較すると、「フルタイム」が7.2ポイント増加、「未就労」が10.8ポイント減少している。「パート・アルバイト等」は大きな変化がみられません。

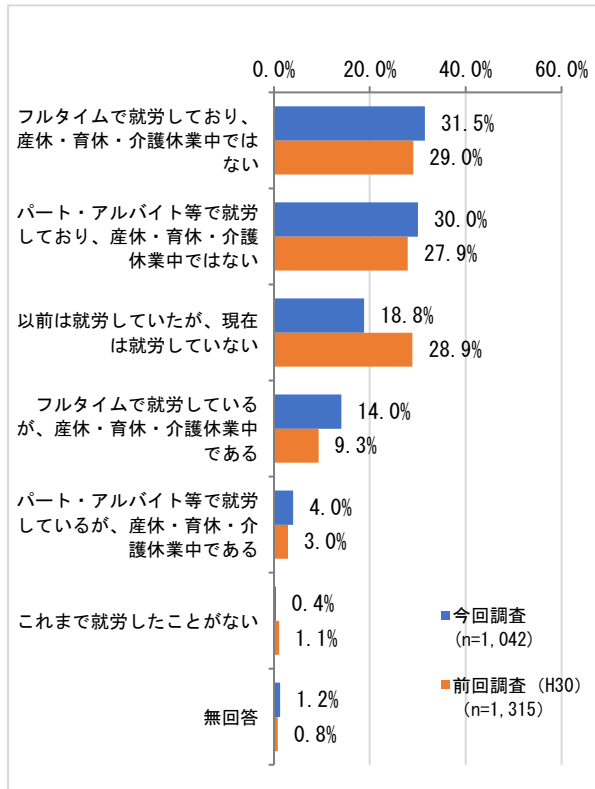
小学校児童保護者では、「パート・アルバイト等」が43.7%、次いで「フルタイム」が41.9%、「未就労」が12.9%と続く。

《父親》

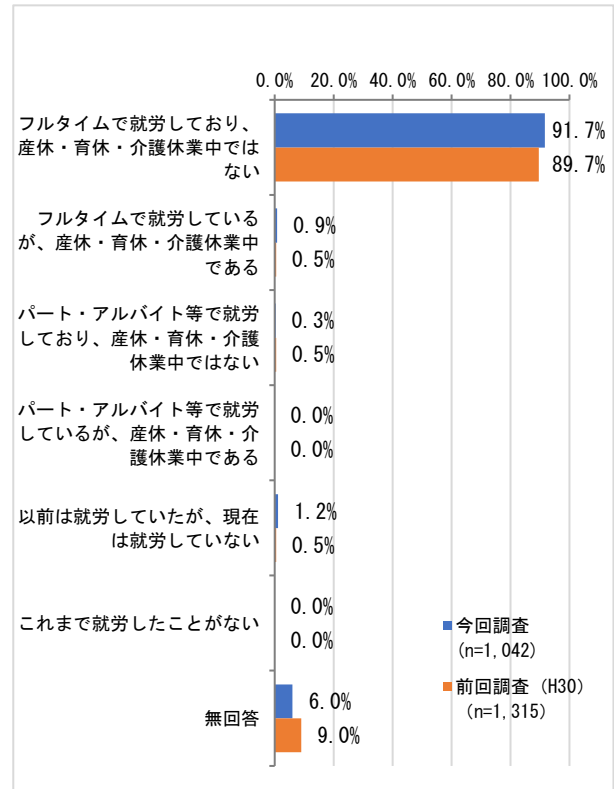
就学前児童保護者では、「フルタイム」が最も多く、回答者全体の92.5%を占める。

小学校児童保護者では、「フルタイム」が最も多く、回答者全体の85.2%を占める。

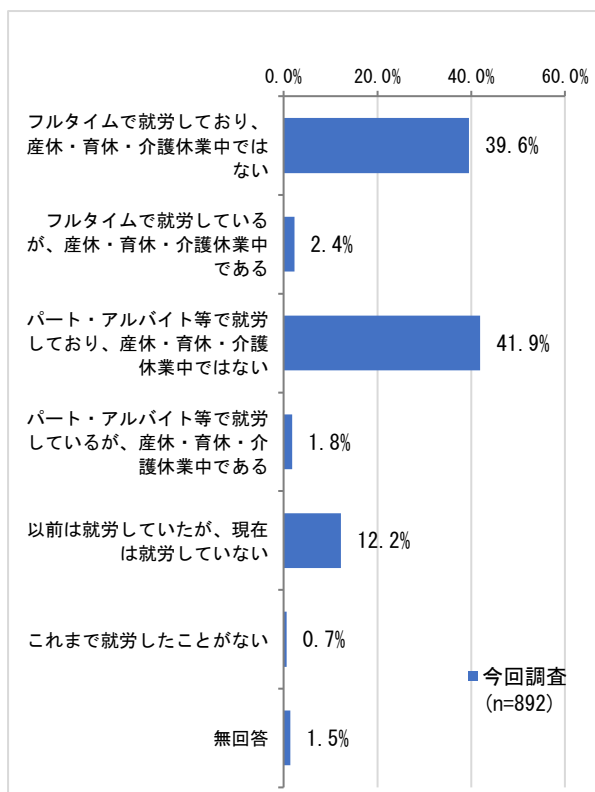
【母親（就学前児童保護者）】



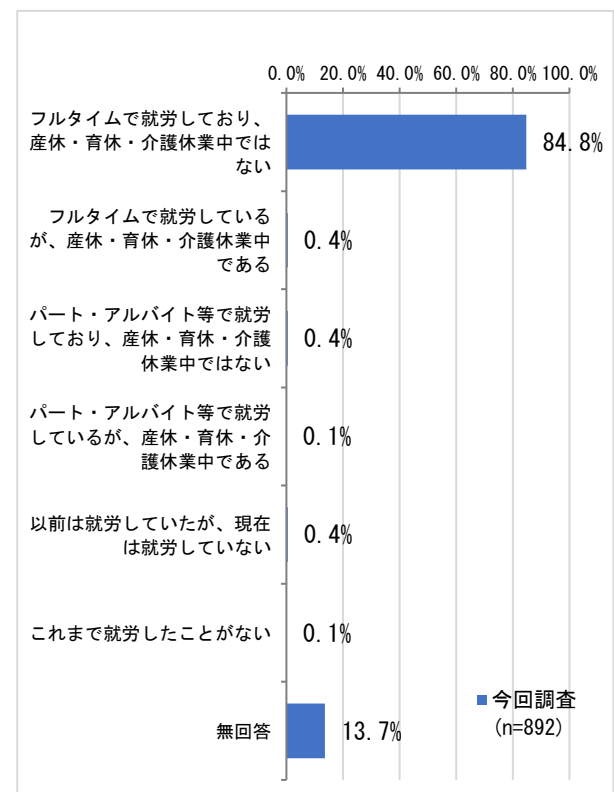
【父親（就学前児童保護者）】



【母親（小学校児童保護者）】



【父親（小学校児童保護者）】



②フルタイムへの転換希望【就学前児童保護者：問13-1、小学校児童保護者：問11】

※就学前児童保護者の問12、小学校児童保護者の問10で「パート・アルバイト等」で就労している人に限定した設問。

《母親のフルタイムへの転換希望》

就学前児童保護者では、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」の割合が53.8%と最も高く、次いで「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」の割合が33.5%と続く。

小学校児童保護者では、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」の割合が57.9%と最も高く、次いで「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」の割合が29.2%と続く。

《父親のフルタイムへの転換希望》

就学前児童保護者では、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が1件。

小学校児童保護者では、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が2件、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が1件。

③就労していない人の就労希望【就学前児童保護者：問14、小学校児童保護者：問12】

※就学前児童保護者の問12、小学校児童保護者の問10で未就労（「以前は就労していたが、現在は就労していない」「これまで就労したことがない」）と回答した人に限定した設問。

《未就労の母親の就労希望等》

就学前児童保護者では、「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったところに就労したい」の割合が47.0%と最も高く、次いで「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」の割合が30.0%、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」の割合が19.0%と続く。

「1年より先、一番下の子どもが何歳になったところに就労したいか」の年齢の内訳は、「3歳」の割合が34.0%と最も高く、2歳以下が25.5%。

小学校児童保護者では、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」の割合が33.0%と最も高く、次いで「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」の割合が28.7%、「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったところに就労したい」の割合が24.3%と続く。

「1年より先、一番下の子どもが何歳になったところに就労したいか」の年齢の内訳は、「7歳」が35.7%と最も高く、次いで「3歳」が17.9%と続く。

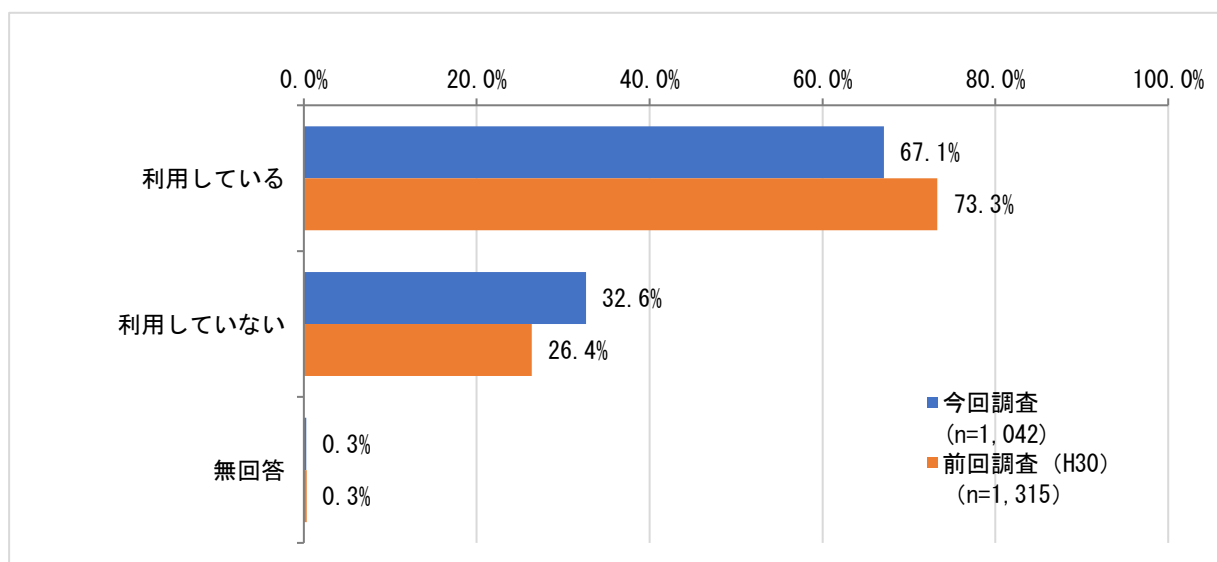
(3) お子さんの平日の定期的な教育・保育事業の利用状況

- ・ 定期的な教育・保育事業について、「利用している」人が67.1%で、「利用していない」人は32.6%。平成30年度調査と比較すると、「利用している」が6.2ポイント減少している。
- ・ 定期的な教育・保育事業を利用している理由は、「子育てをしている方が現在就労している」が80.5%と最も高く、次いで「子どもの教育や発達のため」が63.8%と高い。
- ・ 定期的に利用したい教育・保育事業は、「認定こども園」が64.6%と最も高く、次いで「認可保育所」の割合が35.1%、「幼稚園」の割合が27.8%となっている。

①「定期的な教育・保育事業」の利用の有無【問15】

「利用している」の割合が67.1%、「利用していない」の割合が32.6%。
平成30年度調査と比較すると、「利用している」が減少している。

【就学前児童保護者】



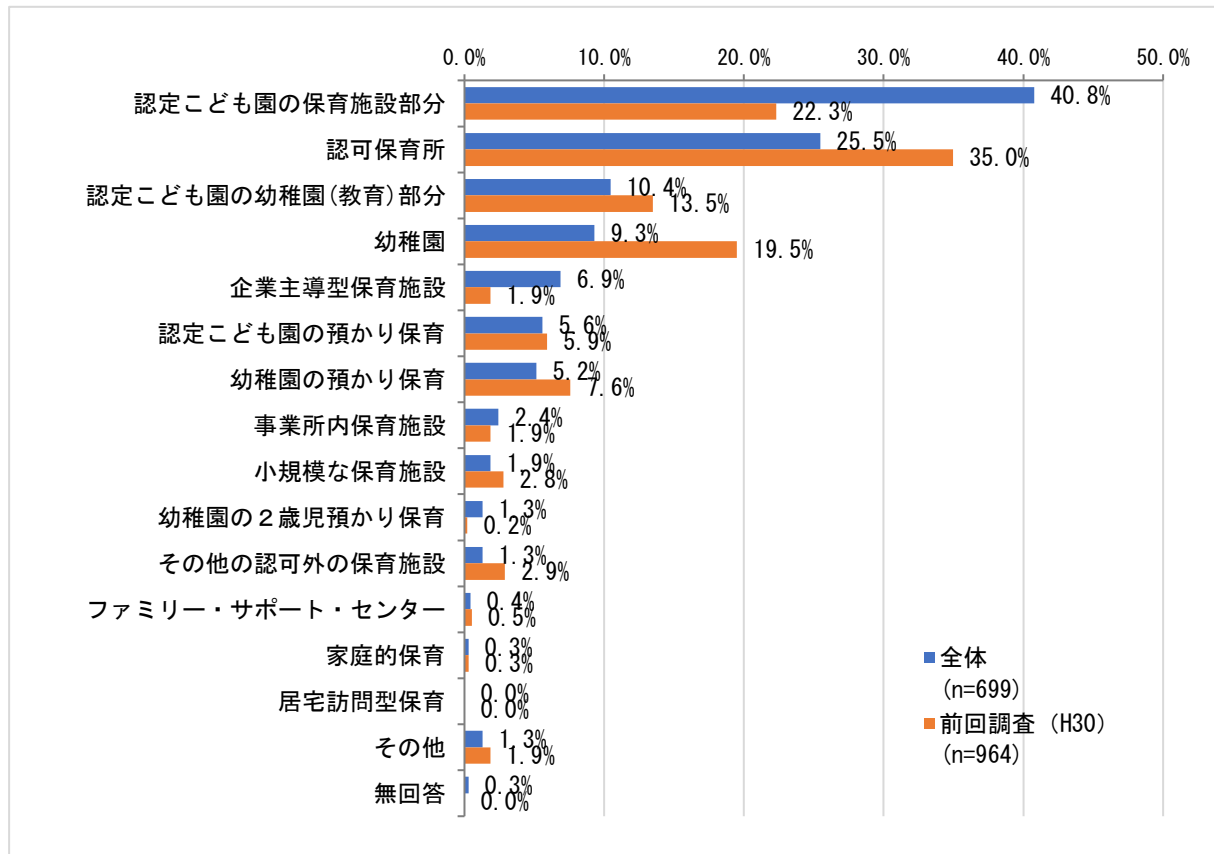
②年間を通じて「定期的に」利用している事業【問15-1】※複数回答

※問15で「定期的な教育・保育事業を利用している」と回答した人に限定した設問。

「認定こども園の保育施設部分」の割合が40.8%と最も高く、次いで「認可保育所」の割合が25.5%、「認定こども園の幼稚園（教育）部分」の割合が10.4%と続く。

平成30年度調査と比較すると、「認定こども園の保育施設部分」の割合が18.5ポイント増加し、「認可保育所」の割合が9.5ポイント、「幼稚園」の割合が10.2ポイント減少となっている。

【就学前児童保護者】



③平日に定期的に教育・保育の事業を利用されている理由【問15-4】※複数回答

※問15で「定期的な教育・保育事業を利用している」と回答した人に限定した設問。

「子育てをしている方が現在就労している（または産休・育休中）」の割合が80.5%と最も高く、次いで「子どもの教育や発達のため」の割合が63.8%と続く。

④平日の教育・保育事業の事業として、「定期的に」利用したいと考える事業

【問16】※複数回答

「認定こども園」の割合が64.6%と最も高く、次いで「認可保育所」の割合が35.1%、「幼稚園」の割合が27.8%と続く。

(4) お子さんの地域の子育て支援事業の利用状況

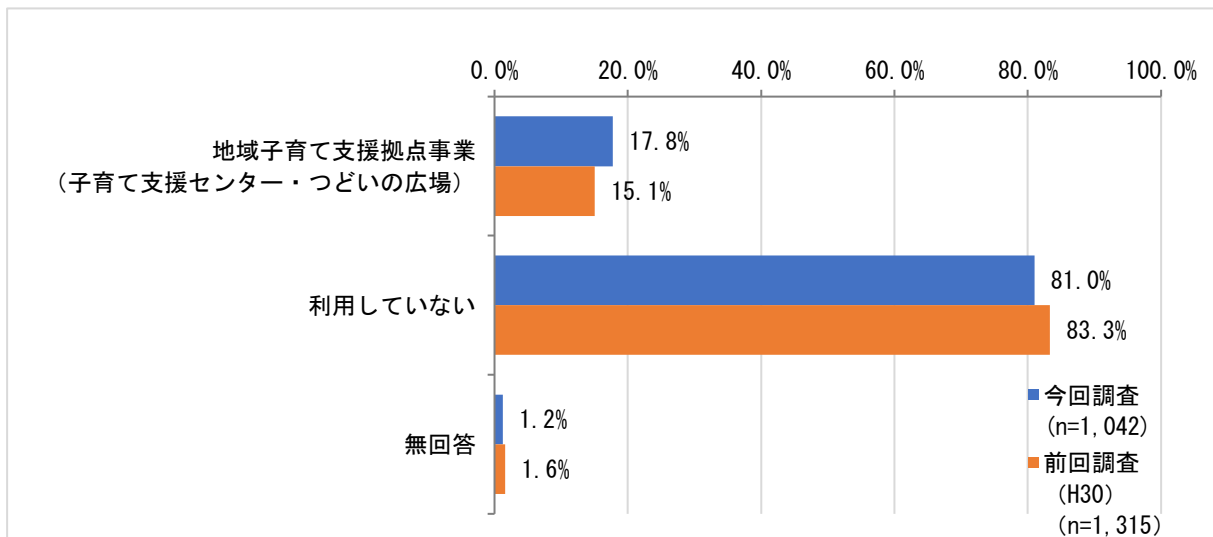
- ・「子育て支援センター」「つどいの広場」など地域子育て支援拠点事業を利用している人は回答者全体の17.8%だが、「利用していないが、今後利用したい」が22.8%となっており、潜在的なニーズがみられる。
- ・今後の事業の利用意向については、「かのやライフ（アプリ）」が58.9%、「子育て支援アプリ“かのや育memo。（かのやはぐめも）”」が52.5%と今後利用したい人の割合が高くなっている。

①利用している地域子育て支援拠点事業（「つどいの広場」）【問17】

「利用していない」の割合が81.0%と最も高く、次いで「地域子育て支援拠点事業（子育て支援センター・つどいの広場）」の割合が17.8%。

平成30年度調査と比較すると、大きな変化はみられない。

【就学前児童保護者】



②地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向【問18】

「新たに利用したいとは思わない、利用日数を増やしたいとは思わない」の割合が67.0%と最も高く、次いで「利用していないが、今後利用したい」の割合が22.8%、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」の割合が6.8%と続く。

③子育て支援事業の今後の利用意向【問19】

《事業の認知度》

「訪問指導・母子相談」が86.1%、「パパママ教室、育児教室」が72.7%、「かのやライフ（アプリ）」が65.2%と認知度が高くなっている。

一方、「教育相談室」「家庭教育に関する学級・相談事業」で知らない人の割合が高くなっている。

《事業の利用経験》

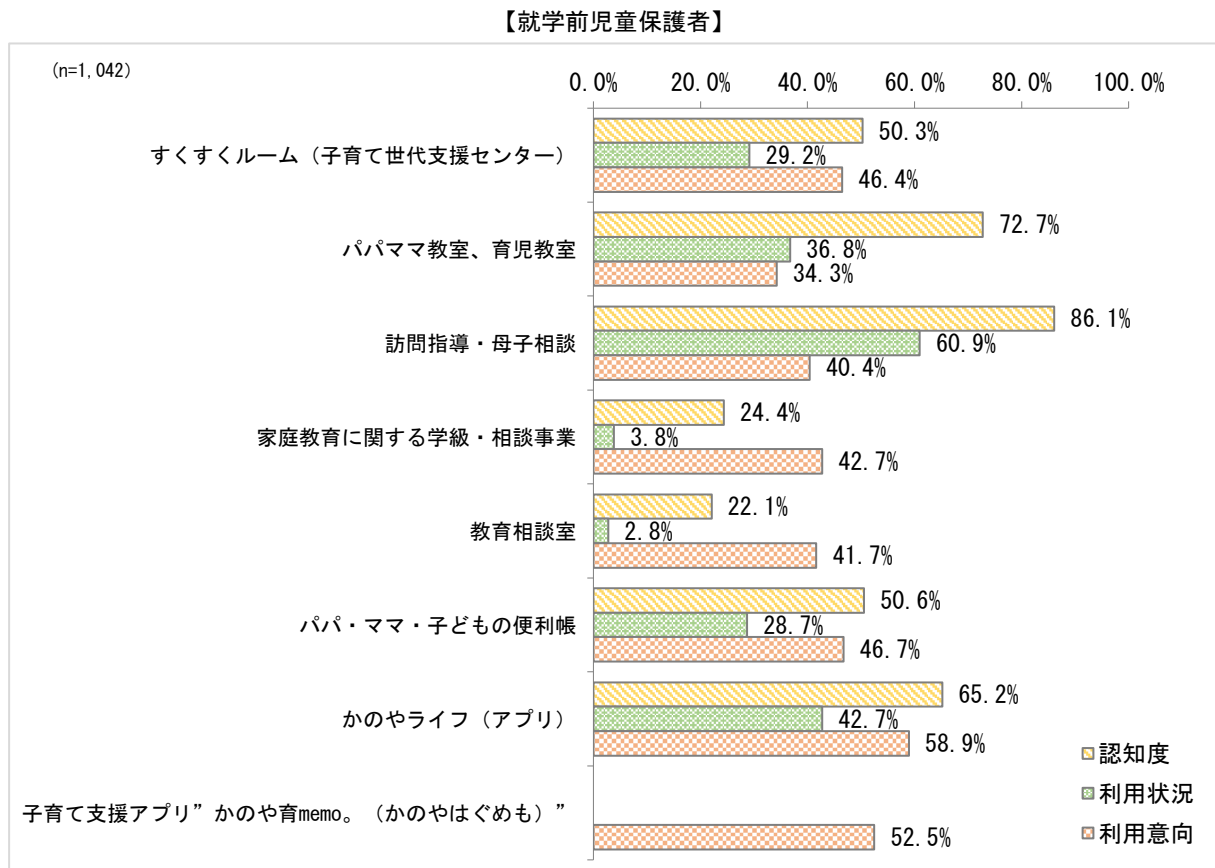
「訪問指導・母子相談」が60.9%、「かのやライフ（アプリ）」が42.7%と利用したことがある人の割合が高くなっている。

一方、「教育相談室」「家庭教育に関する学級・相談事業」で利用したことがない人の割合が9割以上と高くなっている。

《事業の利用意向》

「かのやライフ（アプリ）」が58.9%、「子育て支援アプリ“かのや育memo。（かのやはぐめも）”」が52.5%と今後利用したい人の割合が高くなっている。

一方、「パパママ教室、育児教室」で利用意向がない人の割合が約6割と高くなっている。



(5) お子さんの土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望

- ・「定期的」な教育・保育事業の利用希望は、土曜日に「ほぼ毎週利用したい」が43.6%、日曜・祝日の「利用する必要はない」が76.8%、幼稚園等の長期休暇中に「休みの期間中、週に数日利用したい」が43.1%など、土日・休日等の「定期的な」教育・保育事業に対して、潜在的なニーズがあることがうかがえる。

①土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望【就学前児童保護者：問20】

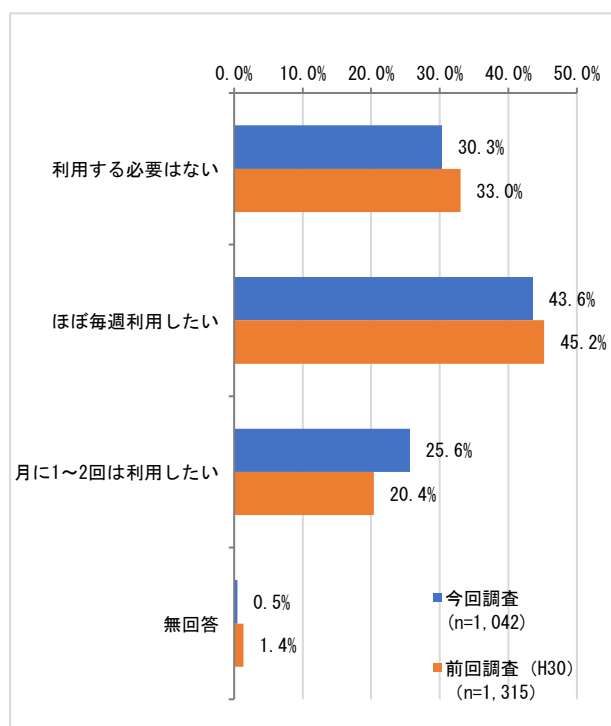
《土曜日の利用希望》

「ほぼ毎週利用したい」の割合が43.6%と最も高く、次いで「利用する必要はない」の割合が30.3%「月に1～2回は利用したい」の割合が25.6%と続く。

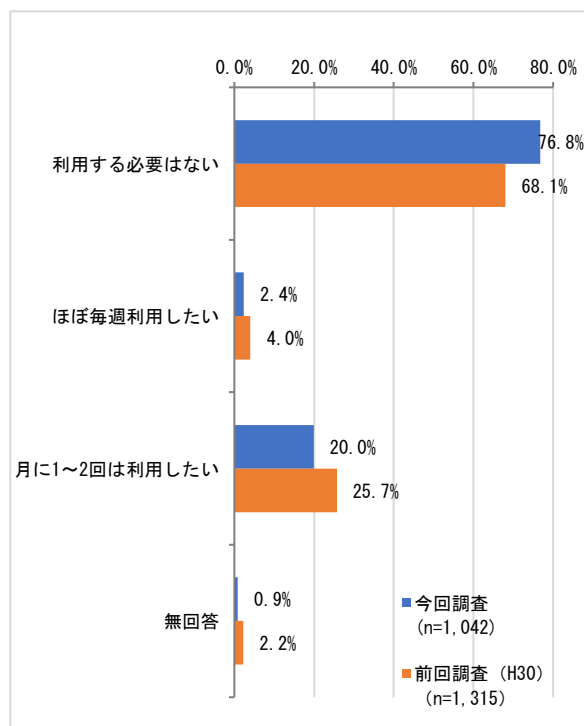
《日曜・祝日の利用希望》

「利用する必要はない」の割合が76.8%と最も高く、次いで「月に1～2回は利用したい」の割合が20.0%、「ほぼ毎週利用したい」の割合が2.4%と続く。

【土曜・休日（就学前児童保護者）】



【日曜・祝日（就学前児童保護者）】



②幼稚園利用者の夏休み・冬休みなど長期休暇期間中の教育・保育事業の利用希望

【就学前児童保護者：問21】※複数回答

※幼稚園を利用している人に限定した設問。

「休みの期間中、週に数日利用したい」の割合が43.1%と最も高く、次いで「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」の割合が32.3%、「利用する必要はない」の割合が23.1%と続く。

(6) お子さんの病気の際の対応

- ・お子さんの病気やケガで通常の事業が利用できなかった経験がある人について、就学前児童保護者は73.4%、小学校児童保護者は22.9%。
- ・その際の対処法として、就学前児童保護者では92.2%が「母親が休んだ」、34.9%が「父親が休んだ」としており、小学校児童保護者では84.1%が「母親が休んだ」、23.2%が「父親が休んだ」となっている。
- ・就学前児童保護者の32.6%が「できれば病児・病後児保育を利用したい」と回答している。

①お子さんが病気やケガで通常の事業が利用できなかった経験

【就学前児童保護者：問22、小学校児童保護者：問17】

就学前児童保護者では、「あった」が73.4%、「なかった」が22.9%。

小学校児童保護者では、「あった」が76.3%、「なかった」が22.5%。

②お子さんが病気やケガで通常の事業が利用できなかった場合の対処法

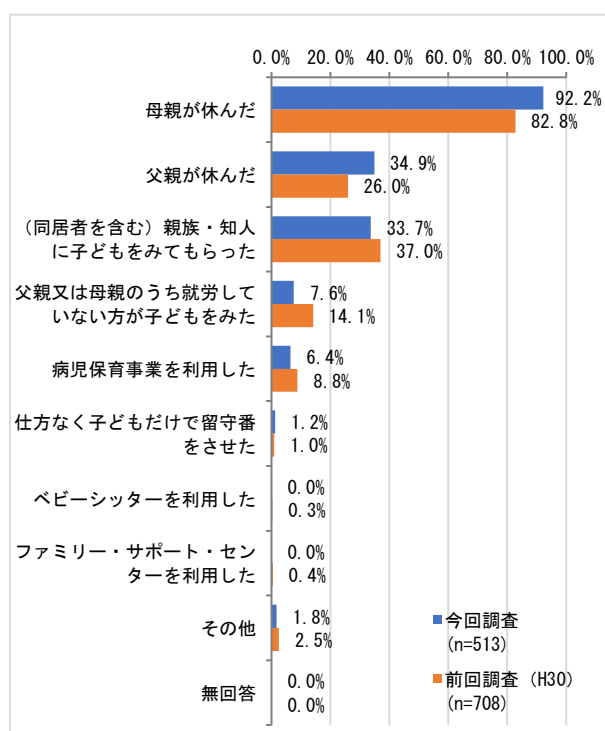
【就学前児童保護者：問22-1、小学校児童保護者：問18】※複数回答

※就学前児童保護者の問22、小学校児童保護者の問17で「あった」と回答した人に限定した設問。

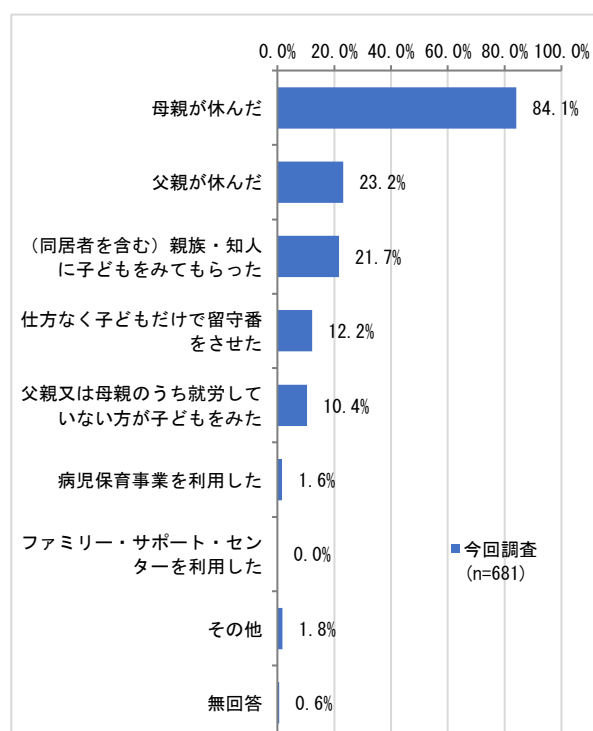
就学前児童保護者では、「母親が休んだ」の割合が92.2%と最も高く、次いで「父親が休んだ」の割合が34.9%、「（同居者を含む）親族・知人に子どもをみてもらった」の割合が33.7%と続く。平成30年度調査と比較すると、「母親が休んだ」「父親が休んだ」の割合がいずれも増加している。

小学校児童保護者では、「母親が休んだ」の割合が84.1%と最も高く、次いで「父親が休んだ」の割合が23.2%、「（同居者を含む）親族・知人に子どもをみてもらった」の割合が21.7%と続く。

【就学前児童保護者】



【小学校児童保護者】



③病児・病後児保育施設等の利用意向

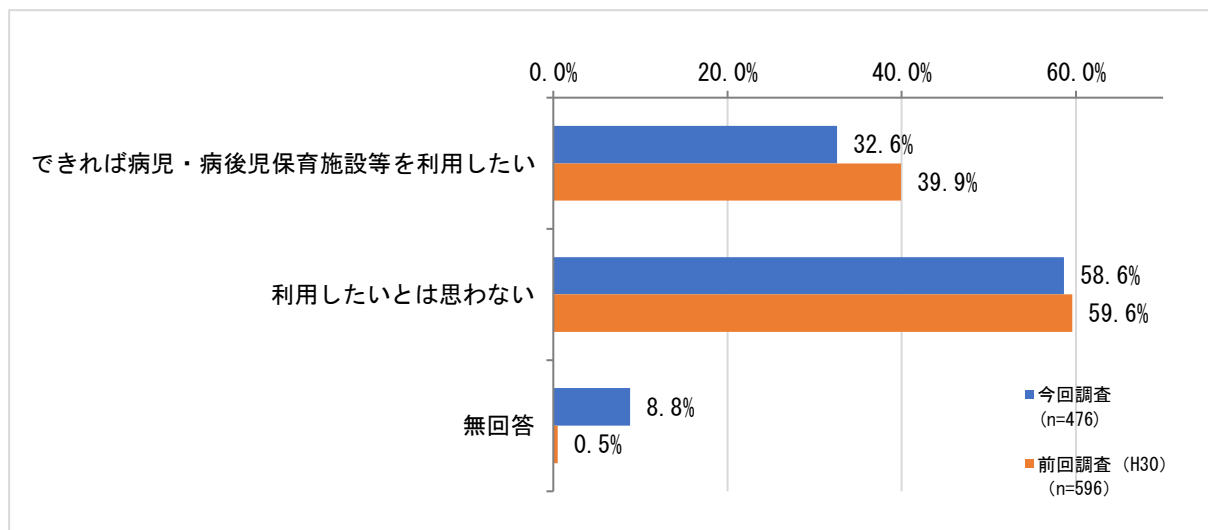
【就学前児童保護者：問22-2】

※就学前児童保護者の問22-1で「ア.父親が休んだ」「イ.母親が休んだ」と回答した人に限定した設問。

就学前児童保護者では、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」の割合が32.6%、「利用したいとは思わない」の割合が58.6%。

平成30年度調査と比較すると、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」が7.3ポイント減少している。

【就学前児童保護者】



(7)「不定期」の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用

- ・一時預かりについて、就学前児童保護者の39.8%が今後、「利用したい」と回答している。利用したい目的としては、「私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的」が82.2%と最も高く、次いで「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等」が80.7%、「不特定の就労」が37.6%となっている。

①私用、親の通院、不特定の就労等の目的で不定期的に利用している事業

【就学前児童保護者：問23】※複数回答

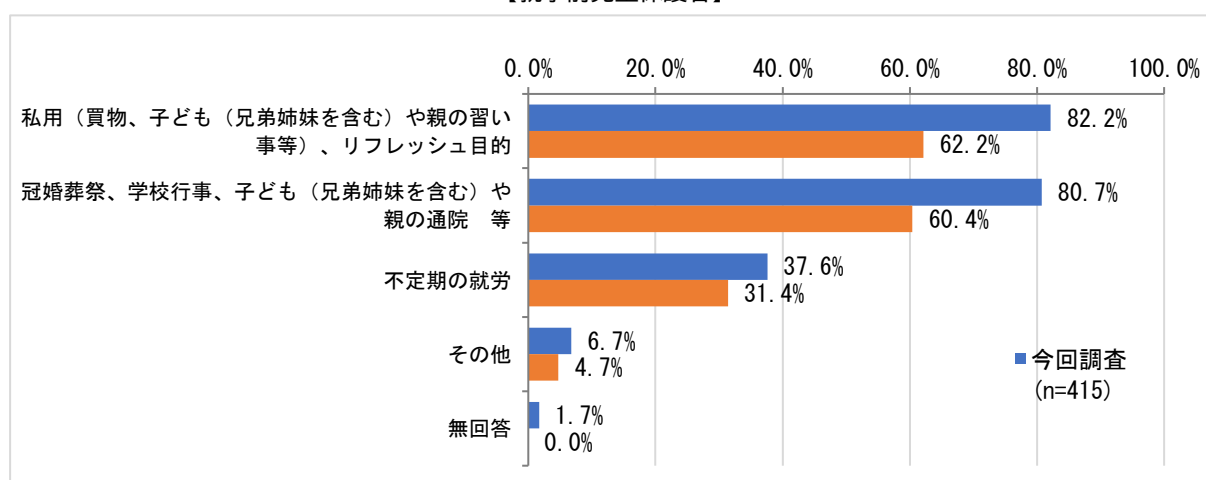
就学前児童保護者では、「利用していない」の割合が78.9%と最も高く、次いで「認定こども園の預かり保育」の割合が7.5%と続く。

②不特定の教育・保育事業の利用意向【就学前児童保護者：問24】※複数回答

就学前児童保護者では、「利用したい」が39.8%、「利用する必要はない」が56.5%。「利用したい」理由（複数回答）としては、「私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的」の割合が82.2%と最も高く、次いで「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等」の割合が80.7%、「不特定の就労」の割合が37.6%と続く。

平成30年度調査と比較すると、利用したい全ての理由で増加している。

【就学前児童保護者】



(8) 小学校就学後の放課後の過ごし方

- ・就学前児童保護者では、57.8%の保護者が小学校低学年（1～3年生）のうちに「放課後児童クラブ（学童保育）」で過ごさせたいとしており、平成30年度調査と比較すると「放課後児童クラブ（学童保育）」「自宅」の割合が増加している。また、小学校高学年（4～6年生）になった時は「放課後児童クラブ（学童保育）」が35.1%と低学年と比較すると低くなっているが、平成30年度調査と比較すると21.6ポイント増加しており、利用ニーズが高くなっていることがうかがえる。
- ・「放課後児童クラブ（学童保育）」に対する利用意向を持った保護者の土曜・休日や長期休暇中の利用意向をみると、「利用する必要はない」が高くなっている。
- ・小学校児童保護者では、61.5%の保護者の子どもが放課後に「自宅」で過ごしているとしている。

※就学前児童保護者では、5歳以上の子どもに限定した設問。

①小学校低学年（1～3年生）のうちの放課後子どもを過ごさせたい場所等

【就学前児童保護者：問26、小学校児童保護者：問13】※複数回答

就学前児童保護者では、「放課後児童クラブ（学童保育）」の割合が57.8%と最も高く、次いで「自宅」の割合が48.1%、「祖父母宅や友人・知人宅」、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」の割合がいずれも21.1%と続く。

平成30年度調査と比較すると、「放課後児童クラブ（学童保育）」「自宅」が増加している。

小学校児童保護者では、「自宅」の割合が61.5%と最も高く、次いで「放課後児童クラブ（学童保育）」の割合が44.4%、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」の割合が36.8%と続く。

②小学校高学年（4～6年生）になった時に放課後子どもを過ごさせたい場所等

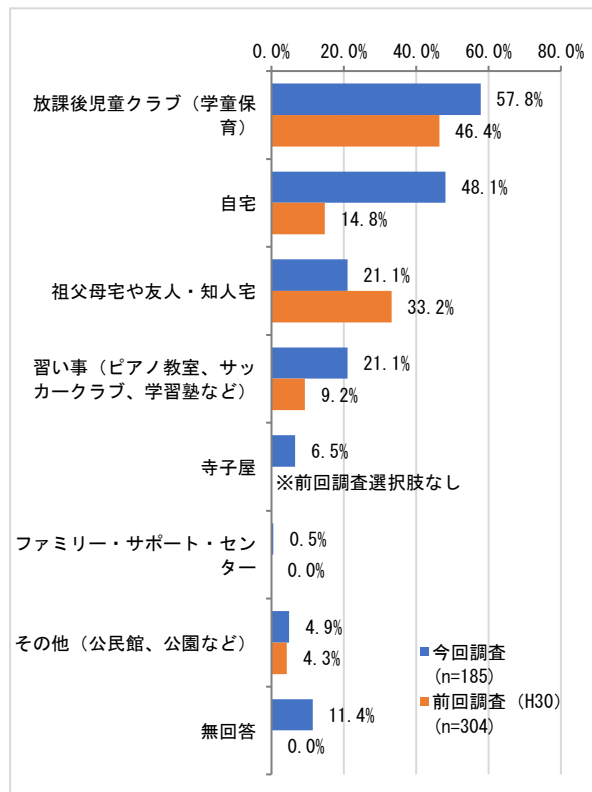
【就学前児童保護者：問27、小学校児童保護者：問14】※複数回答

就学前児童保護者では、「自宅」の割合が70.8%と最も高く、次いで「放課後児童クラブ（学童保育）」の割合が35.1%、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」の割合が34.1%と続く。

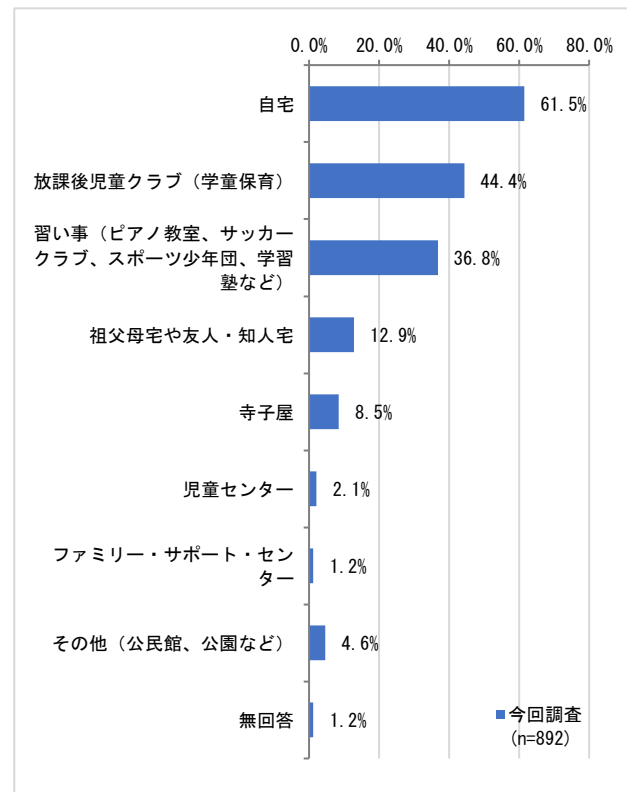
平成30年度調査と比較すると、「放課後児童クラブ（学童保育）」が21.6ポイント増加している。

小学校児童保護者では、「自宅」の割合が73.3%と最も高く、次いで「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」の割合が45.3%、「放課後児童クラブ（学童保育）」の割合が27.9%と続く。

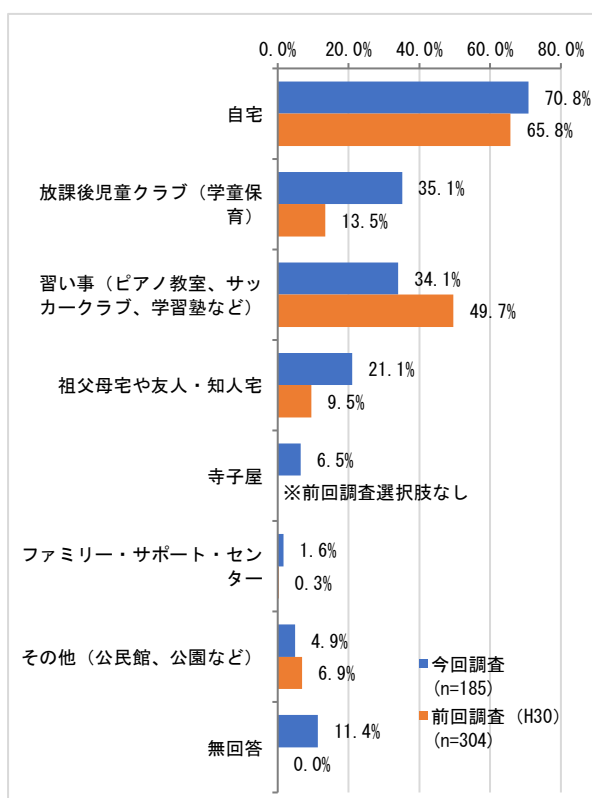
【小学校低学年（就学前児童保護者）】



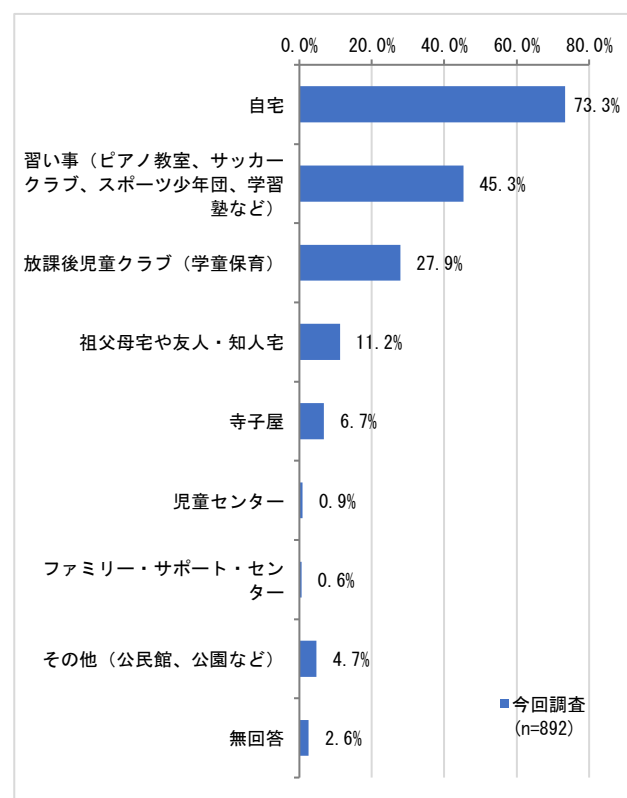
【小学校低学年（小学校児童保護者）】



【小学校高学年（就学前児童保護者）】



【小学校高学年（小学校児童保護者）】



④土曜日と日曜日・祝日の放課後児童クラブ（学童保育）の利用意向

【就学前児童保護者：問28、小学校児童保護者：問15】

※就学前児童保護者：問26または問27、小学校児童保護者：問13または問14で「放課後児童クラブ（学童保育）」を選択した人に限定した設問。

《土曜日の放課後児童クラブ（学童保育）の利用意向》

就学前児童保護者では、「低学年（１～３年生）の間は利用したい」の割合が52.7%と最も高く、次いで「高学年（４～６年生）になっても利用したい」の割合が25.7%、「利用する必要はない」が20.4%と続く。

小学校児童保護者では、「低学年（１～３年生）の間は利用したい」の割合が36.5%と最も高く、次いで「高学年（４～６年生）になっても利用したい」の割合が34.1%、「利用する必要はない」が28.3%と続く。

《日曜・祝日の放課後児童クラブ（学童保育）の利用意向》

就学前児童保護者では、「利用する必要はない」の割合が77.2%と最も高くなっている。
小学校児童保護者では、「利用する必要はない」の割合が78.7%と最も高くなっている。

(9) 子育て支援対策の全般について

- ・子どもを健やかに生み育てる上で、鹿屋市に期待する支援について、子どもに関することでは、「病気や発育・発達に関すること」において、就学前児童保護者で63.6%、小学校児童保護者で42.6%と最も高くなっている。親自身に関することでは、「一人のゆっくりする時間がとれない」において、就学前児童保護者で47.1%、小学校児童保護者で38.6%と最も高くなっている。協力・支援体制については、「特になし」を除き、「一時預かり・延長保育・病児保育・ショートステイ等が充実していない」が、就学前児童保護者で17.5%、小学校児童保護者で17.7%と最も高くなっている。
- ・鹿屋市の子育ての環境や支援への満足度について、就学前児童保護者、小学校児童保護者ともに、「3点」が最も高く、次いで「2点」が高くなっており、満足度が低い（1点と2点の合計）がいずれも4割以上となっている。

①子どもを健やかに生み育てる上で、鹿屋市に期待する支援

【就学前児童保護者：問31、小学校児童保護者：問19】※複数回答

《子どもに関すること》

就学前児童保護者では、「病気や発育・発達に関すること」の割合が63.6%と最も高く、次いで「子どもの教育に関すること」の割合が35.0%、「食事や栄養に関すること」の割合が32.1%と続く。

小学校児童保護者では、「病気や発育・発達に関すること」の割合が42.6%と最も高く、次いで「子どもの教育に関すること」の割合が35.8%、「友達つきあい（いじめ等を含む）に関すること」の割合が33.7%と続く。

《親自身に関すること》

就学前児童保護者では、「一人のゆっくりする時間がとれない」の割合が47.1%と最も高く、次いで「子どもを叱りすぎているような気がし、しつげに自信がない」の割合が27.1%、「特になし」の割合が26.4%と続く。

小学校児童保護者では、「一人のゆっくりする時間がとれない」の割合が38.6%と最も高く、次いで「特になし」の割合が32.5%、「子どもを叱りすぎているような気がし、しつげに自信がない」の割合が29.8%と続く。

《協力・支援体制について》

就学前児童保護者では、「特になし」の割合が36.4%と最も高く、次いで「一時預かり・延長保育・病児保育・ショートステイ等が充実していない」の割合が17.5%、「子育てに関しての配偶者・パートナーの協力が少ない」の割合が15.8%と続く。

小学校児童保護者では、「特になし」の割合が41.4%と最も高く、次いで「一時預かり・延長保育・病児保育・ショートステイ等が充実していない」の割合が17.7%、「子育てに関しての配偶者・パートナーの協力が少ない」の割合が14.3%と続く。

《環境について》

就学前児童保護者では、「子どもの遊び場が少ない、もしくはない」の割合が41.8%と最も高く、次いで「特になし」の割合が28.9%、「子どもに関する行政手続きが分かりにくい」の割合が18.8%と続く。

小学校児童保護者では、「子どもの遊び場が少ない、もしくはない」の割合が40.5%と最も高く、次いで「特になし」の割合が33.5%、「子どもに関する行政手続きが分かりにくい」の割合が15.8%と続く。

《経済について》

就学前児童保護者では、「子育てで出費がかさむ」の割合が74.1%と最も高く、次いで「予防接種（自己負担分）が高い」の割合が37.1%、「特になし」の割合が16.5%と続く。

小学校児童保護者では、「子育てで出費がかさむ」の割合が73.2%と最も高く、次いで「予防接種（自己負担分）が高い」の割合が42.4%、「特になし」の割合が17.8%と続く。

②鹿屋市の子育ての環境や支援への満足度

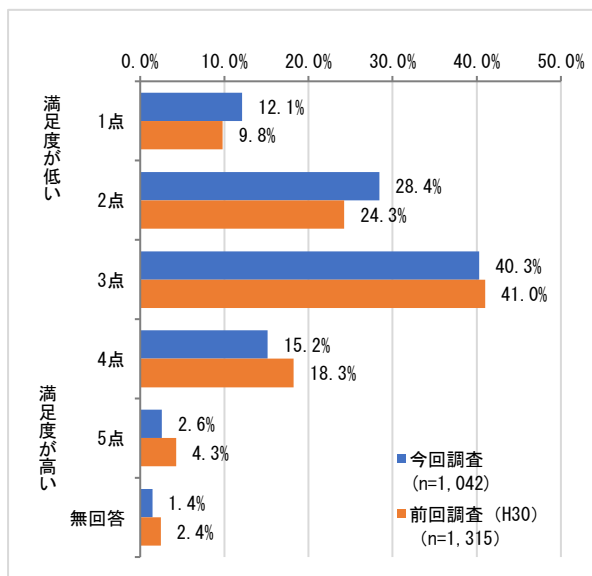
【就学前児童保護者：問32、小学校児童保護者：問20】

※「（満足度が低い）1-2-3-4-5（満足度が高い）」

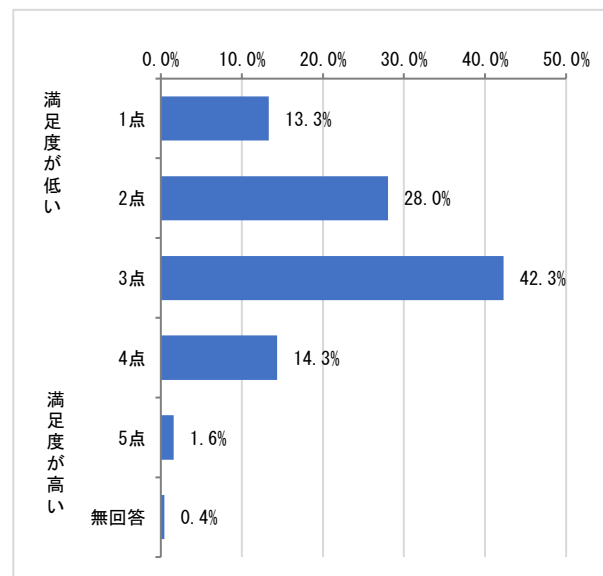
就学前児童保護者では、「3点」の割合が40.3%と最も高く、次いで「2点」の割合が28.4%、「4点」の割合が15.2%と続く。

小学校児童保護者では、「3点」の割合が42.3%と最も高く、次いで「2点」の割合が28.0%、「4点」の割合が14.3%と続く。

【就学前児童保護者】



【小学校児童保護者】

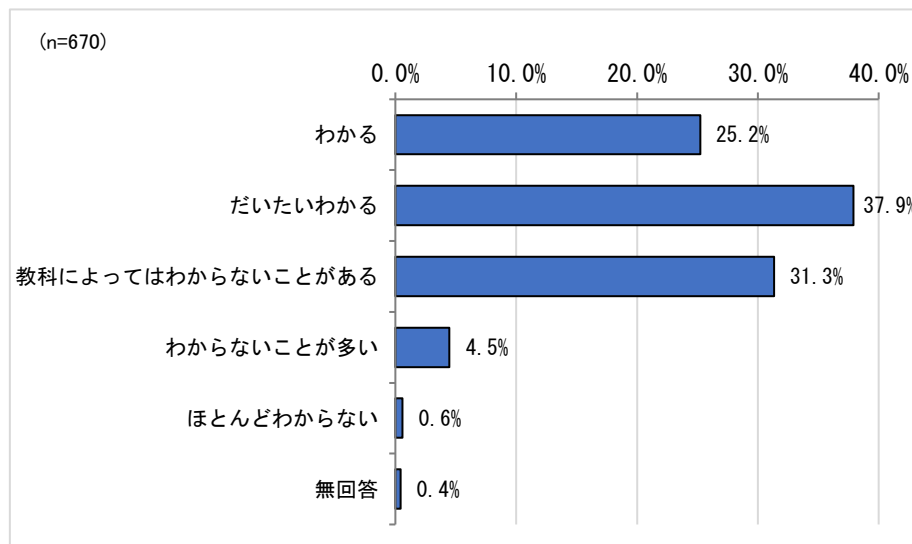


2. 小学5年生アンケート調査結果

(1) 学校の授業の理解度

①学校の授業でわからないことの有無【小学5年生：問5】

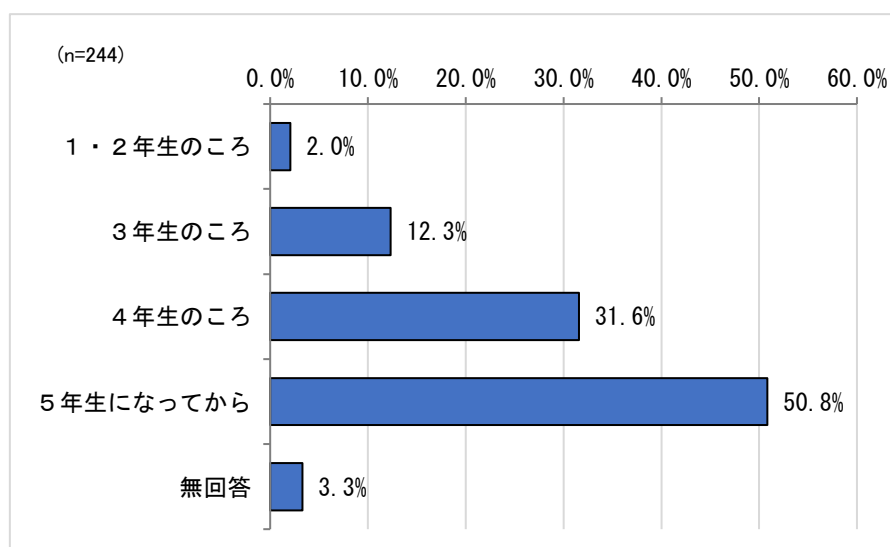
「だいたいわかる」の割合が37.9%と最も高く、次いで「教科によってはわからないことがある」の割合が31.3%、「わかる」の割合が25.2%と続く。



②授業がわからなくなった時期【小学5年生：問6】

※小学5年生の問5で「教科によってわからないことがある」「わからないことが多い」「ほとんどわからない」と回答した方に限定した設問

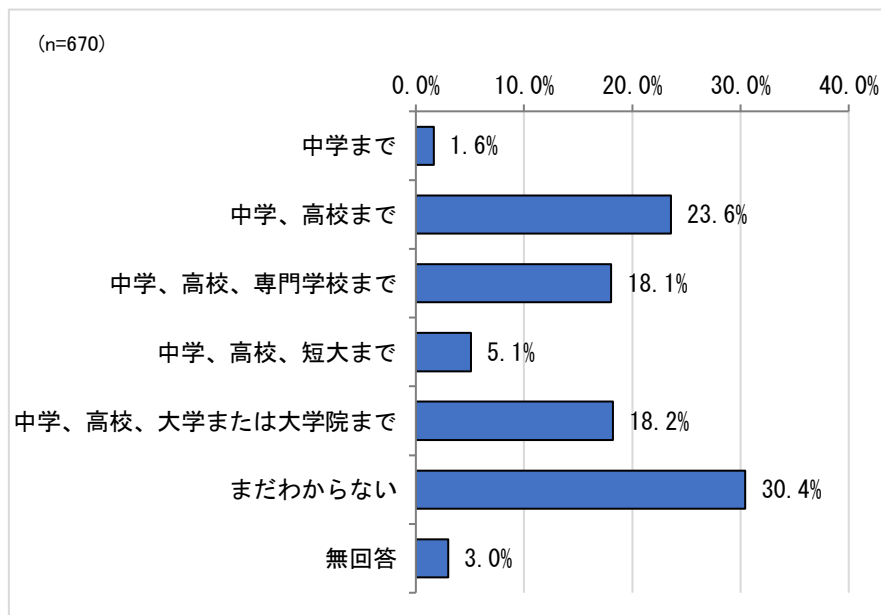
「5年生になってから」の割合が50.8%と最も高く、次いで「4年生のころ」の割合が31.6%、「3年生のころ」の割合が12.3%と続く。



(2) 将来について

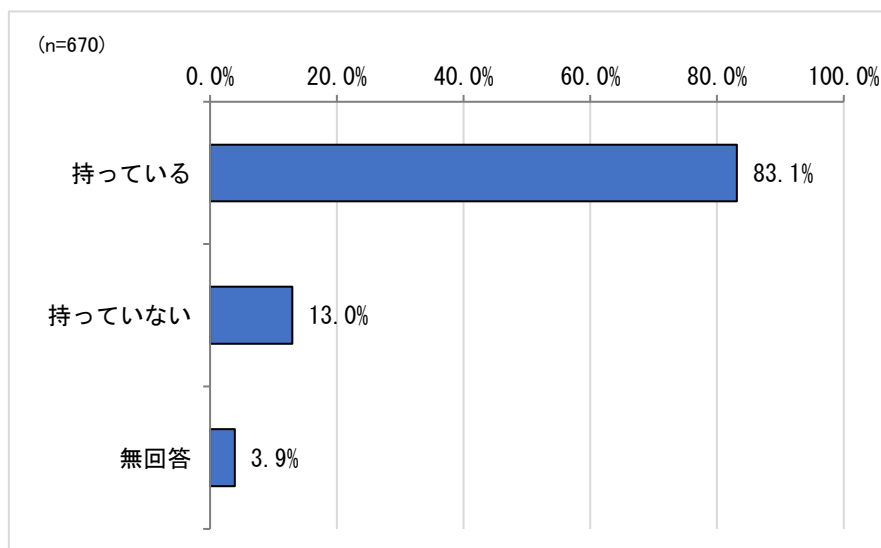
①将来の進学先の希望【小学5年生：問7】

「まだわからない」の割合が30.4%と最も高く、次いで「中学、高校まで」の割合が23.6%、「中学、高校、大学または大学院まで」の割合が18.2%と続く。



②将来の夢や目標の有無【小学5年生：問9】

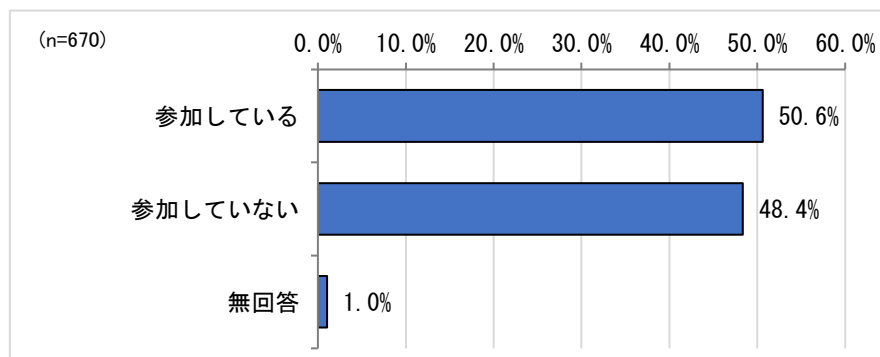
「持っている」の割合が83.1%、「持っていない」の割合が13.0%。



(3) スポーツクラブやスポーツ少年団などへの参加

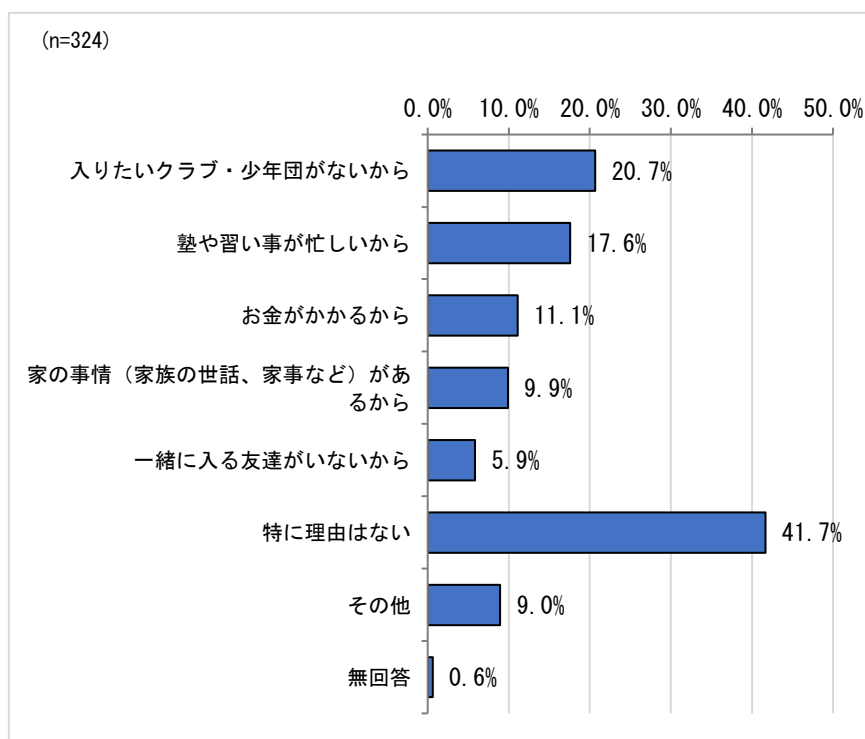
①参加状況【小学5年生：問11】

「参加している」の割合が50.6%、「参加していない」の割合が48.4%となっている。



②参加していない理由【小学5年生：問12】

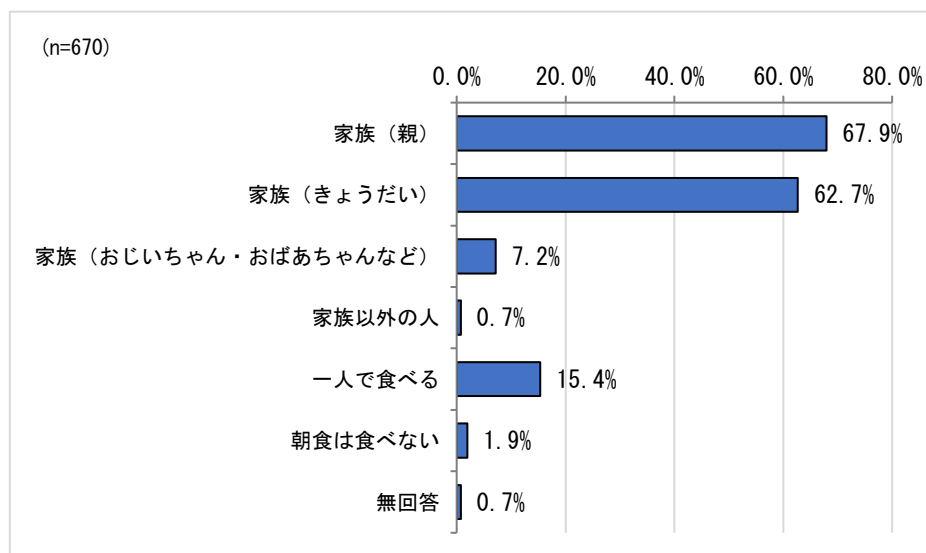
「特に理由がない」の割合が41.7%と最も高く、次いで「入りたいクラブ・少年団がないから」の割合が20.7%、「塾や習い事が忙しいから」の割合が17.6%と続く。



(4) 平日の生活について

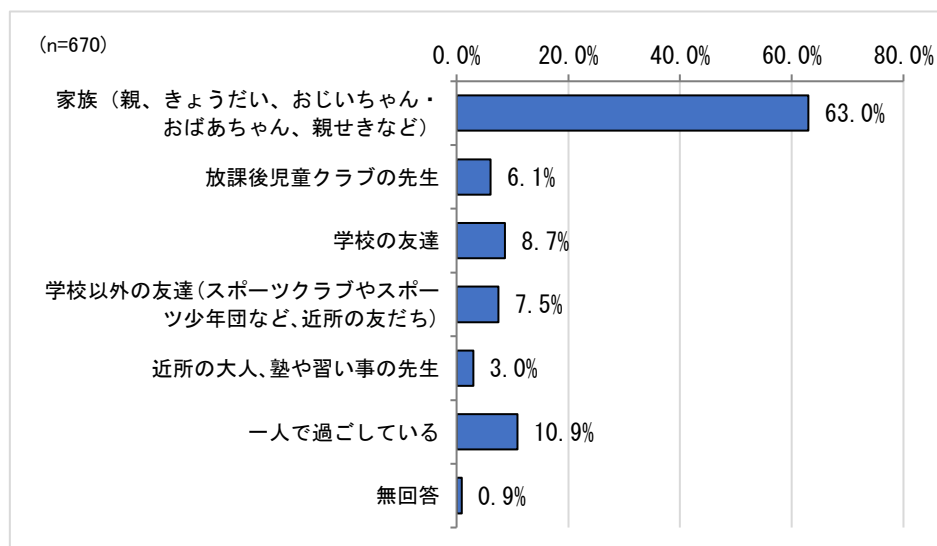
①朝食を一緒に摂る人【小学5年生：問14】

「家族（親）」の割合が67.9%と最も高く、次いで「家族（きょうだい）」の割合が62.7%、「一人で食べる」の割合が15.4%と続く。



②放課後（夕方6時くらいまで）を一緒に過ごす人【小学5年生：問17】

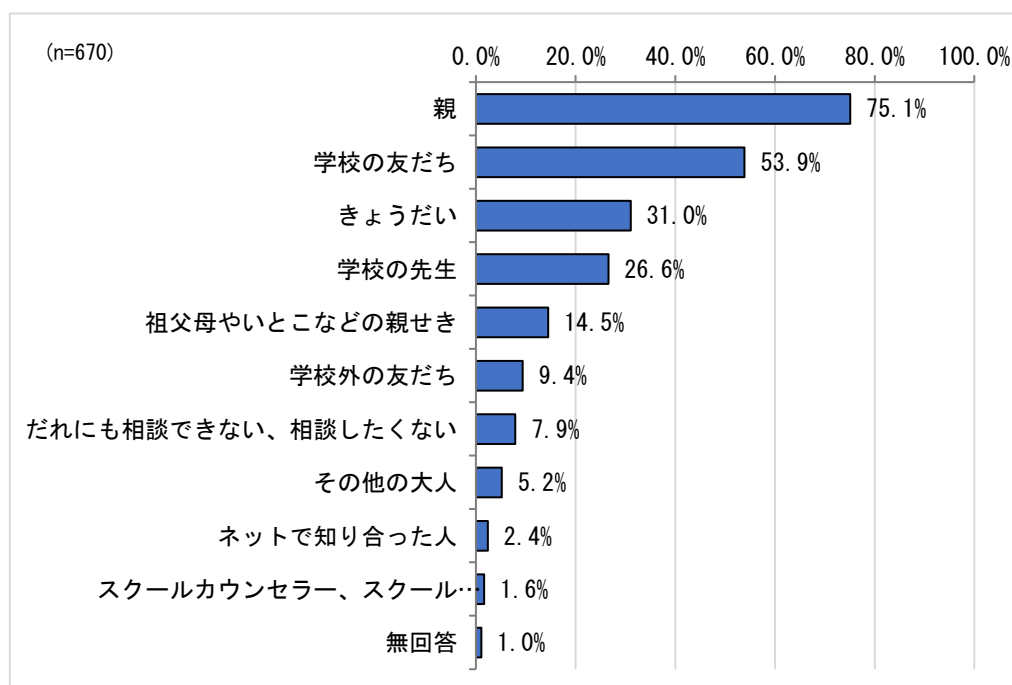
「家族（親、きょうだい、おじいちゃん・おばあちゃん、親せきなど）」の割合が63.0%と最も高く、次いで「一人で過ごしている」の割合が10.9%、「学校の友達」の割合が8.7%と続く。



(5) 困っていることや悩みごとの相談相手

①困っていることや悩みごとがあるとき相談できる人【小学5年生：問21】

「親」の割合が75.1%と最も高く、次いで「学校の友だち」の割合が53.9%、「きょうだい」の割合が31.0%と続く。



(6) (平日の夜や休日を過ごすことができる場所など) これまでの利用有無と今後の希望

【小学5年生：問26】

《(自分や友人の家以外で) 平日の夜や休日を過ごすことができる場所(学童保育所など)》

「必要がない」の割合が35.5%と最も高く、次いで「利用したいと思わない」の割合が31.9%、「あれば利用したい」の割合が17.6%と続く。

《(自分や友人の家以外で) ごはんを無料か安く食べることができる場所(こども食堂など)》

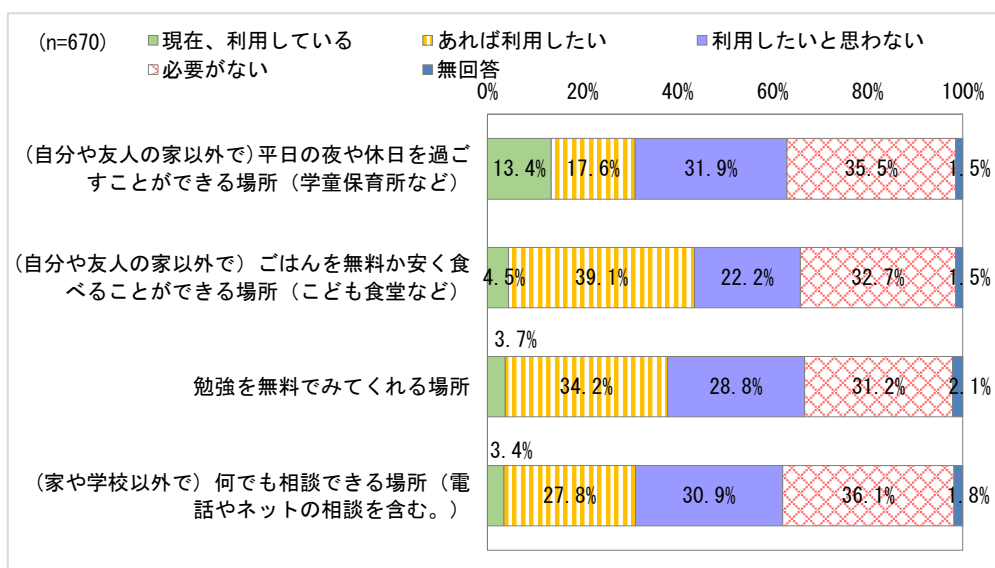
「あれば利用したい」の割合が39.1%と最も高く、次いで「必要がない」の割合が32.7%、「利用したいと思わない」の割合が22.2%と続く。

《勉強を無料でみてる場所》

「あれば利用したい」の割合が34.2%と最も高く、次いで「必要がない」の割合が31.2%、「利用したいと思わない」の割合が28.8%と続く。

《(家や学校以外で) 何でも相談できる場所(電話やネットの相談を含む)》

「必要がない」の割合が36.1%と最も高く、次いで「利用したいと思わない」の割合が30.9%、「あれば利用したい」の割合が27.8%と続く。

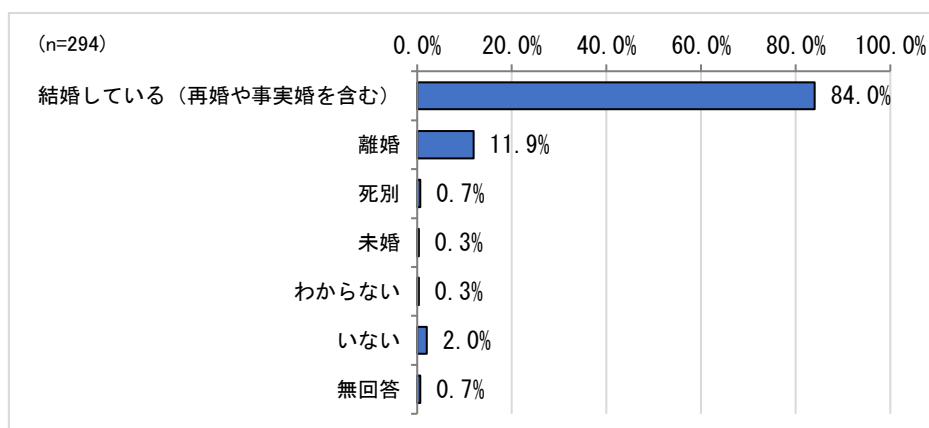


3. 子どもの貧困対策計画策定に係るアンケート調査結果 (小学5年生保護者)

(1) 保護者の状況

①お子さんと同居し、生計を同一にしている親の婚姻状況【小学5年生保護者：問6】

「結婚している（再婚や事実婚を含む）」の割合が84.0%と最も高く、次いで「離婚」の割合が11.9%と続く。



②お子さんの親の就労状況【小学5年生保護者：問9】

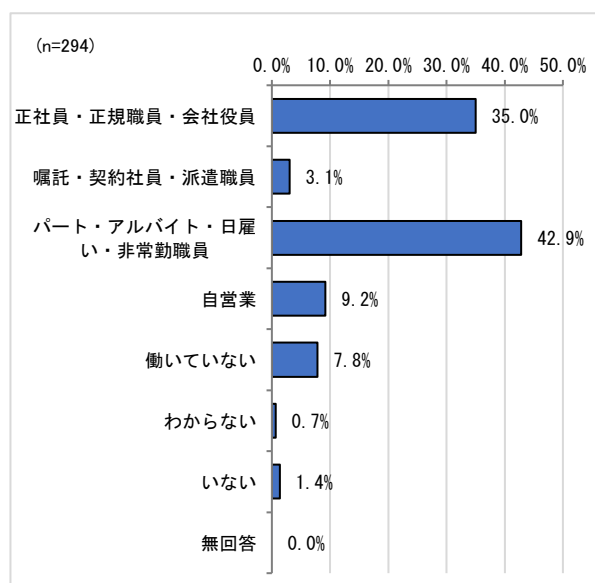
《母親》

「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」の割合が42.9%と最も高く、次いで「正社員・正規職員・会社役員」の割合が35.0%、「自営業」の割合が9.2%と続く。

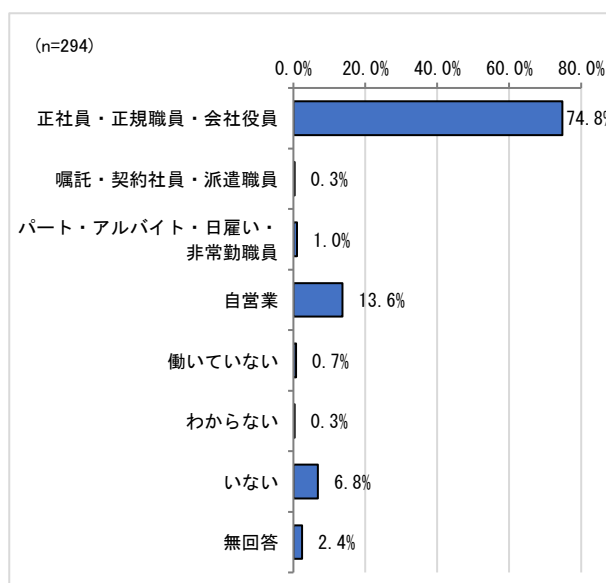
《父親》

「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」の割合が42.9%と最も高く、次いで「正社員・正規職員・会社役員」の割合が35.0%、「自営業」の割合が9.2%と続く。

【母親】



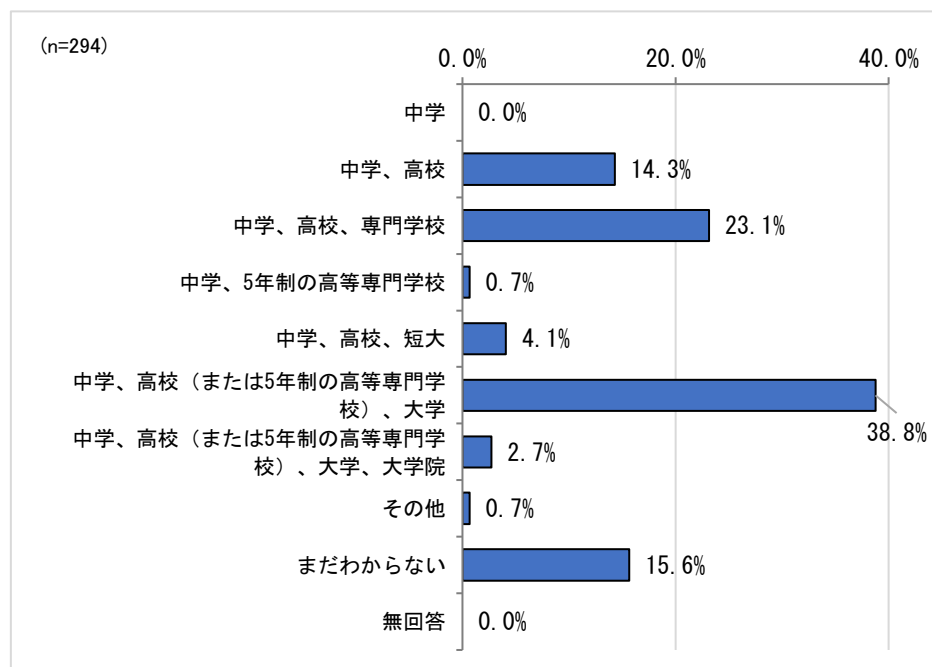
【父親】



(2) 希望するお子さんの進学先

【小学5年生保護者：問15】

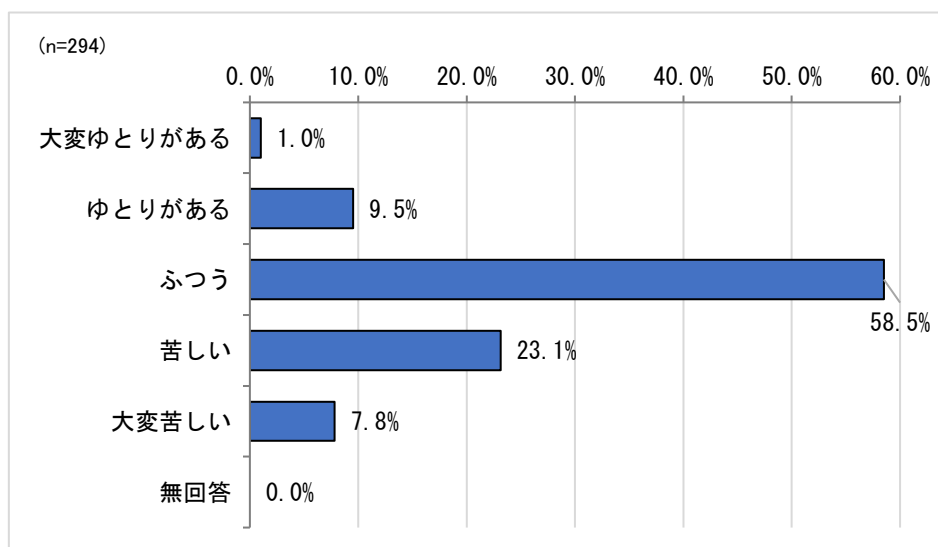
「中学、高校（または5年制の高等専門学校）、大学」の割合が38.8%と最も高く、次いで「中学、高校、専門学校」の割合が23.1%、「まだわからない」の割合が15.6%と続く。



(3) 現在の暮らしの状況

【小学5年生保護者：問24】

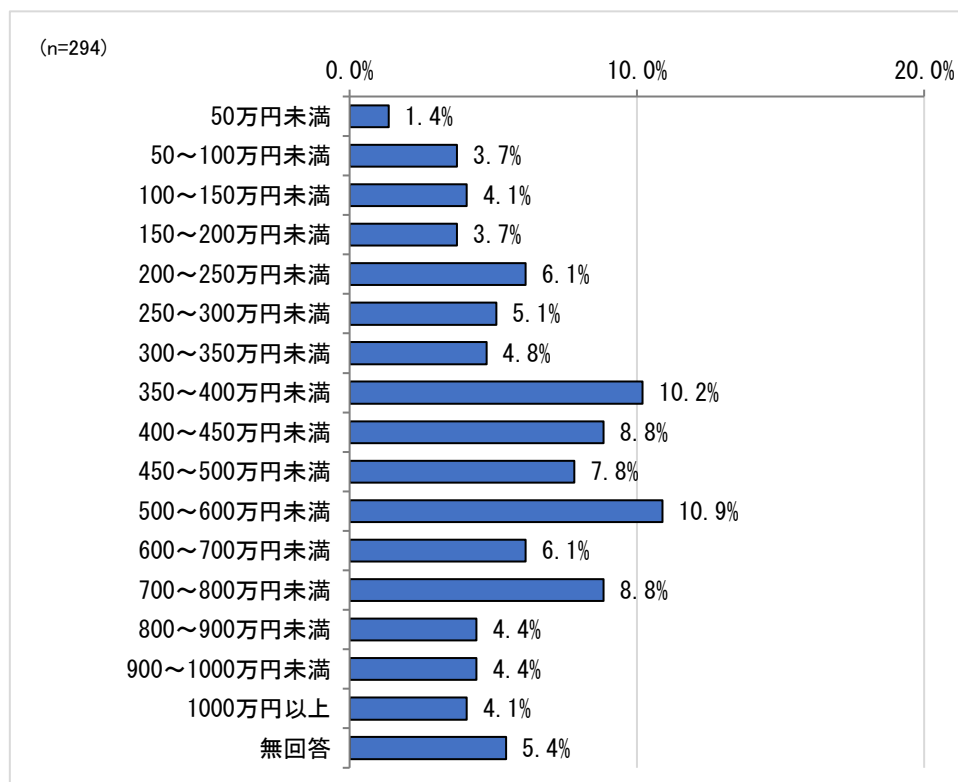
「ふつう」の割合が58.5%と最も高くなっている。「ゆとりがある」（『大変ゆとりがある』と『ゆとりがある』の合計）の割合が10.5%、「苦しい」（『苦しい』と『大変苦しい』の合計）の割合が30.9%。



(4) 世帯全体のおおよその年間収入

【小学5年生保護者：問 25】

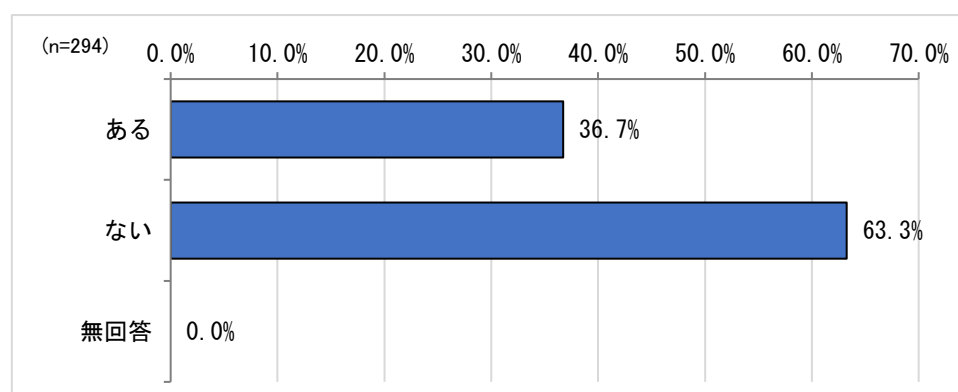
「500～600万円未満」の割合が10.9%と最も高く、次いで「350～400万円未満」の割合が10.2%、「400～450万円未満」「700～800万円未満」の割合が8.8%と続く。



(5) 経済的な理由により、子どもの学習意欲にこたえられなかった経験

【小学5年生保護者：問 20】

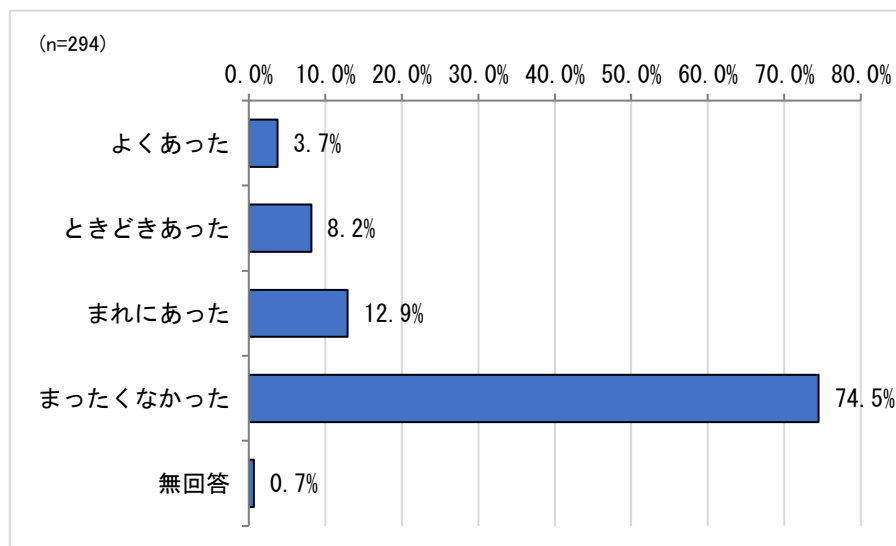
「ある」の割合が36.7%、「ない」の割合が63.3%。



(6) 過去1年間の経験

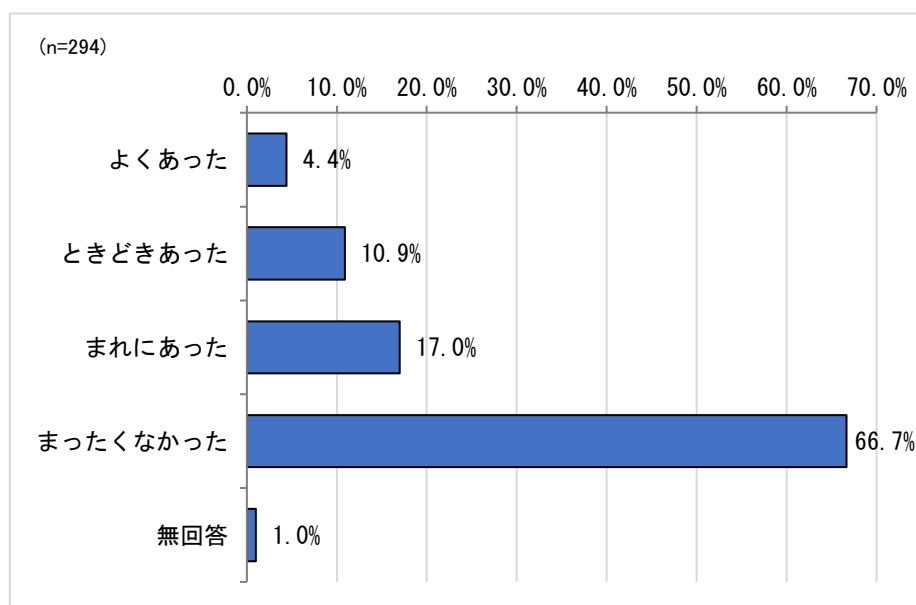
①家族が必要とする食料が買えなかった経験【小学5年生保護者：問27】

「まったくなかった」の割合が74.5%と最も高く、次いで「まれにあった」の割合が12.9%と続く。



②家族が必要とする衣服が買えなかった経験【子どもの生活状況調査（小学5年生保護者）：問29】

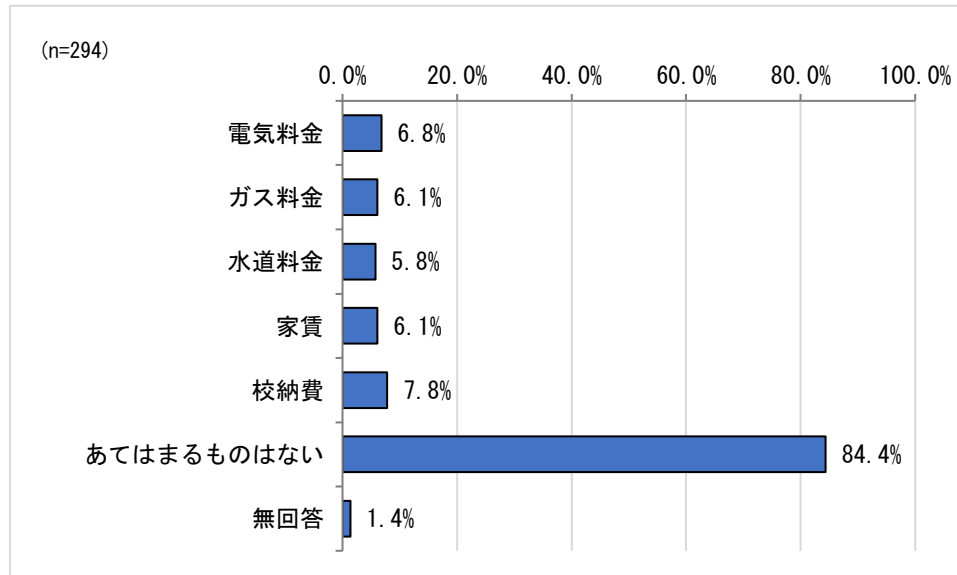
「まったくなかった」の割合が66.7%と最も高く、次いで「まれにあった」の割合が17.0%、「ときどきあった」の割合が10.9%と続く。



③公共料金について、経済的な理由で未払いになった経験

【子どもの生活状況調査（小学5年生保護者）：問30】

「あてはまるものはない」を除き、「電気料金」が6.8%、「ガス料金」が6.1%、「水道料金」が5.8%、「家賃」が6.1%、「校納費」が7.8%。



4. こども・若者の意識と生活に関する調査結果（15～39歳の市民）

（1）他者との関わり方

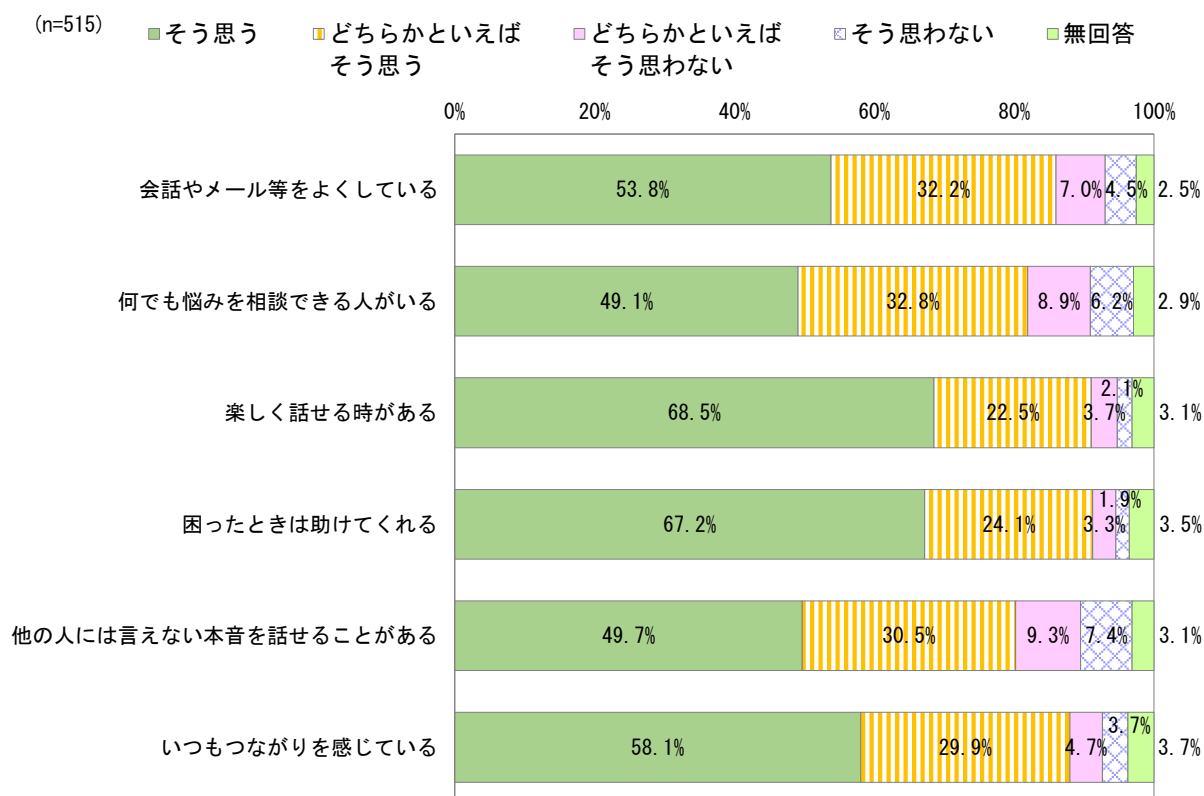
- ・他者との関わり方について、「①家族・親族との関わり方」、「②学校で出会った友人との関わり方」、「③職場・アルバイト関係の人との関わり方」、「④地域の人との関わり方」、「⑤インターネット上での他者との関わり方」の5項目について尋ねたところ、「①家族・親族との関わり方」が最も深い関わり方となっており、「会話やメール等をよくしている」、「何でも悩みを相談できる人がある」、「楽しく話せる時がある」、「困ったときは助けてくれる」、「他の人には言えない本音を話せることがある」、「いつもつながりを感じている」の6項目の全てで「そう思う」の割合が8割以上となっている。
- ・以下、関わりが深い順に、「②学校で出会った友人との関わり方」、「③職場・アルバイト関係の人との関わり方」、「④地域の人との関わり方」、「⑤インターネット上での他者との関わり方」となっている。特に、「④地域の人との関わり方」、「⑤インターネット上での他者との関わり方」については、前述6項目の全てで、「そう思わない」が「そう思う」を上回っている。

①家族・親族との関わり方（問12）

家族・親族との関わり方について、「会話やメール等をよくしている」、「何でも悩みを相談できる人がある」、「楽しく話せる時がある」、「困ったときは助けてくれる」、「他の人には言えない本音を話せることがある」、「いつもつながりを感じている」の6項目を聞いた。

6項目のうち、「そう思う」という回答者の割合が高いのは、「楽しく話せる時がある」（68.5%）と「困ったときは助けてくれる」（67.2%）で、「どちらかといえば、そう思う」（「楽しく話せる」22.5%、「助けてくれる」24.1%）を合わせると、ともに9割以上が『そう思う』（「そう思う」＋「どちらかといえば、そう思う」）と回答している。

その他の4項目で『そう思う』という回答者の割合が高いのは、「いつもつながりを感じている」（88.0%）、「会話やメール等をよくしている」（86.0%）、「何でも悩みを相談できる人がある」（81.9%）、「他の人には言えない本音を話せることがある」（80.2%）の順となっている。



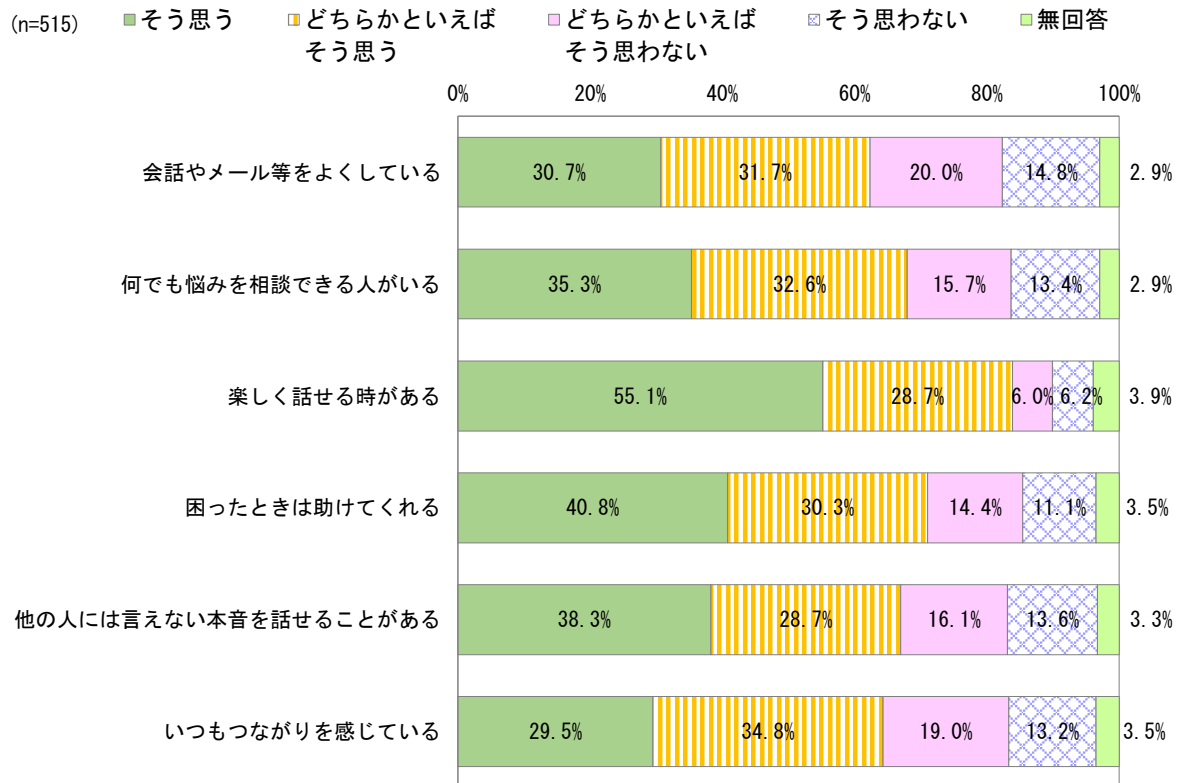
②学校で出会った友人との関わり方（問13）

学校で出会った友人（現在通っている学校の友人、かつての同窓生など）との関わり方について、「会話やメール等をよくしている」、「何でも悩みを相談できる人がある」、「楽しく話せる時がある」、「困ったときは助けてくれる」、「他の人には言えない本音を話せることがある」、「いつもつながりを感じている」の6項目を聞いた。

6項目のうち、『そう思う』（「そう思う」＋「どちらかといえば、そう思う」）という回答者の割合は、「楽しく話せる時がある」が83.8%と最も高く、次いで、「困ったときは助けてくれる」が71.1%である。

その他の4項目で『そう思う』という回答者の割合が高いのは、「何でも悩みを相談できる人がある」（67.9%）、「他の人には言えない本音を話せることがある」

（67.0%）、「いつもつながりを感じている」（64.3%）、「会話やメール等をよくしている」（62.4%）の順となっている。

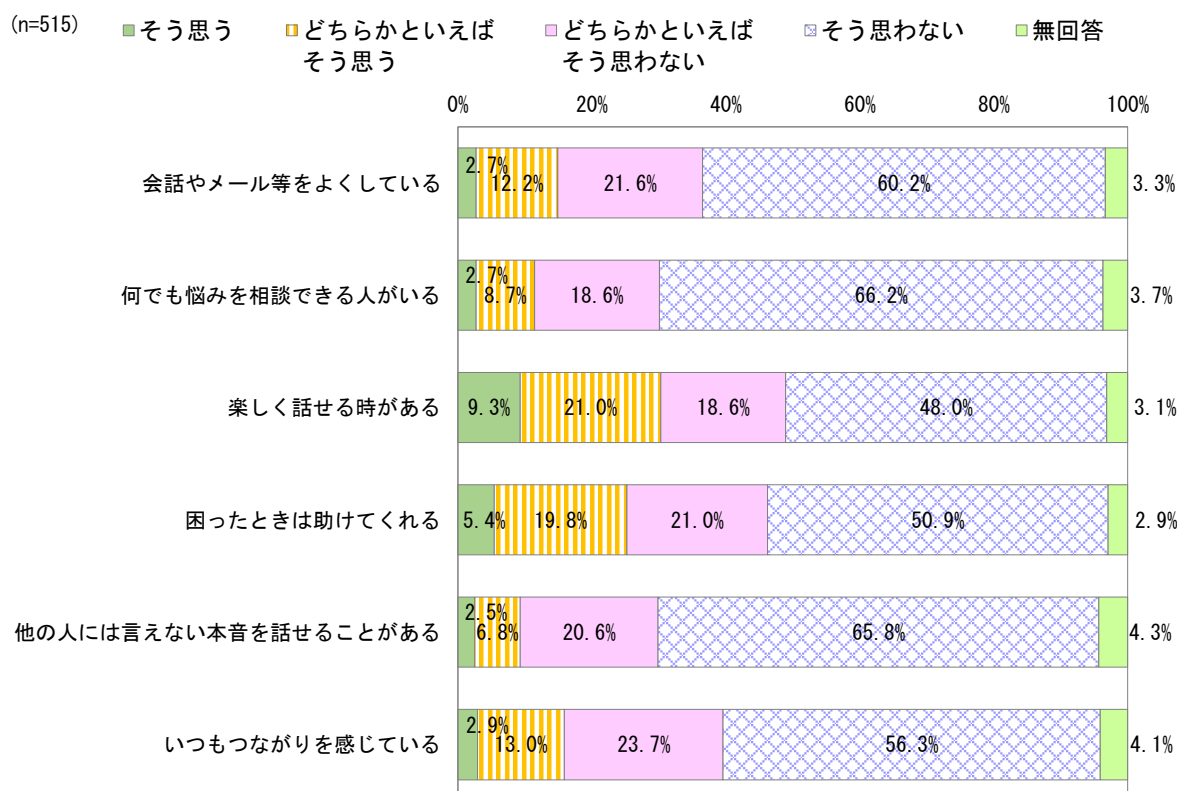


③職場・アルバイト関係の人との関わり方（問10）

現在就業しているか、現在は就業していなくても過去に就業経験がある回答者（428人）に対し、職場・アルバイト関係の人（現在及び過去の職場の同僚・上司・部下、その他仕事の関係で知り合った人など）との関わり方について、「会話やメール等をよくしている」、「何でも悩みを相談できる人がある」、「楽しく話せる時がある」、「困ったときは助けてくれる」、「他の人には言えない本音を話せることがある」、「いつもつながりを感じている」の6項目を聞いた。

『そう思う』（「そう思う」＋「どちらかといえば、そう思う」）という回答者は、「楽しく話せる時がある」が85.5%と最も高く、次いで「困ったときは助けてくれる」が80.6%となっている。

一方、『そう思わない』（「そう思わない」＋「どちらかといえば、そう思わない」）という回答者の割合が高いのは、「他の人には言えない本音を話せることがある」（50.2%）、であり、『そう思う』という回答者の割合（45.3%）を上回っている。

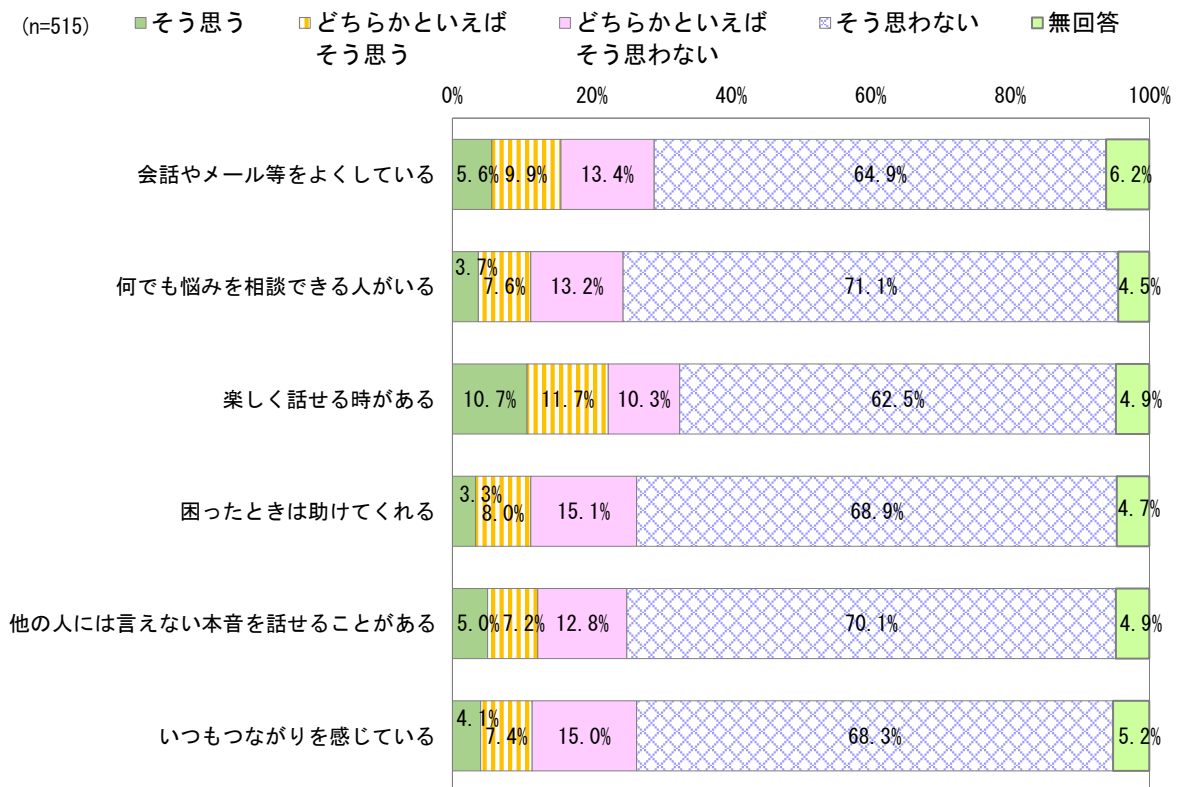


⑤インターネット上での他者との関わり方（問15）

回答者の他者との関わり方に関して、インターネット上での他者（実際には会ったことがなかったり、または、何回か会ったことはあっても、基本的にはインターネット中心の付き合いの人やグループ）との関わり方について、「会話やメール等をよくしている」、「何でも悩みを相談できる人がある」、「楽しく話せる時がある」、「困ったときは助けてくれる」、「他の人には言えない本音を話せることがある」、「いつもつながりを感じている」の6項目を聞いた。

6項目のいずれについても、『そう思わない』（「そう思わない」＋「どちらかといえば、そう思わない」）という回答者が7割以上を占め、「楽しく話せる時がある」（72.8%）以外は8割を上回っている。

一方、『そう思う』（「そう思う」＋「どちらかといえば、そう思う」）という回答者は、「楽しく話せる時がある」（22.4%）が最も高く、その他の項目は1割台（「会話やメール等をよくしている」15.5%、「何でも相談できる」11.3%、「助けてくれる」11.3%、「本音を話せる」12.2%、「つながりを感じている」11.4%）となっている。



(2) 普段の活動・今の幸福感・将来像

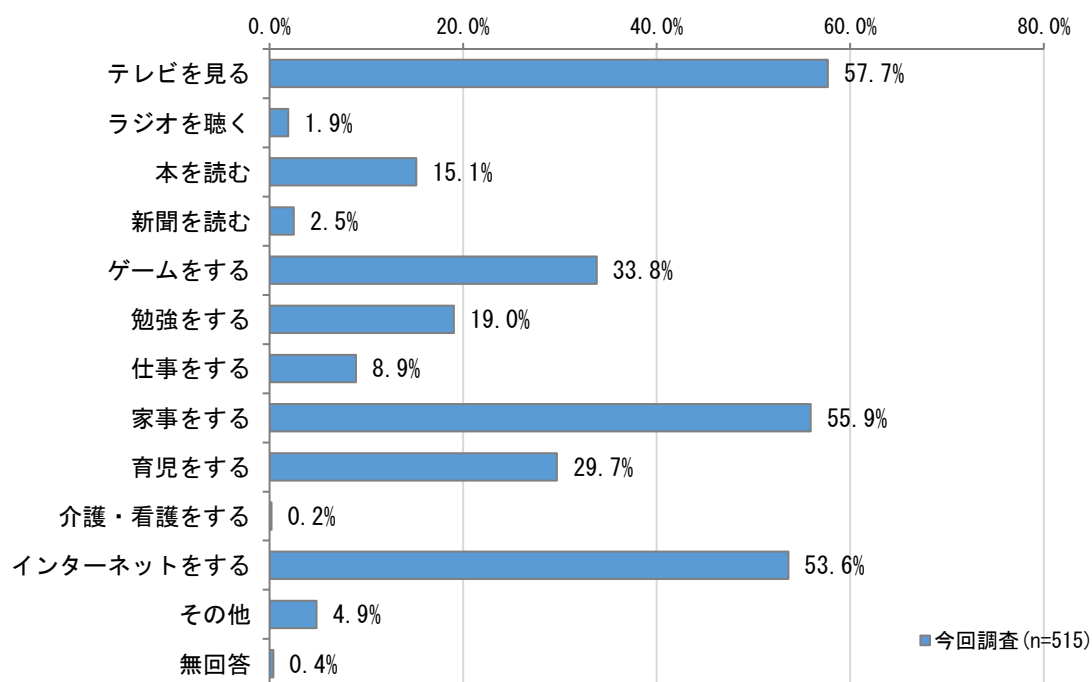
- ・普段、自宅（暮らしている場所）にいるときによくしていることとしては、「テレビを見る」が57.7%で最も高く、次いで、「家事をする」（55.9%）、「インターネットをする」（53.6%）となっている。
- ・「今、自分が幸せだと思う」という今の幸福感について聞いたところ、「そう思う」という回答者が43.3%で、「どちらかといえば、そう思う」（44.5%）を合わせると、肯定的な回答が8割以上となっている。
- ・将来像に関する意識に関して、「自分の将来について明るい希望を持っているか」という将来への希望については、「希望がある」という回答者は30.5%で、「どちらかといえば希望がある」（47.2%）を合わせると、8割近くが、自身の将来への希望について肯定的な認識を示している。

①普段の活動（問11）

普段、自宅（暮らしている場所）にいるときによくしていることとしては、「テレビを見る」が57.7%で最も高く、次いで、「家事をする」（55.9%）、「インターネットをする」（53.6%）となっている。

性別にみると、「テレビを見る」（男性55.3%、女性59.1%）、「家事をする」（男性39.9%、女性65.6%）、「インターネットをする」（男性50.5%、女性55.1%）、「育児をする」（男性16.5%、女性37.5%）などは男性より女性で、「ゲームをする」（男性51.6%、女性22.9%）、「勉強をする」（男性25.0%、女性15.5%）、「本を読む」（男性16.5%、女性14.6%）などは女性より男性で、それぞれ高くなっている。

年齢別にみると15～19歳及び25～29歳では「テレビを見る」、20～24歳では「インターネットをする」、30～34歳及び35～39歳では「家事をする」が最も高くなっている。

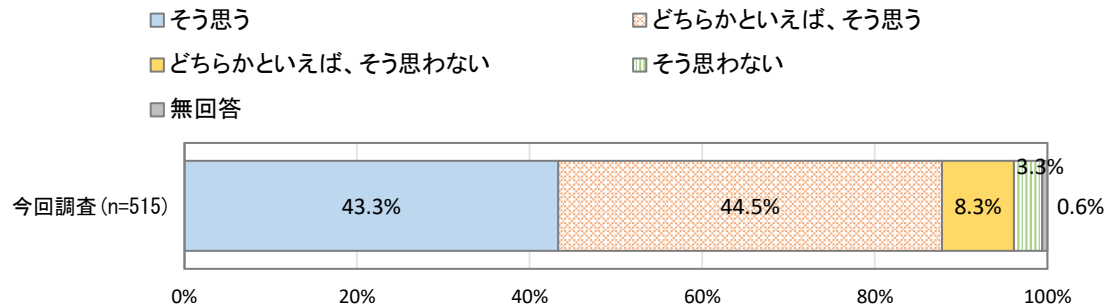


②今の幸福感（問24）

「今、自分が幸せだと思う」という今の幸福感について聞いたところ、「そう思う」という回答者が43.3%で、「どちらかといえば、そう思う」（44.5%）を合わせると、肯定的な回答が8割以上となっている。

性別にみると、『そう思う』（「そう思う」＋「どちらかといえば、そう思う」）という回答者は、女性（90.1%）が男性（84.1%）を6ポイント上回っている。

年齢別にみると、『そう思う』という回答者が、いずれの年齢層でも8割を上回り、なかでも15歳～19歳（89.5%）及び35歳～39歳（89.2%）は9割に近づいている。



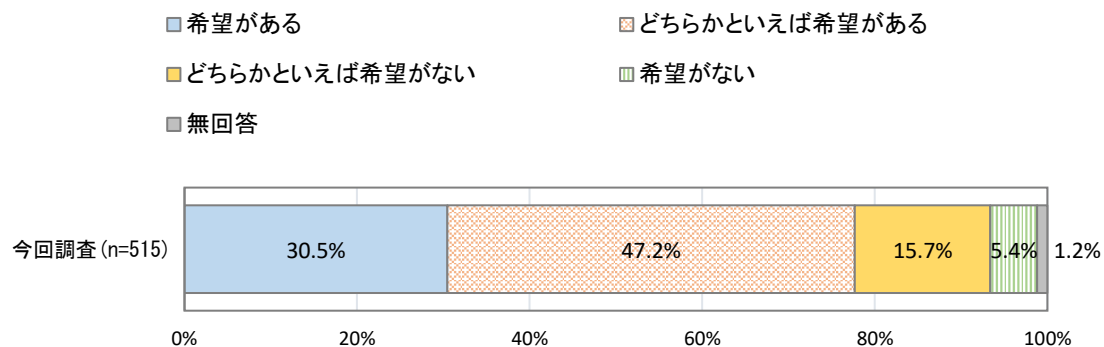
③将来像（問27）

将来像に関する意識に関して、“自分の将来について明るい希望を持っているか”という将来への希望を聞いた。

「希望がある」という回答者は30.5%で、「どちらかといえば希望がある」（47.2%）を合わせると、8割近くが、自身の将来への希望について肯定的な認識を示している。

性別にみると、『希望がある』（「希望がある」＋「どちらかといえば希望がある」）という回答者は、男性76.6%、女性78.6%となっている。

年齢別にみると、『希望がある』という回答者は、いずれの年齢層でも7割を上回っており、35歳～39歳（81.1%）では8割を超えている。



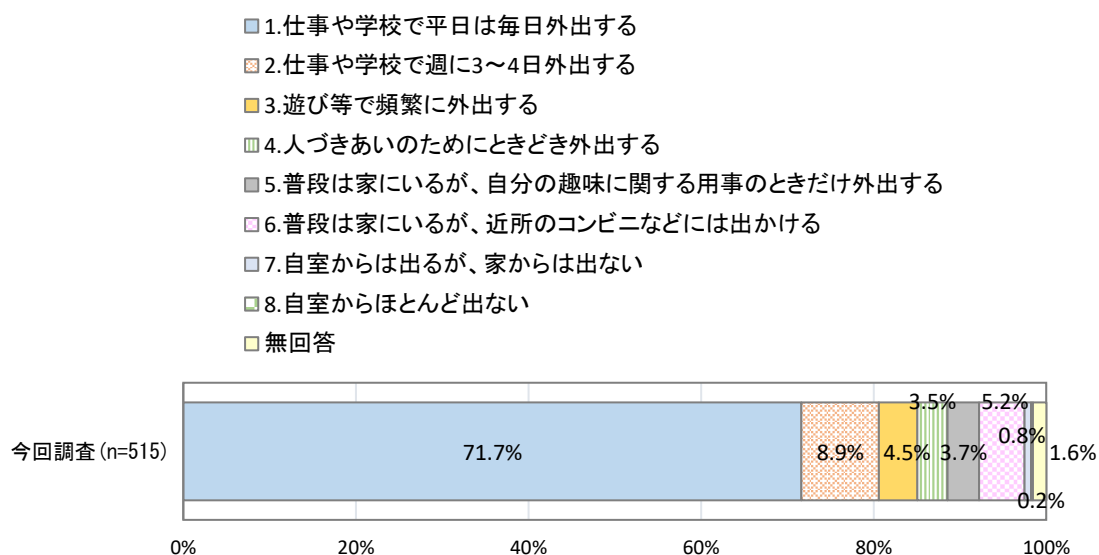
(3) 外出の状況について

- ・ 普段の外出頻度を聞いたところ、「仕事や学校で平日は毎日外出する」という回答者の割合が71.7%で、最も高くなっている。
- ・ 外出頻度の低い回答者（51人）が、現在の外出状況になってからの期間をみると、「3 か月未満」という回答者が25.5%で、次いで「3 か月～6 か月未満」（19.6%）、「6 か月～1 年未満」（13.7%）、などとなっている。また、6 か月以上である旨の回答をした者をすべて合わせると、54.9%となる。
- ・ 外出頻度の低い回答者のうち、現在の外出状況となってからの期間が6 か月以上である旨の回答をした者（28人）に、今の状況になった年齢を聞いたところ、「25歳～29 歳」という回答者の割合は35.7%で、最も高くなっている。
- ・ 外出頻度の低い回答者のうち、現在の外出状況となってからの期間が6 か月以上である旨の回答をした者（28人）に、今の状況になった理由を聞いたところ、「妊娠したこと」、「特に理由はない」がいずれも25.0%と最も高く、次いで「病気」、「その他」がいずれも17.9%、「人間関係がうまくいかなかったこと」14.3%となっている。

①外出の頻度について（問19）

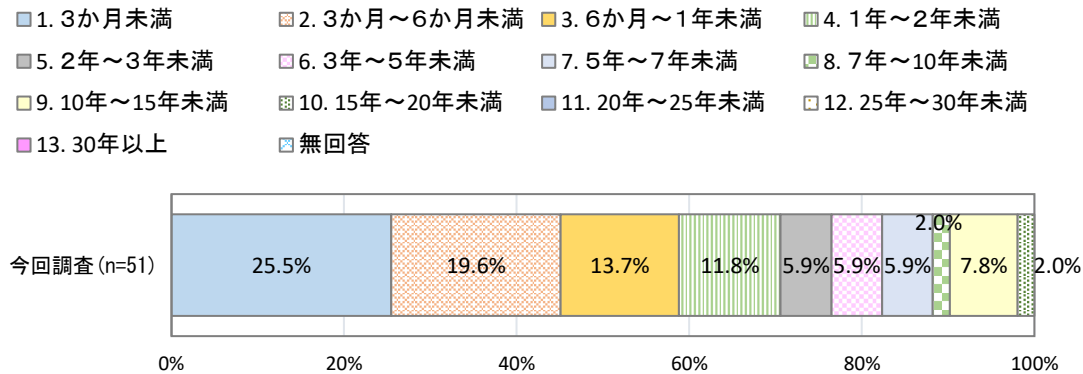
普段の外出頻度を聞いたところ、「仕事や学校で平日は毎日外出する」という回答者の割合が71.7%で、最も高くなっている。

外出頻度が低い状態にある者についてみると、「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」（3.7%）、「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」（5.2%）、「自室からは出るが、家からは出ない」（0.8%）、「自室からほとんど出ない」（0.2%）となっている。（以下、これらの者を「外出頻度の低い回答者」と総称する。）



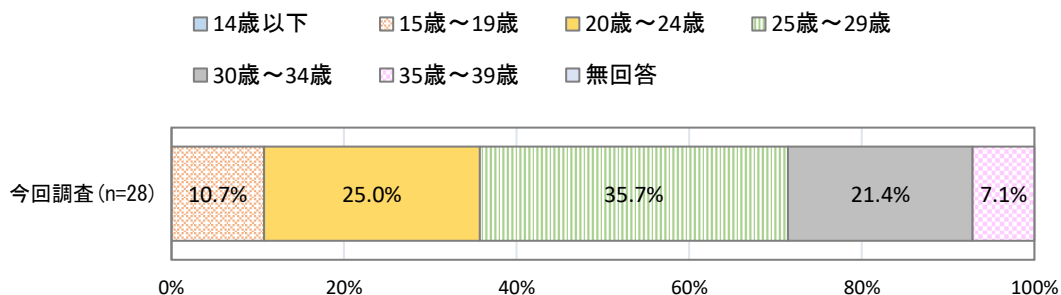
②現在の外出状況になってからの期間（問20）

外出頻度の低い回答者（51人）が、現在の外出状況になってからの期間をみると、「3か月未満」という回答者が25.5%で、次いで「3か月～6か月未満」（19.6%）、「6か月～1年未満」（13.7%）、などとなっている。また、6か月以上である旨の回答をした者をすべて合わせると、54.9%となる。



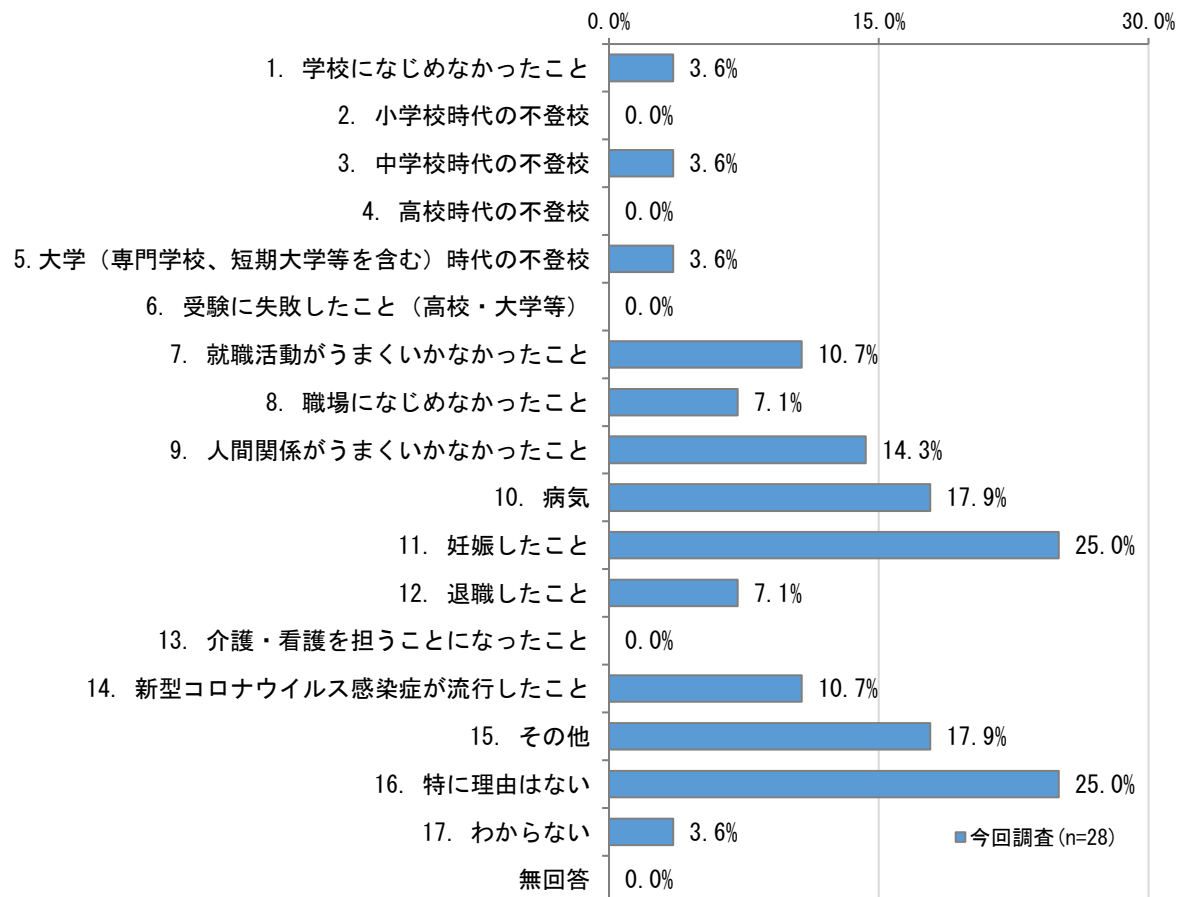
③現在の外出状況になった年齢（問21）

外出頻度の低い回答者のうち、現在の外出状況となってからの期間が6か月以上である旨の回答をした者（28人）に、今の状況になった年齢を聞いたところ、「25歳～29歳」という回答者の割合は35.7%で、最も高くなっている。次いで、「20歳～24歳」が25.0%、「30歳～34歳」が21.4%となっている。



④現在の外出状況になった理由（問22）

外出頻度の低い回答者のうち、現在の外出状況となってからの期間が6か月以上である旨の回答をした者（28人）に、今の状況になった理由を聞いたところ、「妊娠したこと」、「特に理由はない」がいずれも25.0%と最も高く、次いで「病気」、「その他」がいずれも17.9%、「人間関係がうまくいかなかったこと」14.3%となっている。



(4) 困難に直面した経験

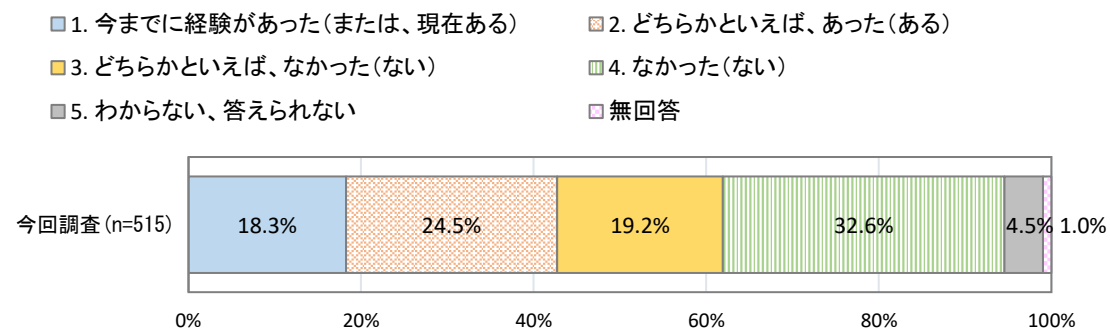
- ・ 社会生活や日常生活を円滑に送る上での困難について、「今までに経験があった（または、現在ある）」という回答者は18.3%、「どちらかといえば、あった（ある）」は24.5%であり、『経験があった（ある）』（「今までに経験があった（または、現在ある）」＋「どちらかといえば、あった（ある）」）という回答者は42.8%となっている。
- ・ 社会生活や日常生活を円滑に送る上での困難について、『経験があった（ある）』（「今までに経験があった（または、現在ある）」＋「どちらかといえば、あった（ある）」）と答えた者（220人）のうち、自分自身の主な原因については、「人づきあいが苦手」50.0%が最も高く、次いで「何事も否定的に考えてしまう」29.5%、「悩みや不安などが相談できない」25.9%となっている。
- ・ 社会生活や日常生活を円滑に送る上での困難な状態から改善した経験の有無を聞いたところ、18.1%が「あった」と回答し、「どちらかといえば、あった」（21.4%）を合わせると、約4割が改善した経験を持っている。
- ・ 困難な状態から『改善した経験があった』（「あった」＋「どちらかといえば、あった」）と答えた者（203人）が、改善のきっかけとしてあげているものについてみると、「家族や親戚の助け」58.1%が最も高く、次いで「友人の助け」48.8%、「時間がたって状況が変化したこと」36.0%となっている。

①困難に直面した経験（問28）

社会生活や日常生活を円滑に送る上での困難について、「今までに経験があった（または、現在ある）」という回答者は18.3%、「どちらかといえば、あった（ある）」は24.5%であり、『経験があった（ある）』（「今までに経験があった（または、現在ある）」＋「どちらかといえば、あった（ある）」）という回答者は42.8%となっている。

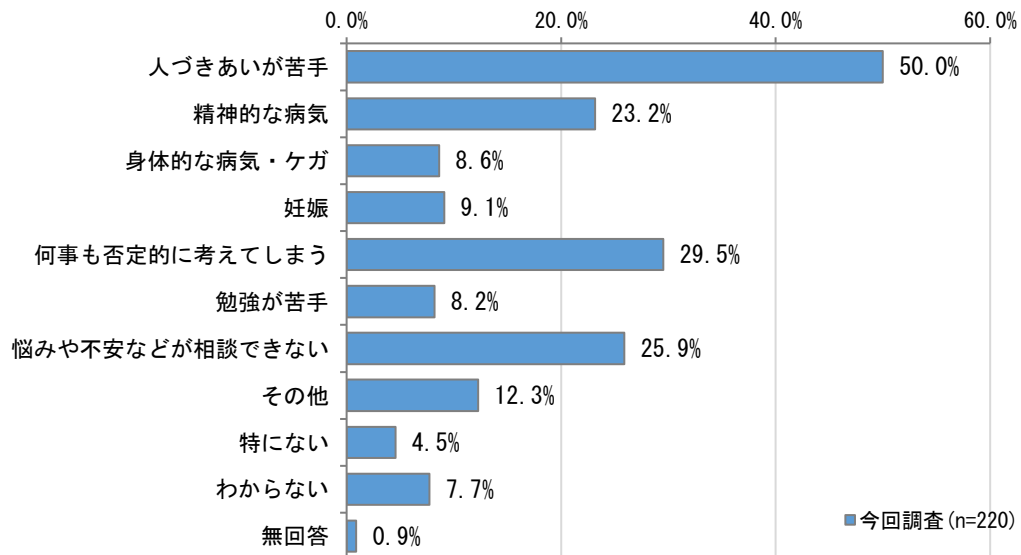
性別にみると、困難に直面した『経験があった（ある）』（「今までに経験があった（または、現在ある）」＋「どちらかといえば、あった（ある）」）という回答者は、男性が37.2%、女性が45.5%で、女性が男性を8.3ポイント上回っている。

年齢別にみると（、困難に直面した『経験があった（ある）』という回答者は、35歳～39歳（37.8%）以外は4割を超えている。

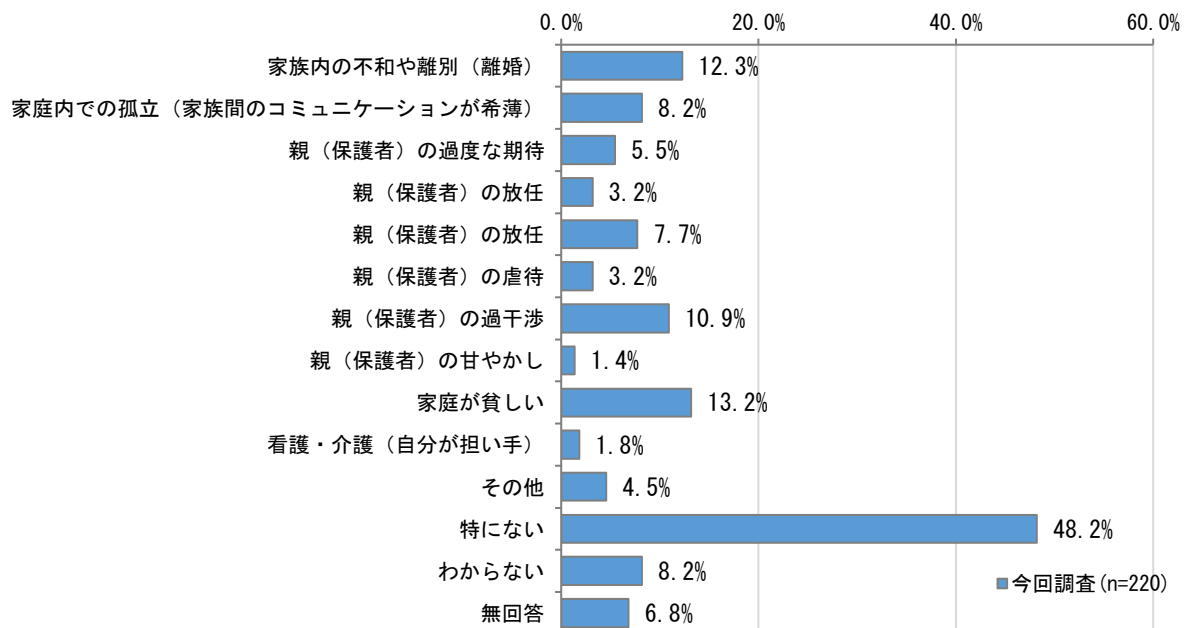


②困難に直面した原因（問29）

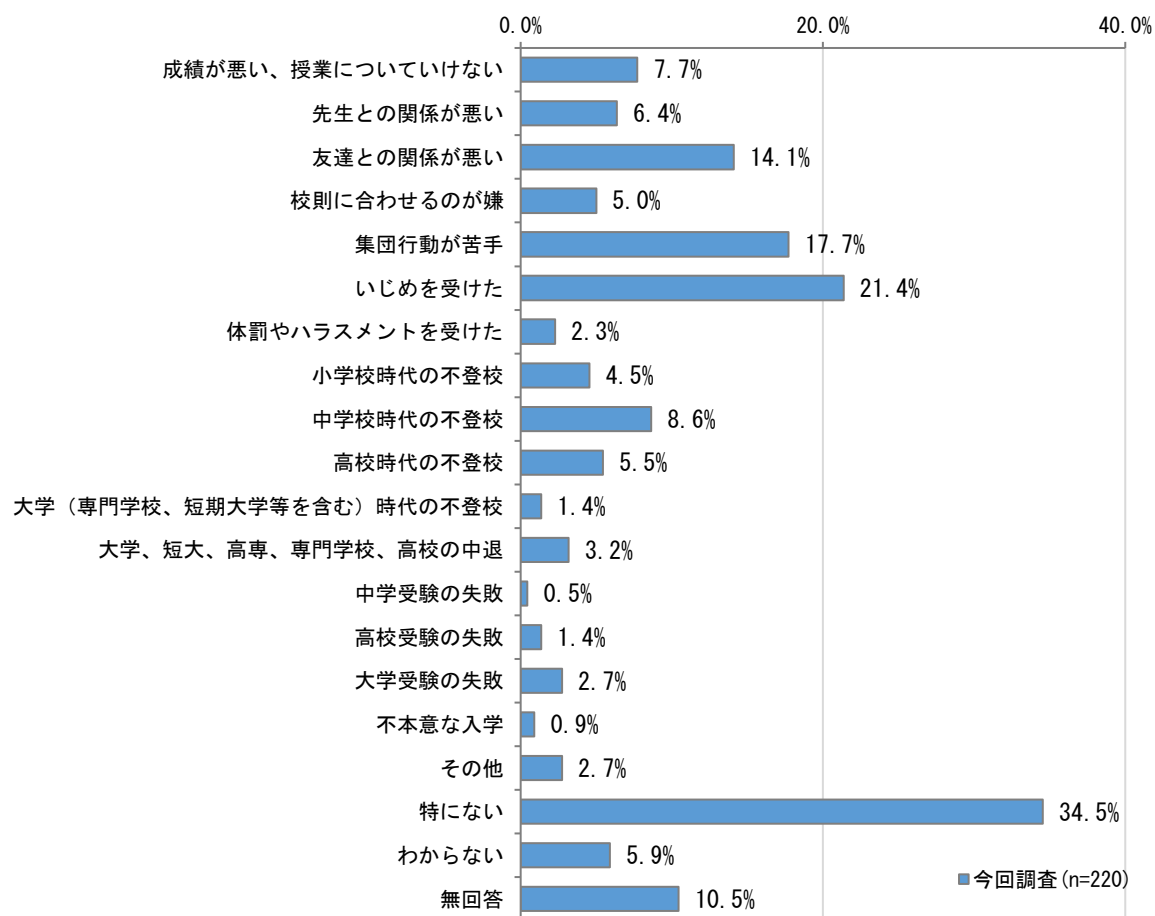
社会生活や日常生活を円滑に送る上での困難について、『経験があった（ある）』（「今までに経験があった（または、現在ある）」＋「どちらかといえば、あった（ある）」）と答えた者（220人）のうち、自分自身の主な原因については、「人づきあいが苦手」50.0%が最も高く、次いで「何事も否定的に考えてしまう」29.5%、「悩みや不安などが相談できない」25.9%となっている。



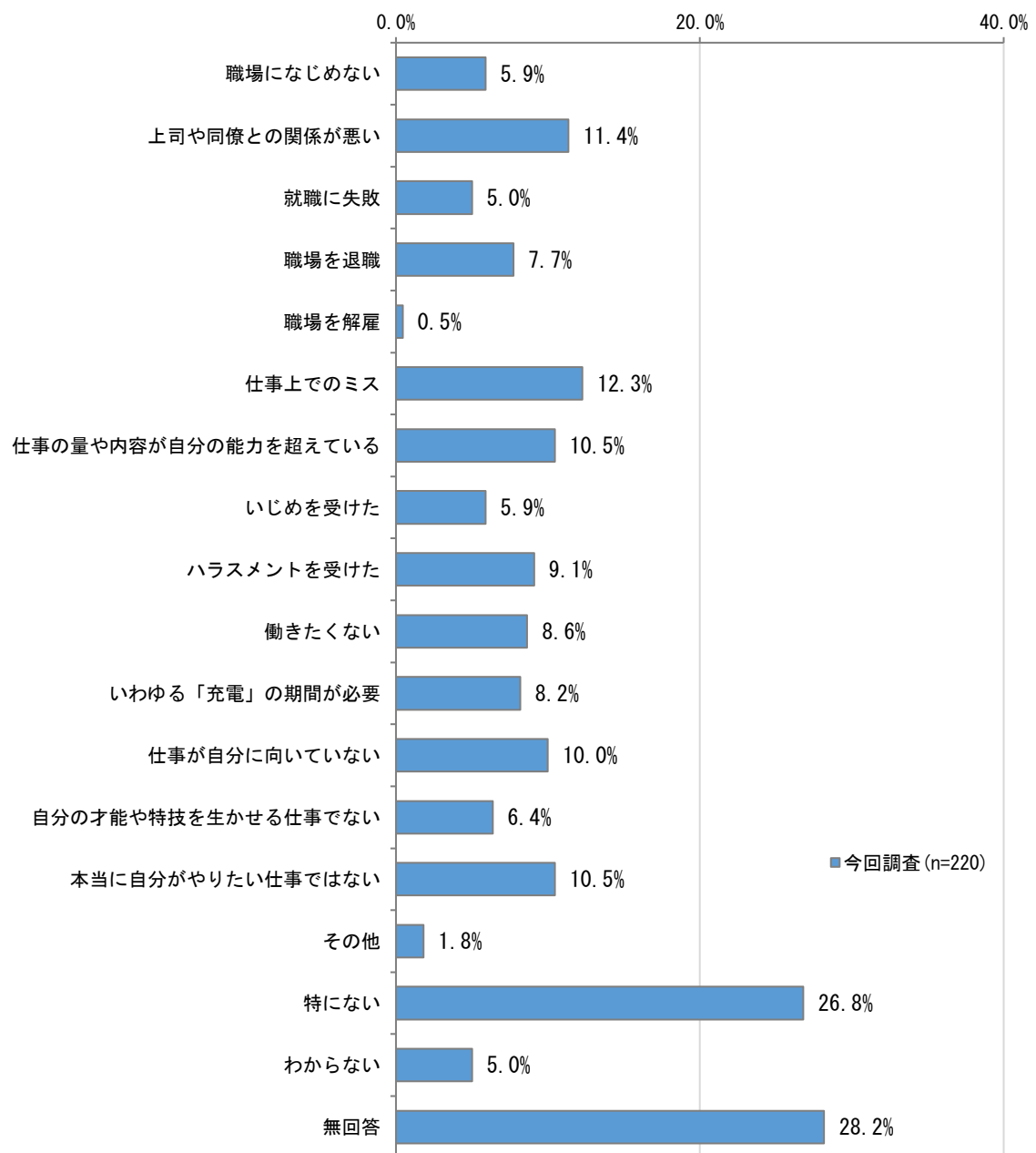
家族・家庭における主な原因については、「特にない」48.2%が最も高く、次いで「家庭が貧しい」13.2%、「家族内の不和や離別（離婚）」12.3%となっている。



学校における主な原因については、「特にない」34.5%が最も高く、次いで「いじめを受けた」21.4%、「集団行動が苦手」17.7%となっている。



仕事・職場における主な原因については、「特にない」26.8%が最も高く、次いで「仕事上でのミス」12.3%、「上司や同僚との関係が悪い」11.4%となっている。



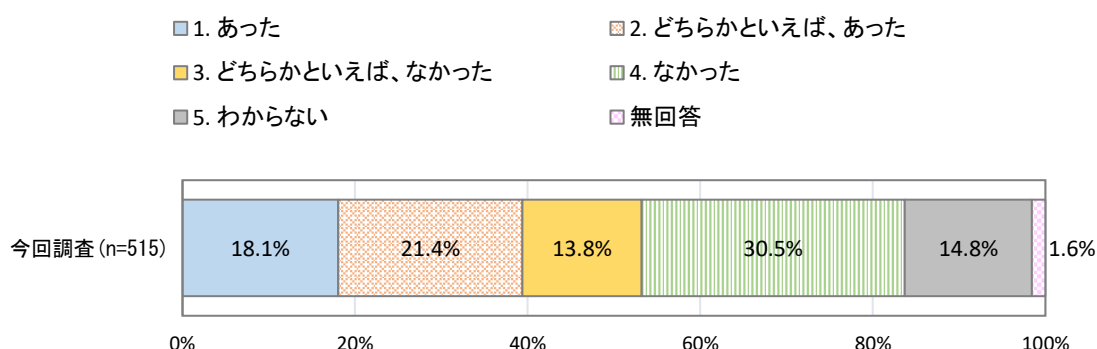
③困難な状態から改善した経験（問30）

社会生活や日常生活を円滑に送る上での困難な状態から改善した経験の有無を聞いたところ、18.1%が「あった」と回答し、「どちらかといえば、あった」（21.4%）を合わせると、約4割が改善した経験を持っている。

一方、『改善した経験はなかった』（「なかった」＋「どちらかといえば、なかった」）は44.3%で、『改善した経験はなかった』（「あった」＋「どちらかといえば、あった」）を上回っている。

性別にみると、困難な状態から『改善した経験があった』という回答者は、女性（41.5%）が男性（35.7%）を5.8ポイント上回っている。

年齢別にみると、20～24歳、25～29歳、30～34歳で『改善した経験があった』が4割を超えている。

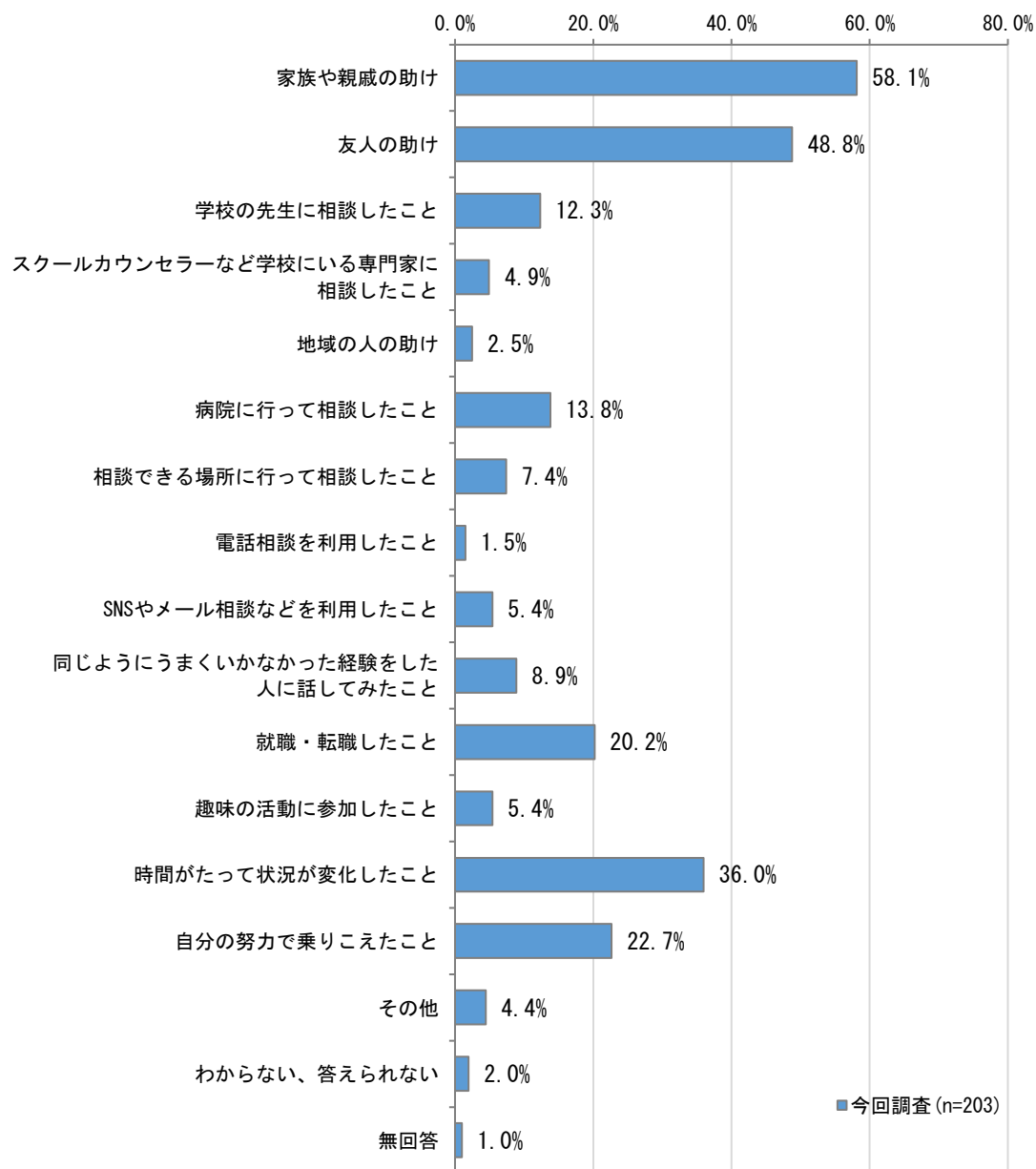


④困難な状態から改善したきっかけ（問31）

困難な状態から『改善した経験があった』（「あった」＋「どちらかといえば、あった」）と答えた者（203人）が、改善のきっかけとしてあげているものについてみると、「家族や親戚の助け」58.1%が最も高く、次いで「友人の助け」48.8%、「時間がたって状況が変化したこと」36.0%となっている。

性別にみると、男女ともに「家族や親戚の助け」（男性61.2%、女性57.5%）が最も高く、次いで、「友人の助け」（男性35.8%、女性55.2%）となっている。

年齢別にみると、15歳～19歳では、「友人の助け」（70.3%）が最も高くなっている。それ以外の年齢では、「家族や親戚の助け」が最も高くなっている。



(5) 相談・支援

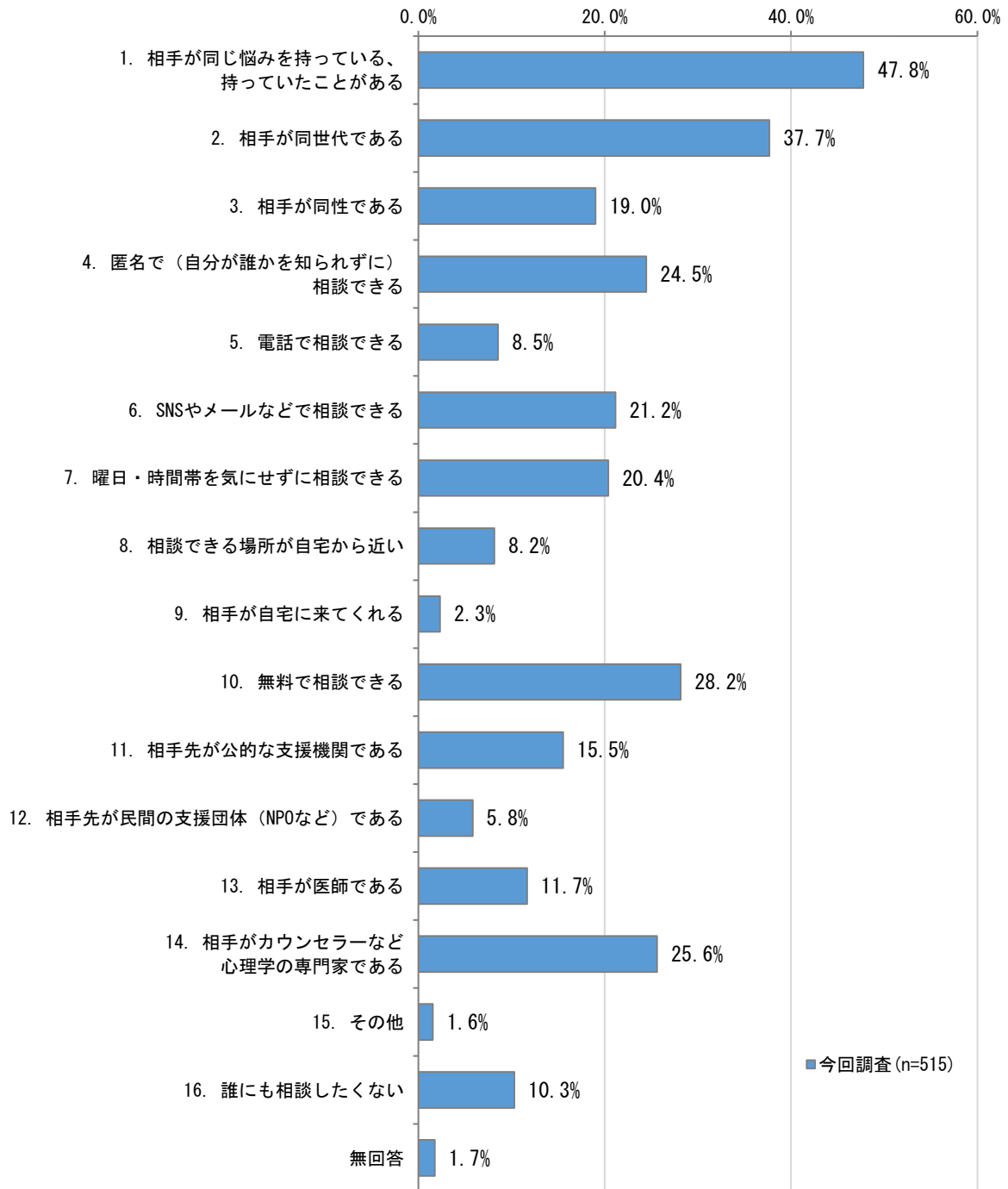
- ・相談したい人や場所については、「相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある」47.8%が最も高く、次いで「相手が同世代である」37.7%、「無料で相談できる」28.2%となっている。一方で、「誰にも相談したくない」（10.3%）は約1割となっている。
- ・「誰にも相談したくない」と答えた者（53人）が、その理由にあげているものについてみると、「相談しても解決できないと思うから」64.2%が最も高く、次いで「相手がどんな人かわからないから」39.6%、「相手にうまく伝えられないから」24.5%となっている。

①相談先に求めること（問32）

相談したい人や場所については、「相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある」47.8%が最も高く、次いで「相手が同世代である」37.7%、「無料で相談できる」28.2%となっている。一方で、「誰にも相談したくない」（10.3%）は約1割となっている。

性別にみると、男女ともに「相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある」（男性44.1%、女性50.2%）が最も高く、次いで、「相手が同世代である」（男性42.0%、女性35.6%）となっている。

年齢別にみると、20歳～24歳では、「相手が同世代である」（42.0%）が最も高くなっている。それ以外の年齢では、「相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある」が最も高くなっている。

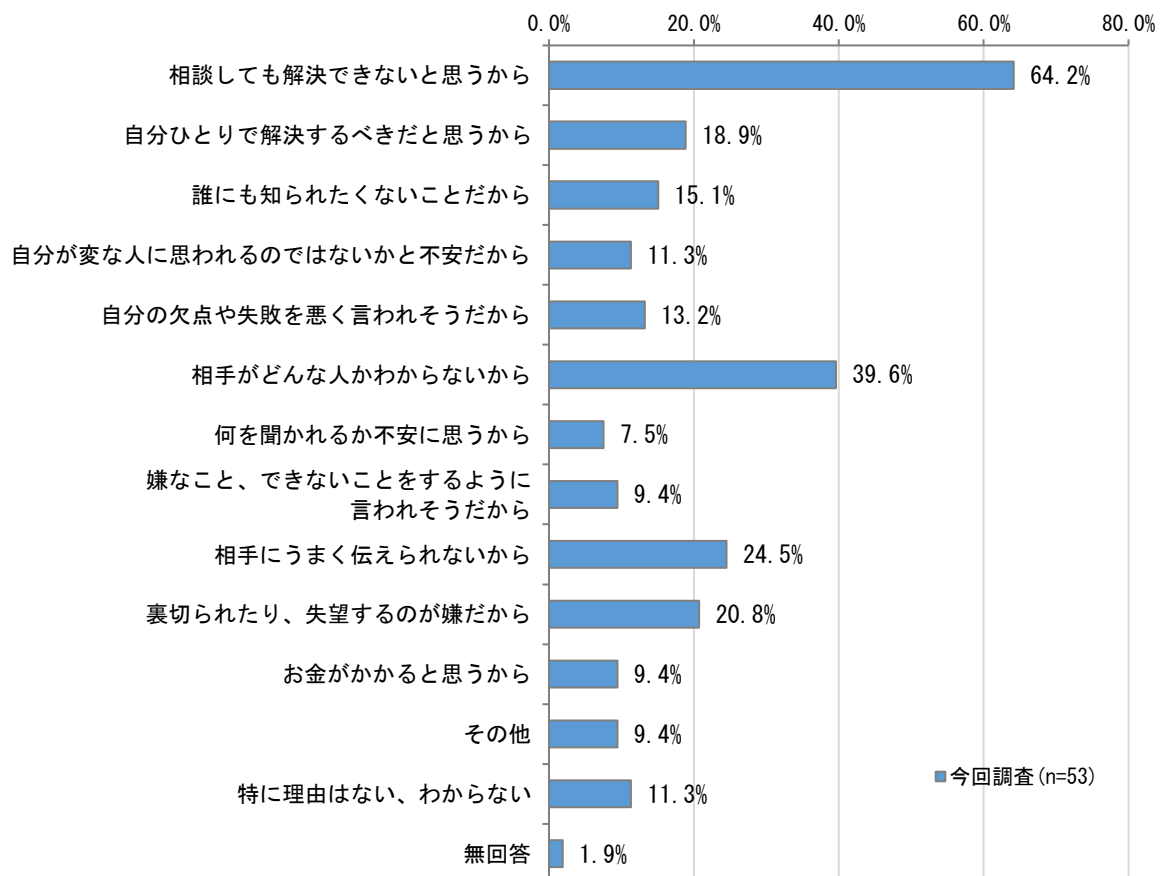


②相談したくないと思う理由（問33）

「誰にも相談したくない」と答えた者（53人）が、その理由にあげているものについてみると、「相談しても解決できないと思うから」64.2%が最も高く、次いで「相手がどんな人かわからないから」39.6%、「相手にうまく伝えられないから」24.5%となっている。

性別にみると、男女ともに「相談しても解決できないと思うから」（男性42.9%、女性71.1%）が最も高くなっている。

年齢別にみると、全ての年齢で、「相談しても解決できないと思うから」が最も高くなっている。



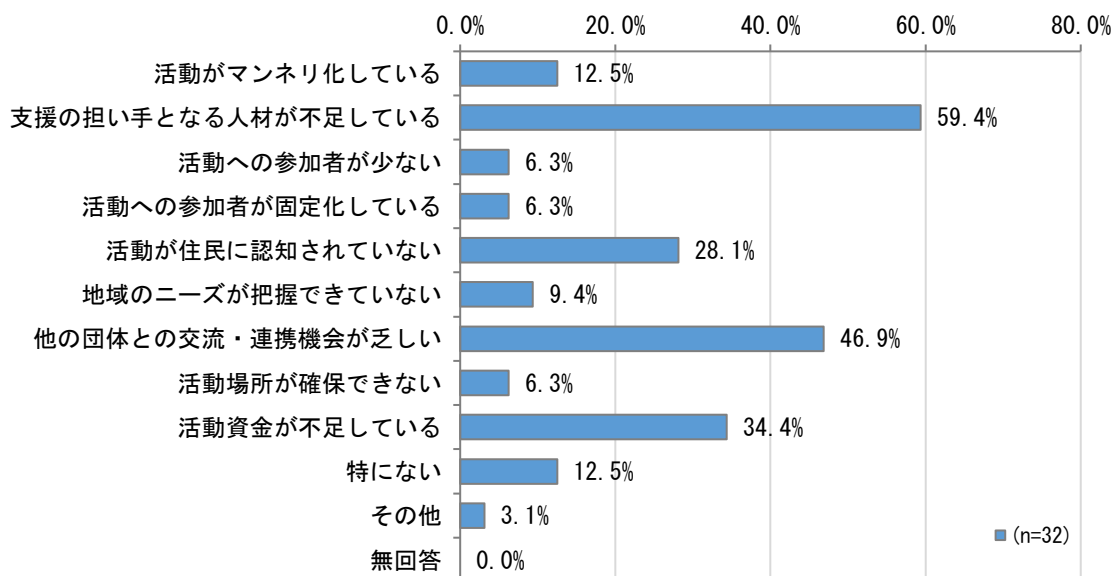
5. 事業所調査結果

(1) 事業所の活動状況

①現在、活動している中で困っていること

【事業所調査：問2】

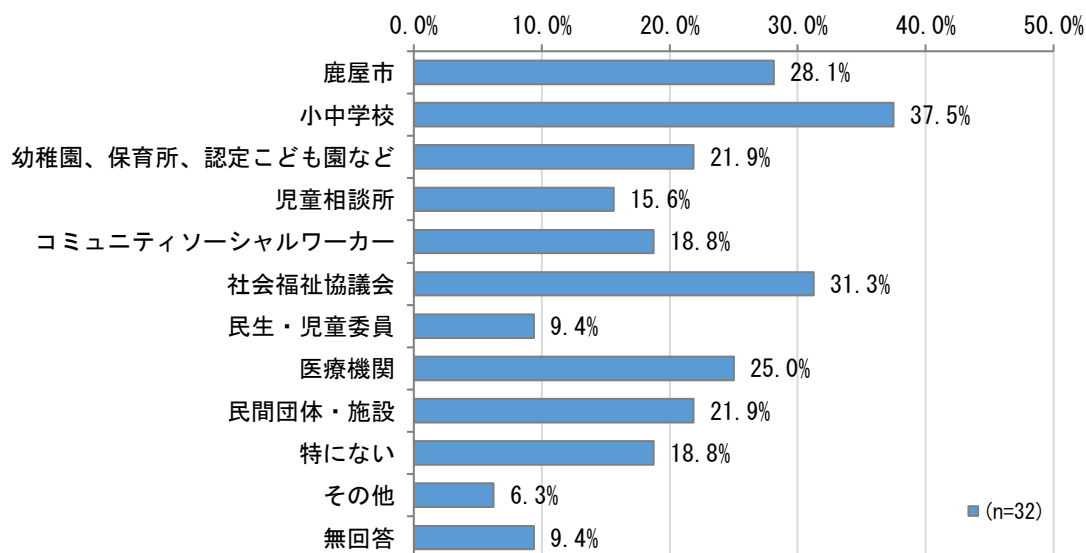
活動している中で困っていることについては、「支援の担い手となる人材が不足している」59.4%が最も高く、次いで「他の団体との交流・連携機会が乏しい」46.9%、「活動資金が不足している」34.4%と続く。



②今後、連携したい機関

【事業所調査：問3】

今後連携したい機関については、「小中学校」37.5%が最も高く、次いで「社会福祉協議会」31.3%、「鹿屋市」28.1%と続く。



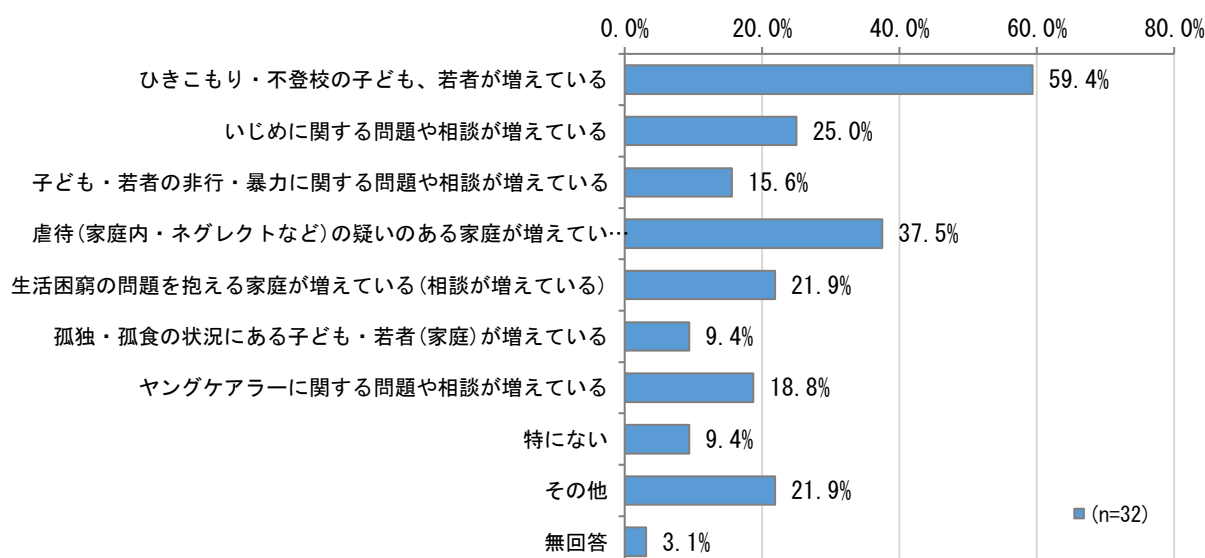
連携したい理由

No.	回答内容	連携機関
1	活動中に利用者様がケガなどがあつた際に対応して頂くため。	医療
2	学校での様子等、事業所ではわからない(見えない)部分を知る機会がほしい。	各学校
3	子どもをとりまく情報(SNS)で自殺などがいるので、情報がほしい(何とか食い止めた い)。	警察
4	情報量がある、法的な知識がある(提出できる情報が限られるが)。	警察
5	インクルーシブに配慮する。環境を整えるために。	鹿屋市子育て支援 課・学校教育課
6	他事業所などの連携・交流。	社会福祉 協議会
7	就労準備型放課後等デイサービスなので、児童生徒、主に高校生には就労について考 え、知り、体験をしていく経験を得るため。	就労継続支援 事業所
8	利用児童の学校での様子を知りたい。情報共有したい。	小学校
9	小学校との連携時間が少ない。	小中学
10	地域交流として関わり、利用者のことを知ってもらって少しでも共存できる社会になつて ほしい。	小中学校
11	サービス提供の質の向上。	地域
12	色んな機関だけではなく共通のお子様への支援が実施できるように連携を積極的に行 っていきたい。	放デイ
13	地域の中で、発達に障がいのある児の情報など共有できると良い。	民生・児童委員
14	在園時の様子や支援方法、取り組みなどの情報共有を詳しく行いたい。	幼稚園・保育所・認 定こども園など
15	活動の中に外部とのコミュニケーションをとり、お互いの価値観や考えを知り交流するこ とで、精神的な満足感や安心感を得られるのではないかなと思う為。	老人ホーム、 福祉施設
16	学校との連携は重要であると考えます。	小学校
17	療育中やショートステイ、オンライン相談の対応について、相談がスムーズにできるよう になるとよい。	医療
18	利用者様が虐待の疑い等あつた際に相談するため。	児童相談所

③活動を通しての子ども・若者の課題

【事業所調査：問5】

子ども・若者の課題については、「ひきこもり・不登校の子ども、若者が増えている」59.4%が最も高く、次いで「虐待（家庭内・ネグレクトなど）の疑いのある家庭が増えている（相談が増えている）」37.5%、「いじめに関する問題や相談が増えている」25.0%と続く。



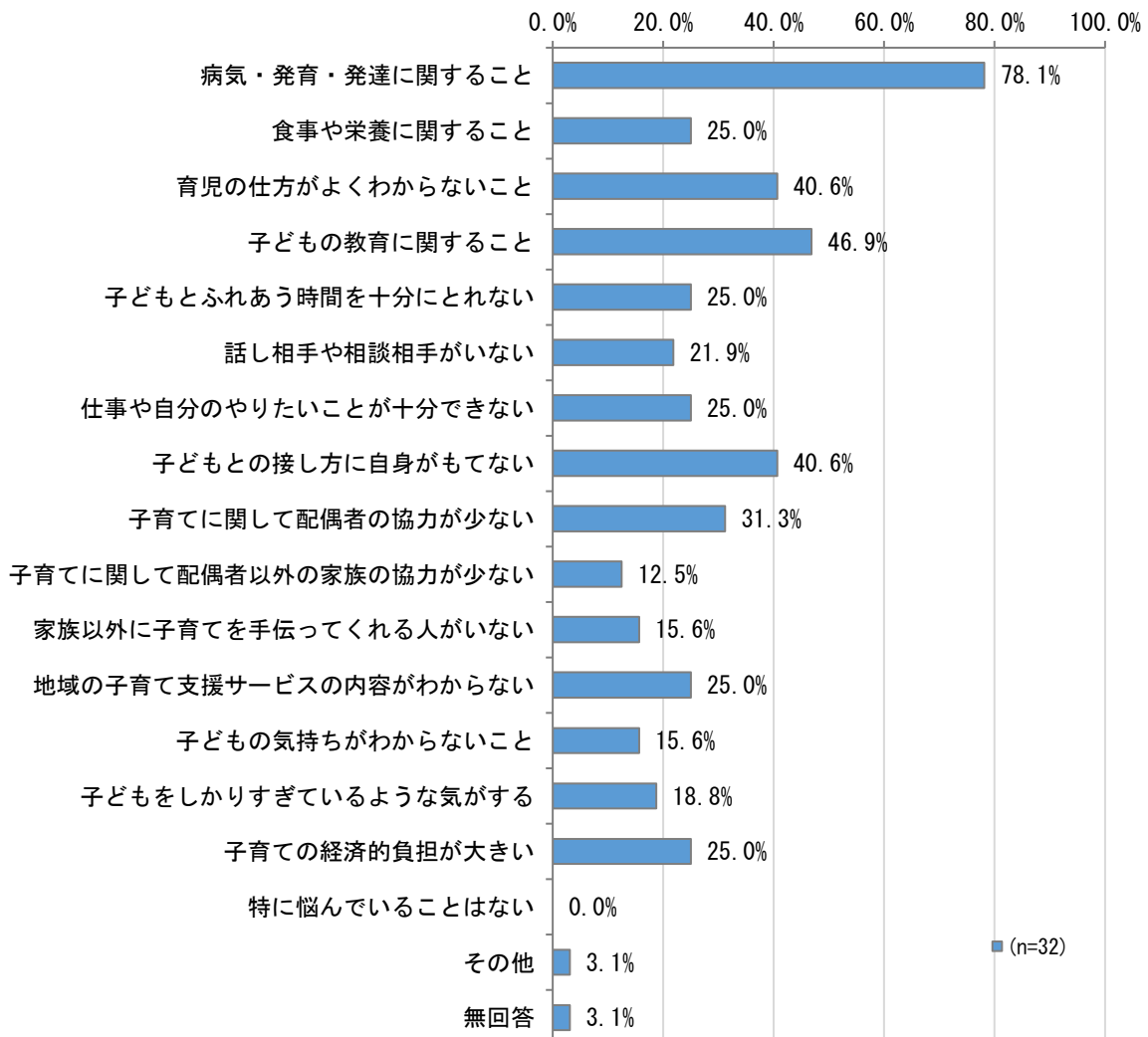
子ども・若者の課題の具体例

No.	回答内容
1	すぐ「死にたい」という子ども。SNS で何が起きているのか知りたい。
2	言葉を知らない(語らいが少ない)児が多い。善悪の基準が(規範意識)が薄い児が多い。本来は家庭で教育すべきことだと思う。
3	家族に時間的余裕などがなく、子どもとの愛着関係が保ちづらいことも多いように感じます。
4	増えてはいないが、ある一定数それぞれあると思われる。
5	学校行事や対応への不満、教職員の指導に対する相談などが増えている。
6	友達との関わり、担任との関わり、部活の先生との関わりにより、人間関係の悩みとしての相談が増えている。
7	不登校児童の利用について問い合わせが増えてきた。衣服がタバコ臭い。持ち物が洗濯されていない(何日も同じ服を着ている)。下の子の面倒を見ている。
8	利用児童の持ち物が洗濯されていない。前の日の荷物のままだったりする。傷・アザがあるなど。
9	園・事業所での昼食費の請求。不規則な生活、いじめなどによる不登校。
10	学校送迎に関して、放デイ利用日は事業所に相談できるとか。
11	下の子のお世話の為、上の兄弟がお休みしてお世話をしていたという案件などありました。
12	ひきこもり傾向にあるが、時々学校に行けている。保護者が家にいても手がかからないのと言われていた。
13	小中学生の不登校の支援が必要(生徒・保護者)。
14	生活困窮における療育環境が整っていない。
15	周囲と比べられたり、自分の思いが伝えられなかったり、時間に縛られることで他害や自傷をする子どもがみられる。
16	不登校になった児童が、家の中だけで過ごしている実態があり、学校に行けなくてもせめて放デイでの活動を継続させ社会性などを身につけさせたいと保護者や相談事業所から相談がきている。

④保護者が抱える悩みや問題

【事業所調査：問7】

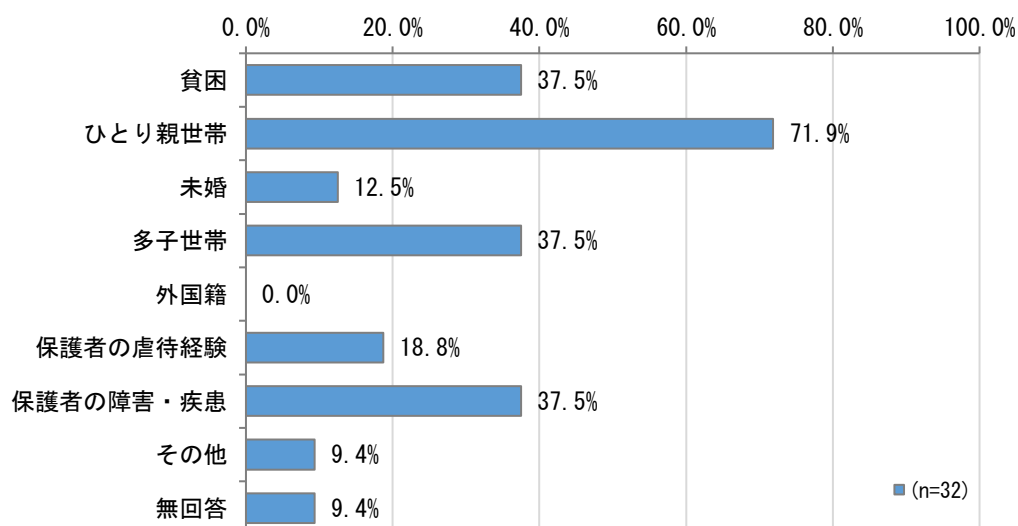
保護者が抱える悩みや問題については、「病気・発育・発達に関すること」78.1%が最も高く、次いで「子どもの教育に関すること」46.9%、「育児の仕方がよくわからないこと」、「子どもの接し方に自身が持てない」がいずれも40.6%と続く。



⑤困難を抱える家庭の背景や特徴

【事業所調査：問10】

困難を抱える家庭の背景や特徴については、「ひとり親世帯」71.9%が最も高く、次いで「貧困」、「多子世帯」、「保護者の障害・疾患」がいずれも37.5%、「保護者の虐待経験」18.8%と続く。



⑥活動する際に特に難しいと感じる点

【事業所調査：問9】

No.	回答内容
1	場所やスタッフに慣れるまでに時間を要する。
2	軽度な障がいの児と、重度な障がいの児が同じ環境で過ごすことに難しさを感じている。
3	雨天時の活動場所。
4	家庭不和にある子ども達の支援は難しいです。
5	学校との連携ができる学校と、そうでない学校がある。
6	場所により活動の制限、ネットワーク環境の制限など。
7	巡回指導では自転車のヘルメット着用について声掛けするが、改善には親の理解が必要。教育相談では関係機関とのつながり(学校など)を希望されない場合の対応。
8	活動の発展・展開・幅。
9	人材や訪問先の理解。
10	人の気持ちの理解や気持ちのコントロール等、伝えていくには繰り返し伝えていくので、他害のあるお子さまへの配慮は必要で難しさを感じます。
11	精神疾患や知的に課題のある保護者との関わり。
12	多動、指示が入りづらい子どもには言葉のコミュニケーションが難しい。
13	精神疾患の保護者とのコミュニケーション。
14	地域との交流。
15	子どもの気持ちをどこまで受容したらいいか。
16	子どもに対する思いや理想が高いと感じる。十分な信頼関係の築き方が難しい。時間が必要と感じる。
17	利用者の思いが分からないため、表情やしぐさで判断しているが、これでよいのか合っているのか迷ってしまう。
18	児童生徒1人1人発達が違う、各々に応じた支援をしていくよう努力している。

⑦貴団体（組織）が今後力を入れたい活動や取組

【事業所調査：問11】

No.	回答内容
1	家族支援：母親の悩みを聞き、子育てが楽しいものにしていく。虐待防止：母親が疲れていると手を上げることなどがあるため、ストレスが子育てに向かないようにする。
2	より深く、1人1人の特性や個性を捉えたうえでより早く成長していけるよう、支援の質を向上させたい。
3	学校、地域、その他さまざまな機関と共に、最善の支援に取り組んでいきたいと思います。
4	不登校児の自信と将来に希望につなげるため、安心できる居場所作りと学習、学びの機会を提供していきたい。
5	地域と共に、療育を展開することが出来たらと考えます。
6	通学距離によって来所できないことがないように、今後、増設できたらと考えている。市内全域の児童生徒への支援を続けたい。
7	相談機関、支援団体など、官民間わず連携を図るネットワーク作り。
8	子どもから大人までの支援と、地域との交流。医療ケア児のショートステイ。グループホーム及び生活保護相談。
9	人との関わりなしでは、人生を謳歌することは難しいと思います。そういった点から SST を中心として、他人との関わりといったところに力を入れて取り組んでいこうと考えております。
10	子ども意見表明支援員（子どもアドボケート）の養成。
11	地域活動に参加。
12	地域の子育て支援、入所児童の自立支援、子どもの居場所の確保、不登校生徒への支援。
13	一人一人に合った支援、個別でも一人一人と向き合い取り組んでいきたい。スタッフ一人一人の教育、質の向上。
14	不登校児の受け入れ。
15	地域との関わり、連携、協力等。
16	外部との交流。
17	本事業所はアート活動を通して、支援活動を行っております。昨年も開催しましたが、今年も個展を開き、利用者様に達成感を保護者様には普段の頑張りを見て頂きたいです。
18	昨年、一般のパソコン検定受験の指定を受けたので、今後も検定を実施し自分の所属する放デイだけでなく、他放デイや一般の方々の参加も受け入れ、広く門扉を開いていきたい。

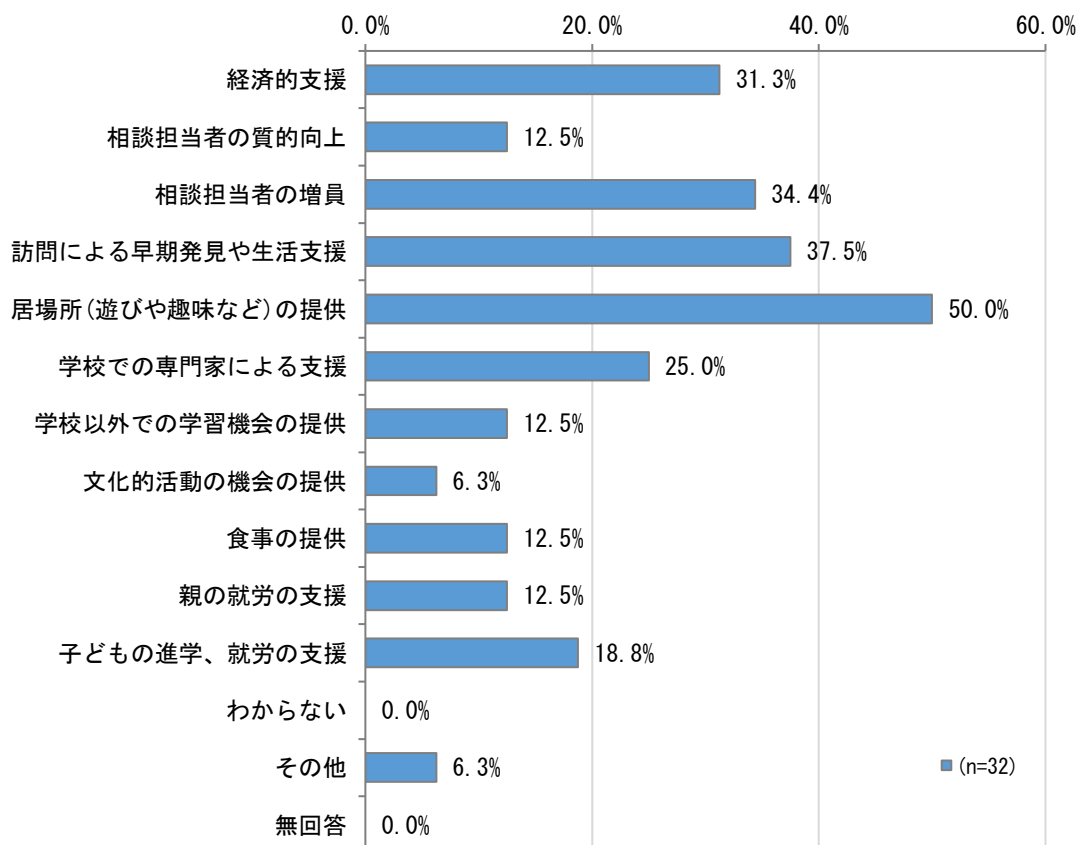
(2) 鹿屋市における支援策

- ・主に子育てを行っている人について、就学前児童保護者では、「父母ともに」が59.4%で「主に母親」が39.5%であり、平成30年度調査と比較すると大きな変化はみられません。小学校児童保護者では、「父母ともに」が59.3%で「主に母親」が38.1%となっている。
- ・子どもをみてもらえる親族・知人等の有無について、就学前児童保護者では、64.5%の人が「緊急時または用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」、27.4%の人が「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」環境にあります。平成30年度調査と比較すると大きな変化はみられません。小学校児童保護者では、62.4%の人が「緊急時または用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」、26.1%の人が「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」環境にあります。

①必要だと思う支援

【事業所調査：問12】

必要だと思う支援については、「居場所（遊びや趣味など）の提供」50.0%が最も高く、次いで「訪問による早期発見や生活支援」37.5%、「相談担当者の増員」34.4%と続く。



②その他意見や提案

【事業所調査：問13】

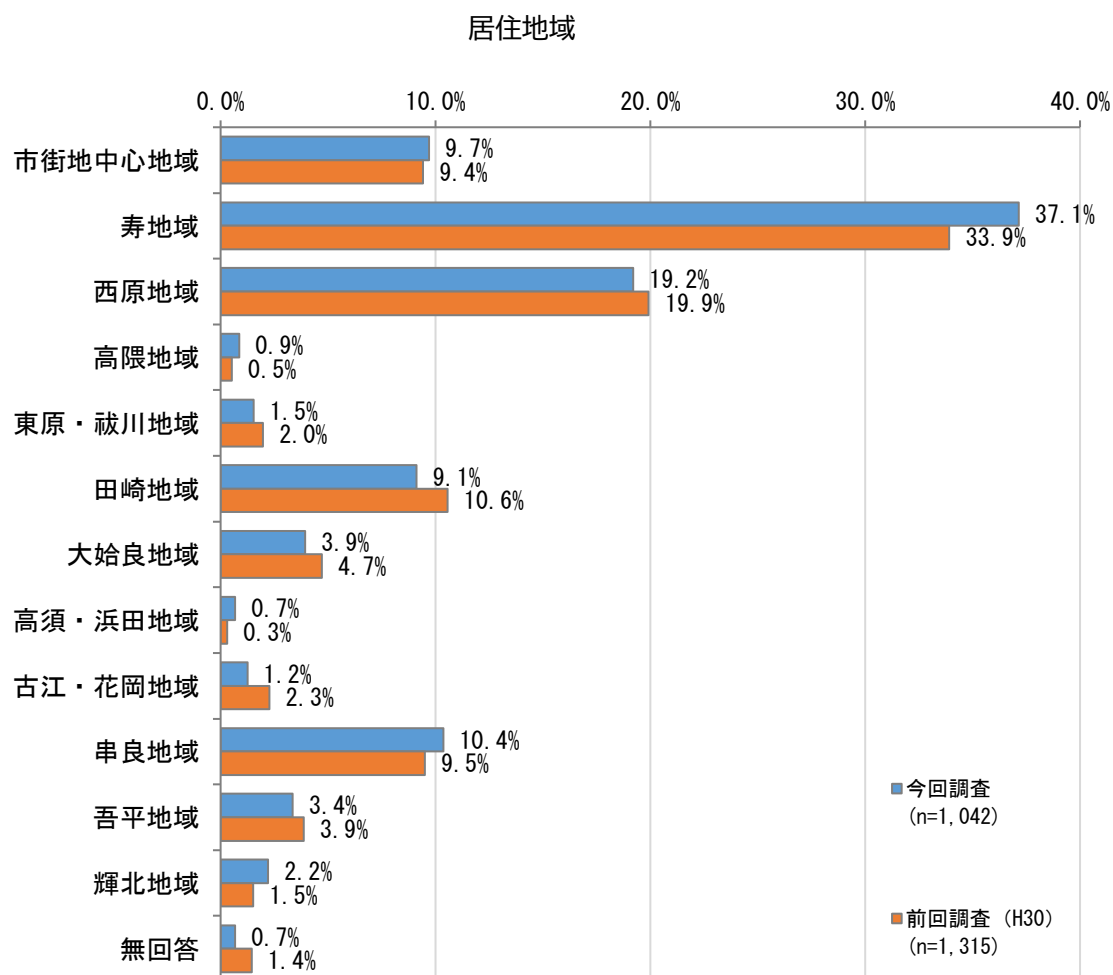
No.	回答内容
1	中学生・高校生になると、携帯電話でのやりとりで自殺者を募ったり、恋人探しや立ちんぼ（パパ活）等の噂があがっている。夜の朝日町にもあきらかに高校生と思われる子ども達がキャッチをしている所を目撃したこともある。声をかけると逃げる。そういう場面に出くわした時に常に思うことがあるが、「親はどうなってるのか？」と怒りが出てくる。親がしっかりと教育をしていればこういうことは起こらないと思うが、その家庭の状況等はどのようにすることもできないのかと思う。何かできないか？どうすれば若者をしっかりと支援できるのか？などの課題はあるが、まずは家族の支援だと思います。家庭が安定していれば子ども達も夜の街にでることもなければ「死にたい」ということはないであろう。SNS だけの世界にはまり、学校も不登校、行き場がなくウロウロしている、第3の居場所を早急に鹿屋市も進めるべきであり、彷徨って悩んでいる子ども達が安心して行ける場所作りが今まさに求められている気がしている。
2	現在、通所支援事業所に対する市の補助金があり、利用者のサービス利用負担額は実質0円。利用上限額4600円、37,200円については、利用者の実費とすることで、親として放デイ・児発を利用する際の「療育」としての意識が向上するのではないかと？
3	子ども達が公園や道を歩いていて触れ合える「パブリックアート」があれば楽しいのになあと思います。「あの公園にいけばあのくまさんに会える」といった発見です。触ったり、乗ってみたり、お話をしたり…という想像をしています。小さい子どもだけでなく、中高生も癒されると思います。
4	今問題になっている、教員の働き方や学校の在り方について、先生がいっぱいいっぱいでは、子ども達に対して指導や関わりが持てないのではないかと思います。多様性や個性が重視される風潮の中で、学校自体が規則や体制の維持に時間と労力を費やし、子ども達への目配り・気配りを行う余裕がないのではと感じます。
5	西原にある児童センターのような施設が寿方面にはない。学習センター、健プラなどは年齢制限があり、予約や保護者の同伴を求められたりで、子ども・若者が気軽に立ち寄れる場所ではないと思う。図書コーナーを各地域に設置してはどうか。
6	子ども達の思いやご家族の思いに寄り添い、理解を求める必要があると思います。学習に関しても、子どもや保護者に負担となるような行いはどうかと思います。子どもたちが笑顔で、楽しく学校生活を送ることができる体制の必要があるのではないのでしょうか？
7	子ども自身で相談できる地域が必要だと思います。困りごとを聞いてもらえる。学校スクールカウンセラーも時間に制約があることや、学校内では相談できないこともある。
8	鹿屋市以外の場所で就労していた経験がありますが、まだ手厚い支援をされているなと感じております。以前社協の研修に参加させていただきましたが、とても勉強になりましたので機会があればそのような研修を開催して頂きますと助かります。
9	いつもお世話になっております。今後も様々な面で連携、協働をお願いいたします。
10	不登校生徒の生活や保護者との関係、学校との連携、関係機関との協働など家庭に関する全ての関係機関を招集して調査、検討、実働できるネットワークが必要。要保護児童対策協議会の開催数の増加。
11	障害のある子供達、未就学児にも働く（職場）の体験ができると良いかなと思います。どんな事にも興味津々で遊んでいます。
12	子どもや若者を支援している人たちの支援策も是非検討してほしいです。
13	利用している児童生徒の中で、放デイだけでなく短期入所もしたいのだが、市にお願いをしても受け入れ場所が少ないうえに、もう予定が入っていて希望が受け入れられていないと話をよく聞いています。受け入れ場所の増加をお願い致します。

Ⅲ 調査結果（未就学児）

1. 住まいの地域について

問1(1) お住まいの地域を教えてください。

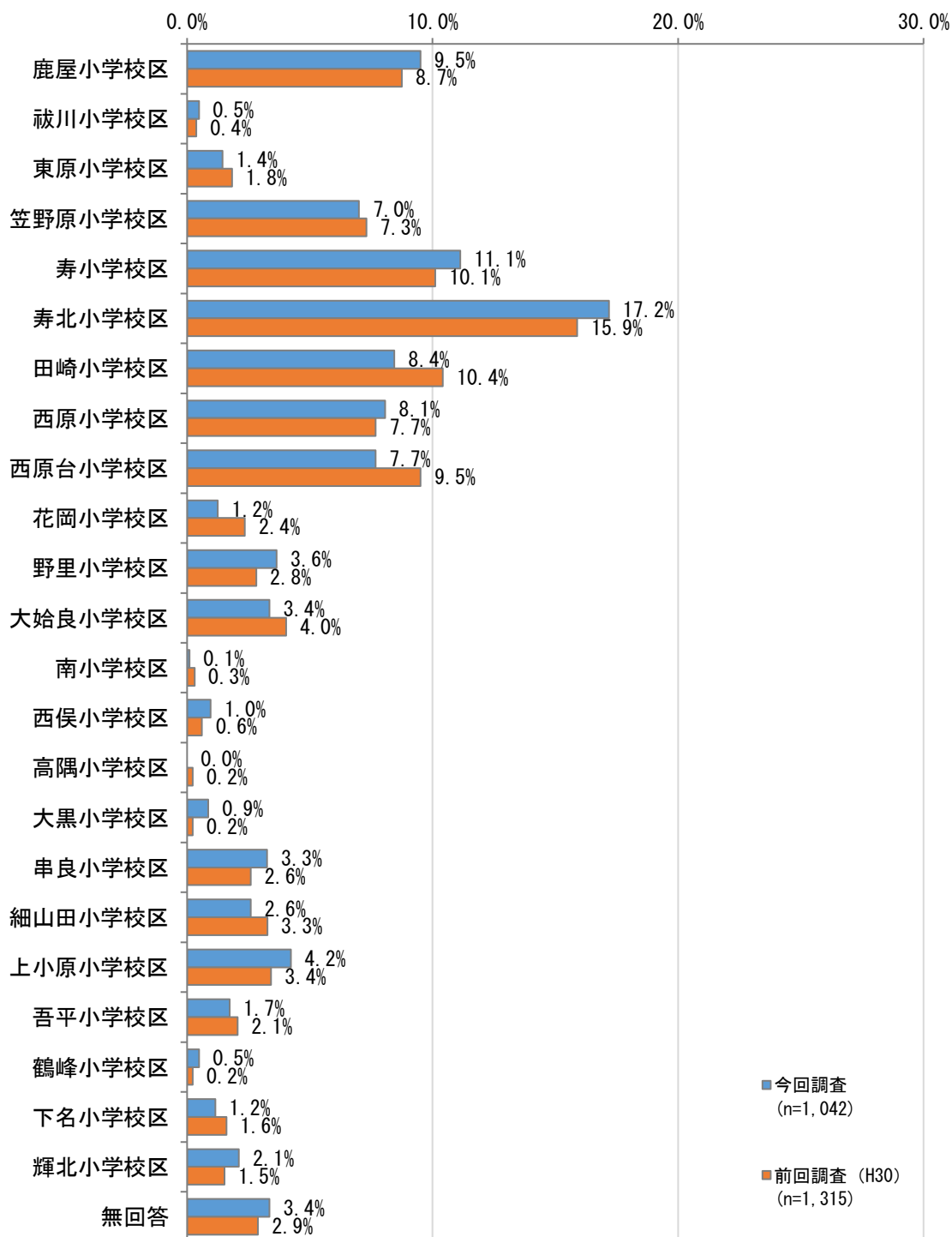
居住地域は、「寿地域」37.1%が最も高く、次いで「西原地域」19.2%、「串良地域」10.4%となっている。



問1(2) お住まいの小学校区を教えてください。

居住する小学校区は、「寿北小学校区」17.2%が最も高く、次いで「寿小学校区」11.1%、「鹿屋小学校区」9.5%となっている。

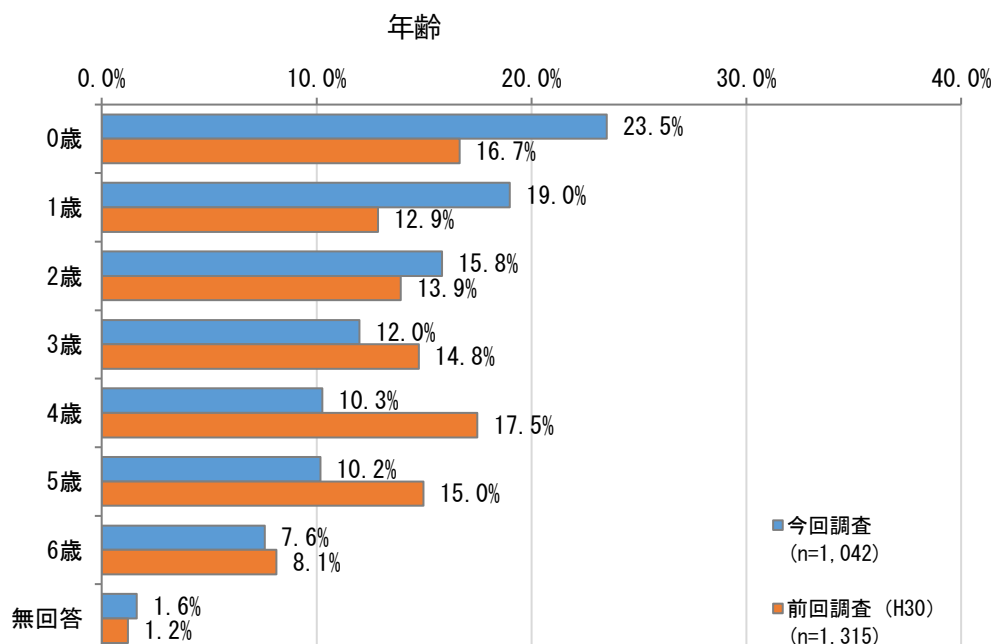
居住する小学校区



2. 末子のお子さんご家族の状況について

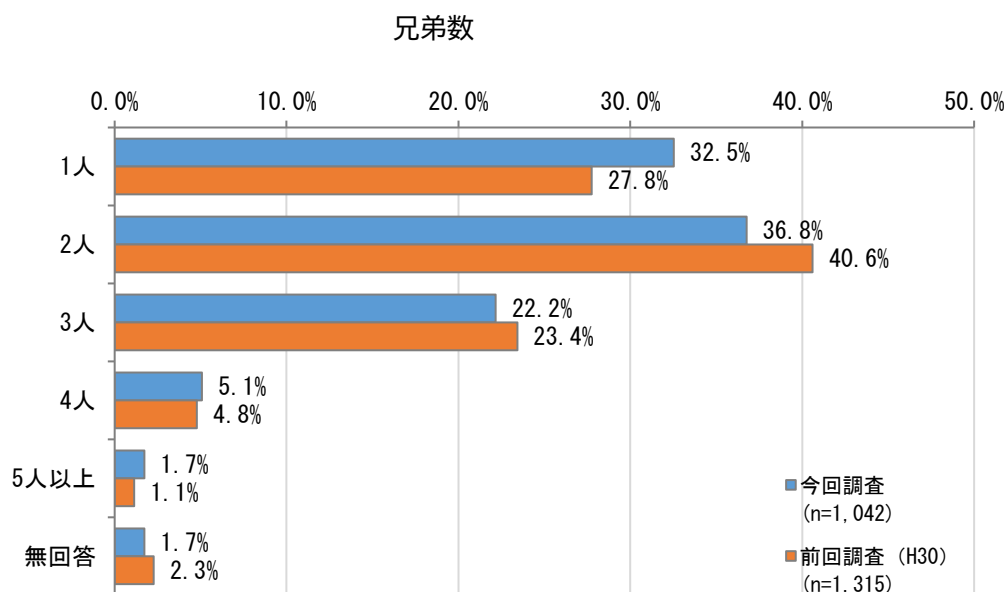
問2 末子のお子さんの生年月をご記入ください。

生年月は「0歳」23.5%が最も高く、次いで「1歳」19.0%、「2歳」15.8%となっている。



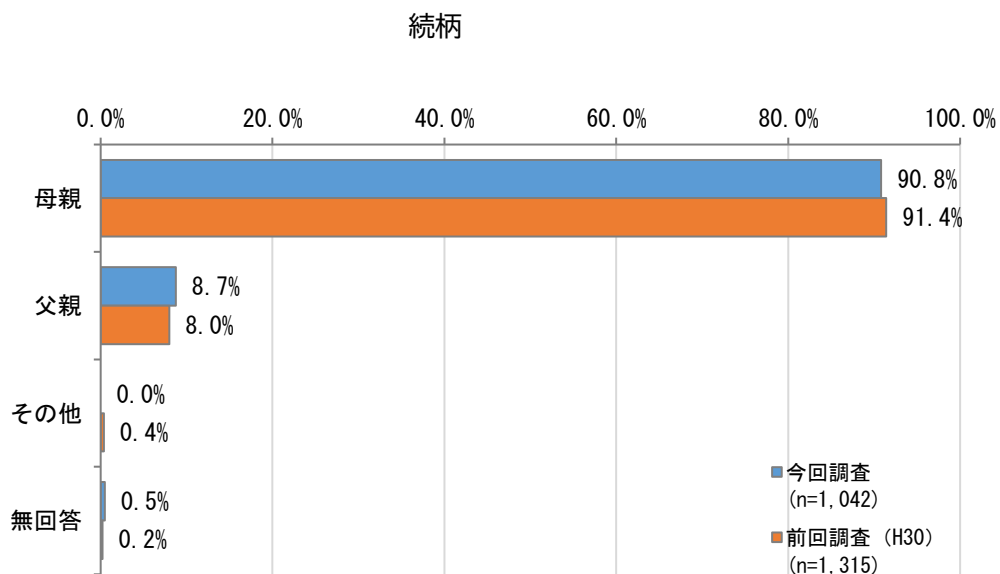
問3 末子のお子さんのきょうだいは何人いらっしゃいますか。末子のお子さんを含めた人数をご記入ください。

兄弟数は「2人」36.8%が最も高く、次いで「1人」32.5%、「3人」22.2%となっている。



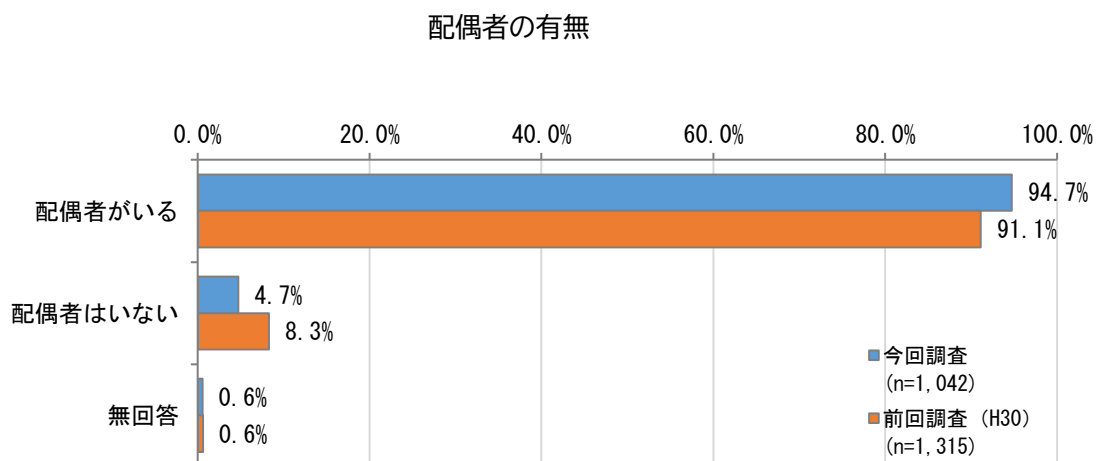
問4 この調査票をご回答される方はどなたですか。末子のお子さんからみた関係でお答えください。当てはまる番号1つに○をつけてください。

回答者の続柄については、「母親」90.8%、「父親」8.7%となっている。



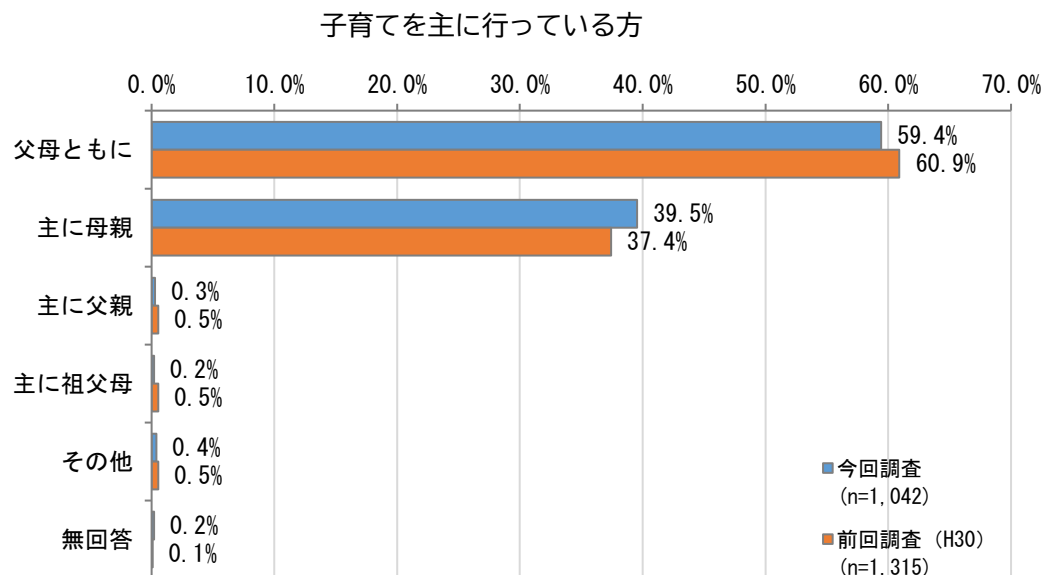
問5 この調査票をご回答されている方の配偶関係についてお答えください。当てはまる番号1つに○をつけてください。

配偶者の有無については、「配偶者がいる」94.7%、「配偶者はいない」4.7%となっている。



問6 ご家庭で末子のお子さんの子育て(教育を含む)を主に行っているのはどなたですか。お子さんからみた関係で当てはまる番号1つに○をつけてください。

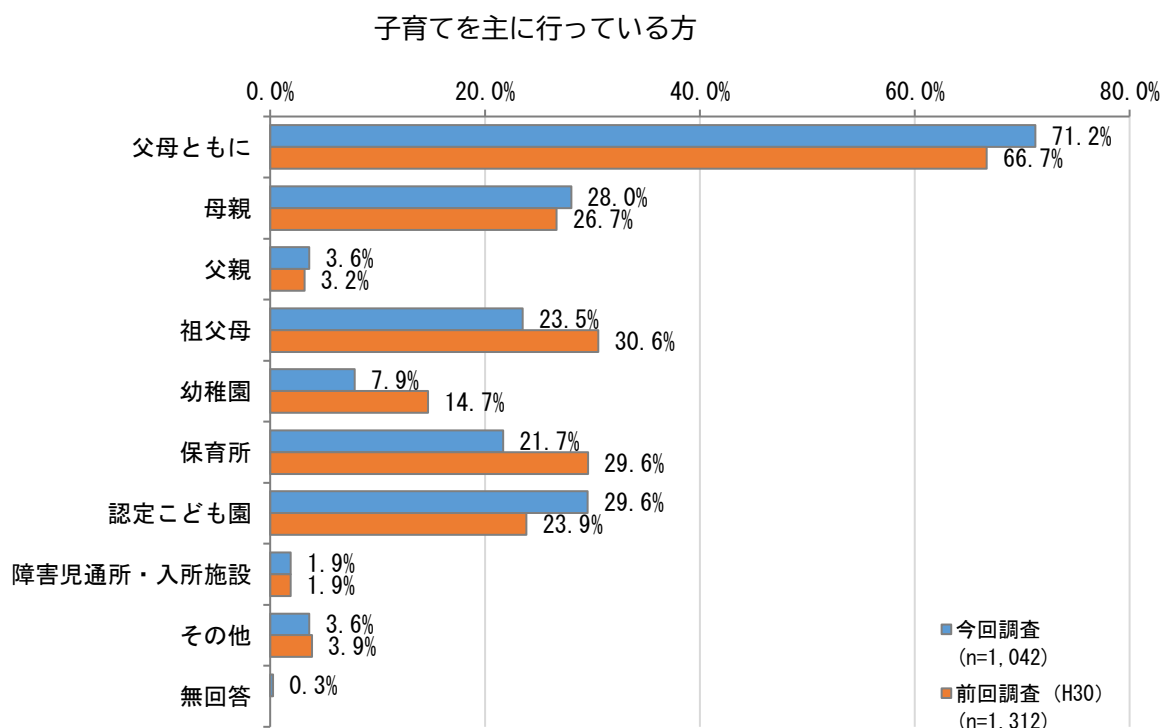
子育て(教育を含む)を主に行っている方については、「父母ともに」59.4%が最も高く、次いで「主に母親」39.5%、「その他」0.4%となっている。



3. 子育ての環境について

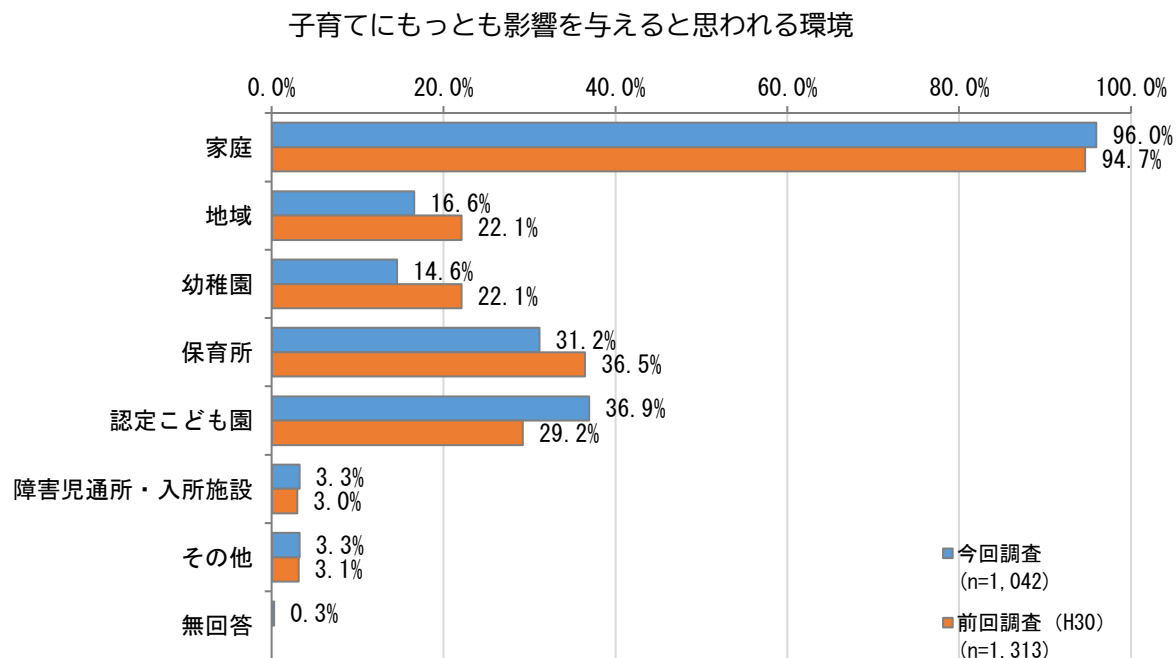
問7 末子のお子さんの子育て(教育を含む)に日常的に関わっている方はどなた(施設)ですか。お子さんからみた関係で当てはまる番号すべてに○をつけてください。

子育て(教育を含む)に日常的に関わっている方については、「父母ともに」71.2%が最も高く、次いで「認定こども園」29.6%、「母親」28.0%となっている。



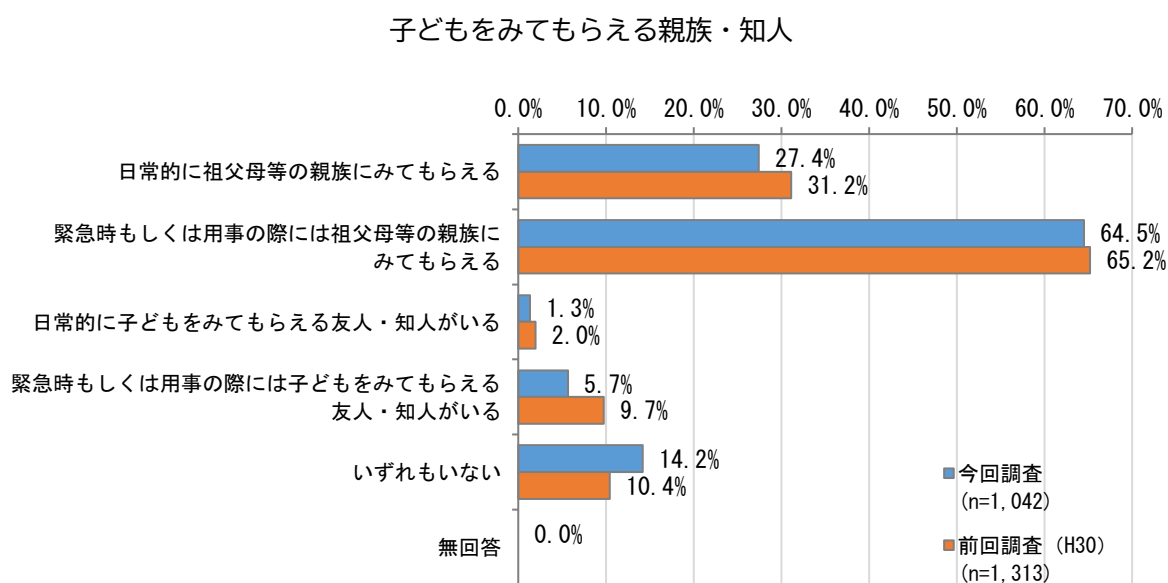
問8 末子のお子さんの子育て(教育を含む)に、もっとも影響を与えると思われる環境すべてに○をつけてください。

子育て(教育を含む)にもっとも影響を与えると思われる環境については、「家庭」96.0%が最も高く、次いで「認定こども園」36.9%、「保育所」31.2%となっている。



問9 日頃、末子のお子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

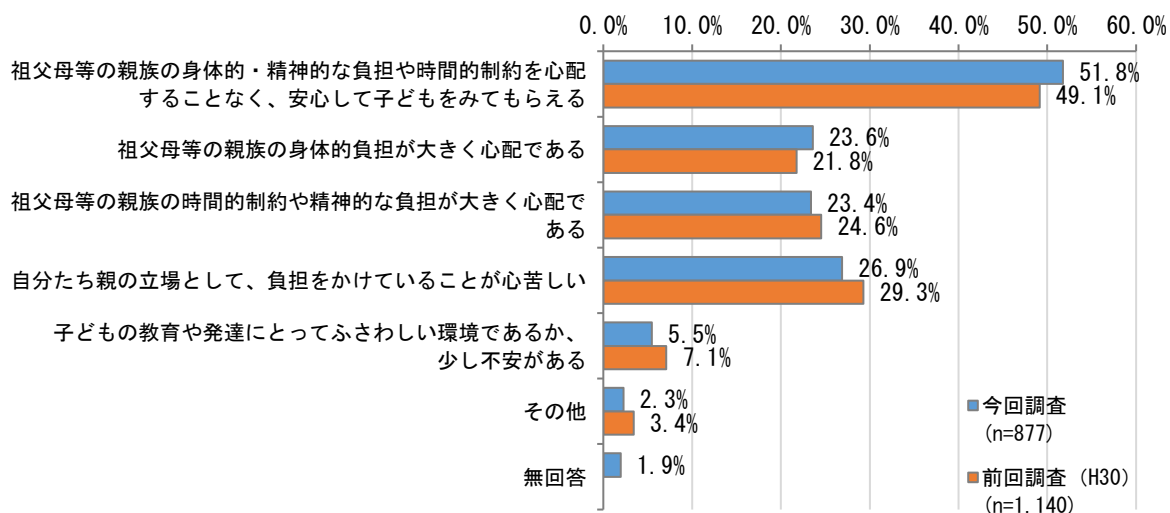
末子の子どもをみてもらえる親族・知人がいるかについては、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」64.5%が最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」27.4%、「いずれもない」14.2%となっている。



問 9 - 1 【問 9 で「1.」または「2.」に○をつけた方におたずねします。】
 祖父母等の親族にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

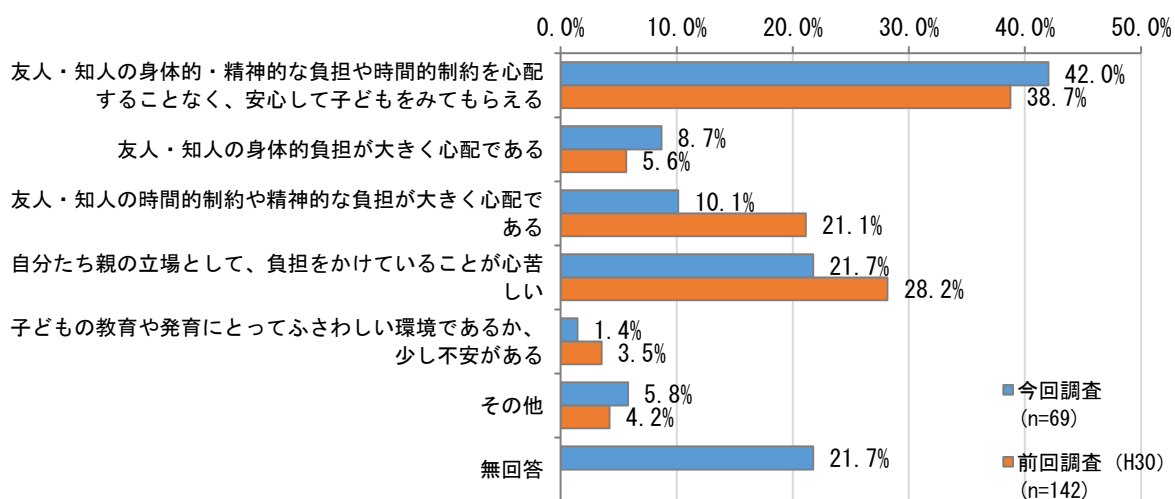
祖父母等の親族に子どもをみてもらう状況については、「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」51.8%が最も高く、次いで「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」26.9%、「祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である」23.6%となっている。

子どもをみてもらう状況（祖父母等）



問 9 - 2 【問 9 で「3.」または「4.」に○をつけた方におたずねします。】
 友人・知人にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

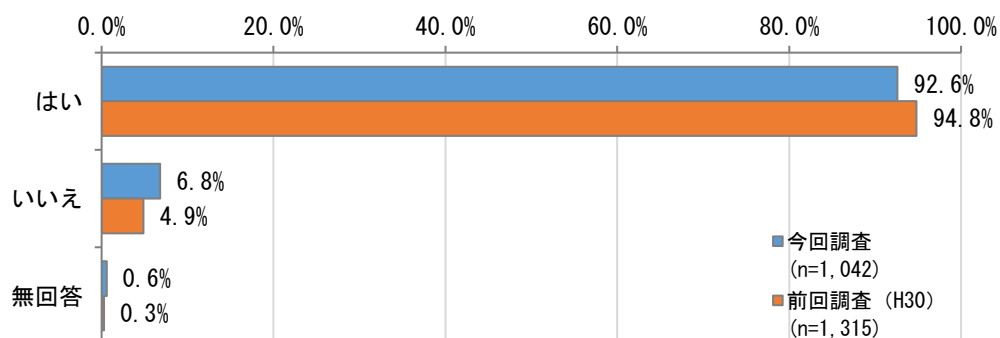
友人・知人に子どもをみてもらう状況については、「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」42.0%が最も高く、次いで「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」21.7%、「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」10.1%となっている。



問10 末子のお子さんの子育て(教育を含む)をする上で、気軽に相談できる人はいますか(または、場所がありますか。)当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

末子の子育てをする上で、気軽に相談できる人や場所については、「はい」92.6%、「いいえ」6.8%となっている。

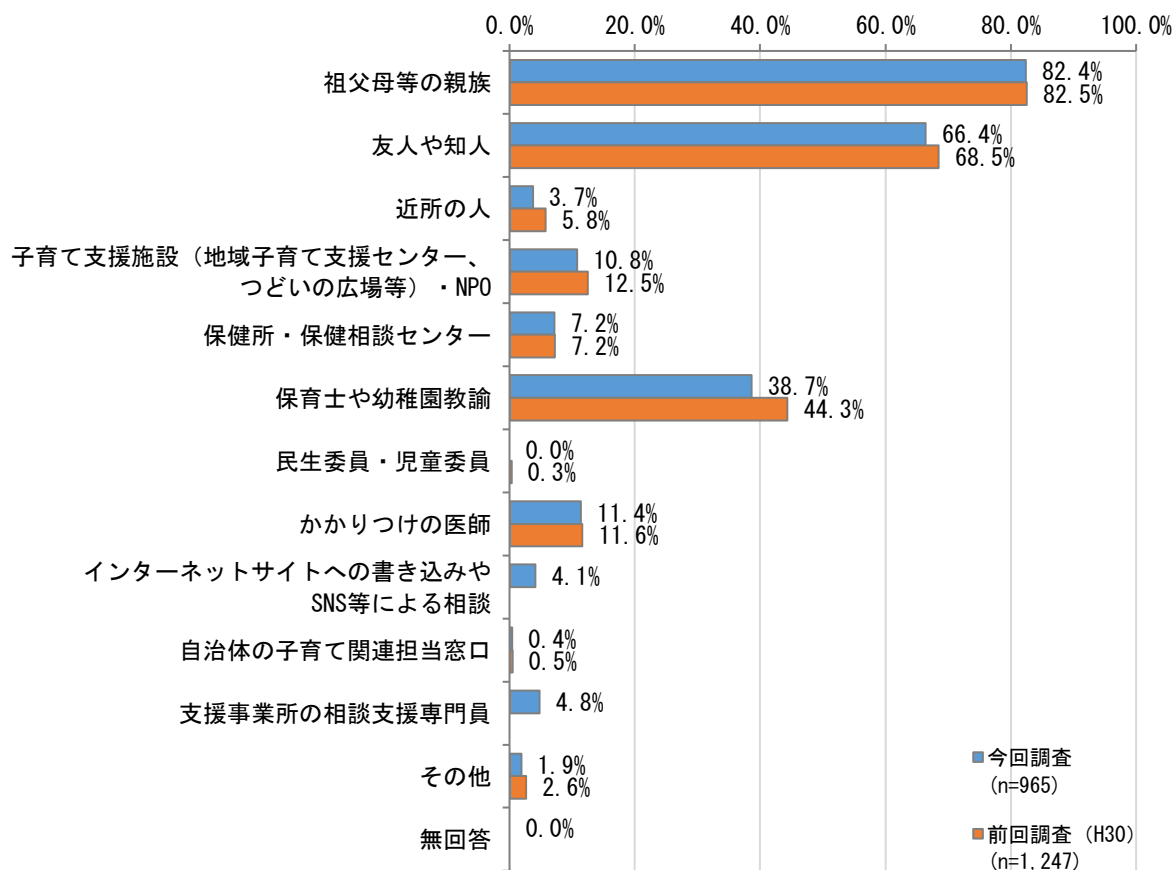
子育てをする上での相談相手の有無



問10-1 【問10で「1. はい」に○をつけた方におたずねします。】お子さんの子育て(教育を含む)に関して、気軽に相談できる先は、誰(どこ)ですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

子育てに関して、気軽に相談できる相談先については、「祖父母等の親族」82.4%が最も高く、次いで「友人や知人」66.4%、「保育士や幼稚園教諭」38.7%となっている。

子育てに関して、気軽に相談できる相談先



問11 子育て(教育を含む)をする上で、周囲(身近な人、行政など)からどのようなサポートがあればよいとお考えでしょうか。ご自由にお書きください。

回答件数：426 件（複数回答あり）

【主な意見】※回答一覧は 108～127 ページに記載

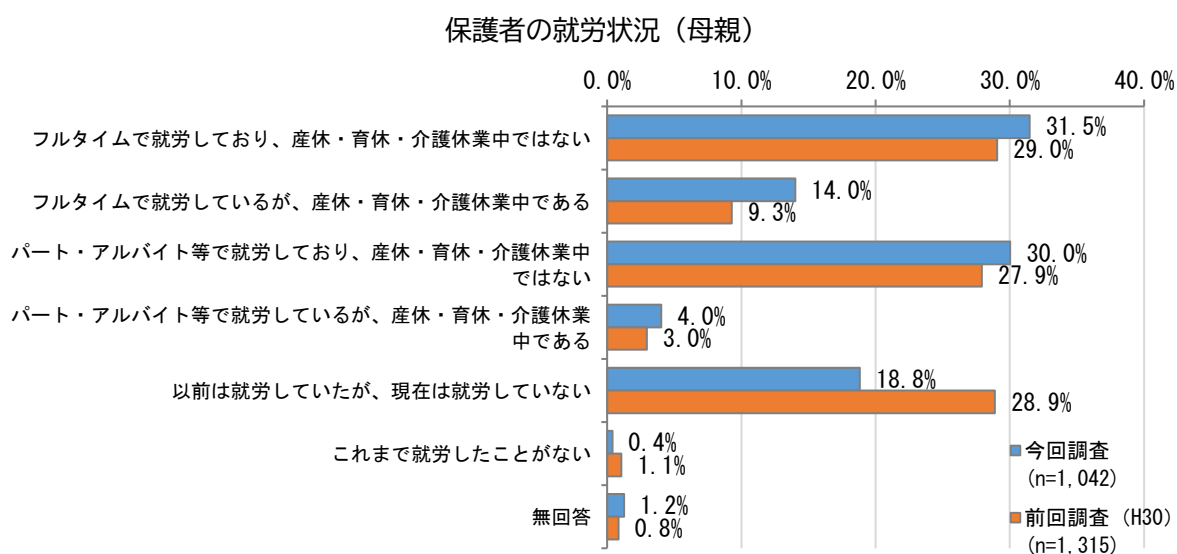
内容	件数
預かり環境・施設整備について	130 件
経済・物的支援について	104 件
病児保育・施設整備について	53 件
相談体制、質の向上、親のケアについて	42 件
公園・室内遊戯施設、環境整備について	28 件
情報発信について	13 件
交流の場や安全に遊べる場の確保について	12 件
子育てに関する認識のアップデートについて	11 件
見守り（声掛け）・送迎について	9 件
習い事（学習塾・寺子屋など）について	1 件
食について	1 件
その他	22 件

4. 末子のお子さんの保護者の就労状況について

問12 末子のお子さんの保護者の現在の就労状況(自営業、家族従事者含む)をおたずねします。
母親・父親の就労状況について、母親・父親それぞれ当てはまる番号1つに○をつけてください。

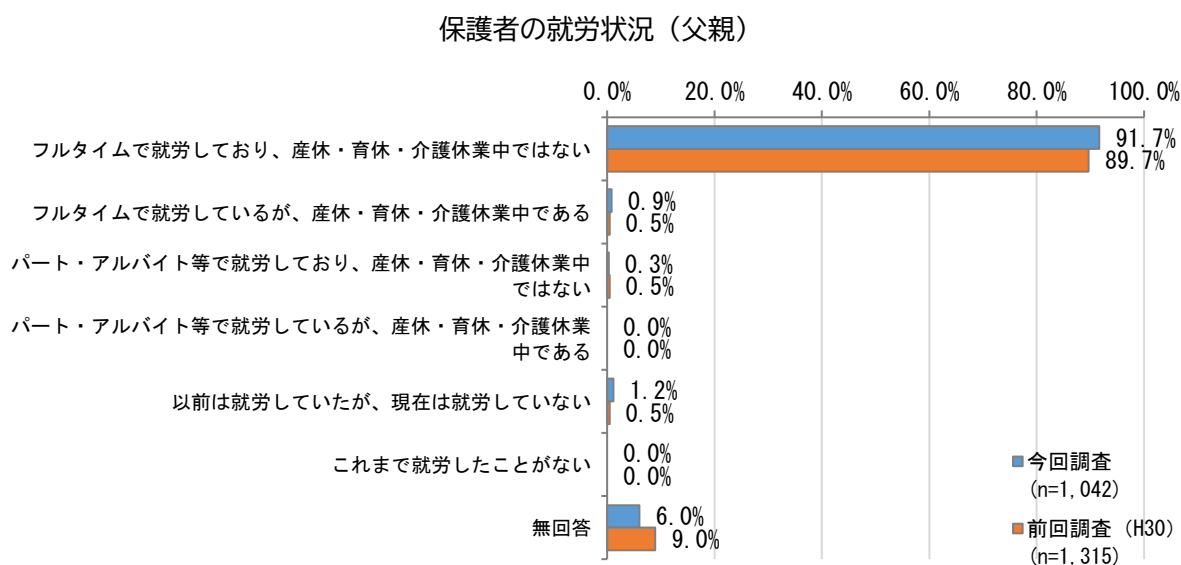
(1) 母親

母親の就労状況については、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」31.5%が最も高く、次いで「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」30.0%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」18.8%となっている。



(2) 父親

父親の就労状況については、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」91.7%が最も高く、次いで「以前は就労していたが、現在は就労していない」1.2%、「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である」0.9%となっている。



問13 【問12で「1.～4.」(就労している)に○をつけた方(母親・父親それぞれ)におたずねします。】
1週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間(残業時間を含む)」をお答えください。
また、家を出る時刻と帰宅時刻をお答えください。

【母親】

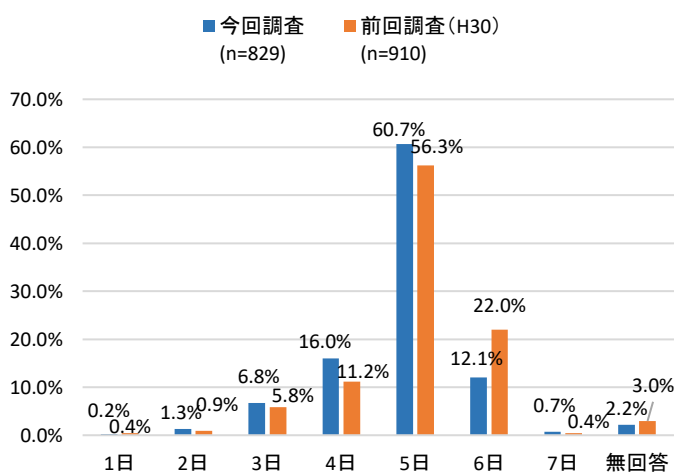
就労している母親の週当たりの就労日数については、「5日」60.7%が最も高く、次いで「4日」16.0%、「6日」12.1%となっている。

1日当たりの就労時間については、「8時間以上」63.4%が最も高く、次いで「7時間」13.9%、「6時間」11.2%となっている。

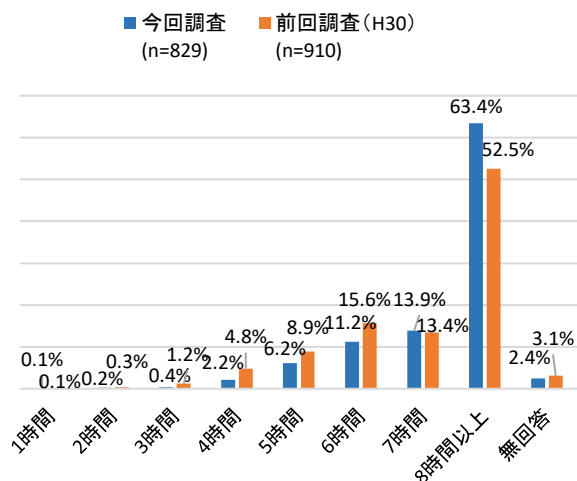
家を出る時間については、「9時台」45.0%が最も高く、次いで「8時台」30.8%、「10時以降」17.9%となっている。

帰宅時間については、「19時台」36.1%が最も高く、次いで「18時以前」26.5%、「18時台」36.2%となっている。

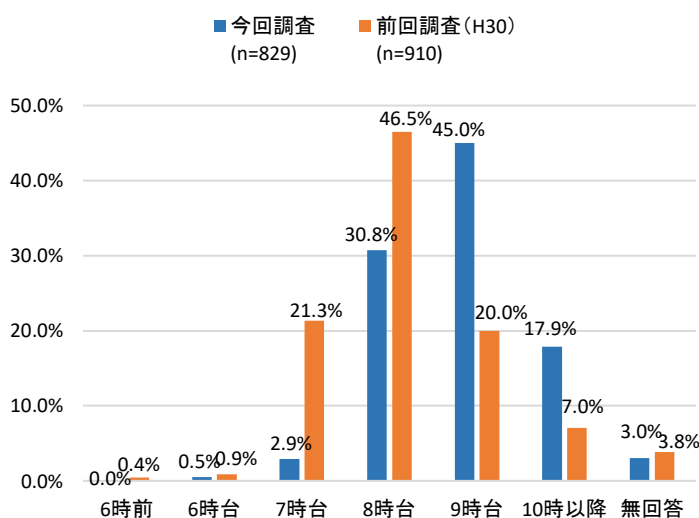
1週当たり日数



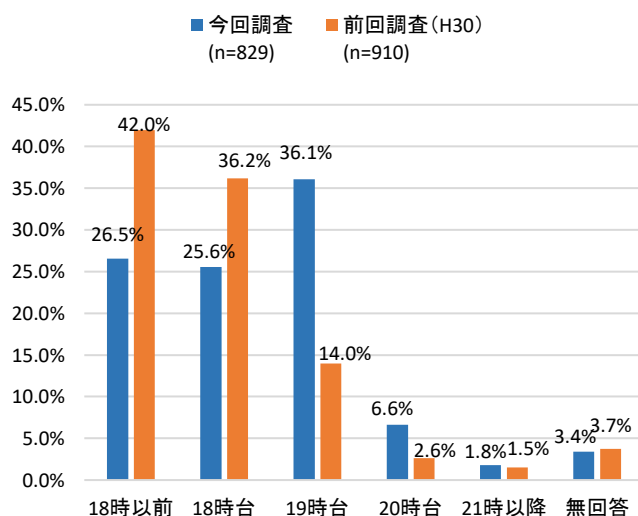
1日当たり時間



家を出る時刻



帰宅時刻



【父親】

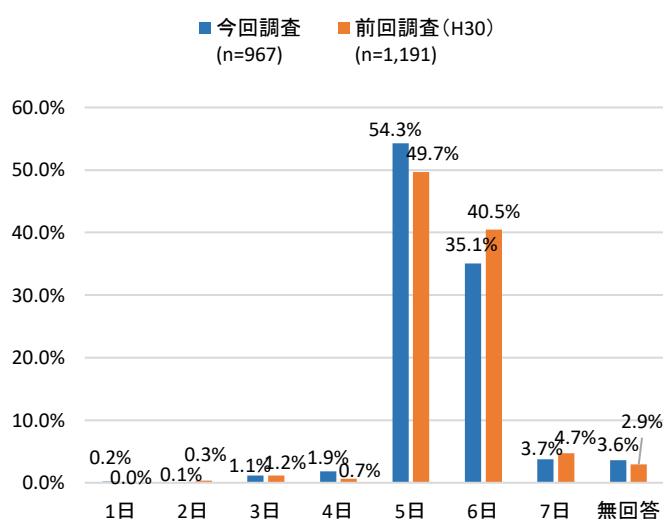
就労している父親の週当たりの就労日数については、「5日」54.3%が最も高く、次いで「6日」35.1%、「7日」3.7%となっている。

1日当たりの就労時間については、「8時間以上」94.9%が最も高く、次いで「7時間」1.6%、「6時間」0.8%となっている。

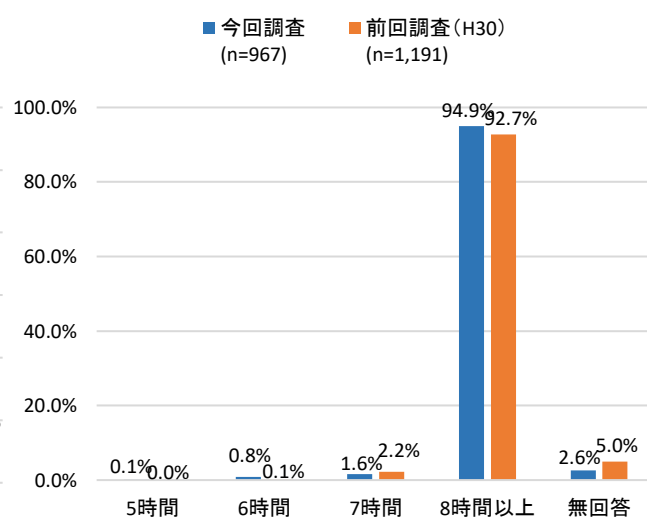
家を出る時間については、「8時台」45.5%が最も高く、次いで「9時台」22.6%、「7時台」16.5%となっている。

帰宅時間については、「19時台」35.7%が最も高く、次いで「20時台」21.0%、「21時以降」19.1%となっている。

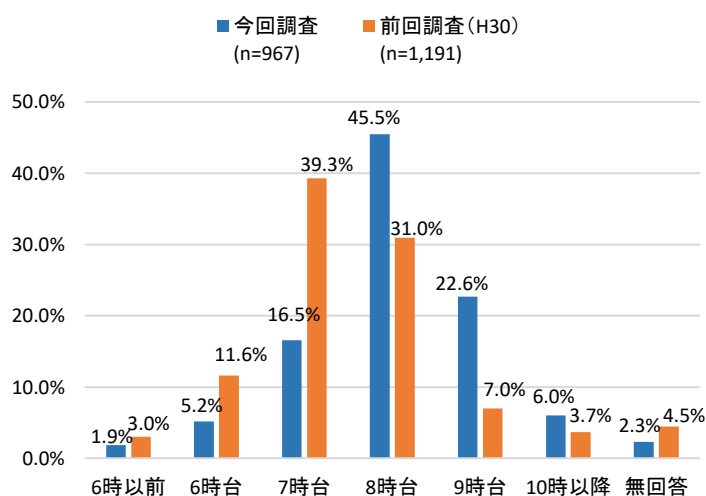
1週当たり日数



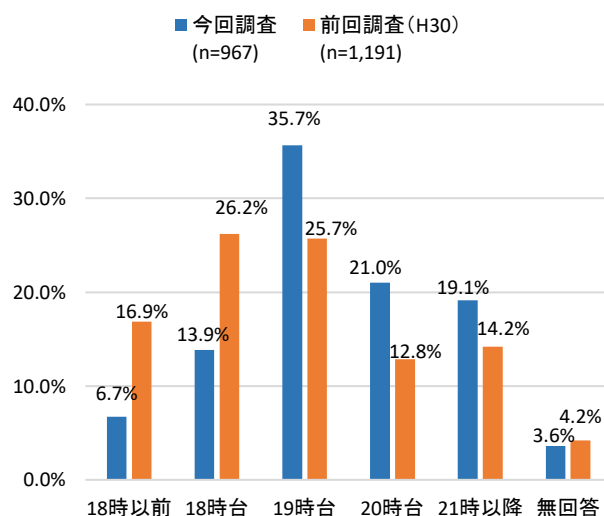
1日当たり時間



家を出る時刻



帰宅時刻

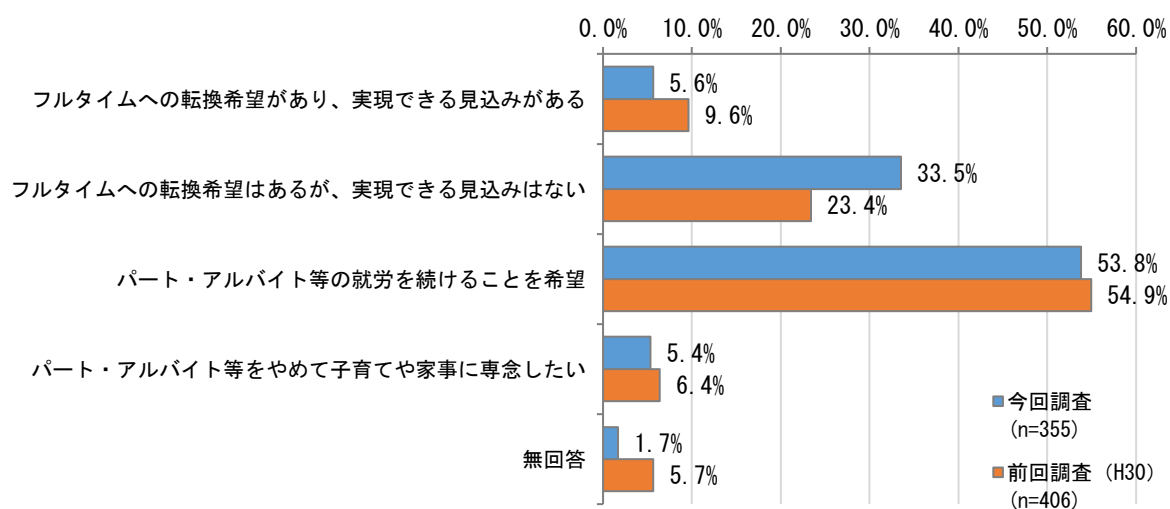


問13-1 【問 12 で「3.4.」(パート・アルバイト等で就労している)に○をつけた方(母親・父親それぞれ)におたずねします。】フルタイムへの転換希望はありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

【母親】

フルタイムへの転換希望については、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」53.8%が最も高く、次いで「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」33.5%、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」5.6%となっている。

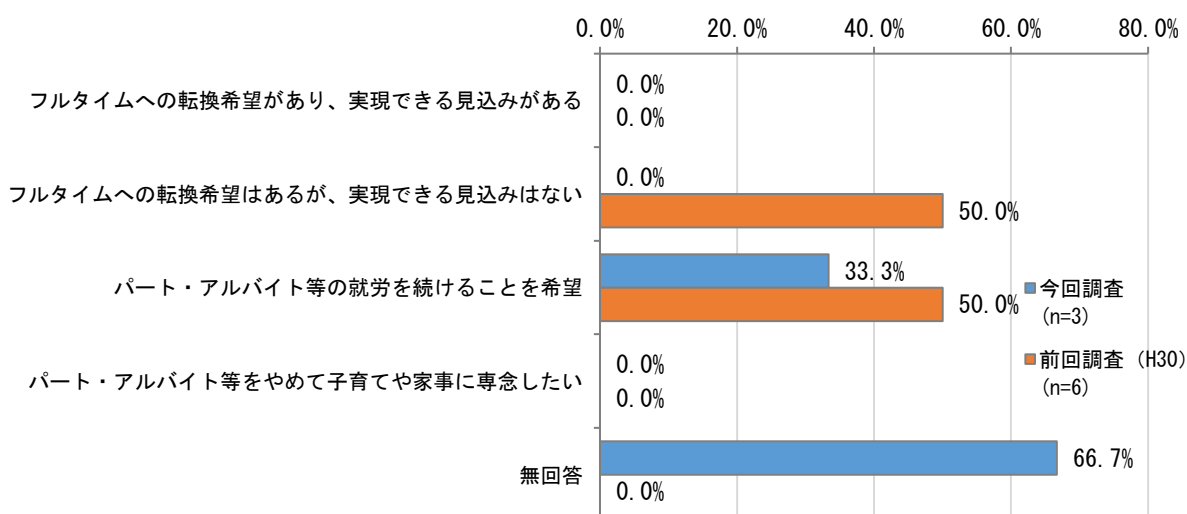
フルタイムへの転換希望（母親）



【父親】

フルタイムへの転換希望については、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」33.3%となっている。

フルタイムへの転換希望（父親）



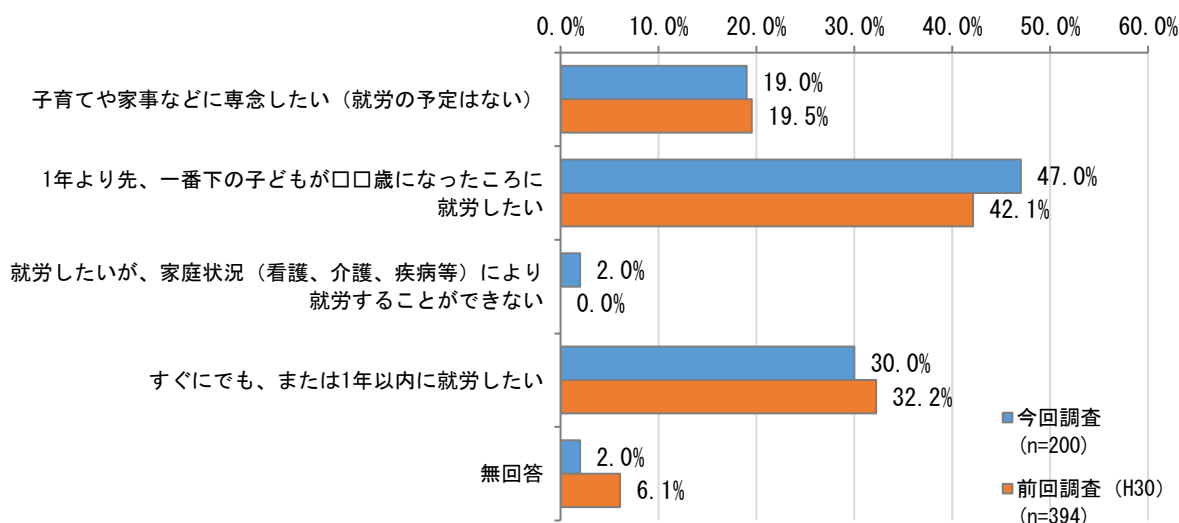
問14 【問 12 で「5.以前は就労していたが、現在は就労していない」または「6.これまで就労したことがない」に○をつけた方（母親・父親それぞれ）におたずねします。】
就労したいという希望はありますか。

【母親】

(1)就労希望

就労していない母親の就労希望については、「1 年より先、一番下の子どもが□□歳になったところに就労したい」47.0%が最も高く、次いで「すぐにでも、または 1 年以内に就労したい」30.0%、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」19.0%となっている。

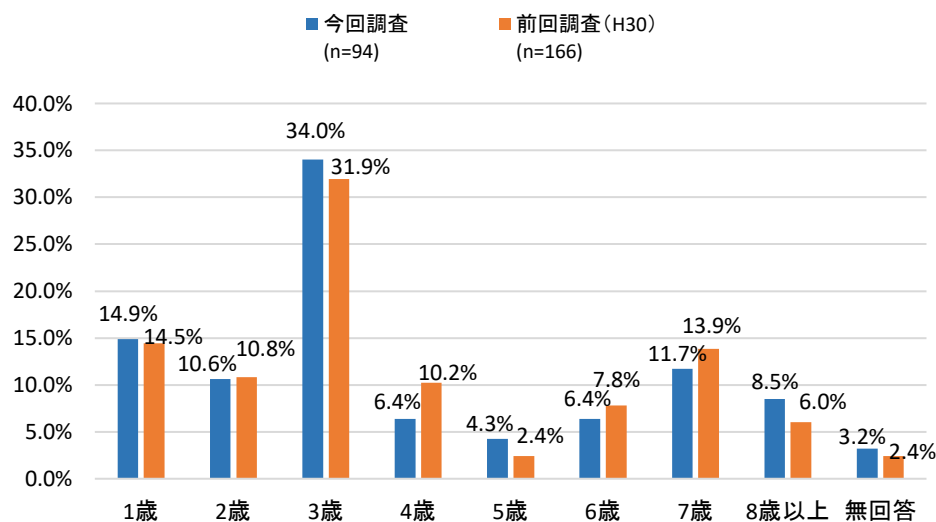
就労の希望（現在、就労していない方が対象）



(2)「一番下の子どもが□□歳になったところに就労したい」と回答された方の就労する際の末子年齢

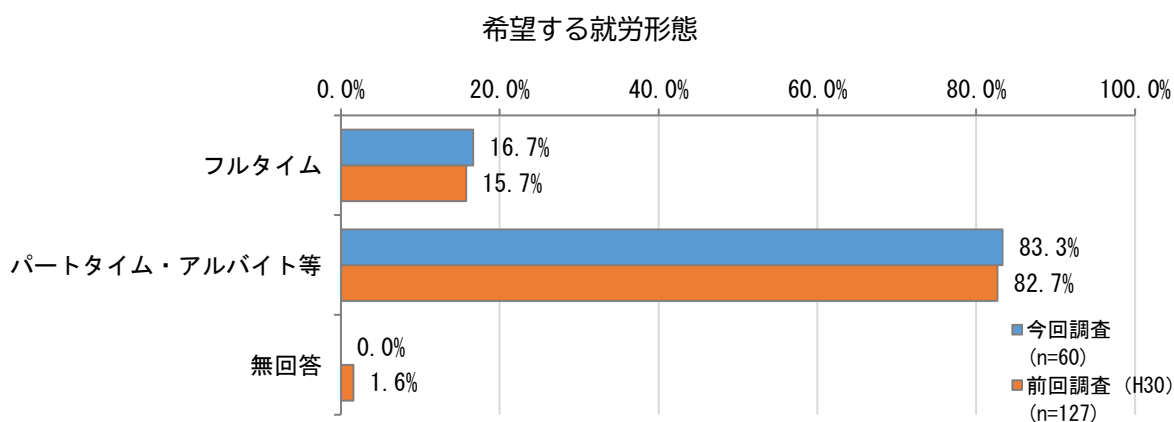
「一番下の子どもが□□歳になったところに就労したい」と回答した母親が就労する際の末子年齢については、「3 歳」34.0%が最も高く、次いで「1 歳」14.9%、「7 歳」11.7%となっている。

子どもが何歳になったら就労したいか



(3)「すぐにでも、または1年以内に就労したい」と回答した方の就労形態

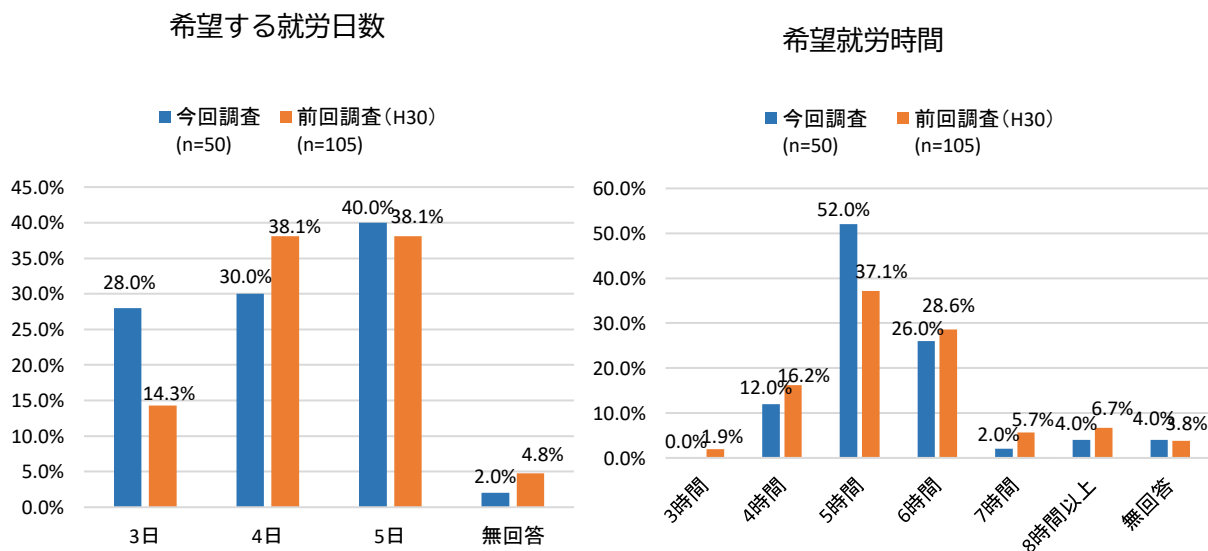
「すぐにでも、または1年以内に就労したい」と回答した母親の就労形態については、「フルタイム」16.7%、「パートタイム・アルバイト等」83.3%となっている。



(4)「パートタイム、アルバイト等」での就労を希望する方の就労時間

「パートタイム・アルバイト等」での就労を希望する母親の、週当たりの希望する就労日数については、「5日」40.0%、次いで「4日」30.0%、「3日」28.0%となっている。

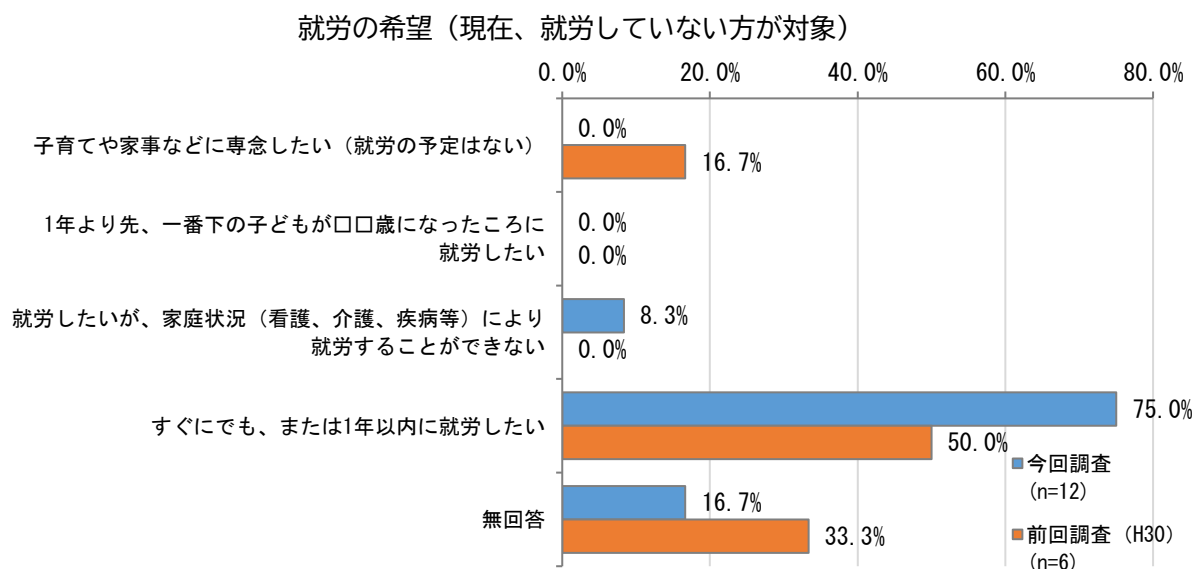
1日当たりの希望する就労時間については、「5時間」52.0%が最も高く、次いで「6時間」26.0%、「4時間」12.0%となっている。



【父親】

(1)就労希望

就労していない父親の就労希望については、「すぐにでも、または1年以内に就労したい」75.0%が最も高く、次いで「就労したいが、家庭状況（看護、介護、疾病等）により就労することができない」8.3%となっている。

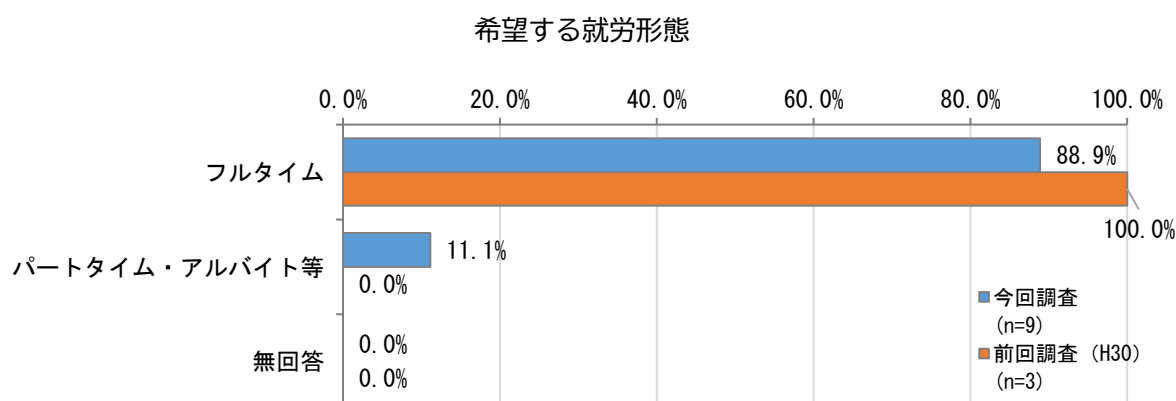


(2)「一番下の子どもが□□歳になったところに就労したい」と回答された方の就労する際の末子年齢

※該当者なし

(3)「すぐにでも、または1年以内に就労したい」と回答した方の就労形態

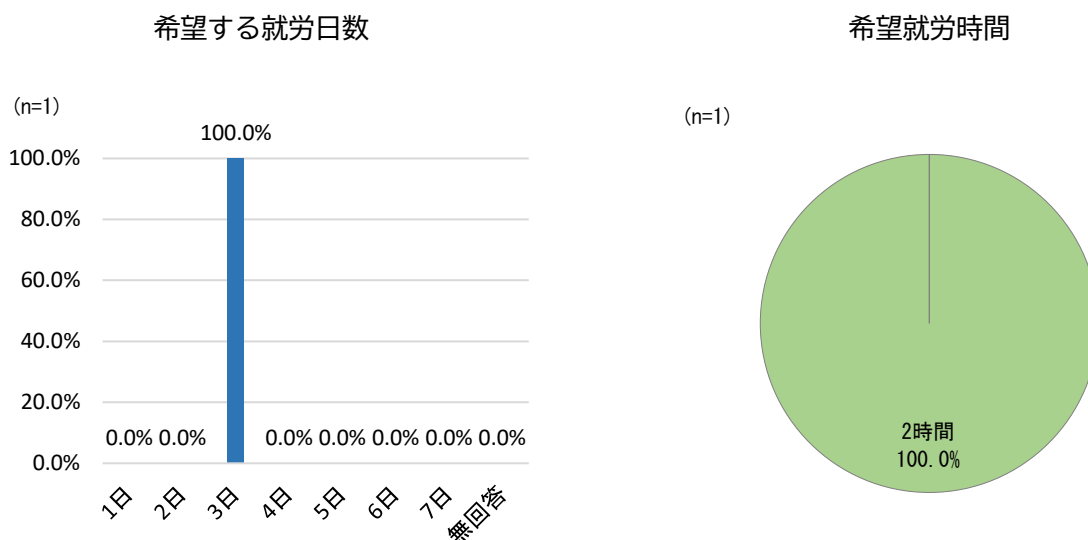
「すぐにでも、または1年以内に就労したい」と回答した父親の就労形態については、「フルタイム」88.9%、「パートタイム・アルバイト等」11.1%となっている。



(4)「パートタイム、アルバイト等」での就労を希望する方の就労時間

サンプル数が少ないことに留意する必要があるが、「パートタイム・アルバイト等」での就労を希望する父親の、週当たりの希望する就労日数については、「3日」が全数となっている。

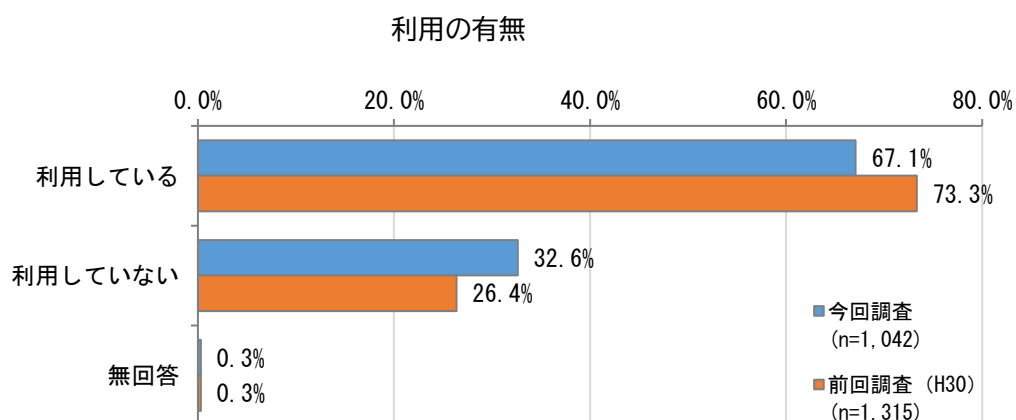
1日当たりの希望する就労時間については、「2時間」が全数となっている。



5. 末子のお子さんの平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

問15 末子のお子さんは現在、幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育事業」を利用されていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

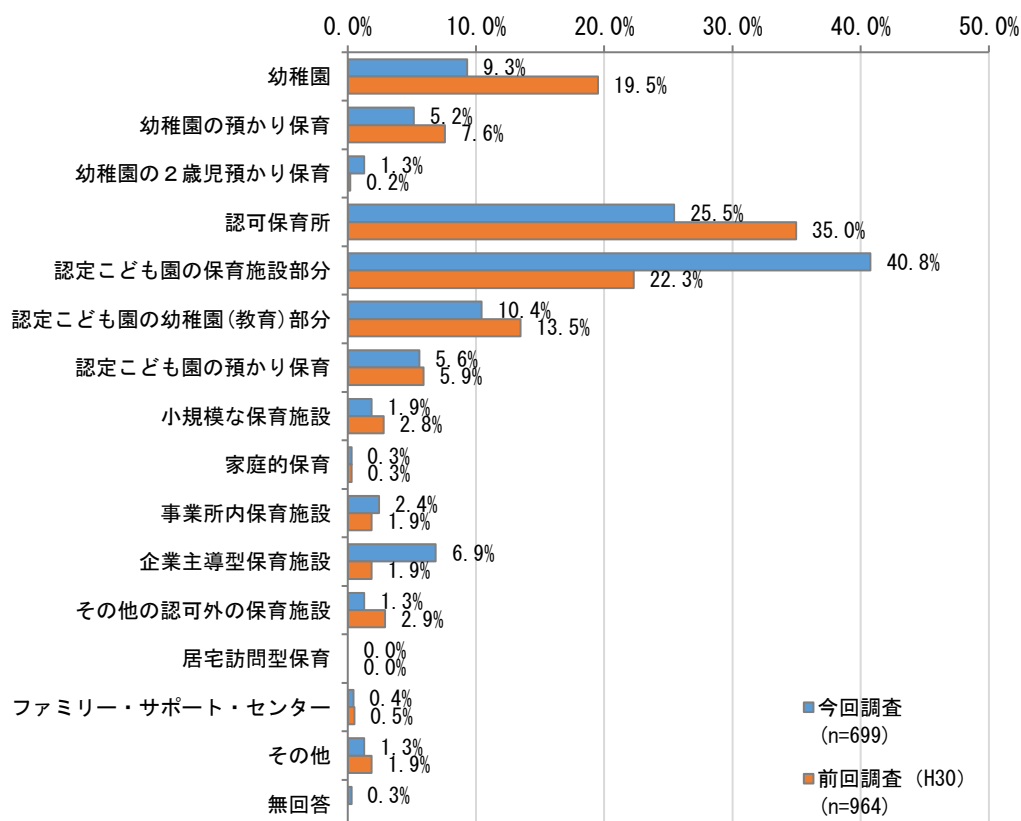
「定期的な教育・保育の事業」の利用については、「利用している」67.1%、「利用していない」32.6%となっている。



問15-1 【問15で「1.利用している」に○をつけた方におたずねします。】
末子のお子さんは、平日どのような教育・保育事業を利用していますか。年間を通じて「定期的に」利用している事業をお答えください。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

平日どのような教育・保育の事業を利用しているかについては、「認定こども園の保育施設部分」40.8%が最も高く、次いで「認可保育所」25.5%、「認定こども園の幼稚園(教育)部分」10.4%となっている。

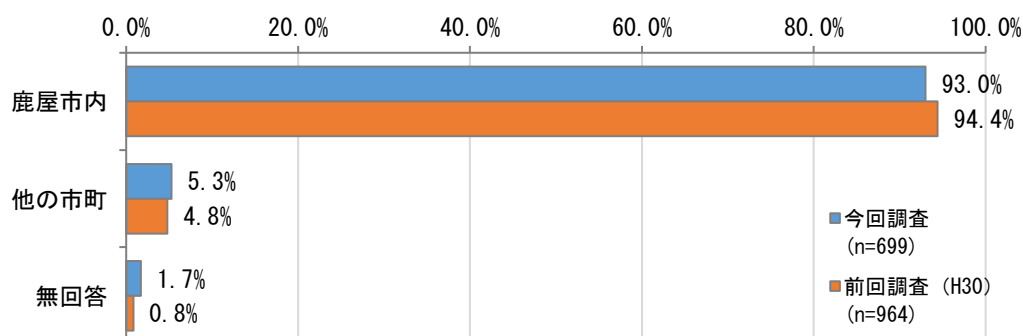
教育・保育事業の利用状況



問15-2 【問15で「1.利用している」に○をつけた方におたずねします。】
現在、利用している教育・保育事業の実施場所についておたずねします。「1.」「2.」のいずれかに○をつけてください。

現在、利用している教育・保育事業の実施場所については、「鹿屋市内」93.0%、「他の市町」5.3%となっている。

教育・保育事業の実施場所



問15-3 【問15で「1.利用している」に○をつけた方におたずねします。】
 平日に定期的に利用している教育・保育事業について、現在どのくらい利用していますか。また、希望としてはどのくらい利用したいですか。1週当たり何日、1日当たり何時間（何時から何時まで）かを具体的にお答えください。

【現在】

現在、平日に定期的に利用している教育・保育の事業について、利用日数は週当たり「6日」59.9%が最も高く、次いで「5日」33.6%、「4日」2.7%となっている。

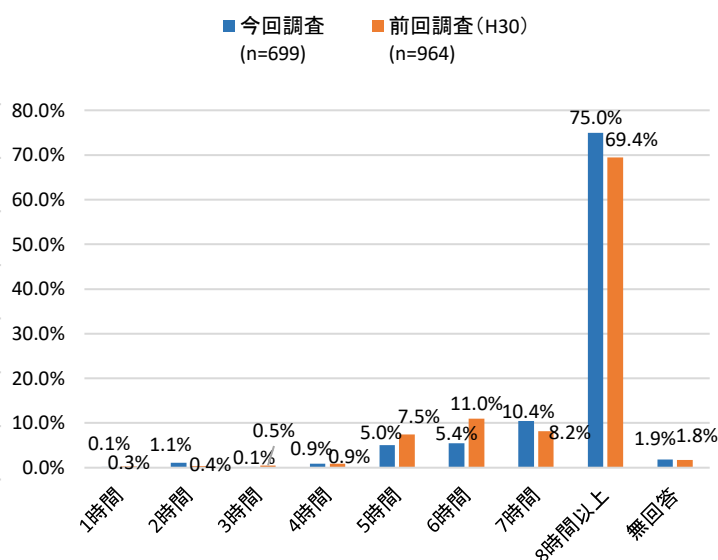
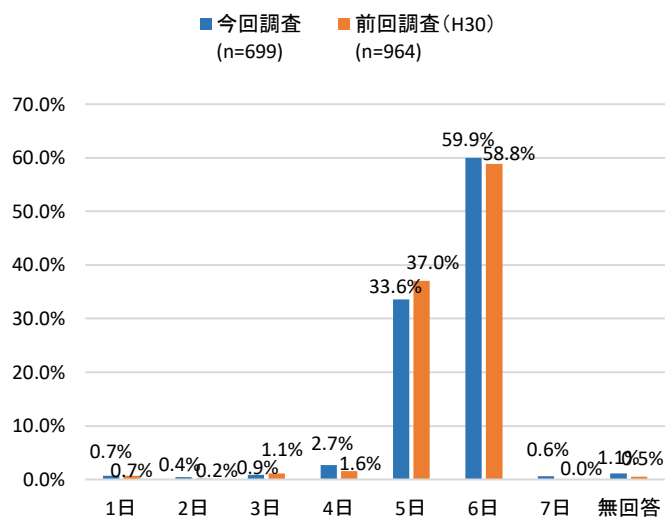
利用時間は1日当たり「8時間以上」75.0%が最も高く、次いで「7時間」10.4%、「6時間」5.4%となっている。

利用開始時刻は「9時」51.9%が最も高く、次いで「10時」28.6%、「8時」16.5%となっている。

利用終了時刻は、「18時」38.2%が最も高く、次いで「19時」31.6%、「17時」13.9%となっている。

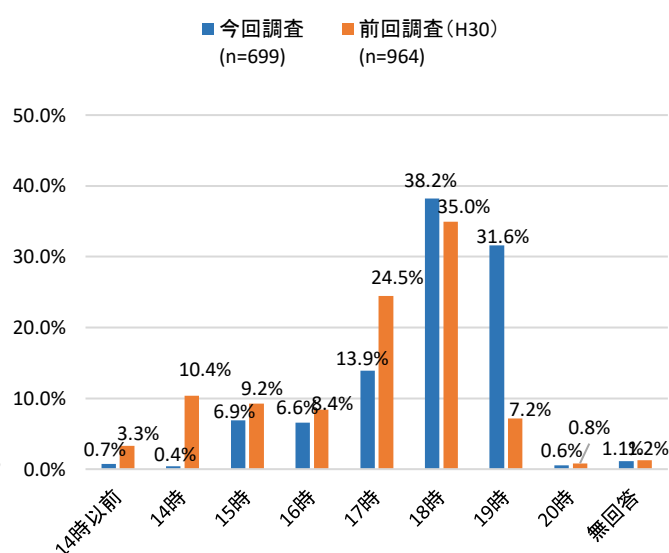
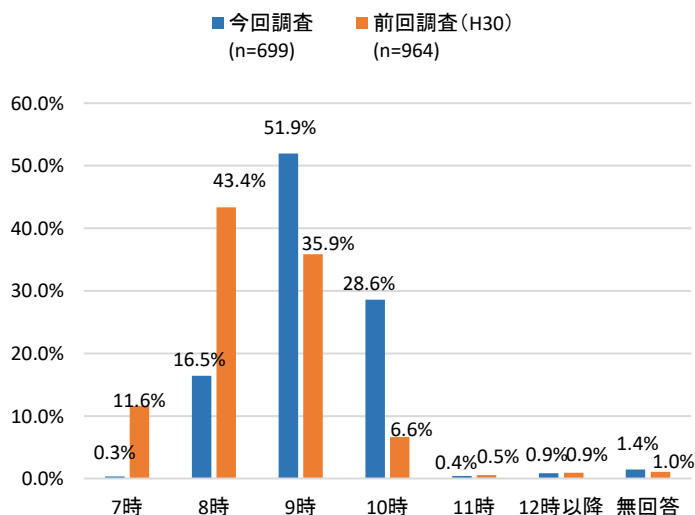
利用日数/週

利用時間/日



利用開始時刻

利用終了時刻



【希望】

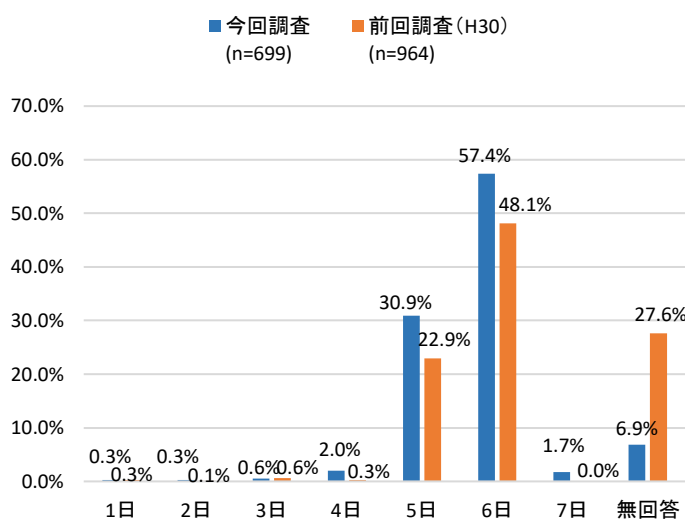
平日に定期的に利用したいと希望する教育・保育の事業について、利用日数は週当たり「6日」57.4%が最も高く、次いで「5日」30.9%、「4日」2.0%となっている。

利用時間は1日当たり「8時間以上」74.7%が最も高く、次いで「7時間」8.6%、「6時間」4.7%となっている。

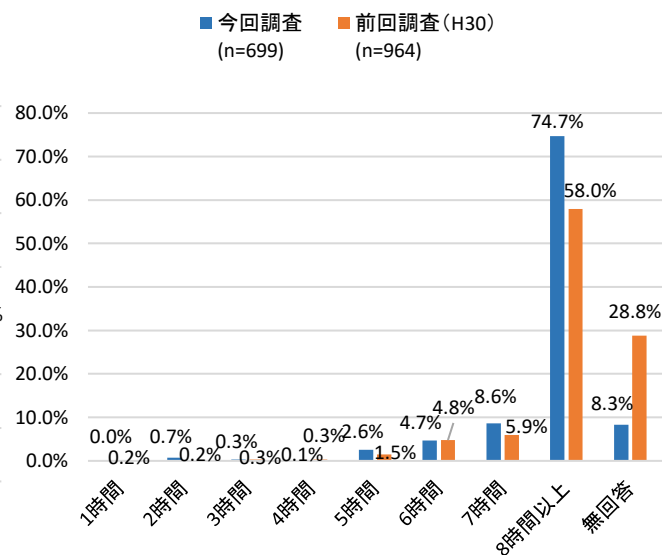
利用開始時刻は「9時」41.5%が最も高く、次いで「8時」26.5%、「10時」21.5%となっている。

利用終了時刻は、「19時」30.8%が最も高く、次いで「18時」28.6%、「20時以降」12.6%となっている。

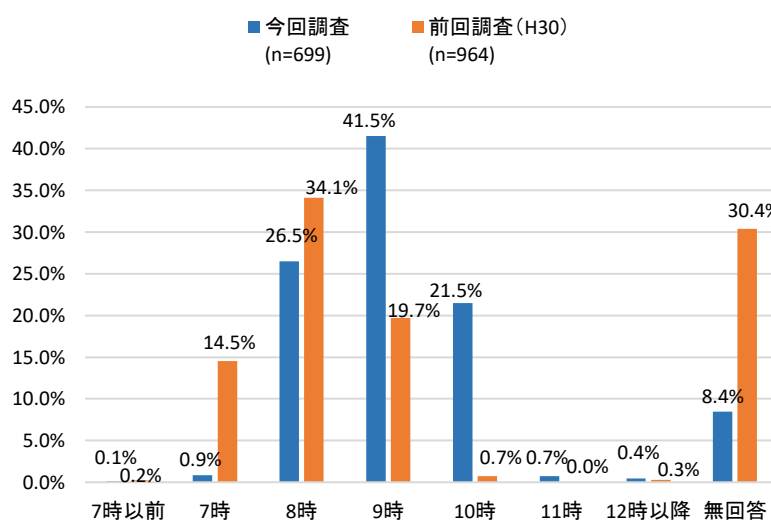
利用日数/週



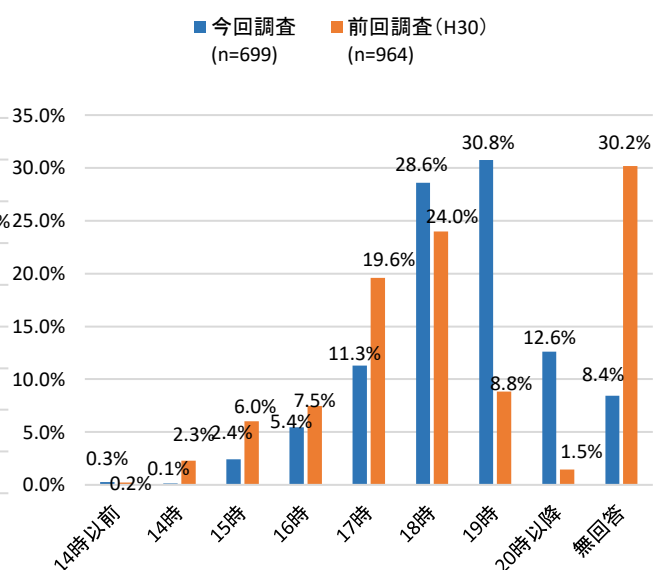
利用時間/日



利用開始時刻

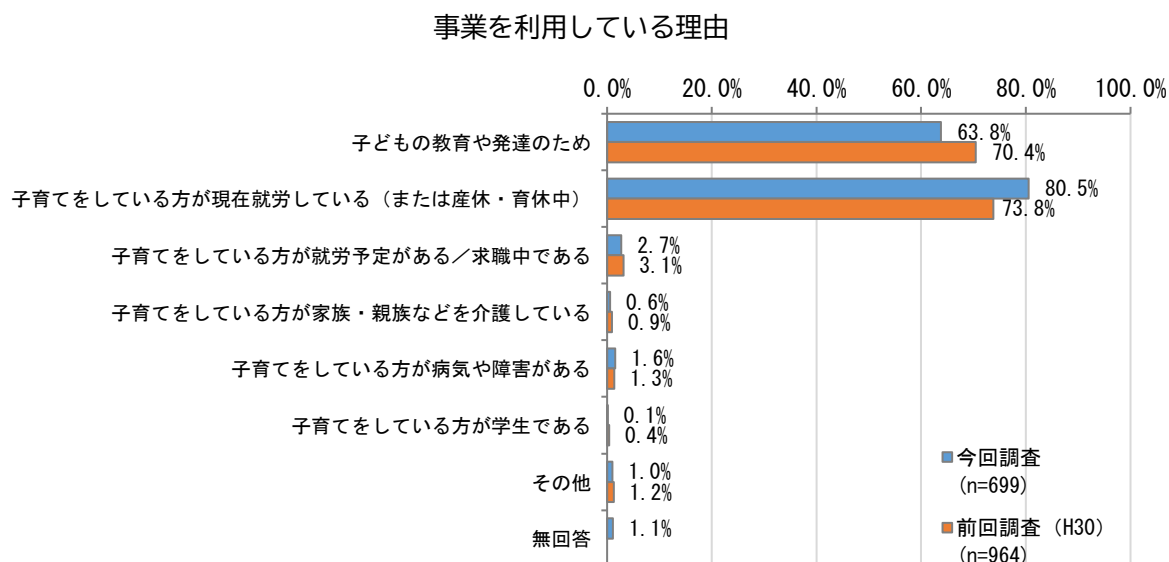


利用終了時刻



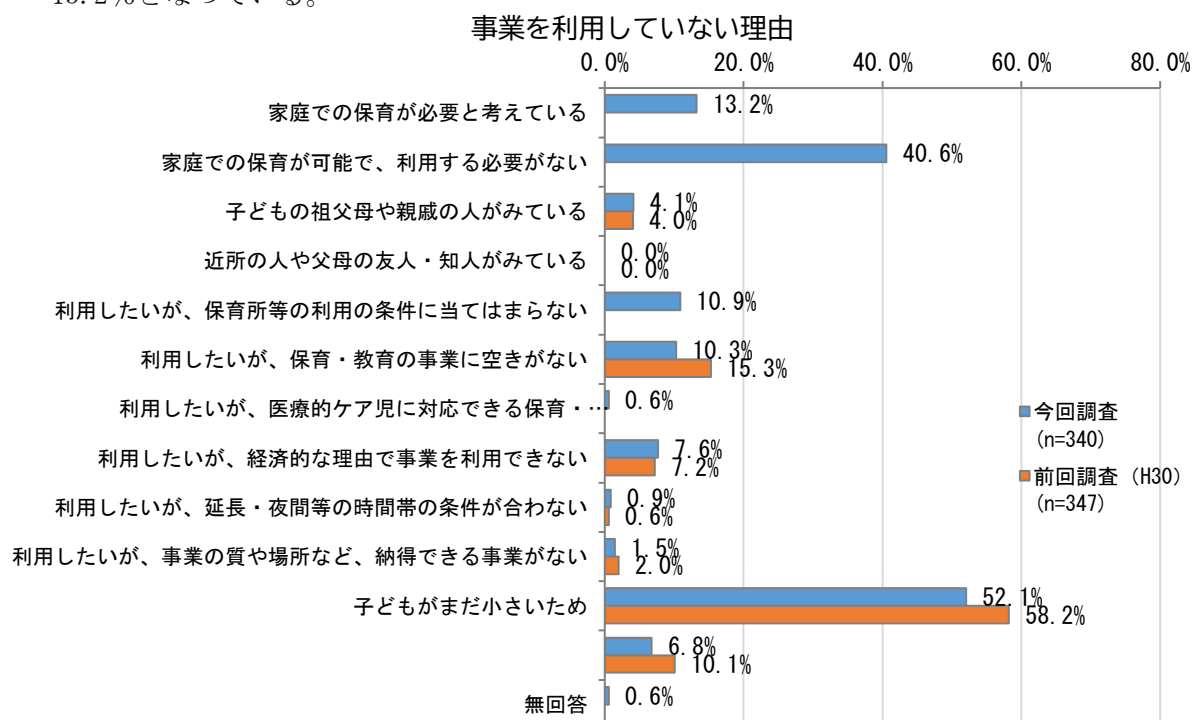
問15-4 【問15で「1.利用している」に○をつけた方におたずねします。】
 平日に定期的に教育・保育事業を利用されている主な理由は何ですか。主な理由として当てはまる番号すべてに○をつけてください。

利用している主な理由については、「子育てをしている方が現在就労している（または産休・育休中）」80.5%が最も高く、次いで「子どもの教育や発達のため」63.8%、「子育てをしている方が就労予定がある／求職中である」2.7%となっている。



問15-5 【問15で「2.利用していない」に○をつけた方におたずねします。】
 利用していない理由は何ですか。理由としてもっとも当てはまる番号すべてに○をつけてください。

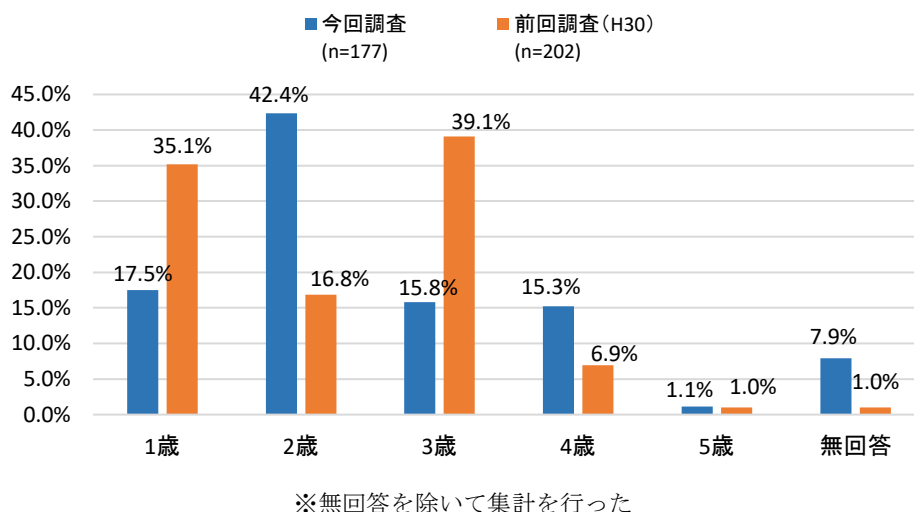
利用していない理由については、「子どもがまだ小さいため」52.1%が最も高く、次いで「家庭での保育が可能で、利用する必要がない」40.6%、「家庭での保育が必要と考えている」13.2%となっている。



(1) 平日に定期的に教育・保育の事業を利用したい子どもの年齢

「子どもがまだ小さいため」と回答した方に、子どもが何歳になったら利用するかをたずねたところ、「2歳」42.4%が最も高く、次いで「1歳」17.5%、「3歳」15.8%となっている。

子どもが何歳になったら利用するか



問15-6 【問15で「2. 利用していない」に○をつけた方におたずねします。】
教育・保育事業を月に10時間程度利用することが可能な場合、利用したいと思いますか。「利用したい」の場合は、日数、時間数及び時間帯をご記入ください。

月に10時間程度の利用が可能な場合の利用希望については、「利用したい」65.9%、「利用したいと思わない」28.2%となっている。

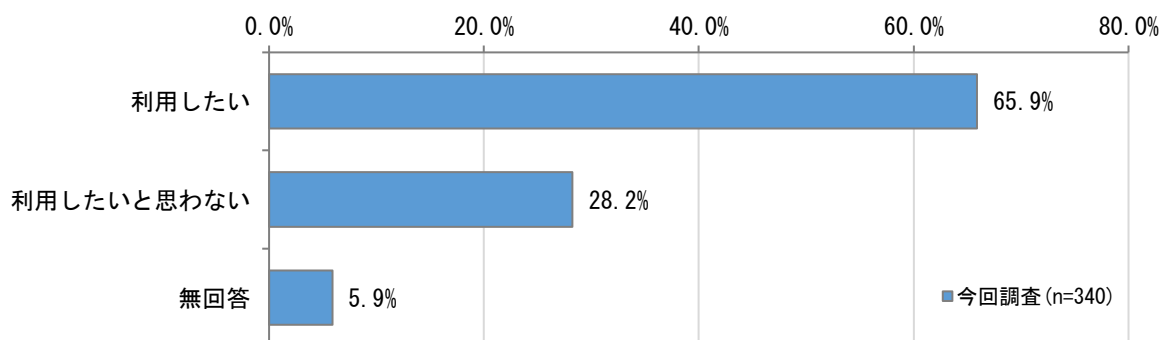
利用したい場合の利用日数は週当たり「1日」29.5%が最も高く、次いで「5日」19.2%、「2日」17.4%となっている。

利用時間は1日当たり「8時間以上」29.9%が最も高く、次いで「3時間」20.5%、「4時間」12.9%となっている。

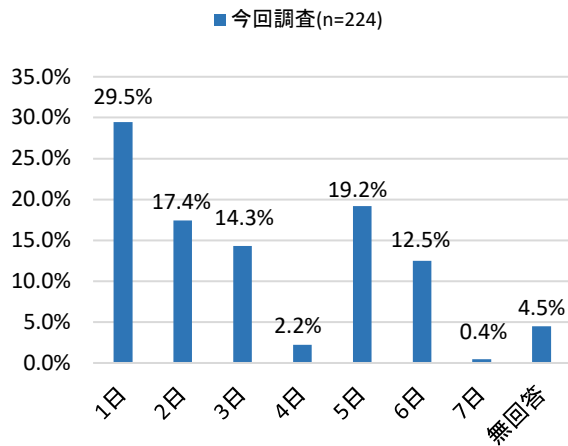
利用開始時刻は「10時」33.5%が最も高く、次いで「9時」25.4%、「8時」13.4%となっている。

利用終了時刻は「14時以前」25.9%が最も高く、次いで「16時」12.9%、「17時」12.1%となっている。

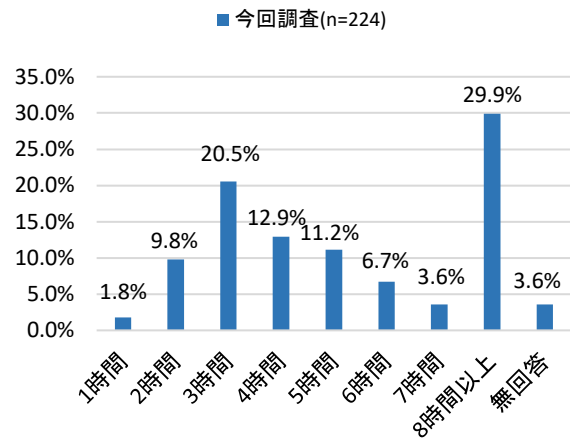
利用希望の有無



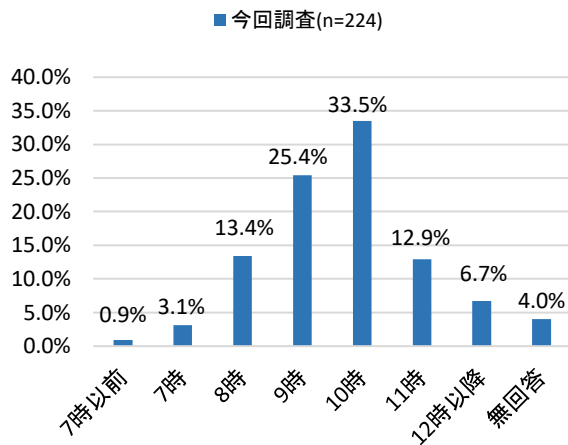
利用日数/週



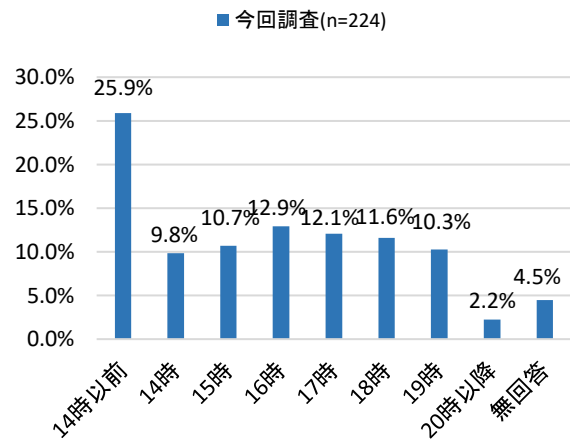
利用時間/日



利用開始時刻

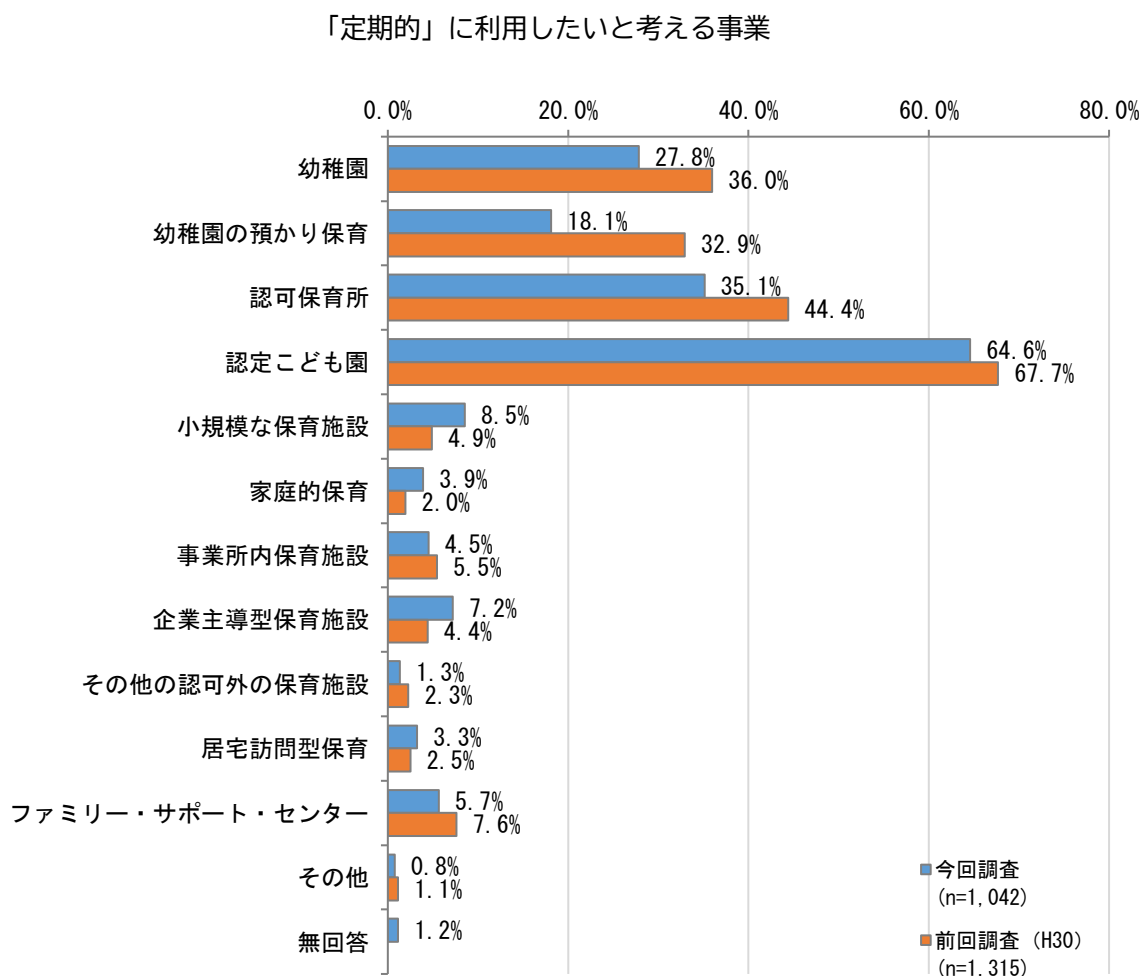


利用終了時刻



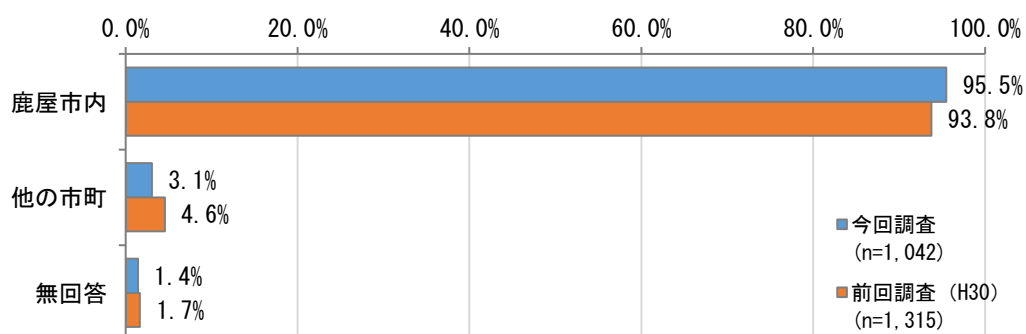
問 16 現在、利用している、利用していないにかかわらず、末子のお子さんの平日の教育・保育事業として、「定期的に」利用したいと考える事業をお答えください。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

「定期的に」利用したいと考える事業については、「認定こども園」64.6%が最も高く、次いで「認可保育所」35.1%、「幼稚園」27.8%となっている。



問16-1 教育・保育事業を利用したい場所についておたずねします。いずれか1つに○をつけてください。

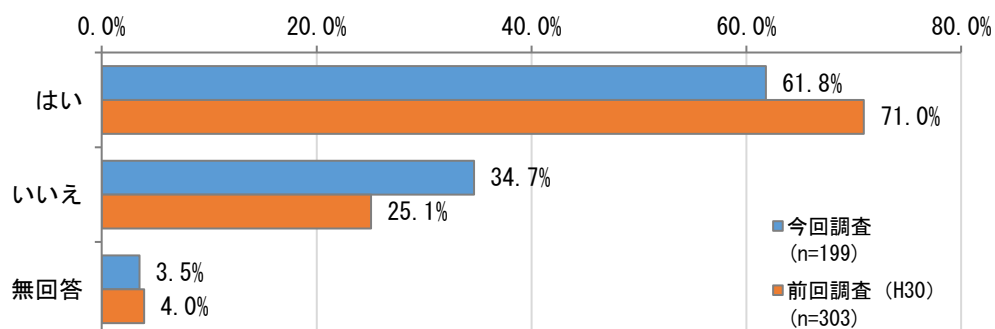
教育・保育事業を利用したい場所については、「鹿屋市内」95.5%、「他の市町」3.1%となっている。



問 16-2 【問16で「1.幼稚園(通常の就園時間の利用)」または「2. 幼稚園の預かり保育」に○をつけ、かつ「3. ～ 12. 」にも ○ を つ け た 方 に お た ず ね し ま す 。】
特に幼稚園(幼稚園の預かり保育をあわせて利用する場合を含む)の利用を強く希望しますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

特に幼稚園（幼稚園の預かり保育をあわせて利用する場合を含む）の利用を強く希望するかについては、「はい」61.8%、「いいえ」34.7%となっている。

幼稚園の利用を強く希望するか



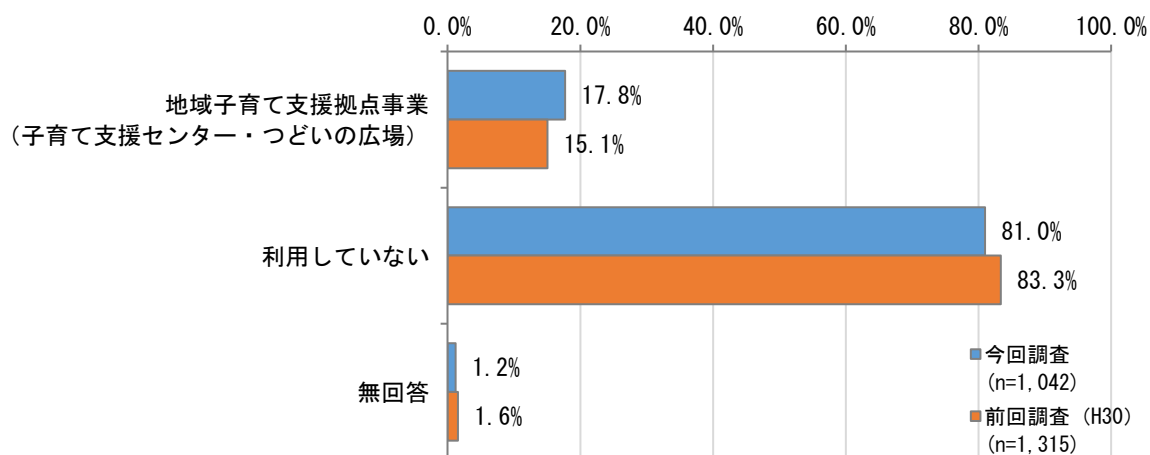
7. 末子のお子さんの地域の子育て支援事業の利用状況について

問17 末子のお子さんは、現在、地域子育て支援拠点事業(親子が集まって過ごしたり、相談をしたり、情報提供を受けたりする場で、「子育て支援センター」「つどいの広場」等と呼ばれています。なお、「あそ VIVA! かのや」は除きます。)を利用していますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。また、おおよその利用回数(頻度)をお答えください。

(1)利用状況

地域子育て支援拠点事業の利用については、「地域子育て支援拠点事業（子育て支援センター・つどいの広場）」17.8%、「利用していない」81.0%となっている。

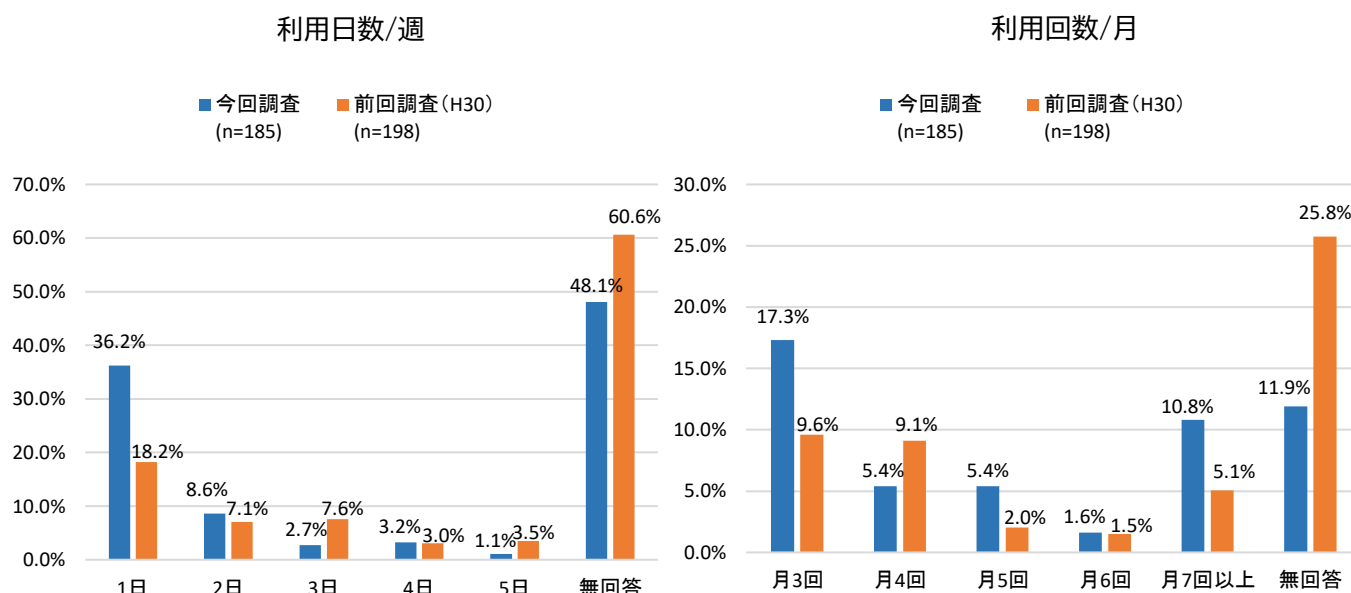
地域子育て支援拠点事業の利用状況



(2)地域子育て支援拠点事業の利用回数【週当たり、月当たり】

地域子育て支援拠点事業を利用されている方の週当たりの利用日数は、「1日」36.2%が最も高く、次いで「2日」8.6%、「4日」3.2%となっている。

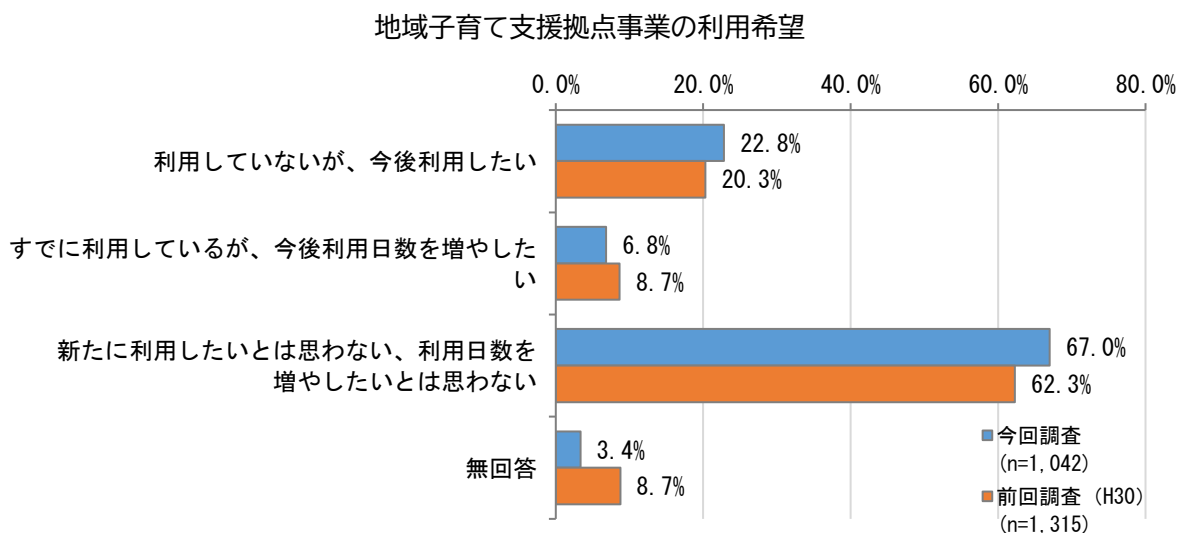
月当たりの利用回数は「月2回」32.4%が最も高く、次いで「月3回」17.3%、「月1回」15.1%となっている。



問18 問17のような地域子育て支援拠点事業について、今は利用していないが、できれば今後利用したい、あるいは、すでに利用している方は、今後利用日数を増やしたいと思いますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。おおよその利用回数(頻度)もお答えください。

(1)利用希望

地域子育て支援拠点事業の利用希望については、「新たに利用したいとは思わない、利用日数を増やしたいとは思わない」67.0%が最も高く、次いで「利用していないが、今後利用したい」22.8%、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」6.8%となっている。



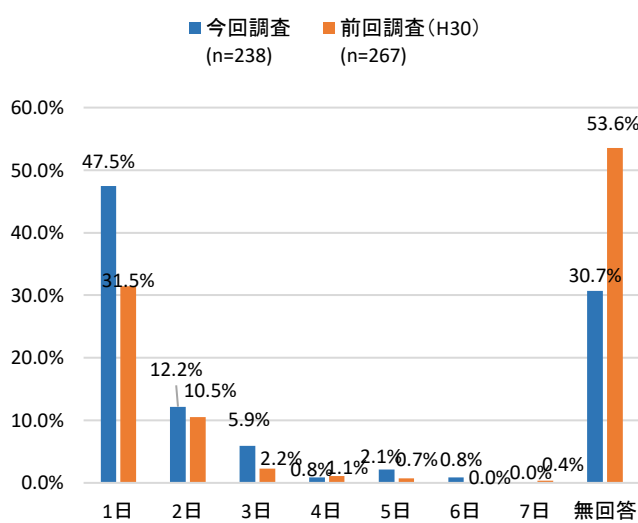
地域子育て支援拠点事業について、「利用していないが、今後利用したい」と回答した方が希望する週当たりの利用日数は、「1日」47.5%が最も高く、次いで「2日」12.2%、「3日」5.9%となっている。

月当たりの利用回数は「月1回」21.8%が最も高く、次いで「月4回」16.0%、「月2回」15.1%となっている。

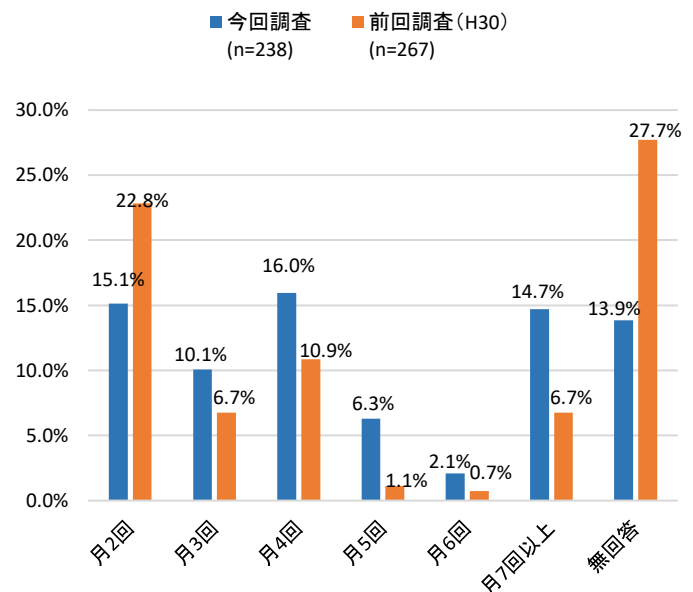
利用意向開始時刻は、「11時」35.7%が最も高く、次いで「10時」24.8%、「12時以降」14.3%となっている。

利用意向終了時刻は、「14時以前」42.0%が最も高く、次いで「16時」14.7%、「18時」10.9%となっている。

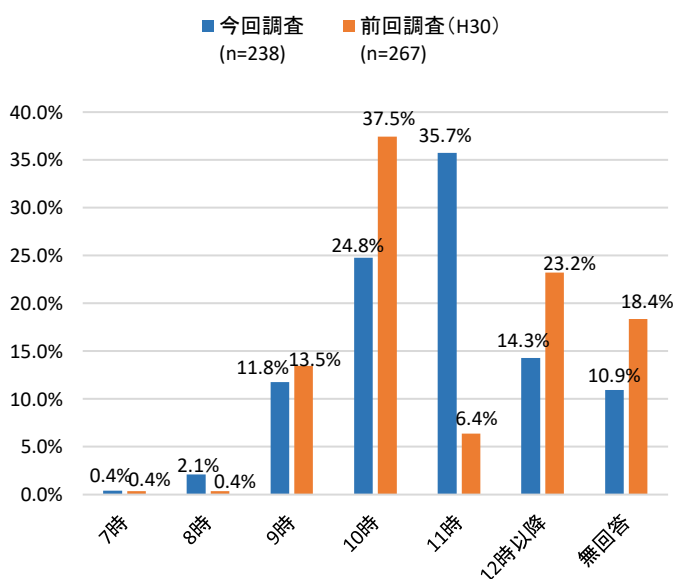
利用日数/週



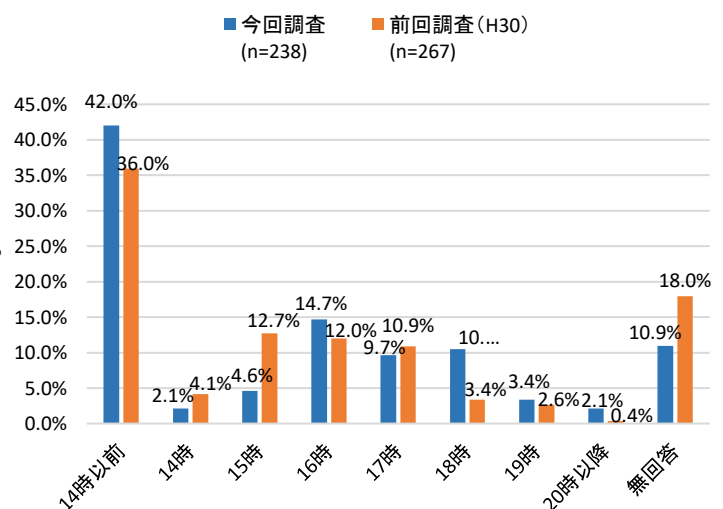
利用回数/月



利用意向開始時刻



利用意向終了時刻



(3)すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい【週当たり、月当たり】

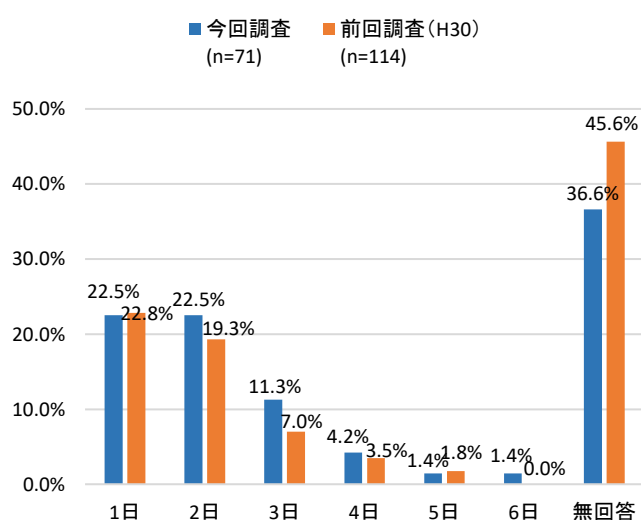
地域子育て支援拠点事業について、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」と回答した方が希望する週当たりの利用日数は、「1日」、「2日」がいずれも22.5%と最も高く、次いで「3日」11.3%、「4日」4.2%となっている。

月当たりの利用回数は「月7回以上」28.2%が最も高く、次いで「月2回」18.3%、「月1回」9.9%、「月4回」7.9%となっている。

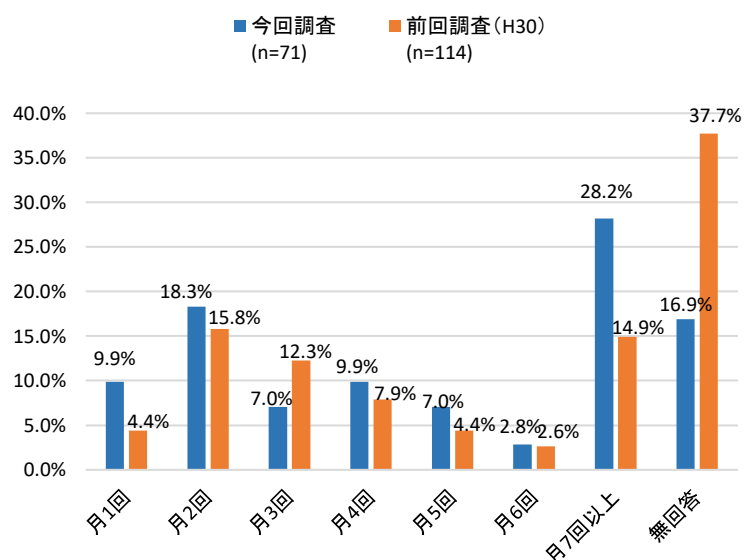
利用意向開始時刻は、「10時」35.2%が最も高く、次いで「11時」31.0%、「12時以降」14.1%となっている。

利用意向終了時刻は、「14時以前」47.9%が最も高く、次いで「17時」12.7%、「16時」8.5%となっている。

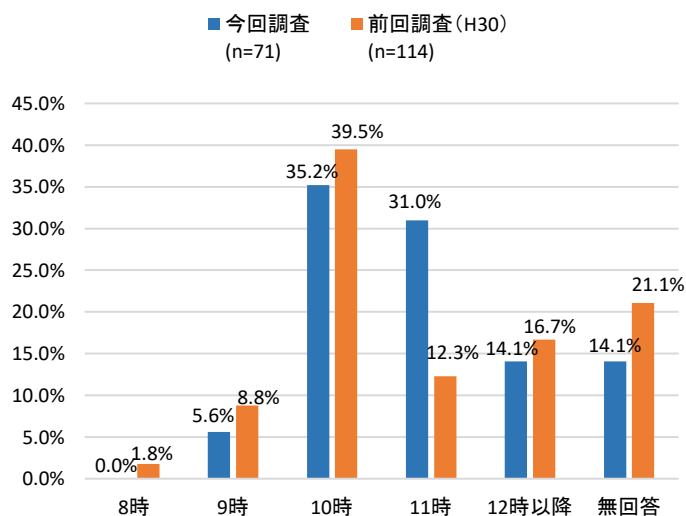
利用日数/週



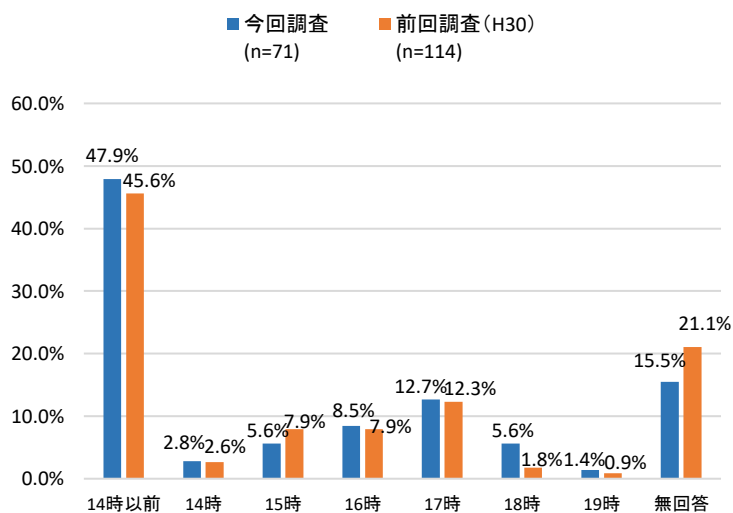
利用回数/月



利用意向開始時刻



利用意向終了時刻

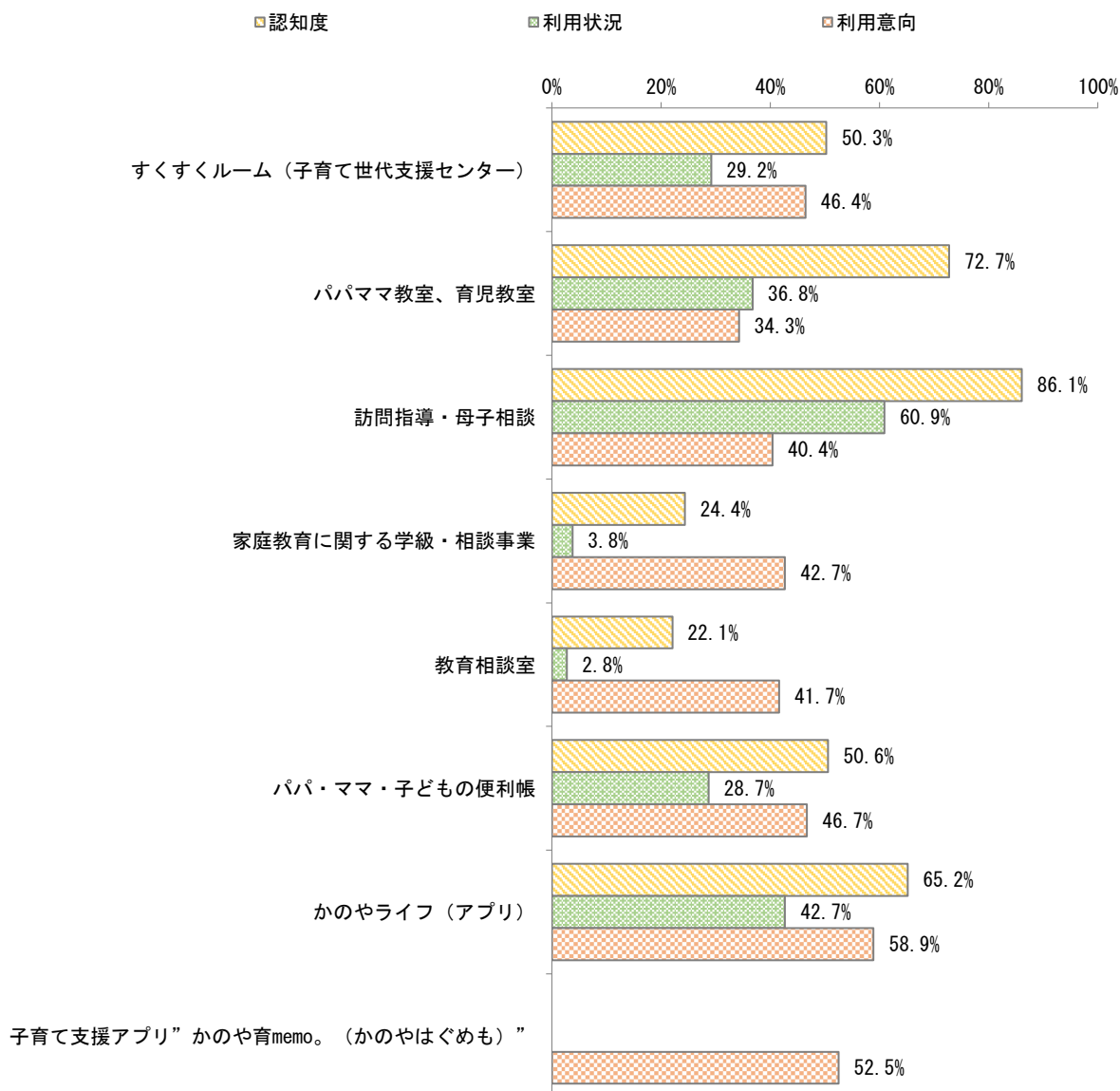


問19 下記の事業で知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後、利用したいと思うものをお答えください。

子育て支援事業の認知度については、「訪問指導・母子相談」86.1%が最も高く、次いで「パパママ教室、育児教室」72.7%、「かのやライフ（アプリ）」65.2%となっている。
 利用状況については、「訪問指導・母子相談」60.9%が最も高く、次いで「かのやライフ（アプリ）」42.7%、「パパママ教室、育児教室」36.8%となっている。
 利用意向については、「かのやライフ（アプリ）」58.9%が最も高く、次いで「子育て支援アプリ“かのや育 memo。（かのやはぐめも）”」52.5%、「パパ・ママ・子どもの便利帳」46.7%となっている。

子育て支援事業の認知度、利用状況、利用意向

(n=1,042)



6. 末子のお子さんの土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望について

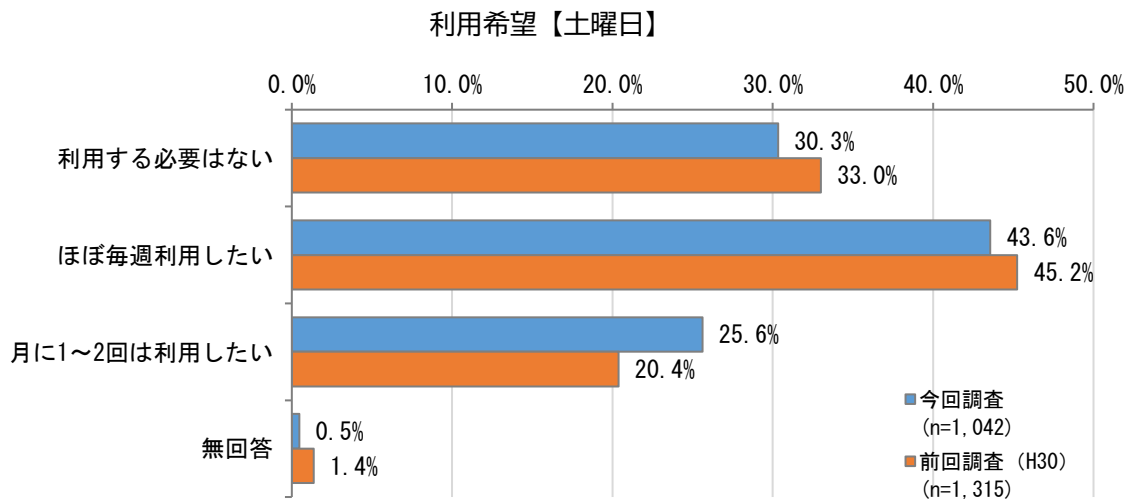
問20 末子のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、定期的な教育・保育事業の利用希望はありますか(一時的な利用は除きます)。当てはまる番号1つに○をつけ、希望がある場合は、利用したい時間帯をご記入ください。

(1)土曜日

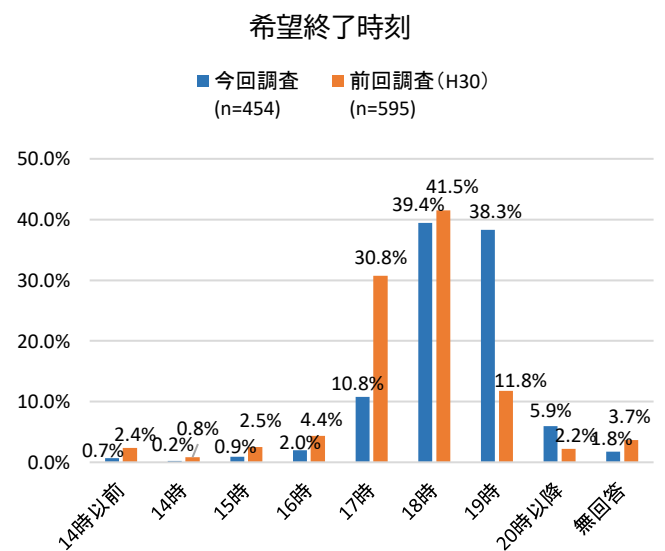
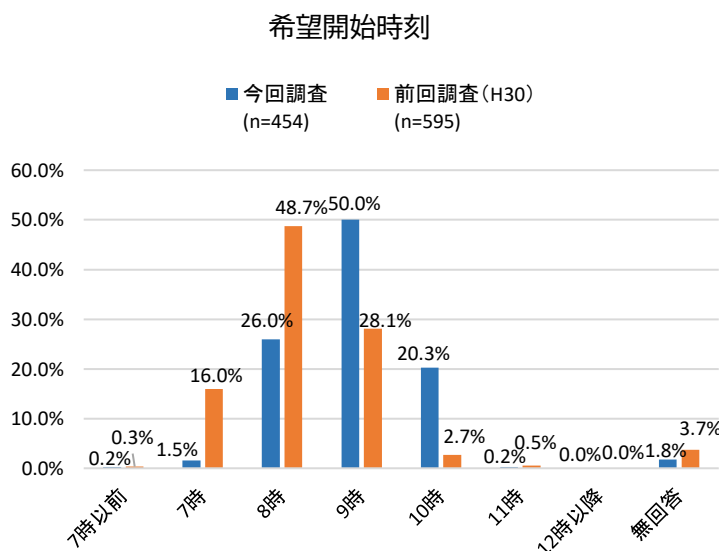
土曜日の定期的な教育・保育事業の利用希望について、「ほぼ毎週利用したい」43.6%が最も高く、次いで「利用する必要はない」30.3%、「月に1～2回は利用したい」25.6%となっている。『利用したい』(「ほぼ毎週利用したい」と「月に1～2回は利用したい」の合算)では69.2%となっている。

希望する教育・保育の開始時刻については、「ほぼ毎週利用したい」50.0%、「月に1～2回は利用したい」42.3%といずれも「9時」が最も高くなっている。

希望する教育・保育の終了時刻については、「ほぼ毎週利用したい」39.4%、「月に1～2回は利用したい」30.0%といずれも「18時」が最も高くなっている。

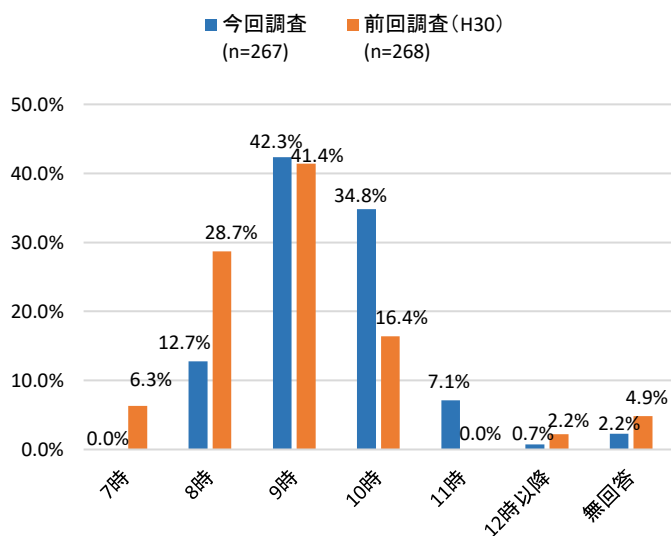


【ほぼ毎週利用したいと回答した方】

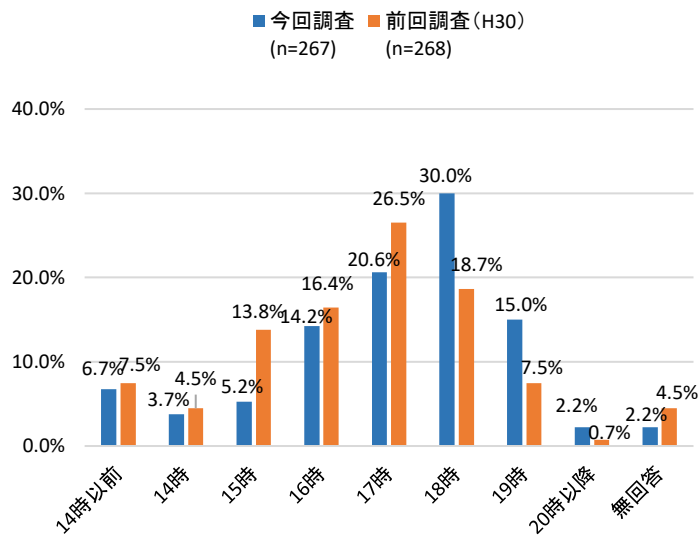


【月に1～2回は利用したいと回答した方】

希望開始時刻



希望終了時刻



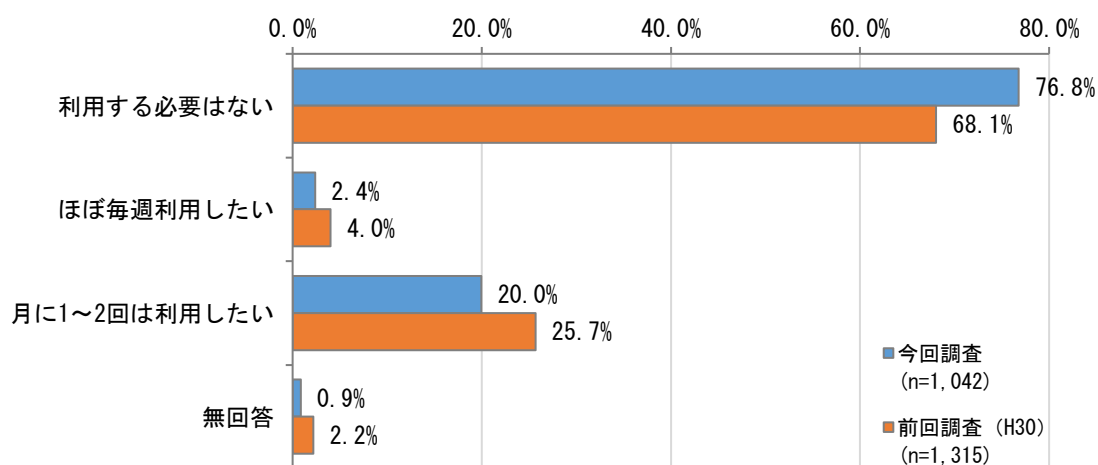
(2)日曜・祝日

日曜・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望について、「利用する必要はない」76.8%が最も高く、次いで「月に1～2回は利用したい」20.0%、「ほぼ毎週利用したい」2.4%となっている。『利用したい』（「ほぼ毎週利用したい」と「月に1～2回は利用したい」の合算）では22.4%となっている。

希望する教育・保育の開始時刻については、「ほぼ毎週利用したい」40.0%、「月に1～2回は利用したい」39.4%といずれも「9時」が最も高くなっている。

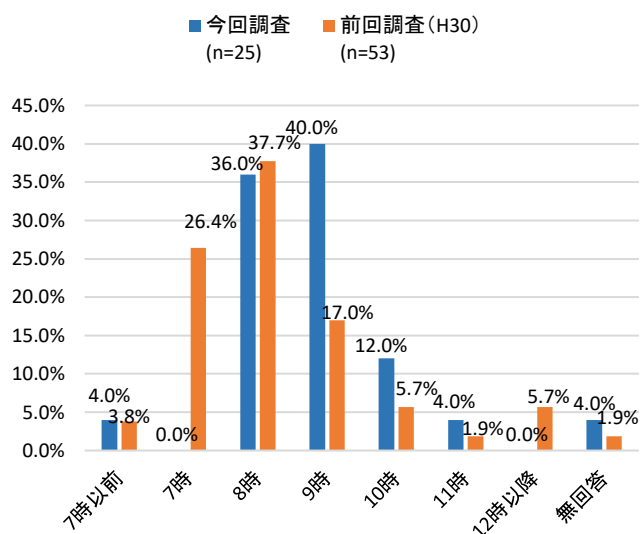
希望する教育・保育の終了時刻については、「ほぼ毎週利用したい」では「19時」が52.0%、「月に1～2回は利用したい」では「18時」が36.1%とそれぞれ最も高くなっている。

利用希望【日曜・祝日】

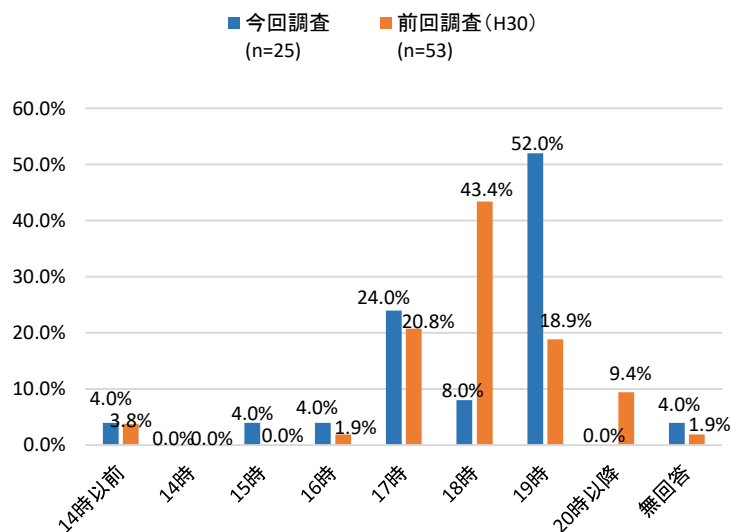


【ほぼ毎週利用したいと回答した方】

希望開始時刻

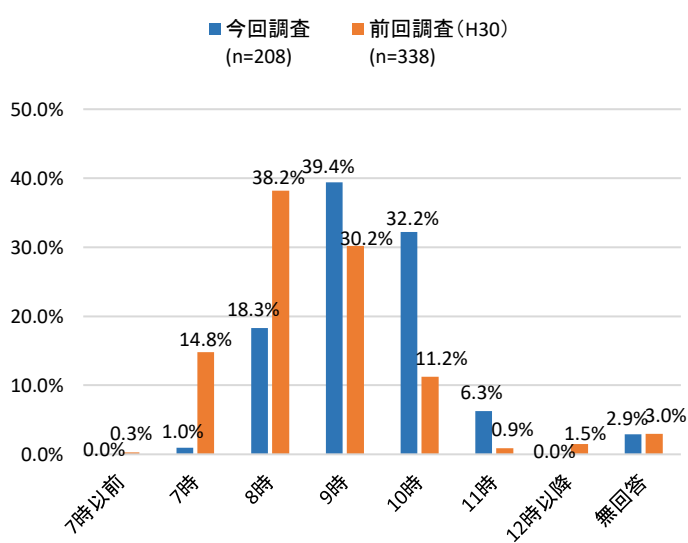


希望終了時刻

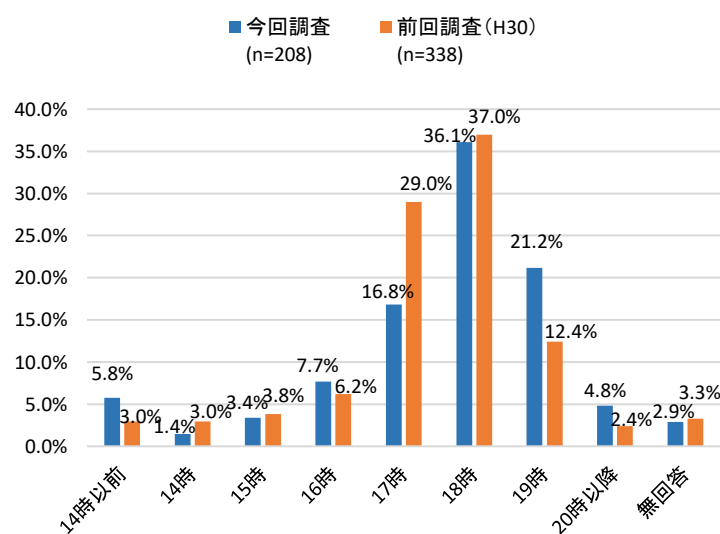


【月に1～2回は利用したいと回答した方】

希望開始時刻

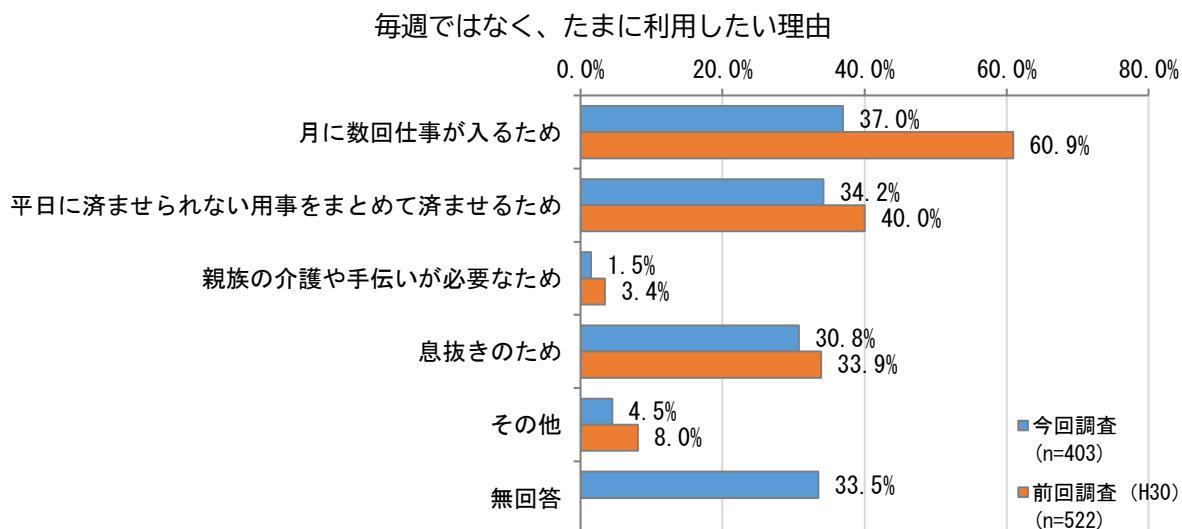


希望終了時刻



問20-1 【問20の(1)または(2)で、「3.月に1～2回は利用したい」に○をつけた方におたずねします。】毎週ではなく、たまに利用したい理由は何ですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

「月に1～2回は利用したい」と回答した方の、毎週ではなくたまに利用したい理由については、「月に数回仕事が入るため」37.0%が最も高く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」34.2%、「息抜きのため」30.8%となっている。

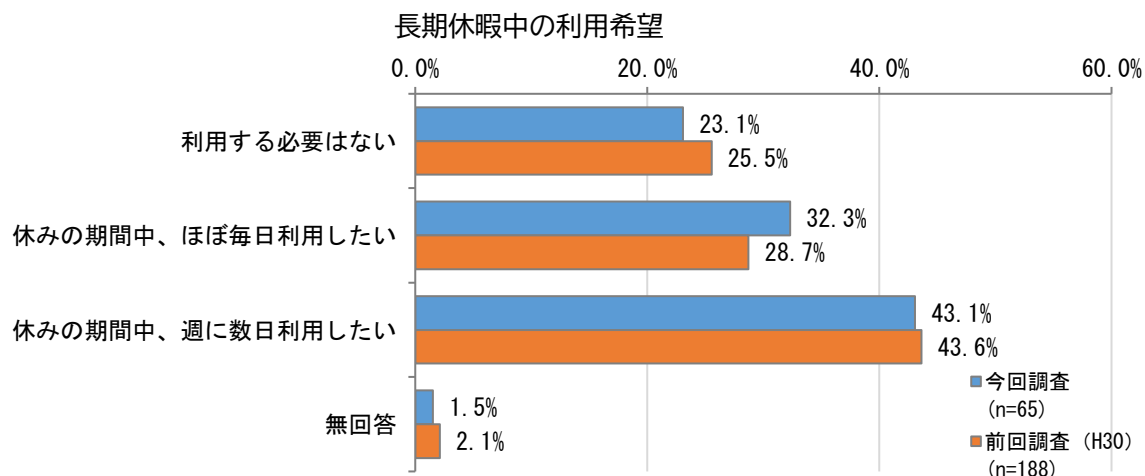


問 2 1 【「幼稚園」を利用されている方におたずねします。】末子のお子さんについて、夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用を希望しますか。

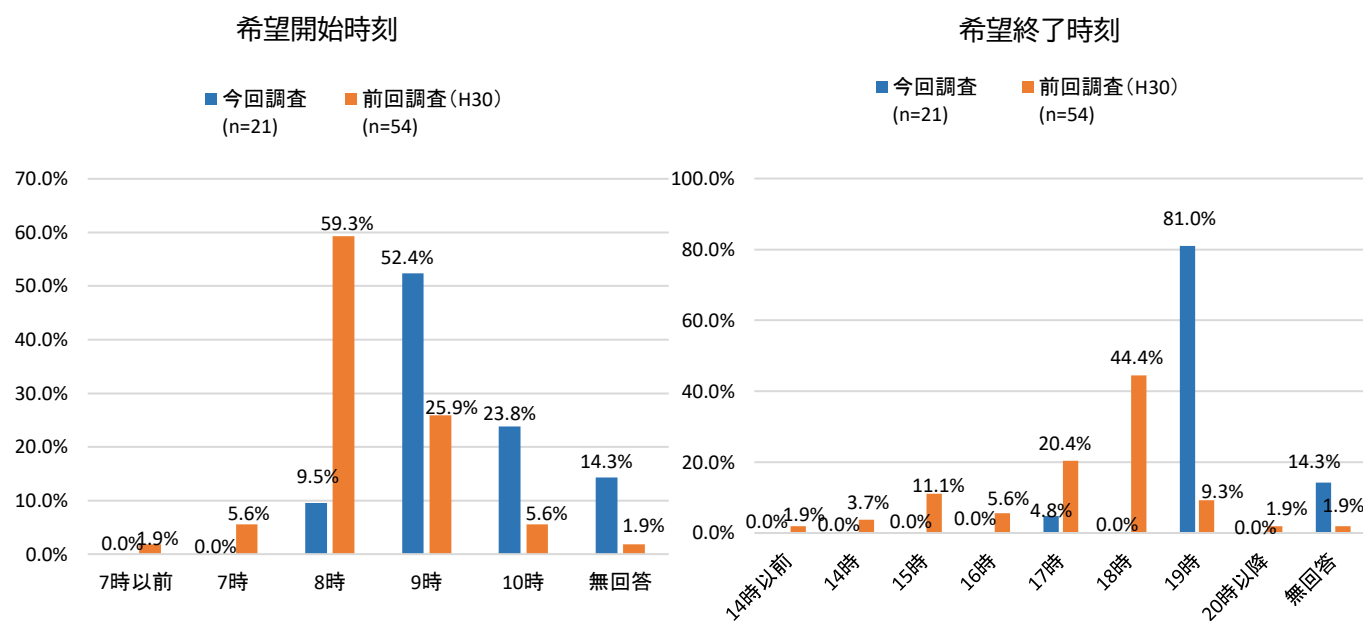
長期休暇期間中の教育・保育の事業の利用希望については、「休みの期間中、週に数日利用したい」43.1%が最も高く、次いで「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」32.3%、「利用する必要はない」23.1%となっている。『利用したい』（「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」と「休みの期間中、週に数日利用したい」の合算）では75.4%となっている。

希望する教育・保育の開始時刻については、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」52.4%、「休みの期間中、週に数日利用したい」52.4%といずれも「9時」が最も高くなっている。

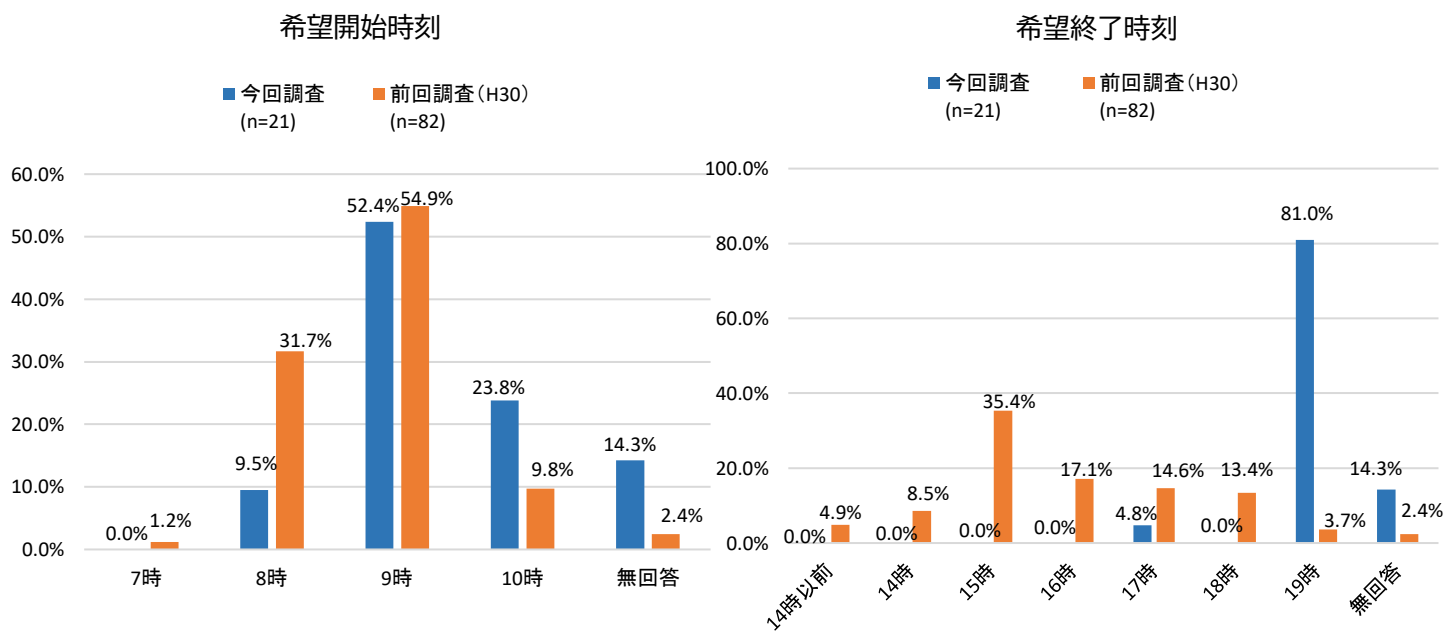
希望する教育・保育の終了時刻については、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」81.0%、「休みの期間中、週に数日利用したい」81.0%といずれも「19時」が最も高くなっている。



休みの期間中、ほぼ毎日利用したいと回答した方



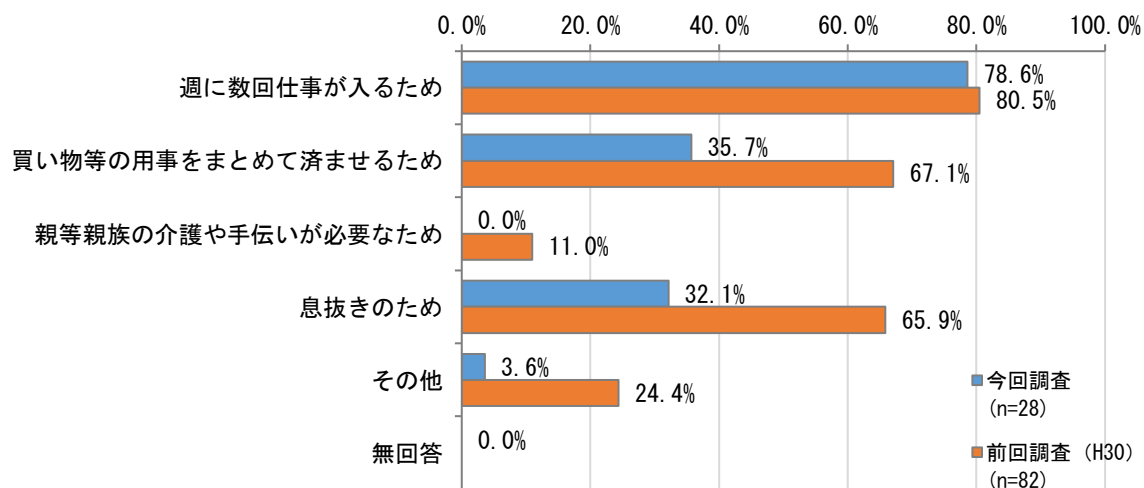
休みの期間中、週に数日利用したいと回答した方



問21-1 【問21で、「3.休みの期間中、週に数日利用したい」に○をつけた方におたずねします。】
毎日ではなく、たまに利用したい理由は何ですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

「週に数日利用したい」と回答した方の、毎日ではなく、たまに利用したい理由については、「週に数回仕事が入るため」78.6%が最も高く、次いで「買い物等の用事をまとめて済ませるため」35.7%、「息抜きのため」32.1%となっている。

たまに利用したい理由

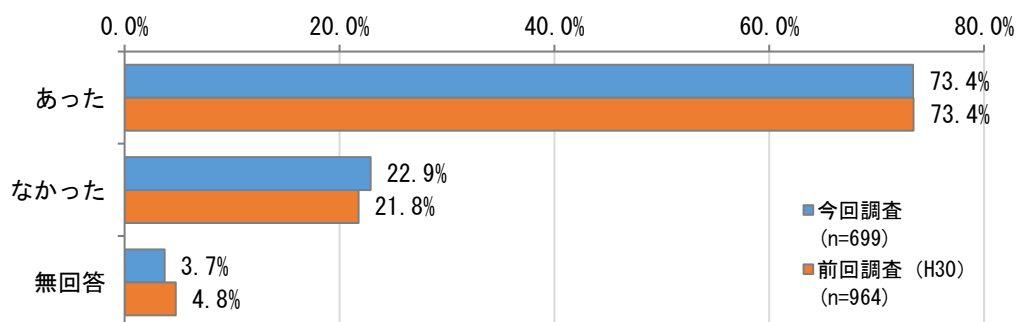


7. 末子のお子さんの病気の際の対応について（平日の教育・保育を利用する方のみ）

問22 【平日の定期的な教育・保育の事業を利用していると答えた保護者の方(問15で1に○をつけた方)におたずねします。】この1年間に、お子さんが病気やケガで通常の事業が利用できなかったことはありますか。

病気やケガで通常の事業が利用できなかったことがあるかについては、「あった」73.4%、「なかった」22.9%となっている。

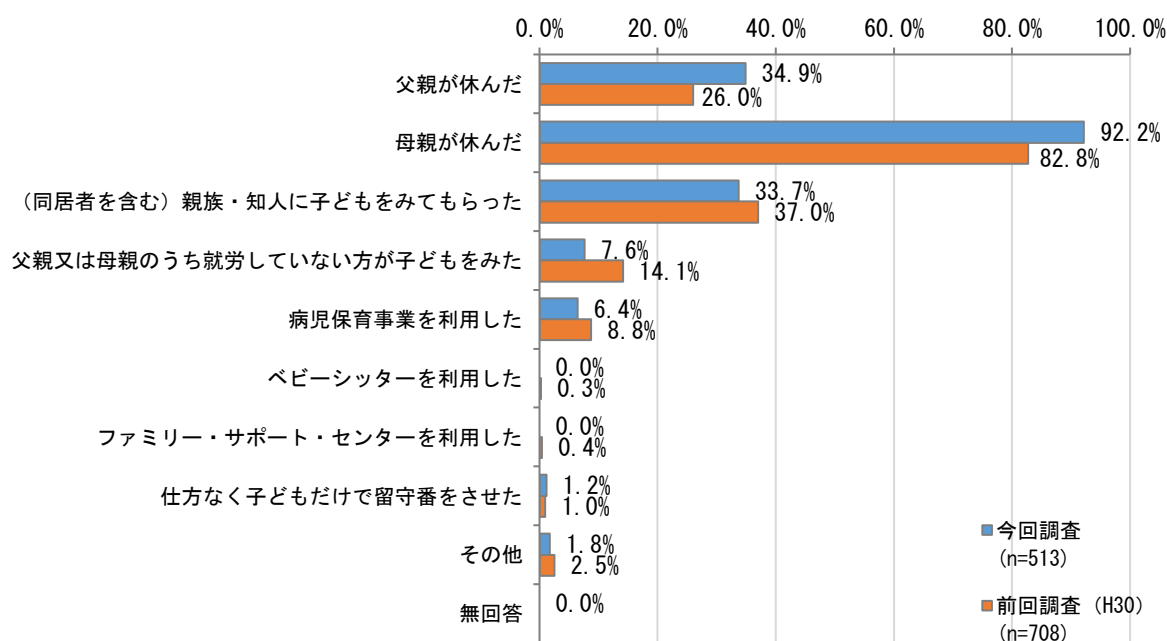
病気等で通常の事業が利用できなかったことの有無



問 2 2 - 1 【問 2 2 で「1. あった」に○をつけた方におたずねします。】
 末子のお子さんが病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法として当てはまる記号すべてに○をつけ、それぞれの日数もご記入ください。

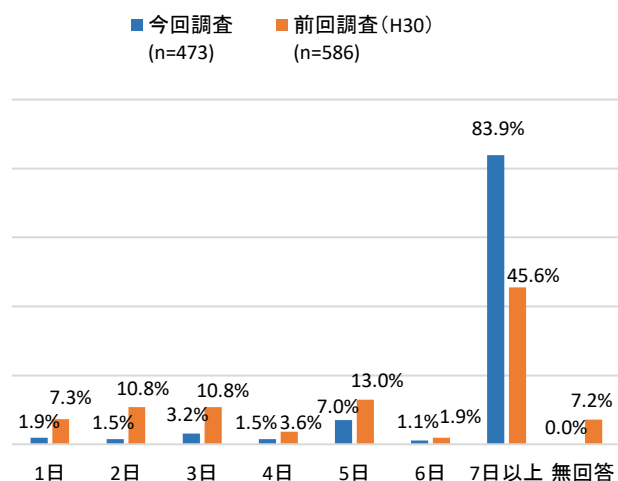
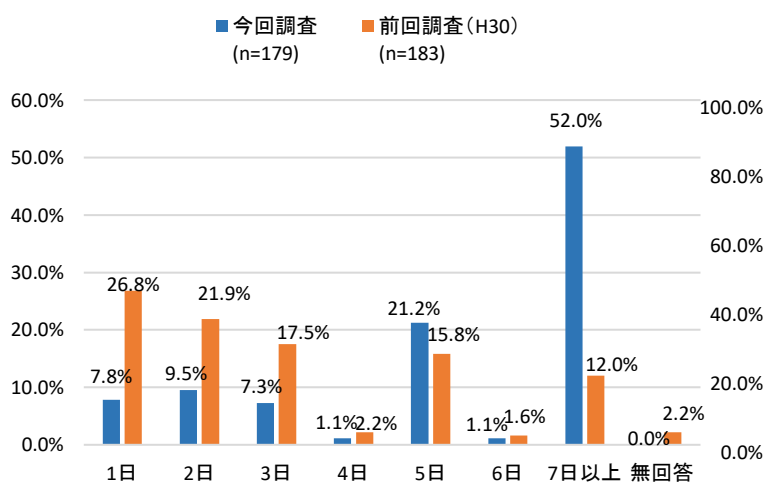
この1年間に行った対処方法については、「母親が休んだ」92.2%が最も高く、次いで「父親が休んだ」34.9%、「(同居者を含む) 親族・知人に子どもをみてもらった」33.7%となつて

この1年間に行った対処法



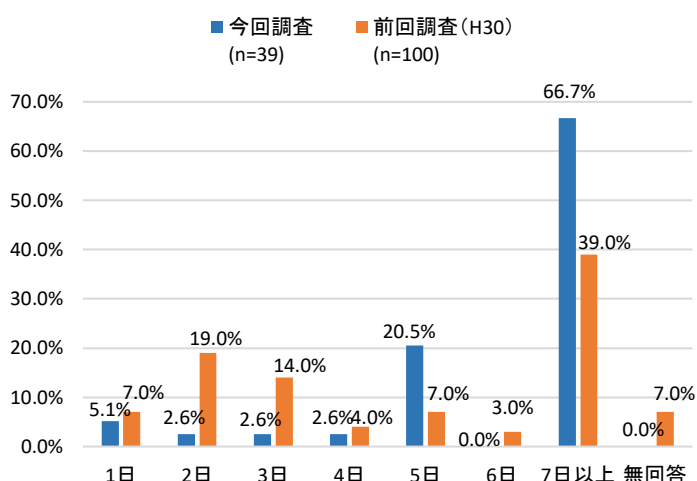
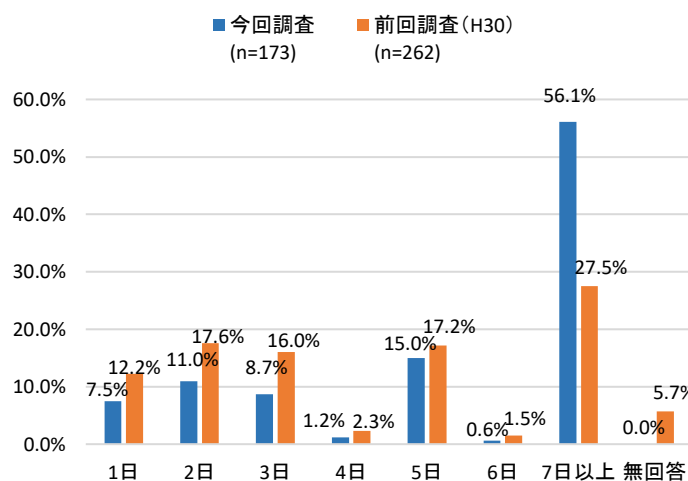
ア. 「父親が休んだ」日数/年

イ. 「母親が休んだ」日数/年



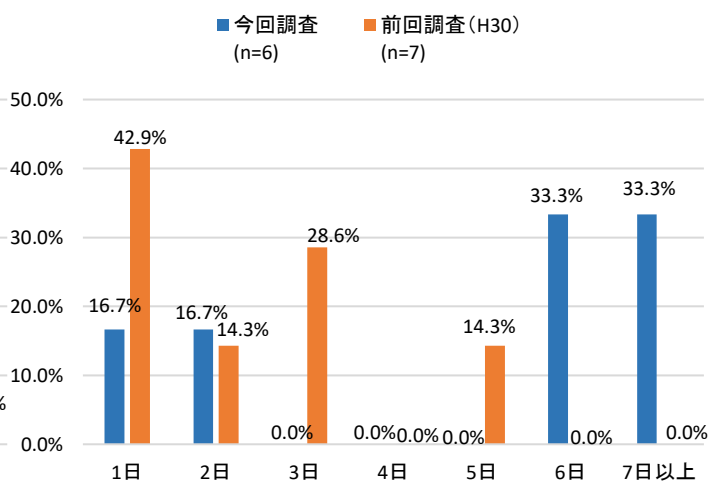
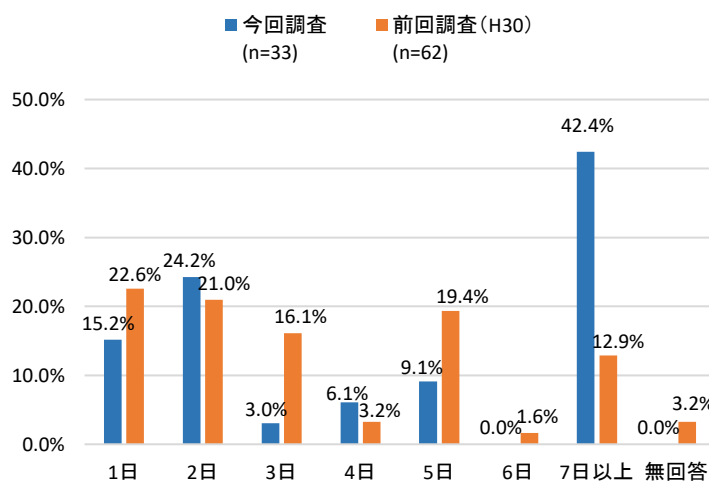
ウ.「親族・知人に子どもをみてもらった」日数/年

エ.「就労していない保護者が子どもをみた」日数/年

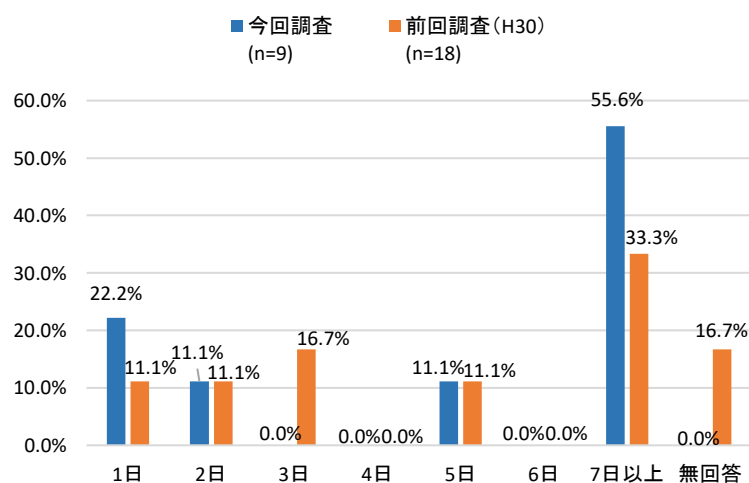


オ.「病児保育事業を利用した」日数/年

ク.「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」日数/年



ケ.「その他」日数/年



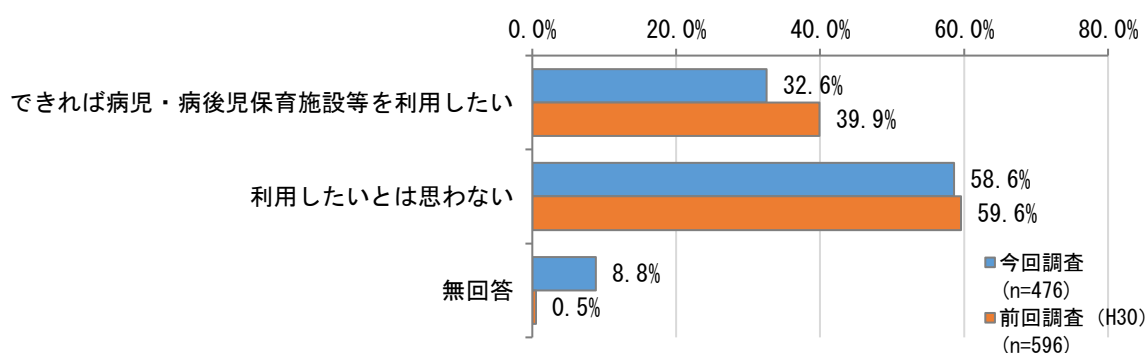
【カ. ベビーシッターを利用した】該当なし

【キ. ファミリー・サポート・センターを利用した】該当なし

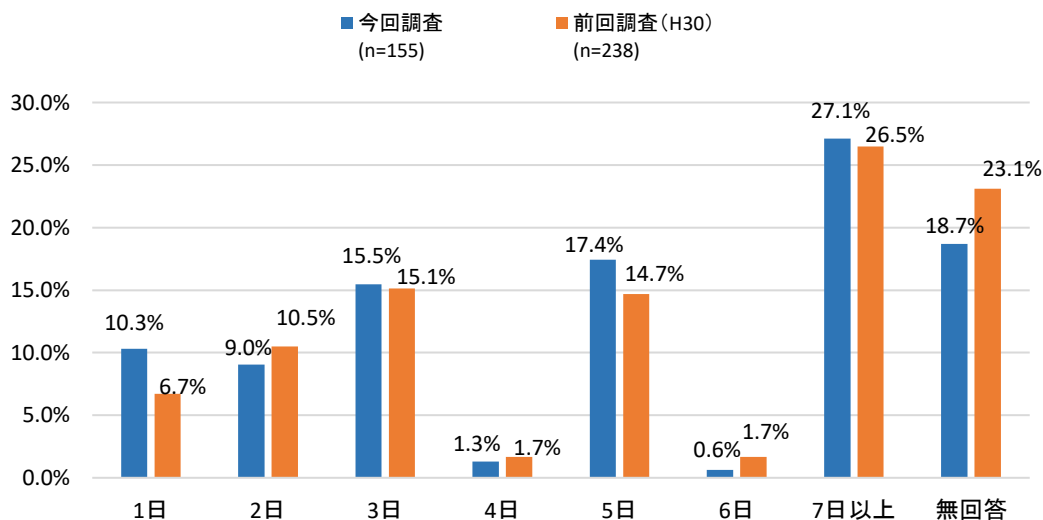
問22-2 【問22-1で「ア.」「イ.」のいずれかに回答した方におたずねします。】
 その際、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思われましたか。
 当てはまる番号1つに○をつけ、日数についてもご記入ください。

病児・病後児のための保育施設等の利用については、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」32.6%、「利用したいとは思わない」58.6%となっている。利用日数については「7日以上」27.1%が最も高くなっている。

図表 7-9 病児・病後児保育の利用意向



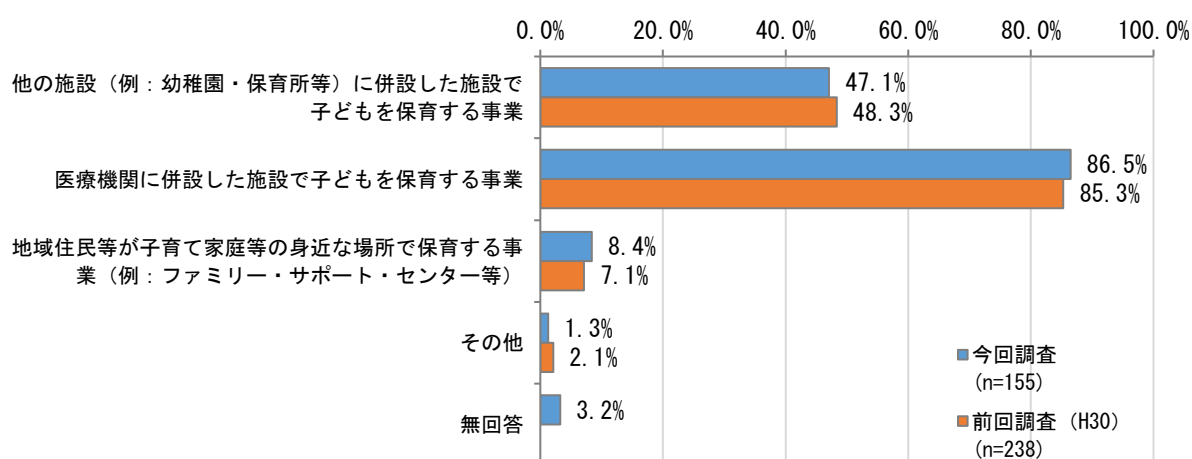
【利用したい日数】



問22-3 【問22-2で「1.できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」に○をつけた方におたずねします。】上記の目的で子どもを預ける場合、下記のいずれの事業形態が望ましいと思われますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

病児・病後児保育施設を利用する際、望ましいと思われる事業形態については、「医療機関に併設した施設で子どもを保育する事業」86.5%が最も高く、次いで「他の施設（例：幼稚園・保育所等）に併設した施設で子どもを保育する事業」47.1%、「地域住民等が子育て家庭等の身近な場所で保育する事業（例：ファミリー・サポート・センター等）」8.4%となっている。

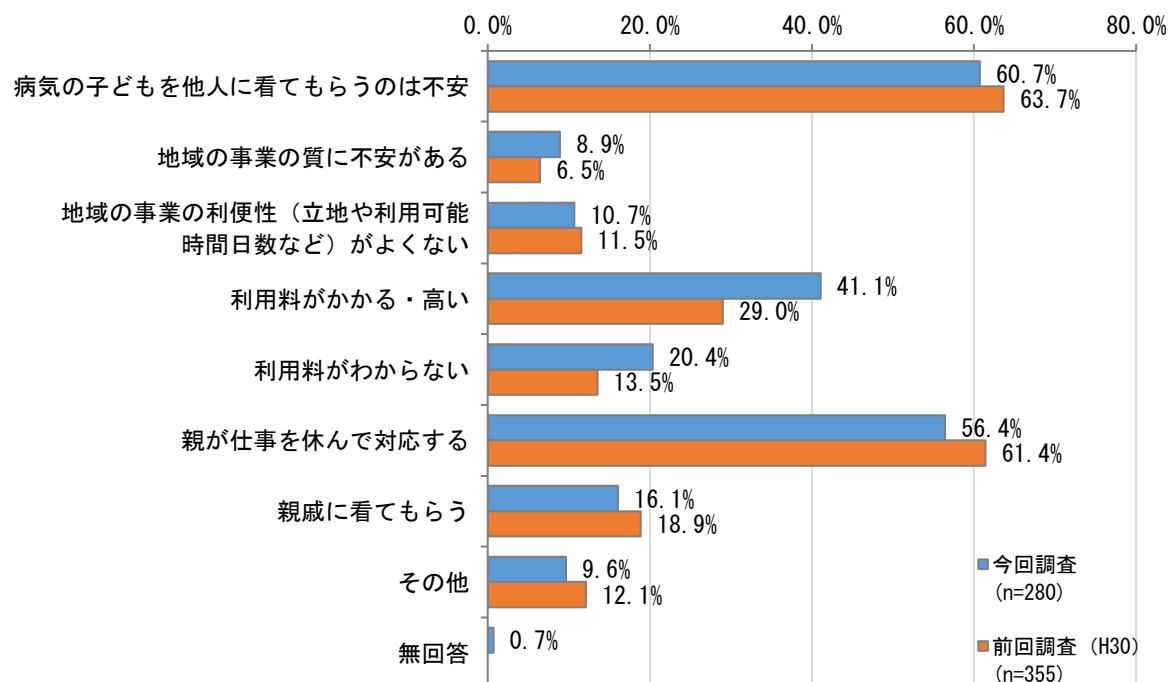
望ましいと思われる事業形態



問22-4 【問22-2 で「2. 利用したいとは思わない」に○をつけた方におたずねします。】そう思われる理由について当てはまる番号すべてに○をつけてください。

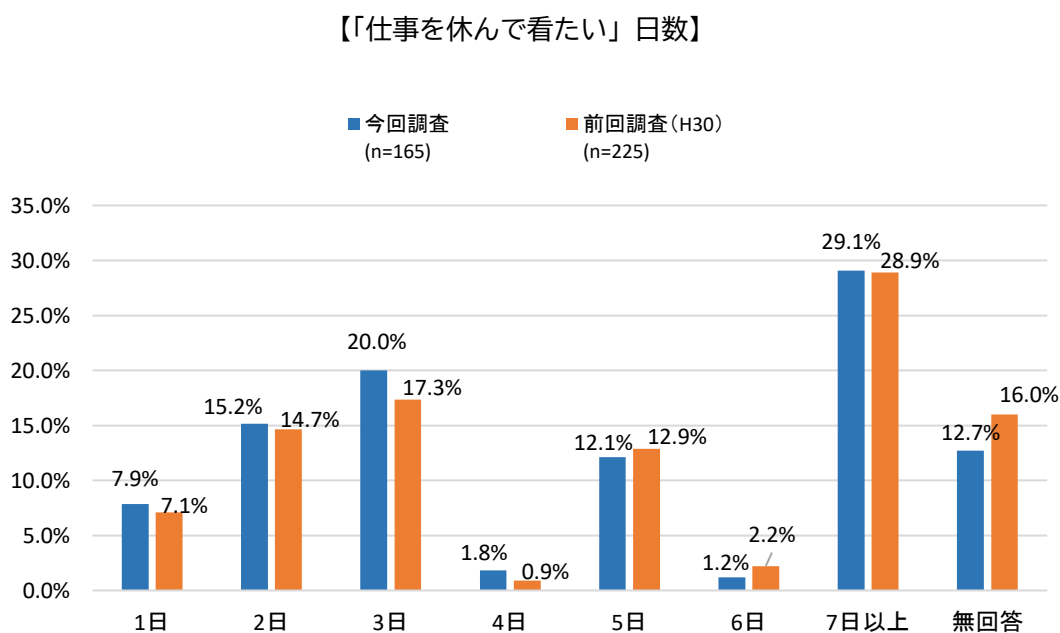
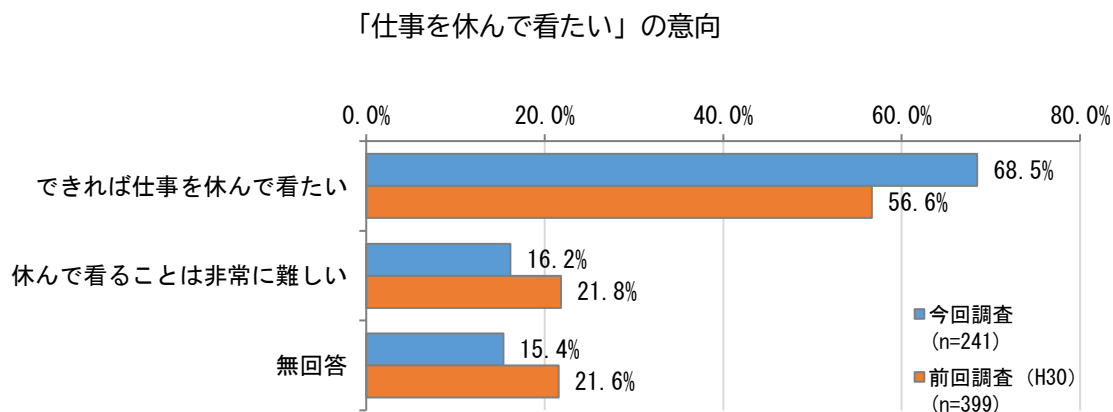
病児・病後児保育施設を利用したいと思わない理由については、「病気の子どもを他人に看てもらうのは不安」60.7%が最も高く、次いで「親が仕事を休んで対応する」56.4%、「利用料がかかる・高い」41.1%となっている。

「利用したいと思わない」理由



問22-5 【問22-1で「ウ.」から「ケ.」のいずれかに回答した方におたずねします。】
 その際、「できれば父母いずれかが仕事を休んで看たい」と思われましたか。当てはまる番号1つに○をつけ、「ウ」から「ケ」の日数のうち仕事を休んで看たかった日数についてもご記入ください。

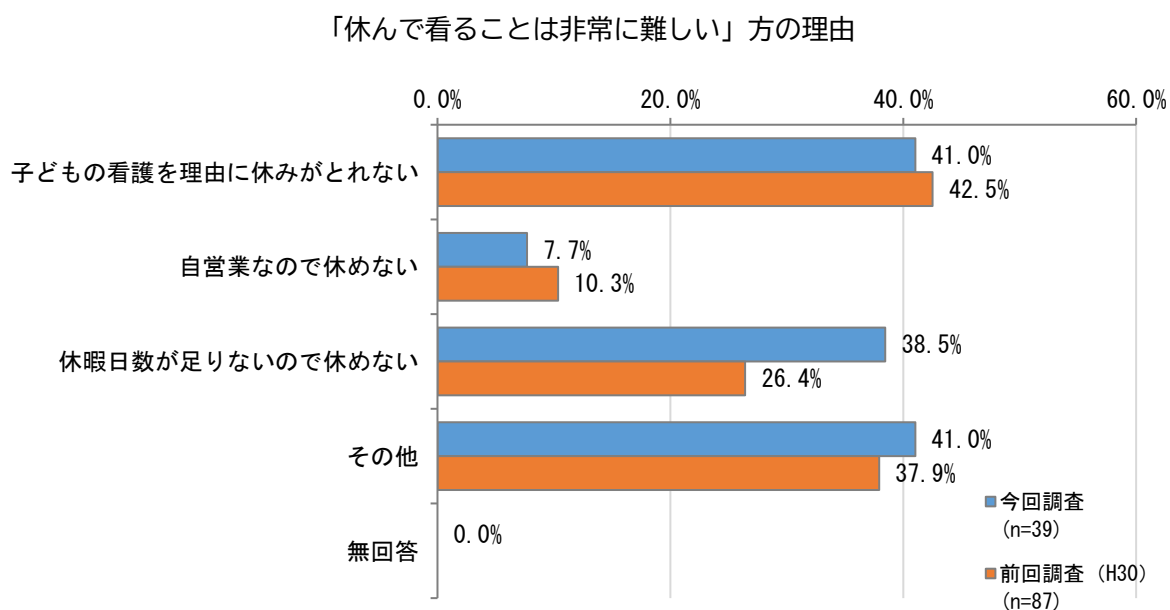
父母のいずれかが仕事を休んで子どもを看たいと思ったかについては、「できれば仕事を休んで看たい」68.5%、「休んで看ることは非常に難しい」16.2%となっている。休んで看たい日数については、「7日以上」29.1%が最も高くなっている。



問22-6 【問22-5で「2.休んで看することは非常に難しい」に○をつけた方におたずねします。】
 そう思われる理由について当てはまる番号すべてに○をつけてください。

休んで看することは非常に難しいと思う理由については、「子どもの看護を理由に休みがとれない」、「その他」がいずれも 41.0%と最も高く、次いで「休暇日数が足りないで休めない」38.5%、「自営業なので休めない」7.7%となっている。

「その他」の主な理由としては、「仕事を簡単に休める環境ではない」や、「職場の理解がない」などの理由があげられた。

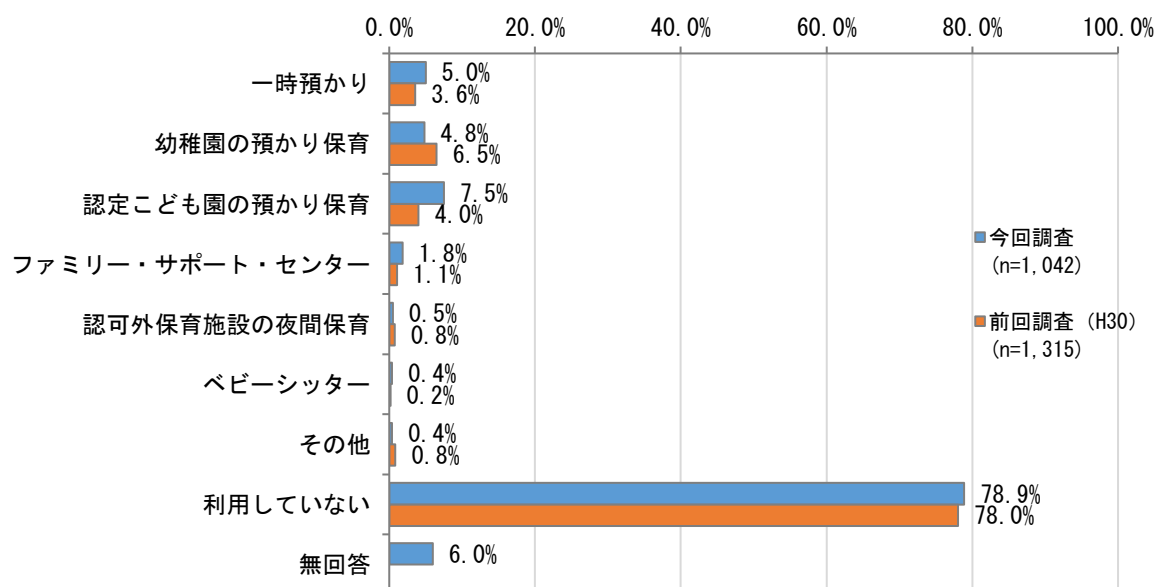


8. 末子のお子さんの「不定期」の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

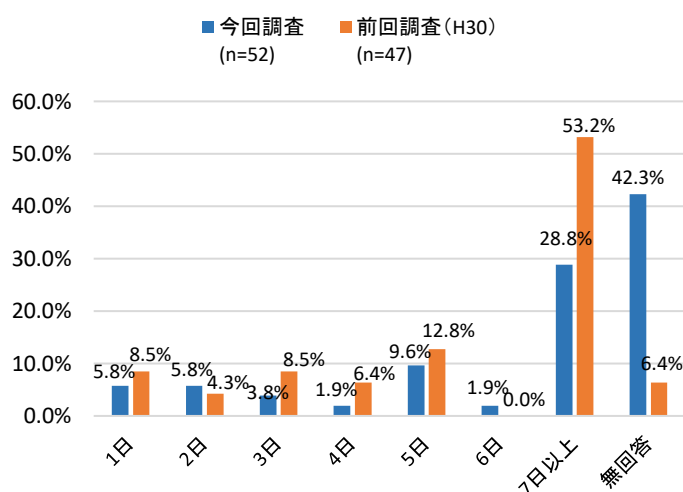
問23 末子のお子さんについて、日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不
定期の就労等の目的で不定期に利用している事業はありますか。ある場合は、当てはま
る番号すべてに○をつけ、1年間の利用日数(おおよそ)もご記入ください。

私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業については、「利用し
ていない」78.9%が最も高く、次いで「認定こども園の預かり保育」7.5%、「一時預かり」
5.0%となっている。利用日数については、「一時預かり」、「幼稚園の預かり保育」、「認定こ
ども園の預かり保育」ではいずれも「7日以上」の割合が高い一方で、「ファミリー・サポー
ト・センター」、「認可外保育施設の夜間保育」、「ベビーシッター」ではいずれも「1日」が
最も高くなっている。

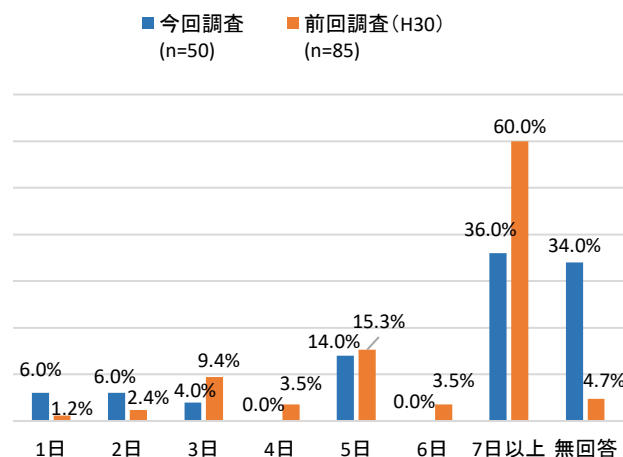
不定期に利用している事業及び利用の有無



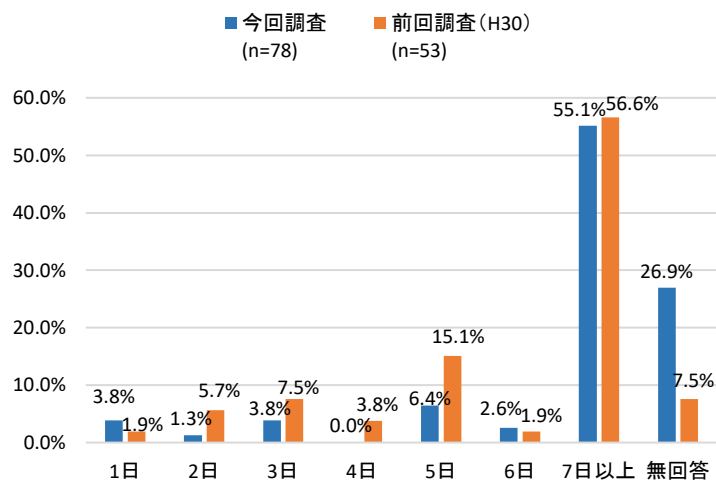
【一時預かり】



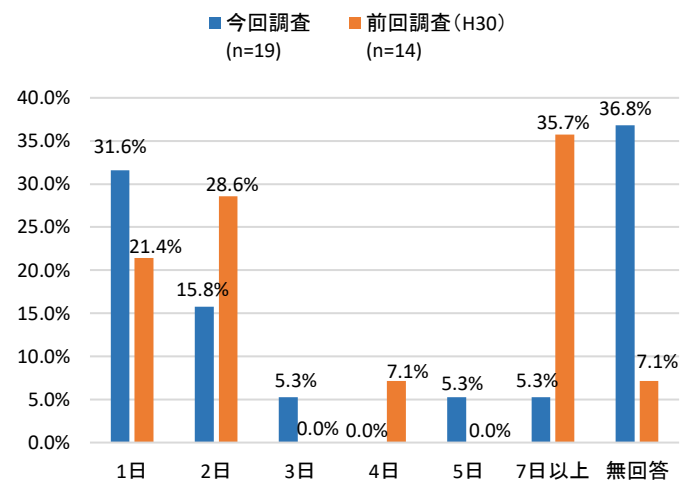
【幼稚園の預かり保育】



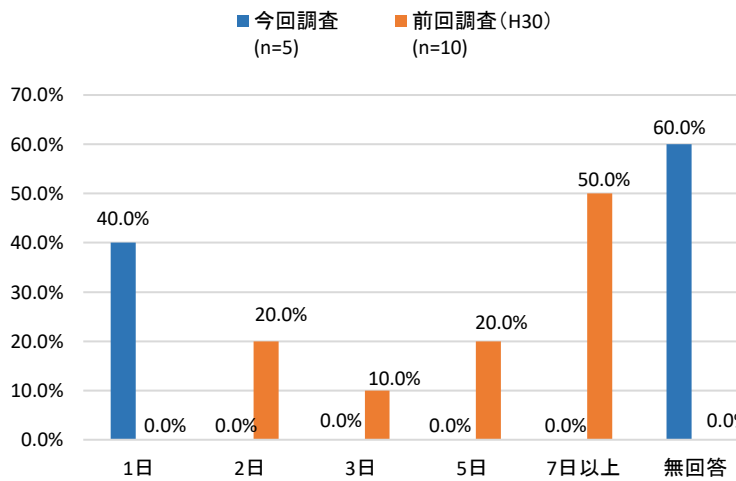
【認定こども園の預かり保育】



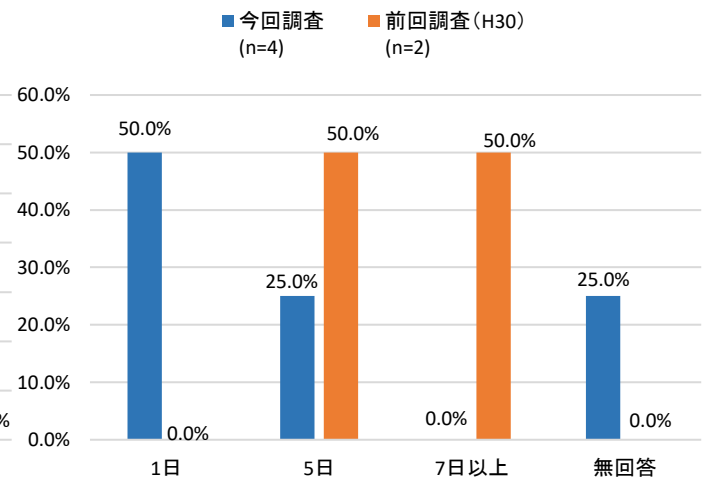
【ファミリー・サポート・センター】



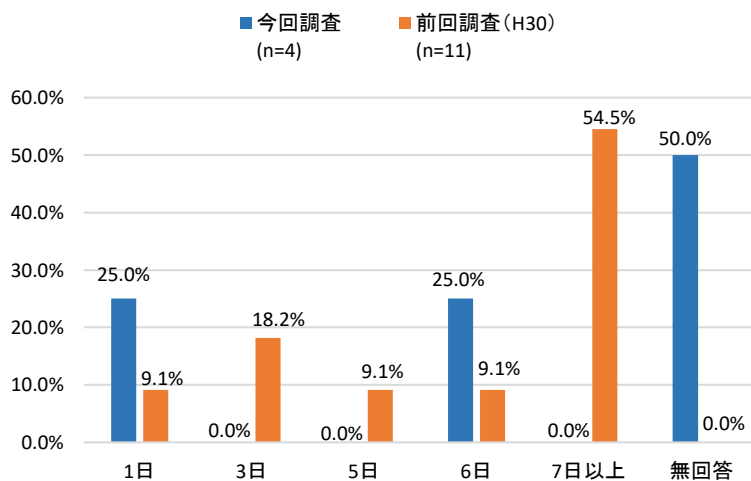
【認可外保育施設の夜間保育】



【ベビーシッター】



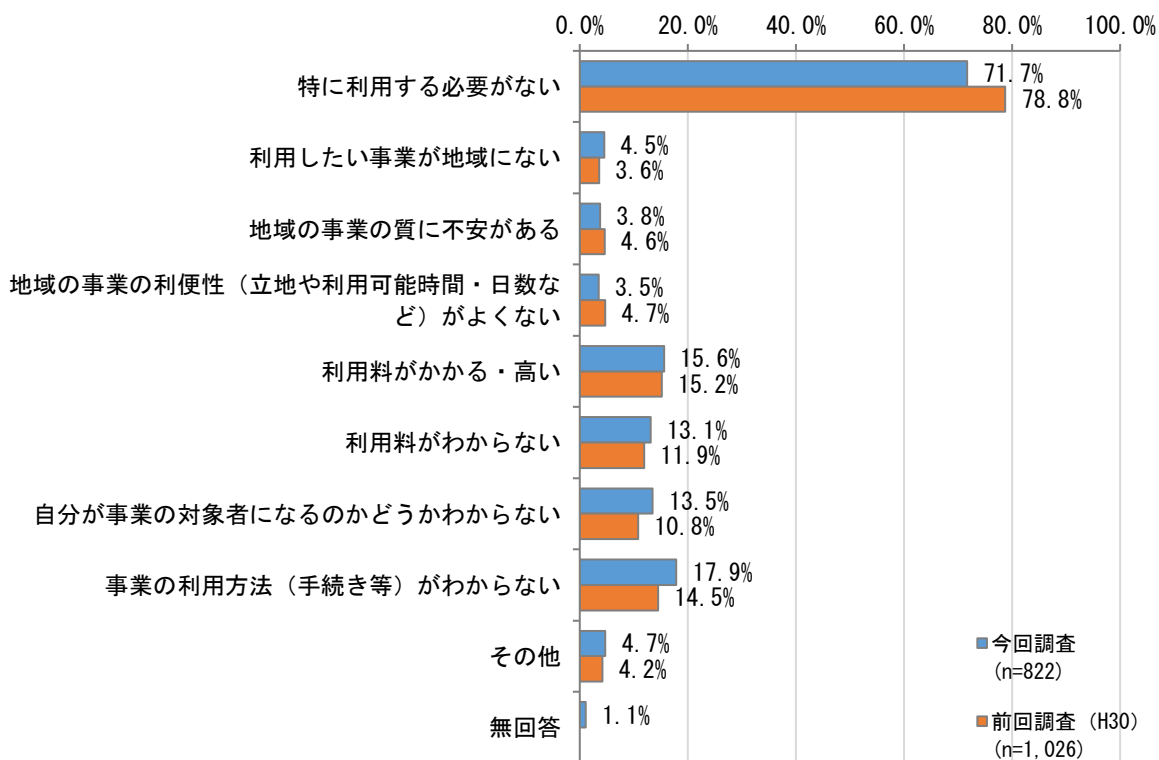
【その他】



問23-1 【問23で「8. 利用していない」と回答した方におたずねします。】
現在利用していない理由は何ですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

現在利用していない理由については、「特に利用する必要がない」71.7%が最も高く、次いで「事業の利用方法（手続き等）がわからない」17.9%、「利用料がかかる・高い」15.6%となっている。

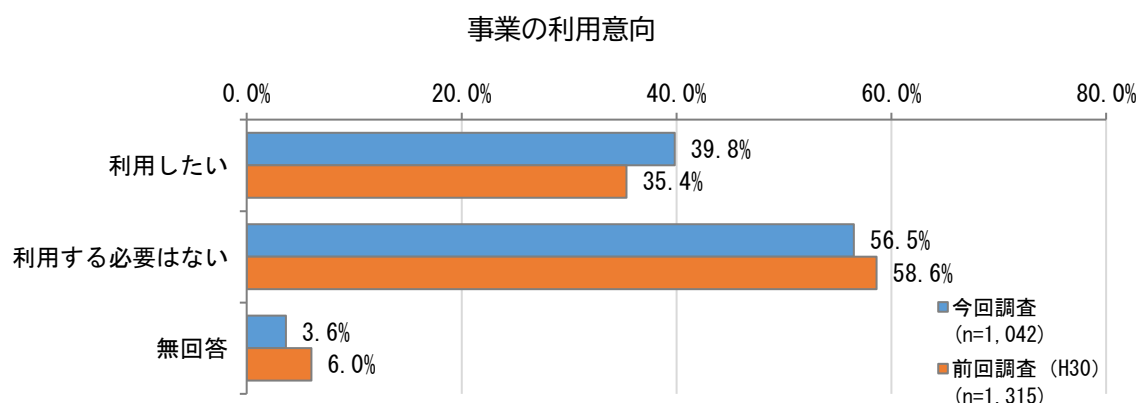
現在、事業を「利用していない」理由



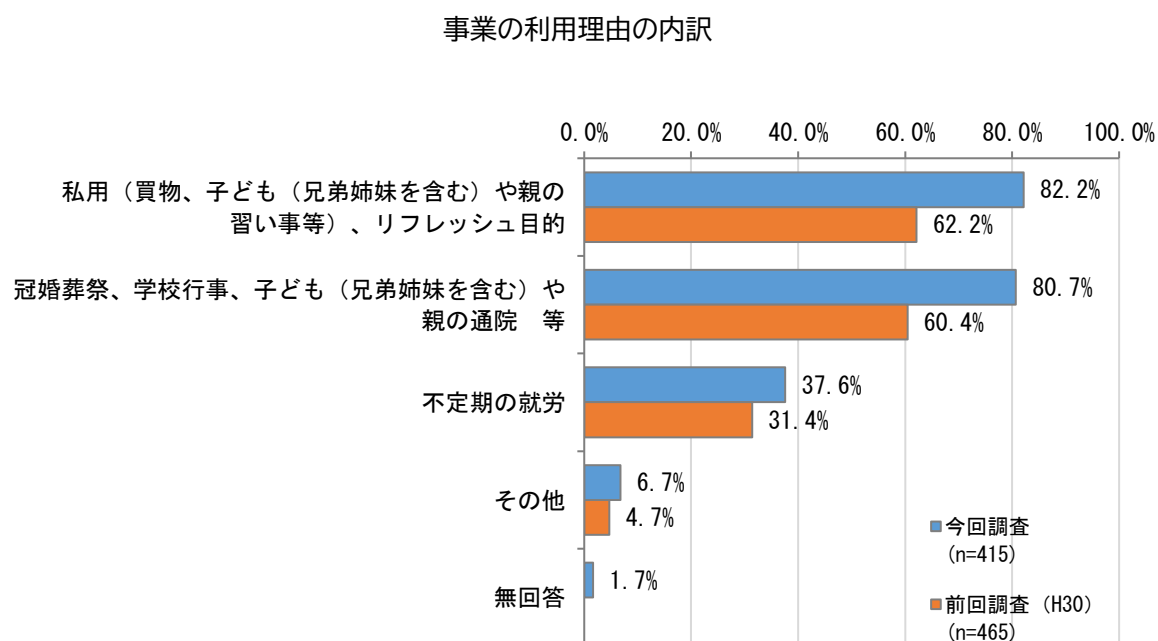
問24 末子のお子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、年間何日くらい事業を利用する必要があると思いますか。利用希望の有無について当てはまる番号・記号すべてに○をつけ、利用したい日数の合計と、目的別の内訳の日数をご記入ください。

年間何日くらい教育・保育事業を利用する必要があるかについては、「利用したい」39.8%、「利用する必要はない」56.5%となっている。利用理由としては、「私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的」82.2%が最も高く、次いで「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等」80.7%、「不定期の就労」37.6%となっている。利用日数の合計については、全体の71.6%が「7日以上」と回答している。

(1)利用希望

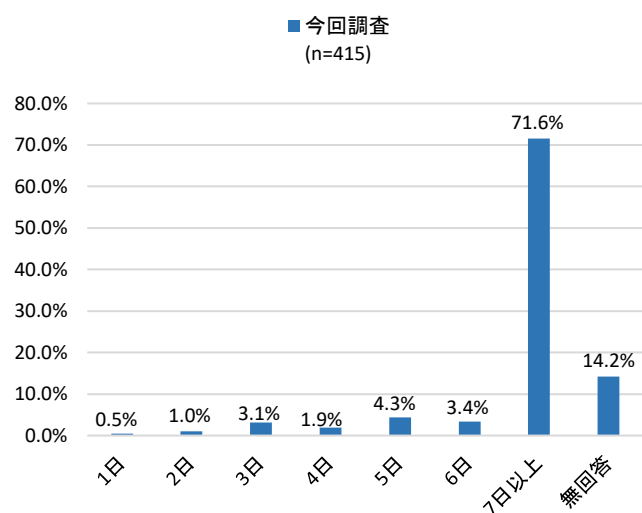


(2)利用目的

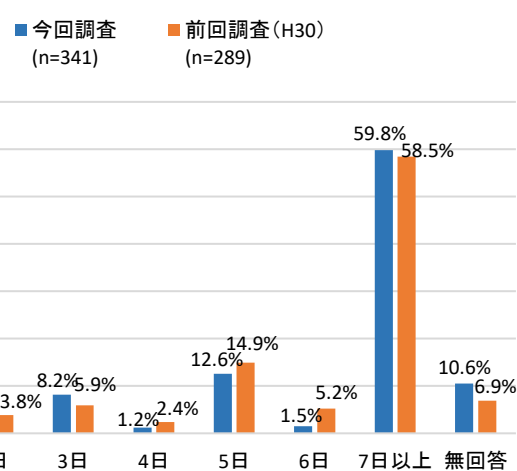


事業を「利用したい」場合の必要な利用日数

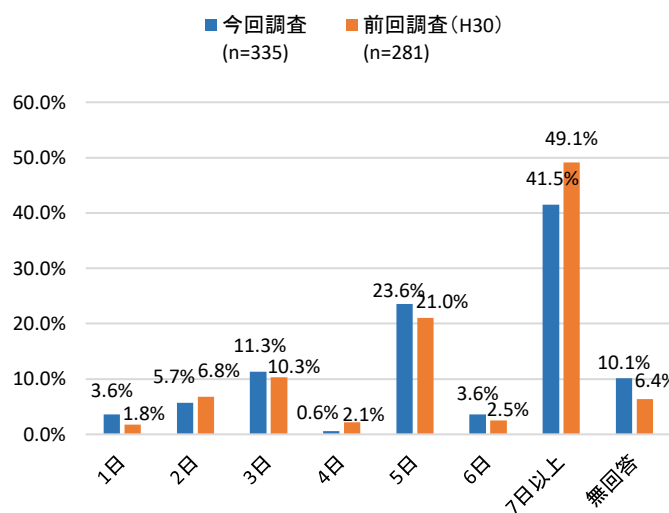
【合計日数】



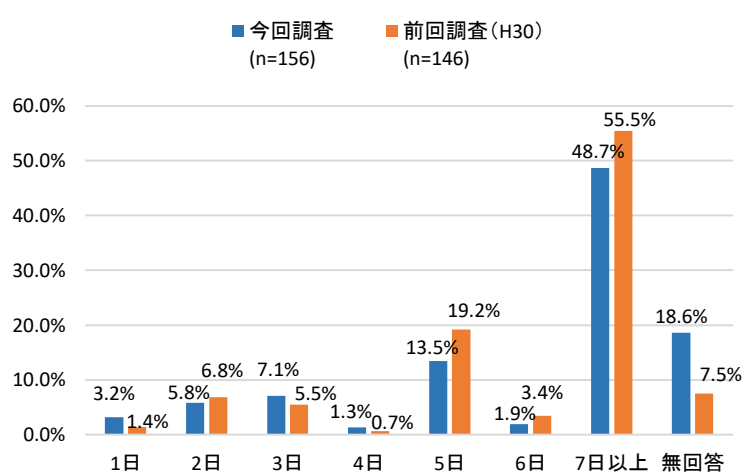
【ア. 私用、リフレッシュ】



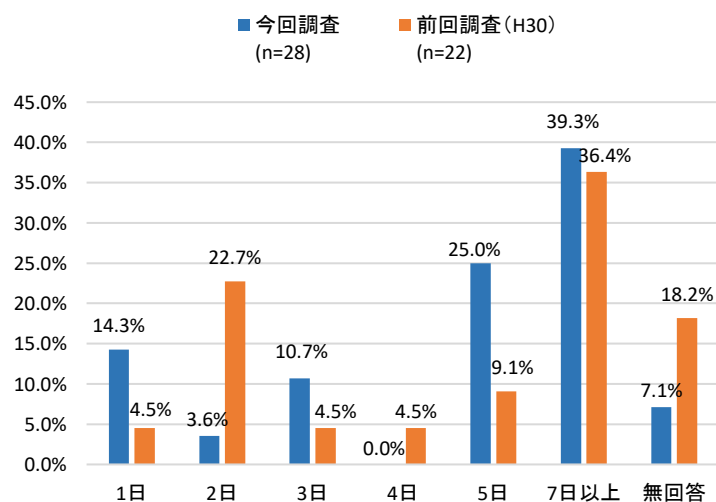
【イ. 冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院】



【ウ. 不定期の就労】

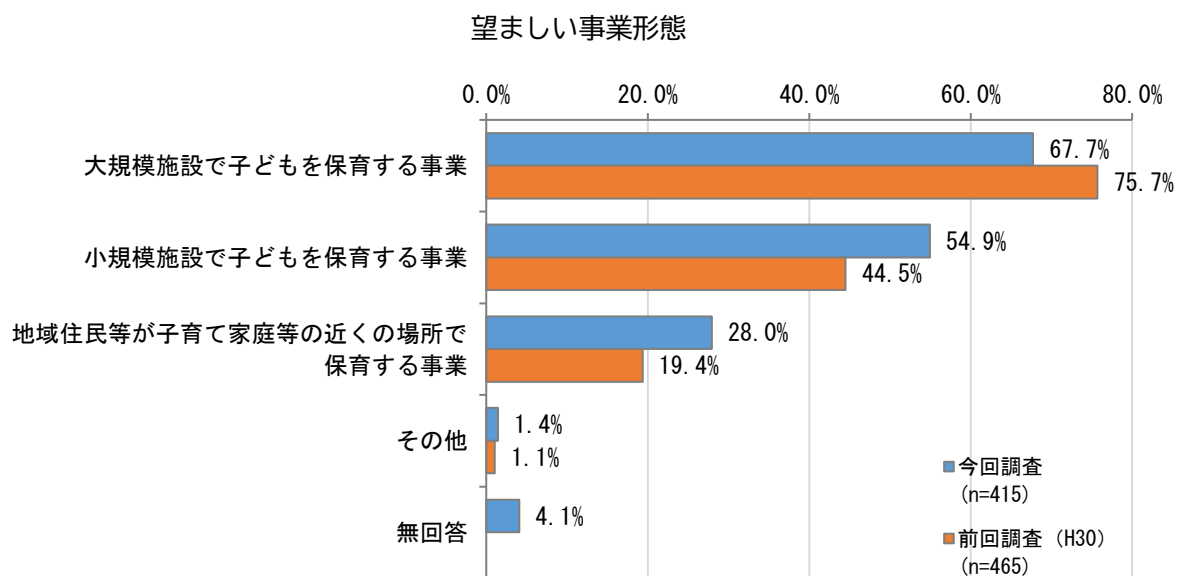


【エ. その他】



問 2 4 - 1 【問 2 4 で「1. 利用したい」に○をつけた方におたずねします。】
 問24の目的でお子さんを預ける場合、下記のいずれの事業形態が望ましいと思われますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

子どもを預ける場合、望ましいと思う事業形態については、「大規模施設で子どもを保育する事業」67.7%が最も高く、次いで「小規模施設で子どもを保育する事業」54.9%、「地域住民等が子育て家庭等の近くの場所で保育する事業」28.0%となっている。

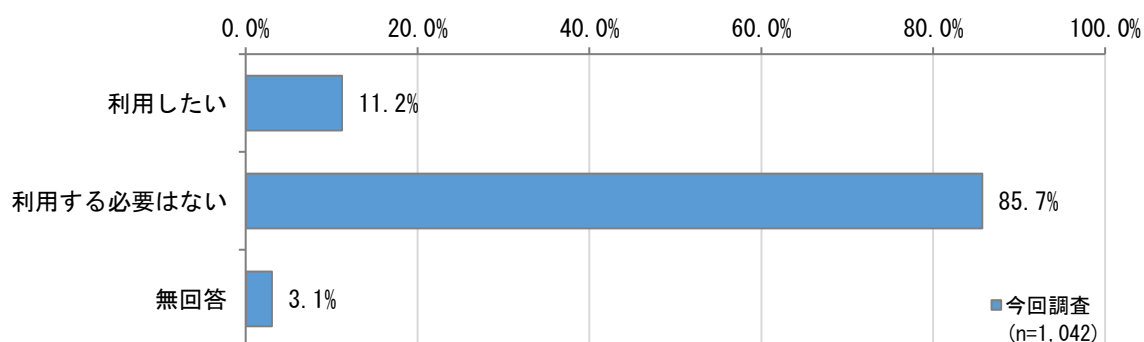


問25 末子のお子さんについて、保護者の用事(冠婚葬祭、保護者・家族(兄弟姉妹含む)の育児疲れや育児不安、病気など)により、泊りがけで年間何日くらい家族以外に預ける必要があると思いますか。利用希望の有無と、必要な泊数をお答えください。(複数回答)

利用意向については、「利用したい」11.2%、「利用する必要はない」85.7%となっている。利用理由としては、「保護者や家族の育児疲れ・不安」66.7%が最も高く、次いで「保護者や家族の病気」60.7%、「冠婚葬祭」53.0%となっている。利用日数の合計については、「7日以上」が47.0%を占めている。

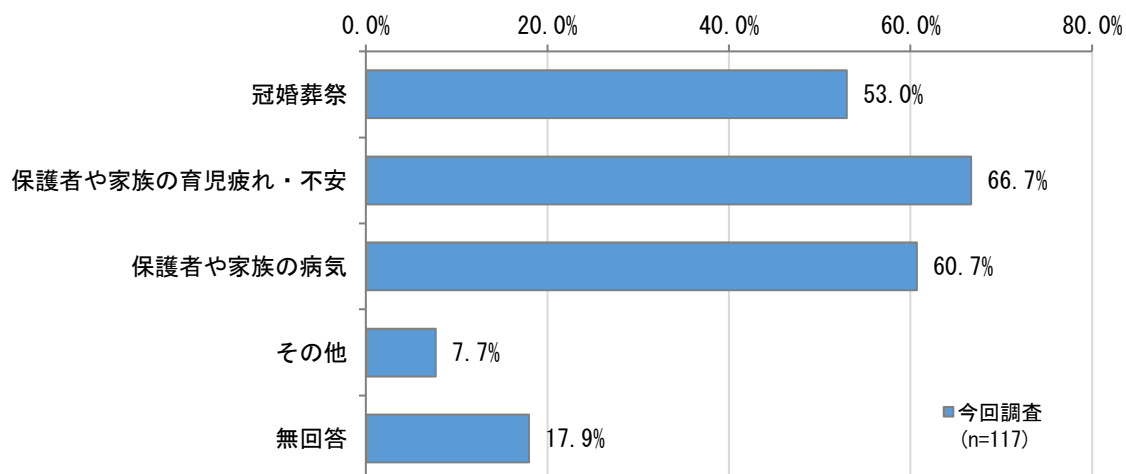
(1) 宿泊を伴う預かりの有無

泊りがけで家族以外に預ける必要の有無



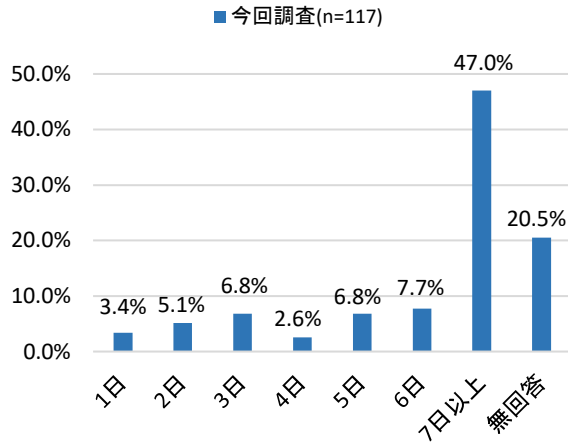
(2) 短期入所生活援助事業の利用目的

事業の利用目的

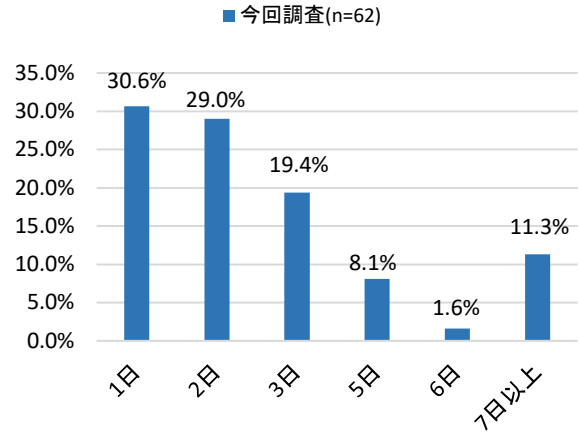


事業を「利用したい」場合の必要な利用日数

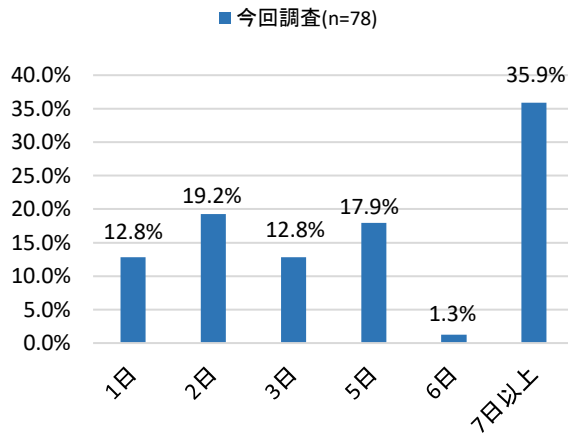
【合計日数】



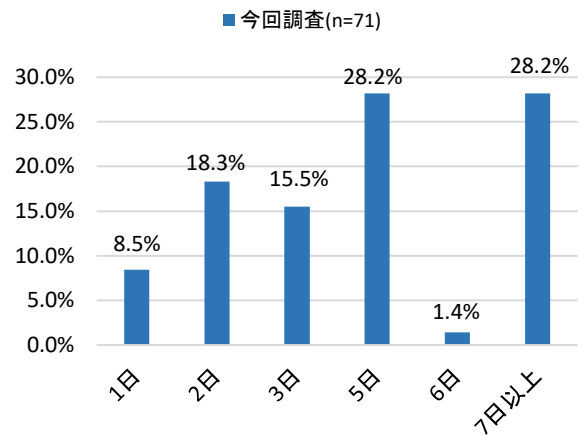
【ア. 冠婚葬祭】



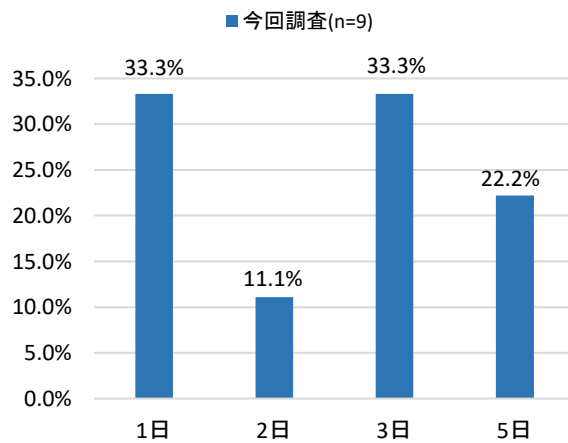
【イ. 保護者や家族の育児疲れ・不安】



【ウ. 保護者や家族の病気】



【その他】



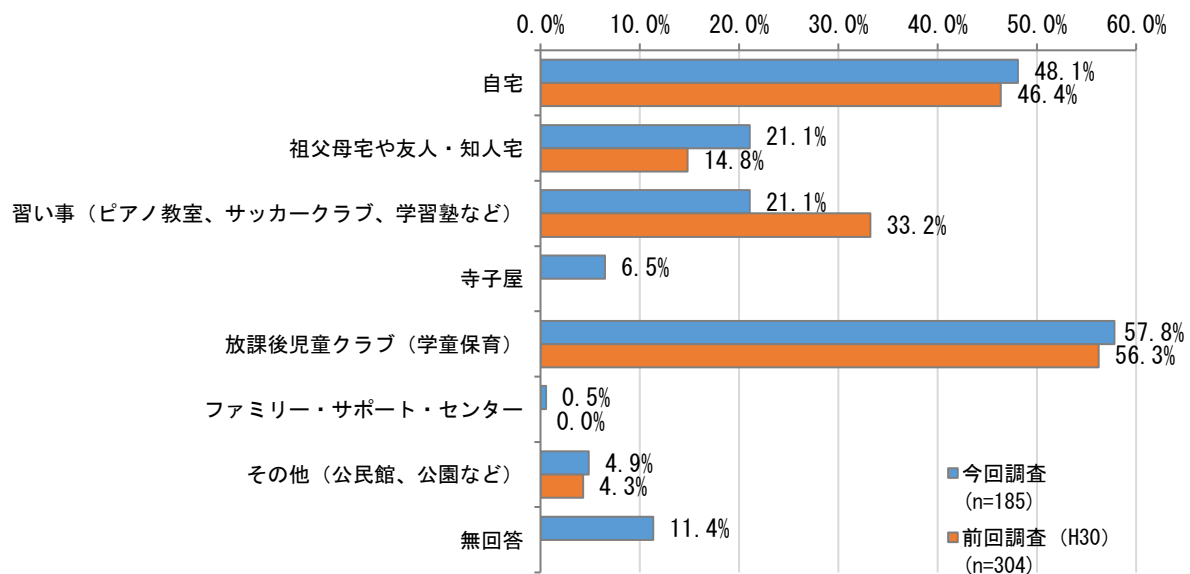
9. 【末子のお子さんが5歳以上(回答日現在)である方】 小学校就学後の放課後の過ごし方について

問26 【末子のお子さんが5歳以上(回答日現在)である方におたずねします】末子のお子さんについて、小学校低学年(1～3年生)のうちは、放課後(平日の小学校終了後)の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。当てはまる番号すべてに○をつけ、それぞれ希望する週あたり日数をご記入ください。

小学校低学年(1～3年生)のうち放課後を過ごさせたい場所については、「放課後児童クラブ(学童保育)」57.8%が最も高く、次いで「自宅」48.1%、「祖父母宅や友人・知人宅」、「習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)」がいずれも21.1%となっている。

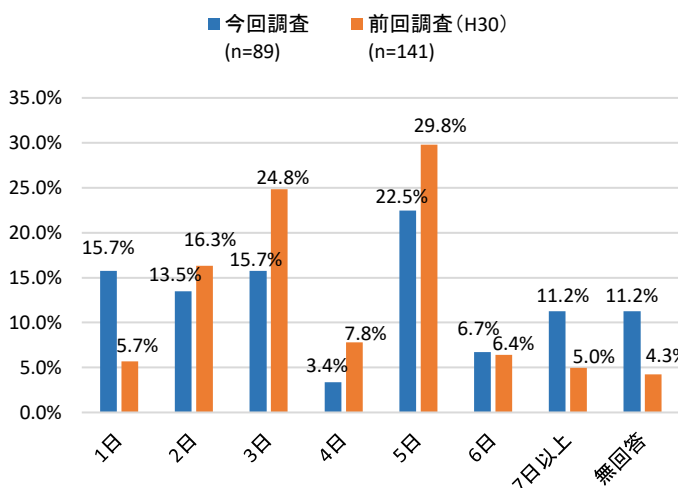
(1) 小学校低学年のうち放課後を過ごさせたい場所

小学校低学年のうち放課後を過ごさせたい場所

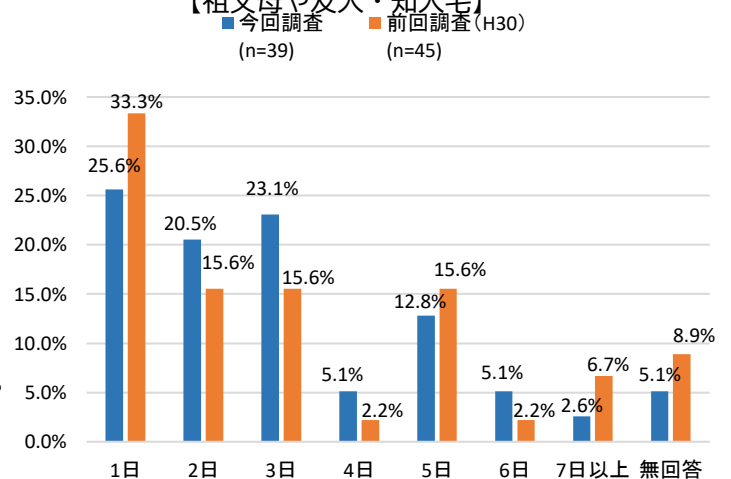


(2) 場所別希望日数【1週間当たり】

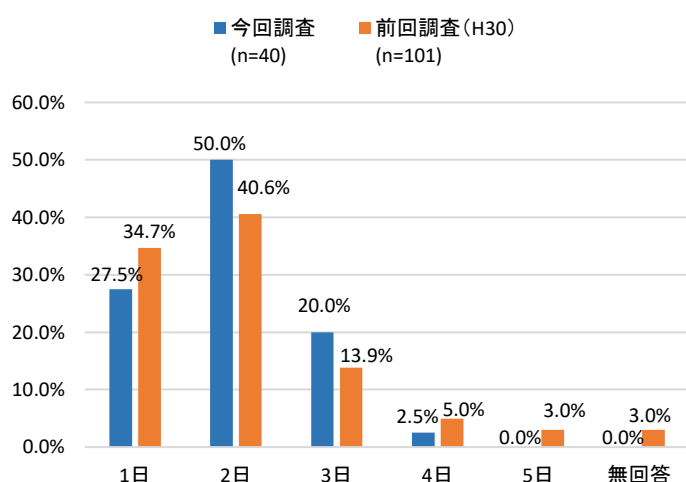
【自宅】



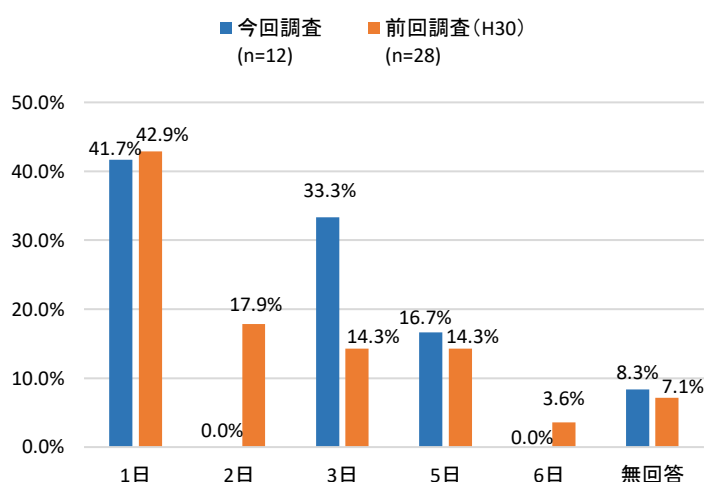
【祖父母や友人・知人宅】



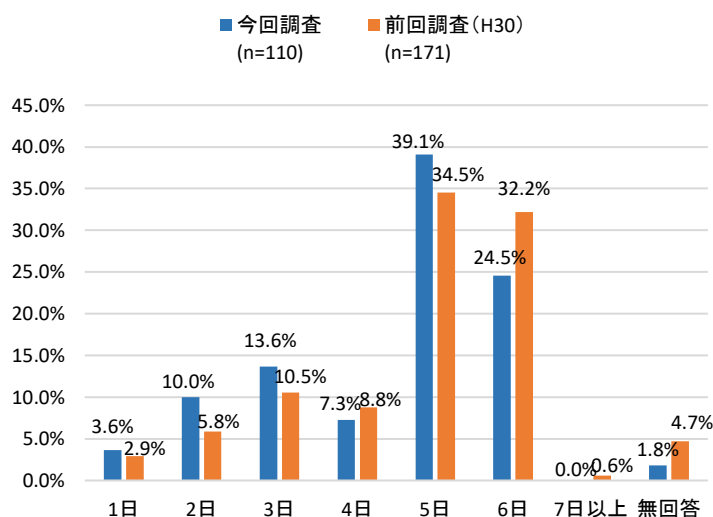
【習い事】



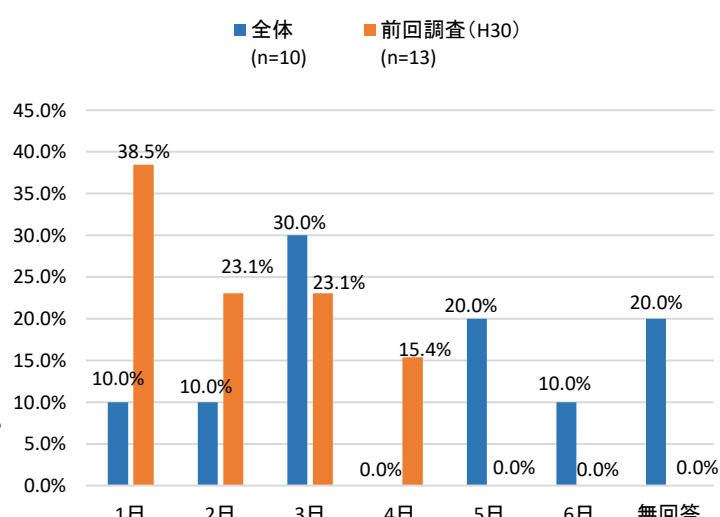
【寺子屋】



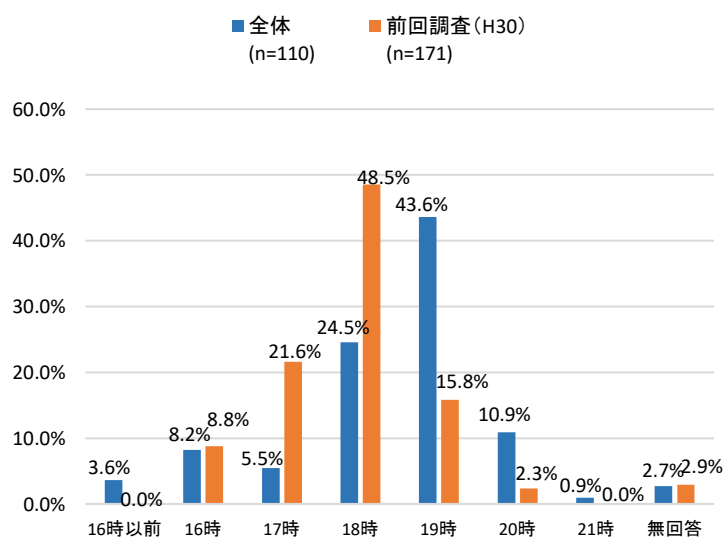
【放課後児童クラブ】



【その他（公民館、公園など）】



【放課後児童クラブ（時間）】



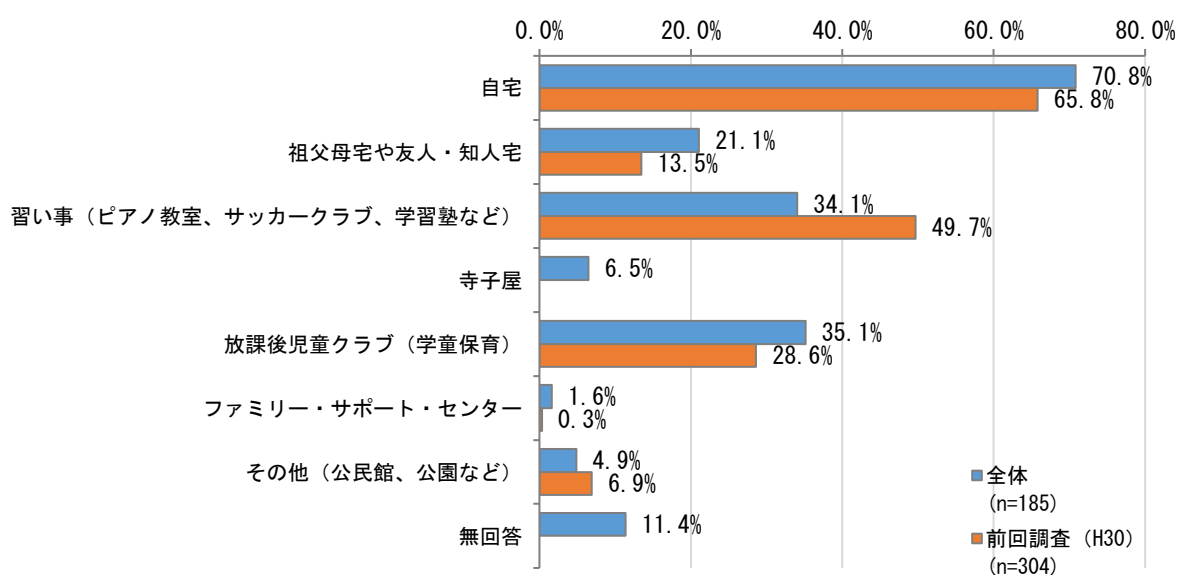
【ファミリー・サポート・センター】 1日1人

問 27 【末子のお子さんが5歳以上である方におたずねします。】
 末子のお子さんについて、小学校高学年(4～6年生)になったら、放課後(平日の小学校終了後から夕方まで)の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。当てはまる番号すべてに○をつけ、それぞれの週当たり日数をご記入ください。

小学校高学年(4～6年生)のうち放課後を過ごさせたい場所については、「自宅」70.8%が最も高く、次いで「放課後児童クラブ(学童保育)」35.1%、「習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)」34.1%となっている。

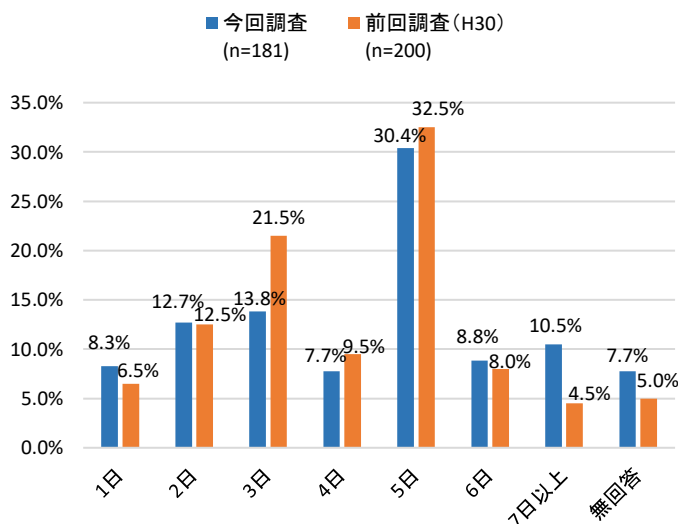
(1) 小学校高学年のうち放課後を過ごさせたい場所

小学校高学年のうち放課後を過ごさせたい場所

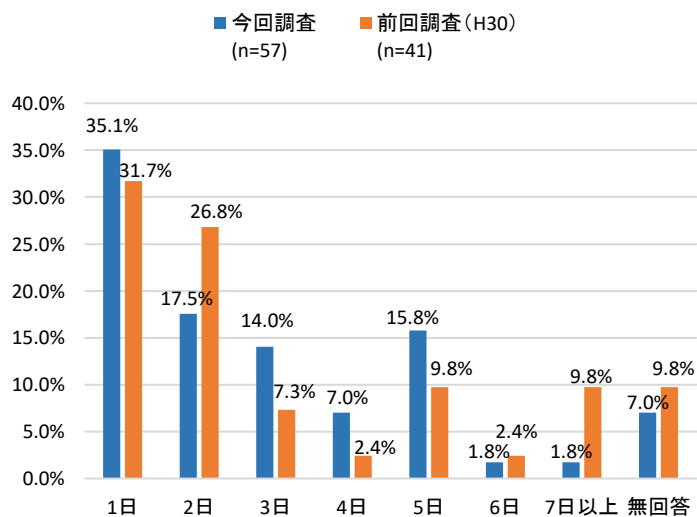


(2) 場所別希望日数【1週間当たり】

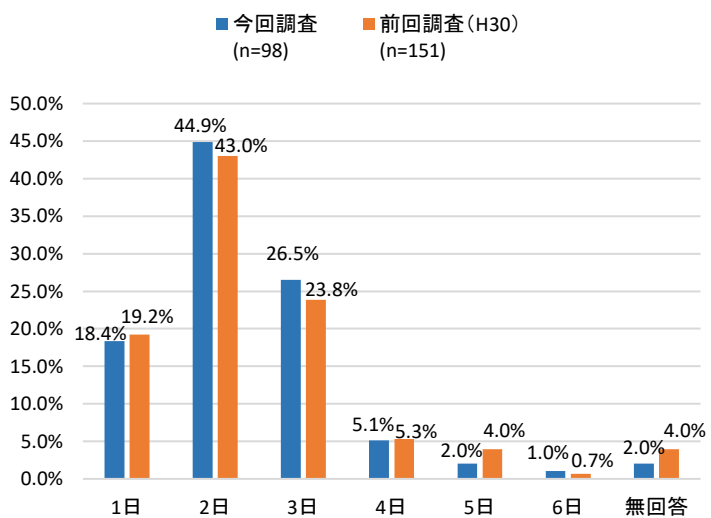
【自宅】



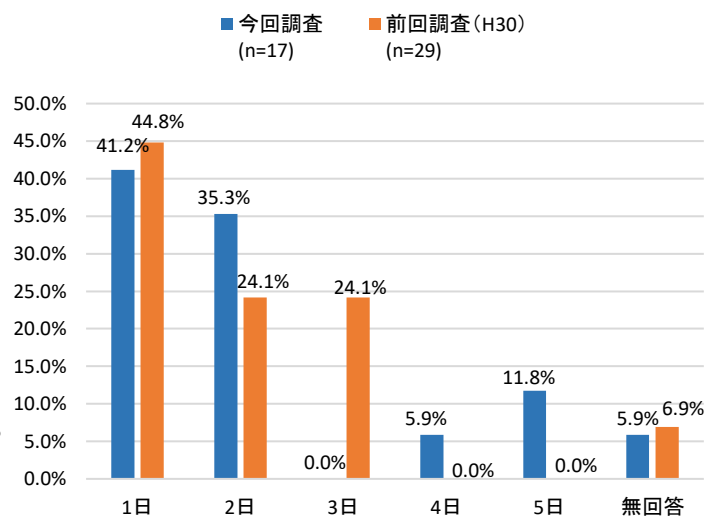
【祖父母や友人・知人宅】



【習い事】



【寺子屋】



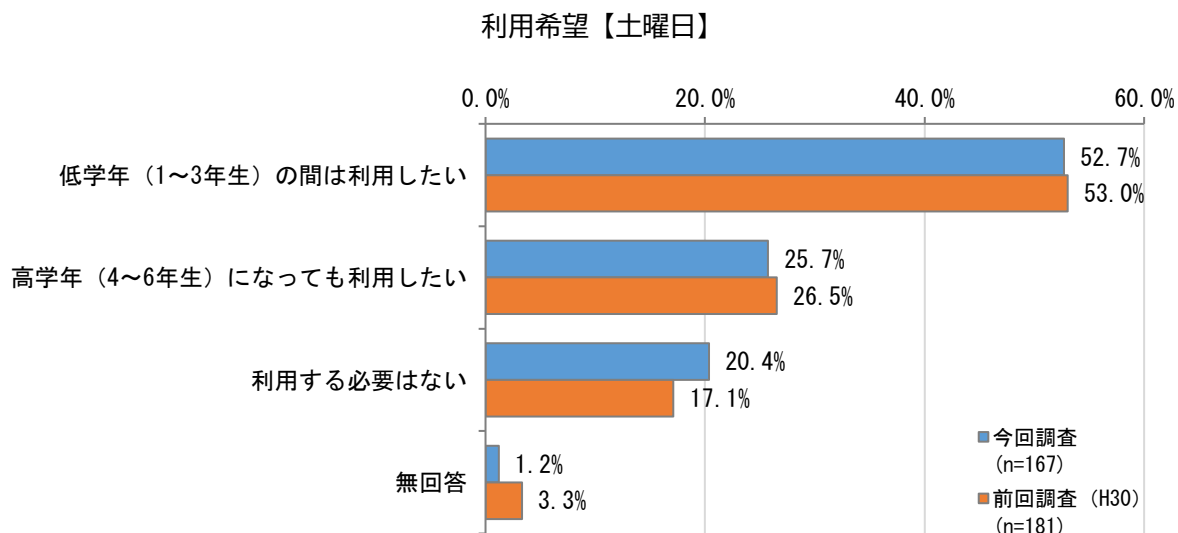
問28 【問26または問27で「5. 放課後児童クラブ(学童保育)」に○をつけた方におたずねします。】末子のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、放課後児童クラブの利用希望はありますか。なお、事業の利用には、一定の利用料がかかります。(1)(2)それぞれについて、当てはまる番号1つに○をつけてください。

(1)土曜日

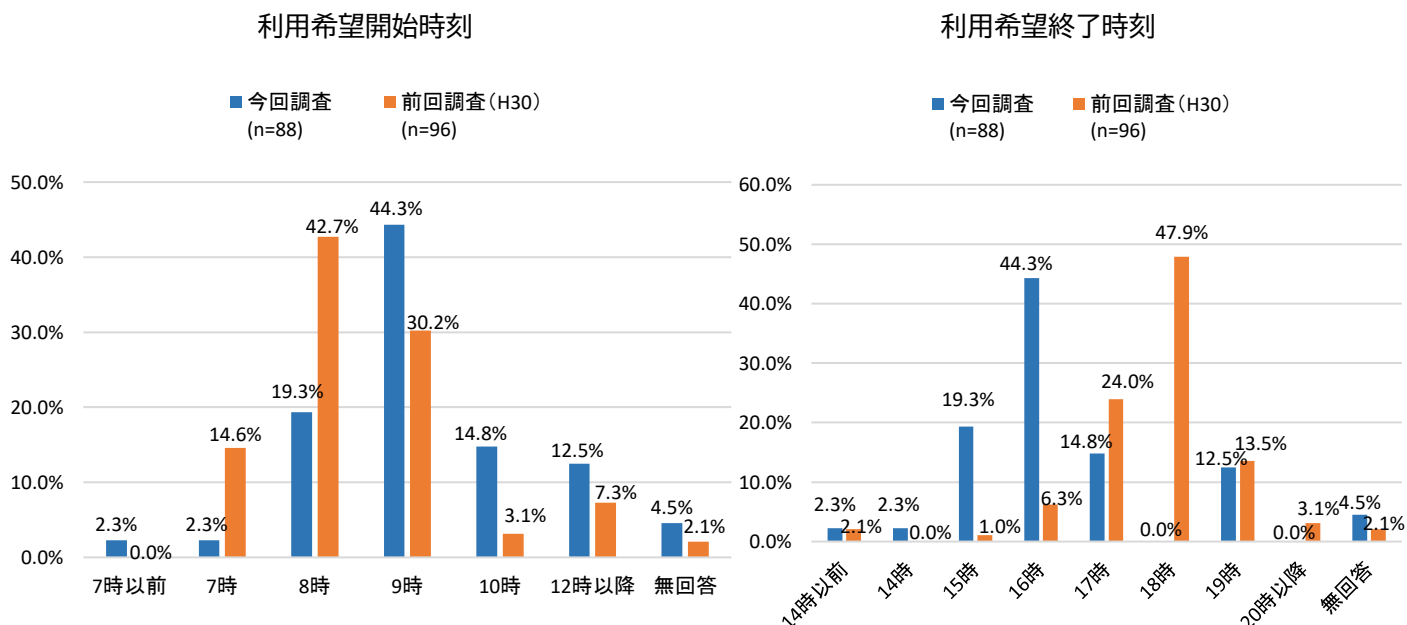
土曜日の放課後児童クラブの利用希望について、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」52.7%が最も高く、次いで「高学年（4～6年生）になっても利用したい」25.7%、「利用する必要はない」20.4%となっている。

利用希望開始時刻については、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」では「9時」が44.3%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」では「12時以降」が65.8%と最も高くなっている。

利用希望終了時刻については、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」では「16時」が44.3%、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」では「19時」が58.1%と最も高くなっている。

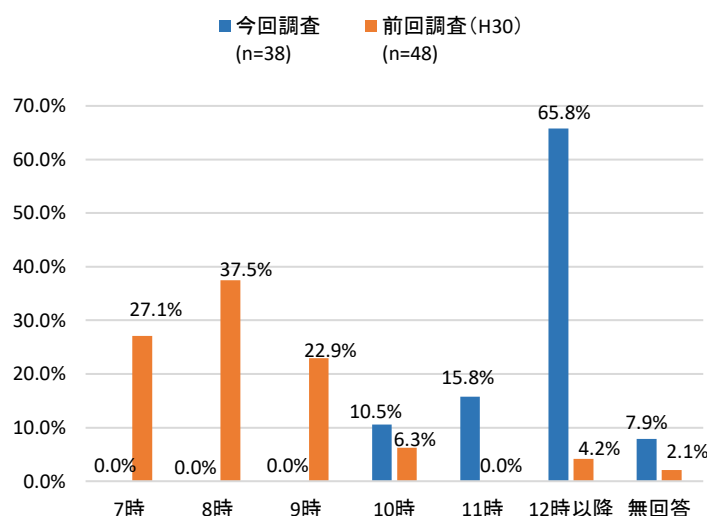


【低学年（1～3年生）の間は利用したいと回答した方】

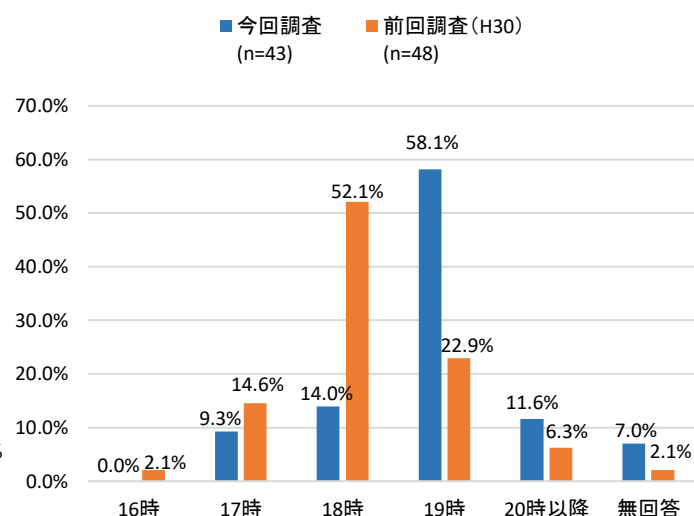


【高学年（４～６年生）になっても利用したいと回答した方】

利用希望開始時刻



利用希望終了時刻



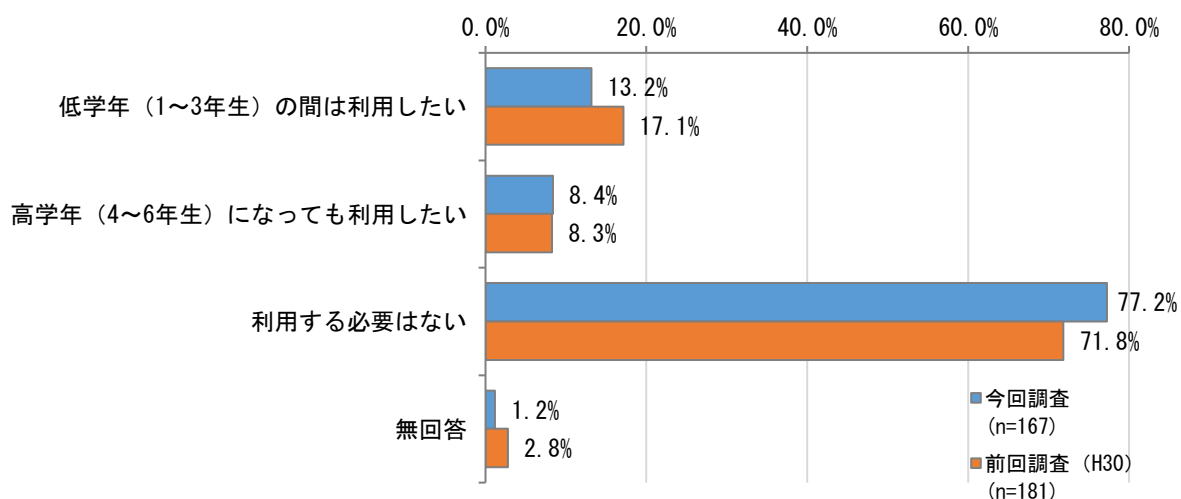
(2)日曜・祝日

日曜・祝日の放課後児童クラブの利用希望について、「利用する必要はない」77.2%が最も高く、次いで「低学年（１～３年生）の間は利用したい」13.2%、「高学年（４～６年生）になっても利用したい」8.4%となっている。

利用希望開始時刻については、「低学年（１～３年生）の間は利用したい」では「９時」が31.8%、「高学年（４～６年生）になっても利用したい」では「12 時以降」が72.7%と最も高くなっている。

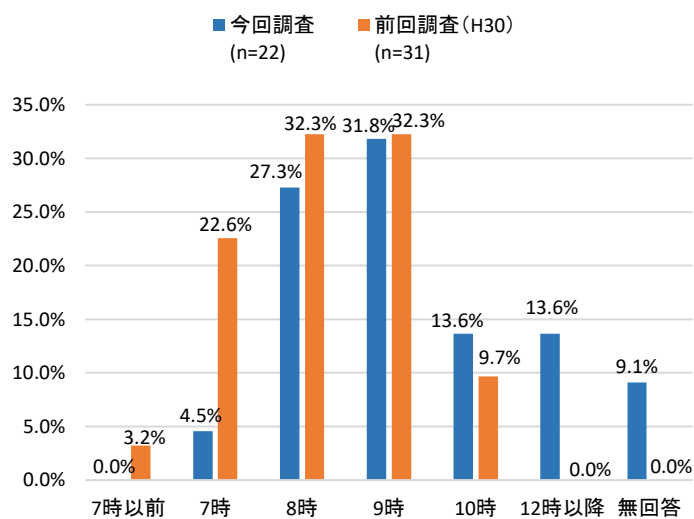
利用希望終了時刻については、「低学年（１～３年生）の間は利用したい」では「16 時」が31.8%、「高学年（４～６年生）になっても利用したい」では「19 時」が57.1%と最も高くなっている。

利用希望【日曜・祝日】

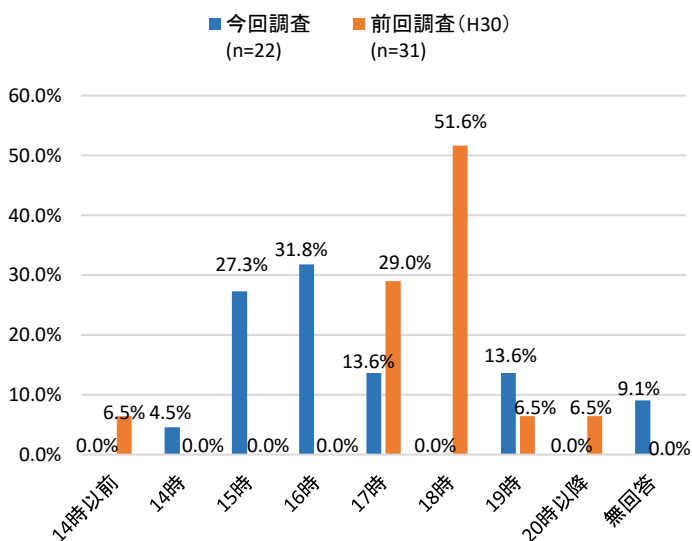


【低学年（１～３年生）の間は利用したいと回答した方】

利用希望開始時刻

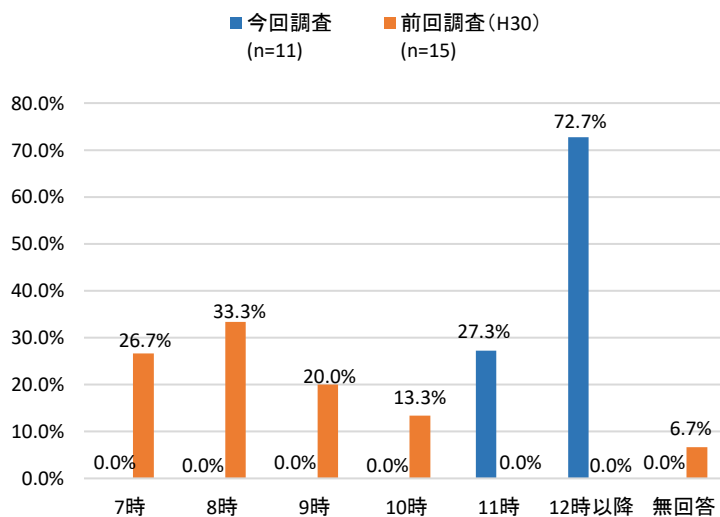


利用希望終了時刻

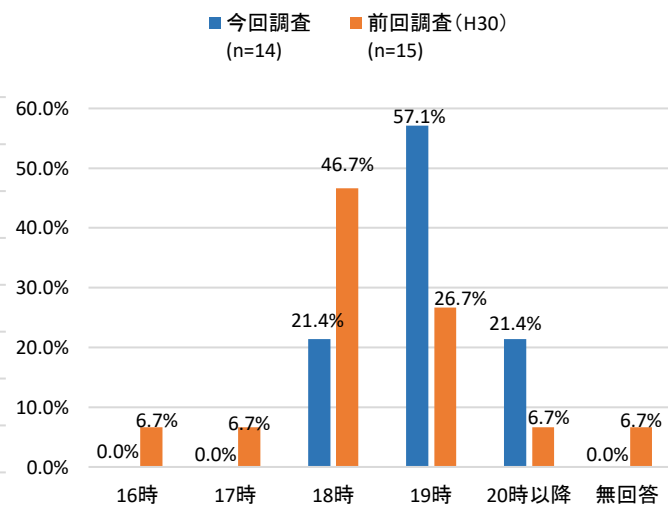


【高学年（４～６年生）になっても利用したいと回答した方】

利用希望開始時刻



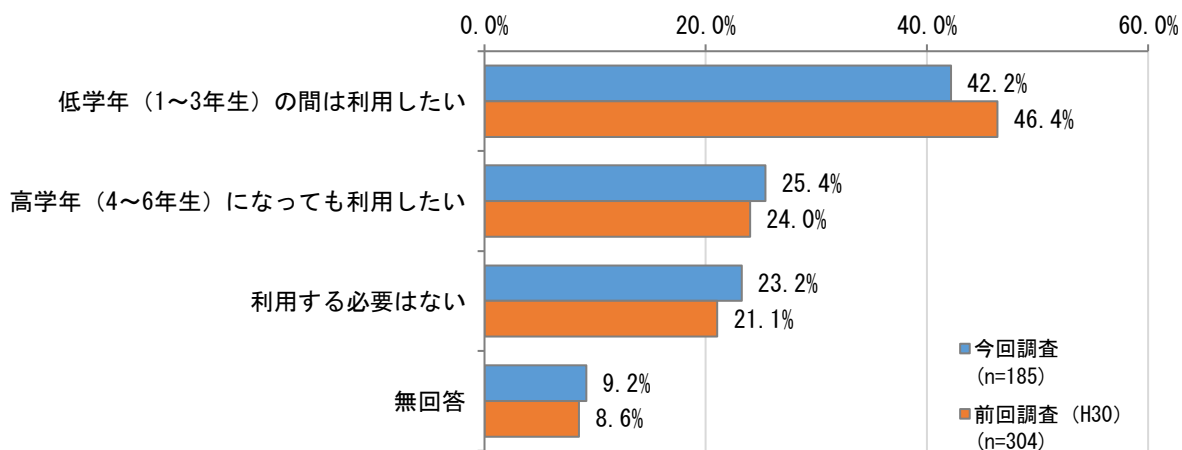
利用希望終了時刻



問29 末子のお子さんについて、お子さんの夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望はありますか。なお、事業の利用には、一定の利用料がかかります。当てはまる番号1つに○をつけてください。

長期休暇期間中の放課後児童クラブの利用については、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」42.2%が最も高く、次いで「高学年（4～6年生）になっても利用したい」25.4%、「利用する必要はない」23.2%となっている。

利用希望の有無（長期休暇中）



10. 育児休業や短時間勤務制度など、職場の両立支援制度について

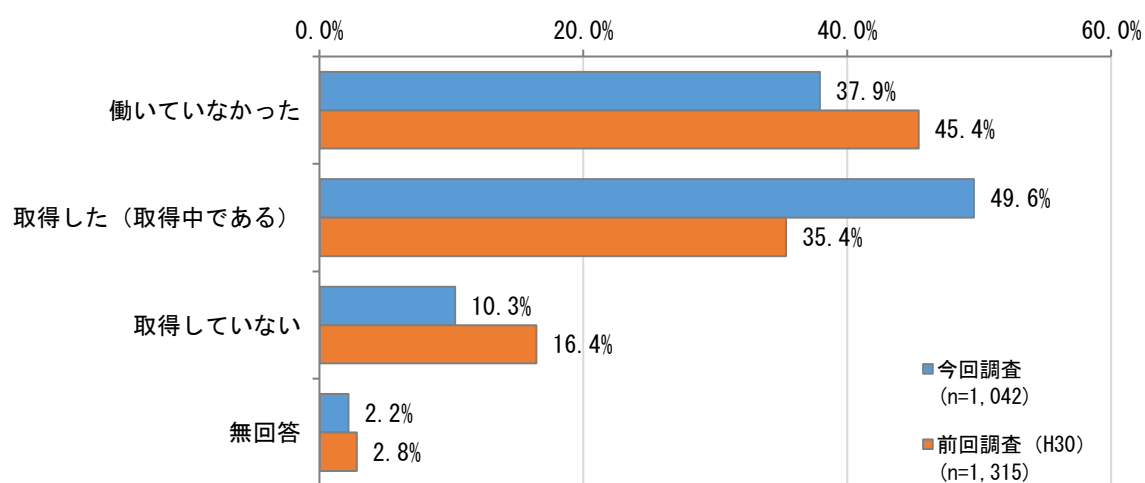
問30 末子のお子さんが生まれた時、父母のいずれか、もしくは双方が育児休業を取得しましたか。母親、父親それぞれについて、当てはまる番号1つに○をつけてください。

(1) 育児休業の取得状況

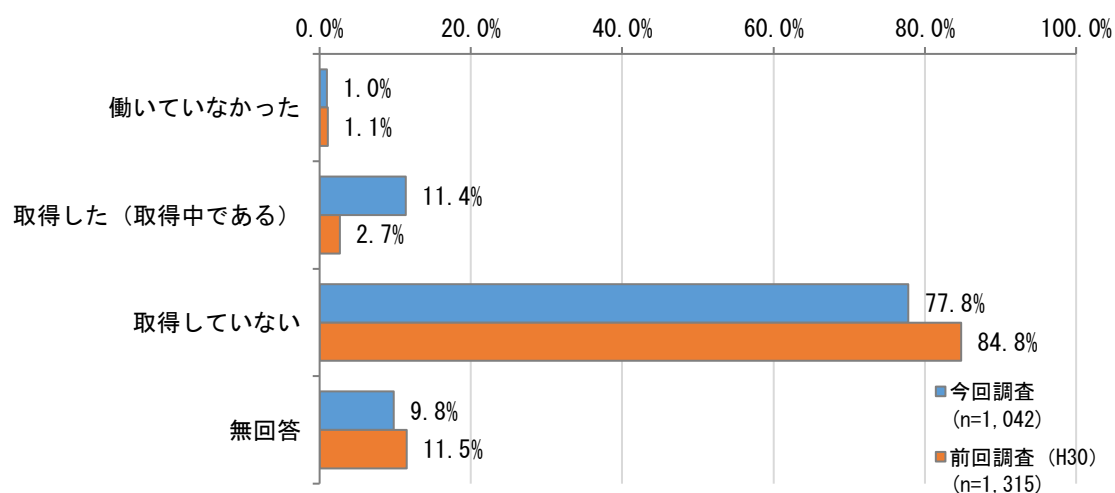
母親の育児休業の取得状況については、「取得した（取得中である）」49.6%が最も高く、次いで「働いていなかった」37.9%、「取得していない」10.3%となっている。

父親については、「取得していない」77.8%が最も高く、次いで「取得した（取得中である）」11.4%、「働いていなかった」1.0%となっている。

育児休業取得の有無【母親】



育児休業取得の有無【父親】

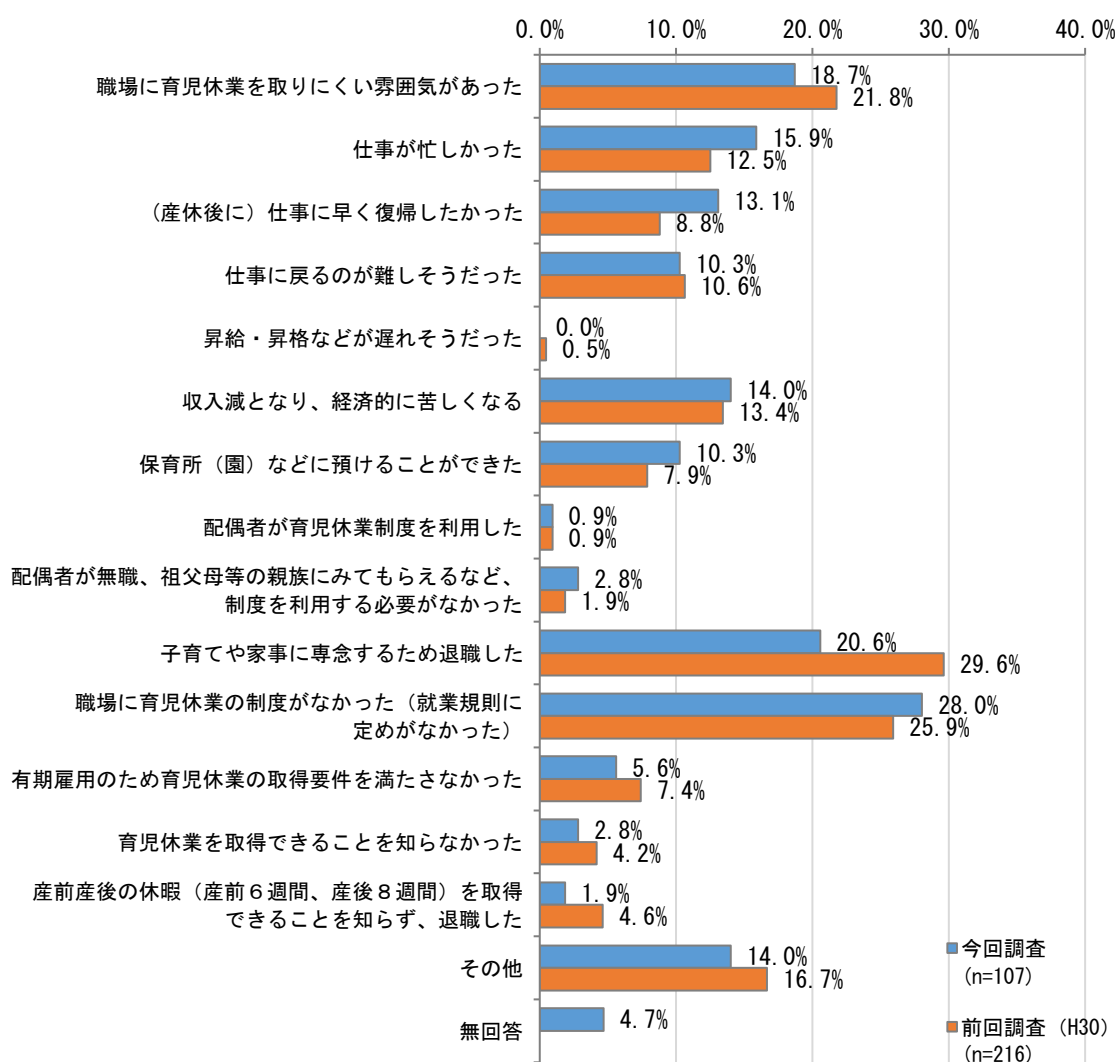


(2)取得していない理由

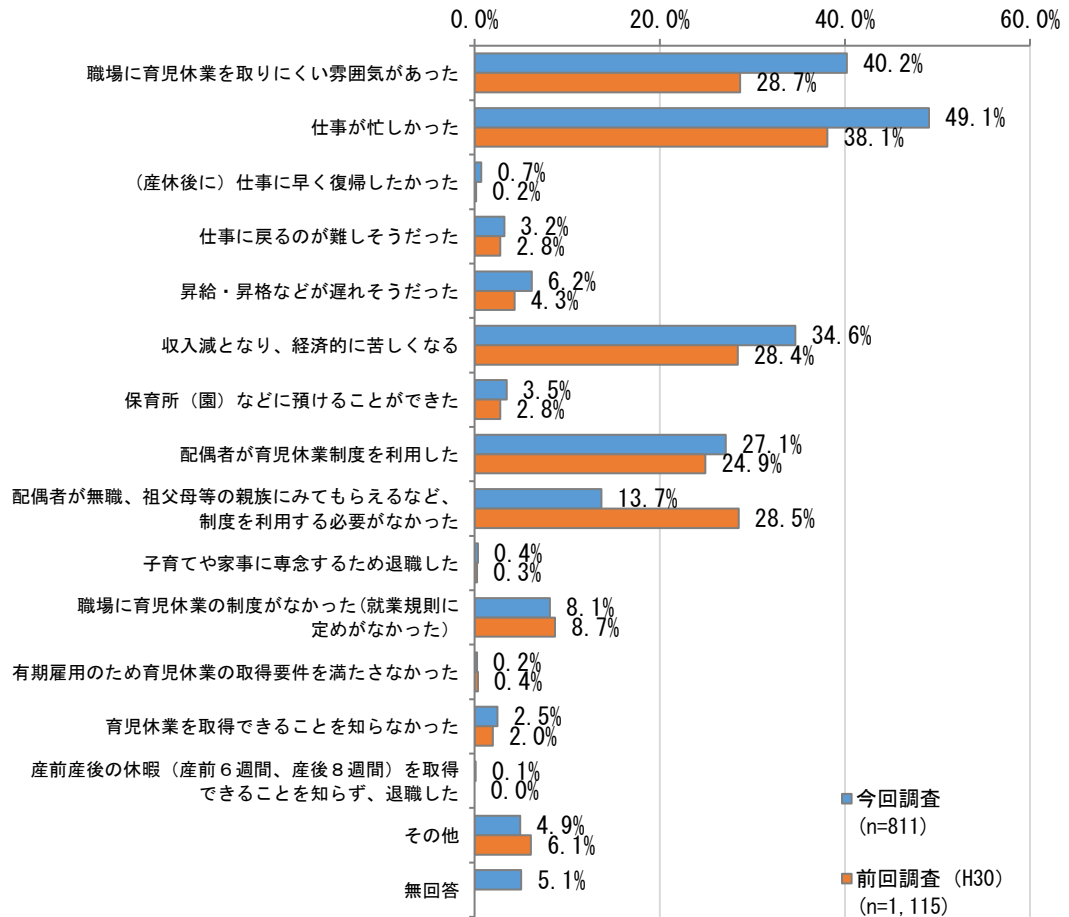
母親の育児休業を取得していない理由については、「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」28.0%が最も高く、次いで「子育てや家事に専念するため退職した」20.6%、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」18.7%となっている。

父親については、「仕事が忙しかった」49.1%が最も高く、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」40.2%、「収入減となり、経済的に苦しくなる」34.6%となっている。

育児休業を取得していない理由【母親】



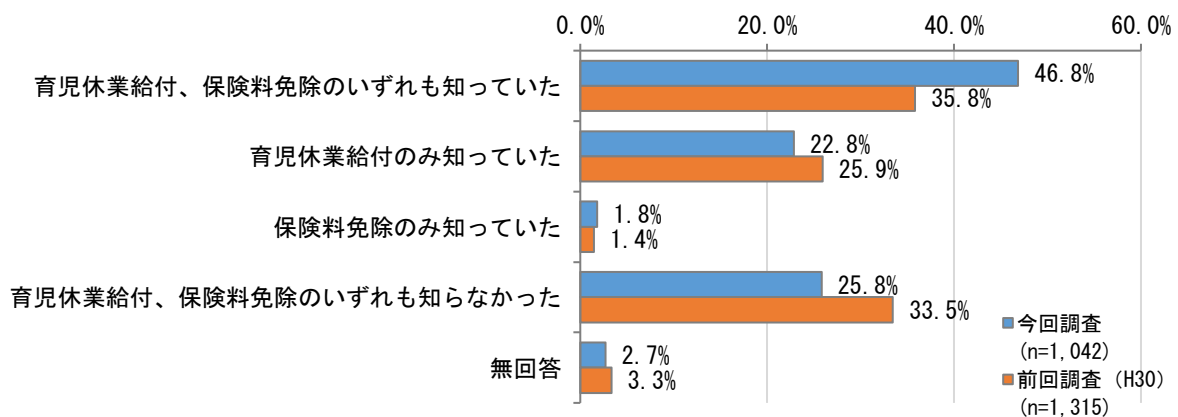
育児休業を取得していない理由【父親】



問30-1 子どもが原則1歳(保育所における保育の実施が行われないなど一定の要件を満たす場合は最長2歳)になるまで育児休業給付が支給される仕組み、子どもが満3歳になるまでの育児休業等(法定の育児休業及び企業が法定を上回る期間設けた育児休業に準ずる措置)期間について健康保険及び厚生年金保険の保険料が免除になる仕組みがありますが、そのことをご存じでしたか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

育児休業給付、保険料免除の認知状況については、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」46.8%が最も高く、次いで「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」25.8%、「育児休業給付のみ知っていた」22.8%となっている。

図表 10-7 制度の認知状況

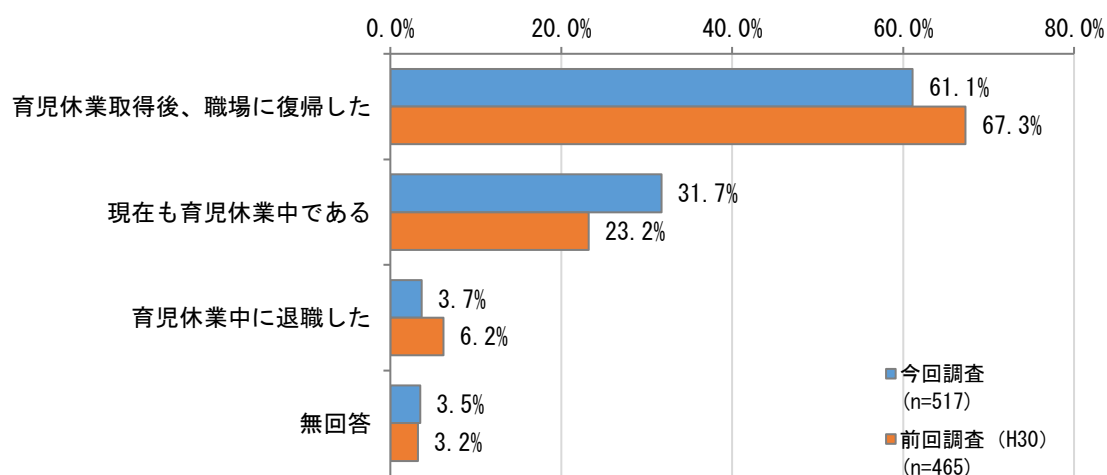


問30-2 【問30で「2.取得した(取得中である)」と回答した方(母親・父親それぞれ)におたずねします。】育児休業取得後、職場に復帰しましたか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

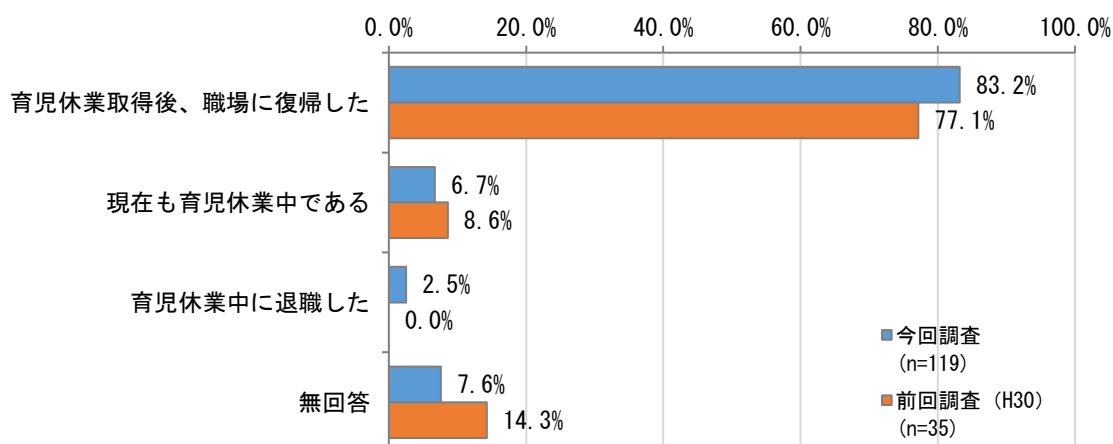
育児休業取得後の職場復帰について、母親では「育児休業取得後、職場に復帰した」61.1%が最も高く、次いで「現在も育児休業中である」31.7%、「育児休業中に退職した」3.7%となっている。

父親については、「育児休業取得後、職場に復帰した」83.2%が最も高く、次いで「現在も育児休業中である」6.7%、「育児休業中に退職した」2.5%となっている。

育児休業後の状況【母親】



育児休業後の状況【父親】

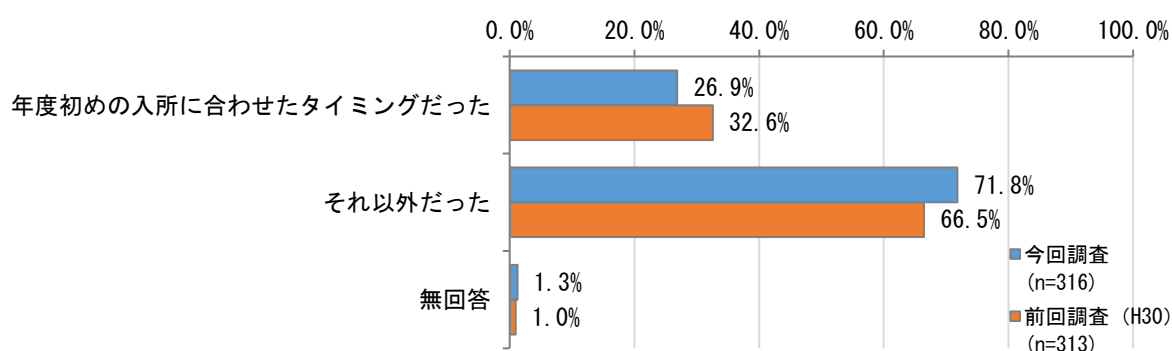


問30-3 【問 30-2 で「1.育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方(母親・父親それぞれ)におたずねします。】育児休業から職場に復帰したのは、年度初めの保育所入所に合わせたタイミングでしたか。あるいはそれ以外でしたか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

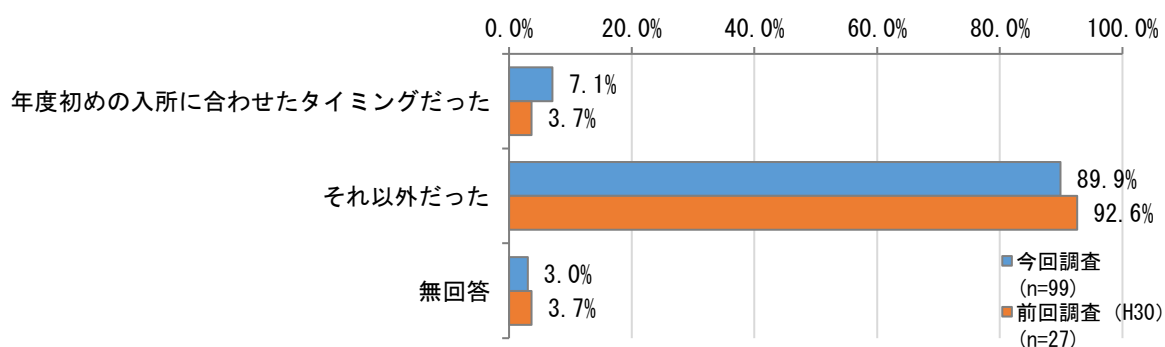
育児休業から職場に復帰したのは、年度初めの保育所入所に合わせたタイミングだったかについて、母親では「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」26.9%、「それ以外だった」71.8%となっている。

父親については「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」7.1%、「それ以外だった」89.9%となっている。

職場復帰のタイミング【母親】



職場復帰のタイミング【父親】



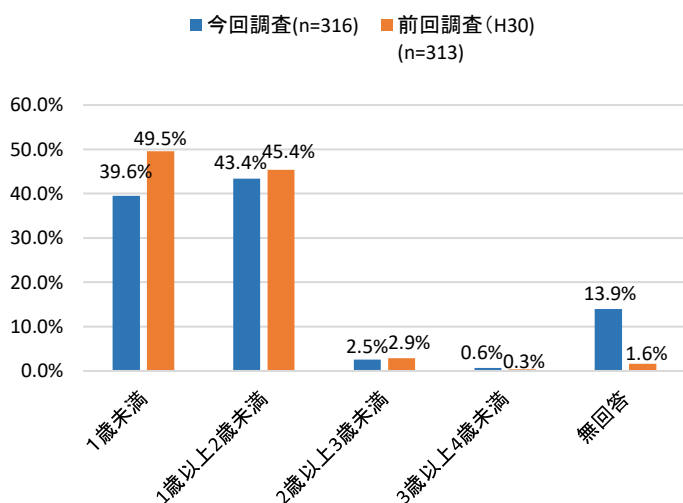
問30-4 育児休業からは、「実際」にお子さんが何歳何ヶ月のときに職場復帰しましたか。また、お勤め先の育児休業の制度の期間内で、何歳何ヶ月のときまで取りたかったですか。

【実際】

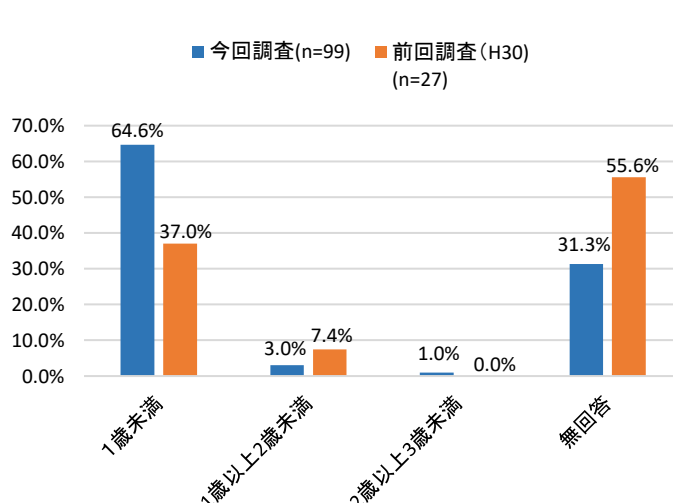
職場復帰時の子どもの年齢について、母親が実際に職場復帰した年齢は「1歳以上2歳未満」43.4%が最も高く、次いで「1歳未満」39.6%、「2歳以上3歳未満」2.5%となっている。

父親が実際に職場復帰した年齢は、「1歳未満」64.6%が最も高く、次いで「1歳以上2歳未満」3.0%、「2歳以上3歳未満」1.0%となっている。

職場復帰時の子どもの年齢【母親】



職場復帰時の子どもの年齢【父親】

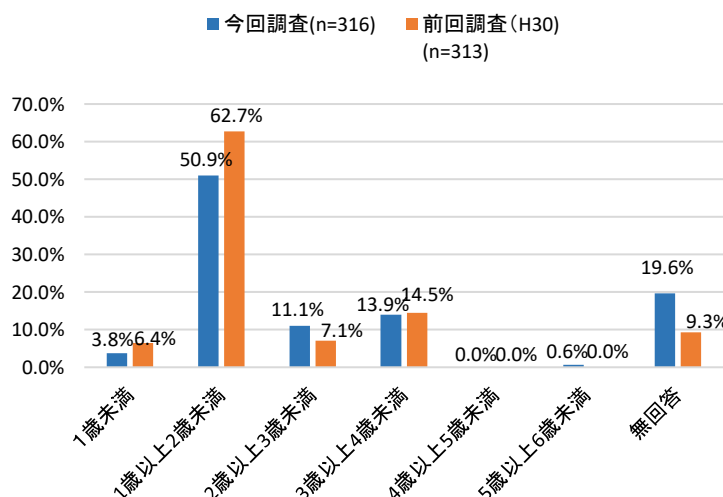


【希望】

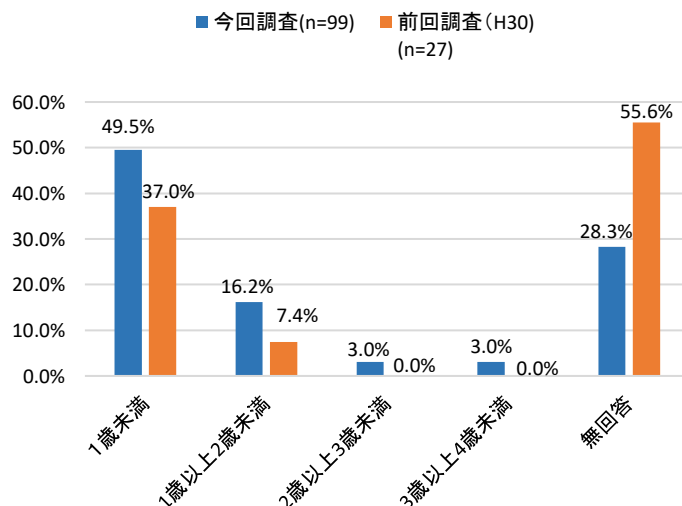
母親が希望していた職場復帰年齢については、「1歳以上2歳未満」50.9%が最も高く、次いで「3歳以上4歳未満」13.9%、「2歳以上3歳未満」11.1%となっている。

父親については、「1歳未満」49.5%が最も高く、次いで「1歳以上2歳未満」16.2%、「2歳以上3歳未満」、「3歳以上4歳未満」がいずれも3.0%となっている。

希望していた職場復帰年齢【母親】



希望していた職場復帰年齢【父親】

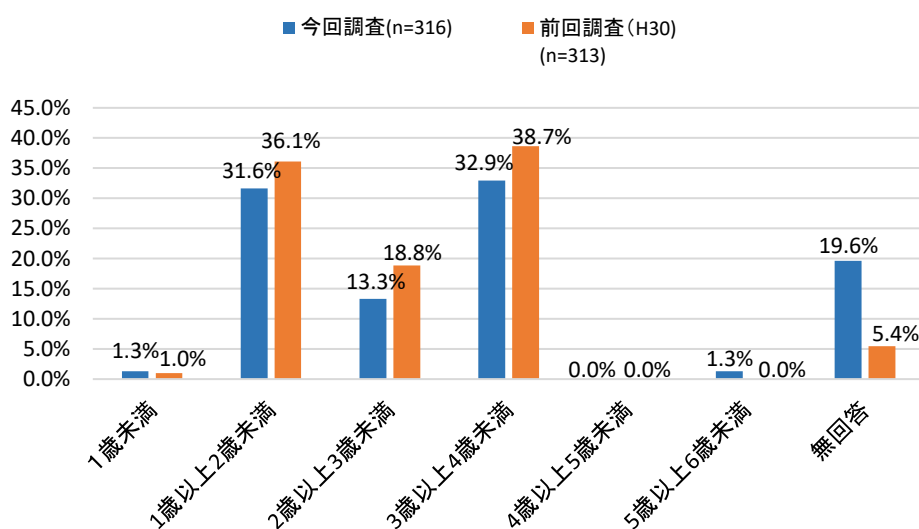


問30-5 お勤め先に育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、「希望」としてはお子さんが何歳何ヶ月のときまで取りたかったですか。

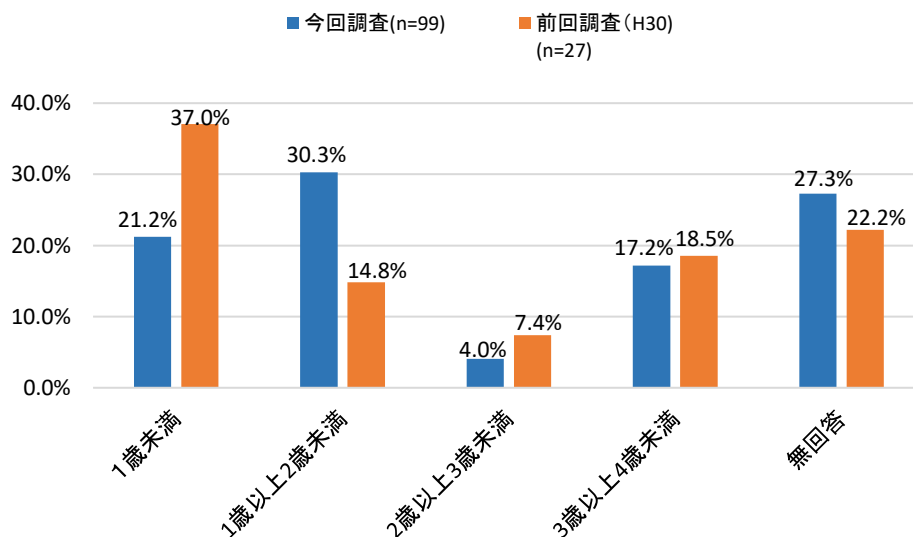
3歳まで休暇を取得できる制度があった場合の希望する職場復帰年齢について、母親では「3歳以上4歳未満」32.9%が最も高く、次いで「1歳以上2歳未満」31.6%、「2歳以上3歳未満」13.3%となっている。

父親については、「1歳以上2歳未満」30.3%が最も高く、次いで「1歳未満」21.2%、「3歳以上4歳未満」17.2%となっている。

3歳まで休暇を取得できる制度があった場合の職場復帰年齢【母親】



3歳まで休暇を取得できる制度があった場合の職場復帰年齢【父親】



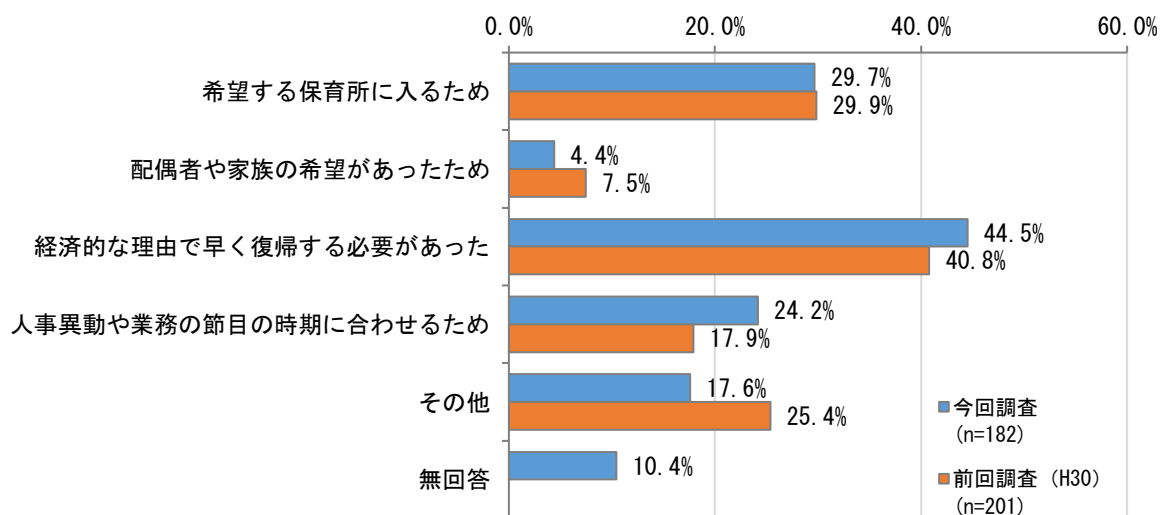
問30-6 【問30-4で実際の復帰と希望が異なる方におたずねします。】
希望の時期に職場復帰しなかった理由についておたずねします。

(1) 「希望」より早く復帰した方

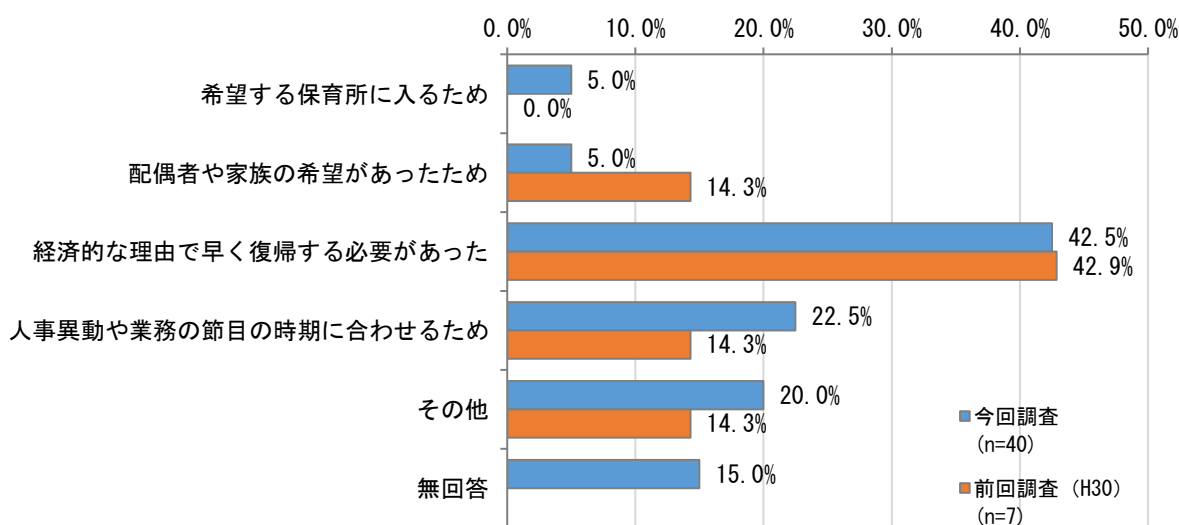
希望の時期に職場復帰しなかった理由について、希望より早く復帰した母親では、「経済的な理由で早く復帰する必要があった」44.5%が最も高く、次いで「希望する保育所に入るため」29.7%、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」24.2%となっている。

希望より早く復帰した父親については、「経済的な理由で早く復帰する必要があった」42.5%が最も高く、次いで「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」22.5%、「その他」20.0%となっている。「その他」の内容については、「職場の人員不足」、「妻が育休取得中のため」などの回答があげられた。

職場復帰の状況（希望と実際との差：母親）



職場復帰の状況（希望と実際との差：父親）

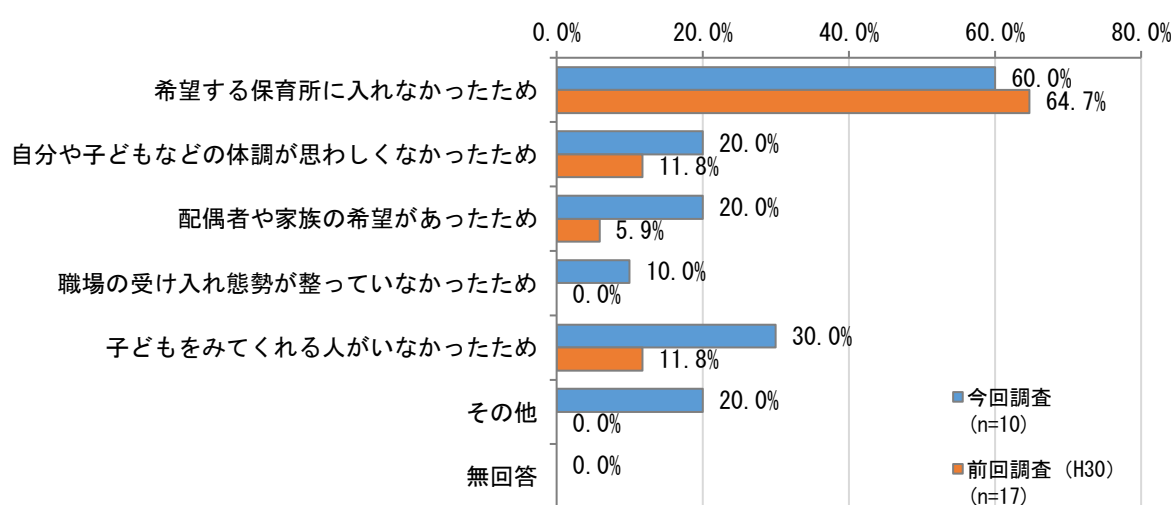


(2) 「希望」より遅く復帰した方(複数回答)

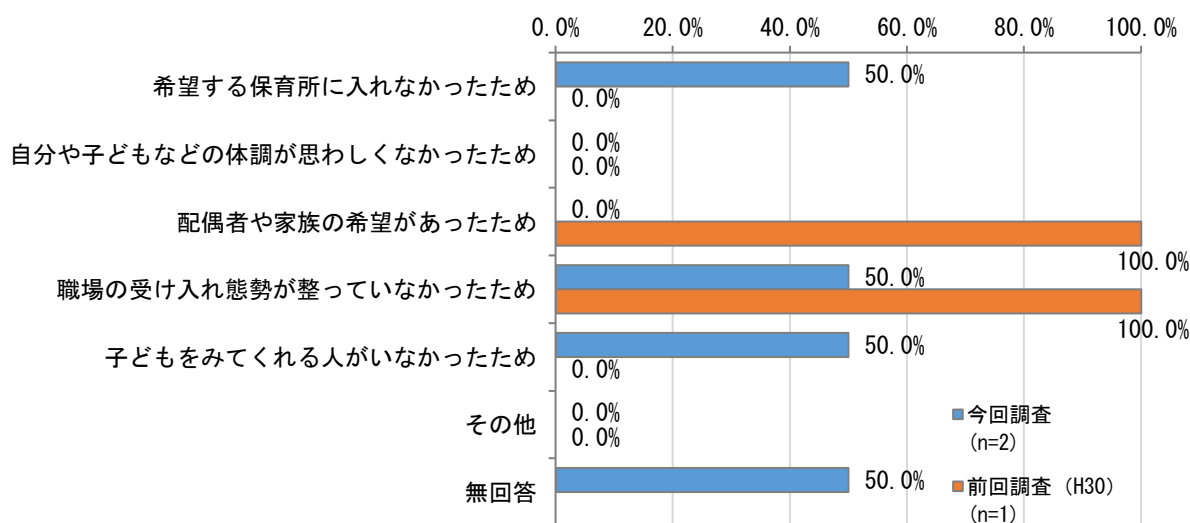
希望の時期に復帰しなかった理由について、希望より遅く復帰した母親では、「希望する保育所に入れなかったため」60.0%が最も高く、次いで「子どもをみてくれる人がいなかったため」30.0%、「自分や子どもなどの体調が思わしくなかったため」、「配偶者や家族の希望があったため」、「その他」がいずれも20.0%となっている。「その他」の内容については、「自宅勤務推奨の時期だったから」、「年度初めに合わせるため」などの回答があげられた。

父親はサンプル数が少ないことに留意する必要があるが、「希望する保育所に入れなかったため」、「職場の受け入れ態勢が整っていなかったため」、「子どもをみてくれる人がいなかったため」がいずれも50.0%となっている。

希望の時期に復帰しなかった理由（母親）



希望の時期に復帰しなかった理由（父親）

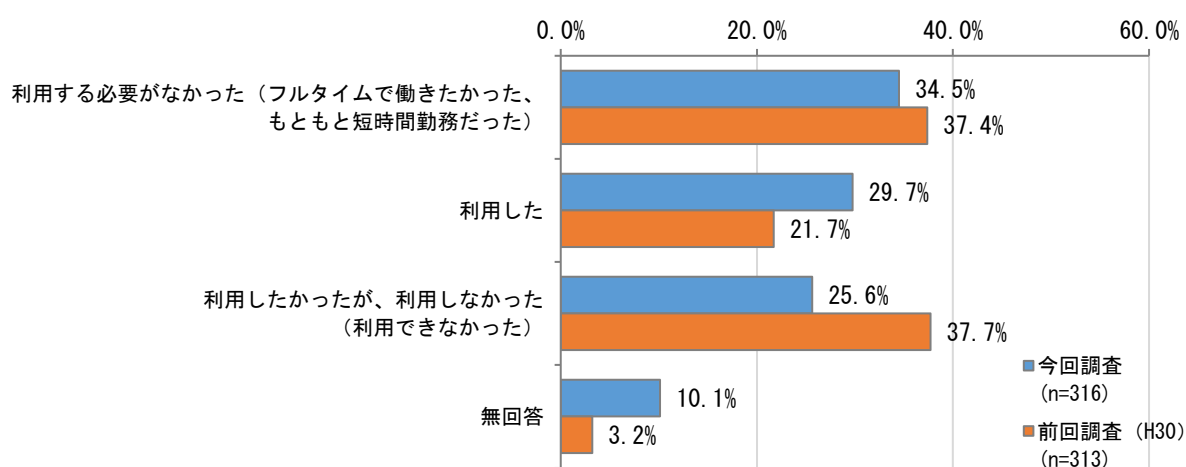


問30-7 【問 30-2 で「1.育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方におたずねします。】
育児休業からの職場復帰時には、短時間勤務制度を利用しましたか。母親・父親それぞれ当てはまる番号1つに○をつけてください。

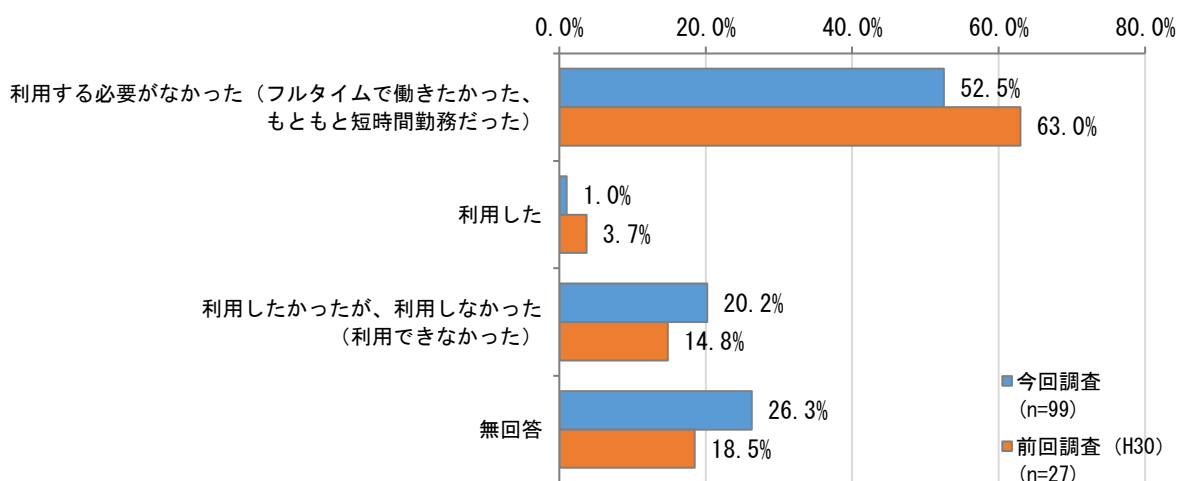
短時間勤務制度利用の有無について、母親では「利用する必要がなかった（フルタイムで働きたかった、もともと短時間勤務だった）」34.5%が最も高く、次いで「利用した」29.7%、「利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）」25.6%となっている。

父親については、「利用する必要がなかった（フルタイムで働きたかった、もともと短時間勤務だった）」52.5%が最も高く、次いで「利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）」20.2%となっている。「利用した」は1.0%にとどまっている。

短時間勤務制度利用の有無【母親】



短時間勤務制度利用の有無【父親】

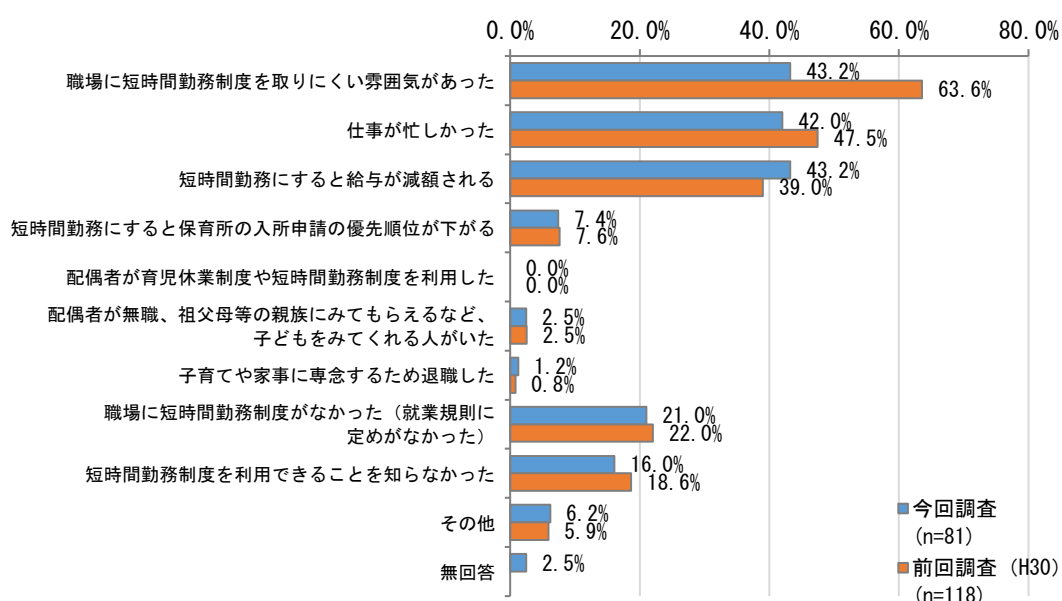


問30-8 【問 30-7 で「3.利用しなかったが、利用しなかった(利用できなかった)」と回答した方におたずねします。】短時間勤務制度を利用しなかった(利用できなかった)理由は何ですか。母親・父親それぞれ当てはまる理由をすべてに○をつけてください。

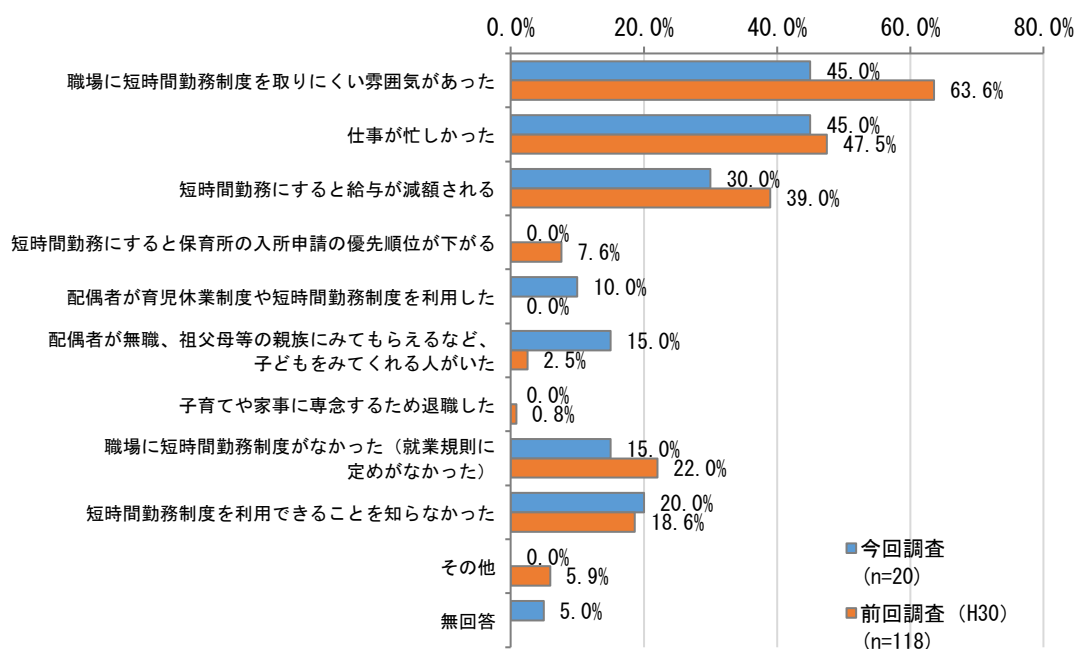
短時間勤務制度を利用しなかった（利用できなかった）理由について、母親では「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」、「短時間勤務にすると給与が減額される」がいずれも 43.2%と最も高く、次いで「仕事が忙しかった」42.0%、「職場に短時間勤務制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」21.0%となっている。

父親については、「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」、「仕事が忙しかった」がいずれも 45.0%と最も高く、次いで「短時間勤務にすると給与が減額される」30.0%、「短時間勤務制度を利用できることを知らなかった」20.0%となっている。

短時間勤務制度を利用しなかった理由（母親）



短時間勤務制度を利用しなかった理由（父親）

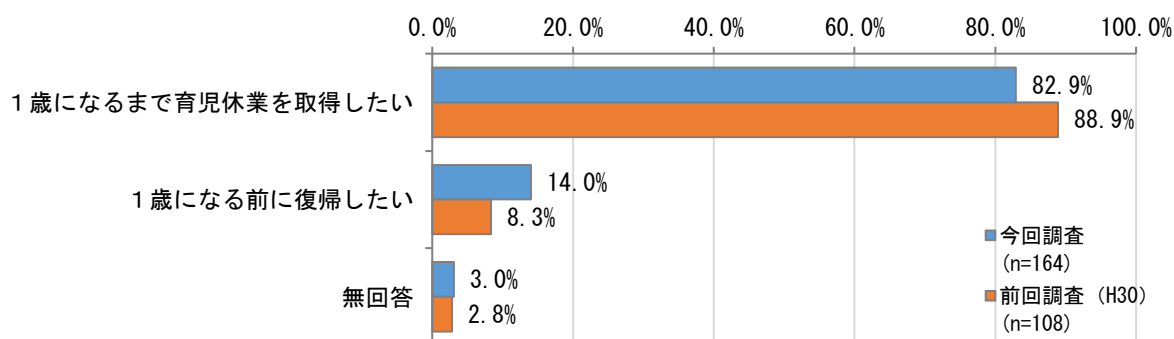


問30-9 【問 30-2 で「2.現在も育児休業中である」と回答した方におたずねします。】
 末子のお子さんが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば、1歳になるまで
 育児休業を取得しますか。または、預けられる事業があっても1歳になる前に復帰しま
 すか。母親・父親それぞれ当てはまる番号1つに○をつけてください。

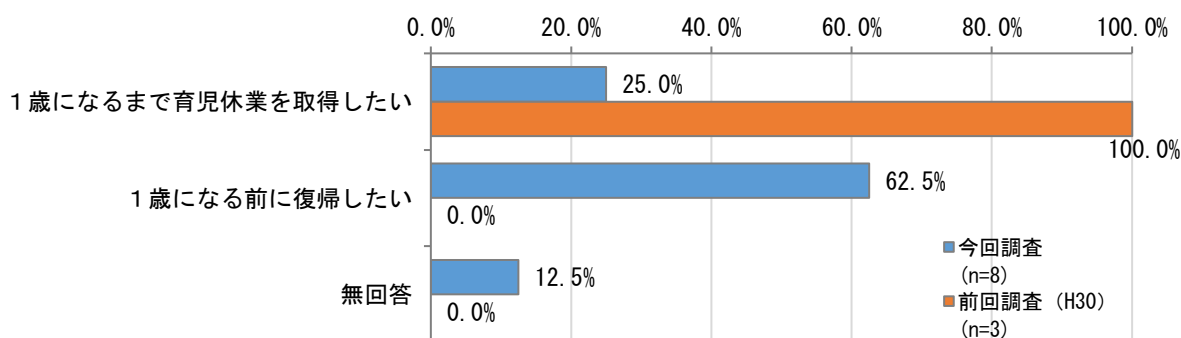
1歳になったときに必ず利用できる保育所等の事業があれば、利用したいか、事業があつても1歳になる前に復帰するかについて、母親では「1歳になるまで育児休業を取得したい」82.9%、「1歳になる前に復帰したい」14.0%となっている。

父親については、「1歳になるまで育児休業を取得したい」25.0%、「1歳になる前に復帰したい」62.5%となっている。

育児休業の取得意向【母親】



育児休業の取得意向【父親】

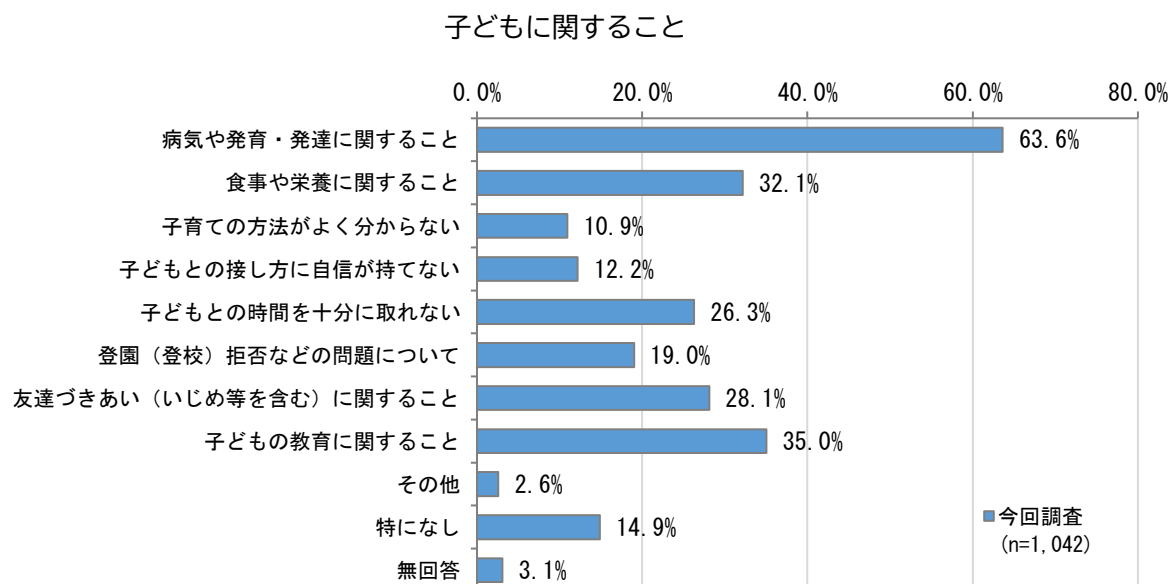


11. 鹿屋市の子育ての環境や支援について

問31 子どもを健やかに生み育てる上で、どのような悩みや不安等に対して、市に支援を期待しますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

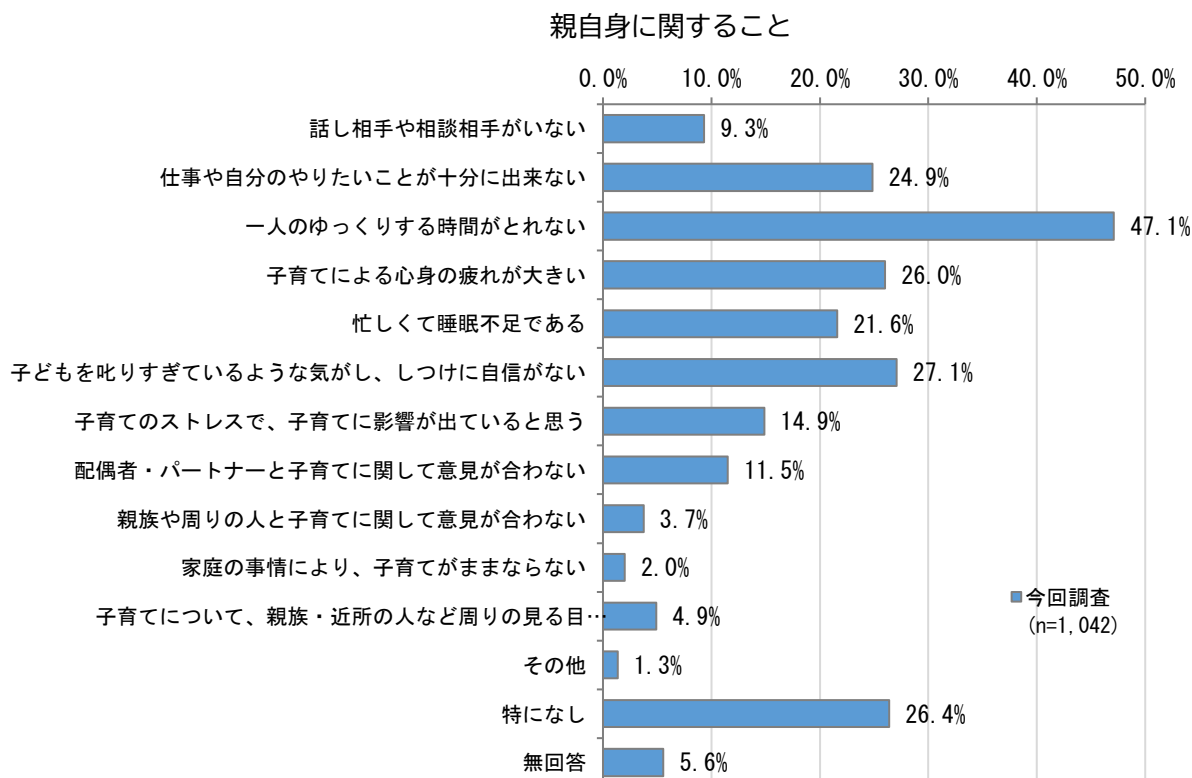
【子どもに関して市に支援を期待すること】

「病気や発育・発達に関すること」63.6%が最も高く、次いで「子どもの教育に関すること」35.0%、「食事や栄養に関すること」32.1%となっている。



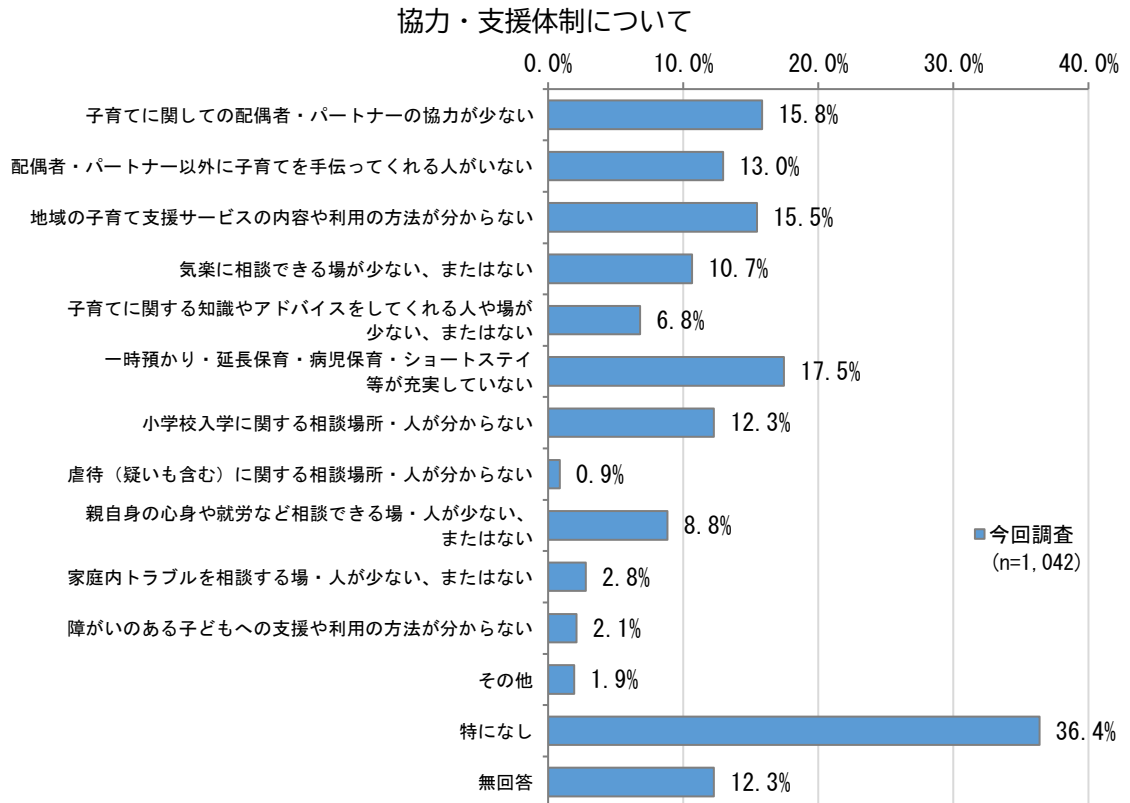
【親自身に関して市に支援を期待すること】

「一人のゆっくりする時間がとれない」47.1%が最も高く、次いで「子どもを叱りすぎているような気がし、しつめに自信がない」27.1%、「特になし」26.4%となっている。



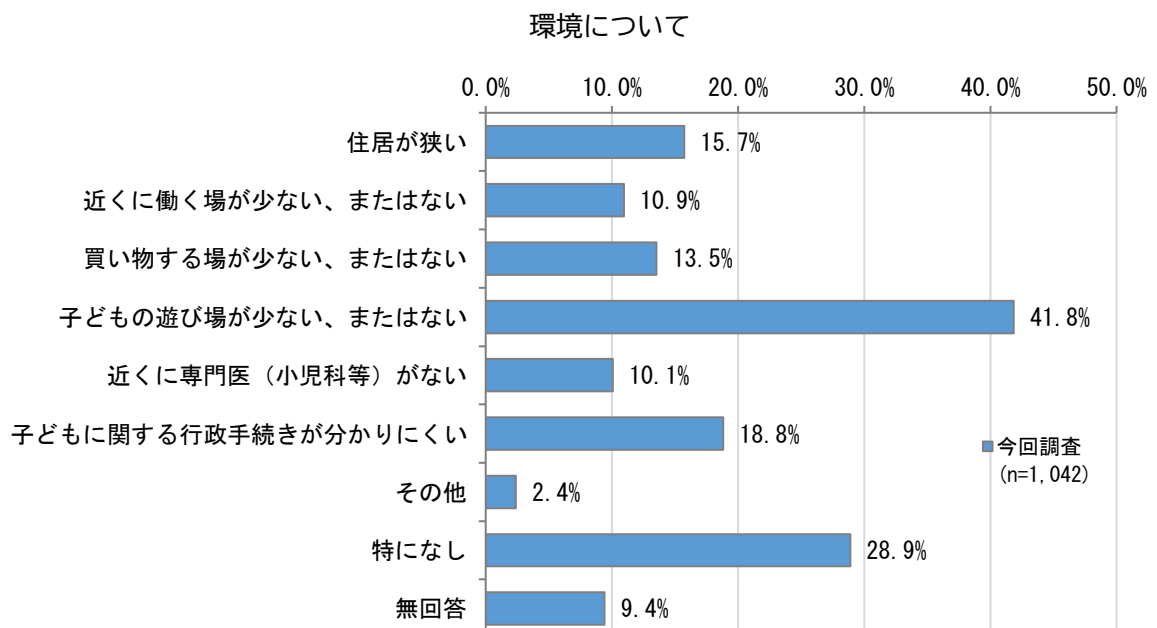
【協力・支援体制について市に支援を期待すること】

「特になし」36.4%が最も高く、次いで「一時預かり・延長保育・病児保育・ショートステイ等が充実していない」17.5%、「子育てに関しての配偶者・パートナーの協力が少ない」15.8%となっている。



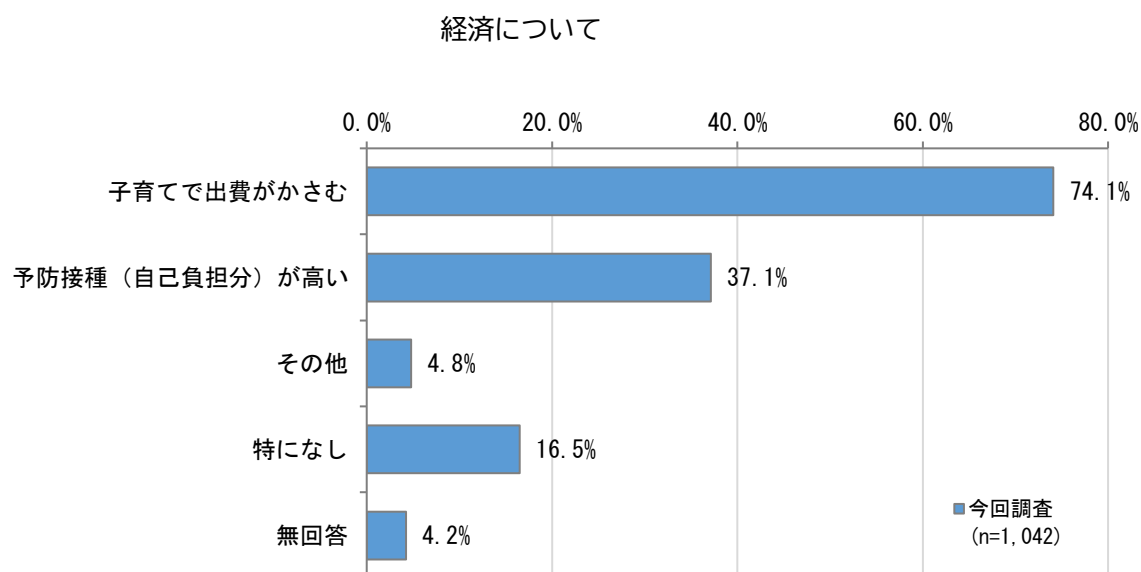
【環境について市に支援を期待すること】

「子どもの遊び場が少ない、またはない」41.8%が最も高く、次いで「特になし」28.9%、「子どもに関する行政手続きが分かりにくい」18.8%となっている。



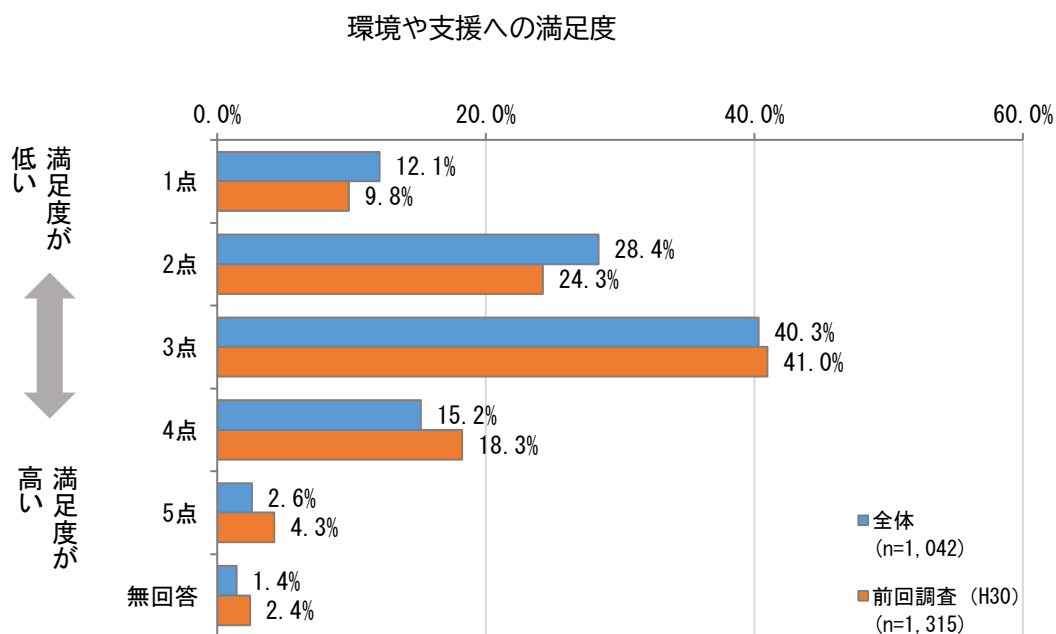
【経済について市に支援を期待すること】

「子育てで出費がかさむ」74.1%が最も高く、次いで「予防接種（自己負担分）が高い」37.1%、「特になし」16.5%となっている。



問32 鹿屋市の子育ての環境や支援への満足度について当てはまる番号1つに○をつけてください。

鹿屋市の子育ての環境や支援への満足度については、「3点」40.3%が最も高く、次いで「2点」28.4%、「4点」15.2%となっている。



問33 最後に、教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

回答件数：343 件（複数回答あり）

【主な意見】※回答一覧は128～152 ページに記載

内容	件数
経済・物的支援について	112 件
公園・室内遊戯施設、環境整備について	71 件
窓口負担費用について	50 件
預かり環境・施設整備について	28 件
病院・療育施設整備について	22 件
子育てに関する認識のアップデートについて	18 件
学校環境について	6 件
情報発信について	5 件
各種手続きについて	4 件
相談体制、質の向上、親のケアについて	3 件
食について	2 件
アンケートへの意見	8 件
その他	14 件

自由回答

問11 子育て(教育を含む)をする上で、周囲(身近な人、行政など)からどのようなサポートがあればよいとお考えでしょうか。ご自由にお書きください。

預かり環境・施設整備について (130 件)

- 母親の体調が優れない時に時間単位でもいいので、すぐに預けられる行政サービスがあったら助かる。子どもが元気で母体の調悪い時のワンオペ状況が辛い。全てしないといけない。(家事、育児)。
- まだ未就園児なので(3歳～幼稚園利用予定)、家庭がすべて、用事があるなしに関わらず預けられる環境があれば。配偶者が職場に気兼ねなく休みをとって子どもみるなど定期的に(月1でも)預けられる環境がほしい。ファミサポやシッターは知らない他人に預けるのは抵抗あり。心の健康を保つためにも。保育園等で無料預かりなど。先生方は大変ですし、粗悪な環境も困ります。
- 用事や妊娠中の際に無料で預けられる場所。
- 一時預かりの場所を増やしてほしい。
- 一時預かりやファミサポ等がありますが、料金がとても高いと感じます。未就園児にも補助があると助かります。
- 緊急の時に面倒みてもらえるようなサポートがあったら嬉しい。例えば上の子を病院に連れて行かないと行けなかったり、一緒に連れて行けないような状況の時など。
- 買い物の託児所。
- 緊急時(親の体調不良時や子どもが参加できない集まり)に気軽に安心して預けられる場があってほしいです。
- 気軽に子どもを預けられる場所。
- 疲れた時に気軽に連れて行ける預かり施設(遊び場、雑談を9～16時くらいいつでもできる等)悪天候でも遊べる室内施設。
- 一時預かりを登録していても本当に急な時は預けられないし(前日までの予約が必要)断られる時もある。1～2時間くらいならば気軽に預けられる場があればありがたい。
- 親の体調が悪い時に、自分が病院受診をする時に子どもをみてもらえるようなサポート等。どうしてもみていてもらえる人が身近にいない時に助けていただけるサポート等。
- いつでも安心して預けられる環境を提供してほしい。保育園の一時預かりも預ける側にとって負担(子どもがぐずりがひどいと返す等)を言うこともあり誰も預かる人のいない時に困る。
- 買い物や病院などに行く際に、一時的に預かってもらえる場所があると助かる。
- 両親が仕事をしており祝日に預かってくれるところの情報が欲しい。
- 難しいとは思いますが、4月入所ではなくても、いつでも仕事復帰ができるよう保育所が充実していただきたいと思います。
- 平日や休日など気軽に預けられるような所があると嬉しい。
- 仕事が休みの日も保育所に預けやすい環境。時短勤務など選択肢があり、働きやすい職場。
- 病气時に両親、祖父母が見れない時の預け先を作って欲しい。

- 気軽に子どもを預けられる施設 発達などで相談出来る窓口やラインなどで相談できる所があると助かります（現在は保健センターでの相談は予約が必要だったり仕事をしている保護者には日程を合わせる負担があり、相談しにくい）。
- 短時間でもよいので安心して預けられる場所。
- 気軽に利用できる一時預かり。例えば、髪の毛を染めに行く時間だけみてもらえるなど。身近な人でも本当の理由を言うと預けにくい場合がある。自分の用事済ませたいのに、身近な人こそ預けるのに気を使ってしまう。なので、特に理由を言わなくても少しの時間預かってくれる施設があればいいのにと常日頃から思っています。オムツの助成は最初はあるが、実際 2 歳になる前にオムツ外れる子がどれだけいるのか。一度ではなく、あと一回助成があるとありがたいです。保育料も 3 歳からは、無償化だが実際 0 歳から 2 歳が一番保育料も高いわけでそこをどうにかしてほしい。熱やら何やら保育園から電話がかかってくるのもこの時期が一番多く、働きたいけどなかなか上手くいかないし保育料は高いし、仕事辞めたら生活も厳しいしと悪循環です。垂水市の市議会では 2 歳以下の保育料も無償化で話し合われていたようです。
- 共働きであり、日祝も見てもらえる施設があるといい。学童が無料になればいい。兄弟で入れると高い。まだ留守番はできない。見てもらえる人が 1 人しかいないので、負担はかけたくない。未熟児生まれで鹿大や今給黎など通院しているが、車で行かないといけないので、フェリー代が高い。補助があればいいのと思う。医療費は返ってくるが、交通費が高い。
- 両親が仕事をしていなくても、子どもを保育園などに預けられる環境を作ってもらいたい。現在は、両親が仕事していないと子どもを預けられない。今のままの制度では、次の子どもを望めない。
- 夜間仕事のある際、子どもを無償でみてもらえる。
- まず、子どもを預けられる保育施設がしっかりと保育者を増やして、子どもを預けやすくしてほしい。また、就学前までの身体障がいをもっている子どもの預かりが、この保育士不足の中では預けられず、受け入れる態勢が出来ているところが殆どないので、そういった面でも、行政からのサポートがほしい。
- 習い事の送迎バスへのシートベルト義務化をお願いしたいです。安心して預けられず、現在はバス利用せず仕事の合間に送迎しています。自家用車は 6 歳までチャイルドシートが義務化されているのに、保育園幼稚園バスでシートベルトさえしていないことが不思議でなりません。
- 日、祝日でも預けられる施設。
- 仕事の時保育園に行けない時預かってもらえる。
- 平日の夕方や休日の一時的預かり（仕事等のため）。
- 今は年齢的に落ち着いているが家に帰ってきてから家事をしている間子どもを見守りしてくれる人が欲しかった。家事と子育て、仕事（バリバリ働けと国が言うなら）母親に負担がくるだけ。何かしら支援がないと難しい。
- 行政等のサポートは登録しているが、預ける金額と自分の給料の時給が同じくらいなので、預けることを躊躇している。低額なサポートがあればいいなと思う。近所付き合い。
- 小学校低学年時に地域に学童保育などがあれば助かります。

- 祖父母も仕事していたり、親も日曜日や夜勤などの仕事もある状況です。共働きでないと育児や生活にお金もかかる為、もっと安心して共働きできるように日曜保育ができる場所を増やしてほしい。日曜保育はすぐに予約がいっぱいでとれなくなります。ゴールデンウィークや年末年始も仕事の医療関係など、子どもの預け先がなくて困ることがあります。小学生になってからも学童の迎えの時間に制限があるので、迎えの時間の検討もしてほしい。他の県は市町村が開いている学童があり、小学校と隣接していたり学童の料金も安いと聞きます。鹿屋もそうってくれると、すごく助かります。それか仕事の時間をセーブしても生活しやすいように、生活保護や収入が少ない世帯への援助も大事ですが、共働き世帯にもなにかしらのサポートがほしいです。もっと共働きしながら、子育てしやすい町にしてほしいです。
- 親が体調不良の時に安心して預けられる人と場所があれば非常に助かる。
- ベビーシッター制度があることは把握しているが、自宅に呼ぶことや他人の家に預けることは不安。夜間を含めて公的機関に預ける施設があると良い。
- 買い物や用事等の短い時間に子どもをみてもらえるサポートの料金を低価格で利用できるとういなと思います。病児保育を利用する際、利用毎に料金を設定してもらえたり、手続きがもっと簡単であれば気軽に利用しやすいです。
- 就労していなくても子どもを預けられるようにしてほしい。
- 小学校から学童ではなく、小学校敷地内でお預かりしていただければ、ありがたいと思います。
- 現在妊娠中です。妊娠中(中期でも)仕事がなくても継続して子ども園に預けたい。
- 祖父母が遠く援助が中々貰えないので、そういう家庭が頼れるサポートがあると有難い。
- 気軽にお預かりしてもらえるところがあれば良い。
- 夜間若しくは時間関係なく緊急時に子どもを確実に預けられる施設があったら助かります。
- 急な用とかの時に、気軽に預けられる場所(安価で)。
- 買い物に行く間の1時間だけでも、無料で、預けれるサポート。
- 小売業フルタイムで共働きです。年末年始、土日祝も仕事があり、日中に子どもを預ける場所が1ヶ所しか無く、予約がいっぱいで苦勞したことが度々あった。病児保育のようにお金を払ってでも預けられる施設が増えたら働きやすいと思う。今は祖父母も働いている家庭が多いので、曜日、年末年始に関係なく働いている証明があれば低額で預けられる場所を増やして欲しいです。
- 給食費の助成や、一時預かり、ファミサポの利用の緩和・助成があれば助かるなと感じる方は多いと思います。
- 習い事や幼稚園の送迎。幼稚園が休みの日の預かり。
- 小一時間預かって、急に相談できる相手がいるとういなと思います。
- 気軽に安全に預かってもらえると。
- 緊急で預かってくれる。
- 仕事復帰がスムーズに出来るように気軽に預けられる環境を提供してくれるサポートが欲しい。
- 緊急時にこどもを預ける場所。

- 急な時でも一時預かりしてもらえる場が欲しい。母親が病院受診するにも前もって色々な段取りをしないといけないので大変に思う。
- 疲れた時の一時保育の充実。
- 親の体調不良など緊急時に子どもをすぐに預けられたり、シッターや家事代行を依頼できるなどのサポートが欲しい。
- 緊急で預けたい時に預けられる所（時間制）。
- 安心して預けられる環境。
- 保育園がスムーズに入れること。
- 保育園に入りやすくしてほしい。
- 少しだけ預かってもらいたい時など、もっと気軽に頼める場所があれば嬉しい。
- 緊急預かり対応。
- 一時預かり。
- 気軽に親身になって相談を聞いてくれるサポート。緊急時に預かってもらえるサポート。
- 託児所が設置されてる施設が増えたらいい。
- 有料で子どもを一時的に預けられる施設があれば良い。ベビーシッターマッチング制度があれば良い。子どもと一緒に遊びに行ける施設がもっとあれば良い。
- 自分が体調が悪くなった時に子どもの面倒を見てくれるサポートが欲しい。宿泊で見て欲しいなと思う時もある。
- もっと保育所を利用できる場所を増やして欲しい。
- 子育てサポーターのような急な都合で頼れる場（人）がもっと身近にあるといい。
- 兄弟関係の行事とかの間に少しみててもらえる場所。
- 緊急時に気軽に子どもを預けられる場所がほしい。（ファミサポ等、登録はしているが、なかなか利用しづらい）。
- 産後の骨盤矯正に行きたいが、親の都合の時間を気にせず預けられる場所があれば助かる。また、買い物や病院受診等のサポート。
- 気軽に見てもらえると環境が大切。
- 子育て支援施設で短時間預かりができると嬉しい。兄弟が体調を崩して病院に行くときなど、短時間預かりがあれば大変助かります。
- 無償で預かる施設 簡単に頼めるベビーシッター。
- 気軽に立ち寄れる場所や安心して短時間預けられる場所。
- 親の体調不良や、兄弟の体調不良や病院受診の時に気軽に預けられる場所があって欲しい。（あそびば鹿屋内での保育）。
- 緊急時に預かってくれるところがあると助かります。
- 仕事をしてるなど、理由のある家庭はお預かり無料。
- 日曜日や自分の体調不良でも、短時間預かってほしい。
- 乳幼児を預けて、母親が休息をとる制度があるが第一子も預けられるようにして欲しい。
- 育休中の親が、一人の時間を楽しめるように、日中に子どもを自宅で見てもらえるサポート。

- 火木土日に行ける支援センターが少ないので増やしてほしい（予約がとれないことも多い）。3歳以降使用できる施設が少ないので家庭保育するのが難しいと感じる。子連れが使用しやすい飲食店を作してほしい。子ども2人以上で支援センターなどを利用した場合スタッフが抱っこしてくれるなどの協力が欲しいと感じる。
- 保育園は延長時間も親に合わせてあるのでいいのですが、小学生になると預け先がない。また学童は時間が限られているため仕事に制限が出てしまうのももう少し延長があればいいなと感じます。学校にそのまま残れるサポートがあればいいなと思います。
- 気軽に一時保育が利用できる環境があると有難い。
- 保健センターへ相談することも以前ありましたが、頼りない回答で、その後問い合わせすることもなくなりました。専門の方へ繋いでいただけるなど対応してもらえたら嬉しい。緊急時、祖父母の時間が合わず、子どもを誰にも預けることができなかったことが今までに何度かあったので、そのような場合に利用できる場所があれば嬉しい。
- 親が外出する際に安全な環境で預かってもらえる事（日時間問わず、急な場合でも）。
- 転勤族で鹿屋に住んでいる為、緊急の時に預ける先がなかなかなかったり、病気だとすると知人にも預けられないし、病児保育も値段が高いので仕事を休まないと行けない。保育料が少ない病児保育期間やシッター制度があるといい。
- 病気の時などに気軽に家事や留守を頼めるサービスが安価で利用できると助かる。
- 預けている保育所で日曜日や祝日もみてもらえたら助かると思う。
- お互いの両親も遠方ですぐに預ける事が難しく、共働き家庭なので、就学後は安心して通える学童などの施設が増えたら有り難いです。
- 預けやすい環境。
- 一時的に預かれる場所がほしい。緊急時以外にも、病院や美容室に行きたいとき、1時間単位で預かれるような公共の場所があるとありがたい。急に保育園は不安。
- 短時間の外出の際の預かりサポート（家族にお願いできない時に）。
- 葬式(夫婦でお世話になった方)結婚式など子どもを連れていけない行事ごとのときに預かってくれるところ。
- 近くに親族等いない場合に安心して預けられる場所。
- 気軽に預けられる独立している一時保育があると助かります。保育園に備えてある一時保育は必ず病気をもらってくるため、預けたくなくなります。
- 自分が病院に行きたいときなど預けられるところがあるといい。
- 親が病気の時などに子どもをみてもらえる。
- 気軽に託児できる施設や仕組み。
- 緊急時に預かってもらえる場所(病児保育や一時預かり等)の充実。就園就学や子育てについて気軽に相談できる場所。上記は既に行政等で行なっているかと思いますが、誰にどうやって相談すればいいのかよくわからない、また相談に行くまでの心理的ハードルが高いように思います。アウトリーチや積極的な発信などがあればいいなと思います。
- 夕方～夜の時間帯でみてくれる人がいると嬉しいです。
- 保育園自由化。

- 緊急時などに気軽に預けられる場。
- 気軽に預けられる一時保育制度。
- 自分(母親)が風邪を引いたとき気軽に子育てを頼れる仕組み。
- 気軽に出来る一時保育等。
- ベビーシッターなど自宅に招いて1時間だけでも預かってもらえると助かる。
- 夕方からの託児所とか増えるとよい。
- 身内で預かってもらえない時、預ける時に事前に連絡をしないといけないので直ぐに預かってもらえる所があると良いのですが。
- 母親もしくは母親と父親が病気等で急に保育が必要となった際に子どもを預かってくれる公的機関が欲しい。実家が遠く、また病気の時は祖父母には頼れないので。
- ベビーシッターを利用できると助かります。個人でしているベビーシッターさんよりも行政で紹介してもらえるベビーシッターさんなら安心します。
- 自分の病院受診の時に預けられる場所。
- 病児保育の充実(満員の時がある)。ファミリーサポートがもう少し気軽に使えるとよい。
- 保育園などの一時預かりとは別に、買い物に行く間など、少しの時間でも預かって下さる支援センターがあれば助かる。料金などの負担もなければもっと助かる。
- 無償で預けられる場を提供してもらいたい。
- 用事がある時など単発で頼めるベビーシッター。
- 休みの日に用事がある時に数時間だけ預かってくれるような施設。
- 一時預かりをもっと利用しやすくしてほしい。
- 土日でも気軽に預けられる場所がほしい。ファミリーサポートはなかなか相手の方とのマッチングが難しく、利用したくてもできないことが多い。一時預かりの保育施設もあまり多くない(情報も少ない)ため、下の子が現在のこども園に正式に入園するまで、用事や短時間の仕事が入るときに預け先を探すのに大変苦労した。
- 保育所に入りやすくして欲しい。
- 上の子がもっと小さいときに霧島市に住んでいたのですが、多動気味の子で、霧島市にあるキッズパークきりしまのような、気候や交通事故などの心配がなくこどもを安心して遊ばせられる場所や一時間単位で気軽に一時預かりをして貰える場所があれば、多動ぎみの子を育てる親としてはさっと買い物を済ませたりするのにすごく助かっていました。末子を妊娠していたときは上の子の対応で切迫早産になりながらもワンオペだったので、すごく助かりました。今鹿屋市に住み初めてから、あんな場所が鹿屋にもあればなぁと何度も思っています。
- 就業中でも安心して預けられる施設等があって欲しい。
- 病気の時や、緊急時に 子どもを見てもらえるとありがたいです。
- 一時預かりの対象が、保護者の仕事、傷病、冠婚葬祭などハードルが高く、私用や買い物、歯科の通院など、1回2~3時間程度でも良いので、預けられるサポートがあれば助かります。
- 幼稚園のお預かりがないときなどに、預けられるサポートがほしい。
- 安心して預けられる場所や、共働きしながらの子育てが少しでも楽になるようなサポートがもっとあればよい。

- 仕事の有無関係なく、急な用事や体調不良の親に変わって、子ども又は学童を預かってもらえる施設があれば、安心できる。
- 幅広い年代の子どもたちが、無償で楽しみながら学べる施設があったらいいなと思います。共働きの家庭や単身赴任などで片方の親が一人で子育てをしている場合等、子どもの体調不良等の緊急時に仕事を休みやすい環境、一時的に子どもを預けやすい環境を整えて欲しいです。
- 少しの間を見てもらいたいときに、事前予約なしで預けられる場所があると助かる。病児保育施設が少ないため、予約がとれず仕事を休むことが多く精神的に辛い。

・ 経済・物的支援について（104 件）

- 金銭的サポート。
- 金銭面のサポート。
- 金銭面。
- 今非課税やひとり親のみ支援給付とあるが、非課税やひとり親以外も金銭面では貧しいです。また、医療費やワクチンを無償化にしてほしい。
- 一時保育(コロナ禍で一時保育をしない園が増えた気がするため)、一人親の支援(住宅手当、扶養手当の増額)離婚前別居中の人たちにも適応してほしい。病院受診の窓口支払い無しにしてほしい(返金ではなく)。
- 金銭的援助。
- オムツ、ミルク代の補助、保育料の 0 歳児からの無償化。小中高無償化。保育園希望した際は必ず入所できる環境作りに力を入れてほしい。
- 育児支援。産後は授乳(母乳ミルク)だけでも大変な労力、精神的疲れを伴ったので、助産師等による支援制度があるといい。
- 金銭的サポート。親が体調が悪い時気軽に子を預けられる所(保育園、幼稚園に通っていない子)。
- 費用負担軽減(子育て、教育共に)病院受診(子どもの)の負担軽減サポート。
- 子育てを行う上で必要な物(ミルクやオムツ)が外出先にあれば準備する負担や忘れた時、持ち物の量が減り助かる。
- 共働きが増えているので、育休明け(子が 1 歳～)の方も多いと思う。だから、保育園の無償化を 0 歳～もしくは 1 歳～にしてほしい。
- 「食」や「手当て」の正しい知識を身に着け医療負担を自分たちで減らし、その分支援手当など成長過程で必要なことに充当すると良いと思います。そのお知らせをまず末端まで確実に届けることが大事です。
- 非課税世帯、母子家庭のところには、ベビーベッドやチャイルドシートなどの無料レンタルがあればいいと思います。
- 金銭面(オムツ券増量)。
- 助成金の充実。一時預かりが気軽にできる所が増える。
- 育休もなく専業主婦をしてる家庭です。2 歳児と 0 歳児を家でみてます。保育料が高くて預けるのは厳しいです。その場合の保育料などのもう少しサポートがあると助かります。

- 子育て補助金の支給。
- 子育て手当。
- オムツ券1年分。
- 国からの金銭的支援。
- 子どもの医療費の窓口負担は早急に無くすべきだと思います。
- 行政からの金銭的な支援や土日でも利用できるような遊べる施設がほしい。支援施設は平日しか利用できないため。
- 病児保育の充実、子ども医療費の窓口負担を全額免除。
- 親子で24時間駆け込めるような施設があればと思う。相談するまでが勇気が必要だったり、面倒だったりするので年一回訪問や電話相談。習い事の一部助成があればたすかる。医療費の窓口支払いを無くしてほしい。月末など金銭面でキツイ時、子どもが体調崩していても受診を迷う。
- 行政からの金銭的なサポートと遊び場、施設。
- 行政からの金銭的支援不足。物価高騰中なのに何も変わらないのに不満。
- 病院の手出し無し。
- 金銭面。未満児保育料無償化。
- 医療費の窓口無料化。
- 年の離れた兄弟でもしっかりした保証。上の子が小学校に上がると保育園に預ける際、下の子を第一子とカウントされることが金銭的に負担である。
- 行政の方からももう少し金銭的な援助が欲しい。
- 金銭面、熱発時の保育。
- 少しの時間、見守りをして欲しい。
- 保育料の免除、小学生の集える場所。
- 親の介護と同時に子育てしてる人は緊急時に頼る人いないから自分の病院にもいけません。以前親を病院に連れて行きたいから一時保育を頼んだら母親の事じゃないと使えないと言われた。周りの人達は祖父母を精一杯使って正社員で働いて金銭的にも余裕があるのに、こういう家庭は働けないからお金もギリギリです。産前産後だけでもダブルケア家庭にヘルパーみたいなのを作ってほしい。じゃないと子ども産めないし育てられない。
- 0歳児からの無償化。
- 経済的な給付金等の援助、支援(継続的な)。ファミリーサポートを、より活用しやすい形の支援。
- 給食費の補助。
- 全て無償化。
- 金銭的な面での支援がもっと所得に関係なくあれば、子どもの教育等にかけることができるのでありがたいと思う。
- 病院受診での窓口負担をなくす。正月中も仕事が休めない親がいるのだからお盆休みのように保育園で預かってほしい。

- 就労しているため何かあったときに気軽にでも安心して預けられる人や場所があるといい。また進学等必要な金銭的な支援もあるとよい。
- 共働き世帯の援助関係。
- 手当て。
- 行政には、子どもに対してお金を使っていただきたい。受けた教育を受けられるように。
- 保育園の3歳児以下の2人目の無償化。病児保育、休日保育が出来る場所を増やしてほしい。最初に貰えるオムツ券を3歳まで毎年1万円分配布してほしい。こども医療費の窓口の完全無償化などをしてほしい。窓口で払ってあとから帰ってくるなど無駄をなくしてほしい。それをしてるのは鹿児島だけ。
- 鹿児島も早く子どもの病院費用を窓口で一度支払いをしなくても良くしてほしい。
- 教育費の軽減。
- 家庭で教育にかける時間がないため、塾や習い事に金銭面でサポートがほしい。子育て中の精神的疲労時に、リフレッシュできるように、気軽に預けられる施設がほしい。土日など。
- 金銭面、支援センターや遊び場の充実、時短勤務。
- 金銭面（無償化など）のサポート。
- 子どもの体調不良などで、簡単に預けられる病児保育があれば嬉しい。事前に申請しとかなないといけなかったり、手続きや順番取るのが面倒なので。金額も2000円とかで高いので、もっと安いと嬉しい。
- 共働きなので、小さい子が居ても働きやすい環境や、多子世帯に対する固定資産税などの減税があったらとても助かります。
- 生活することで精一杯。無料体験ができるものがあれば体験させたい。
- 実家が遠方にあるため親に頼らない。頼るには金銭面に負担がかかる。そのため、保育料や病児保育をしてくれる場所の金額をもっと下げられれば負担が減る。
- 児童手当の増額。
- マンションなど借りた時に、一人親世帯には家賃の補助がほしい。
- 金銭的、進学の援助、又は免除。医療費、給食費の無料化等。
- ファミサポを登録なしで、そしてもう少しリーズナブルに使えるとありがたい。
- 我が家の子どもは3人ですが、上の子2人と末っ子の歳が一回り以上離れている為、行政の支援等一子扱いになる事があります。同じきょうだいはきょうだいなので歳に関係なく三子扱いにして欲しいです。
- 保育の年齢に関わらず完全無償化や、学校であれば給食費の無償化など、金銭面でのサポートがあれば生活にもゆとりが生まれ、子育てもしやすくなると思う。また、子育て119のような日常で起こりうる精神的肉体的疲労時に、（相談やアドバイスではなく）ベビーシッターが駆けつけてくれるような制度があれば、救われる親が増えるのではないかなと思う。（実際にこのような制度を確立させる動きが日本でもあります。）。)
- 母子、父子家庭だけ病院代がその時（子どもが病気）いらないが、普通の家庭も子どもが病院に連れて行きたいが、行く時に手持ちのお金がなかったりして連れて行けない。
- 金銭的支援。

- 満3歳児の預かり利用料の無償化。3歳まで働かなくても生活に困らない金銭面でのサポート（3歳未満児抱えての職場復帰は非常に大変）。
- 共働き家庭が多いため子どもと向き合う時間が少ない。共働きしなくても良い環境になれる仕組みを作してほしい。
- お金。
- 経済的な支援 行政手続きの簡素化（電子化）。
- 子どもの病院代を1度払ってまた口座に返還されるシステムをやめて欲しい。他の県や市は病院で手出しが要らない所がほとんど。鹿屋市は子育て支援があまりないように感じる。小さい子を連れて買い物に行く事ですら大変なのでオムツやミルクを届けてくれるサービスを導入してる県や市があるのでそれがあると助かる。
- 金銭的なサポート、一時預かりの充実(お盆や年末年始、日祝日など保育園閉園日)。
- 医療費や、保育料の無償化。
- 毎月外食などで使えるクーポン券。
- 対人のサポートは気を遣いがちですが、物理的なサポートは素直に助かりました。チャイルドシート1年貸出等は非常に助かりました！
- 保育料が高い。0.1.2歳児も無償化にするべき。
- 金銭的なサポート。
- 保育料の軽減または無償化。
- 子どもは医療費助成があるが、一度病院で支払いをしないといけないのは見直して欲しいです。
- 就労での保育所利用の条件が厳しいと思う。病院や薬局での支払いも最終的に戻ってくるのであれば最初で支払いなしにしてもらいたい。
- 三つ子なのでもう少し金銭面で補助があれば嬉しい、例えば入学準備金や制服代補助など。
- 医療費を無料化して欲しい。
- 補助金。
- 1歳から保育料が無料になったら助かります。
- 母子家庭で子どもに習い事をさせてあげたいが、時間的、金銭的に余力が残っていない。ひとり親には送迎車の拡充、減額や免除などのサポートがあれば良いと思う。
- 育て方は第一子ではないのでわかりますが、自治体からの給付金などが、手厚くなるとありがたい。政府が賃上げを語るが鹿屋市では、その様な話がないため。
- 子育て物資の援助。
- 気軽に入れる遊び場がもっとほしい 保育料などの金銭面援助。
- 分からないことを経験豊富な方から教えてもらえる。
- 教育費の援助。
- 低所得者だけへの支援だけでなく、子育て世帯には無条件で金銭的な支援して欲しい。多子世帯だけでなく、色んな理由で子どもが産めない人もいるので、人数関係なく子どもがいる世帯にはちゃんと手厚い支援をして欲しい。
- 大変ありがたい子ども手当の金額が上がると嬉しい。

- 金銭面の支援が何より欲しい。特に母親は何があろうと育児、家事の両立でどうしても父親が稼がないといけないので母に負担がくる。仕事を抜ければその分、給料は無くなるので生活が苦しくなる。正社員で働きたくても小学校上がって、後、落ち着かないと無理。
- 保育料（0～3 歳児）までも無償化にしてほしい。共働きでないと生活が難しいが、子どもも預けないといけない為、子ども手当だけでは足りない。
- オムツ助成券の増額(またはオムツやミルクなど育児関連用品に使える幅を広げてほしい)。医療費無料化(窓口支払いなし)。高校、大学の教育費無料。
- 助成金や補助金。
- 入院などなったときに、お金の心配、他の子ども達の退院までの生活がすごく不安だった事がありました。コロナ禍では、ありますが他の子ども達の世話などの確保がほしいと思いました。
- オムツ券を2才ぐらいまではプレゼントしてほしい。
- わからないことや不安なことを専門的な立場の方にいつでも気軽に聞けるような環境があったらありがたい。訪問型だとなおありがたい。月齢が低いと出かけるのもハードルが高いため。オムツ券がありがたかったのも、もう少し補助していただけるとありがたい。母乳が出にくい方や哺乳力が弱く母乳がうまく飲めない赤ちゃんがいる世帯に対してミルク券などがあると助かる。
- 金銭的なサポートがあると助かる。時間的にパートでの勤務になると、給料が少なく、子ども達の教育にお金をかけると、負担が大きい。習い事は厳しいので、諦めている部分がある。
- 鹿屋市が、子育てにもっと手厚くあってほしい。
- 金銭的補助。
- 学校や保育園にかかる費用の軽減。
- 子育てに困ったときなどの問い合わせ先などをもっとわかりやすくして欲しい。土日祝日、年末年始などの病院の案内など。医療費の申請やその他の子育て支援金などの手続きが面倒なので他県のようにその時に免除してもらえるようになって欲しいです。
- 一時保育の金銭的支援があったらありがたいです。
- 保育園は日曜、祝日も子どもを預けられるようにして欲しい。今よりも手厚い金銭的サポート。

・ 病児保育・施設整備について（53 件）

- 子どもが体調不良の時に一時的にみてもらえたら助かる。祖父母にも頼めるが感染系の病気だった時に困る。
- 医療機関(小児科)の効率化。(今年の6月まで大阪に住んでましたが待ち時間が少なく受診が楽でした)子ども連れての受診は大変です。待ち時間を減らすシステムなど何か改善できる点があるように思います。また、医療費の窓口負担なしにして頂けると助かります。
- 保健センターに問い合わせたり、聞いたりしたことはあるが、電話をするまでに「いいのかな？」とすごく迷ったうえでしたことがある。頼って迷惑になるのではないかなと思う。

- 病児保育を充実させてくれたら、安心して働けます。発熱してもすぐ迎えに行けない仕事の都合で困っている母親や父親はたくさんいます。(預け先の保育園内に一時病児保育があれば最高です)。
- 病児保育で預けられるところが1箇所しかないのが不便。ファミリーサポートも病気などの時に手助けしてほしいのに対応してない。子どもを専門的にみれる医療施設があれば安心して子育てできる。福岡こども病院みたいな。
- 日曜、祝日の保育施設や病児保育の規模拡大。
- 熱や病気になったときの、サポート。
- 病児保育の充実(事前登録制で、弁当持参等の制約があり利用には至ってない)。急病等の保育園からの呼び出しに対応できるサービスがあれば良い(祖父母が遠方の為、母親が全て対応しなければいけない)。
- 保育園が休みの日曜日、祝日の仕事についても急な子どもの発熱などで仕事を休めない日でも、病児保育が空いていない日は無理やり休まなければなりません。病児保育の利用人数や開始時間(保育園が開く7時頃)がもう少し増えれば嬉しいです。
- 病気の時など、見てもらえると嬉しい。
- 病院の充実をぜひお願いしたいです。小児科もですが、耳鼻科や皮膚科なども。特に耳鼻科は、予約なしでは診てもらえなかったり、予約しても待ち時間が長く(終了まで1時間半~2時間は当たり前)、子どもも保護者も疲れます。医療費も、窓口負担をなくしてもらえると大変ありがたいです。急な発熱など、突発的な病院受診も多いため。・鹿児島市内にある、子育て支援センター(りぼん館やたにっこりんなど)のような施設があると助かります。お預かり、交流、支援員への気軽な相談、雨天時の遊び場など。予約なしで行ける場所。
- 病児保育でしょうか。西原しかしらないので寿あたりにも出来れば、預けて仕事に行けるのかなと思います。毎回職場に迷惑をかけて、休まないといけないのが心苦しい。やはり、未就学児を育てながらの仕事復帰は大変だと実感している。
- 気軽に相談に乗っていただける。自分たち(子どもから見て母親父親)が体調を崩してしまうなどの際、子どもの面倒を見てもらう。特に、子どもも熱が出るなど病気になってしまったら祖父母には預けられない。病児保育のハードルが低くあってほしい。
- 病児保育を増やしてほしい。
- 児童手当の所得制限撤廃、感染症以外の子どもの保育預かり(咳、鼻水、下痢)。
- もっと気軽に病院受診できたりしたら良い。色んな施設の予約制度が行きやすさを減らしている。
- 身近な人、特になし。行政、乳幼児検診など各地域でしてほしい。
- 鹿屋には人口の割に病児保育が少ないです。親族にもほとんど子どもを預けた事がないので、病児保育が予約がいっぱいの時などはすごく困ります。もっと病児保育や託児所など増やしてもらえるとありがたいです。
- 子どもの具合が悪い時や問題が生じた時など、簡単にいつでも正確で信用の出来る情報を得られる環境(場所やwebサイト等)または窓口。
- 病気の際の保育。

- 子どもが急な病気の時に、安心して預けれる場所がもう少しあってほしいです。感染系の病気のとき、数日間仕事を休まなければいけないとき、毎回仕事と育児の両立の難しさを感じます。私は母に預けることも多いですが、高齢な為、お願いする時は、母のことも子どものことも気になってしまい、子育てする上で悩みです。
- 子どもが小さいので、急に体調不良を起こしやすいです。しかし、小児科は予約がその日の朝一にいっぱいになり、受診ができず、不安を抱えたまま過ごさなければならないのが、とても苦しく思います。小児科に特化した、訪問診療やオンライン診療を受けられる医療サービスを充実させて欲しいです。特に、土曜日の午後は鹿屋市の小児科はほぼ全て休診なので、とても不安な土日を過ごさなければならないですし、夜間救急センターも、非常に混んでいてそれだけでも疲弊します。私は、他県から鹿屋市に引っ越してきましたが、圧倒的に病院が少なく、非常に不便だと感じています。
- 急な発熱等でどうしても仕事を休めない時、病児保育をもっと充実させてほしい。小学校にまだいないが、学童保育も増やしていただきたい。
- 支援センターがコロナ禍で予約制で人数制限があります。それをもっと気軽に行けるようにそして、知人が一人でこどもを産みますが仕事で忙しくベビーシッターを探そうとしても鹿屋には居ないとのこと困っていました。ファミサポもありますが使ってる人がおらず信用出来るのか不安で使えませんなのでもう少しファミサポも周知したら良いと思います。また、都城などは病児保育が無償化みたいです。
- 急な体調不良などの休みで子どもを見てもらえるシステムがあると助かる。
- 病気のときにもみてもらえる場所。少しの熱、病気で休みが多く働くことが困難。
- 子どもの入院で、付き添いは大人一人までと言われ、入院しない方のもう一人の子どもの世話を頼める親族も近くにおらず、困りました。子連れで一緒に付き添い出来るようになれば助かるのになと思いました。
- 仕事をしているので 病児保育のようなサービスがもっと気軽につかえる環境がほしいです。
- 子どもが病気の時に、いつも病児保育は満杯なので片親が仕事を休まないといけなくて困る。
- 病児保育などもっと増やしてほしい。
- 体調が悪い時に、安心して預けられる場所が欲しい。
- 仕事をしているので病気の時など、どうしても預け先が無い時などに利用できる病児保育施設を増やして欲しい。
- 仕事をしているため、病気になったとき気軽に預けれる施設がもっと増えて欲しいと思う。
- 子どもが病気になった時に預かってくれる。親が病気の時に預かってくれる。年齢に応じた発達を見て、適切なアドバイスと施設、サービスを紹介してくれる。子育てを応援する雰囲気がある。支援級が充実している。定型発達でない場合の支援情報が簡単に入手できる。
- 子どもが発熱などで仕事を休まないといけなくなった時に子どもを預かってくれる制度や休んでしまったことによる給料減少などに対する支援や、保育料など日割りにしてくれるなどの制度があれば仕事を休んで給料が減少してしまっても少しは安心できる。
- 子どもを預かってもらえる環境や、発熱時など急な対応が出来ない際のサポートがあれば嬉しい。

- 子どもが病気の際に、預けられる病院や施設をもう少し増やしてほしい。
- 子どもの不調が原因で、親が仕事を休まなければならない。まつだこどもクリニックに預けることもできるが自宅から遠い、値段も高く預けにくい。預ける人が居ない人達にとっては利用しにくい。預けられる場所を増やすことをせめて検討して頂きたいです。
- 病児保育。預かり保育。
- 両親共に共働きであるため、子どもが急な病気の時にすぐに休めるような環境があれば良い。
- 病氣中でも預かってもらえる施設。
- 当日使える病児保育。
- 体調不良時や急用時に預かってもらえる環境がほしい。
- 病児、病児保育、病児一時預かりが身近にあるととても助かると思います。親も通院したい時など、風邪症状のある子どもたちを一時的にでも預けられると助かります。高齢の祖父母へ子守りをお願いするにも、感染症をうつす心配があると、お願いするのも気が引けます。
- 鹿屋には胎児、乳幼児に対しての医療が遅れていると感じている。サポートセンター等には事前登録しているが、使った事がない。
- 病児保育預かりの施設やサービスの種類がもっとあれば嬉しいです。
- 子どもの体調が悪い時、オンライン診断もできたらいいなと思います。
- 病児保育の充実、利用しやすいシステム。
- 病院等に行く際に一時的に預ける場所があると助かる。鹿屋市にサポートしてくれる団体があるけれど、知らない方に家に来てもらってサポートしてもらうのには少し抵抗がある。
- 保育園の待機問題や、子育て手当の増額や、子育て世帯への支援の増加。
- 病児保育の普及。
- 風邪や病気の時でも園でみてもらえるような環境があってほしい 一時的に気軽に預けられる施設。広い公園。
- 発熱などによる急な保育園のお迎え対応や、その後親の仕事が終わるまで安心して預けられる機関。特に冬場は体調を崩しがちで、なおかつ解熱して 24 時間経たなければ保育園にも預けられない為、共働き世帯はどちらかが欠勤しなければならない事が多いから。

・ 相談体制、質の向上、親のケアについて（42 件）

- 気軽に相談できる場所や友人等との日頃のコミュニケーションができる環境づくり。
- 専門的に相談やアドバイスができるところがほしい。
- 日常的に家庭の状況を把握していて、すぐに相談や話し相手になってくれるような身近なサポートがあれば良い。
- LINE などで相談できる窓口があれば。
- 予約不要で、思いついた時に、さっと行ける相談場所や遊び場、コロナ前は気軽に行けていたが、当日にならないと予定がわからない時も多いので(兄弟の体調等)。
- なんでも相談できる。
- ラインなどの相談窓口。休日対応の予約なし相談窓口。

- 検診の時だけ、希望者だけでなく、一年に一度連絡や手紙などのサポート連絡、相談事ができる機会の案内や機関のお知らせ等があればと思います。
- 子育て中の保護者が行政などに関われる場が少ない。県プラの中など行ったことはあるが相談はしづらい。もっと何ヶ所かあってくれたらいいと思う。
- 助言やアドレス。
- 相談しやすい環境や場所。
- LINE などを用いて気軽に相談できると嬉しい。
- 気軽に相談や聞いて不安を解消してくれる場所など。
- 相談しやすい場所づくり、情報が欲しい。
- 転勤族です。ファミサポさん、保育園、保健師さんなどの現行サービスを利用し子育てをしています。現行であれば、相談は充実していますが、普段の買い物が自分 1 人で行わないといけないくて、都会のイオンネットスーパーなどが便利だったと思います。
- 発達に関する専門家による電話相談サービス。
- 気軽に頼めるサポート（ファミサポ）。子育て相談（鹿屋市の保健師は威圧的な人が多く、検診で嫌な思いをしたので行きたくない）。
- 子どもより、母親のケアがあるといい。マッサージに行ける子どもの世話もその間してくれるとか。あとお金。税金払ってない人にばかりお金を配って、税金払う人には何もないのがおかしい。取った税金、戻せばいいと思う。
- 気軽に子どものことを話してできる人がいればいい。子ども園に行っているの、自分以外に常に子どもの状態を把握してくれる人が居てくれるのでありがたいと思います。
- 平日の夜間、休日等に相談や話を聞いてもらえる公的な場所があれば助かると思う。シングルファザーやシングルマザー、子育てに非協力的な配偶者がいる人が時間を気にせずに子どもを連れて休める場所。
- 話を聞いてもらえたり共感してもらえたりすることで安心できます。
- たわいもない話ができる環境。
- 本当に何でも話していいのだと思える相談者に寄り添う共感できる相談員。
- 話を聞いてもらえる。
- もっと子育て教室等を行ってほしい。何が良いのか分からないことも多く、専門の方に相談できる場所を作ってほしい。
- 気軽に相談できるように LINE みたいなトークできる所があれば。
- いつでも悩みを相談できるような人やサービス。
- 発達（精神的、身体的ともに）について 0 歳のうちから専門の方に気軽に相談できる機会、場所がほしい。
- 身近な人には息抜きの時間を作ってくれるようなサポートが嬉しい。行政には子持ち専業主婦でも短時間から働けるような仕組みのサポートをしてほしい。
- 簡単に相談できる所。
- 仕事上夜勤をしないと考えると 1 番は食事面が不安。夜食事を宅配するサービス。
- 産後ケアホテル等があればゆっくり休んだりできる。

- 病児保育。
- 月 1 で同じ月齢の子どもで集まって相談会。
- 月齢に合わせて、家で過ごす方、遊び方、ふれあい方、いずれ保育園にいれたいので、集団生活する上での今からしておいた方がいい事など、教えて貰えたら助かります。
- 子育てで困った時などに気軽に相談できる場所があると良いと思う。
- 気軽に母親が美容室などゆっくりできる時間をとれるようなサポート。
- 気軽に専門の先生に相談出来る機会があれば良いと思います。例えば心理士の先生など。
- 多胎児なので、出かけることも難しく家にこもりがちです。頼りたい時に制限なくすぐに頼れる人や相談できる人が欲しいです（親族が遠方のため）。
- 子育てについて気軽に相談できる機会の提供。
- ペアレントメンターの制度があると嬉しい。年長の子が自閉症で就学先にとっても悩んだ時に、同じ悩みを持つ親御さんと話せる機会が全く無く情報集めなどがとても大変でした。ペアレントメンターの制度がある市町村にお住まいの方のお話を SNS で見たのですが、とてもとても素敵な制度なので一度鹿屋市でも取り組めるか検討いただきたいです。
- 気軽に相談できる人。

・ 公園・室内遊戯施設、環境整備について（28 件）

- 鹿屋市には室内遊び場があまりないように感じます。雨天時や真夏日、降灰時、真冬時にもっと室内遊び場があればと思います。家庭保育をしておりますが、急用や急病で預けることができるサービスが知りたいです。ファミサポや一時預かりは数日前からの予約が必要とのことなので。
- 予約も不要で、いつ行っても空いている支援場所(支援センター)。近くに公園とか気軽に外出する場所があるだけでも気分転換になって良いと思う。大始良は何もないので。
- もっと子ども達が集まれる場所がほしい。
- 土日祝も利用できる室内遊び場があればいいなと思います。
- 散歩がてらで遊べる公園、遊具が無さすぎるので、増やして欲しいです。草木が伸びすぎて道路が暗すぎなので、街灯をお願いしたいです。
- 子ども達が天候に左右されないで、遊ぶ事ができる環境があったらいいな。
- 鹿屋市に子どもが遊べる場が少なすぎる。
- 気になる子、発達障害について周りの理解がもっとほしい。
- 小さいこどもも遊びやすい公園がもっとあってほしい。
- 雨でも遊べるところがほしい。
- 遊び場所がないので増やしてほしい。上の子どもたちがまだ未就学児なのですが、雨の日や夏場の暑いとき、保育園が休みのときに遊ぶ場所がない。あそ VIVA!を利用したのですが人数制限があったり三才以上のところへ行きたがったり利用できないときが多い。
- 雨の日に遊べる場所。
- もっと子どもと訪れやすい場所。

- 小さい子どもでも気軽に芸術に触れる機会がもてると思います。行政が費用面をサポートし、ちびっこが参加できる面白いイベントがあると嬉しいです。
- 室内で遊べる施設があってほしい。
- 子どもが遊べる施設、室内遊び場、公園 保育料無償化、大学費用無償化。
- もう少し子どもが遊べる施設があれば良い。子育て支援センターなどがまだあれば良い。
- お店感覚で気軽に立ち寄れる場所。
- もっと公園以外で子どもが遊べる施設が欲しい。
- 公園が少ない。
- 情報提供や遊び場などの施設の充実。
- 経済的支援・公園等の施設充実。
- 家事手伝い、子どもの遊び相手。
- 日曜日の雨の日に遊べる場所 保育料、給食費の軽減。
- オムツだけでなく、ミルクの補助があれば嬉しい。雨降りでも、小学生の兄妹と一緒に遊べる施設が欲しい。
- 子育てサークルや身近に子どもを遊ばせられる施設があるといい。今住んでいる所は学校や保育施設が近いが公園など子どもが遊べるところがない。
- 遊べる場所やその整備、イベント。
- 遊べる場がもっとあってほしい。

・ 情報発信について（13件）

- 実年齢に応じた内容ではなく発達段階に応じた（発達段階も知ることができる検査）学習方法など保健師や行政からパンフレットでも配布してほしい。また、病気に対する親の教育もしてほしい。
- 離乳食や発達、学習において、つまづいた時に、こんな時どうすればよいかを気軽に閲覧できるものがあるとよい。
- 行政はサポートしますよという形はあるだろうが、どのような活動をしているかの広報が全くといってないので、知る機会が少ない。困っている人は市民課・子育て課などに行くこともできないくらい疲弊している。そのことを踏まえて、広報活動を頑張ってほしい。
- 交流の場。
- 自分から助けを求めないとどのようなサポートがあるのか分からない。行政などだと全く知らない人からのサポートは不安。どんな人が、どんなサポートしてくれるのかを積極的にアピールして欲しい。
- もっと子育ての情報がほしい。以前、教育者の講演があったが、子育て経験もなく中性的な方だったのであまり響かなかった。
- 子育て支援の詳しい説明。
- 発達に必要な正しい情報を受け取ることができる。

- 支援センターがあるということを妊娠中に知りたかった。娘が大きくなってから知ったので早くから知りたかったです。
- 初めての育児となると分からないことが多いので利用できるサービス、施設等もう少し詳しく、またもう少し調べればあったりするのでそういうのも教えて欲しい。
- どのような制度や機関があるのかを知りたい。
- プレや幼稚園の情報など教えて欲しい。
- 子どもの発達状況がどのような状態にあるのかを客観的に教えてくれる行政サポート。

・ 交流の場や安全に遊べる場の確保について（12 件）

- 同世代の子どもを持つ親同士の交流があれば色々な情報を得ることができそう。（すくすく子育て(NHK)のような意見交換できる場）。
- 子どもと一緒にの月の子との共有できる場所を作ってほしい。担当の社員の方も親だけに面倒みせるのではなく間に入って親同士の交流がスムーズにできるようにサポートしてほしい。
- ママ友や保育士の先生たちと気軽に話す場があると嬉しい。
- 土日祝日も串良ふれあいの利用ができるようにして欲しい。もちろん、0歳～3歳まで。
- 土日祝に気軽に参加出来る小規模イベントの開催をして欲しい。
- 助産師、看護師、リハビリの専門スタッフからの個別のアドバイスや家庭への訪問してほしい。もしくはグルーブレッスンなど、知育・運動発達に関する年間イベントを開催してほしい。
- 第一子の時は父親の仕事が忙しく、もちろん子どもは可愛いと感じていましたが、家庭で一人で過ごしているとどこか孤独感がありました。当時は、余裕がある時に同じような子育てをしている母親達と、気軽に自由に集える場があればいいなと思っていました。同じように孤独感がある方もリフレッシュになり、またいろいろ子育てについて知れる良い機会になるのではないかなと思っています。
- 地域でのイベント。
- 平日だけでなく土日でも子育て支援センターが開いていたらもっと利用しやすいと思う。同じ月齢の子どもが集まれる場所やイベントがあればママ友作りもしやすいと思う。
- あそVIVAが予約制でなくなるともっと気軽に利用できると思う。このアンケートを前のページに戻れるようにしてほしい。
- 年齢に応じたイベントが多く開催されれば、いろんな経験が出来て助かる。
- 保護者が1人にならないように、見守る人や楽な付き合いができるママ友が必要と思う。

・ 子育てに関する認識のアップデートについて（11 件）

- 保健師は年配の方が多く古い考えを押し付けてきて、出産後に不快に感じ涙が出た。
- 病気の看病の時の仕事の休みを考慮してほしい（年休だけでは足りない）。
- 子どもの熱がでたら、母親が仕事を休むしかないという、環境、考えがどの仕事でも改めれば良い。

- 子どもの急病で仕事を休まなくてはならないときが、一番しんどい。子どもの体調を一番に考えて看病したいのだが、仕事も気になる。かといって、病児保育を利用するのも子どもの負担になるのではと考えてしまう。職場環境を整えてほしい。
- 子育てしながら働きやすい環境づくり。
- 昔の価値観は捨てて接してほしい。
- 職場が、休みを取りやすい環境を整えること。職場が、定時に帰れる体制を整えること。
- 保育園利用料の負担軽減、男性への妊娠出産の女性の身体の変化や産褥期に対する理解の普及(そのくらい動けるできるでしょと思っている方が多く結局女性の負担が増え子育てが苦痛に感じる)、産褥期の配食サービス。
- 仕事と子育てが両立しやすいサポート、制度。
- 子育てと仕事が両立できるような環境が欲しい。
- 共働き夫婦の休暇制度の見直し、保育園料の見直し(0～2歳児)。

・見守り(声掛け)・送迎について (9件)

- 保育園の送迎。
- 見守り。
- 買い物代行、習い事の送迎代行など。
- 送迎。
- 仕事・出産をしていく上で保育園の送り迎えなどをしてくれる方がいれば嬉しい(送迎バスなど) 病児保育を増やしてほしい。西原まで行くのは遠かったり、予約が取れないことが多い。
- 子どもの送迎。
- 地域やご近所の方との会話や声かけがあると安心します。
- 助けてほしい時以外は見守っていてほしい。
- 子の発熱等において至急迎えが必要な場合で、父母がすぐに保育園へかけつけられない場合に親族などが代わりに迎えに行くなどのサポートがあると助かると思う。

・習い事(学習塾・寺子屋など)について (1件)

- 輝北には学習塾がありません。将来的に進学に向けた学習体制を整えることが不安です。

・食について (1件)

- 給食でアレルギー対応食と同様に、ハラルにも対応してほしい。

・その他 (22件)

- 病院に行きやすいようにバスやタクシーなどの移動手段が充実していること。
- 何をするにも区切りをつける。やっていいこと、悪いことなど。
- 習い事を選択など。
- 買い物する時に子どもを2人乗せられるカートを置いてほしい。

- 幼稚園の行事や係等がなければ良い。
- 上の子たちが遠征に行くときについていくことがあり、寒い、暑い中連れて行くのが朝晩早いこともあるのでかわいそうな気もある。
- 子どもの看病で外出できない時の買い物代行のサービスがあれば助かります。
- 公共の施設(図書館や市役所、支援センター)を巡回するバス等。小児科や幼稚園等の子どもが関わる施設のロコミサイトなど。幼稚園の制服などのおさがりやおもちゃのフリマ等。
- 夜間のサポートがあれば嬉しい。
- 教育の幅が広がるような施設や場が増えてサポート出来る人が増えれば良いのではないか。
- 健診などして定期的にしてくださっているので、このようなサポートでいいと思います。
- 大崎町を参考にしてほしい。
- 校区外の幼稚園からでも、小学校の見学や体験をさせてもらえると有難い。
- 子ども用トイレがある場所が少ない。現在、男性も子育て参加が増えているのに女性用トイレにしかおむつ交換台がない場合が多い。図書室が昔の造りでトイレも使いづらく、駐車場から図書館に行くまでに道路を渡ったり雨の日など、子どもを連れて行く気が起きない。
- 子育てしやすい環境作り。
- 子ども用トイレの普及に力をいれてほしいです。4歳と2歳と0歳の3人なのでそう思うのかもしれませんが、0歳を抱っこしたまま、4歳と2歳の急なトイレに対応するのが大人用トイレでは本当に大変なんです。便座に1人で座れない、拭けないので必ず付き添いプラス手伝いが必要です。わかってくれますか。
- 子育て支援センターに初回だけついて行く。
- 訪問して家庭環境の中での子どもの発達を診てもらう。
- 買い物代行。
- 今の現状に十分満足しています。
- 買い物をしてもらったり、食事の準備を少しでも手伝ってもらったり。お風呂のサポートしてもらったり。
- 外出先での子ども用トイレ又は補助便座の充実。

問33 最後に、教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

・経済・物的支援について（112件）

- 給食費無料化、小学校の学級費、保育料支援金給付よりも支払うものをなくしてもらった方がとても助かる。
- 義務教育で必要となる品（絵具や習字道具等）は全員必要なので、負担を減らしてほしい。算数セットはいらない。性教育をもう少し前倒ししてほしい（月経を習う前に生理がくると困る）。
- ツイッターのニュースで見た県外の地域では、2歳くらいになるまでおむつやミルク、おしりふきなど子育てに必要な物を無料で配布してるのを見て、全国で行ってほしいと強く思った。子育ては必要な物が多く、出費が多い。
- 大崎町の子育て支援事業をすべて一度見られてみてください。（保育料0歳から無償化、月1の保健センターでのフッ素塗り、支援センターの内容、予防接種の助成等を参考にしてほしい施策がたくさんあります）満3歳（年少々）から園に預けている親は3歳の誕生日を迎えてからも3/31を超えなければ保育条件に該当しても預かり保育料が実費になるので、1号で仕事をした時点で450×日数11300円の補助が降りてほしいです。
- 子どもの多い家族への支援が少ない。3人以上とひとくくりにされているのが納得いかない。子どもが多いほど損するだけの仕組みになっていること、何の得もないこと、例えばプレミアム商品券。2人以上世帯4世帯分だけの出費があります。なぜ同じ扱いなのでしょう？児童扶養手当も高校、大学と上の子が大きくなるにつれて出費は増えるのに、支給額は年々減額する一方です。子どもが多いことで、どれだけ出費がでかいのか、3人と6人では全然ちがうこと、理解してもらいたい。
- 子ども手当など充実した環境にしてほしい。
- 保育園に兄弟がいても優先されず、下の子は別の保育園に預けるしかなく大変。所得に応じた保育料もわかるが、育休中で働いていなくても去年の所得で課税され、保育料が負担に感じる。都城は保育料0歳児から無償化なのに地域差があり不公平を感じる。子育てに対してもう少し市や国からの支援がないと少子化は進むだけ。子育てもお金がかかる。物価も高い。子育てしやすい金銭面の援助がほしい。
- 保育料がかかる。
- 物価高騰でベビー用品もものすごく高くなっている。少子化対策を含めてしっかり支援してもらいたい。
- 保育園、幼稚園、認定こども園等の縛りなく0～2歳も保育料を無料化してほしい。（住民税課税世帯は税金を払っているのに保育料がかかり、非課税世帯は税金を払わないのに保育料がかからないのはおかしい）オムツのサブスクを導入希望。保育園の空き状況を市のホームページで一覧化してほしい。人気な保育園は倍率が高く入れないこともあるので、保育園、こども園同士で交換留学のような制度があるといい体験になると思う。
- オムツ券があることはとても助かるが、生後3ヵ月ほどで使い終わるためもう少しオムツ券の金額が上がると嬉しいし助かる。（1ヵ月で3000円ほどは絶対にかかる）。

- 子どもに対する支援(金銭面も含め)を増やしてほしい。他の市町村と比べて支援が少ないと思う。
- ある程度人口が多い市なのに、子育て支援が充実していないと感じる。大崎町等と比べてしまう。
- 保育料がとても高い。病児保育料も高い。2人病児に預けると数日で1万近くになる。仕事を休まず預けても支出面でマイナスになる。
- 予防接種の負担を軽くしていただきたい。病児保育の充実。学童施設の充実。(ただ預かっているだけでしっかりみてくれているか疑問)施設によってはプレハブみたいなのところもあるし、定員や資格など守られているのか。
- 学校の給食費を均等にしてほしい。同じ鹿屋市なのに違うのはおかしいと思います。子どもの制服等も高い。病児保育の診断書を無料にしてほしい。休日病院がすごく混んでいます。急な発熱や体調不良以外は病院代がかえってこないようにしてはどうでしょうか。普通の風邪や今日くる必要のない人が多いです。
- 子どもが産まれた時のオムツ券は嬉しいが、ミルクの助成券もほしい。3子以降は手当が15,000円となっているが、1子2子もあげてほしい。物価高で子どもたちにほしいもの買ってあげられない。もう少し子どもに対していろいろな支援をしてほしい。保育料も高い。それもあって子どもに貯金もできない。
- オムツ券を増やしてほしい。チャイルドシート貸し出し期間の延長。医療助成制度について返金をもう少しはやめてほしい。明細がほしい。わかりにくい。とても。各病院の手違いが何度かあり確認できない不安。対処していただきたい。
- 高齢者の支援も大切ですが、子育てに支援が鹿屋は少ない。子どもがどんどん減ると思います。将来の子ども達の負担が大きすぎて不安です。
- 働かないと食べさせてあげられない。働いてると構ってやる時間が無い。今回このアンケートも、時間が取られて、その間子ども放置。紙じゃ無い分税金対策としては良しだけど、無意味なアンケートだと思います。結果、お金に余裕がある人は心も余裕。手当てじゃなくて、子どもにかかる保育料、雑費、学校の費用、全て無償にしてくれたら、貧困差も減ると思います。非課税世帯も本当に一生懸命やって非課税の人と、自営業ではぐらかしてる賢い人います。なので、全ての子どもが平等に最低限の教育を受けれる様に無償化して欲しいですね。
- 保育料は3歳の誕生日から無償にならないのは不満。
- インフルエンザの予防接種の助成や、給付金など、近隣の町に比べると補助が少なすぎる。
- インフルエンザ予防接種の助成金をもっと増やしてほしい。
- 未満児保育料を無償化してほしい。
- きょうだいの多さに比例した経済支援が欲しい。
- 療育に通っていて、働きたくても働けない。療育に通っている親へグレーゾーンであっても経済的なサポートがほしい。仕事を増やすと休む時間が全くなくなる。
- 子育てに対する補償が少ない。子どもが遊ぶ場所が少ない雨の日は特に公園が少ない。遊具もない。

- もう少し、非課税世帯ばかり手厚い気がします。うちには5人の子供がいます。非課税ではないので、出費が多だけでかつかつの生活してます。子どもの数が多いのも手厚くしてもいいんじゃないでしょうか。やりくりしてますが、食費がかかります。一日 2,500 円でしてましたが 500 円プラスになってます。後消耗品は別の話です。それだけ、子育て世代は食育をしないとイケないので食事は削れません。生きていかななくては行けませんから。
- 予防接種の任意のお金がかかるやつは、無償にしてほしい。
- 子どもが小さい世帯への経済的な支援をしてほしい。低所得世帯以外への支援が大いに不足してると感じる。
- インフルエンザの予防接種を2回とも助成して欲しいです。
- 子どもを何人産んでも、祝い金がないのが、残念。オムツ券も、半年でなくなる。金銭面の援助がもっとほしい。
- インフルエンザの予防接種が錦江町や南大隅町と比べたら高すぎる。保育園にはすぐ入れない。保育料は高い。鹿屋には母子家庭で手当をもらってるのに彼氏と同棲してる人がたくさんいます。こういう人たちに手当は出さないで欲しい。
- 第一子の時に比べたら、色々な制度も支援も整って手厚くなっており有難いと感じるところが多いです。ただ、もっと進んでいる地域は子育てに対して鹿屋市より力を入れていますよ。
- ごく一部のしか行政などの支援は受けられていないと思う。どこも母親にばかり負担がかかり、それが当たり前の世の中は変わっていない。自分の有給は全て子どもの病気や行事などでなくなり自分自身の休養ができる日はない。仕事、家事、育児なぜ女性ばかりがこんなに頑張らなければいけないのかと思う。
- 保育料など金額が高い。
- 近隣の自治体に比べ、子育てへの支援が少ないように思います。
- 鹿児島市内に通院の必要があるときに交通費の補助などあるといい。学童の無料化、日祝に仕事の時に預けられるところ、病気の時の預けられるところ、育成医療、養育医療、未熟児や保育園に行けたり、学童を利用できたり、助かっています。両祖母が亡くなっており、助けてもらえるところは義妹の所だけです。でも働かないと生きて行けない。冬の夕方迎えが最後だったり、寂しい思いをさせてるのではと気になることがあります。
- 学校給食費を全額助成してほしい。
- 所得に関係なく金銭的な支援が欲しい。
- 給付金を増やすか小学校の給食費を 無料かにしてほしい。
- 3歳以上児の保育料無償化で負担がないので、とても助かっています。副食費も3年生までの子どもから3人目無償という基準をもう少し広げて小学6年生までなどにしてほしいです。
- 子育てしてる家庭にもう少しお金やオムツ券など支援してほしい。気軽に相談できる場所が増えてほしい。
- 未満児の保育園無償化、小学生に上がってから土日祝預けられるところが無い。
- 保育料が高すぎる。
- 鹿屋市は全体的に世帯収入も少なく、教育のためにお金がかかるので、そういった支援が必要だと思います。

- 経済的負担の軽減 公園の充実。
- インフル予防接種の助成が一回しかない。他の自治体は2回とも補助がある。子どもが多いとかかなりの高額。鹿屋も2回補助してほしい。
- 0～2歳児も保育料を無償化してほしい。産後にもらえるオムツ券をオムツだけでなくミルクなども購入出来るように支援してほしい。予防接種、何をいつ接種するのかイマイチ分からない。生年月日を入力したら自動で通知が来るようなシステムがあれば嬉しい。いらなくなった子ども服を無償で提供・交換などできる場がほしい。
- 3歳になると子ども手当が少なくなるので、年度終わりを待たずに、保育料の免除(3歳～未就学児)を始めて欲しい。
- 3歳未満の子どもの保育料を無償化して欲しい。
- 保育料の補助をしてほしい。
- 職場の為に、早期復帰する予定だが、そのために、保育料がかかり、家庭への経済的負担が大きい。
- 無償化、公園や屋内施設の充実。給付金などの手続きのしやすさ、わかりやすさ（遠方ためなかなか時間が取れず億劫になる）。
- 鹿屋市は税金も高いし、子育て支援がほとんど無いと思う。肝属等は子育て支援が充実してきてると思う。
- 子育て支援、環境などの取り組みで何かやってる事はあるのか聞きたい。転居してきて何かしら子育て支援に関する案内など何も無かったし、案内を載せた冊子等もらった記憶もない。何かをやっているとしてそれを周知させる気はあるのか疑問。
- おむつ手当みたいなサポートがもっとあると助かります。ランドセル手当みたいな。
- もっと子育て世代に優遇してほしい。子育てにとってもお金がかかり経済的に厳しい。
- 給料が上がらない中、物価だけが上がり節約するばかりで、子どもの為に使えないのが現状です。
- 0歳からの保育無償化。
- 子どもが産まれてもオムツ券だけじゃ足りません鹿屋市独自の給付金などないので、3人4人産もうと思わない。
- もう少しひとり親に対しての援助をしてほしい。実家で子どもを見るのは申し訳ない気持ちがいっぱいあるが、お金の問題上、アパートやマンションを借りることに自信が無い。
- 子育て支援をもっと手厚くしてほしいです。
- ひとり親世帯に援助がもっとほしい。遺族年金の結婚歴の変更をして欲しい、援助してもらいたい。
- 鹿屋市は子育ての環境や支援が他の市に比べてあまり手厚くないように感じる。
- 東京みたいに子ども1人につき子ども手当を増やして欲しい。3人目からとかケチなことを言ったら誰も子どもを産む人がいなくなる。若いヤンキーのような人が無計画に子ども産んで、それが社会の役に立つのか謎。一人っ子も手厚く。子どもの手当を充実させるだけで、移住者は増える。
- 子どもが複数いると、予防接種の自己負担が大きいので、ここ数年受けていない。

- 児童手当の4ヶ月に1度の、現状を。もっと感覚を短く、2ヶ月に1度とか、頻繁に支給してほしい。子育てにかかる出費や生活費でさえ苦しい時がある。
- インフルエンザの予防接種の助成が少なすぎるのでお金がかかるのでなんとかして欲しい。
- 出産後に貰えたオムツ券はとても助かりました。可能であれば粉ミルク購入にも利用できる補助があれば、さらに助かります。
- 子育て支援センターや公園、通学路の整備。子育てに関して経済的な支援がさらに充実するとありがたいです。
- 鹿屋市は子育て支援が手厚いと思います。ありがたい限りです。
- 鹿屋市は他の近隣の市、町と比べて子どもへの助成が少ない。人口は多いのに。
- インフルエンザを2回とも助成して欲しい。
- 子どもが小さいうちはとにかくお金がかかるので、国とは別に出産祝い金があったり、ミルクやオムツ代の長期的な支援があるといいと思う。オムツのチケットが産後貰えるがオムツは消費が激しいので2ヶ月〜3ヶ月分にしかならず、1歳〜2歳まであってもいいと思う。実際している県や市があるので参考にして欲しいです。
- 子どもに対する給付金が少ない。
- お金の支援と子どもを授かるまでの支援が欲しい。例えば生理用品などの。
- 近隣の大崎町、都城市は0才から保育料が無償になりました。鹿屋市も早く対応していただきたいです。また、輝北は子どもも少なく、学習塾がありません。将来はとても不安ですし、どこの高校に進学してもバイクを利用することになるかとおもいます。道路も悪く、暗い道を通学させることが怖いです。
- インフルエンザ予防接種などの助成金が欲しい。
- オムツの券を増やしてほしい。0歳児から保育料を無償化にしてほしい。
- 鹿屋市もインフルエンザワクチン2回目の補助があると助かります。
- 保育料が高い。隣の高山は0.1.2歳児も保育無償化なのに対して鹿屋市は違う。垂水市の乳児用品購入助成もとても魅力的。鹿屋市はオムツ券12,000円分。正直1.2ヶ月でなくなる。鹿屋市は子育てしにくいという話題はよく出る。鹿屋市が子育てしやすい街だとは聞いたことがない。子育てしやすいと思える要素がない。非課税世帯を無償化にするのであれば税金を払っている側も無償化にしてもらいたい。保育料のために働いているようなもの。収入があるなら保育料を高くしようではなく、共働きの意味を考えて欲しい。片方がパートなど共働きの必要性はないが保育園に入れるためにパートをしているような世帯から保育料を多くとればいいと思う。
- 保育料が高く、保育料を払うために働いているような状態であると思う。
- 多胎児育児についてもっと知って欲しい、産むだけでも大変なのに、育てていくうえで金銭面で大変なのにうけられる補助には制限があったりする。入学金補助や子育て頑張り金がほしい。
- 認可保育園で0〜3歳児の保育料も無償化してほしい。
- 子育て補助金の更なる充実を。
- 給食費や3歳未満の保育料無償も検討していただけると嬉しいです。

- ひとり親へのサポートが少ない。市営住宅に住んでいるが設備の修理など、ほぼ住民の管理に任される。市の管理が住民に任せすぎな気がする。
- 経済的支援、学童を田舎の地域でも使いやすいうように増やして欲しい。送迎サポート等、共働き夫婦でも子育てしやすい環境、制度。
- 他の地域からすると鹿屋市は子育て支援が潤っていない。分かっていたら鹿屋には家を建てなかったと思う。
- 保育園など同じ扱いを子ども達は受けているのに、所得のせいで金額が高すぎて保育園になんのために預けて働いているのかわからない。まるで、保育料を稼ぎに仕事に行ってるような気持ち。
- 鹿屋市の保育料が高すぎる。
- 希望する保育施設に預けるために、0歳の4月に育休復帰しないと入りにくい状況があるため、仕方なく1歳になる前に仕事復帰を検討せざるを得ない。また、保育料が高いため、保育料を払うために働いているのかと考えてしまうことがある。保育料が無料になる3歳まで貯蓄することできず、むしろ貯蓄を切り崩しながら生活している。
- 低所得者、ひとり親などには色んな支援があるが共働きの人には何も支援がない。働いていてもギリギリで生活をしているのに、共働きをしているだけで税金等は払い支援はないのは少し疑問に思う。
- 0～2歳までの保育料無償化または現在の半額。
- とにかく教育費を援助してほしいです 保育料無料。
- 出産した時のお祝いが5万円とオムツ券15,000円分はありがたいのですが、他の市町村に比べるとあまりよく感じない。経済的に余裕を持てる環境にして貰えとのびのびと子育てできると思う。
- 多子世帯など関係なく子どもがいる世帯には手厚い支援をしてほしい。
- 待機児童が多いと聞いていたため、予定より早く認定こども園に入園。金銭的にも生活が厳しかった為フルタイムで復帰から働いているが、保育料の為に働いているようなもの。認定こども園自体の保育時間等は不満はない。
- 保育料が高い。
- 子育て世帯への補助や助成をお願いしたい。
- 店も多く住みやすい環境ではあるが、育児に関しては支援が少ないため、他の市町村に転居するか検討している。
- 私は結婚を機に鹿屋に来ました。鹿屋は生まれ育った場所で生涯住み続ける方が多いように感じる。少子化に伴い人口減少は仕方ないとして、これほど地元に残るということは住みやすく子育てしやすい街だと言えると思う。あまり子育ての悩みは人には話せず、母親が1人で抱える方が多いと思います。父親が子育てしたら偉い、母親は当たり前。辛くて子どもと一緒に泣いて、しまいには子どもからヨシヨシされて2人で笑い合う。一生懸命向き合って今を大切に子どもとの時間を過ごしたい。その為に適度に行政を頼ったり、身内ではない方に相談できたりするだけで、前向きになれたり。子育て中のママには是非優しく寄り添う行政であってほしい、受け入れてもらえるだけで孤独な気持ちから解放されます。子育て世代には是非応援金のような給付金があると遠くから応援されてるようで感謝だなと思います。

子育てはやはり自分でするもの。今は自分の時間が取れなくても今後は子どもも自立し寂しいくらい1人になれるのだから、今を大切に子育てしたいです。

- 非課税世帯ばかりが優遇されるのはおかしい。子どもが多ければ出費も増える為、保育園幼稚園の無償化や教育費についても平等に考えて欲しい。
- ・子どもが2歳になる前に保育園に通うことになった場合の保育料の無償化(母親が職場復帰を早くするのは金銭面に余裕が無いから)。子育て支援の増額(オムツやミルクなど消耗品の物価高、成長が速い為、下着や洋服の買い替え等)。
- インフルエンザなどの補助を増やしてほしい。
- ひとり親家庭への支援を充実させてほしい。住居手当などがあると助かる。家賃等も高いので実家に戻って子育てしているが、児童扶養手当に祖父母の所得も関係してしまうので貰える額が少なくなり困ります。実家にいるからと言って全てお金の支援をしてもらってる訳ではないので、母親だけの所得で考えてもらいたい。子育ての為に退職し、今は収入が全くないのに、前年度の所得で何もかも計算されるので経済的に不安すぎます。
- 子育て支援を更に充実させてもらいたい。全ての人が幼稚園保育園無料化にしてもらいたい。扶養手当が少なすぎる。
- 子育て支援に相談したことはないが、いつでも相談ができる場所や人があるというのは安心感があります。
- 無償化になる時期(3歳の誕生日月から?)の情報を知らないまま、新2号に切り替えることなくしばらく余計に保育費を支払っていた。その辺りのお知らせや説明会などが市または園からはないのか。うちのように知らない人たちは、かなりの差額を支払っているのでは。
- もっと子どもの為の支援金出してほしい。
- 保育料が高い。給食費。

・ 公園・室内遊戯施設、環境整備について (71件)

- 働いていなくても、リフレッシュや急用等で利用できるサービスが増えてほしいです。一時預かりをしている保育所へ問い合わせると、「空がない」「一週間ほど前から予約を」など気軽さがなく感じました。室内遊び場に関しましても、あそびvivaは広いのはいいのですが、3歳以上は物足りなく感じる気がします。乳児も幼児も小学生も同じ場所で楽しめる場所があればとても良いのになと思います。
- 何度も書かせて頂いてますが、大始良は車がないとどこにも行けない行く所がないので、公園だけでも作ってほしいです。子育て中は家事以外家にこもってしまいがちなので、外に出る機会、場所というか、気軽に外出できる公園があれば良いなと引っ越してきて5年間ずっと感じています。
- 以前、鹿屋市の図書館に6歳、3歳、6ヵ月の子どもを私(母)一人で連れて行った際、3歳の子が他の子と本の取り合いになり、しばらく大きな声で泣いてしまったことがありました。職員の方に優しく声をかけていただきましたがおさまらず、私自身も困っていたところ、男性職員の方に今度は「他の方のご迷惑になりますので」と言われ、とてもショックでした。6ヵ月の子を抱いていたので、泣きじゃくる子を引きずるようにしてやっと外へ連れ出すのが精一杯でした。しかも、引きずっているときにわざわざ前に立って「シー!!」とされました。大きな声で泣けば迷惑になるのは十分理解しているつもりで、でもどうすることもで

きず。そこに来て利用者の方ではなく職員の方に言われた一言がとてもつらかったです。借りようと準備している本はどうしよう？など、ただその場を去るのも大変に思える状況でしたので、せめて「お手伝いできることはありますか？」「本はそのままでもいいですよ」「赤ちゃんを抱っこしましょうか？」など一言あってからだ、こちらを受け取り方が違ったと思いますが、簡単には泣きやまずことができないわが子を前に私自身も辛く疲れ果てている時に職員さんの一言はとてもとても苦しかったです。土日仕事でいない夫で、休みの日に市の子どもも連れて行ける場所で起こった出来事に、今後どうやって土日を持ち切ろう？もうムリ～となりました。一人で子ども3人を連れて出かけることが不安になり、図書館利用もしばらくはできませんでした。うるさくしたことを認めてほしいわけではありません。市の施設であり、子どもも利用する場なので、もうすこし、子育て中の親に寄り添った対応ができるように、職員の方々には理解していただきたいです。支援センターにお世話になったり、保健センターの検診などでは優しい言葉に助けられることも多く感謝しています。

- どのお店もオムツ替えや授乳スペースがなさすぎて困っている。子どもの遊び場が少なすぎる。
- 児童センターをよく利用させていただいています。先生方やお友達、ママ友と話せる貴重な場なのでこれからもなくさないでほしいです。
- 鹿屋市は子育て支援事業所がたくさんあり、子育てをするにはとても良い町だと思います。ただ大きなレジャー施設がなく、そこだけが欠点だと思っています。どこに行くにも遠いので交通の便が更によくなるか、鹿屋が栄えてくれればと期待しています。
- 県外に住んでいた地域ではつどいの広場の環境がよく、常に保育士さんも気にかけてくれ、遊び場も広く充実していたが、こちらでは近所はせまい広場で毎日しているわけでもなく公園も遊具がどこも似たようなものばかりで低年齢から遊べるところが少ない。そして、古いと感じる。雨の日に子どもを遊ばせるところがない。あそVIVAだけでは物足りないのでは。
- 育児をして1年ですが、鹿屋の様々な施設や制度を利用させてもらいました。その中で、あそVIVA以外の支援施設は土日あいていなく、室内で過ごせる施設がもっとあると良いと思いました。また歯医者で子連れだと病院側から次からは連れてこない方が良いかもとのことで、なかなか病院にも行けず、ファミサポは毎回の手続き等にも大変さを感じる所以で託児付きの病院が増えると良いのではと思いました。もっと市の支援制度等の情報を発信(LINEやアプリ等)してほしい。その中に子どもに関するイベント告知も入れてほしい。子連れOKの飲食店一覧やイスの有無を知りたい。本の貸し出しだけでなく、月齢に応じたおもちゃの貸し出しがあると嬉しいです。チャイルドシートを借りましたが、1年では短かったです。3歳(ジュニアシートになるまで)頃までだと助かります。
- 子どもとの遊び場が少ない。公園が汚い。タバコが落ちてる。道路が狭すぎて危ない。座席の飲食店が少ない。もう少し子ども手当が増えてほしい。(オムツ券など)3歳未満への手当や検診など増やしてほしい。
- 子どもが走ったり、ボールで遊んだりできる場所がなくゲームばかりになる。広い公園等の施設がほしい。広域公園等は遠すぎる。子どものSNS問題が多すぎる。
- 子ども遊び場をもっと増やしてほしい。
- 公園が少ないです。
- 保育園幼稚園の未就園児クラスや支援センターなど、自宅保育中なので、ほぼ毎日どこかを利用させていただいています。どこの施設の方も職員さんが優しく、またママさん方も優し

い方が多くてありがたいし楽しいです。大変ですが比較的楽しく子育てできていると思います。先ほども書きましたが、土日祝(雨の日)も利用できる室内遊び場が増えたらうれしいなと思います。あと公園もたくさんあって公園巡りも楽しいです。

- あそ VIVA! かのやの職員の一部だが、威圧感でムスッとした顔の方がいる。質問したら高圧的な態度で話してくる。監視されながら遊ぶのはストレスである。4ヶ所の子育て広場の職員はとても暖かく向かい入れてくださる。設備が良いのに、職員に幻滅である。
- 雨や寒い季節に室内で子どもが遊ぶ場所がほしい。予約なしで誰でも入れるところ。大型ショッピング施設など母も気分転換、リフレッシュできるところがほしい。子どもは何かとお金もかかるので、0歳児からでも保育料無料にしてほしい、またはもう少し安くしてほしい。仕事復帰しているが家族の体調不良で休みを取らざるを得ない。会社は看護休暇も取得可能だが給料が出ないため給料出るようにしてほしい。
- 保育料が高い。保育所が少ない。子どもの遊び場が少ない。
- 鹿屋市内(街の方)だけでなく串良方面でも公園など子どもの遊べる場をもう少し増やして欲しい。現在串良町内在住だが遊びに行きたいと言っても車移動が必要であり近場もう少し公園等子どもたちが遊べる場が増えたらいいなと思う。
- 鹿屋市で遊ぶ場所を増やしてほしい。ちゃんと歩ける月齢の子どもたちはどこでも行けるが、まだ足元が不安定な月齢の子どもや物わかりがまだの子どもが遊べるところがない。雨の日や暑い日でも気軽に遊べる場所がほしい。
- 雨天時に遊べる施設がない。
- 子どもの遊び場がほしい。
- 病児保育をもっと利用しやすくして欲しい。公園や子どもが、安心して遊べる場を増やして欲しい。小児科を増やして欲しい。小児科の予約がいっぱいで他の病院でもみてもらえず、次の日の受診になることを改善して欲しい。アレルギーの専門医が少ないので利用しにくい。
- 待機児童はいなくても入りたい保育所に中途入所できないことがある。病児保育の場所が遠い。公園の遊具を充実させてほしい。出産後の手続き(出生届から、医療費関係の手続き)を各支所でもできるようにして欲しい。
- 低年齢と高年齢の子が遊べる公園がない。保育料が高い。体操服や制服なども補助が欲しい。
- 雨の日でも子どもが遊べる場所がほしいです。
- 専門スタッフからのアドバイスを受けることのできる機会が欲しい。運動面や接し方(ご飯の食べさせ方や、離乳食の進め方)、年齢に合わせた接し方・知育、遊び方など、専門(特に理学療法士)から教えて欲しい。
- 最近、なかなか行く機会がなくなりましたが、低年齢のときにあそ VIVA やつどいの広場などよく利用させてもらっていました。雨の日でも室内で遊べる空間があるのはとても助かりました。遊ぶ玩具もたくさんあって小さなお子さんがいる家庭にとってはよい場所だと思います。
- 鹿屋には複合施設や子どもの遊び場が少なく感じます。残業等ある際の子どもの預け先や、夜間の預け先等に困ることもあります。ハグテラスなど素敵な居住環境がありますが、ひとり親では収入が足りず入居できない、祖父母とは入居できない等条件が厳しく大変残念です。まだ小さな子どもを1人で働きながら育てるには、そのほかの協力が必要だと感じますが、

祖父母に協力を得るのも心苦しく、身体的な負担も気になります。今後小学校にあがりますが、仕事をしながら子どもを安心してみていけるか不安があります。ひとり親でも安心して子どもと暮らせる場所が欲しいです。誰もが住みやすいまちとなることを願っています。

- オムツの助成金が少ない。オムツ以外のものも購入できるようにしてほしい。室内の遊び場が少ない。
- 土地がたくさんあるので、雨の日でも遊べる駐車場付きの室内遊具施設をたくさん作って欲しい。
- 子どもと遊ぶ施設が欲しい。パチンコが多すぎる。仕事をしながら子育てしてるので延長保育の時間をもう少し遅くして欲しい。せめて 18 時 30 分。
- 毎年、保育料がめっちゃ上がるから 保育料を一定してほしいです。 小さい子が遊べる場所も作ってほしい。
- 土日でも気軽に行ける屋内の遊び施設が充実してほしい。
- 充実した遊具のある公園を作っていただきたい。寿方面にも児童館を作ってほしい。
- 仕事と育児を両立しやすい環境、サービスを充実させてほしい。子どもが喜ぶ遊び場がもっと増えてほしい。(天候に関係なく遊べる場所)。
- 子育て世代に優しくない。 子どもが遊べる室内施設もない。休日することがない。何も体験させてあげられない。他縣市町村に比べると、お金も貰えない。
- あそびばも出来ましたが 3 歳以下はトランポリンが使えないなど中途半端。同じ敷地にあり、見えるところにあったら 3 歳以下の子もやりたいと泣いたことがありました。都城の支援センターは使えます。遊ぶ場所がなく小学生になったらどこにみなさん遊びに行っているのかな?と思います。
- できれば、屋根付き駐車場のある商業施設が欲しい。1 箇所です。父、母、子のものが揃う場所が欲しい。予約なしで遊べる屋内施設が欲しい。恐竜好きな、息子のために博物館があったらいいなと思った。映画館、博物館、水族館、遊園地、美術館が遠すぎる。
- 子どもの医療費が全くかからない他県の友だちなど、羨ましく思います。 雨の日の遊び場に困ります。 ショッピングセンター的な大きな施設があれば良いのと思います。
- 小学生になり支援センター等は制限が色々あり下の子と一緒にいくとなると楽しめない。もっと小学生(低学年)がのびのびと遊べる遊び場やアクティビティスポットが欲しい。
- 子どもの遊ぶ施設がもう少しあれば良い。
- 子ども達が遊んだり、さまざまな教育環境が整っていない。大人優先のことが多い。パチンコ店等不要施設が多い。気軽に立ち寄れる場所がない。工場見学等学校以外で親子で体験できる施設がない。
- 鹿屋市は自然がいっぱいで春夏秋は子どもも伸び伸びと公園で遊べるが、冬や梅雨時期など気軽に行ける子ども向けの屋内施設や商業施設が無いので、せっかくの休みもリフレッシュ出来ないことが多い。市外のように、児童施設や商業施設の誘致を積極的に行って欲しい。
- 共働き家庭では、小学校入学後に学童保育に預けることがほとんどだと思いますが現在の学童保育では子ども達が思いっきり遊べる場が少ない、学童スタッフの管理能力が低く子どもが危ない目に遭うかもしれない、という不安があります。特に一年生だとまだ本当に子どもです。大人が正しく誘導してほしいですがいい加減な若いスタッフが多く、基本的に放置で

あるため学童保育の充足を早急をお願いしたいです。また学童保育の数自体も校区内に少ないためほとんど選べません。施設増設と施設スタッフの教育、学童保育内容の充足をお願いしたいです。

- 自宅近くに歩いて行ける公園がなく、車で行かなければならない。小さな公園でもいいので、増やして欲しい。毎日開いている子どもの室内遊び場がもっと欲しい。
- 子ども達が遊べる場所公園以外の場所を増やして欲しい。宮崎にある遊びパークみたいな施設を増やして欲しい。有料でもいいので。
- パチンコよりも子ども向け施設を増やしてほしい 霧島市を見習ってほしい。
- 子どもを産める産婦人科が限られていて不便。耳鼻科、皮膚科などの専門医が少なく、また、医者への態度も悪い。遊具が充実した公園が少ない。小さい公園をなくして充実した大きな公園を増やしてほしい。
- 小さい子たちが遊べる公園を充実させてほしい。
- 公園の充実をお願いします。
- 小学生が遊ぶ場所が充実するといい。 雨の日など、遊ぶ場所がない。
- 1 点目、あそ VIVA 鹿屋の予約システムが毎回親の生年月日から子どもまですべて手入力で手間がかかりすぎる。1 度登録した者を選択できるよう簡易化してほしい。また 9 時以降も空きがある場合は連れていけるようにしてほしい。2 点目、市役所に授乳室はあるが調乳用のお湯が借りられないのは困る。全ての方が授乳できるとは限らず、予想外に市役所での手続きに時間がかかりお湯が欲しい時が過去にあった。ケトルなど必要時のみ使用できるようにするなど対策希望。3 点目、鹿屋市内 1-2 歳など小さな子達が遊べる遊具が全くない。大きい子たちと遊ぶには危なく、霧島子ども館の公園や垂水パークはまびら、今流行りのインクルーシブ遊具などを検討してほしい。インクルーシブ遊具は健康プラザに作ると新たな鹿屋の観光地なるのでは。
- 雨の日や夏場の暑い日などに利用できるような子ども向け屋内施設がもっとあればいいなと思います。充実した屋内キッズパークや屋内遊具のある施設を求めて、霧島や都城、宮崎のほうへ良く行きますが、もっと近場にあればいいのにといつも思います。ふわふわの特大遊具やプロジェクションマッピング等で遊べるような施設がほしいです。かのやキッズまつりのような子ども向けに特化したイベントも増やしてほしいです！
- 育休中。オムツ代の支援があるが、ミルク代がものすごくかかるため、母乳が出ない親にとっては、ミルク代の支援があればものすごく助かる。 育児給付金だけでは生活が苦しい。早く産まれたため、出産手当金のもらえる日数が少なかった。もらえる申請期間を統一して欲しい。早く産まれた人にとっては、不平等だ。雨の日でも子ども達が遊べる施設が欲しい。
- 主人は土日祝日も仕事があり、基本 1 人で子どもを見ないといけない為、日曜、祝日雨の日などでも子どもと一緒に遊べる施設や場所をもっと増やして欲しい。
- 子ども達が遊ぶ施設がない。霧島ヶ丘は遠い。寿地区に分散して大きな公園があったら嬉しい。
- 雨の日に子どもを連れて遊べる場所が少ない。保育士の配置基準を見直してほしい。
- 垂水は食費も全家庭免除されている。鹿屋市も取り組んでほしい。あそ VIVA の利用がもっと気軽にできるようにしてほしい。そしてもっと玩具遊具など充実させてほしい。小学生まで利用できるか物足りなさすぎる。3 歳以上で利用できる場所は 3 歳では既に物足りない玩具

だと思う。3 歳未満も保護者の目があれば利用できるようにしてほしい。都城の支援センターなどとてもいい。市外の人も利用させてもらえる。鹿屋市は遅れてるとおもう。

- もう少し 0 歳児とかでも遊べる場所、遊具が欲しい。
- もう少し、子どもや親のことを真剣に考えていただきたい。室内の使える遊び場をもっと増やして欲しい。公園の整備に力を入れて欲しい。子どもたちが楽しめるイベントを増やして欲しい。
- 自宅保育中、他の子どもと関われる集まりや、室内遊び場が充実していたら、もっと長く自宅保育を続けたいと思える。
- 子どもが楽しめる遊び場が増えないと、施設を充実させないと、この鹿屋市で子育てしようという気持ちが薄れる。少子化は進む一方だと感じる。
- 室内での遊び場が少ない。
- 子どもが遊べる環境(施設)が少ない。
- 雨の日に遊べるところが少ない。
- あそ VIVA!かのやはとても良い施設で利用しているのですが、小学4年の娘は利用ができず、土日や長期休み等、3歳の妹と一緒に遊びに行きたくても行けません。上手に沢山遊び相手になってくれるので一緒に行けたら絶対楽しいのに下の子だけを連れて行くわけにはいかず、下の子も利用できない状況が非常に残念です。利用条件等の見直しをしていただけないでしょうか。
- 近くに公園があったら、大きな所じゃなくていいから駐車場が近くて小さい子から遊べるようなところがいつかほしい。
- 現在おおよそ2歳の息子がいるが、実際に子育てしてみて、子どもを遊ばせる場の必要性を強く感じた。子どもを日中遊ばせないと、ご飯をあまり食べなかったり夜も寝つきが悪かったりと、身体的にも精神的にも影響があることがわかったので、是非以下の意見を参考にさせていただき、子育てしやすい環境にしていただければ幸いです。つどいの広場などの子育て支援センターは、串良のふれあい以外は遊ばせるスペースが狭く、赤ちゃんが多く、歩ける子どもは非常に遊ばせにくい。歩き出してからはある程度の広さが必要。そして、つどいの広場にあるおもちゃは家庭でも用意できるものばかりなので、できれば家庭にないようなおもちゃや遊具を置いてほしい。(1歳以上を連れてくる親子もかなりいる。歩けるようになってからも遊ばせる場がもっと多くほしい。)公園は、2歳未満でも遊べる遊具があるところがとても少ない。霧島ヶ丘と大隈広域公園のちびっこ広場くらいしかない。しかも、夏は暑いと子どもも熱中症の危険があるし、遊具が高熱化しているため低温やけど等になるため、遊ばせることができない。冬は朝露等で遊具が濡れているため、遊ばせることができない。室内で思い切り身体を動かせる場を設けてほしい。(廃校の小中学校など、今ある施設を有効活用するのはどうでしょうか)子育て支援センターはありがたいが、毎日空いていないので、いつもどこに遊ばせに行こうか非常に悩む。せめて、月曜から金曜まで空いているところがもっとほしい。土日どちらか空けていただけるとより嬉しい。・あそ VIVA は、3歳以上しか遊べないコーナーがあるが、怪我をしても保険が効かなくてもいいので(親の責任で)あの遊具で子どもを遊ばせたい。あの遊具がたくさんあるような施設をもう一つ作ってほしい。自分たちは県内外の子育て支援センターを利用しているが、都城市のプレピカがとても良い。是非参考にしてほしい。若い世代は、子育てがしやすい環境に住みたいという人が多いので、若い世代を呼び込むためにも、鹿屋市も子育て支援に力を入れているアピール

をし、多くの若者に鹿屋市に移り住んでもらうよう、子どもと親が過ごしやすい場を提供していただきたい。現在は核家族世帯が多く、子育てを親だけがしないとけない環境にある。子育て支援センターなどで子どもを遊ばせながら、親同士フランクに話ができる場がもっと多くほしい。あそ VIVA は土日も開いていてありがたいが、夏、冬休みは特に大きい子どもも多く、走り回って危ないと感じることもあったため、年齢別に遊べる施設をもう一つ作ってほしい。

- 遊び場が少ない。
- 鹿屋市の図書館がキレイになったら嬉しいです。
- 幅広い年齢の子どもたちが楽しめる公園や施設を増やして欲しいです。
- 鹿屋にダイワやイオンなどの商業施設が欲しい。小学生が学校に大きな水筒を持って行っているのが可哀想。市役所や市の施設には無料の給水器があるのに学校にないのはおかしい。

・ 窓口負担費用について（50 件）

- 医療費を無償化にしてほしい。鹿児島県のみ医療費を支払っているようなので。少子化と言っているが子どもに出費が多い。非課税とひとり親のみが生活が貧乏というが、それ以外も生活は苦しい。支払いが追いつかない。1〜3 ヶ月滞納しているのが現状です。もう少しその他の生活を見てほしいです。非やひとり親のみとか差を感じます。生活できないから共働きしているんじゃないですか。それなのに、子育てに関して不安とか言ってますけど。
- 窓口での医療費の支払いを無くしてほしい。
- 固定資産税税金関係をすべて子育て世帯は減額等してほしいです。子ども医療費の窓口負担を無料にしてほしい。(なっていないのは鹿児島県だけみたいです)幼稚園、保育園の先生の数を増やしてほしいです。
- 小児科が少なく、どこも予約をしても終わるまでに 1 時間以上かかる。予約すら取れず、診てもらふことすらできないこともある。全国で鹿児島だけ医療費の窓口での支払いなことも不満に思う。子どもの発達遅延で色々市に申請で伺いましたが、何度もいい加減な対応をされ、手続きに日数を要したのにミス続きでこちらに足を運ぶことになりました。ただでさえ、障がいのある子どものことで心身共に疲れました。対応された方にもよりますが、心無い言い方をされとても悲しくなりました。大事な我が子のことなので余計に。いい加減な対応(わからないならちゃんと調べてから説明してください。手続きにきたのにできないの一点張りで返されました。)後日、別の方に対応してもらおうと話は全然違うし手続きできました。
- 病院受診の際、受付で支払い、後日入金される仕組みを変えてほしい。病院での支払いを無くしてほしい。
- 子どもの医療機関受診の窓口支払いを無料にしてほしい。お金の心配をせず気軽に受診できるようにしてほしい。高校まで授業料無償化、給食の提供を願う。
- 病院の窓口負担を早くなくしてほしいです。
- 病院でのお会計をなくしてほしい(元々宮崎から来たためすごく不便に感じる)。
- 窓口負担を 0 円にしてほしい。

- 医療費の窓口負担をなくしてほしい。家から近い保育園を希望したが、落ち、待機児童になった。予防接種費用の負担が大きすぎる。嫁が働いているのに前年度の働いていた時の年収で保育料が決定するので非常に保育料が高い。高すぎ。
- 子どもの病院受診時の窓口負担をなくしてほしい。2 ヶ月後に返金では遅く、実際連れて行くのは母親なのに、返金は扶養者(父親)の口座。入金もバラバラで確認も面倒である。急な受診時も財布を気にしなければならない。
- 病児保育所の充実(せめて、おむかえに行けるまでの一時預かり場所)ネットスーパーもしくは買い物代行の充実(ワンオペで子どもが寝込むと買い物へ行けない)病院費用が2 ヶ月後に返ってくるのではなく、最初から負担のないようにしてほしいです。
- 医療機関での窓口負担がなくなると良いと思う。未満児の保育料が高い。病気をもらいやすく、休んでしまうことも多い年齢なので、もう少し安くなれば良いと思う。
- 子どもの医療費が無料は嬉しいが窓口で一旦支払いをして後日振り込みで返金って意味がわからない。最初から支払いなしにすれば振り込みの手間が無くなるしこちらとしても助かるし手元がない時に病院受診をためらうこともなくなる。
- 医療費窓口負担の解消。インフルエンザ予防接種などの費用負担の軽減。図書館の保管図書が内容、物品共に悪すぎる。公園が少なく、大きいのは都市部郊外に行かないとない。笠之原周囲で大きい公園があったら良い。
- 病院費用の窓口負担をなくしてほしい。費用がかかる。保育料が高い。住民税非課税世帯にばかり優遇しないでほしい。
- 経済面が父親だけの収入では厳しく、1 歳児の子どもを保育園に預け母親も働いているが、保育料がかかるので、本当はもっと働かなくてはと思うが、子どもが小さいためお熱などの病気ですぐ保育園を休むため長い時間は働きにくい。病児保育を頼むにしてもパートタイムの一日のお給料では有料で利用するのはなかなか厳しいです。子どもが卵アレルギー、アトピーがあり定期的に病院に通っているが、医療費も窓口負担があり月に5 千円から1 万円ほどかかり返ってくるのは2 ヶ月ごなので、それも家計の負担になっています。窓口負担が非課税じゃない人たちもなくなれば、家計が楽になります。
- 小児科の受診時出だしがあること。
- 病院での支払いの手出しをなくしてください。
- 医療費無料なのはありがたいですが、無料なのであれば窓口負担をなくして欲しいです。病院に行き、小さい子どもを抱っこしながら、又は手を繋ぎながら支払いをするのは大変です。どうかお願いします。
- 医療費助成はとてもありがたいが、最初から払わなくて済むならもっとありがたい。急に連れていかないといけない時があるが、お金が無いと連れて行けない。
- 3 歳までの保育料等無償化をお願いします。乳幼児医療費の窓口負担を無くしてください。
- 保育料の2 人目の3 歳児以下の無償化。病児保育、休日保育等の施設の充実。子ども医療費の窓口の自己負担をなくしてほしい。鹿屋市独自の児童手当などがあってほしい。オムツ券を最初の1 回だけではなく3 歳くらいまで毎年1 万円分くらい充実してほしい。
- 医療費の支払をどうにかしてほしい。
- 多子世帯だと児童手当もたくさんもらってるだろうとか安易に言う人も居るが、それなりに出費も多い事を知って欲しい。児童手当も頂いてるのは、子どものためと思って習い事させ

たり、学用品を揃えたりするので出るお金も多い。子どもが一人の時は貯められていた手当ですが、子どもが増えるとそれなりの出費もあるので、貯めるのも難しいです。フルタイムで働かないと到底貯められません。手当を頂けるのはありがたい事ですが、固定資産税や物価高による税金の軽減があるともっと子どもが居る世帯は住みやすいと思います。子どもは定期的に耳鼻科や歯科に通っているので、後日返金されても窓口での支払い免除を早々に実施して欲しいです。

- 予防接種の自費負担額が高い。小児科の予約がとりづらい。保育料の基準が厳しい。子どもの人数で免除や減額になる対象を所得割額ではなく全員にして欲しい。他の市や町では出産時に給付金がもらえたりするので、出産後のサポートをもっとして欲しい。病院の会計時に一時負担をするのが鹿児島だけなので、それを早く無くしてほしい。
- 医療費を窓口支払いの口座振り込みではなく、窓口負担無しにしてもらいたい。
- 課税、非課税関係なく子育て世帯の医療費を窓口無料にして欲しいです。金銭面で余裕がなくても医療費がかかれば生活が貧しくなります。
- 病院での窓口支払いが、無料または定額になってくれたら病院受診がしやすくなる。
- 子どもの医療費の立替をなくして欲しい。
- 病院代を後からではなく、行った時から無償にしてほしい。雨の日でも遊べる場がほしい。園、小学校、中学校の制服代の無償化。多子世帯への支援。
- 病院受診の際、こちら側が先に払い、後で受診料振り込むと言うシステムを変えて欲しい。中学卒業まで病院の受付で支払う受診料を0円にしてほしい。
- 医療費の窓口負担をなくして欲しいです。上の子が7歳を過ぎ、3割負担になってから病院代が高く感じています。もしくは子どもの成長に必要な歯科検診（フッ素塗布も含む）やワクチン接種の助成を希望します。小学校入学の際、算数セットの支給や給食費の助成ははととてもありがたく感じました。
- 子ども医療費が結局帰ってくるのに、窓口で払わないといけないのが面倒。
- 低年齢が遊ぶ遊具（屋外）が少ない。病院が予約制ばかりで、緊急の受診ができない。費用が高い（保育料、ファミサポ予防接種）。病院の受診料実費0円にしてほしい。
- 医療費の窓口負担なし。オムツゴミ無料化。一時預かりの充実と質。
- 鹿屋市は周辺地域に比べて子どもも多く子育て世帯が多いにも関わらず、働く親目線に立った支援が充実していないと思う。病児保育の利用に関してや一時預かり制度など、ほぼ皆さん利用する日が来る制度(しかも急に)なのに、こちらから求めない限りアナウンスがない。なんなら出生届の手続きなんかと一緒に登録案内載せてもいいくらいです。(ファミサポも)ファミサポに関しては、登録しないと利用できないわけですが、本当に必要な産前産後にわざわざ登録に行けるわけもなく(行けない状況の方が利用する制度ですよね…)、利用者の立場に立ってないと思います。子育て支援課の窓口に関しては、知識不十分なパートの方ばかり。相談しても知識がなく、すぐ後方へ。子連れで行くことも多いため時間を掛けられないのに無駄に時間がかかる。子育て未経験の方も多く、全然親身になってくれず、マニュアル通りの対応。電話だと大抵詳しい方が出てください、スムーズに進む印象。でも手続きは窓口じゃないと出来ないものも多く、ちぐはぐ。また、周辺地域(大崎町や肝付町など)はイベントなど無料が基本だが、鹿屋市はいちいちお金がかかるのがちょっと。遠くても充実&無料の他地域のイベントに参加したほうがいいです。あとは幼稚園や保育園についての

情報が古い&不十分です。それぞれの園に任せているから園によって希望者に偏りが出るとだと思います。(情報やクチコミが入手しやすい園。SNS やインターネット等の活用が上手く、情報発信力がある園や新しい園に人気が集まる) 行政とはいえ、事務的なことだけをやっているのでは、必要最低限は満たせても、充実や満足には繋がらないと思います。(他地域の視察も必要です) 学童の利用についても謎が多いです。利用はまだ先ですが不安です。働きながら子育てすることに関して、不透明なことが多すぎて、先行き不安になります。

- 子どもが参加できるイベントをたくさんして欲しい。窓口の医療費負担を無くして欲しい。
- 医療費免除であれば最初から支払い無にしてほしい。子どもが遊ぶ場所がもう少し増えてほしい。
- 医療機関を受診した場合、料金を自己負担後に返金するシステムを改善してほしい。
- 医療機関で一旦窓口支払をする必要をなくして欲しい。
- 医療費について。今は非課税世帯以外は窓口支払い後の返金であるが、病気の子どもを連れて会計待ちは大変なので、窓口での負担もないようにして欲しい。他県は既にそうなっていると聞いています。
- 病院での受診の際他の県では医療費の紙を見せたら容器代などだけ払えば済むので鹿児島県も早く導入してほしい。
- こども医療費の窓口負担をなくして欲しい。
- 病院代の支払いは無くして欲しい。
- 医療費の窓口払いを無くして欲しい。
- 保育料が高すぎる。子ども医療費の窓口負担を無くして欲しい。
- 病院の窓口負担を無くして欲しいです。子育てや子どもに関することについては、市役所を通して手続きしなければならないことを、なるべく減らして欲しいです。アプリなどでもできることも増えているかもしれませんが、まだ周知されていないように思います。
- 医療費の窓口負担を無くして欲しい。
- 医療費を窓口負担ゼロに早くして欲しい。

・ 預かり環境・施設整備について (28 件)

- 産後、宿泊して赤ちゃんをみてもらえる環境を、格安で鹿屋にもあれば(～1 歳くらいまで)。特に夜間は数ヵ月たっても何回も起きる赤ちゃんもいるので(うちは 3 人共)、夜は特につらかった。上の子がいるので昼寝もできず。夜間の充実。大きくなったら気軽に配偶者または祖父母も休める職場の環境。安心して子どもを預け、また会った時には笑顔で優しいお母さんでありたいです。
- 未就園児の施設が(地域子育て支援センター)充実しており、アドバイザーの方が常に一緒に見守りをしてくださり、本当に心温かいでした。何気ない会話も子育ての悩みやストレスを解消してくださいました。他の市町村にはない体制かと思っています。ありがたいです。仕事復帰後の子どもの急な病気が心配です。病児保育がもう少し数の面で充実していれば安心かなと思います(身内が近くにいないため)。もちろん休める制度はありますが、仕事の段取りなど調整する時間が必要なためその間一時的に見ていただきたいです。
- 関東から鹿屋市に移住してきて妊娠出産しました。配偶者以外に子どもを頼むことができず、配偶者も仕事が忙しいためほぼ一人で家事育児をしています。こちらには家族も友人もおら

ず、時折孤独を感じたりします。もう少し、預かり保育の申請がやりやすかったり、利用しやすかったらなと思っています。またベビーシッターや小規模施設で保育してくれるような場所があれば、定期的に利用したいです。よろしくお願いします。

- 希望の保育園、幼稚園にすんなり入れるようにしてほしい。
- 一番上の子の時に比べて、色々な制度が整い、子育てしやすくなったと感じます。市役所に相談の電話をした際も親切に対応して頂きました。出産後、仕事復帰するまでに1番心配なのは保育園に入れるかどうか。兄弟が増えると同じ所に入所できるか。という悩みは妊娠中からずっとありました。身近な方で同じ保育園に入所できなかったと聞いたことがあるので不安です。
- ファミサポの利用まで手続き等が長く結局利用できなかった。もっと軽く利用できるようにしてほしい。(マルチに利用したかったのに、産後の料理をお願いする、子どもをみてもらう、どんな理由で利用したいですか。それによって、面談する人を決めるのでといわれ、改めて面談し、利用するという流れ。妊婦でも何度も社協にいくのが大変で、利用しなかった。
- 保育園が少ない。子育て世帯への給付金がほとんど非課税世帯だけで課税世帯も厳しいのに、これでは子育てできない。
- 就労していなくても、入園可能にできる枠を作してほしい。3歳までは有料なので補助する等あったら良い。
- ママも1人時間が欲しい。もっとショートステイを活用しやすい雰囲気と活用方法を知りたい。ショートステイできたとしても慣れない場所、人に預けるのはどっちにしても不安。何度か親子で活用して慣れて行ったら、子ども単独でショートステイ利用できるシステムにして欲しい。24時間駆け込める施設もあればいいと思う。
- 職場とも相談しないといけないと思うし、保育士不足等もニュースで耳にしているが、預かり時間を長くしてもらえたら祖父母などが預かる負担も減るのではないかな。個人的には日曜日も開所していて、6時から20時まで預かりがあると、祖父母も負担が減ると思う。
- 今の保育園は働く親に寄り添っていない。仕事をしないと子どもの将来のことも考えお金を貯めないといけないのに、歯医者者の定期検診のあとは登園禁止、予防接種のあとは登園禁止。仕事終わりには定期検診も予防接種も時間的に間に合わない。みてもらってる側だから文句は言いたくないが、市の方から保育園に指導してほしい。
- 保育園は希望するところに入れるのが理想ですが現実的に厳しい。一人目の子どもの時は、親自身も全てが初めてでわからないこともあったが、何人か子どもがいると慣れてくる。下の子は自由に色々させている。私は年齢的、体力的に出産は難しいが、もっと若い方々が安心して出産、子育て、あともう一人生んでみようと思えることができる環境だといいと思います。
- 育休の場合の、保育可能期間を、1歳までから引き延ばしてほしい。新年度からの復帰までに残り数ヶ月期間、退園しないといけない現状があり、大人よりも子どもの精神的負担があるため。
- 保育園でも先生によって、子どもを呼び捨てで呼んでいるかたがいるので、最初入園した際は気になりました。今は大分慣れてはきましたが、当時は呼び捨てに疑問でした。皆さんは子どもの呼び捨てどう思うか意見を聞いてみたいです。
- 学童保育場所を増やしてほしい。

- 兄弟で保育園に入りにくいです。別々に預けていました。とても大変でした。0 歳児が兄弟児と一緒に預けられる環境を整備してほしいです。
- 気軽に預けられる施設がほしい。
- 小学生の放課後、休日に預けられる場所を増やしてほしいです。
- 年度末が休みになる保育園がほとんどで困っている。
- 子どもが一歳の誕生日を迎えたら職場復帰しなければならないが、近所に空いてる保育園等がないため復帰できず育休延長をするところです。ですが夫の収入と育休手当だけでは生活はできて貯金まで手が回らないため働けるように保育の受け入れを寛容にしてほしい。
- 両親の出勤時刻(日により変わる、場合により週 6 勤務)の関係で朝 7 時から預かってもらえる保育施設を探すのに苦労した。子育て便利帳の保育所等一覧に預かり時刻も入れておいて欲しい。
- ファミリー・サポート・センターの一時預かりで、預かり当日前に保護者と預かってくださる方との事前面談が必要か疑問です。以前住んでいた自治体(鹿児島県内)のファミリー・サポート・センターは電話一本で預かり可能で大変利用しやすく、何かあった時にも頼りやすいという精神的な支えにもなりました。数時間預けるためだけに予約→面談→当日預ける準備→預け場所に連れてい という労力。利用登録はしましたが、説明を受けて正直面倒さを感じ(幼稚園に行き始めたのもあり)今のところ一時預かりを利用した事はありません。事前面談が必要など、子育て支援課のどのくらいの方がご存知でしょうか。来年 3 人目を出産予定ですが気軽に一時預かりできるところがなく不安です。1 歳になれば上の子たちの通う幼稚園に預けられそうなのでそれまでの辛抱かなと思っています。
- 働く親に対するサポート体制を充実して欲しい。病児保育など、子どもが感染症の時(自宅待機期間)に安心して預けられる環境がもっと欲しい。
- 保育園の枠が少なすぎる。
- 上の子が保育所入所中で、下の子が 1 歳になって保育所の定員が満員で入所困難な時に、職場の育児休業期間は延長できるのに対して、保育所の保育理由が 1 歳を超えたら保育理由が無くなるため退園もしくは延長料金がかかるようになってしまうので、保育理由の見直しをしてほしい。
- 児童発達支援事業所には理学療法士がいるけれども保育園や幼稚園にはいないのでいたら良いな。
- 在宅でテレワーク等を母親が始めた場合、不定期でも学童は利用できるのか、在宅では利用不可なのか、また親の急病で家庭内での保育ができなくなった場合にも学童は利用できるのか知りたいです。
- 就労しているが保育所の確保が難しい。

・ 病院・療育施設整備について (22 件)

- 鹿屋市は子育てに対して支援は他の地域と比べてすごく良いと思います。出産祝い金、オムツ補助券等助かりました。ただ、小児科がなかなか予約が取れない時があります。そこをどうにかしてほしいなど。オンライン診察とか。あと、雨の日でも遊べる施設が増えてくれたらと思います。

- 病児保育施設が増えるとありがたい。
- 先日私(母親)が発熱し子どもの一時預かりを検討しましたが、幼稚園鹿屋乳児院共に預ける際のハードルが高く諦めました。もう少し簡単に預けられたらと思ったのが本音です。(幼い命を預かることなので手続きがいるのもわかるのですが)。
- 急病のとき病院にかかりづらいです。予約も取れず、悪化することが多いので、安心してかかる病院があったら良いと思います。
- 病児保育をしてくださる医療機関にかかりにくい。土日祝日の預け先が公的な所がわからない。ファミリーサポートに登録したが、自分たちでその時に交渉からしなければならず利用しにくかった。また病児を診てもらえないため必要な買い物や兄弟の送迎などができず結局利用していない。学童保育も幼稚園等のように一覧がほしい。いつから募集が始まってなど全て保護者側で調べないといけないので事前にわかるようにしてほしい。子ども向けのイベントがたくさんあるのはとても満足している。
- 他の市町村に比べて市の保健センターや子育て支援センターはとても利用しやすく日頃の相談先ではあるものの、いざ子育ては母親への不安、負担が大きく有事の際の預かり先も気軽に預かってくれないのでもっと間口を広くしてほしいです。一月前の予約でも病院に行きたくても断られることが多い(一時預かり保育園は使いづらい)肝付町のようにインフルエンザワクチンの2回目も補助があると助かりますし、小児科も少なくいつも混んでいるので妊産婦～子育てしやすい環境の整った鹿屋市になってほしいです。
- ウイルスの多い社会。小児科の予約が取りにくい。県の問題でもあると思う。医療機関での会計がなしになれば、もう少しスムーズな受診ができると思う。病気で苦しんでいる子どもを(院内で)長時間待たせるのは辛い。
- 病児保育が1件しかないことがしんどい。フルタイムで働きながら子育てができる環境では到底ない。
- 病児保育を増やしてほしい。親一人、子ども複数つれて気軽に行ける適度な広さの公園がほしい。ワンオペ育児なので、大きな広い公園だと子どもたちが四方八方に行ってしまう、ひとりで見きれなくて公園に連れていけない。
- 私たちも休まないといけないので土曜日休みのところに就労してほしいですと言われたのは少し不快でした。子どもが元気だけど熱がある。でも預けられない。ってなったとき、預けられるところがほしい。シングルだけに給付金はおかしい。子育て世帯みんなに渡るようにしてほしい。
- インフルエンザ予防接種の助成が近くの市町村と比べ少ないので同じようにあれば助かるなと思う。
- もう少し病児保育等があると働きやすい。
- 小児科の予約制は無くしてほしい。急に体調悪くなったりするので予約制だと困る。生活するだけでも。
- 保健師の対応がとても悪い。相談に行っても業務的で為にならない。保健師の言葉や態度で傷付いているお母さん達が多いです。健診なども早く終わるようにしてほしい。ダラダラしすぎて、親も子も疲れる。障害を持っている子どもの対応が悪い。行政手続きも簡素化されると良い。

- 産婦人科がいつも混んでいる。病児保育の利用料通知が来るのが毎年遅い。保育園に入れない。(待機児童)。
- 病児保育をしている病院を増やしてほしい。
- 保育園に入れていないため、入所しやすくして欲しい。また遠方の施設を勧められるが、発熱等があった際の迎え等を考慮すると実態とあわないので、考慮して欲しい。
- 検診とかで保健所に行く時 保健師さんとくに年配の方の 対応があまりよくない。
- 経済的支援・公園等の施設(屋内外問わず)充実を希望します。現在ある公園や支援施設は行くまでの道が狭かったり駐車場が狭かったりする場所が多く、行きづらく感じています。誰もが安心して行ける施設を希望します。
- 鹿屋で診てもらえない病気や手術があり、通院や手術になると鹿児島大学病院へ紹介されるが、通院や入院にかかる交通費や仕事を休む負担が大きい。 鹿屋の病院(耳鼻科)は低年齢を理由に診てくれない。
- 子どもの通える耳鼻科がない。
- 自閉症児がいます。鹿屋市のサポートには精神的にも経済的にもとても助けられています。ですが、乳幼児検診の時の人数がとて多く障がいのある子にはとてもとてもストレスで行きたくないものでした。そして保健師さんの言葉でとても嫌な思いをしました。発達障害についてきちんと研修などあるのでしょうか。問診票は左が『はい』右が『いいえ』で統一されてはおらず、右に丸をすることは問題があるということ。と様々感じさせられました。その方がチェックしやすいのだとは思いますが、丸をつけながらとても悲しくなりました。小学校の支援級はほとんど発達障がいに関しての資格を持っている先生がいらっしゃらないのですね。とてもビックリしました。支援学校と支援級であまりにも差があり支援級を諦めました。鹿屋市は国の主催したインクルーシブ教育の研修会に参加されていますよね。なのになぜこんなにもインクルーシブの影も形も感じないのでしょうか。もう少し学校教育の公平性に関して議論していただきたいです。

・ 子育てに関する認識のアップデートについて (18 件)

- 特にありません。検診の時などに色々なサービスを受けられますよとアドバイスはいただきますが、平日は休みを取らないといけないので無理です。
- 職場で、なるべく休まないように夫はもちろん、祖母などに協力もしてもらっているが、それでも上司に病児保育に登録すれば。など言われてしんどい。でも働かないと余裕が持たないので難しい。そういうことも報告できるようなものを作って欲しい。
- 時短勤務を導入してほしい。お祝い金などの金銭面の支援が少ない。保育料が高い。
- そもそも子どもが居ても働きやすく、就職しやすい環境から整うのが先だと思う。
- 社会全体で父親の育休を取ることや子育て参加(週一の休みしかなく休みが無さすぎ)に賛成する雰囲気してほしい。
- 両親ともフルタイムで働いているが小学校低学年時に下校が早い時どうするかを思案中です。自宅から小学校までが遠いので、ちゃんと家に帰って来ているか確認できないのも不安です。学童も定員があると聞くので、入れなかった場合、仕事を辞めることも考えています。
- みんなが安心して共働きできるように日曜日や祭日の預け先や、残業や遅出、夜勤などにも対応できる場所。学校に隣接している学童(保育園系列だと、他の保育園からの子どもは馴

染みにくい。どこからの保育園や幼稚園からでも馴染めるようにしてほしい) など親子ともに安心して共働きできるようにしてほしいです。

- 育休をとりにくい状況を無くして欲しい。
- 一時預かりでもいいからと説明を聞きに市役所に行ったら、働いてないからと半笑いで門前払いされた。働いていない人でも 24 時間子どもと一緒に辛い時がある。一時預かりでもいいから利用させてほしい。
- 会社側も制度について知っていて欲しい、育休が取りづらい、現場に復帰する気がないなら育休はとらせないと言われた。社長が全てを決めていて育休はとりたくても取れなかった。
- 愛知県か名古屋市に、年に何日か家族行事の為に学校を休める日がある。それを参考にして鹿屋市も、その制度を取り入れて欲しい。家族との時間を大切に有意義に使えるため。どの家庭の生活スタイルでも、家族時間が作りやすく、混雑する連休などを避けて旅費わ、安く済ませたりが叶えられると思う。色んな意味で親にも余裕ができ、親が楽しむ姿は子どもの幸せにつながると思う。ぜひ実現していただきたい。
- 高齢者に対しての環境整備よりも、働き世代、子育て世代、子どもに対しての環境を充実させるべき。仕事の関係上鹿屋市に来たが労働環境含め最悪である。
- 充実した学童制度が欲しい、小学生に上がるときに仕事で悩む。保育園の入園手続き、毎年の更新手続きが毎年毎年とても大変です。母親が仕事を変えるときに父親の会社に書類提出をお願いしないといけない現状を変えて欲しい。
- 就職活動する時に、育児をしている人が就職しやすい職場を紹介してくれる場所があると助かります。
- おむつ助成券をおむつだけではなくもっと幅広い育児グッズに使えるようにしてほしい。産院が少ない。子育てに関する市の HP の情報が分散していて見にくい。
- 自宅保育者でもいける職業訓練を増やして欲しい。リモート勤務が可能な職業への就職を希望するのは専業主婦等が多いと思う。
- 鹿屋市はかなり支援も大きいと感じています。支援には満足しているのですが、もう少し、働きやすい職場があればいいと思います。
- 働く親への理解が少ない。行政、企業、世間。そして保育士への負担、責任が大きい。

・ 学校環境について (6 件)

- 今現在中学生の娘が学校のある先生に不信感がありクラス全体でもその先生は嫌われていると聞いた。内容を聞くと生徒に対して配慮もない上、テストを紛失するという問題を起こしている。しかし学校にそういう相談をするなど娘に止められている。改善も出来そうにない先生の為早急に対処を望んでいる。職員の採用基準が分からないが前の学校の生徒や親の聞き取りも行っているのか疑問。きちんとしていないからこういう問題が発生し子どもの不登校等に繋がったり、担当している教科への意欲も低下してしまう。採用基準はもっと厳しくすべき。そして、親子で学校以外での相談場所を提供して欲しい。
- 保育施設はある程度選べますが、小学校は選択肢がほぼないため、担任によって差があります。せめて、中高のように教科担任にしてほしいです。また、教師によるわいせつ行為等も心配です。生徒を呼び出す必要があるなら、個室ではなく職員室にしていきたいと思います。いじめアンケートに関しても、担任が加担している場合等は素直に書けなかったり、揉

み消される可能性もあるため、教育委員会の職員が出向いて、担任には席を外してもらった上でアンケートをとるなどしなければ無意味だと思います。

- 小学校の教育環境が、あまり良い話を聞かない。担任の先生のスキル次第だったり、障がいのある子ども達の担任になる方が対応が良くなかったりという話を聞くことがある。我が子は寿小校区で、再来年入学だが、通学路が車が近く、歩いての登校が少し怖い。
- 小学校でも少人数で学べる体制作りを期待します。35人学級でも多すぎる。大人、職員の目が行き届いていないと、子どもたち一人一人の自己肯定感をたかめられない。見てほしい、気づいてほしいという気持ちで子どもは悪さをするのかもと最近思います。子どもたちに十分寄り添うだけの時間と心の余裕を、大人が持てるような環境が必要だと思います。
- いつも多方面からの子育て支援をありがとうございます。せっかくの機会ですので意見させてください。小規模校は普通の学校と比べ色んな面での負担が大きいように思えます。良い所もちろん沢山ありますが、どんどん家庭数がへり PTA 行事なども大変です。ですので、近くの学校との合併を望む親御さん方の声も多いです。もしくは、小規模ですが設備もすごく整ってますので、外部からの受け入れなどもっと積極的に受け入れる姿勢はできないでしょうか。外部では人数が多すぎて先生方も手いっぱいとも聞きます。バスを使つての登校などで外部からでも親御さんの負担を少なくする方法を取り入れるなどされたらもう少し気軽に通いたいと思われる方も増えないでしょうか。地域のバスを使えば地域の活性化にもつながります。また中心部だけでなく、端の地域にももっと市営住宅の建築、舗装などして移住者を募集してみてもはどうでしょうか。地域活性化にもつながるかと思います。住む場所がない、送り迎えが難しいなど小規模に行かせたい方から聞く声もあります。鹿屋市全体をよくするために、中心部だけに力を入れるのではなく、あるものを活かしていけばより良い街作りになるのではないのでしょうか。長々と失礼いたしました。少しでも声が届きますよう、よろしく願いいたします。
- 就学時健診のときは、実際に通う予定の小学校で開催していただきたいです。先生や学校の様子を見ることができ、親も子も就学時のイメージしやすいと思います。また、小学校で必要なものや注意事項などの説明があれば大変助かります。

・ 情報発信について (5 件)

- 田舎に暮らしていると子育てを含め行政の行う各種支援などの情報がほとんど聞こえてこず、ちょっと困っている時に、あの時知っていれば助かったのにとすることが多々あります。アプリなどもですが、まだまだ紙媒体も有効かと思いますので積極的な情報の配給がありますと幸いです。よろしく願いいたします。
- あまり保育園関係とか子育てでいい情報とか教えてくれない。
- 都城市にある『プレピカ』のような施設、子どもの具合が悪い時でも安心して預けられる施設またはその情報を知れる環境が必要。
- 療育に通っています。料金を市が負担してくださっているのは本当に助かっています。おかげで、発達に関する専門家に相談することができ、気持ちが楽になっています。他の自治体でも少ないと思います。素晴らしい取り組みです。しかし、小学校以降の情報が得にくいと感じています。
- 光華こども園に一時預かりの相談をしたら今年度は実施していないと解答されたので鹿屋市のホームページの記載をしっかりと反映してほしいです。

・ 各種手続きについて （4 件）

- 産休を 3 年間 OK と法律で決めてほしい。（家庭の事情もあるので復帰を早くしたい人は OK として、原則 3 年間は OK）仕事復帰したが、入園予定の園で復帰する時期に預けられなかった。そのため祖母に 5 ヶ月間子守をしてもらい助かったが、仕事復帰するにあたり保育の受け入れをしっかりとしてほしい。保育園、幼稚園、認定こども園へのサポートをしっかりとしてもらい保育士を確保してほしい。保育スペースも含め。転入した際に「保健センター」への案内がなかった。（次は〇〇に行って手続きを！と案内されたわりには保健センターは全く案内がなかった）わからないことがわからない、保健センターの場所も違う。しっかりとサポートをお願いしたい。不親切に感じた。市役所に行く待ち時間が長い。キッズスペースを何か所か作ってほしい。また待ち時間の緩和。
- 小さな子ども（赤ちゃん 0 歳未満）を一人で連れて出向くのは難しい。（雨の日、交通機関）市役所や保健センターの方が訪問してくれるようなサービスを設けてほしい。
- 先程も書かせていただきましたが、母子手帳を受け取りに行く際に平日しか行けないのは凄く不便。働いている方も多くいるため、何か別の方法があればいいと思う。
- 母子手帳の取得からその他申請手続きが平日しかできないため、休まないといけない。月 1, 2 日でも土日できるようにしてほしい。

・ 相談体制、質の向上、親のケアについて （3 件）

- 母子相談では「それぞれなので人によるので」といってまったくアドバイスがもらえなかった。何のための相談会なのかわからずかなしかった。交通の便が悪い。図書館へのアクセス方法が車 or 徒歩なのが不便。ファミサポの詳細がわかりにくい。支援センターを朝 9:00～にしてほしい。幼稚園等の特色などをまとめたサイトがほしい。入園手続きやロコミも合わせて見られると便利。（バスの有無や給食、延長料金等）。
- 周囲との関係を作らず作れず自ら支援を求めない求められない方には、地域の方が声かけや見回りなど周囲から積極的に関われるような体制が取れると安心だと思います。必要な子育てや愛情を受けられずに育った親への支援が必要だと思います。経験していないことは、実践するのが難しいので。
- 夫が自衛隊のためほぼワンオペ育児家事である。祖父母も遠方に住んでおり、特に子どもが今イヤイヤ期のため、正直大変だなと思う時がある。鹿屋市は特に自衛隊の基地がある市のため、自衛隊のファミリーの実態を把握して欲しい。乳児訪問に来られた時にこちらが「旦那も自衛隊で祖父母が遠方に住んでるから、じぶんが体調悪い時に子どもの世話のサポートをしてくれる人がいないことが不安」と訴えてる時にサービスを紹介してくれるわけでもなく、「そうですね」と話を聞くだけだったのは正直辛かったし、市も自衛隊も信じられないと思った。

・ 食について （2 件）

- 味覚形成にも身体づくりにもとても大事な時期なので、給食・おやつ選び方、添加物基準等を作り、保育施設に指導してほしい。おやつは捕食なので、カロリーしかない砂糖たっぷりのお菓子ではなく、栄養のあるものを選ぶように指導してほしい。牛乳がカルシウム摂取に必要というのは間違っていたことが分かっている。身体への負担を考え、保育施設で牛

乳を毎日飲ませるのはやめてほしい。ひとり親は自分の時間の確保が難しい。仕事が休みの日でも、幼稚園で土曜日にあずかってもらえるとありがたい。

- アレルギー対応給食同様に、ハラル給食にも対応してほしい。

・ アンケートへの意見 (8 件)

- 他の町(都市)に比べて公共交通機関が充実していないので、まずはそれを充実してほしい。このアンケートにもそのような内容が反映されていないので、アンケートの質問内容を改善した方がいいと思います。
- 問数や情報量が多く、アンケートが疲れました。
- このアンケート自体が回答しづらかったです。用紙に記入する方が返答しやすかったと思う。
- この質問も長すぎる。子どもを見ながらグダグダ打つのも面倒。簡単にして下さい。
- アンケートが多いでした。この結果を踏まえて何が変わったのかを、今後伝えて頂けるとありがたいです。
- 質問が多くて答えられない(時間がなく)。
- このような、長いアンケートを取るのも、どうかと思います。ただでさえ忙しいのに、こんなに長いとは思わなかったです。
- アンケートの間が分かりにくかった。

・ その他 (14 件)

- 鹿屋市の遊び場でごみ(オムツ等)を処理できれば楽である。
- 子どもが3人いて下の2人は双子でしたが、双子が産まれてから経済的にも時間的にも余裕がなくなりました。子どもたちそれぞれに時間を作ってかかわってあげたいのにもどかしいです。また、自分の体の不調も我慢して何年か受診に行けない状況が続いています。産前産後の受診のサポートはありますが、親の健康を守る制度があれば利用したいです。
- 県営や市営利用したいと思うが、足音や声など気になり(苦情)、子育てやシングル向けの住まいがあるといいなと思っています。(ありますか?あるとしたら情報ほしいです)また回覧や当番のシステムもなくしてほしい。仕事、子育てにいっぱい입니다。
- 子どもを育てやすい地域にしてほしい。
- 行政からの保育士さんたちへの対応が悪いから申し訳なく思っている。援助が少ない。
- 大崎町を参考にしてほしい。
- 4年ほど前に移住してきました。方言なども分からず、土地勘もなく、コロナ禍にあつて、子育てにおいて友人も作れず孤立しました。行政の方も、土地勘のない人間とは思わないで、「当然知ってるでしょう」前提で話される時もあり、やさしくない街だなと思ってしまいました。全ての方がそうではないですが、そういう存在もあることを念頭に入れていただけると、今後移住してくる方達が少しでも安心できるかと思います。方言を教えてくれる人がいて欲しいと今でも思います。
- 鹿屋は子どもも多い市ですが街灯も少なく、道も狭いです。登下校が心配です。
- 都城市をロールモデルにしていただけたら。鹿屋市はもっといい街になると思います。

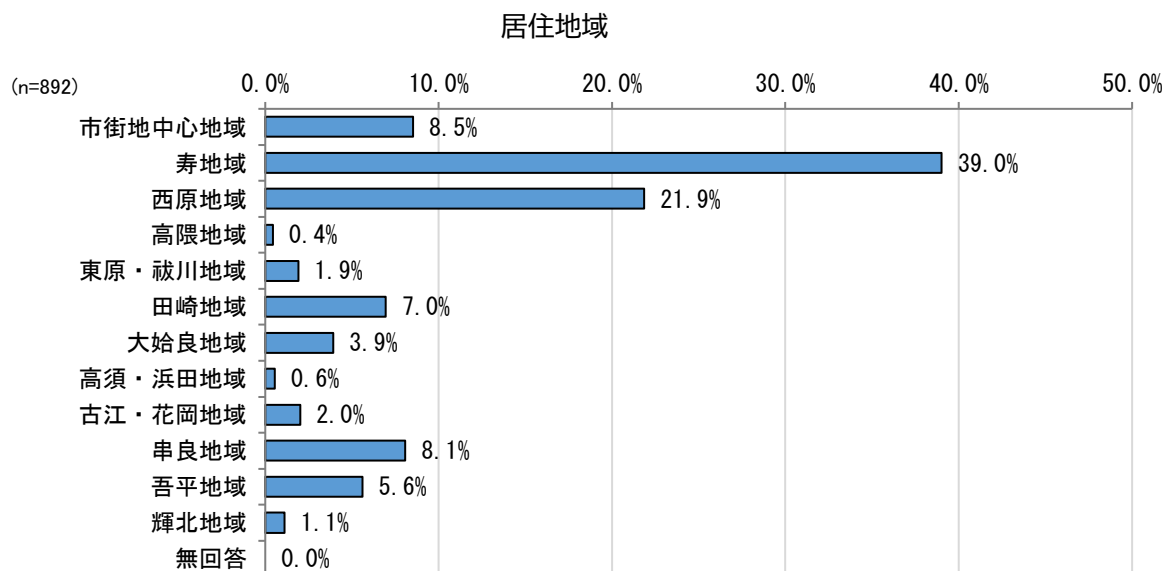
- 上の子達が利用しているこども園はとても素敵です。笠之原こども園です。保育士さまのおかげなので、そちらへの支援も忘れないでください。
- 子どもが(年齢が幅広く)楽しめる施設が鹿屋市にはない。トイレで子どものオムツを変えようと思った時に汚くて変えられない場所が多い。
- 子ども用トイレ又は補助便座の充実。
- 保育に関わっている職員さん、保育士さんに沢山手当てを出してほしい。人手不足の解消することが、子育て支援を手厚くすることに繋がるから。
- 子どもが安心安全に過ごせる道路整備が間に合っていない。

IV 調査結果（小学校児童）

1. 住まいの地域について

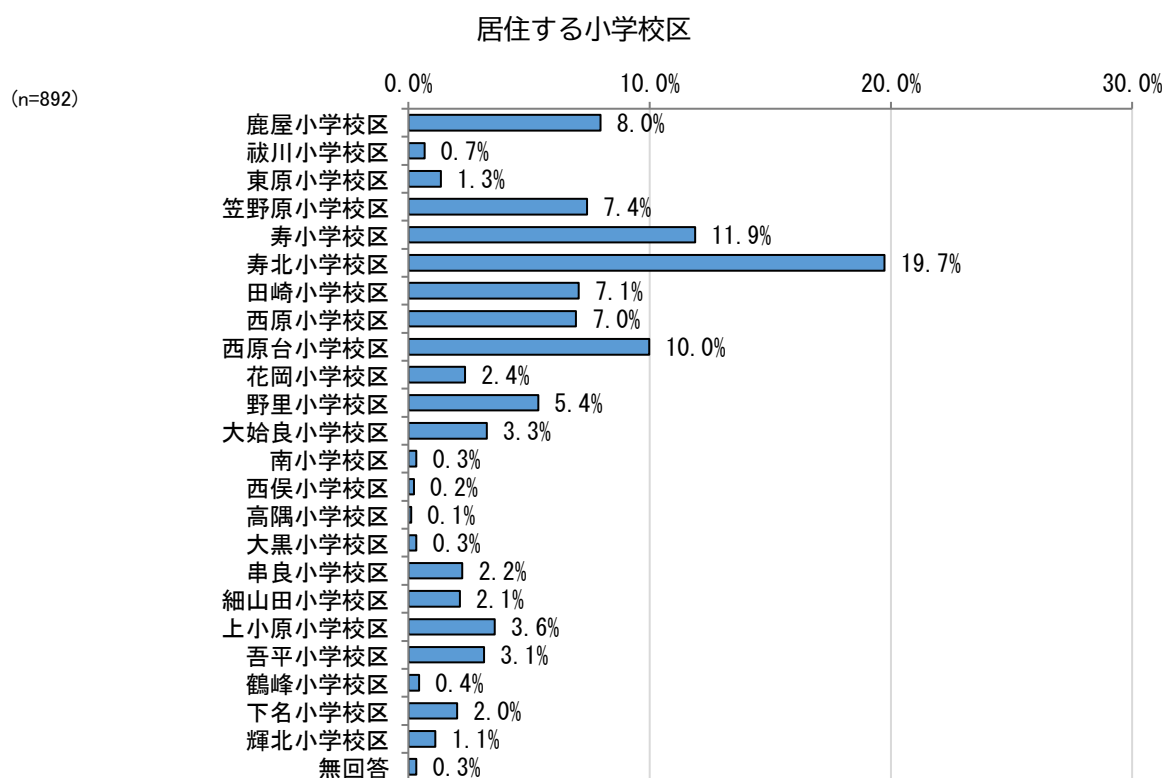
問1(1) お住まいの地域を教えてください。

居住地域は、「寿地域」39.0%が最も高く、次いで「西原地域」21.9%、「市街地中心地域」8.5%となっている。



問1(2) お住まいの小学校区を教えてください。

居住する小学校区は、「寿北小学校区」19.7%が最も高く、次いで「寿小学校区」11.9%、「西原台小学校区」10.0%となっている。



2. 封筒の宛名のお子さんご家族の状況について

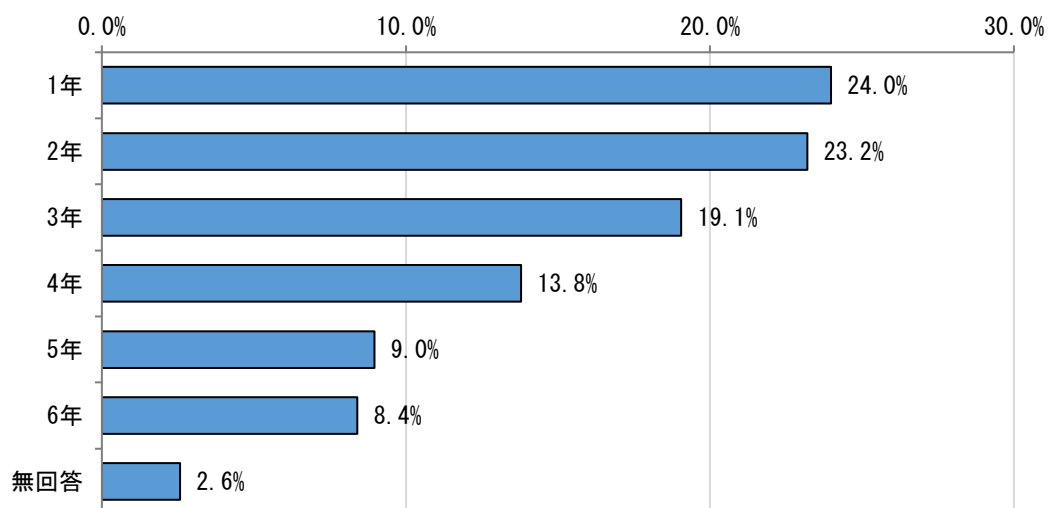
問2・問3 お子さんの学年、兄弟数を教えてください。

学年は「1年」24.0%が最も高く、次いで「2年」23.2%、「3年」19.1%となっている。

兄弟数は「2人」37.9%が最も高く、次いで「3人」33.3%、「1人」17.2%となっている。
4人以上は合わせて9.8%となっている。

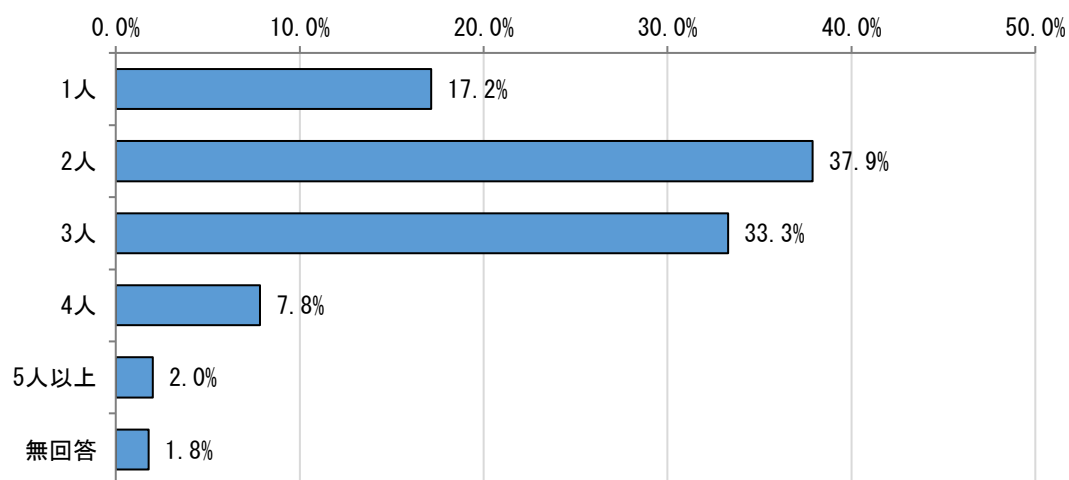
学年

(n=892)



兄弟数

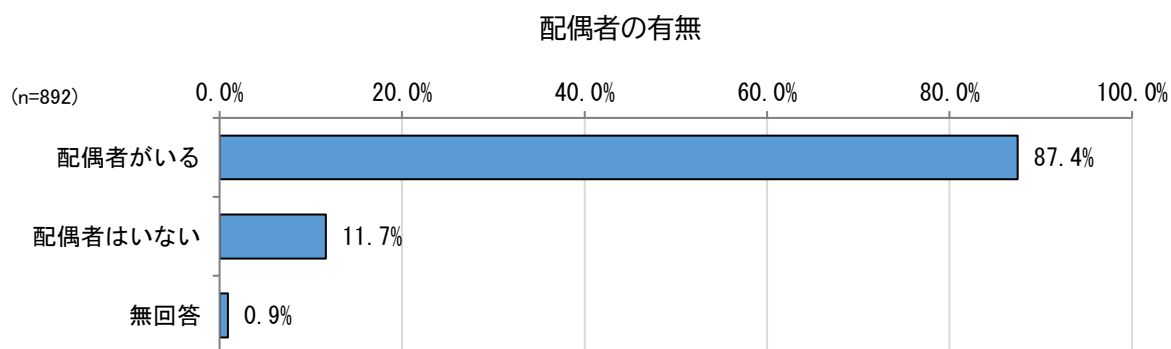
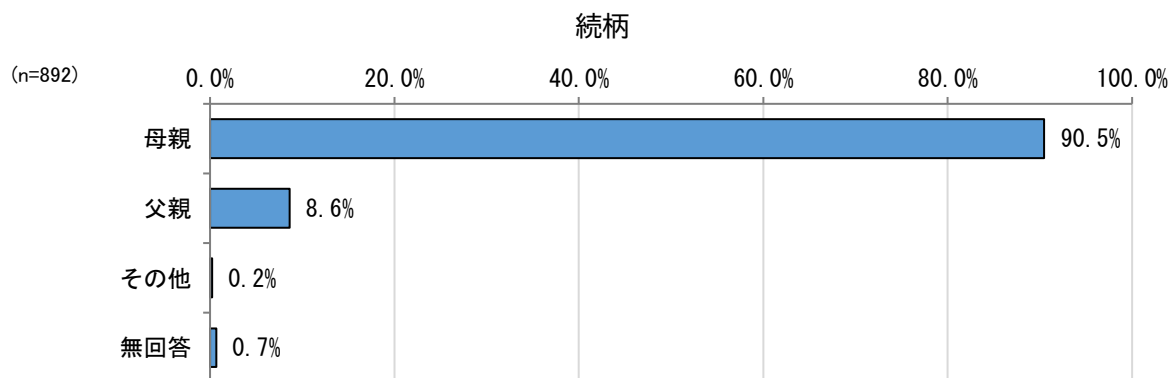
(n=892)



問4・問5 ご回答いただく方の続柄及び配偶者の有無について教えてください。

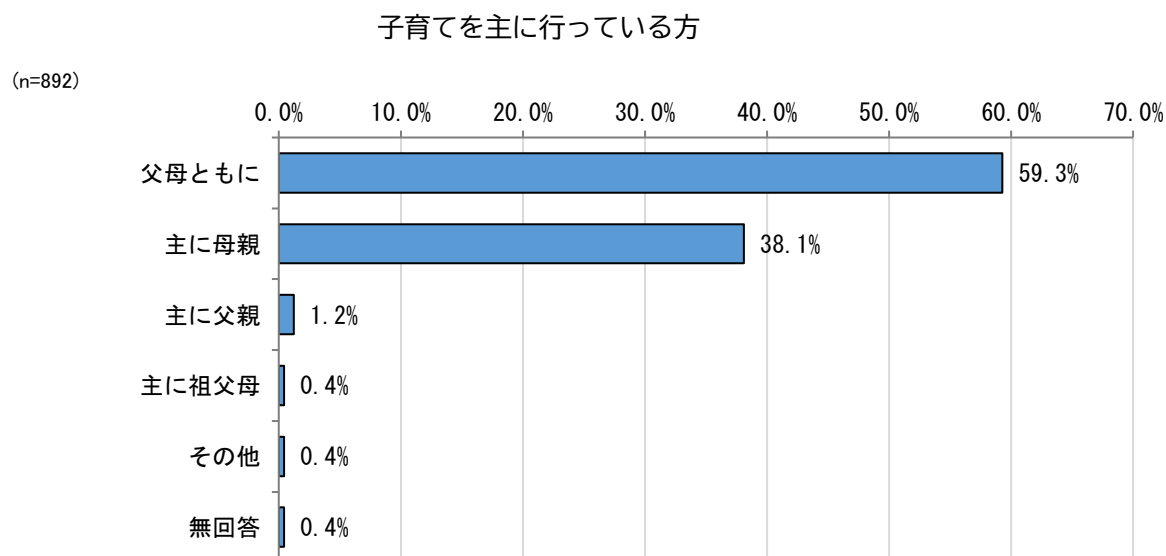
回答者の続柄については、「母親」90.5%、「父親」8.6%となっている。

配偶者の有無については、「配偶者がいる」87.4%、「配偶者はいない」11.7%となっている。



問6 お子さんの子育て(教育を含む)を主に行っているのはどなたですか。お子さんからみた関係でお答えください。

子育てを主に行っている方については、「父母ともに」59.3%が最も高く、次いで「主に母親」38.1%、「主に父親」が1.2%となっている。



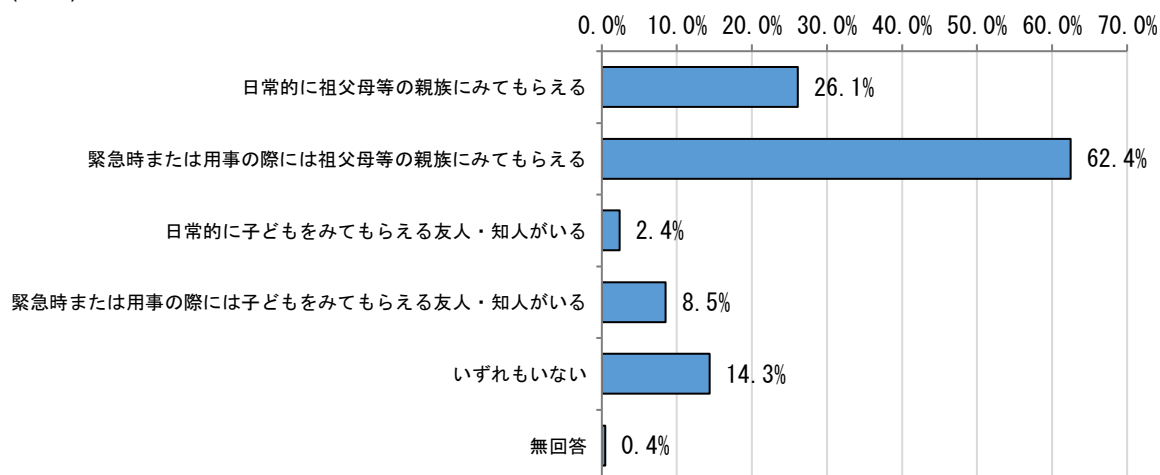
3. 子どもの育ちをめぐる環境について

問7 日頃、お子さんをみてもらえる親族・友人・知人はいますか。(複数回答)

子どもをみてもらえる親族・友人・知人がいるかについては、「緊急時または用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」62.4%が最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」26.1%、「いずれもない」14.3%となっている。

子どもをみてもらえる親族・友人・知人

(n=892)

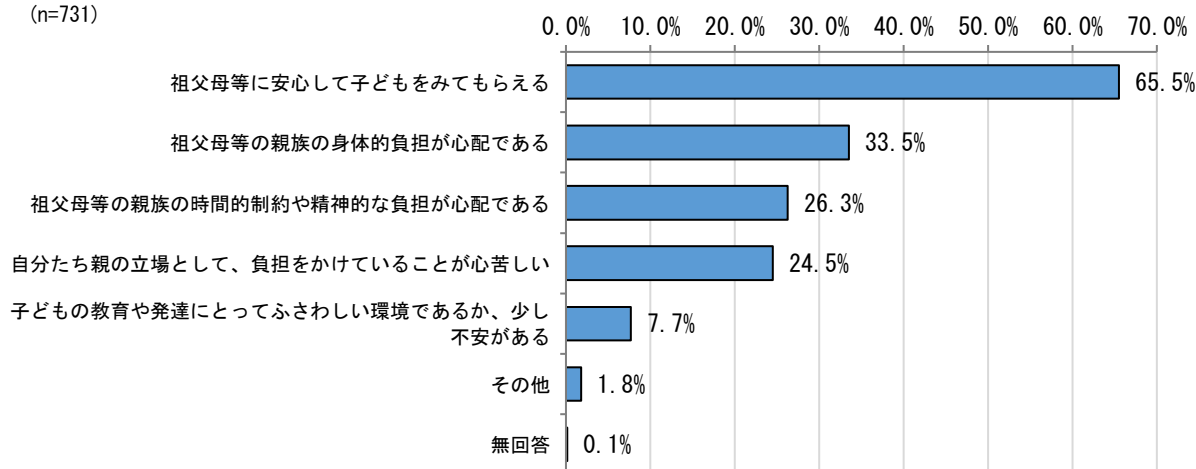


問 7-1 【問 7 で「1.」または「2.」に○をつけた方にうかがいます。】祖父母等の親族にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。(複数回答)

祖父母等の親族にお子さんをみてもらう状況については、「祖父母等に安心して子どもをみてもらえる」65.5%が最も高く、次いで「祖父母等の親族の身体的負担が心配である」33.5%、「祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が心配である」26.3%となっている。

子どもをみてもらう状況（祖父母等）

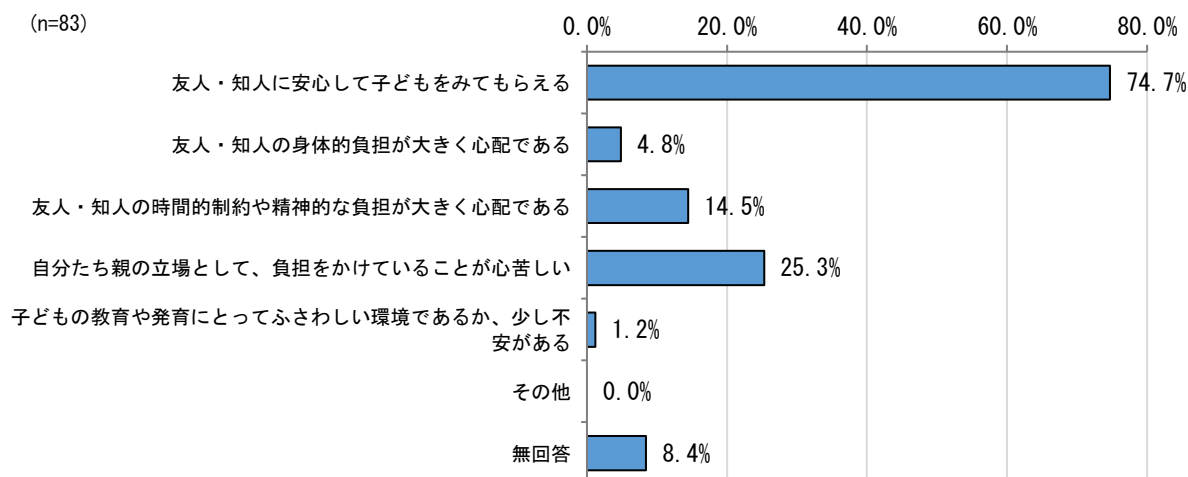
(n=731)



問7-2 【問7で「3.」または「4.」に○をつけた方にうかがいます。】友人・知人にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。(複数回答)

友人・知人に子どもをみてもらう状況については、「友人・知人に安心して子どもをみてもらえる」74.7%が最も高く、次いで「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」25.3%、「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」14.5%となっている。

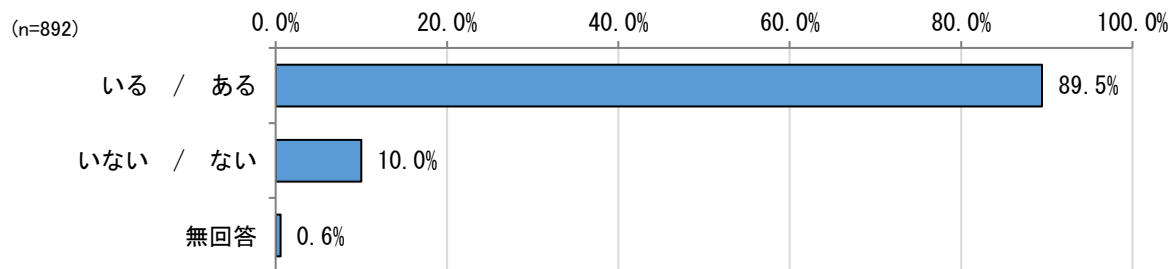
子どもをみてもらう状況（友人・知人）



問8 お子さんの子育て(教育を含む)をする上で、気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所がありますか。

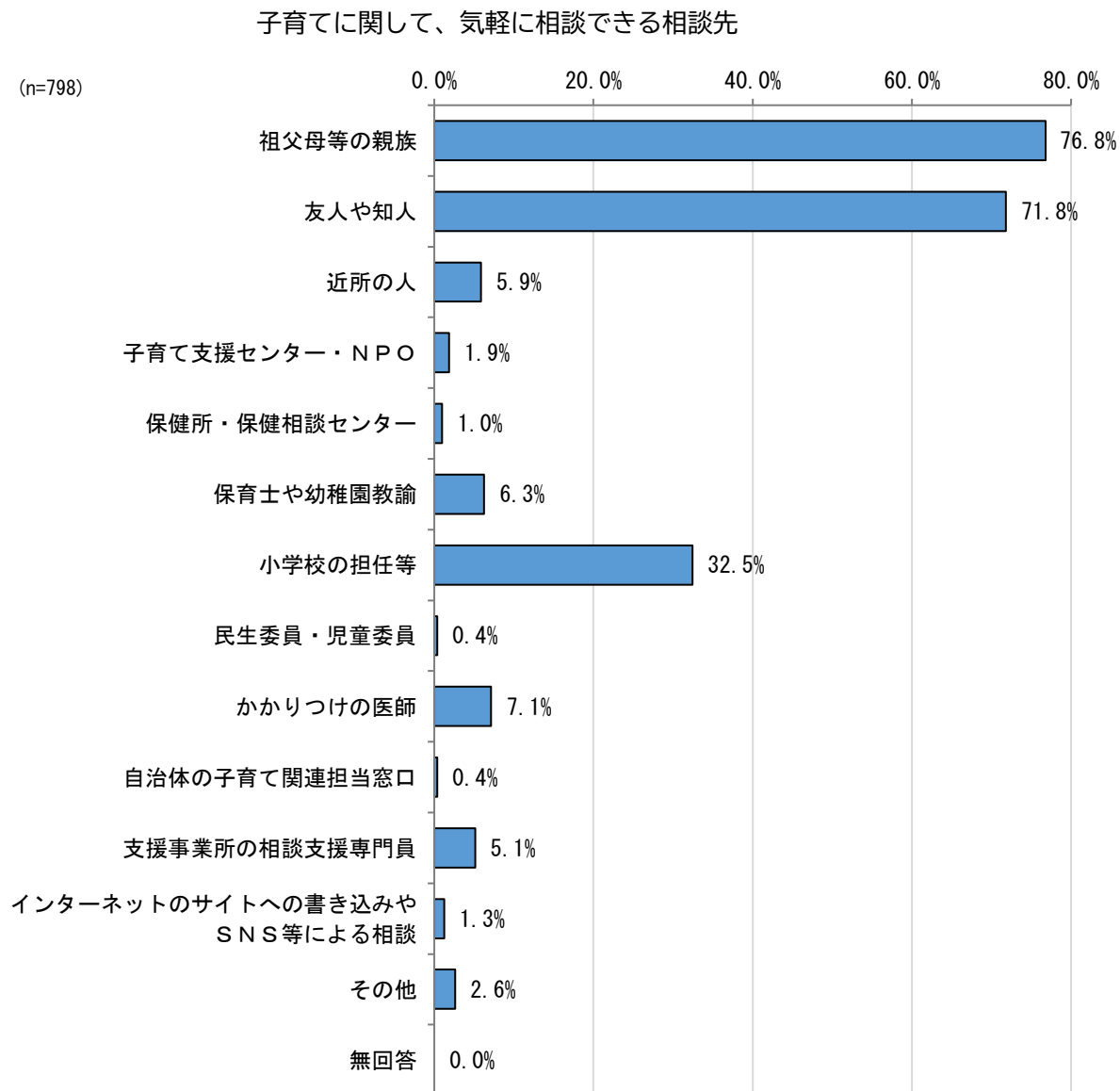
子育てをする上で、気軽に相談できる人や場所については、「いる/ある」89.5%、「いない/ない」10.0%となっている。

子育てをする上での相談相手の有無



問8-1 【問8で「1.いる／ある」に○をつけた方にうかがいます。】お子さんの子育て(教育を含む)に関して、気軽に相談できる相談先は、誰(どこ)ですか。(複数回答)

子育てに関して、気軽に相談できる相談先については、「祖父母等の親族」76.8%が最も高く、次いで「友人や知人」71.8%、「小学校の担任等」32.5%となっている。



問9 子育て(教育を含む)をする上で、周囲(身近な人、行政担当者など)からどのようなサポートがあればよいとお考えでしょうか。ご自由にお書きください。

回答件数：316 件（複数回答あり）

【主な意見】※回答一覧は 181～196 ページに記載

内容	件数
預かり環境・施設整備について	89 件
経済的支援について	53 件
相談体制、質の向上、親のケアについて	38 件
病児保育・施設整備について	30 件
子育てに関する認識のアップデートについて	25 件
見守り（声掛け）、送迎について	24 件
交流の場や安全に遊べる場の確保について	18 件
情報発信について	8 件
食について	6 件
習い事（学習塾・寺子屋など）について	5 件
その他	20 件

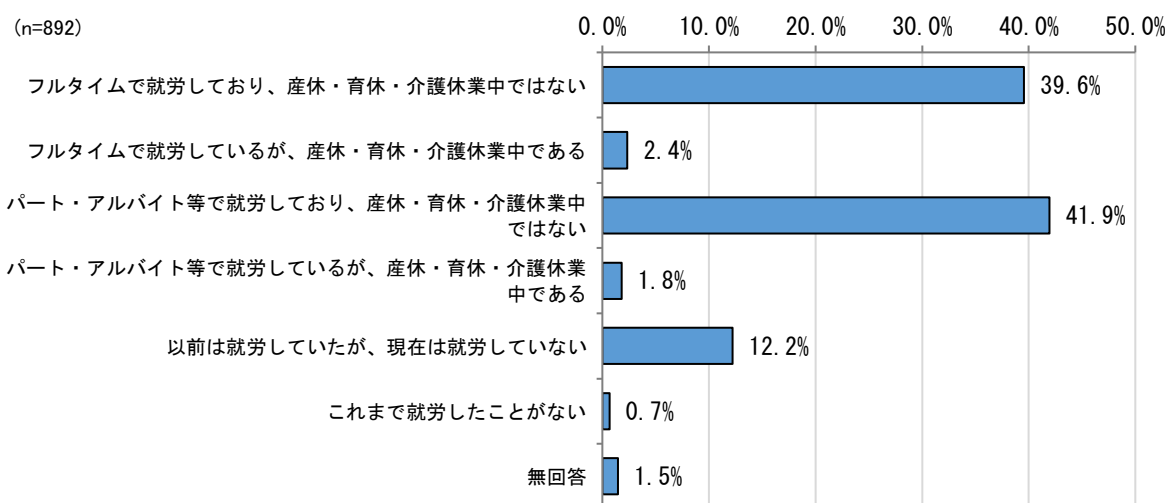
4. 宛名のお子さんの保護者の就労状況について

問10 お子さんの保護者の現在の就労状況(自営業、家族従事者含む)についてうかがいます。

(1) 母親

母親の就労状況については、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」41.9%が最も高く、次いで「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」39.6%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」12.2%となっている。

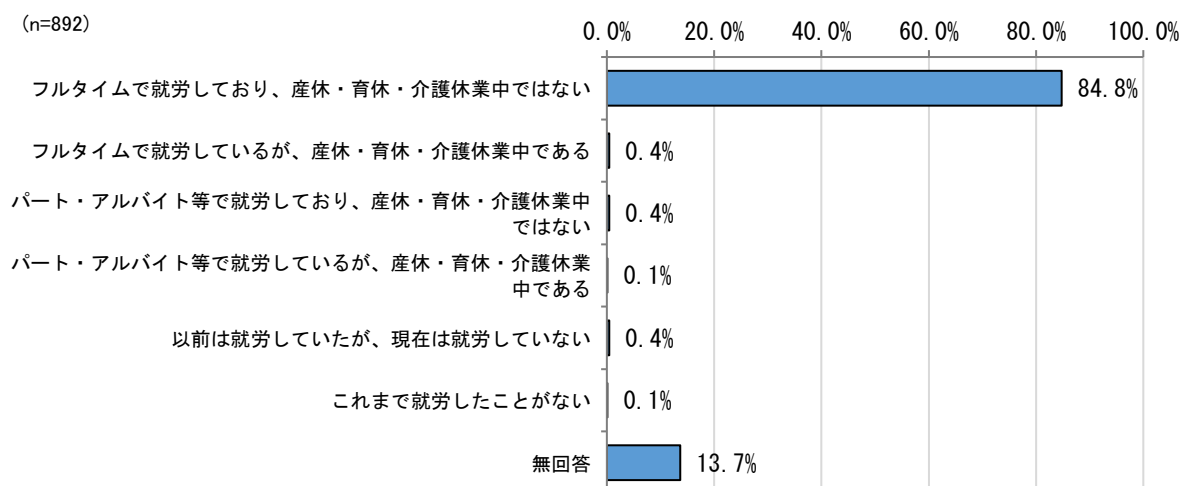
子どもの保護者の就労状況（母親）



(2) 父親

父親の就労状況については、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」84.8%が最も高く、次いで「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である」、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」、「以前は就労していたが、現在は就労していない」がいずれも0.4%となっている。

子どもの保護者の就労状況（父親）

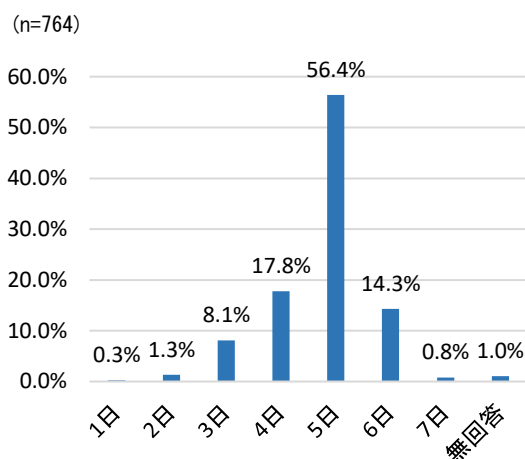


問10-1 【問10で「1.～4.」(就労している)に○をつけた方におたずねします。】
1週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間(残業時間を含む)」をお答えください。また、家を出る時刻と帰宅時刻をお答えください。

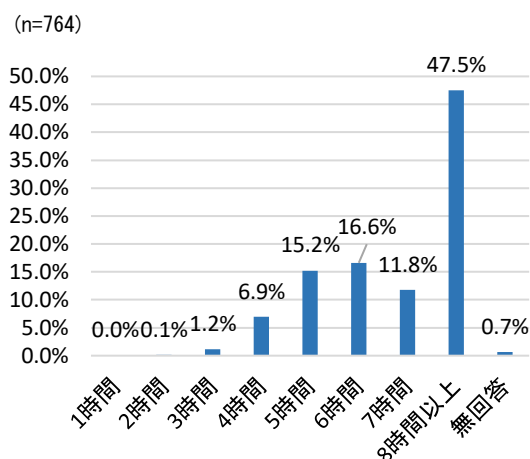
【母親】 1週当たりの就労日数及び1日当たりの就労時間 / 家を出る時刻及び帰宅時刻

就労状況をみると、週5日、1日8時間以上が最多となっている。また、家を出る時刻は9時台、帰宅時刻は18時以前が最も高くなっている。

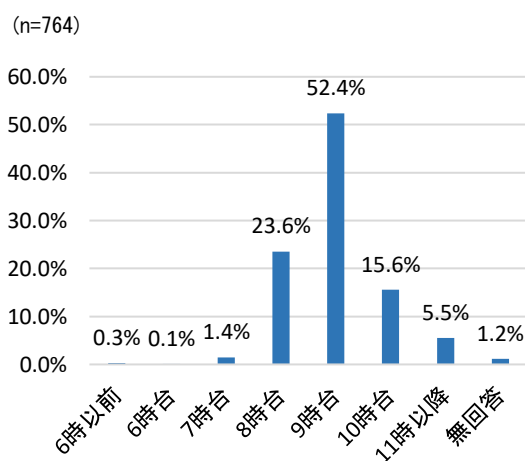
1週当たり日数



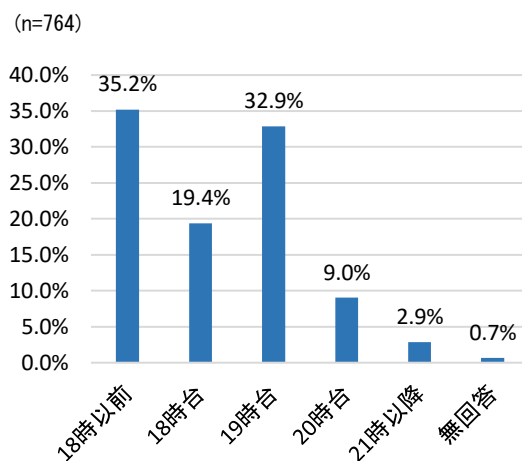
1日当たり時間



家を出る時刻



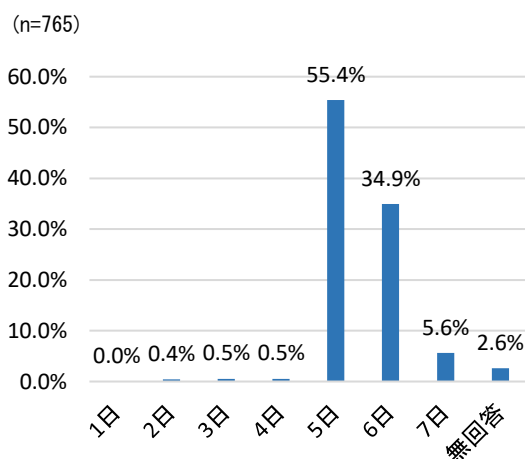
帰宅時刻



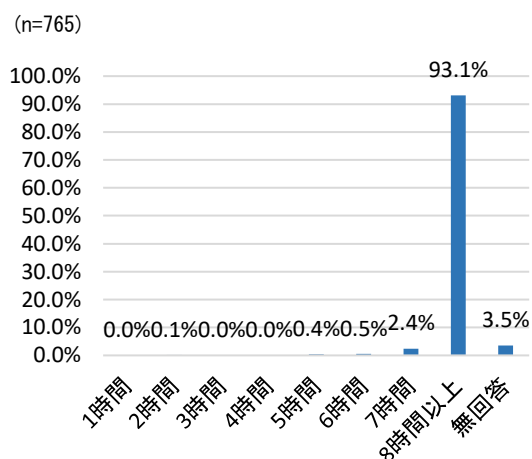
【父親】 1 週当たりの就労日数及び 1 日当たりの就労時間 / 家を出る時刻及び帰宅時刻

就労状況をみると、週 5 日、1 日 8 時間以上が最多となっている。また、家を出る時刻は 8 時台、帰宅時刻は 19 時台が最も高くなっている。

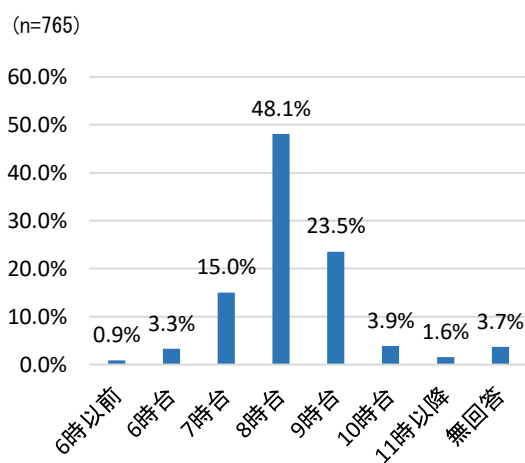
1 週当たり日数



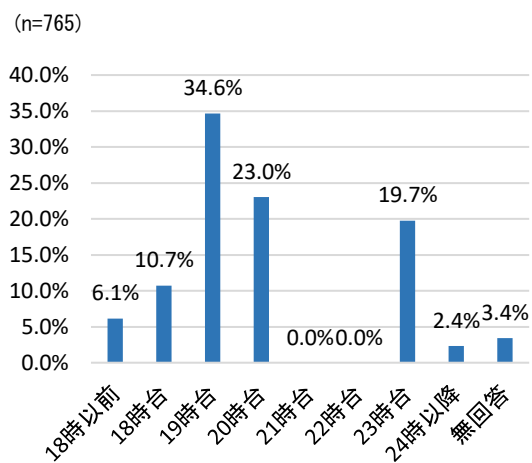
1 日当たり時間



家を出る時刻



帰宅時刻



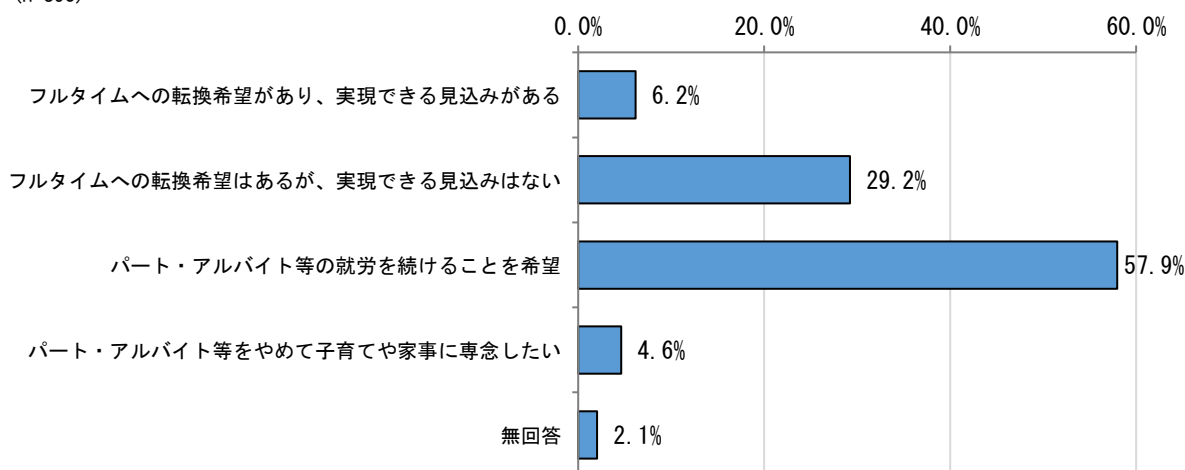
問11 【問10で「3.4.」(パート・アルバイト等で就労している)に○をつけた方におたずねします。】フルタイムへの転換希望はありますか。

(1) 母親

フルタイムへの転換希望については、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」57.9%が最も高く、次いで「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」29.2%、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」6.2%となっている。

フルタイムへの転換希望（母親）

(n=390)

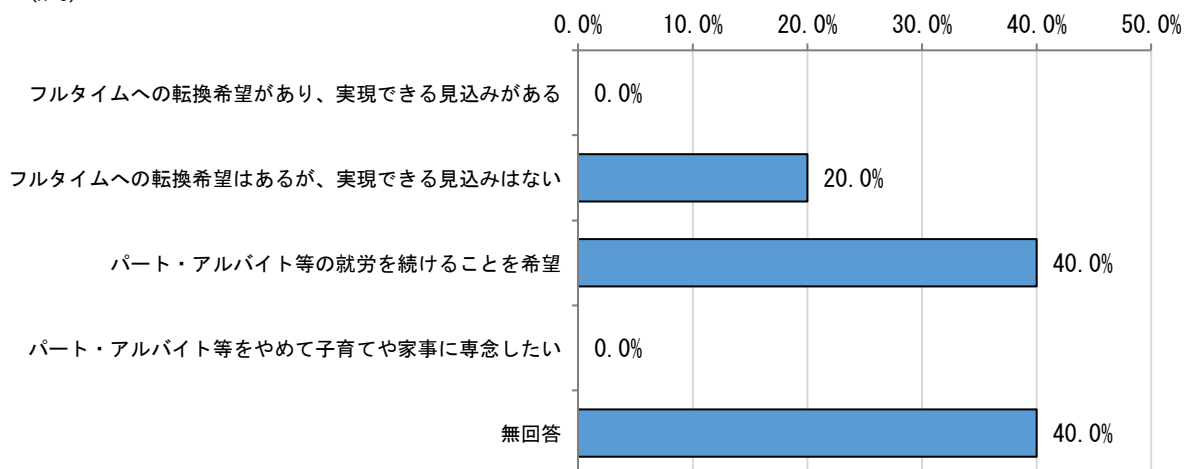


(2) 父親

フルタイムへの転換希望については、サンプル数が少ないことに留意する必要があるが、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」40.0%が最も高く、次いで「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」20.0%となっている。

フルタイムへの転換希望（父親）

(n=5)

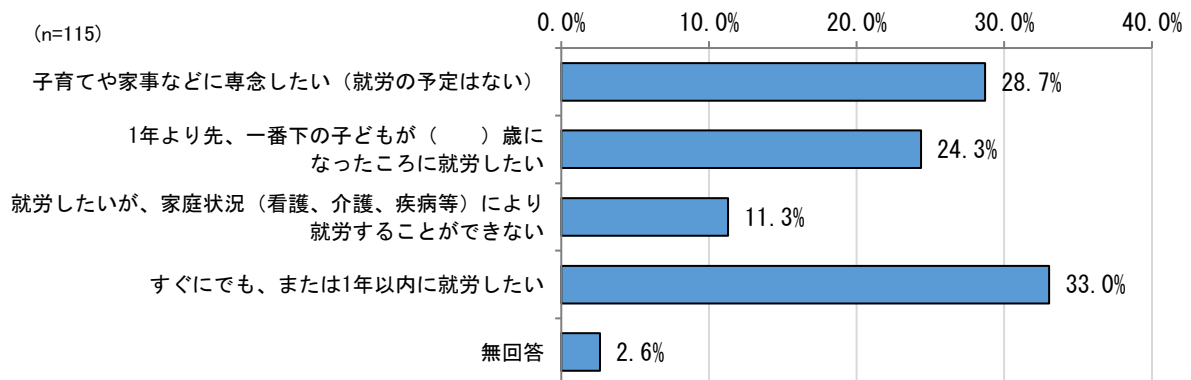


問12 【問10で「5.以前は就労していたが、現在は就労していない」または「6.これまで就労したことがない」に○をつけた方におたずねします。】就労したいという希望はありますか。

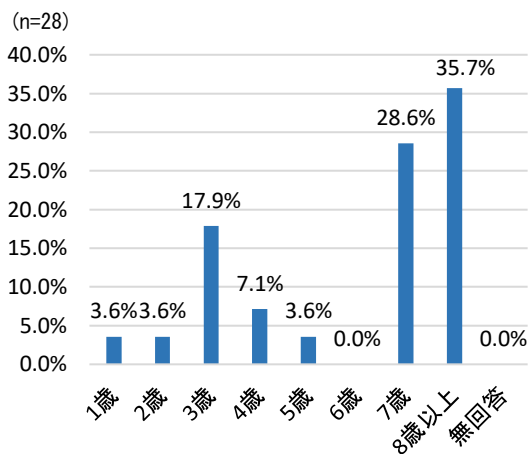
(1) 母親

就労したいという希望がある方は、合わせて 68.6%を占めている。就労希望については「パートタイム、アルバイト等」が 84.2%、就労日数では4日/週、就労時間では5時間/日が最も高くなっている。

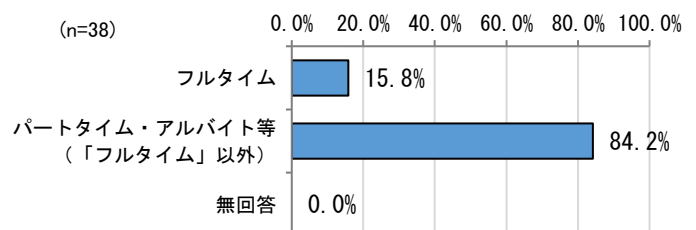
就労の希望（現在、就労していない方が対象）



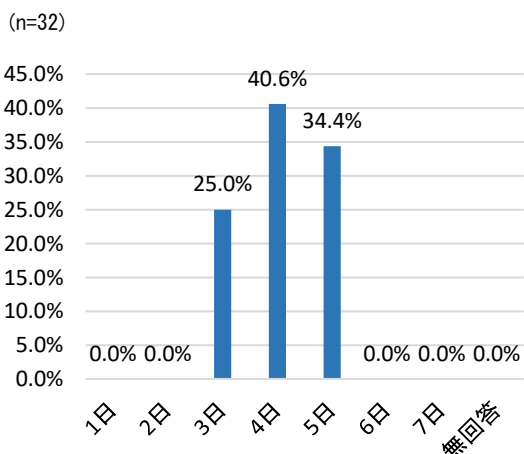
子どもが何歳になったら就労したいか



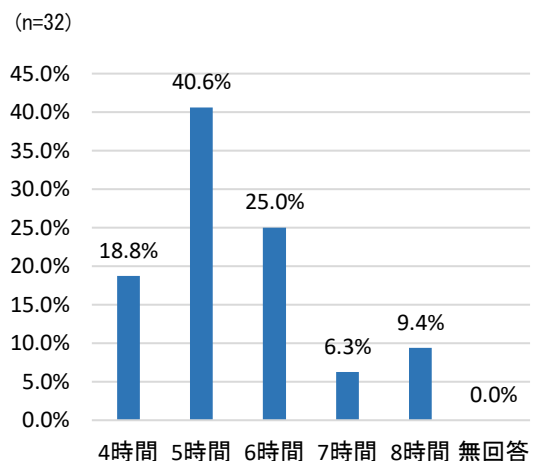
就労希望



日数/週



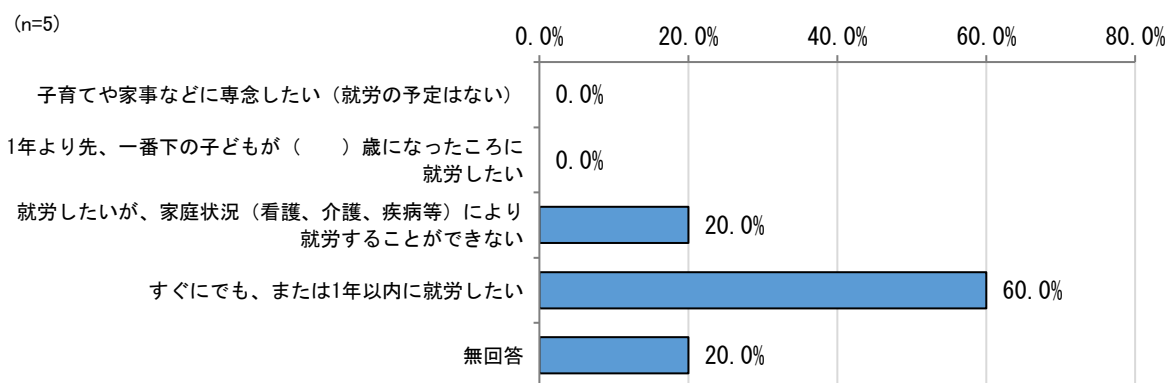
時間/日



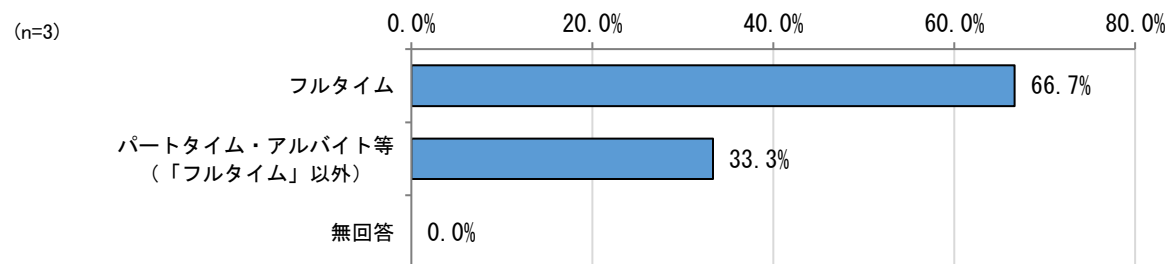
(2) 父親

サンプル数が少ないことに留意する必要があるが、「すぐにでも、または 1 年以内に就労したい」が 60.0%、「就労したいが、家庭状況（看護、介護、疾病等）により就労することができない」が 20.0%となっている。就労希望については「フルタイム」が 66.7%、「パートタイム、アルバイト等」が 33.3%となっている。

就労の希望（現在、就労していない方が対象）



就労希望

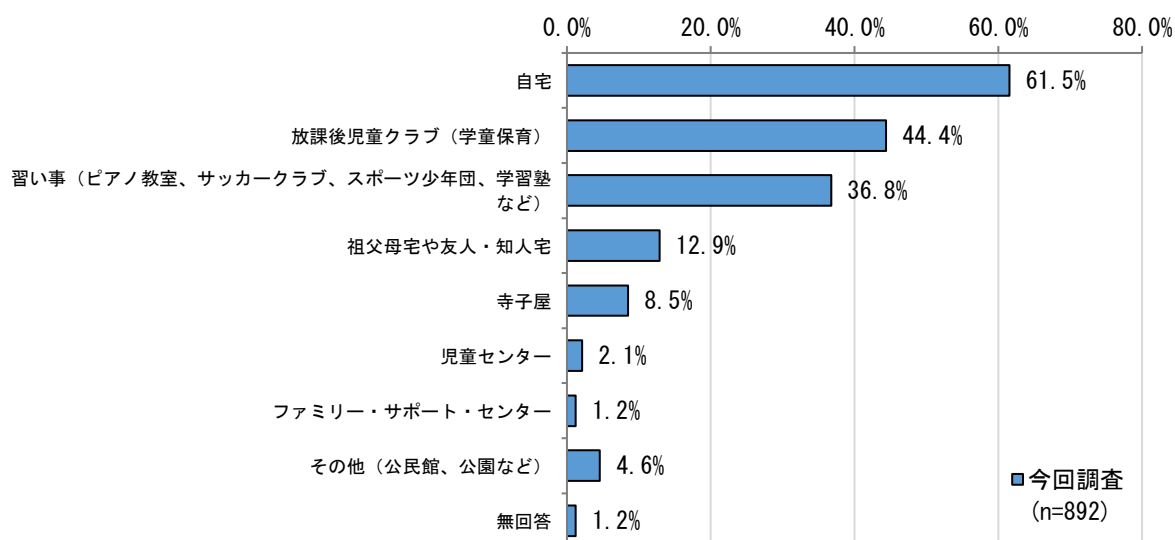


5. 宛名のお子さんの放課後（平日の小学校終了後）や休日の過ごし方について

問13 宛名のお子さんについて、小学校低学年(1～3 年生)のうちは、放課後(平日の小学校終了後)の時間をどのような場所で過ごさせたい(過ごさせたかった)と思いますか。(複数回答)

小学校低学年のうちの放課後の過ごし方は「自宅」61.5%が最も高く、次いで「放課後児童クラブ（学童保育）」44.4%、「習い事」36.8%となっている。

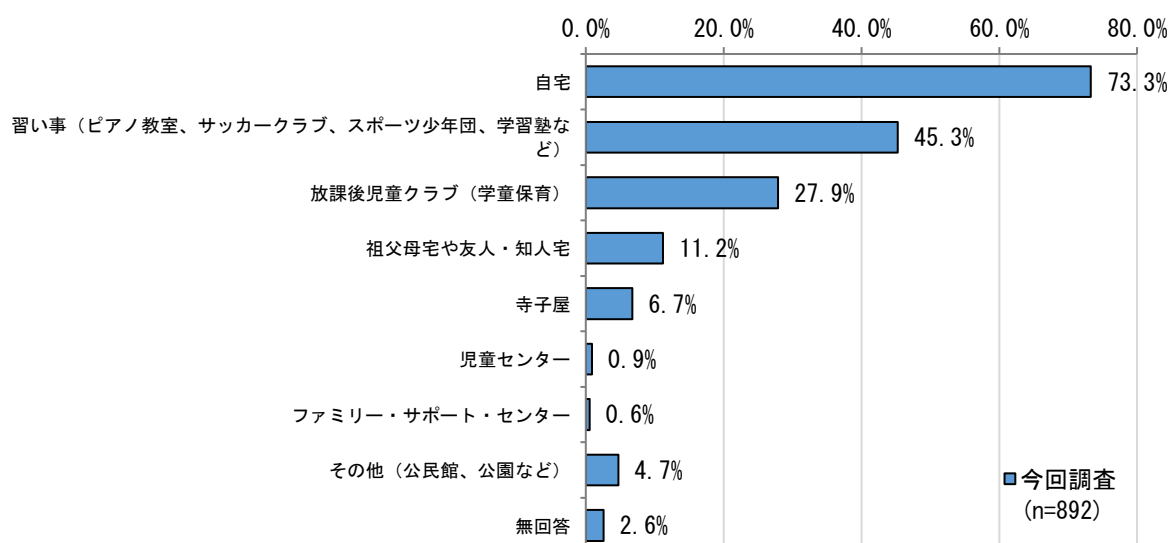
小学校就学後の放課後の過ごし方



問14 宛名のお子さんについて、小学校高学年(4～6年生)になったら(の方は)、放課後(平日の小学校終了後)の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。(過ごさせていますか)(複数回答)

小学校高学年になった際の放課後の過ごし方は「自宅」73.3%が最も高く、次いで「習い事」45.3%、「放課後児童クラブ（学童保育）」が27.9%となっている。

小学校高学年になった時の放課後の過ごし方

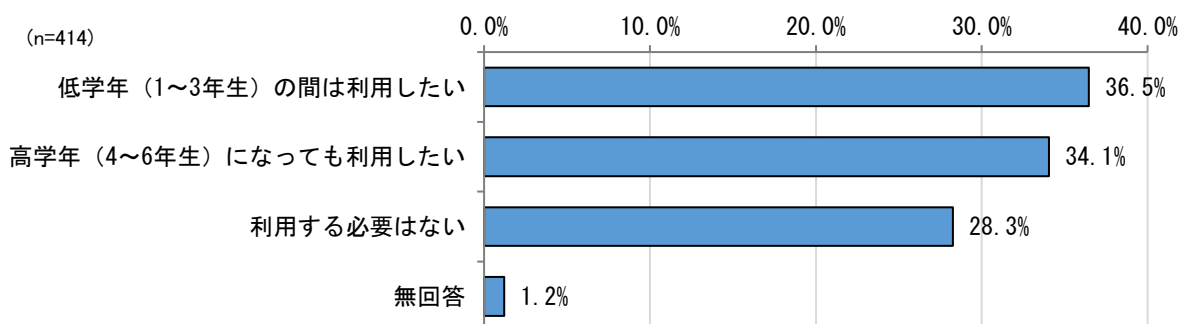


問15 【問13または問14で「5. 放課後児童クラブ(学童保育)」に○をつけた方におたずねします。】宛名のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、放課後児童クラブの利用希望はありますか。(複数回答)

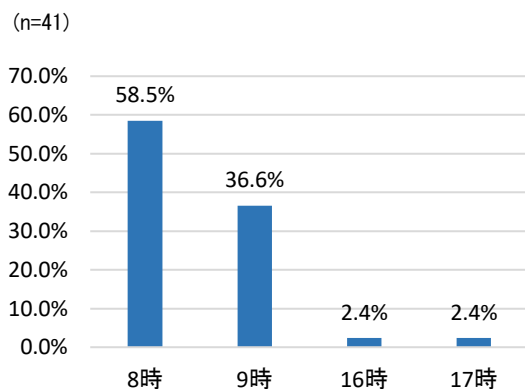
(1) 土曜日

土曜日における、「放課後児童クラブ(学童保育)」の利用意向については、「低学年(1～3年生)の間は利用したい」36.5%が最も高く、次いで「高学年(4～6年生)になっても利用したい」34.1%、「利用する必要はない」28.3%となっている。利用したい時間帯は8時から18時台が最多となっている。

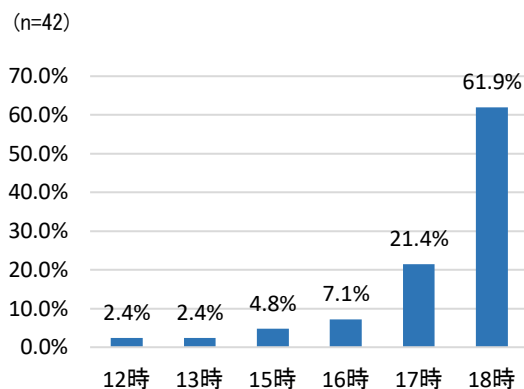
「放課後児童クラブ」の利用希望【土曜日】



利用したい時間帯【土曜日】



～

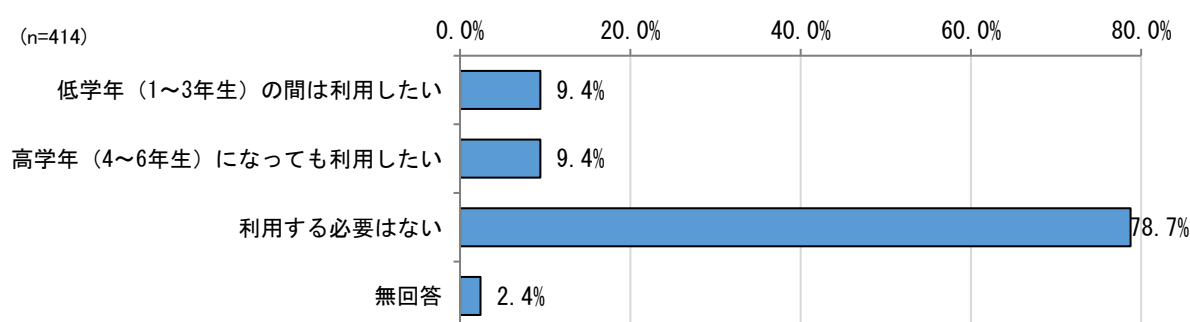


※無回答を除いて集計を行った

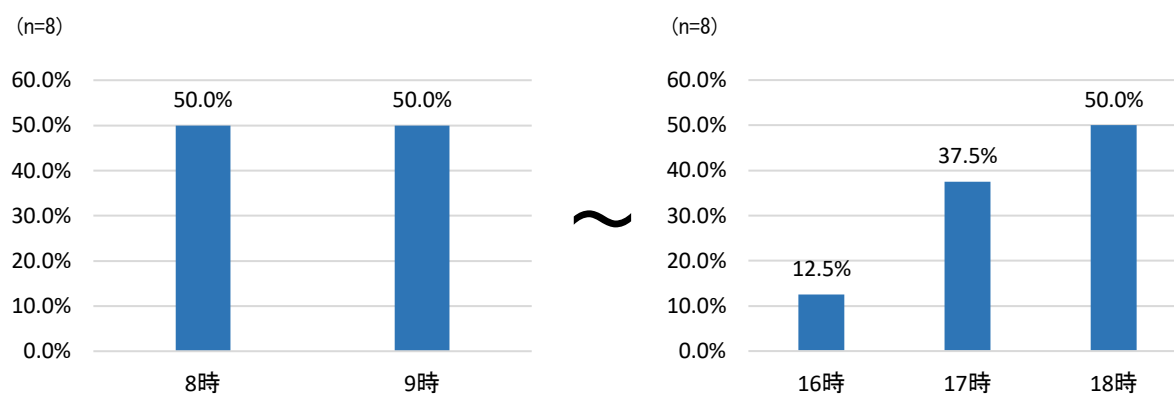
(2) 日曜日・祝日

日曜日・祝日における、「放課後児童クラブ（学童保育）」の利用意向については、「利用する必要はない」78.7%が最も高く、次いで「低学年（1～3年生）の間は利用したい」、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」がいずれも9.4%となっている。利用したい時間帯についてはサンプル数が少ないことに留意する必要があるが、8時または9時（同数）から18時が最多となっている。

「放課後児童クラブ」の利用希望【日曜日・祝日】



利用したい時間帯【日曜日・祝日】

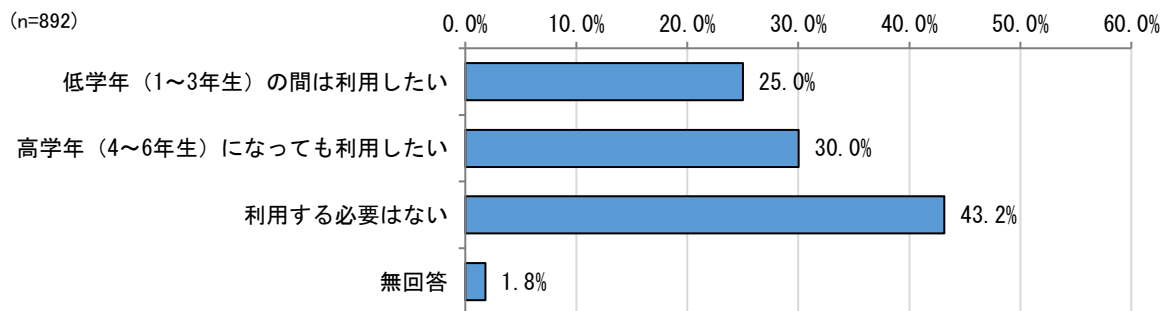


※無回答を除いて集計を行った

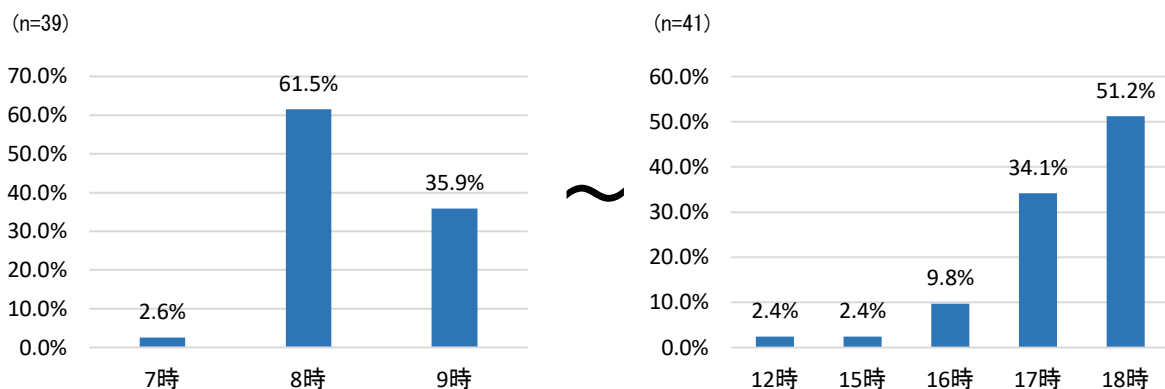
問16 宛名のお子さんについて、お子さんの夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望はありますか。

長期休暇期間中の放課後児童クラブの利用については、「利用する必要はない」43.2%が最も高く、次いで「高学年（4～6年生）になっても利用したい」30. 低学年（1～3年生）の間は利用したい」25.0%となっている。

放課後児童クラブの利用希望の有無（長期休暇中）

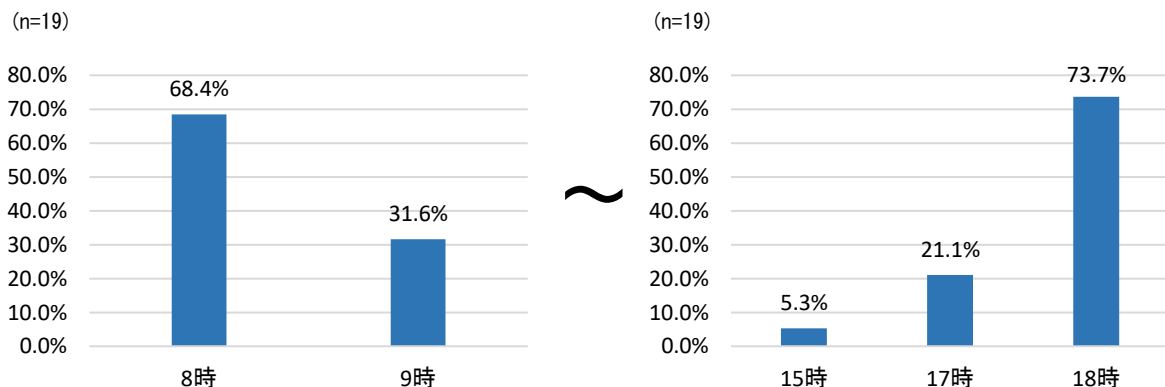


利用したい時間帯【低学年】



※無回答を除いて集計を行った

利用したい時間帯【高学年】

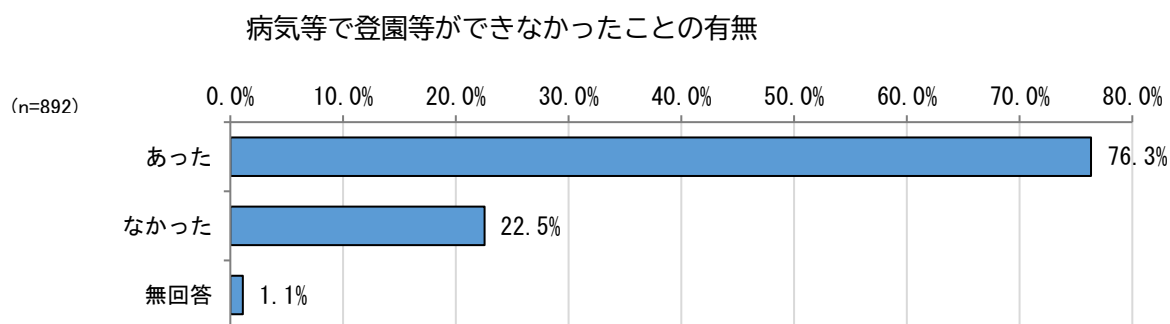


※無回答を除いて集計を行った

6. 宛名のお子さんの病気の際の対応について

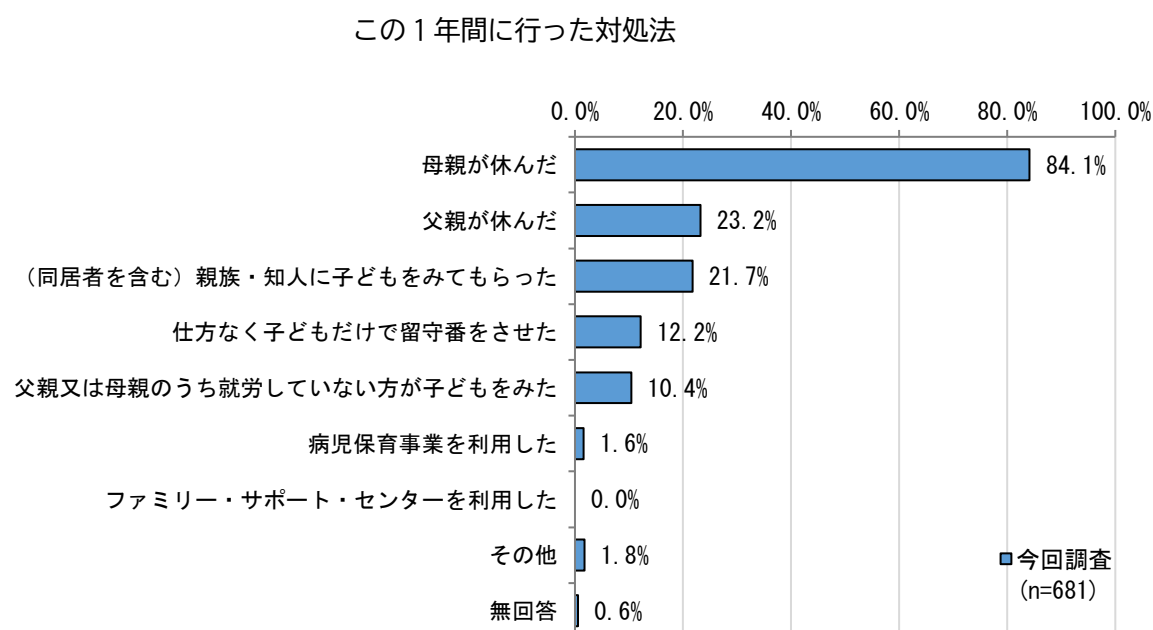
問17 この1年間に、お子さんが病気やケガで学校に行けなかったことはありますか。

子どもが病気やケガで登園・登校等ができなかったことがあるかについては、「あった」76.3%、「なかった」22.5%となっている。



問18 【問17で「1. あった」に○をつけた方におたずねします。】
この1年間に行った対処方法及び、それぞれの日数をお答えください。(複数回答)

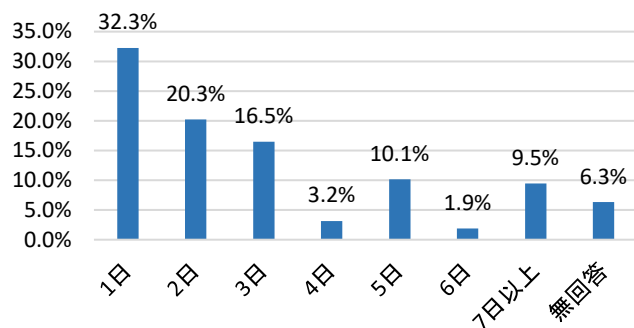
この1年間に行った対処方法については、「母親が休んだ」84.1%が最も高く、次いで「父親が休んだ」23.2%、「(同居者を含む) 親族・知人に子どもをみてもらった」21.7%となっている。



【ア. 父親が休んだ日数】

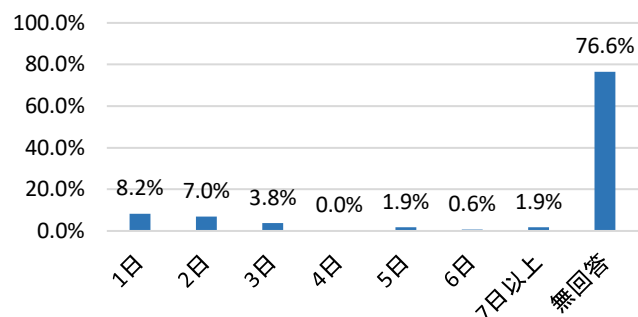
平日

(n=158)



休日

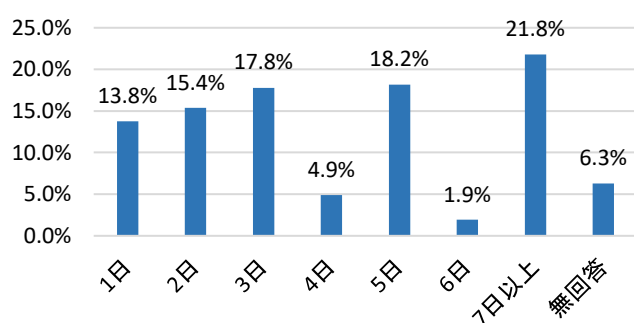
(n=158)



【イ. 母親が休んだ日数】

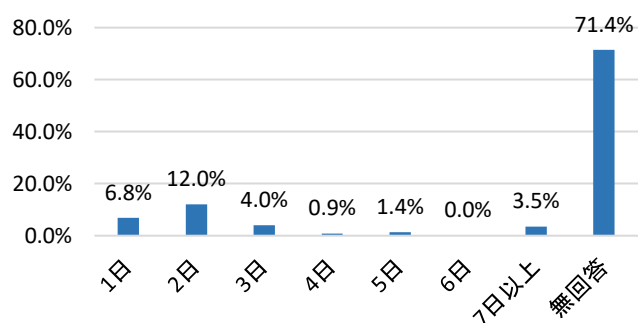
平日

(n=573)



休日

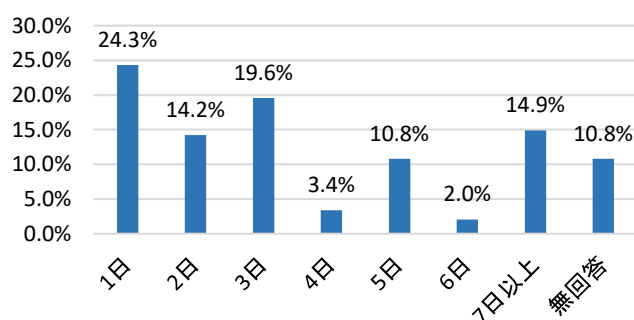
(n=573)



【ウ. (同居者を含む) 親族・知人に子どもをみてもらった日数】

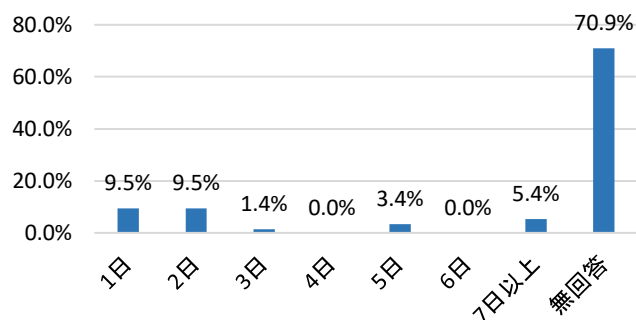
平日

(n=148)



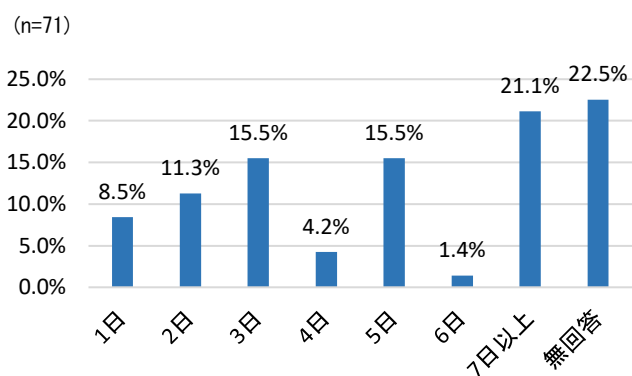
休日

(n=148)

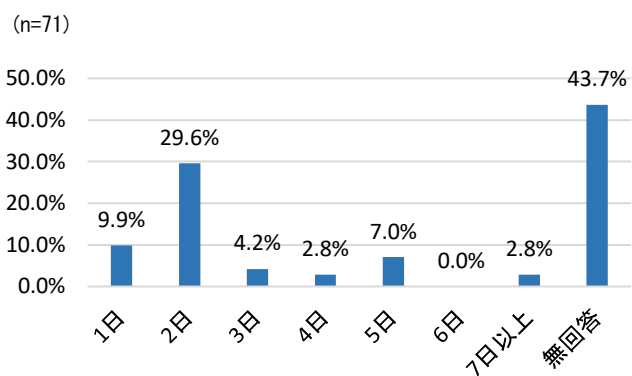


【エ. 父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた日数】

平日

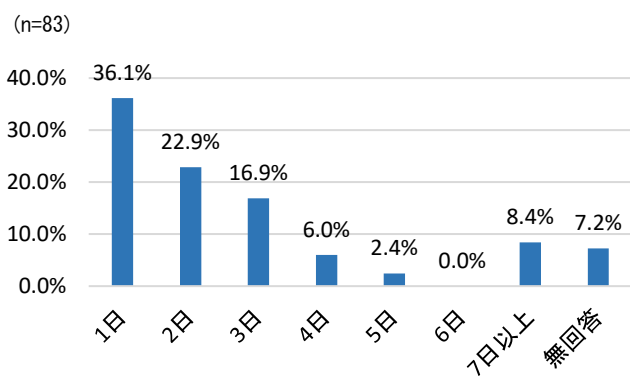


休日

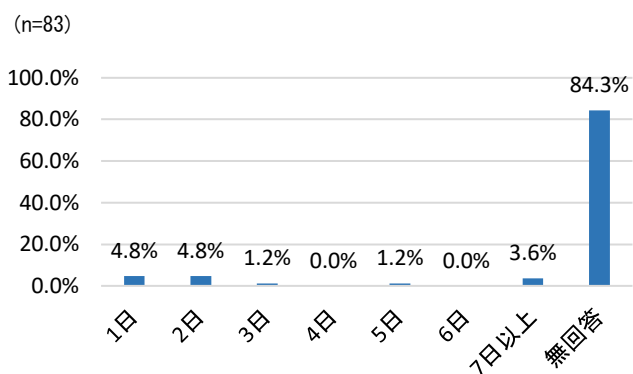


【カ. 仕方なく子どもだけで留守番をさせた日数】

平日

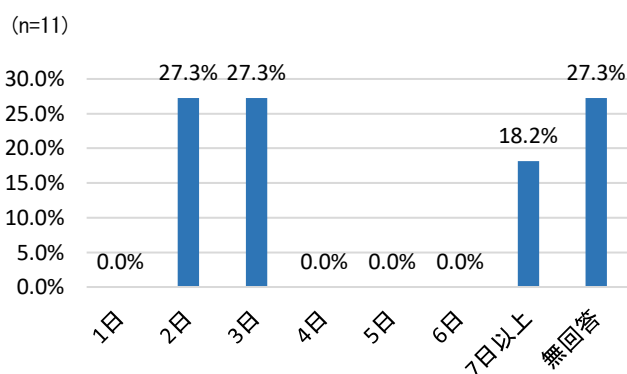


休日



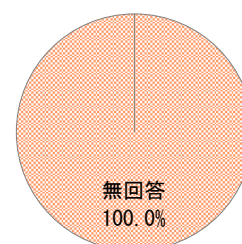
【キ. 病児保育を利用した日数】

平日



休日

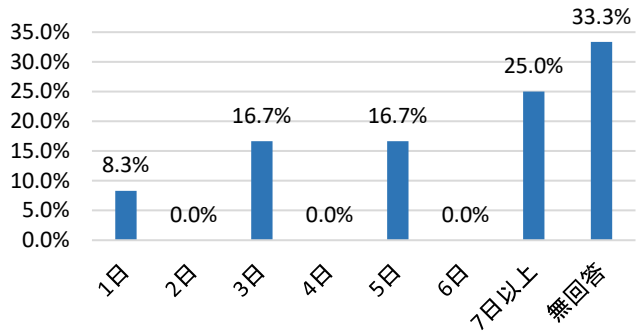
(n=11)



【ク. その他日数】

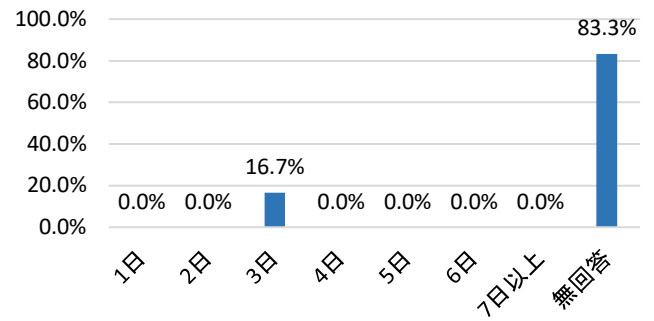
平日

(n=12)



休日

(n=12)



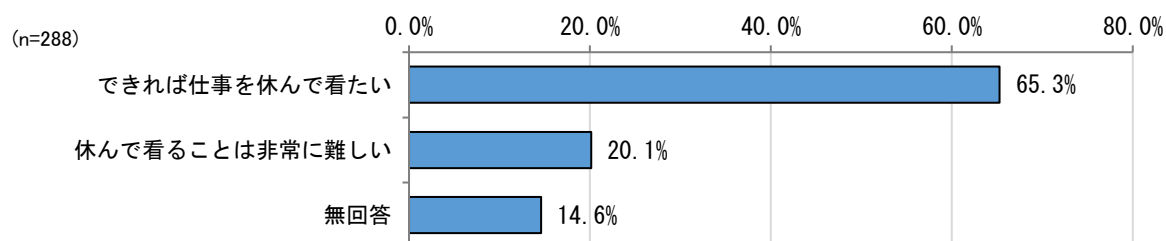
【オ. ファミリー・サポート・センターを利用した】該当なし

【ク. その他 (n=12)】7日以上 (25.0%)、5日、3日 (16.7%)、1日 (8.3%)

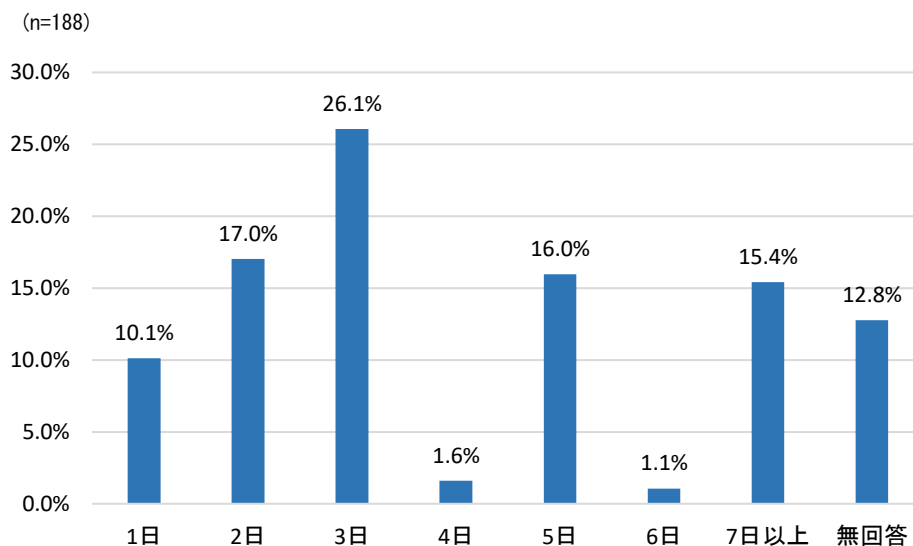
問18-1 【問18で「ウ.」～「ク.」のいずれかに○をつけた方にうかがいます。】
 その際、「できれば父母のいずれかが仕事を休んで子どもを看たい」と思われましたか。仕事を休んで子どもを看たい場合、その日数もお答えください。

父母のいずれかが仕事を休んで子どもを看たいと思ったかについては、「できれば仕事を休んで看たい」65.3%、「休んで看することは非常に難しい」20.1%となっている。休んで看たい日数については、「3日」22.9%が最も高くなっている。

「仕事を休んで看たい」の意向



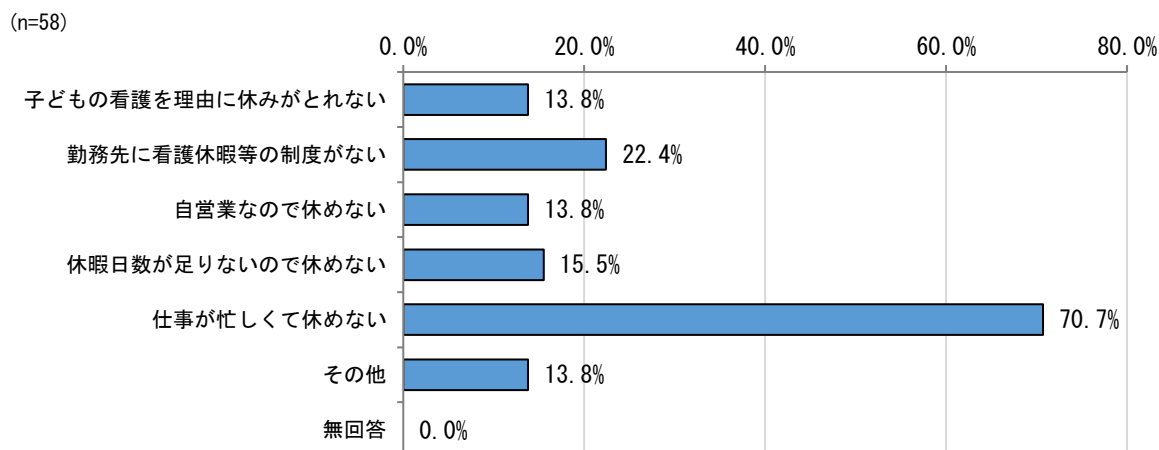
「仕事を休んで看たい」日数



問18-2 【問18-1で「2. 休んで看することは非常に難しい」に○をつけた方におたずねします。】
 そう思われる理由は何ですか。(複数回答)

休んで看することは非常に難しいと思う理由については、「仕事が忙しくて休めない」70.7%が最も高く、次いで「勤務先に看護休暇等の制度がない」22.4%、「休暇日数が足りないので休めない」15.5%となっている。

「休んで看することは非常に難しい」方の理由



問18-3 その他、お子さんの病気の際の対応について、ご意見がございましたらお書きください。

回答件数：165 件（複数回答あり）

【主な意見】※回答一覧は197～205ページに記載

内容	件数
預かり環境・病院施設について	77 件
職場・育児環境の認識のアップデートについて	60 件
金銭的不安について	9 件
学校の対応について	9 件
窓口負担費用について	4 件
情報発信について	1 件
その他	5 件

7. 鹿屋市の子育ての環境や支援について

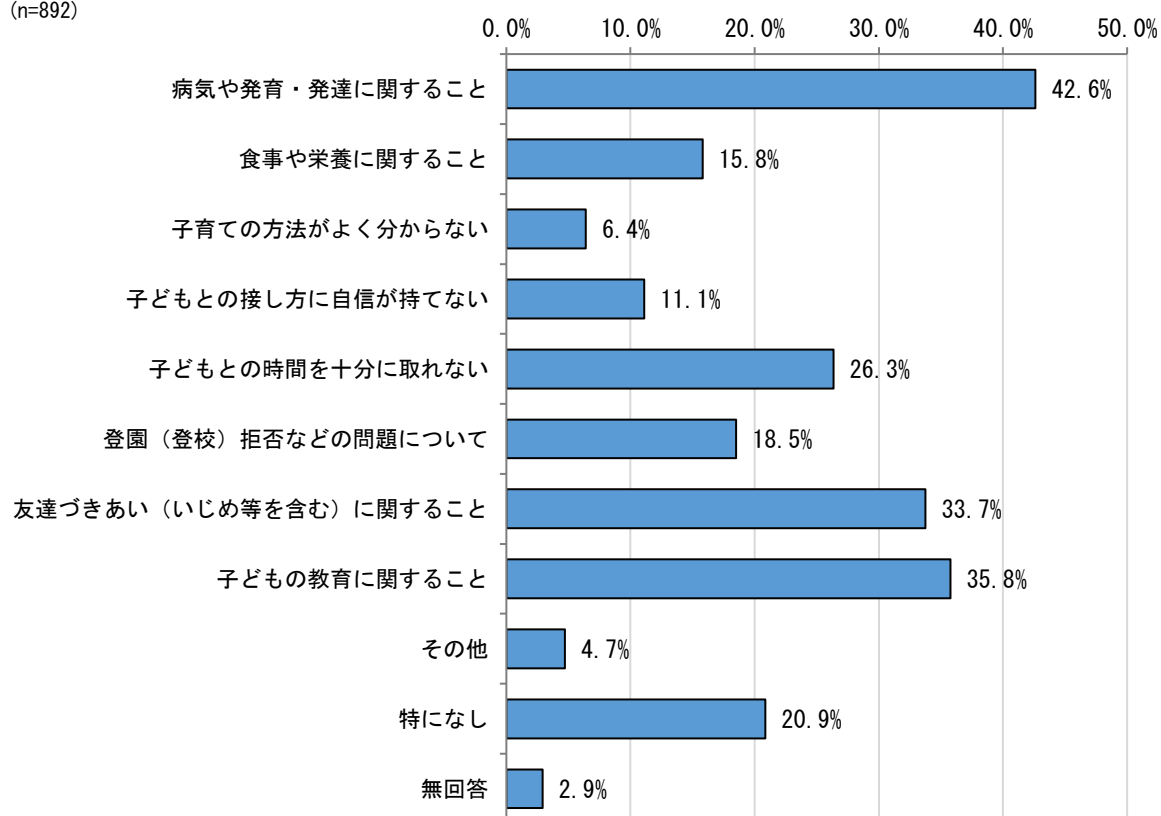
問19 子どもを健やかに生み育てる上で、どのような悩みや不安等に対して、市に支援を期待しますか。(複数回答)

【子どもに関して市に支援を期待すること】

「病気や発育・発達に関すること」42.6%が最も高く、次いで「子どもの教育に関すること」35.8%、「友達づきあい（いじめ等を含む）に関すること」33.7%となっている。

子どもに関すること

(n=892)

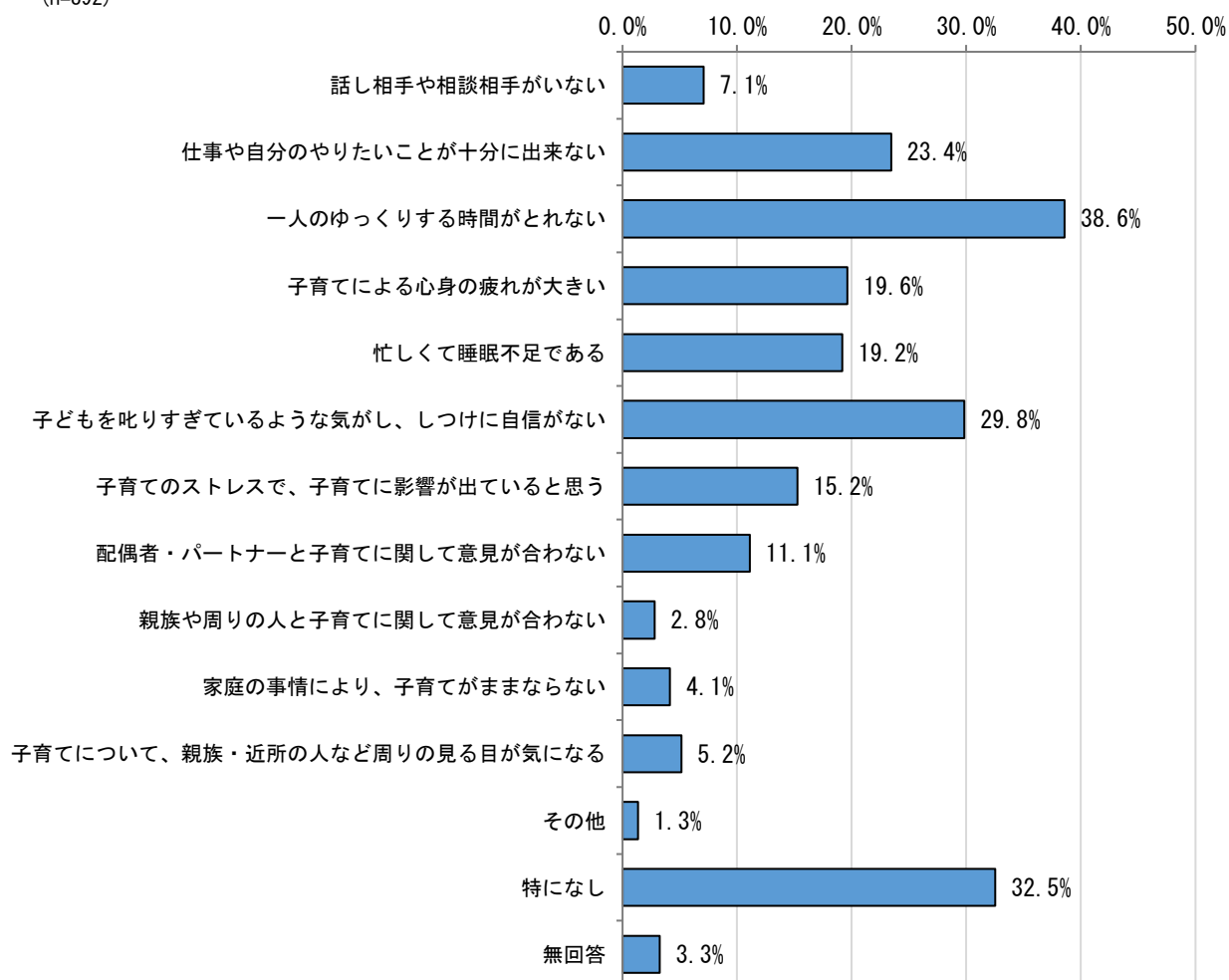


【親自身に関して市に支援を期待すること】

「一人のゆっくりする時間がとれない」38.6%が最も高く、次いで「特になし」32.5%、「子どもを叱りすぎているような気がし、しつけに自信がない」29.8%となっている。

親自身に関すること

(n=892)

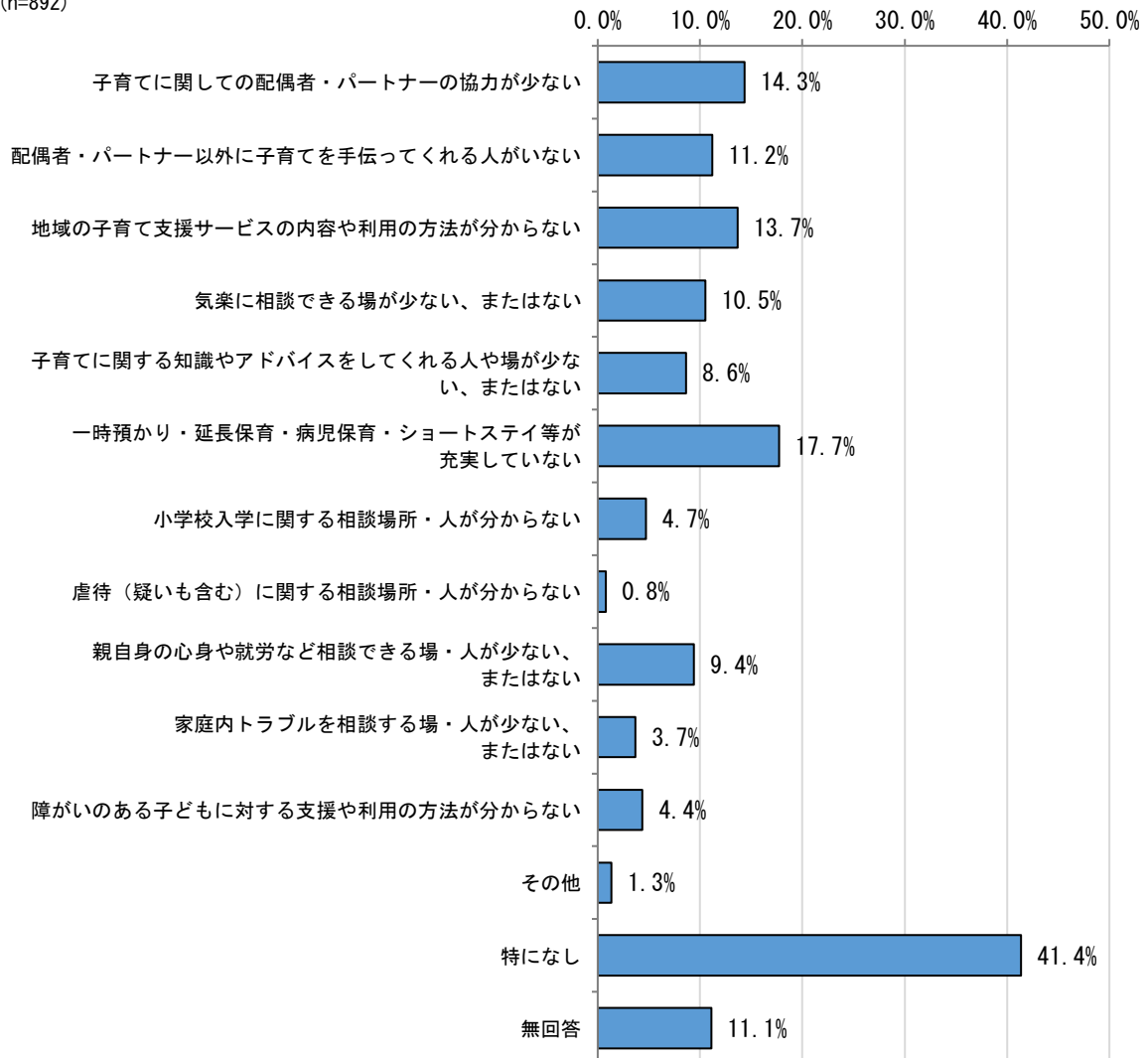


【協力・支援体制について市に支援を期待すること】

「特になし」41.4%が最も高く、次いで「一時預かり・延長保育・病児保育・ショートステイ等が充実していない」17.7%、「子育てに関しての配偶者・パートナーの協力が少ない」14.3%となっている。

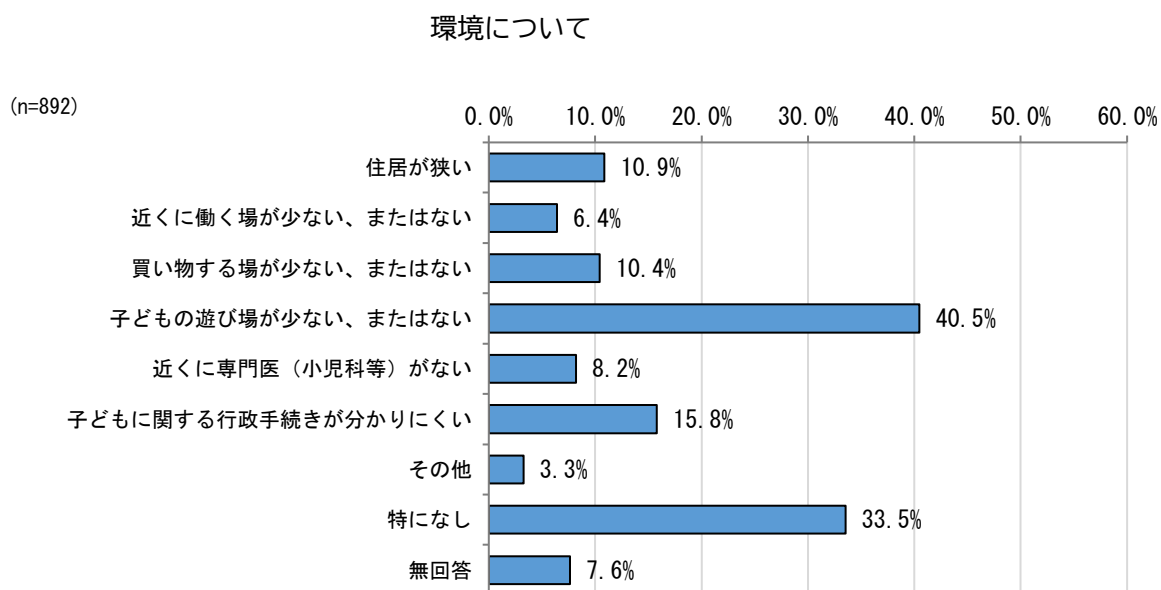
協力・支援体制について

(n=892)



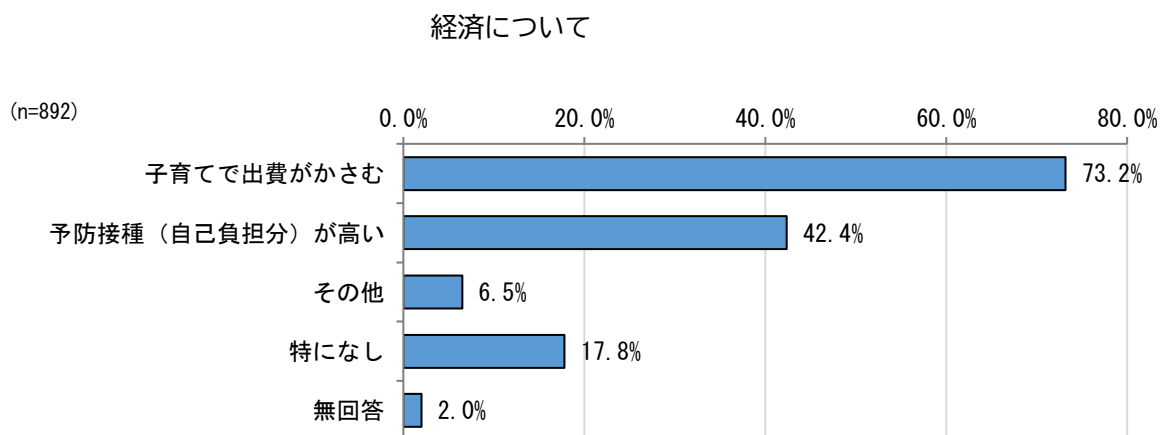
【環境について市に支援を期待すること】

「子どもの遊び場が少ない、またはない」40.5%が最も高く、次いで「特になし」33.5%、「子どもに関する行政手続きが分かりにくい」15.8%となっている。



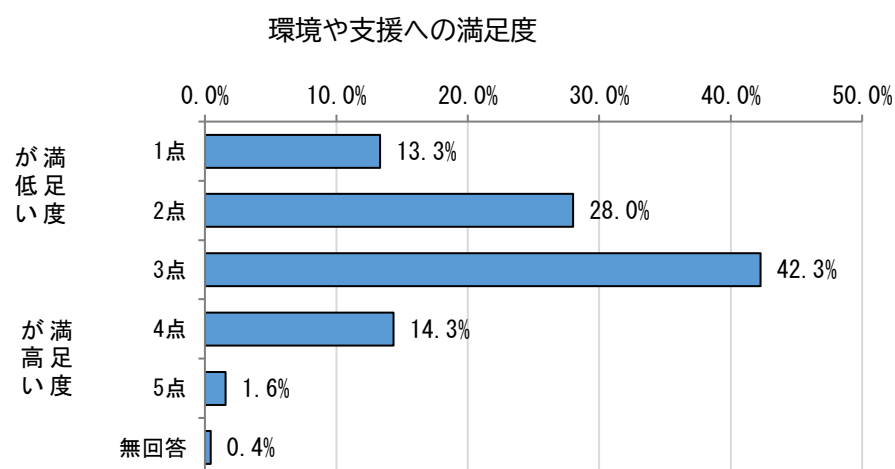
【経済について市に支援を期待すること】

「子育てで出費がかさむ」73.2%が最も高く、次いで「予防接種（自己負担分）が高い」42.4%、「特になし」17.8%となっている。



問20 鹿屋市の子育ての環境や支援への満足度についてお答えください。

鹿屋市の子育ての環境や支援への満足度については、「3点」42.3%が最も高く、次いで「2点」28.0%、「4点」14.3%となっている。



問21 最後に、教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

回答件数：257件（複数回答あり）

【主な意見】※回答一覧は206～223ページに記載

内容	件数
経済的支援について	71件
窓口負担費用について	44件
公園・室内遊戯施設、環境整備について	43件
学校環境について	30件
預かり環境・施設整備について	15件
子育てに関する認識のアップデートについて	9件
食について	9件
病院・療育施設整備について	8件
各種手続きについて	6件
情報発信について	3件
相談体制、質の向上について	2件
アンケートへの意見	1件
その他	16件

自由回答

問9 子育て(教育を含む)をする上で、周囲(身近な人、行政担当者など)からどのようなサポートがあればよいとお考えでしょうか。ご自由にお書きください。

預かり環境・施設整備について (89 件)

- 用事があるときに気軽に預けられるところがあると良い。
- 自分の祖父母、親戚が近くにいたら良いと思う事はよくある。近くに知り合いがいない。人の為に気軽に用事が頼めるサービスがあると助かる。
- 預かってもらえる場所。
- 一時預かりが気軽にできるようにして欲しい。
- 病児保育などが未就学児にはあるのに、小学生以上の子ども預かってもらうのが難しい。大都市では学校の敷地内に学童のような施設があるらしいが、田舎には民間でしかやっていないのが不便。寿小の授業参観はいつも「徒歩か二輪車で」と言われるのだが、小さい子をベビーカーに乗せて2キロほどの距離を歩いて行くのは、とても大変である。どうにかならないのか。PTA にも出席する意志はあるが、駐車場問題がネックになっている（無断駐車・違法駐車をされている方もいる）。
- 緊急時に預かってもらえる。
- 親が体調を崩したときに少しだけでも預かって欲しい。
- 緊急時や病気のときに預けられる場所。
- 放課後に過ごす場所を安価で提供して欲しい。
- 朝夕の時間に、子どもの支度や宿題などに付き添ってくれるサポート、もしくは、自分が子どもに関わっている間に、家事を回してくれるサポート。
- 無料の学童。
- 学校の図書館が放課後や長期休み中に開放してもらえると助かります。
- 用事がある時に気軽に預けられる環境。
- 休日、夜間等の緊急時の対応。
- 預かり。
- 長期休みの際に、過ごせる環境があれば良いと思います。
- 緊急な時の預かり先。
- いつでも子どもを預かって貰える施設が身近にあれば良いと思う。
- 緊急時の預かり（学童保育の一時利用など）。
- どうしても預けなければならない場合に、宿泊までサポートしてもらえる施設があればと思う。
- 乳児期や心体が疲れている時に、すぐに短時間でも単発で預けられる市から認められたベビーシッターや保育施設があると良い。
- どうしても用事がある際に、その日だけ預けられる学童や施設など。
- 祝日に見てくれる人、場所。

- 急に預かって欲しい時に一時的に預かれる場所。
- 学校が終わった後、迎えがくるまでに安心して待っていられる場所があれば良い。
- 安心して預けられる、寺子屋のような近所のおじちゃんおばちゃんたちとも触れあえる異年齢の関わりがあるところが欲しい。
- 勤務時間帯に気軽に利用できる場所があれば安心です。
- 祖父母もいない環境で、夫婦二人だけで子育てするのは、二人とも仕事もあるので大変です。もっと気軽に利用できるサポートがあれば良いと思う。
- ショートステイができる施設。
- 登下校時の見守り隊、お手伝いサービス、送迎サービス、ベビーシッター。
- 親が仕事の日に遅い時間まで預かってくれるようなところがあれば良い。親が残業あっても安心して働ける。
- 学童が休みの日に気軽に預けられる場所が欲しい。ひとり親で、所得制限で色々な手当がもらえない家庭へのサポートも考えて欲しい。
- 緊急時、気軽に預けられる場所。子どもが自由に行きたい時に遊びに行っても安心できる場所。
- 小学校低学年の時は、主人が単身赴任しており、自分一人だけで子育てをしていた時期がありました。自分、あるいは兄弟の誰かが体調が悪くなった時、夜間不在にになってしまうことがあれば大変だと思って過ごしていました。ファミサポは事前予約が必要なので、緊急時に両親のようにすぐに対応してくれる場所があれば良いと思います。
- 学童の充実（校区内の学童施設が少ない）。
- 放課後、学校で少し待てる環境が欲しい。
- 放課後や用事等がある時に預かってもらえるような所が自宅の近くにあるとありがたい。
- 急用時にすぐお願い出来る人がいたら助かります。
- 気軽に子どもを預けられらサポートがあると助かります。
- 共働きの際に、帰宅時までの子どもに対する支援。
- お預かり施設の拡充、利用しやすい料金設定。
- 子どもの放課後の事。
- 母親がひとりでゆっくり過ごせる時間をもてるような気軽に託児できるシステム。
- 今は子どもが大きくなったので、少しの時間はお留守番が出来るようになったのですが、小さいうちは美容院など行くこともままならなかったです。県外に住んでいましたが、保育園等の短時間の一時預かりなどは、とても助かりました。
- 理由は問わず、平日、週末に限らずいつでも安心して子どもを預けられる場所があるといい。一時的に預かってもらえる場所やファミサポ制度があるが手続きや準備するなど時間やてがかかるものが多い。もう少し気軽に預けられるような場所があるといい。
- 具体的なのは浮かびませんが、ひとりで留守番をさせている時が気がかりなのでその時に何かしらサポートがあるとありがたいです。明るく誰でもが寄ってみたいくなる開放的な図書館と遊び場、カフェや交流スペースなどが一緒になった場所がほしいです。
- 面倒を見てくれる。

- 預け先がない場合は必要かと思います。
- 仕事で帰りが遅くなることも多いので、子どもを見てもらえる環境があれば助かります。
- 緊急時にすぐ預けられる所があるとよい。
- 夏休みなど預かってくれるところが少なすぎる。預けられるところが増えると良い。
- 親がリフレッシュするために、年に数回、無料で子どもを預かってもらえる制度。
- 日曜祝日に仕事が休めない時に子どもだけで留守番しないといけないことがあるので日曜祝日も預かってもらえる学童があれば助かる。料金が高いと働く意味がなくなるので低料金で。
- 当日の緊急時に、預かってもらうなど対応してもらえること。程よい距離感（遠すぎず近すぎず）で接してもらうこと。
- 少し見ていて欲しい時など、平日の夕方までなら、頼めるが、夜や祝日になると頼める人がいなくなって、困る事が多々ある。急に預けたくても、預ける場所の少なさや、登録までの手間など、課題が沢山あると感じる。
- 長期の休みとなるとお留守番も増え、家庭での様子も気になります。学童の利用も考えますが、人数の割には部屋が狭く、心配になります。もっと学童利用場所やもっと気軽に小学生も利用できるスペースがあればいいと感じます。
- 働いている家庭でのお盆休み、年末年始、GW 等の見守りがあれば、より安心できるのではと思っている。高学年になればお留守番させたりがあるが、近頃の強盗、強奪、空き巣などのニュースを見ると安心してお留守番させられないのでは。
- 安心して任せられる人。
- 親が仕事の時間、家に一人でいる子どもを見てもらうサポート。（おやつ、宿題など）。
- 緊急時に子どもをみてもらえるようなサポート。
- まだ未就園児の頃に思ったのが、親の急な体調不良時など急な時に子どもを一時的に預かってくれるような施設。体調不良は事前に分からないため予約しないと預かれないところは困りました。
- 子どもの預かり事業。
- 緊急で預けたり、夜間預かりができるのであれば言いと思う。夜間保育とか。
- 緊急時、すぐに子どもをみてもらえる。
- 就労しているため今は退会したが、もっと学童が入りやすいと良かった。
- 緊急時の預かり。
- 急な事でも予約無しでも預かって貰える所。
- 休日や夜間対応など、予約制ではないサポート体制が欲しい。
- 身近に急に預けてもらえる施設等あれば助かります。
- 緊急時でも安心して子どもを預けられる場所がある。制服など、義務教育期間は、皆に補助がある、支給されるのであればより助かります。
- 小学校の近くに学童以外で緊急時などに短時間預かってくれるところがあれば助かる。

- 遠方の病院などに行っている時などに、学校から子どもの迎えが言って来た時などに一時的に預かってくれる臨時の病時施設などがあったら助かる。手続きが簡単にできたらもっといいです。
- 兄弟が多いので塾ではないけど放課後決まった場所で宿題などを見てもらえる（教えてもらえる）場所があるとありがたいです。
- 仕事や緊急時に低価格で安心して預けられる場所があるとありがたい。
- ファミサポを使いたいときにすぐ使えるようなシステムがほしい。祖父母宅も遠いため、ちょっと病院に行く時や緊急で出かけたいとき、子どもを連れていかなければならず、大変。子どもが、ボール遊びできる公園がほしい。東地区学習センターの公園に、明るいライトをつけてほしい。
- 夜、見てくれる人がいるとありがたい。
- 家族や親戚には子守を頼みにくい時もある。他人の方が無理をお願いしやすい。仕事から帰ってきてから炊事をすると子どもの夕飯時間が遅くなるので、平日の炊事をしてくれる人がいるといい。体調を崩した当日に事前予約なしに家事を代わりにお願いできるサポート体制があるといい。
- ひとりで子育てしている親に何かあったとき（急病、事故など）のサポート。
- 託児。
- 長期休み等に子どもを半日でも無料で預けられる施設を充実させて欲しい。
- 安心して子どもをあずけられる、または見ていてもらえるようなサポートがあると嬉しい。
- 気軽に短時間預かってもらえるようなサポート。公園での見守りの方がいらっしやると少し目を離すときなどありがたいと思うことがある。朝の登下校時、通学路の見守りがあると 1 人で登校する子ども達が安心して登校できるのと思う。
- 学童をどうにかして欲しい。質が低く、お金もかかる。特に西原台小校区は選択肢も少ない。質が低いことが何よりも問題。本当にどうにかして欲しい。これでは安心して共働きできない。
- 緊急時に子どもを預けられる場所。
- 学校内に学童のような施設があったら助かると思います。
- 気軽に預けることのできる施設があるとありがたい。
- 信頼できる事業や行政が緊急時に面倒を見てくれるような場所があればと思います。
- いつでも子どもを安心して預けらる場所があると良い。
- 就労等に関係なく、放課後児童クラブが数日程度利用できるといいと思う。また、土日などもそのような預けられる施設があるとありがたい。

経済的支援について（53 件）

- 金銭的補助。
- 金銭面。
- 一番はやっぱり金銭的な事。
- 医療費窓口負担なし。夏休みや冬休みの地域での見守り活動があると嬉しいです。学童は金額も高いし、地域の方々との触れ合いにもなり、町づくりにもつながると思う。
- そうしたい人は沢山いますが、手続きや、行政が分類するのに値しないなど、支援を狭めるので結局、母親が這いつくばってでも子育てを必死でしてる。行政は口ばかりである。
- 習い事の送迎。給付金。
- 医療費の窓口負担をなくして欲しい、もしくは振り込まれる口座を世帯主ではなく選択できるようにして欲しい。
- 子ども自身が安心して通える学童。保育園、幼稚園、小学校の教諭1人当たりのクラスの人数を減らす。金銭的な支援。
- 給食費の補助。
- もっと手当てが充実したら良いと思う。
- 助成金。
- 教育上での金銭的援助。0～3歳までの保育園料の援助。
- 学童保育の補助など。
- 金銭的サポート。
- 学費の軽減や免除。
- シングルマザー・障がい者母の者です。自分の家族環境(両親は離婚しております)自体が、とても複雑で頼れない。母がそばに住んでいますが、金銭面で頼られます。「色々してやってるでしょ」と言い、こちらの生活は後回しにさせられ「そっちは額が少ないから後回しにして、こっちを加勢して」と言われます。仕舞いには、支払いに必要なお金を使い込まれた。母自身も仕事をしているのもありますが、孫の面倒を見ると「ストレス溜まる」「クソガキ」「めんどくさい」と言う。孫の面倒金とでもいいましようか、そばにいて色々やってあげるけど、お金で返してね、といった感じでこちらのもしものお金も使われる。貯金も無い状態である。自分は場面緘黙症という軽い方ですけど障がいがあり、家族環境で精神的にもあり、B型就労先で精神病院を勧められて、やっと少しばかり心寄りが出来ています。ほぼ、月8万の年金で生活している。入ったとしても、母に狙われる生活を送っています。働く意欲はあるが、子どもを預かってくれる・見てくれる所がなく、今は精神的にも参っていて、精神病院にも通う羽目になっている為苦しい、という気持ちが正直です。
- 学童を利用していたが学童費が高い。夏休みなど長期休みは金銭的な面でも自宅で兄弟で留守番をさせないと行けない事がとても苦痛。
- 金銭的な補助。
- シングルとして生活している家庭に手厚い支援があればと思う。
- 病院での窓口負担をなくして欲しい。

- 学童保育が無料になるとありがたい。仕事をしていて、延長保育になったりするので費用負担も大きい。
- 鹿屋市は子育てにサポートしてくれる援助が少なすぎる。
- 経済的支援。税金負担の軽減。子育て世帯を大切にしたい。
- 母子や父子家庭は、習い事をさせてあげられるような時間的・金銭的な余裕がない。送迎や月謝の減額などのサポートが少ない。
- 金銭面。
- 就学援助をみんなにして欲しい。収入に関わらず、平等にして欲しい。子どもたちはみんな平等です。
- 医療費の窓口負担をなくしてほしい。
- 学童は金額が高い。
- 病院の費用を窓口で支払う事をなくしてほしい。
- おむつやおしりふき手口ふきなど保育園で安くで出してほしい。ナプキンなども値段が下がるとありがたい。
- 他の兄弟もいるため、習い事など通わせたいが、時間とお金に余裕がない。
- 子どものリハビリなどがあり、病院代がかさむこと。医療費無償の恩恵を受けていないと思う。窓口負担が無ければと思う。
- 共働き家庭が多いと思われます。安心して子育てできるように親が余裕を持って子どもたちに接することが出来るように金銭的な支援や補助を充実させて欲しい。兵庫県明石市を見習って欲しい。都城を見習って欲しい。
- 給付金。
- 学費の無償化。
- 金銭面でのサポート。
- ファミサポはとってもありがたいけど、金額的な負担が気がかり。無償ではなくても、もう少し手頃な金額だと利用しやすいのでは。
- 学校の登下校が道路状況(歩道がない、もしくは狭い)や防犯面(不審者)で心配です。学童に預けたいですが金銭的に中々難しく、保育園や小学校の学用品費は申し込みすれば鹿屋市から支援頂けたりする制度があるのに学童だけ何も支援ないのが以前より不思議に思っています。あと、市立図書館の建て替えとかあると嬉しいです。今の建物は古くて暗い感じがするので子どもが怖がるので。
- 学校に必要な文房具等への助成金。
- 医療費の窓口負担なし。
- 補助金。
- 学校の制服などサイズアウトして不要になったものを貰えるまたは、通年寄付など利用できる場所があれば助かります。あと、医療機関で窓口で支払うのを無くしてほしい。急な病気でも手持ちがないと病院に行くのを諦めてしまう。
- ひとり親の子どもの教育費用を所得制限なく利用できるようにしてほしい。
- 医療費の窓口払い無くす。大学費の無償化。

- 行政 子どもの医療費の窓口一時負担を無しにしてほしい。
- 金銭的なサポート。
- 金銭的なサポートが欲しい。
- とにかくお金が足りない。
- 学童代等の支援もあったら助かる。
- 周囲からの声かけ。3人目からの手当での増額。
- 給食費免除。
- 収入で、公的支援が全くない。周囲に支援してくれる親族がいる、いないなどでも経済的な負担が大きく変わるため配慮がほしい。ひとり親同士が繋がる場があればと思う。

相談体制、質の向上、親のケアについて（38件）

- 匿名で手軽に相談できるシステムがあればありがたいです。
- 発達に対する専門家による匿名での電話相談サービス。
- 相談窓口。
- 気軽に相談できる窓口。実際には受ける相手方にも時間の制約等あると思うので、メール等の気軽な窓口がもっとあると良いと思う。
- おしゃべりをする場所があるといいのではないのでしょうか。
- 子どもにも学校があるように、親にも子育ての為の学校があった方が良いと思う。
- 始業式、終業式など学校が早く終わる日の預かり。職場が遠方のため、緊急時にお迎えをお願いできるサポート。土曜日午前中の子育て相談窓口。
- 話を聞いてくれる、体調不良や緊急事態にサポートしてもらえると良い。
- 特に未就学児の頃は、子育て支援施設に助けられた。行政や支援施設に垣根の低い相談しやすい居場所づくりを望む。
- 気軽に相談ができる。
- 気軽に相談できる窓口が常にあると良い。
- ゆっくり雑談をしたい。
- 自分からはなかなか相談できないので、相談員さんのように定期的に連絡を下されば嬉しい。学校でも面談などあるのでそれもすごく良い。
- 困ったときお互いに頼れるご近所付き合いがでるようになれば良いと思う。
- 何でも聞いてもらえる。聞く姿勢を見せてくれる。
- 保護者が息抜きや子育て相談が気軽に出来るような場所の提供やイベントの開催。
- 具体的な施設や人などへの橋渡し。
- 何気ない会話をする。話しやすい雰囲気づくり。
- 母親が元気でいないと共倒れになるので、母親の心理的なサポートが必要だと思うが、相談に関してもただ傾聴に終わってしまうことが多い。鹿屋にないので市外に出て学びを深めている。

- LINEなどで手軽にいつでも何でも相談できれば。
- 心理カウンセラーがいれば気軽に相談できると思います。
- 匿名で電話で相談できるようなサポートがあるといい。
- 相談しに行く時間がなかったり、顔を見て相談しにくいこともあるのでメールやチャットみたいなもので気軽に相談や話をできるといい。
- 話を聞いてもらえる、寄り添ってもらえる場であってほしい。必要な時に然るべきところへ繋いでもらえたら有り難いです。
- まず、支援を必要としている子ども達に、それなりの教員がいればと思います。学校に子ども達が気軽に相談できる人、又はボックスを設けて子ども達が悩んでる事を聞いてもらえるようにして欲しい。親に言えないことなどを手紙などで書けるように。1番はタブレット使用の持ち帰りを無くして欲しい。何の意味もない。
- 時間的な余裕がなく予約や行く手間を省くためには、ネットや電話での相談が有効。行政が親身になって解決してくれるとは思わないし期待できない。子育て支援の窓口での対応を見て強く感じる。子どもの手続き等で来られた親に対して、手続きの用事だけで対応を済ませるのでなく、ついでに困ってる事などないか声かけして、時間の余裕があれば対応するなど、行政から積極的に相談する必要もあると思う。
- いつでもできる相談所。簡単に聞ける場所。仕事等があるため土日も相談できるところがほしい。
- 悩みを聞いてくれる。困ったとき欲しい情報を提供してくれる。
- 気軽に相談できる所がほしい。
- 話を聞いてくれること。
- いつでも気軽に相談できる場所が欲しい。行政が用意しているところは、マニュアル的なことしか言ってこない。上から目線。言わなきゃよかったと思うことがあった。民間に委託してはどうかと思います。
- 相談内容に対して的確なアドバイスくれる。
- ちゃんと一生懸命に考えてくれる人が親身に相談にのってくれたり、子どもを見てくれたりする場所があると助かる。
- 他人には相談しにくい。
- ネット、LINEなどで子育てのお悩み相談できるサポートや、不登校や発達障害の子を育てたり、また周りはどういう扱いをしたらいいのかわからないので、講演会などをしていただきたい。
- 困っていることがないか、保健師さんなど、訪問や電話などがあると悩みがなくなると思う。
- 鹿屋市の子育て支援施設はあると思うが、何があるのかよく分からない。そして、市役所の子ども関係の対応が冷たい。行くたびに不愉快な気持ちになる。そんな人達がどんなサポートが出来るのでしょうか。
- 不登校に関する適切な助言や学校に求めることができる支援などの仲介。

経済的支援について（53 件）

- 夫婦共に仕事を持っているので、短時間(早朝や夕方から夜)のベビーシッターが利用出来たら良いと思います。子どもが病気になった時の、病児保育の人数の枠が増えると、雇用主にとっても子どもを持つ親御さんにも助かると思います。
- 病児保育の年齢幅が小学6年生くらいまで対象になって欲しい。
- 熱があったりしたらいつでも預けられるサポート。
- 病気になった際、仕事等で休めない時の預け先。インフルエンザ助成(鹿屋だけ1回分しかないから)。
- 小学生が行ける病児医院があればと思います。
- 訪問診療。
- 子ども食堂を増やして欲しい。
- 病児保育がもっと気軽に利用できるようにして欲しい。急な発熱などで仕事も休めない時に、すぐに利用できるようにして欲しい。今の病児保育は、利用するのに事前登録や予約が難しい。あと、小児科を増やして欲しい。
- 仕事をしている際、子どもが病気になった時に緊急で対応してくれる場所。
- インフルエンザなどの症状が軽快しているが、子どもの出席停止の期間中に、どうしても仕事が休めないときに看てもらえる人がいると安心するし、助かる。
- 子どもが病気になった時に気軽に預かって頂ける病児保育を増やすか、もしくは普通の保育所に設置して欲しい。最近は色々な感染症が増えて小さなお子さんをお持ちの保護者は大変そう。又、学童費が高い。もう少しお手頃価格にして欲しい。又、最近は発達障がいと言う言葉をよく聞きますが、一人一人の個性も大切にしたい。難しい判断ではあるが、行政が厳しい対応をすると保護者は気持ちが滅入るのではのではないかと。
- 仕事をしているので、病院受診をしたくても、終業後にお迎えに行ってそこから時間内に受付、というのが難しいので、病院の受付時間(受診時間)の延長をして欲しい。当番制でもいいので、そうすると受診しやすい。仕事を毎回休むわけにもいかないし、あと30分余裕があったら、受診出来るのになと思いつながりながら市販薬で対応している現状なので、病院受診がしやすいような制度があると助かる。
- インフルエンザなどで出席停止や学級閉鎖になり、親が仕事を休まなければならなくなったときにサポートがあるとありがたい。
- 長男出生時から行政には元々期待してません。医療者なので鹿屋市がどのようなサポート体制かは分かっています。専門性もないし、保健センター、市役所、自分達の仕事はここまでと、市民の前でなすり合う程度のレベルに期待はできません。医療的ケア児は10年以上前から在宅ケアは困っていたにも関わらずに、国が動いたから、やっとやり始めた行政に先見性もなく、具体的・地域性もなくただやる、真似されるんだと静観してます。
- 学童、病児保育の充実、ベビーシッター制度など。
- 子どもが病気の時の病児保育施設が増えたら良いと思う。
- 支援学級も使っているの、学校での様子を支援学級や交流学級の担任の先生たちが、まずは連携を取って放デイ等と共有を図っていけることが希望。

- 子どもの病気の時の対応。病児保育の充実。
- 病気になった時に、1日とかなら仕事を休めるが何日もとなると難しい。そんな時に登録しなくても気軽に預けられるところがあればと思う。
- 病気になった時に預けられる場所があると有難いです。急な発熱だと、病児保育に連絡しても預けられない事が多くて困っています。
- 急な病児保育。急な預り保育。子どもが行きたがる施設。
- 両親とも県外出身で、物理的なサポートを身内にお願ひできる状況ではありません。ファミリーサポは、過去には使っていましたが、初回面談が平日の5時以内等最初のやり取りが都合が合わない事や、習い事送迎など計画的なものには利用できますが、1番困るのが、子どもの急な体調不良時に病児保育が予約が取れない時です。そう言う場所が増えるといいなと思います。
- インフルエンザやコロナなど、5日間の登校停止の時など、熱が下がったら預けられるような施設があると助かります。元気になっても、5日間仕事を休まないといけなくなると、職場の同僚に迷惑を掛けてしまい、高齢の親に頼んで、移してしまつて重症化してしまうと困ると考えると親にも預ける事はできません。
- 病院を受診する際に、予約を取ったり、待ち時間が長かったりで子どもを連れては負担を感じる事が多いので、その負担を軽減できるようなサポートがあると助かる。
- 子どもが急病の時に確実に預かってもらえる体制があれば。
- 病児保育を気軽に利用しづらい。ファミリーサポートの利用も相手と直接交渉しづらい。りぼん館のように連れて行けば、気軽に預かってもらえるようになればと感じる。
- 子どもの体調不良や行事で平日休みになることも多く職場に迷惑をかけることもあるので、子育てする上で周囲の方にもサポートがあれば気兼ねなく休めると思う。
- 子どもが病気の際に預けられる施設がもう少し必要。その施設も預けられる時間がもう少し早ければ、仕事に遅刻せずにすむので、助かる。
- 病児保育が、西原だけなので、寿方面にもたくさんあるとありがたい。
- 緊急時に面倒をみてもらえる場所や人が必要です。核家族化や共働き家庭の増加等のため。病児保育も含む。公的なサービスがあれば、いつでも誰でも気軽に利用できると思います。

子育てに関する認識のアップデートについて（25件）

- 療育や神経発達症（発達障がい）について、もっと多くの方に知ってもらいたい。
- パートとして働いている者も、子どもの看護休暇で気兼ねなく休めるようにして欲しい。
- 父親側の職場も子育てに積極的であつて欲しい（男が多い職場だからか、残業が多い）。自分もたまには少し残つて仕事したい時がある。
- 気軽に預けられる先がない、職場をもっと休みを取りやすい環境にして欲しい。子どものことで急に休むと有給がなくなり親も辛い。
- PTA役員や町内会役員など親に負担が掛かることはやめて欲しい。

- 職場の人からの気持ち上のサポートがあれば子育てしやすい。急な子どもの病気で仕事を休むことや、子どものお迎え時間が決まっていて残業できないことに対する理解があると、子育てしやすいです。
- 無料で見てくれる。気軽に休める職場。
- 親も自分の自由な時間が少しでも持てる様なサポートがあると良いと思う。両親で子育てといっても、やっぱり母親の負担は大きいと思う。
- 仕事と子育てが両立出来るようなサポートが欲しい。学校行事が専業主婦や自由がきく人基準に考えられているから大変である。
- 急な体調不良時に面倒をみってくれる。迎えに行ってもらえるサポート。そういった場合に休ませてもらえる社会的な環境。
- インフルなど祖母などに預けられないときの給料面での不安がある為、特休などの制度を作ってほしい。
- 病気になったとき休みやすい職場環境。休みで有給がなくなった時の保障。
- 夫の会社が子育てに協力的、理解があればよい。
- 学童保育などを放課後に負担なく安心して利用できるようにして欲しい。また共働きで学校のPTA活動が負担に感じるので活動の委託や代理を検討して欲しい。
- 健康プラザに子どもを3人連れて行ったら、2人までしかダメなルールだと言われて入れませんでした。もっと子育てに協力的であって欲しいと思いました。
- 否定的な事を言わない周囲の環境がほしい。
- 親の休日とあわせて年間数日間等お休みをして良い制度を作って、子どもと過ごせる時間が欲しい。愛知県や大分県です。
- 職場によって違いはありますが、産休や育児休暇は2歳までの制限があり、2歳以上では時短勤務やその他では休みが取りにくいので、何か対策をしてほしい。小学校、中学や高校入学時は制服代など出費が多くなるため節目で子育て支援以外にも補助があると助かります。
- 小学生以上の子どもであっても時短勤務ができる職場環境。
- 職場が休みやすくなる環境。給食費半額。
- 子どもの病気は有給ではなく特別休暇などがほしい。
- 父親の働き方。
- もっと働きたいが、小学生になってからの方が時間に制約がかかるので、繊細な子どもについてもっと、理解ある学童クラブなどが欲しい(学童クラブは人数が多く活発な子どもが多数見受けられるため、繊細な子どもは行きたがらない。)そして、学童クラブの先生は、理解ある人が少ない気がする。何かしらの勉強をしてる人や免許を。
- 仕事を休みやすい環境。
- 土、日、祝の出勤の強制的な言い回し。緊急時の際の職場休みの対応。

見守り(声掛け)・送迎について (24 件)

- 登下校の見守り。
- 送迎。
- 優しく見守って欲しい。声掛けして欲しい。
- 登下校中、危ない交差点等で見守ってくださるサポートがあると良いと思います。寿小学校の子どもたちが広がって歩いていた、いきなり走って追い越したりするので、高齢者の方は判断が難しいと思います。
- 登下校の見守りなど子どもたちを守るサポートが欲しい。しかし親の負担にならない行政やシルバーからのサポートが良いと思う。
- 習い事送迎。
- 無料見守りがあったら嬉しいです。
- 送迎や調理のサポート。
- 地域の見守りサービスが登下校時などにあれば良いかなと思う。
- 登下校の際、パトロールしてくださる方や横断歩道などに見守りの方がいらっしゃるものがとてもありがたいので、これ以上にサポートしていただければ助かります。
- 登下校時の見守りや子ども 110 番のいえなど、身近にすぐに助けを呼べる環境があればありがたいと思います。
- 朝のスクールガードで早くから立って下さっている皆さんには本当に感謝です。
- 近所で変な人がいるときなど、大丈夫？などと声掛けして欲しい。
- 登下校を安全にできるように声掛け、見守り。
- 声掛けをしてくれる。
- 困った時に声かけ、気にかけてくれる環境。
- 送迎システム。
- スクールバスのような、送迎サービス。
- 病気になった時や習い事などの送迎、付き添いをしてもらえると助かります。
- 登下校時の見回り。
- 仕事で遅くなる時のお迎え。
- 皆んなでしっかりと声かけ等の見守りがあると良いと思います。
- 送迎サポート。
- 定期的な声かけ。

交流の場や安全に遊べる場の確保について（18 件）

- 学校以外の地域での、子どもたちの安全な居場所の確保。
- 町内に子どもが少なく、親子会や育成会のような組織や行事（同じ町内会の中での子どもや親が一緒に取り組む、例えば六月灯のような体験）がないので、地区内の他の町内と共に取り組みめるような関係性が築いていければと思う。
- パチンコ屋を減らして、子どもからお年寄りの交流の場を増やして欲しい。屋内の場も増やしてくれると助かる。
- 町内会の活動促進。
- 子どもたちだけで遊べる遊び場が欲しい。
- コミュニティづくり。習い事や少年団などではなく、地域のつながりを深めるサポート。
- 就学前は支援センター等を利用すると、同じ年頃の子どものことなどお母さんたちと話しやすくどんな子育てをしているかなど話す機会があるが、小学生になるとお母さんたちと気軽に話す機会がなく、どんな生活習慣や学習習慣等をしているか知ることがないため、同じ年頃の子どももつ親が気軽に話せる場があると嬉しい。
- 子ども達が遊べる場所が少ないので、もっと公園など気軽に集える場所があると良いのになと思います。
- 小学生が利用できる屋内施設の充実。
- 集まる場所があればいい。
- イベントなどの仲間づくり。
- 子どもが気軽に利用出来る遊び場がほしい。
- 気軽に遊べる無料屋内施設がほしい。
- 子どもが参加できるイベントがいつも助かっています。学校以外での過ごし方にいつも悩むので。
- 子ども向けのイベント等がもっとあると嬉しい。
- 子どもが自由に安全でのびのびと遊べる場所があればいいなと思います。
- 自由に遊べる場を増やす。
- 子どもが遊べる施設を充実させてほしい。

情報発信について（8件）

- 子どもが友達と遊びたがる時期になってきたのですが、連絡網がないため、連絡を取りたくても取りにくい状況で悩んでいます。地区のイベントごとがあれば参加したいのですが、ないところです。
- 何をどの様にしたら良いか分からないので、案内等を発信して欲しい。
- 色々な経験や体験をさせたいので、どこでどのようなイベントがあるのか、講演会なども含めた情報が、学校を通じて配られると利用しやすい。サポートに関しては、夫、祖父母、職場の託児所、学童のいずれかを利用でき、担任の先生も相談しやすいので今は困っていない。
- 時代の変化なのか、親身だった学校教諭は働き方改革で当たり触らずである。身近だった児童センターも企業化され身近に感じられない。その反面、学童や放デイとかは充実している。では、家庭で過ごしてる子ども達は。普通に生活してる子は。なんだか、格差を感じる。それでも、仕事をしてたら、父母で分担、祖父に甘えて、それぞれあると思うが、不平等しか思えない。負担は普通の子。悲しい。昔、小学校の土曜日に残って習字教室があったり、少年団があったり、充実してたかと思う。子ども会も世帯数が多かった。入学と同時に集団下校や地域貢献で安全会費払う形で加入者をあげて、高齢化に対応して欲しい。あと、不登校の子ども達が増えている。本人もだけど、その親御さんにもっと、情報を流して欲しい。特に教諭。学校側の引き出しが少な過ぎ。経験ないから分かりませんじゃなくて、親子で選んだり探したりするにも情報や選択肢がない。家庭の事情はさておき、解決の方に向かえる情報を流して欲しい。中学は教科やクラスで担当が変わるから、対応に差がでないようお願いしたい。
- 行政がどんなサポートをしてくれるのかよく知らないし、解決に繋がるのかも不安。声かけがあれば、話すきっかけになると思う。
- 子育て中は行政にどんなサポート体制があるか、よく分からないので、それを知る手段を分かりやすくして欲しいです。
- 現段階でサポートを受けられてると思う。 全て自発的に動かないといけないのは負担かなと思う。
- 利用できるサービスの情報。

食について（6件）

- 学校給食にハラル認証の対応食を出してほしい。
- 食事の提供。
- 外国の子ども達（イスラム教徒）も、学校に通っているなので、その子達も安心して食べれる給食の提供があれば、もっとみんなで楽しく食べれるのではと思う。
- イスラム教徒の子ども達も安心して食べられる給食を提供してほしい。
- 夏休みなどの長期休みのお昼ご飯のお弁当づくりが大変なので、給食を出してほしい。

習い事(学習塾・寺子屋など)について (5 件)

- 習い事の送迎や、宿題以外の勉強も見てもらえる学童があると、安心して預けられる。
- 兄弟がいないので、寺子屋、楽器など習い事などして見てくれる所があるといいかな。遊びや宿題を教えてくれる所(安い塾)。
- 学校の様子、勉強具合をもう少し知りたい。
- 教育水準値をあげて欲しいです。
- 習い事が学校で実施されればいい。送り迎えなどが負担。

その他 (20 件)

- 身近な人や行政の人は親身にはなってくれない。
- 緊急時の対応。
- 祖父母が近くに住んでいるととても助かる。少年団を通して知り合った信頼できる家族のお陰で色々助けられている。
- 仕事と放課後の習い事の両立をサポートしてもらえる環境が欲しいです。
- サポートがあっても利用しないと思います。頼っても嫌がる先生もいますから、もう二度と味わいたくないですし家族内で十分です。
- サポートをしてもらう前提での生活環境を過ごしている状態の鹿屋市のゆとりがないのが残念で、心苦しい。余裕をもって親が子を育てて、時に必要とするときだけサポートを求められる環境を整えて欲しい。
- 子どもが急な病気（インフルエンザなどの感染症）にかかった時に、買い出しなどのサポートが気軽に頼める仕組みがあれば大変ありがたいです（母父共に鹿児島県外出身の為）。
- 病気の時の買い出し。
- 緊急時の 24 時間 連絡電話等(コールセンター)など。
- 安心して乗れる交通環境。
- 時間に制約されないサポート。
- 産後のサポート。産後、自宅に戻ったあとに、身の回りのお世話などをしてくれるサポートスタッフが、希望すれば週 3 くらいきてもらえると助かると思う。出産前にさらにその内容の事前周知も必要。助産師の産前産後訪問の強化。また、幼児や児童への性教育の機会を設けてほしい。（助産師さんの親子向け講話やワークショップなど）。
- 使える社会保障制度を、手続きまでちゃんと案内できる「使える人」。
- あるかもしれませんが、体調不良時の買い物代行。
- 私生活における指導。
- 親が体調を崩したときのサポートをしてくれる方がいると助かる。
- 病気などで仕事を休まなければならない時のサポートが欲しい。
- 子どもの人数に応じた制度。

- 学校横の道路が登下校時かなり車の往来が激しくまたスピードも出ているので、押しボタンの信号機があっても横断させるのが怖い。取り締まりを強化して欲しい。
- 健診や集いの場など、情報共有できる機会に助けられました。

問18-3 その他、お子さんの病気の際の対応について、ご意見がございましたらお書きください。

預かり環境・病院施設について（77件）

- 車がないと病院に行くのも大変です。それに風邪が流行してる時は混んでるために、予約していてもかなり待たされてしまうので、余計に悪化しそうで不安に思います。
- 迎えまで時間がかかる場合があるのでなるべく急ぎますが、待っていただけたらありがたいです。
- 小児科がもっと増えたらいいなと思う。
- 小児科の予約がどこもいっぱい受診できなかった。
- 祖父が病気をしてから、うつるといけないので発熱時には預けられなくなった。
- インフルエンザなので、誰にも預けられなく、自分が感染しないように心掛けました。
- 病児保育のサポートを拡充すると良い。今は人数制限があるため、絶対に利用できる確証がない時があるため、困った経験がある。
- 病児保育は、人数制限や当日の手続きで時間と手間がかかりすぎて、不便でした。
- 病気等のときは仕事を休まないといけないので、急遽でも預かってもらえるところがあれば助かります。
- 基本母親が療養中で家にいる為見れます。
- 小児科が少なく、発熱してもどこの病院もみてもらえない時があるため、小児科を増やして欲しい。病児保育をもっと気軽に利用できるようにして欲しい。
- 子どもが複数人いると、それぞれの病気の度に仕事を休まないといけなく、職場にも迷惑がかかる。子どもを第一に考えているが、なかなか休みを取ることも難しいし、仕事をしないと、家計の面でも厳しい。また、小児科も患者が多く、受診したいけど、早々と受付を終了しているところもあり、受診したいのにどうしていいかわからないことがある。
- 病時保育の予約が取れなく、時間も預けられる時間が朝は遅く、夕方 5 時までなので利用できない。
- 自営に近い就業形態なので、子どもが病気等の場合は対応できていると思います。
- 子どもが長期入院になった際、入院に親が 1 人付き添わないといけなく、他の自宅に残った兄弟児がほったらかしになってしまったことがあったので、そんなときにサポートをもらえるヘルパーさん等いたら助かります。
- コロナやインフルエンザの時期は、学級閉鎖が多くて仕事に支障が出ました。高齢・持病持ちの義父母には頼めませんでした。私達親のどちらかが病気の時は、元気な方が一人フル稼働で大変です。
- 発熱があつて電話をしてもかかりつけの小児科で朝一から断られる事があり診てもらえなくて困った。小児科がもっと増えるなど病院が充実してほしい。
- 病院で病児保育の案内をしてほしい。
- コロナの時は一緒に休んだ。

- 子どもが具合が悪くても、うちは共働きなので、終業後に、お迎え行っていたら病院の受付時間に間に合わない。耳鼻科や歯科など、定期的に通院したくても、時間内に間に合わない。通院出来ない現状。休むを取るわけにも、親に頼むわけにもいかず、そのまま放置してしまっている。仕事の日にも、終業後に、受診出来るようなサポートが欲しい。
- 病児保育施設を増やして欲しい。
- 病児保育が予約でいっぱい使えないことがあり、鹿屋市以外に預けた。何か所があると便利。
- 鹿屋市は病児保育が少なすぎます。
- 突発的な時に急に休んだり、お願いするのが難しい。
- 上の子を病院に連れて行く間、下の子をどうするか迷います。幼稚園在園中は預かり保育を利用できますが就学後は利用できないので、一年生でも1人で留守番させることになるので不安です。
- なかなか小児科の予約もとれず、ぐったりした子とともに病院も半日かかるので、それが疲れる。小児の先生を増やしてほしい。
- 長く続く病気の場合には子どもをみてもらえる病児保育のような場所があると良い。
- インフルや学級閉鎖など、長期休みの場合、見てくれる人がいなかったり、自分が休むと特別休暇でもない限り、職場の有休扱い等で休みがなくなる。
- 病院の待ち時間が長すぎる。
- 熱がある子どもを置いて、仕事に行かなければいけない日が何日かあった。学校に行けるようになるまで、ずっとお仕事を休むことは困難。
- 小学生でも見てもらえる病養施設があるんですかね？と。
- 病気の時に観てもらえる施設があればいいなと思います。
- 子どもが小さいうちは病児保育を利用しながら就労していました。祖父母や親戚などみてくれる方がいないとかなり大変です。
- そばに居てあげたいけれど、どうしても仕事を頼めなくて休めず、親にも頼ることができないこともある。後ろ髪をひかれながら、子どもを家に残して、仕事に行くこともあった。病児保育の制度が、連れて行く時間が決まっていて利用しづらいと感じる。
- インフルエンザなどの感染症などの対応場所が増えるといい。
- 病気やケガですぐにかけつける事が現状は難しい。この間、連絡が来たがすぐに行けず学校が終わって学童に行った後にしか迎えに行けなかった。
- 発熱しても、病院の受付人数が多いと早い時間から受付終了となるのが困る。
- 病児保育が気軽に使えたらありがたいです。
- 病院に行く。
- どの仕事も責任あるもので休めない時もある。受け入れ人数に不安がないでどの病児保育が整っていたらありがたい。
- 鹿屋市には病児保育があるが、不足していると思う。
- 病児保育ができる場所を増やしてほしい。
- 病児保育は、助かりました。続けて欲しいです。

- 昼休み中に帰宅し様子を見ている。
- 病院の予約が取りにくい。
- シングルマザーで看病は私のみです。
- 病児保育の場所をもっと増やして欲しい。急な発熱だと、予約が一杯で入れない。
- 仕事柄、早退等の連絡をもらってもすぐに(30分以内)行けないこともあるのでそういうときに1時間くらいみてもらえたらと思う。
- 具合が悪い時に他人に預けるのは可哀想な気がするので、極力親が休む。
- 病児保育が前日までの予約なので使いづらくて使用したことがない。もっと利用しやすいようにして欲しい。
- 鹿屋市には子どもの数に比べて、小児科が少なく、熱があっても待ち時間が車の中で2時間以上、薬をもらうまでに3時間以上掛かりました。疲れて更に具合が悪くなりました。どこの小児科の医師も高齢のようなので、今のうちに小児科医を増やさないと、今から子どもを産んでいく若者が、途方にくれるのではないかと思います。もう1点、どこの小児科も18時までか、それより早く受付を閉めるのに、夜間救急病院は19時からというのはなぜでしょうか。以前、18時に小児科に駆け込んで断られ、19時まで待っていないといけなくてとても困ったと友人から聞きました。
- 体調不良者が多く、長い時間病院で待つ事が苦痛である。みんな同じなのでやむを得ないとは思っている。
- どこの病院でもネット予約を導入して欲しい。初診等の人数制限だったり、予約を取りに行っても受診すら出来ないことや待ち時間が長かったりでネット予約できたらいいのと思う場面がよくある。
- 病児保育の場を増やしてほしい。また利用しやすくして欲しい。
- 子どもの病院で仕事が終わってからは17時30分までの受付で間に合わない。病院に迷惑かけています。休みまでと待つと病気がひどくなったりで結構大変です。仕事場まで迷惑かけてしまうので病院の時間検討して欲しい。
- 子ども達の為には高齢の祖母に対応してもらうのはいつも心苦しいが、職場の人員が少ない為現実的に厳しい。
- 仕事をする場合子どもが急に病気になった時見てもらえる病後児保育が増えて欲しい。
- 熱発の場合発熱外来に行かないといけませんが、流行期は混みすぎて中々受診出来なかったりします。鹿屋市主体のオンライン受診の制度などあれば自宅で受診できて良いのと思います。学級閉鎖等の情報も各学校でなく鹿屋市全体で発信してもらえれば、今はあの地域で流行ってるんだと確認できて助かります。
- 自分の子どもは、自分でみてあげるべきだと思う。
- 発熱時などに病院を受診したいが、多くてすぐにできないのは、どうにか対策ができないのかなと思います。
- 小学生でも病気の際にみてくれる場所があったら助かります。
- 病児保育もコロナインフルエンザのときは、お願いできないので、経過をみて数日過ぎると、お願いできたら、共働き、ひとり親が助かると思います。病児保育の受け入れ先が、増えると思うと思います。

- 急病でも中々仕事の休みが取れなくて実家に見てもらおう事が多いのですが、近くに見てくれる人がいない人も多いと思うので、気兼ねなく安心してみてもらえるサービスがあると子育てと仕事を両立しやすいです。
- 病気でも預けてもらえる施設等あれば助かります。
- すぐに利用できる病時施設が沢山あったら良い。
- 感染の病気に関しては、簡単に預けられないので、自分でみるしかないと思ってます。
- 病児保育はあるが、親が休めない時の対応できる場所や制度がほしい。
- 病児保育対応の病院や、預かり施設をもう少し増やしてほしい。
- 仕事が休めないとき、子どもをおいて出掛けないといけないうちが出てきてしまうので、預かりや見守る人を安く利用できるシステムが欲しい。
- 他人には預けられない。親もフルタイムで働いている。
- 就業中にどうしても抜けられない時間があったりする時に、数時間だけで子どもをみてもらえるサポートがあると助かります。
- 出来れば休んでそばにいてあげたいが、仕事の都合で休めない日もあり、子どもにも、世話を依頼する両親にも申し訳ない。
- 病気の子以外の兄弟と一緒に連れて受診する事が難しいので、病院の間だけでも他の兄弟を見ていてもらえる仕組みがあると嬉しい。
- 病児保育の充実が望ましい。
- 寿方面にも病児保育があったら、ありがたい。
- 病児保育も申し込んだが、キャンセル待ちで、利用できなかった。仕事も休めず、留守番させた。
- 病児保育が気軽に利用できればよい。対象施設や利用の仕方がわからない。また、事前登録が必要な場合、利用しづらい。

職場・育児環境の認識のアップデートについて（60件）

- 仕事を休めないで、上の子と一緒に休ませた。
- 無給で良いので、病気療養休暇を整備して欲しい。
- 子の看護休暇を取りやすい職場環境。
- 子どものインフル、コロナの休みは半分でも良いから介護休暇にして欲しい。
- 職場に迷惑がかかるので、休みづらい。感染症の場合は祖父母にも頼みづらい（感染させてはいけないので）。
- 子どもが病気の際は会社側が強制的に親を休ませるべき。
- 病気になると仕事を休むしか無い。入院になると付き添いになるのが不安。
- 休む。しかし、有休がなくなるし、休みづらい環境。
- 出来れば母親が仕事を休んで看たいが、有休が足りず、父親や祖父母に頼みました。病休が有給と別に数日あるとありがたいと思います。

- 会社が休める状態では無い。近くでみてあげたくても現実は厳しい。
- さすがに、感染症は色々な施設の利用と言うよりは安心して自宅にて看病ができる様に働く親が気軽に仕事を休める様な職場の対応や市町村の対応を考えて行って欲しい。子育てしやすいサポートを。
- 小学生も幼児同様、病気の時は休暇の制度が欲しい。
- どんな職場でも、必要な時に有給をとれるようになれば、働きやすいと思う。
- 病児保育等の充実を考えてほしい。気兼ねなく休めない職場は鹿屋市は多いと強く感じる。
- 病気や怪我をみってくれる場所を新しくつくるのではなく、休みがとれやすい就業環境に変わってほしい。医療者は自分の家族は後回しです。休みとっていいんだよと、言われても、必ず付けが回る。連続勤務や休み変更で体調を崩したり、他兄妹の行事参加をキャンセルしなければならない。休み希望を出すのも休むのも忍びない、鹿屋市の医療現場です。
- 子どもを理由に仕事を休む際の手当て等。
- 仕事場に連絡するのが申し訳ない。代わりを探さないといけないのが苦痛。
- 仕事の忙しい時に対応が難しい時がある。
- 父親が自分が休んで看護するという考えがない。育児は両親ですべきという概念を小さなうちから教えないといけない。
- 1人親なので少しでも寂しい思いをさせたくないという思いがある。子どもが病気の際には他人には任せられない。幸いパート先が融通をきかせてもらえるし、有給も取りやすい環境なので実行できている。
- 病気で休みたいが仕事のシフト上休めなかったり、有給消化になり休みが足りなくなる。1人で留守番できない事の病気の際に特別休暇が取れるような制度があったら助かる。また、病児保育的な病児学童のような場所ができたらと思う。
- 安心して、看護休暇が取れる職場。
- 現在専業主婦の為にインフルエンザ等の出席停止のときには対応することができましたが、働きたい気持ちがありますが、もし子どもが出席停止の感染病になった時のことを考えとかなかなか仕事につけません。(祖父母は県外なので頼れません)。
- なかなか仕事を休めるものではない。
- コロナとインフルエンザにそれぞれかかったので、休むしかなかった。高齢の祖父母にも預けられず、母親が休むしかなかった。父親は、介護士のため急な休みは取れないといわれ、急な休みは母親が取ることになり、有給の残りがギリギリになる。父親と母親が半々で休めると、私は楽になる。
- なかなか職場に休みを言いづらい。どうしても祖父母だよりになってしまう。
- 何日看たいとかではなく、そのときの状況によって子どもの体調が落ち着くまで、親が休んでみられる状況に、なってほしいが、なかなか職場の忙しさや、途中で帰る際の他の人への引き継ぎなど上手くできなかったり、人が不足したらしていたり、困難なことがある。子どもを最優先に考えたいが、職場の状況も分かるため、休み申し出にくいこともある。
- 仕事を休むしかないと思ってる。そんな社会に。

- 現在は父親が家にいるので家で看るのは任せられますが、病院は全て母親が毎回連れて行っている所以父親は受診の仕方も多分知らない。また、どちらかが休むとなればやはりフルタイムの父親より、パート勤務の方が周りに電話をかけて休ませてもらうしかない気がする。
- 大人も子どもも、体調を崩す前に休養する、メンテナンスするための時間のゆとりを持てる生活ができるといいなあと思っていますが、母親の有給休暇は全て学校行事や看病などに費やされて余裕がないです。いろんな種類のお休みが理解されるようになるといいなと思います。
- 子どもが病気の時に仕事を休みづらい現実がある。休みやすい職場を探すのがとても難しい。
- 子どもの体調不良で休むと給料が減るし、休みにくい仕事で働きにくく、子育てが難しいです。
- 子どもに持病があるため就職先に急な休みを取る事があると伝え就職するが、最初だけは理解があるが段々と理解が得られない状況になってしまい、退職につながりました。働きやすく子育てに理解のある環境が整えられている職場があれば良いと思います。
- 私自身が家で仕事をしているので、まだ他の方よりは休みを取って面倒を見れていると思います。ただ、自分が子どもの頃は両親が働いており、学校を欠席した時や放課後は一人が多く、食事に困ったりしていました。親の職場の方にも欠員することでの迷惑が掛かりますが、お互い様という気持ちをもっと増えたら休みを取りやすくなったりするんだと思います。
- 感染症の場合親族に頼んで移してしまったら申し訳ないという気持ちから、余程のことがない限り親が対応するしかないと思うが、収入やその後の仕事のことを思うと仕事自体をやめた方がいいのかなど、色々考えてしまう。
- 病気できつそうなのに、仕事を休むのが申し訳なかったり、忙しい朝にバタバタ段取りしないといけなかったりするのですんなり休める、休んで子ども優先していいんだっていう環境になればいいな一つと思う。
- 仕事を休む申し訳ない気持ち。ゆっくり看護してあげたい。
- 仕事を休むのは難しいが子どもの体調が悪い時は病院受診や看病をするので仕方がない。母親が休むことが多いので負担が寄りやすい。
- どうしてもシングルだと自分しかいないので有給もすぐ無くなって、結局欠勤になり、給料が全くない。生活がきつい。
- 出来れば仕事を休んで看病したいが仕事が休めない為、子どもだけの留守番になってしまう。病児保育も行きたがらないので利用できない。
- 病後児を利用するにも病院の受診が必要になるし、仕事に行きたくても色々手間がかかる。諦めて休む事も多かったが、休むと職場に申し訳ない気持ちでいっぱい休んで看病すると元気な子どもにイライラしたこともあった。(フルタイムの時) パートなら休んだ分だけお給料ないですし、そこをカバーしてくれるものがあればありがたいところですね。
- 子どもの病気などの理由で、父親も休暇がとりやすいような社会になってほしい。母親ばかりにしわ寄せが来て、そのせいでフルタイムに踏み切れない。
- 夫婦共働きなので子どもが体調不良の時は仕事を休まないといけませんが、インフルエンザやコロナで数日休まないといけなくなり、年休がすぐ無くなってしまった。
- コロナなどの感染症の場合は、祖父母にお願いできないから、父母がなんとかして休める環境がほしい。今の職場は理解があるが、心苦しさが辛い。

- 職場の休みが充実している状態が続くと良い。
- 前は夫が休んだが、今は単身赴任中なので、もし子が病気になったら、私が仕事を休まなくてはならないのでしんどい。
- 子どもが病気になると両親共働きだが母親が休まざる負えない。
- 子どもが保育園の時に何度か病児保育を利用したことがあるが、病気の子を預けてまで仕事に行かなければならない状況は子どもに対してとても心苦しかった。そのような状況の時に気軽に休める職場環境も大事だが、時給制だと休んだ分のお給料が入らなくなると言う経済的な不安もある。
- 小学校・中学校の間は、子どもが病気の時には休める制度を作って欲しい(年次休暇以外で、子の看護休暇を長くするなど)。
- 仕事は休みづらい。対応しやすいよう、職員配置に余裕があるとありがたい。
- 会社の状況により休めるかどうか変わる。休みを取りやすい社会になれば対応もし易くなる。
- 学級閉鎖になった場合に自分の子は元気なのに仕事を急遽休まないといけなくなった場合に会社に対して心苦しい。
- 仕事を休むのが心苦しい。
- 有給休暇扱いなので、無くなると欠勤となり、収入も減るので、何か、救済制度があれば助かる。
- 急な休みでも、同僚に負担をかけないように、普段より就業人数にゆとりを持って経営してもらいたい。
- 休むと休み明けの仕事が増えるのでできる限り仕事を休みたくない。
- 感染症に関しては特別休暇で休めるようになってほしい。
- 仕事を休みやすくしてほしいです。
- 小、中、高で子どもが病気になったら看護できる休暇を下さい。有休扱いの休暇です。制度を見直してほしい。
- 職場内での理解の低さが強く、急な休みを取りづらいし休みをとっても後が行きずらくなる。

金銭的不安について（9件）

- 有給が無くなり、給料が減り、生活が苦しくなった。
- 休みんでもお金に困りたくない。
- 感染症にかかった際に(休む日にちが長い場合)に援助があると助かる。
- 病児保育も利用したいが、1日利用して2,000円払ってまでパートを休めない。
- 病児保育を利用しているが、料金が安い。兄弟で利用すれば1日働いている賃金とプラスマイナスゼロ。預けて仕事に行っている意味がない。
- 子どもの病気で仕事を休む場合、コロナの時のように助成金をだしてほしい。
- 現在、ひとり親です。インフルエンザ、コロナなどに感染してしまうと長期で休むことになる、その月の給与が少なく、生活していけません。その際の何らかの対応等が希望です。
- 子どもの病気で休んだ時、給料が減るのは辛い 特別休暇は未就学児までしか貰えない。

- 直ぐにお金の心配が来る。

学校の対応について（9 件）

- 学校からすぐ連絡が欲しい。
- 補習をしてほしい。
- 病気で休んだときにも宿題が出るのは、子どもの気持ち的に負担になると思う。
- 休んでいた分の勉強を教えてほしい。
- 体調不良を訴えてもウソだと決めつけないでほしい。
- 学級閉鎖が決まった際、その一斉メールが就業開始後（9～10 時とか）スマホを見れない時間に来ている。仕事の昼休みに気付き「給食後下校する」と言われても、閉鎖の場合、学童も利用できないし、急には対応が苦しい。自分の子が熱発当事者ならともかく、元気な場合、もう数時間の猶予が欲しいと思う。
- インフルエンザ等の感染症が学校のクラスで出た場合は学級閉鎖になる前に教えて欲しい。
- 病児保育の利用場所が少ない。熱があると言われて小学校に迎えに行ったが、熱もなく元気だった。一度だけ測るのではなく、様子をみてから複数回測ってから連絡が欲しい。すぐに迎えに行けないことを伝えたら、保健室の先生の、声色が変わって不機嫌になった。
- 毎日学校、学童に連絡しないといけない。1 日で治る訳ではないので朝の学校に行く限られた時間内に風邪の連絡をしなくてはいけない。プリントや連絡の紙が毎日必ずあるので大変。

窓口負担費用について（4 件）

- 窓口で支払うのを本当にやめてほしいです。私たちはもちろんですが、他県から引っ越してきた方も不便だと感じているそうです。病院にいてもいくら掛かるのかが分からず、金銭的に余裕のない人は病院で受診していないと話していました。
- 病院に払うお金を無くしてもらいたい。後日では、その日に行きたいときにお金が工面できないこともある。そのときには、自宅で見るとしか無い。他県と同じように手出しを無くしてもらいたい。無料と実感できるわけがない負担だらけ。
- 病院受診後、振り込みではなく、窓口での支払いがなければ会計もスムーズかと思います。県外の病院受診も申請無しでできると助かります。メガネに関して、視力低下ではなく、その他での治療メガネに関しては高額のため補助があると助かります。
- 病院受診時の窓口負担を無料にしてほしいです。

情報発信について（1 件）

- 仕事は簡単に休めないとなるとどこへ相談していいかもわからない。利用する、しない、に関わらず。使えるところがあると知っていればまた対応が変わるから、そういう機関があるならもっとわかりやすいように宣伝してほしい。

その他（5件）

- 喘息の症状のためひどくなる時は激しい運動をやめてます。
- 小学生になったら、ほぼ休む事はなくなった。それまでが大変。
- 仕事の合間に見に帰ったりキッズ携帯でママに連絡。
- 周り、特に祖父母に感謝している。
- 本当に強い子で、流行病にもならずに休んでいません。

問21 最後に、教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

経済的支援について（71件）

- インフルエンザの予防接種ですが、2回接種が必要な子どもに対しては2回分助成して頂けると有り難いです。助成分を除いても、小学生2人と親2人で17,000円かかります。インフルエンザが流行しており対策をとりたいですが、気軽に打てる金額ではありません。ご検討頂けると幸いです。 よろしくお願い致します。
- インフルエンザ予防接種の補助金を増やしてほしい。
- 様々な感染症の予防接種があるが、負担が多い。学校での感染拡大を防止するために接種する側面もあるため、補助額の拡充を希望する。
- 医療費の助成がありがたい。給食費が無料になると、親も学校も助かると思う。
- 学習時間が少なく、塾を考えてるが費用を考えるとなかなか習わせられなく本人のやる気もないので、踏み込めない。
- 子育てがしんどいと思った事はない。楽しく出来ている。支援について、ひとり親なので病院に行くのに、お金がないと行けない事があるから早く改善して欲しい。
- 学童へ預けようと検討したこともあるが、評判が悪かったり心配の方が大きく諦めた。小学生、中学生よりも高校生、大学生の方がお金がかかるので、もうすこし支援を拡大してもらえるとありがたい。
- 家の末っ子は双子なので、出費も倍かかるので補助金などの支援を充実させて下さい。
- 子育ては、24時間365日、継続して毎日毎日続いている事なので、仕事をしながらや、介護をしながらなど、自分のやることにプラスして、24時間365日、ダブルで負担がかかっている。保育施設や病院受診関係がもっと充実して欲しいし、現実的に利用しやすい工夫をしてほしい。鹿屋市は、病児保育もあって助かっているけど、実際は、まつだこどもクリニックから仕事場への通勤時間や、病児保育の預かり前後に診察となると、結局時間がかかるので、通常通りには仕事が行えずに、休みを取ったり、シフトを変えたり、遅刻しないといけない。お母さんの負担が大きすぎる。働きにくい。ひとり親手当ても、書類上はひとり親だけど、祖父母と一緒に住んでいたり、ほぼ通っている同居状態だったり、パートナーがいたり、本当のひとり親とは言えない人が回りにもたくさんいて、優遇ばかりの現状に不満。共働き世帯の方が、負担も大きく出費も多いのに補助はないから生活は苦しい。補助事態はいい事だけど、現金支給ではなくてちゃんと目的に沿って使えるように子ども服限定の引き換え券とかスーパーの券とか本来の目的に沿って使えるように現物支給に近い形にしてほしい。実際に、現金支給を貯金していたり、散財していたり、私腹を肥やしている人を見ると腹が立つ。
- 子どもが四人いますが、やはり子どもにかかる出費は大きいです。予防接種もみんな受けさせてあげたいが、出費がかさむので一番下の子だけとかだし、人数が多い家庭にはそれなりの援助をしていただきたいと思います。
- 他市町村で始まり出した、世帯年収に関わらない、多子世帯の保育料免除や高校授業料無料、給食費無料などの経済支援をお願いします。

- 今、小2の子どもが3番目の子どもになるが、上の子どもと歳が離れている事により、子ども手当が3番目としてもらうことができない。何故。
- 学費、習い事など出費が出て余裕がないので何かしらの対応をしてほしい。
- 子どもだけの留守番はやむを得ない状況にあるが、学童費も高いため 仕事を制限する必要がある。親子の時間も必要な為、学童利用も減らしたい。均等割で非課税世帯に属さない為、非課税世帯と収入もほとんど変わらないのに貰えるお金が少ない。生活が苦しい。
- お金がかかりすぎる。
- 子育てに本当に困っている人に対しての、行政の体制が不十分である。子ども食堂など、日頃から子育てに困らない人の利用が多く、本当に困っている家庭が利用しにくい環境である。本当に困っている家庭を救える環境を行政に求めます。
- 鹿屋市はインフルエンザの予防接種の助成も金額も低く、他の市と比べて子育てに対する支援が充実してとは思えない。
- 子どもを育てていくのにお金がかかる。1人ならどうにかなったが、兄弟増える度に出費の事ばかり考えてしまう。習い事もさせてあげたいが、お金もだが、送迎する時間がない。子ども手当では全然足りないです。
- シングルマザーの支援を所得制限なしに平等にして欲しい。所得により上がったり下がったりするのは違うと思うので。
- 物価高もあり、かなり経済的負担が増えたので医療費や給食費など他の都道府県のように負担を減らして欲しい。共働きでなかなか家族揃って過ごせない事や、学校 PTA などの行事で休みを使うと尚更家族揃う事が出来ない。
- 物価高騰など負担が増えているためフルタイムでの共働きは免れない。昨今は不審者も多いため子どもだけでの放課後も心配が尽きない。
- 所得とか関係なしに平等に子ども達の支援をしてほしい。
- 予防接種費用、近隣の市町村に比べて補助が少ない。
- 子育ては、小さい時よりも大学進学など高校を卒業してからが莫大なお金がかかる。その支援があれば、子ども達ももっとやりたいことに挑戦できると思う。好きなことをやらせたくても今はなかなか難しい。
- 鹿屋市は、自衛隊基地や米軍が来たりして、税金回りがいいのか、医療費、給食費等、対応がとてもありがたい。しかしながら、給食費未納の人はそのまま卒業して払わず終い。そんな話をよく聞くので、同じ子育て支援なら払う払わないではなくて、児童手当から引くとか、行政も考えてほしい。あと、お偉いさんだけで決めた県プラにある支援センター。子どもの年齢制限してるから入りづらい。西原方面には、歯医者、耳鼻科がない。また、小児科が少ない為、予防接種が困難。ワクチンがないと言われ、結果自費、あんまりです。鹿屋市内でも格差がないようにしてもらいたいです。
- インフルエンザの予防接種が、13歳未満の子どもが多いほど負担が大きい。近隣の市町村は2回ともに助成があるようなので、鹿屋市でも1回目だけでなく、2回ともに助成をしてもらえたらすごくありがたい。
- こちらの都合ではあるが、母子世帯には厳しい環境が多い。子どもに不憫な思いをさせているのが心苦しい。習い事の月謝の減額、または免除などのサポートがあってほしい。

- 給食費の無償化。
- 片親なのですが、働かないと生活できないけど、働いたら働いたで、子どもとの時間もない上に、給料が高くなると補助対象から外される。仕事では補助もraitたいから働かないとかなえないし。子どもの補助は給料制限なしになったが、片親の補助も給料制限無しにならないかなと強く思う。
- 制服なので服選びに困らないが、制服も高価な為、制服等の購入支援(補助)希望。
- インフルエンザワクチン無償化、体力作りの充実、課外授業の充実。
- 給食費無償化になればうれしいです。
- 入学祝いなどの給付金が欲しかった。制服や文房具を揃えやすい。
- 3人子どもがいるのに、年の差で満足な補助が受けられなかったりと矛盾的なところがある。市立が女子校だけなのはおかしいと思う。
- 子育て支援金が少なすぎる。支給頻度を短くしてほしい。制服代を買うたびに出してほしい。
- 給食費を無償にする流れがあるが、残飯が多ければ、意味がないと思います。
- 高校の授業料無料化希望。外で遊べる環境を増やして欲しい。
- 高校生までの医療費無償化は助かります。教育にお金がかからないようにしてほしい。給食費や学級費、修学旅行費など。
- 子どもに関する支援、金銭面で無料になると助かる。
- 他の自治体は子どものインフル予防接種について、2回目も補助があるが、鹿屋はない。子どもが多いところは、かなりの高額になる。もう少し考えて欲しい。
- インフルエンザの負担額が大きく、打たない方もいるので、子どもは2回とも援助があると助かります。
- 今年度から小学校の給食費を補助していただき、助かっています。ありがとうございます。継続していただけるよう、お願いします。また、我が子は放課後等デイサービスにも通っていますが、鹿屋市が補助をしてくださっているので、しっかりと事業所の支援を受けることができています。こちらに関しても感謝しています。
- 預けるのも病院もお金がかかる。
- 毎日、仕事、家事、育児に追われていて子どもの宿題さえゆっくり見てあげる事が出来ない。他の市町村の学童に比べて、今利用している学童の金額が高い。補助金を出すなどしてもっと利用しやすいようにして欲しい。
- 塾費用が高い。
- 給食費の半額補助は有り難く、いつかは全額補助にして頂きたいです。また医療費の前払いを早く支払いなしにして頂きたい。通勤族で色んな県を回ってきましたが、鹿屋は医療費については対応が遅れてます。支払いのことを気にせず、病院受診することが病気の発見や様々な悩みなどにも対応できるのではないかと思います。
- 物価高で厳しいので高山みたいに支援して欲しいです。国はひとり親家庭ばかりに支援しすぎて離婚したほうがいいのではないかと思います。
- 多子家庭への支援はあるが、一人っ子家庭への支援はない。同じように子どもを育ててるので、もう少し、支援して欲しい。

- 給付金をお願いします。
- 子どものインフルエンザ補助額が低い為、子どもが沢山いると大変になる。プレミアム商品券が他の地域のほうが配当額が良く残念である。
- 高校無償化、大学無償化、給食費などの無償化、他の県がしている支援をして欲しい。
- 検定代（英検など）の補助を考えて欲しいです。
- 物価高により生活が苦しくなる。
- もう少し、子育て世代に支援があればいいと思う。
- 助成金をもっと検討してほしい（非課税世帯以外も）。
- 鹿屋市は設備が少なく充実していない。子育て世代に支援を。
- 予防接種を無料化。
- 支援、給付金等がある時はなるべく早く支給して欲しいです。
- 金銭面が心配。シングルマザーでも非課税世代のように、学校の制服や物品の補助をして欲しい。中途半端に所得があるから、助成も少ない。それなら所得を少なくして補助を多くもらう方が得なのでは。19 時ギリギリまで働いた所得と、パートで所得を少なく、助成を多くもらった方がいいのでは。 お金が心配だからと、働き過ぎて迎えがいつも 19 時。割に合わない。
- 医療費高校卒業まで無料を望みます。
- 他の都市はこのコロナ禍補助金でたりしているのに、鹿屋はあまり援助もないし、低所得の人ばかり補助されていて二人で働いても苦しい家庭を援助してくれないと思う。もう少し、普通の家庭も助けて欲しい。
- こども 3 人育てるのに 値上がりや税金で生活が困窮している。まだこどもほしいけどお金がなく無理。
- 今年からの給食費の補助金ありがたかったです。
- 多子世帯です。高校進学、大学について不安あります。充実した支援が欲しいです。
- ほかの地域に比べて鹿屋は子どもへの支援が少ない。
- お金がかかる。
- 少子化対策に貢献している、子ども 3 人以上の家庭にはもう少し恩恵があっても良いのではと思います。
- 保育料の完全無償化。
- 上の子から下の子まで間隔が空いているため毎年修学旅行となっている。それに入学卒業となりかなり大変。
- 鍵盤ハーモニカや絵の具など、購入費は高いのにすぐに不要になってしまいます。そして何年生まで使用するかもわからず、何年も処分できずにいて家の収納を圧迫します。ある程度汚れるためリサイクルショップにも出せないのが、学童用品の不用品回収。欲しい人が無料～安価で購入できるような仕組みを、数ヶ月単位で市全体で取り組んで下されると助かります。
- バスの定期代金の補助をしてほしい。

窓口負担費用について（44 件）

- 窓口無料を切に願う。
- 乳幼児医療費の窓口支払いを無くす対策をしてほしい。
- 税金をもっと子どもたちのために使うべきだと思う。医療費も窓口負担にしなければ適切な医療を受けられたりするのにとと思う。
- 1 番は教育費だと思う。南大隅町などは予防接種代は安いし、子どもを産んだらお祝い金もらえるらしい。医療費の窓口負担も無くなればいいと思う。給食費も半額負担してもらえてありがたいが、全額負担ならなおありがたい。今どきの子どもは習い事にもお金がかかるので、給食費でもなくなればそちらに回したいと思う。
- 小児科の現金払いをすることで、給料前などに子どもたちが風邪を引いたりするとお金がなく、払えないため、小児科に連れて行けない。保育園料も 0 歳から無償化にして欲しい。子どもがたくさんいるので何をするにも買うにもすごくお金がかかり子育てしにくい。都城など 0 歳から無償化なので、子どもがいる身としてそっちの方が子育てしやすいと思うので引越したいなと思ってしまいます。そこのところを改善してもらえると子育て世帯でも住みやすくなると思います。
- 医療費を窓口で払わないで済むようにしてほしい。後で口座に振り込まれるのは、お互いに手間である。すでにいくつもの市町村で実施しているのに、遅れている。
- 公園を増やして欲しい。遊ぶ場所が少ない。病院窓口での支払い方法を一時現金払いを無償化にして欲しい。
- 病院受診料金の支払を窓口で 0 円にして頂きたいです。
- 予防接種であとから無料になったものもたくさんあるが上の子は年齢で有料なものもあるので 18 歳までに受けるものについては無料にしてもらえたら受けやすい。
- 子どもの医療費は後で戻ってはくるが、窓口でお金を支払うことには変わりがないため、手元にお金がない場合に受診をためらってしまう。初診料のみ払えば診てもらえる自治体もあるので、そういったところの支援策(医療費助成だけでなく、様々な環境や支援)を参考にしてもらいたい。
- 病院費の窓口負担をなくしてほしい。学校でかかる毎月の負担をなくしてほしい。
- 給食費半額補助はとてもありがたいです。今後も継続してもらえたらとても助かります。医療費の窓口負担が無くなればいいのになと思います。
- 転勤で、福岡、岡山、島根、熊本と住んできたが、保育料も一番高かった。病院での窓口負担も他県ではなかったが、先に建て替えて払わないといけないので還付にもタイムラグがありすぎる。無駄な受診を避けるためにも熊本では 1 医療機関につき一月 500 円の負担があったがあんまり負担には感じなかった。方法はいろいろあると思う。日曜日に使える支援センターがない。小学生でも入れるようにしてくれないと兄弟がいる時は結局使えない。家庭によってはワンオペ家庭もある事、土日が必ず休みの家庭ばかりではない事を理解してほしい。教育に関してももう少し力を入れてほしい。将来の鹿屋を担っていく子どもたちを育てる環境ではないと感じる。子どもたちが戻ってきたいと思う鹿屋ではない。子どもの将来を考えると他県への引越しも考えてしまう。受験や教育を考えると。

- 子どもが病気の時に病院に連れて行くのは母親である私が多いので、受診料を支払っている。医療費はその後返ってくるが、世帯主への返金のため、私には返ってこない。夫の経済観念が低く、持っているお金を全部使ってしまうので、小遣いを渡しているようなもの。窓口の負担がなくなるとありがたい。
- 最も助かっているのは、子どもの医療費が無償であることです。体調不良時に我慢することなく受診することができてありがたいです。希望としては、休日に親子で一緒に遊べる体育館のような施設（雨天時にも体を動かせる）があればいいと思います。それから、ショッピングモールもないので、休日にゆっくり買い物に行くとなると、鹿屋を出て遊んでいます。
- 子ども医療費窓口負担ゼロを実現してほしい。
- 医療費の窓口負担を廃止。学童と保育園の開園時間を同じにして欲しい。給食費の無償化。保育料2歳以下無償化。入学時祝金(小、中、高)として1人5万くらい欲しい。クーポン可。
- 病院窓口の支払いを無くしてほしい。
- 子どもの医療費の支払いで後日返金されるが、窓口での現金負担を無くしてほしい。近年紫外線が強いため小中高生が利用できる屋内プールをつくってほしい。健プラはお年寄りの利用が多くあまりいい顔されない。
- 子ども医療費助成の窓口負担→後日入金の制度を、直接、窓口負担なしの制度に変えて欲しい。
- 病院代がかかりすぎて給料日前だと行くのを躊躇することがあった。病院での支払いを無くして欲しい。
- 病院の先払いが無くなれば良いと思います。
- 付度なしで言えば、明石市のように市長が頑張って子育て支援に予算を持ってきて、子育て世代が移住してくるような街にしてほしい。現行の子どもの医療費の建替え制度は不便なので、窓口で支払い0円のシステムにしてほしい。
- 医療費を先に払うのを他の所みたいにして欲しい。
- 小さい子には広い公園等あるが、ある程度成長したときに遊ぶ場所がない。雨の日に屋内で遊ぶ場所がない。電車もなく交通が不便。補助金があっても所得制限があるとももらえない時がある。低所得ではないが、住宅ローン等もあり余裕があるわけではないのに、補助金がもらえないとなると辛い。先の不安しかない。医療費の窓口負担をやめてほしい。自宅から小学校まで距離があるため送迎が必要で、そのため親がフルタイムで働くことができない。スクールバス等検討してほしい。
- 鹿屋市独自の給付金を頂きたいです。子ども一人一人にお金がすごくかかります。病院受診時も窓口負担を無くして欲しいです。
- ①そろそろ病院窓口での支払いは無くしてほしい。なぜ、できないのか謎。②将来的でも学童保育もできれば支援があればとても助かる。近くの学童保育の月額が高く、お弁当も持参。小学生なのに、なぜか昼寝の時間もある。こういう場所しかないから、働く上で仕方なく預けるしかないが、子どもの為の学童なのか疑問。③習い事をさせたいが、どんな習い事が鹿屋にあるのか、周りのママ友伝いの口コミなどじゃないとわからない。習い事一覧が市のホームページにあれば選択肢が広がり助かる親は多いと思う思う。
- 子ども医療費の窓口で支払わなくてもいいように改善をお願いします。

- こどもの医療費の窓口負担を無くしていただけたらとてもありがたい。金銭的なことが理由で受診を控えた経験は何度かある。
- 医療費を一度窓口で支払うのが負担となる。
- 雨の日でも子どもを無料で遊ばせられる支援センターがもう少し欲しい。医療費の窓口負担を無くしてほしい。
- 節目での支援強化、制服代補助、医療費窓口負担なし、視力低下ではないメガネ治療費の補助等。
- 子どもの医療費控除があるのはありがたいが、一度は自費で手出しをしないといけないため急に医療機関へ行きたい時にお金があるかの確認をしてからしかいけない。手持ちがなくてもすぐ医療機関へ行ける仕組みを整えて欲しい。そしたら、医療機関へ行きたくてもいけない子達も行けるようになると思うし、流行り物も拡大せず食い止められると思う。県によって違いがあるのが不思議。以前住んでいた山口県は保険証だけ持って医療機関にすぐいけていた。宜しくお願い致します。
- 病院での窓口での負担を無くして欲しい。後から返ってくるが手持ちが無くすぐに連れて行けない事がある。
- 他の都道府県みたいに子どもの医療費手差し無しにして欲しい。
- 他の市町村のように、もう少し、子どもに対しての経済補助を充実させてほしいです。医療費の窓口負担無しや、予防接種無料など。
- 病院の費用。無料なのに、一度病院で払うのはなぜ。ギリギリで生活していると、病院代がだせなくて、歯医者や、病院に行けないことがある。払った家庭に病院代を戻す費用も無駄ではないか、最初から病院で払ったりしなければいいのと思う。神奈川県から帰ってきてびっくりした。他県のように、手出しゼロで。
- 病院を受診した際の、会計をなくして欲しい。
- 病院の窓口負担を早く無くしてほしい。
- 予防接種の自己負担額が高い。病院の窓口支払いがあるのが鹿児島だけと聞いたので、それをなくして欲しい。友だちとの関係がうまくいかないことが多く、学校や学童に行きたくないと言うことが多いので、学校や学童でしっかり対応してもらいたい。
- ○転勤族でこれまで東京、神奈川、岡山、茨城、熊本に住んできたが、子どもの医療費を窓口で支払わなければいけないのは、鹿児島が初めてだったのでびっくりした。後から還付されるのはわかっているが、一度支払わなければいけないという手間があり、色々と面倒だと思う。子育てしたいと思う他県からの移住者には、結構なカルチャーショックで、鹿児島県を選ぶという選択肢においてはマイナスポイントだと思う。学童以外の小学生が行けるような児童館があったらいいなと思う。できれば、小学校の近くに。工作スペースや図書スペースなど、体を動かす以外の文化的な施設があれば、スポーツが得意ではない子ども達の居場所が出来ると思う。
- 小児科受診時の窓口支払いを無くして、待ち時間を短縮してもらいたい。
- 子どもの医療費は全額補助なのに一度支払わないといけないのは負担であり、病院受診を控える事もある為支払いをしなくていいようにしてほしい。
- 鹿屋市は、給食費が半額助成してもらえるのでとてもありがたいです。医療費助成は、窓口払いの手間がなくなると、よりありがたいです。大隅半島は教育面に関して、質や環境面等

鹿児島市より色々な意味で劣っていると感じます。私立中学校がない中、楠隼中学校、高校の共学化の早期実現を切望します。中学校から、女子にも一定レベル以上の教育を受ける機会をぜひお願いします。入学に際して制服等の準備金が必要ですが、節目で準備金やお祝い金のようなサポートがあると助かります。

公園・室内遊戯施設、環境整備について（43件）

- 公園の遊具が少ない。高齢者のグラウンドゴルフで公園が占領されている。
- 子どもを連れていく場所がない。公園も少ない。遊具も古いものが多い。もう少し新しいものを取り入れて子どもが楽しめるものを充実させて欲しい。買い物、エンターテインメントなどが少ない。大きなショッピングセンターがあったら雨の日などお家以外でも過ごせるのでいいがなかなかできない。病院も少ない、なかなかいい病院がない。
- 健プラにある支援センターも低学年だけと限られるのでそれ以上の子どもは雨の日遊ぶ場所がない。
- 子どもが無料で遊べる施設を作ってほしい。雨の日などに活用できる施設がほしい。
- 子連れで気分転換ができるようなショッピングモール等がない。買い物はネットでもできるが、お店で見て買い物したいときもあり、そんな時はまともなお店がないといつもがっかりしています。子どもたちも年頃になると自分でショッピングなどしたいはず。若い子たちが楽しめる施設もお店もない。若い人たちは出て行く一方なのではないか。
- 雨など悪天候時に遊べる場所が無い。
- 保育園に関して就労したいが就労先は保育園を見つけてから。保育園は就労先をみつけてから。というジレンマがあるのをどうにかしてほしい。また、放課後の子どもの遊び場が全然なく、またあっても公共の場で制限がある。学校の校庭を開放する時間を設けてほしい。放課後じゃなくとも、早朝開放も希望します。
- 子どもが雨の日でも晴れの日でも遊べる室内の施設があって欲しい。今、鹿屋市にある施設は予約制だし、利用できる年齢も決まっているので、子どもが体を使って遊べる大きな施設があればいいと思います。
- 子どもが無料でいろいろな体験ができる場所を増やしてほしい。
- 子どもと遊ぶ場等少なすぎる。
- 公園でボール遊びが禁止されているところが多く残念です。子どもたちがのびのび遊べるような所がもっとあるといいなと思います。
- 休みの日はほとんど鹿屋市から出てしまうほど、いろんな面で充実してないので、鹿屋公園やリナシティなど広さがあるのに不十分なところがあるので、もっと人が惹かれるものを考えてほしいです。
- もう少し子育てサポートの援助を安くして欲しい。公園や屋内広場を増やして欲しい。パチンコ屋が無駄に多いから減らして欲しい。
- 図書館が充実していない。あと公園の数はたくさんあるようですが、はっきり言って子どもたちが楽しく遊べる公園は数える程度しかない。以前住んでいた沖縄は公園も多く遊具がかなり充実していた。子ども都市と言われるところだったのでみんなで育てようという雰囲気もあり地元から離れていても子育てしやすかった。グラウンドゴルフがどこでもできて年寄り

には優しいがボール遊びも制限があったり歩いて行ける範囲に遊ぶ場所も少ない子どもには厳しい街だなと思います。

- 他市からの転入です。市内に公園はたくさんありますが、遊具がないか、あっても大きさや作りが幼児向けのものばかりで物足りなく感じています。多様な運動をさせるためにも、小学生が使えるようなアスレチック等施設の設置を進めてほしいです。
- たくさんの遊具がある公園がもっとほしい。雨の日に子どもから大人まで年齢を問わず遊べる場所がもっとほしい。
- 自由に自転車やストライダー等の乗り物を練習する専用の公園があったら便利。図書館がもっと大きく綺麗になったら嬉しいです。都城の図書館の様な施設が欲しいです。
- 安心して預けられる、しかも子どもたちにとって有益な場所が欲しい。公園に行っても面倒見もらえるだけで、昔の歌や遊びを教えてもらうだけで良いので、それがほしいです。
- 未就学児の利用する保育園や幼稚園の支援センター的なものではなく、気軽に連れて行けるような、幼い子を屋内で遊ばせられる場所が少ない。ひとり親世帯の支援をもっと充実させてほしい。小児科の予約制度が導入され、受診したいタイミングで、受診ができないことが何度もあった。受付時間内であっても、終了されていたり。
- 鹿屋に住んで子どもを3人産んで子ども達の遊び場の少なさ、特にお休みの日は公園しか連れて行くところがない、ご飯を食べるところも小さい子どもを連れて気軽にいけるところもない。子ども3人産んでもオムツ券約1万分しかもらえない市のサポートは変わらず、もっと育てやすい環境にしてほしいです。
- 図書館を充実させて欲しい。
- 未就児の頃に子育て支援施設はよく利用し、鹿屋は子育てしやすい場所と思いましたが、小学生になり、子どもだけで遊べる場所の少なさ、親子で遊べる施設の少なさを感じてます。友達同士の付き合いをもっと増やしてもらいたいですし、子どもは外で遊んで成長してもらいたいという気持ちがあります。
- 子どもが外で遊べる(公園)環境が欲しい。
- 働く場所が少ない、小児科、産婦人科が少ないので子育てがしづらいです。塾も高いので、安くでやってほしい。一人っ子で近くに友達がいない。遊びや勉強を見してくれる所、図書館も天文館の図書館みたいなのができてほしいです。
- 夏休みや休日に公共施設を使った講座、イベントなど充実していて親子で楽しめています。図書館が古くて利便性が悪いので中央公民館のように移転を望みます。子どもたちは平等です。みんなに就学援助を望みます。
- 雨の日の遊ぶ場所が欲しい。未就学児だけでなく小学生なども。鹿屋は遊ぶ場所や休日過ごす場所があまりにも少なすぎる。
- 未就学児以外にも遊べる室内施設があるといい(台風や猛暑が多いので)。
- 図書館がもっと利用しやすくなれば嬉しいです。
- 公園が欲しい。
- 子育て広場のおもちゃを見直して欲しいです。壊れているおもちゃや、古いおもちゃが多いなど感じています。もう少し予算を確保していただき、知育おもちゃや教材などを扱っていただけたらなと思います。

- 近くの公園の遊具が少ない。あまり遊びに行こうと思える雰囲気ではない。室内でも遊んだり誰かと交流出来る場が増えて欲しい(小学生でも利用出来るような)。
- 上小原校区で、歩いていける公園などが無いので休日に公園に行きたいときは車を使わないといけない。
- 鹿屋市がグローバル化を本気で目指しているなら、英語だけでも無償化し幼児から小学生の期間だけ身に付けさせ方がよい。最初の投資は必要。市役所の人員を削減しその人件費で十分賄える。仕事をしていない無駄な人員が多い。民間の働きと比べたら半分以下の人もいる。仕事している人としていない人の差がありすぎる。市民の為に働いていると思えない。税金だけ取られ、有効活用していると思えない。その税金で子どもの習い事や親子の触れ合う時間の余裕を生むことができるかいつも思っている。保育に関してもパチンコ店ばかりで保育環境が身近になく、子ども達も不満に思っている。パチンコ店程遠くに建設すべき。大きな公園や気軽に遊べ学べる施設を作って欲しい。同じ敷地に子どもは子ども、大人は大人で遊べたりストレス発散できる施設。一緒に学べる施設等多彩な施設の建設。とにかく自由に遊べる施設の建設。子どもが好きな高齢者に協力をもらい、昔の遊びや料理等得意分野を活かし、お互い、いつでも気軽に行ける施設等。子育てできる施設が身近にない。後回しにせず、早急をお願い致します。電子化の普及もお願い致します。
- あそ VIVA 鹿屋の開設はとても良かったです。土日に配偶者が不在の時にとても助かりました。
- 公園の遊具が少ない。子育ての支援金が少ない。保育料が高い。三人目考えるが無理。
- 図書館がもう少し利便性が良ければ。
- 子どもが遊べる室内遊園地があれば、雨の日でも遊べるのでは。
- 子どもが伸び伸び遊べる公園がほしい。ボール遊び禁止が多い。東地区学習センターに夜のライトをつけて欲しい。サッカーを楽しみに習っているが、暗すぎる。子どもが熱中できる環境がない。運動は、子どものストレス発散にもなるのに。学校の校庭を週末や夕方開放してほしい。近所で遊べば怒られてしまう。思いっきり、走り回らせてあげたい。寺子屋システムを学童、または、学童近くでやってほしい。場所が限られていて、遠くて行けない。
- 子どもが遊ぶ公園が少ない。狭い。遊具が少ない。遠い。魅力的な公園がない。図書館も魅力がない。天文館や都城の新しくできた図書館などを参考にして欲しい。リナシティも子どもが遊ぶには物足りないし、センスがないし、駐車場が狭い。子どもが遊べる室内施設も少ない。小中高学生まで遊べる場が欲しい。
- 公園でのボール遊びなど禁止が厳しく感じる。
- 幼稚園や小学校は信頼だから先生の元、教育を受けられていると感じていますが、金銭的な支援に関しては他の市、県に比べても充実していないと思います。子育て支援で予算が上がっていますが、一体何に使われているのかなと思います。小学生でも雨の日に遊べる施設があるといいと思います。
- 年末年始、日曜日に子どもを預けられる場所が大黒保育園しかない。小学生を安心して預けられる施設を作ってほしい。気軽に行ける駐車場完備の大きな公園が少ない。雨の日など天候が悪い日に遊びに行ける場所が無いので、大きな商業施設の誘致や屋内で遊べる施設を作ってほしい。

- とても住みやすい街ではありますが、子どもたちの遊び場が少ない。病院やお店も充実してくれたらもっと良いと思います。

学校環境について（30件）

- 校庭でも遊べるようにしてほしい。
- お便りを全て PDF で掲載してほしい。病気で休んだら、他の保護者に各自で『お便りの画像をいただけませんか？』といちいち LINE 等でお便りしないといけない。放課後等デイサービスを使っているような子は、お便りの持ち帰り忘れが多くて、とても困る（お迎えの時間を施設へ連絡しないといけない等）。
- 寿地区の小学校、中学校の生徒数が多すぎる。もう一つずつ作って分散させてほしい。私立中学に行きたいが鹿屋市にはないので、公立中学の環境を整えてほしい。
- 通学路の安全性や体の大きさに対し、登下校時の荷物の重さ・多さが合っていないように感じます。学校の駐車場も増やして欲しいです。
- 教諭 1 人当たりのクラス人数、クラス配置基準を見直してほしい。気になる子どもや療育の子どもが増えているのにしたの良い保育、教育には無理があると思う。ゆったりゆっくりした環境で育てば、家庭でも身につけたことが活かされ、子どもも保護者も無理なく生活できると思う。結果子育て支援になると思う。休みの日の遊び場が少なすぎる。小学生には、公園だけでは物足りない。公園にしても遊具が少ない。大崎や都城のような施設を増やしてほしい。保護者もゆっくりしながら子どもも遊べる場が欲しい。
- 学校のトイレを洋式に変えて欲しい。洋式の数が少ないので子どもが学校での排泄を我慢している。
- 教育内容が自分達が子どもだった頃よりかなり充実して、また配慮があって、羨ましいと思っています。これからも楽しく生きれる環境にしてください。
- 小学校の担任を複数にしたり、1 クラスの人数を減らし、もっと小学校教育の充実を図る（教師の負担を減らす）。
- 先生方の負担が大きかったり保護者とのトラブルから継続が難しく担任変更となる事が 2 回あった。その際の子供達への気持ちや学習不安に対してのフォローが感じられず子どもも足が地に着かないといった状況でしばらく過ごさねばならなかった。教員の不足は周知だがもっと迅速な対応を先生にも生徒にも目を配って欲しい。
- 家庭のトイレと学校のトイレを実際に見比べ利用してみると、学校のトイレ環境がよくなって、子どもが低学年の時は我慢をして帰って来ていたのでトイレの改善をして欲しい。
- 学校側の対応が気になる。支援が必要だから支援学級に行ってるのに支援学級の必要性がわからなくなるときがある。
- PTA などの行事を整理してほしい。もっと看護休暇が取りやすくなる。
- 学力格差、学習意欲の差を凄く感じます。学校教育だけでは、まかないきれっていない限界のようなものも感じています。将来の鹿屋市を担う子どもたちの教育に関して、学校だけでなく、学習塾、病院関係などの専門の先生方とも連携をとってほしい。そして、何かをどこに相談しても、「それなら、ここに（この先生に）相談してみたら」のような繋がりのある相談場所が、行政にあってほしい。
- 鹿屋市も PTA についてアンケートをして欲しい。新学期が憂鬱でしかない。

- 鹿屋は特に車などが無いと何処にも行けないので、車やバイク、自転車が多いのは仕方ないとは思いますが、多いのに道路の整備は中々進んでないと思います。不審者が後をたたない不安、子どもの体調、仕事の時間を考えると安全に学校に入っていくのを見届けたいのが親だと思う。各学校にロータリーを作ってくれた方がよっぽど安全だと思います。PTAは来い。なるべく徒歩で来い。子どもを待たせる待機場所はない。仕事帰りで時間ギリギリです。子どものための PTA なのに子どもは家に 1 人にさせるこの矛盾。市は自転車を推進しているはずなのに、子どもが自転車を、練習できる場所はない。道路交通法の学習も年 1~2 回の交通安全指導だけでは足りないと思います。
- 学校教員をもっと確保して欲しい。
- 不登校の子たちが気軽に行けるようなフリースクールが増えてくれたらありがたいです（放課後等デイサービスが併設しているのが多いのですが、なかなか周知されていないと思うので）。
- 高等教育以上の選択肢が少ないのが少し寂しい。仕方がないことではあるが家庭の状況なども考えると現実的な進路選択になってしまう。
- 大学まで、本人が行きたい学校に選択できる環境を整えてほしい。特に地方では遊ぶところがないイベントも少ないと思う。子どもの教育もだが、親も教育が必要だと思う。もっと子どもと関わったり時間がとれるような仕組みを作してほしい。
- 子どもが少年団に入っています。6 時間授業の日は放課後、そのまま学校に残って活動に参加しておりましたが、今年度から教員は責任が持てないので、放課後少年団の子ども達を教室に残らせるのなら、保護者が見て下さいと方針が変わり、保護者が仕事を休んで交代で学校に出向いています。負担になるので、一旦帰らせる事も話し合いましたが、距離的に一旦自宅へ帰ると間に合わない児童も何人もいるので、話し合いの結果、交代で保護者が見守りをしています。教員の負担は減っても、保護者の負担は増えています。これで子育てに優しい町だとは言えないですね。昔より、学校が冷たい場所になっていると思います。
- 中学校に入ったら、英検を受ける対策授業をしてほしい。
- 土曜授業はいらない。
- 娘のクラスは 6 年生 43 人ですが（特殊学級所属の児童含む）人数が多すぎて担任が大変そうです。国は多子世帯に対していろいろな策を提示していますが子ども 2 人あるいは 1 人の世帯に対しては支援が少ないと思う。不平等だと思う。
- 学校のトイレが未だに和式なのがびっくりします。普段大人は洋式を使っているのに、何故子どもに和式を使わせるのか疑問です。
- 小学校や中学校が一中や東中以外は、合併になると聞いた。大規模になれば、いじめや嫌がらせなどがわかりにくくなるので、やめてほしい。
- 最近いじめに関する話を耳にする機会が増えました。現場の先生方は一生懸命子どもたちに寄り添って対応してくださっているようですが、いじめを受けていた被害者となる児童さんが転校することとなり大変かわいそうでした。加害者の子どもへの対応が難しいのは重々承知ですが、同じことの繰り返しになってしまうので、その子へのカウンセリングもきちんとして頂きたいです。学校カウンセラーの先生が予約制で常駐ではないのも相談しにくい気がします。不登校児の多さを問題視するべき。中学校だけ校則厳しいのも少し疑問です。

- 小学校入学時に購入する算数セットがほぼ新品で使い終わるので、兄妹で使いまわせたらいのにと思いました。綺麗な状態の算数セットを捨てるのも心苦しかったので。年度毎に仕様が変わるのであれば仕方がないですが。
- 学校関係の行事やイベントが多く、週末休めず疲労が中々取れません。
- 子どもの将来（高校など進学先）に不安がある。少子化が進むが今市内にある高校が今のまま存続するのか。
- 学校の駐車スペースを増やしてほしい。学校からは健康面の観点から歩いて登下校を求められるが、防犯ブザーも届かないような通学路を歩かせることに不安しかありません。習い事の多様化、不審者対策の面からも送迎禁止ということの浅はかさを知るべき。送迎禁止は近隣からのクレーム対策でもあると推測できるので、駐車スペースが確保できればクレームも減るのでは。

預かり環境・病院施設について（15 件）

- 子どもを安心して預けられて親が働きやすい体制が整うと嬉しいです。
- 仕事と子育ての両立が難しい、もしくは母親の負担が大きい割に賃金も安い、子育てに重きを置くと大した仕事はできず選択肢がない、市外に行くには急なお迎えに対応できず近くで働くしかない、保育園に病児保育所を併設してほしい。
- 学童はありますが、スタッフからの暴言など悪い噂が多く、安心して預けられません。また、習い事や教育面のサポートが足りないと感じています。千葉県流山市のような子育てシステムがあったら嬉しいです。
- 学童が少ない。
- 学童が校区ではなく育成会単位で作れたらと思います。
- 祖父母世代に私達も頼らずに子育てをしてきたから、親を頼るなど言われているので、子どもが小さい時はなかなか大変でした。子育て中は自分の時間を取るのが難しいので、たまに友達とランチに行くことがとても贅沢に感じました。赤ちゃんがいる世帯に、一時預かりと美容院の補助などがあったら、とても助かると思います。
- 学童保育も今は委託されているせいか、延長保育代が気になる。母子家庭のため出費もかさむし、仕事が終わらないため 19 時までにしてほしい。
- 放課後デイサービスが高校生まで使える場所をもっと増やして欲しい。療育も就学前は手厚いが、高学年になればなるほど使える場所がない。
- 学童保育も利用していたが、職員の子どもに対する接し方が悪かったみたいで、子どもが嫌がっていけなくなった。
- 発達障害児向けの学習サポートをしてくれる学習塾のようなところがあってほしい。
- 子育て中に利用できる支援（ファミリーサポートや病児保育、一時預かり）の詳しい内容がしっかり分からず、利用しづらい。
- 子育てや家事の支援を気軽に頼めるところがもっと増えたらいいなと思う。

- 保育士です。病児保育の場を増やすか、保護者を休みやすくしてください。体調の悪い子を預けられ、子どもたちや保育士にも感染症が広がり困っています。保育士も人間です。家庭もあります。
- まず、学童の質を向上させて下さい。小学校6年間の放課後が危機的な状況にあります。親は安心して働けず、子どもの教育は不十分になります。または、学童に預けなくても良いような構造的な改善を求めます。このままの学童の状況では、育った子どもが使い物にならないと思います。親が共働きして子どもが育つ環境を整えて下さい。
- 学童保育が一事業しか校区内にないため合わなければ民間を利用しなくてはならず、経済的負担が大きい。選択の幅が増えればありがたい。

子育てに関する認識のアップデートについて（9件）

- 不登校になり学校や鹿屋市自体、まだまだ不登校への知識が浅く感じます。今から頑張っで欲しいです。
- 働く親にまだまだ風当たりが強いので介護休暇など取りやすくなれたらと思う。
- 将来の日本の事を考えたら優秀な子どもを育てる必要がある。子どもの教育で一番大事なものは最も近い存在の親の関わりだと思う。だからこそ親も子育ての為に学ばないといけない。妊娠してから子どもが幼稚園になるまでは母親は働くべきではない。その期間は母親の為に学校があるべき。そこで親は子育てに関して学ぶべき。当然父親も日曜日だけでも学ぶべき。無理だと思いますが。
- 情緒面で問題のある子どもに対しての環境や支援が少なすぎると思う。まずは情報を取り入れて欲しい。
- 保育環境を整えるのではなく、母親が少しでも長く子どもといられる時間を増やす対策をすべき。18歳以下を持つ母の有給育児休暇等。
- 職場の人数確保をして欲しい。欠員の補充をして欲しい。
- 親の就労条件で子ども(学校)の行事に合わせる事が困難である事。土日祭日に必ず休日が取れるわけではない。PTA活動などに参加させられることが非常に負担に感じる。子どもの病気で仕事を休むことに罪悪感や不安を感じる。
- 保育士をしながら仕事をしているが、年々親が、子どものしつけや発達に無関心で、園任せになっているため、園で保育者の負担が更に大きくなっている。保護者とは、共に子どもを育てる存在でありたいが、それ以上の事を求められているような気がする。
- 子どもが低学年の頃までは病気をしがちで、仕事を休まなければならない事が多く、とても肩身が狭い思いをしました。これが解消されなければ、子どもを持ちたいと思うのも難しいのではないのでしょうか。仕事をしながら子育てしやすい環境ができると子どもも増えるのではないかと思います。

食について（9件）

- 学校給食など子ども達が食べるものを、地元で育てられた無農薬の野菜などを使ってほしい。
- 子ども達の給食は、鹿屋市の農家さんと提携して、無農薬のものを食べさせて欲しい。

- 顔色が悪く、髪の毛がボサボサで遅刻して学校に行く子ども達を見掛けます。しっかり御飯を食べているのか、きちんと眠れているのか、その様な子ども達のサポートを。
- 給食について意見する場が欲しい。子育て世代への働き方を変えないと、大変だと思う。親も心身共に大変そう。子ども達もかわいそう。
- 給食を可能な限り、無農薬にして欲しい。
- イスラム教徒の子どもたちも安心して食べられる給食を提供してほしい。
- 給食でアレルギー対応食と同様に、ハラールにも対応してほしい。
- クラスに宗教上の理由により、給食が食べられず毎日お弁当持ってくる子がいます。アレルギー対応と同じく対応して欲しい。
- 給食をオーガニックにする動きが鹿屋のお母さんたちによってありますが、給食がバランスのとれたメニューとは思わない。ベーコンや体にわるい食材を使いすぎ。うどんにご飯というダブル炭水化物の組み合わせが毎月数回ある。

病院・療育施設整備について（8件）

- 小児科の数は多いようだが、待ち時間が長い。小児科以外（皮膚科、耳鼻科等）の受診が辛い。受診予約の病院ばかりで、緊急の対応が遅い。
- 病児保育の充実、発達支援施設の充実、療育を受けるまでの診察を受けられる病院や診療体制の充実を望みます。
- 【妊娠中に思ったこと】北田の保健センターで諸手続きがあり、市役所でも諸手続きがある。2つが離れていることで行き来がとても大変だった。妊娠から子育てまでを継続的に支援するために、市役所内に保健センターの役割の一部を移すことはできないか。出産後、風疹麻しんの予防接種を出産先(鹿児島市内の病院)で受けようとしたら、鹿児島市内の病院で接種すると助成金の対象外だと言われた。また、産後1ヶ月検診で頸がん検診も受けようとしたら、鹿児島市の病院では助成金の対象外だった。予防接種や検診の助成金に関して、受ける場所をもう少し柔軟に対応できないか。40歳の健康診断の案内が鹿屋市からきました。産後3ヶ月でした。乳ガン検診や腹部エコーなども受けたいと思って予約していましたが、当日行ってみるとエコーを受けるまで2時間以上かかると言われました。乳児をかかえていて、授乳のため2時間以上は待てないので、順番がきたら連絡をもらえないか、受診順番に配慮してもらえないかと交渉しましたがどちらもダメ。健康維持のために検診を受けにきたのに検診が受けれない状況、予約時間が細かく設定されているのに長時間待つ時間が発生することに疑問が生じました。子育て環境を整えたいと思うなら、子育てを担っている母親や父親の日常生活における不便さや不満を吸い上げて、小さなことから改善してほしいです。
- 小児科の予約が取りにくい。
- 子どもが発熱等で、すぐに小児科に行きたいのに、殆どが予約でいっぱいで行けない。
- 片親で予防接種の為の予約を取ったり、病院へ連れて行く為に仕事を休まないといけないので保育園や小中学校で予防接種をしてもらうようにしてほしい。仕事の休みの日と最寄りの病院が予防接種を行なっている日時が合わず予約が取るのが難しい。日曜日に予防接種を行う病院もしくは施設を作って欲しい。他の保護者ができているのに出来ていない自分を責めて自暴自棄になる。

- 市街地以外に居住する障害児へのサポート体勢が弱い。
- 医療体制がひどすぎる。皮膚科を、受診したくても初診お断りがあるため土曜日に受診できない。発熱外来もすぐに予約一杯でどうしようもない時がある。 大好きな鹿屋市なだけに本当に残念です。医療体制をもっと強化してほしい。公園の遊具等を増やして欲しい。宜しくをお願いします。

各種手続きについて（6 件）

- 市役所へ行かずとも、電話せずとも、もっと気軽に相談できる ICT 環境が必要だと思います。
- 私は事情により、東串良町在住です。子どもと共にインフルエンザに感染し、母の収入がないので、相談に行きました。しかしながら、状況をお話したところ、私の仕事の勤務状況に笑われ、何の相談にもなりません。このような方々が町民のために働いておられる職員として在籍していることにざんねんです。こちらは真剣に相談に来ています。その挙げ句、社協などをお願いしてくださいなどと、たらい回しのような状況になりました。正直なところ、支援とする職員の方々はこのようなものかと思うしかありませんでした。
- 市役所で母子手帳がもらえないのはしんどい。他県から来てビックリした。
- 子どもの障害があった場合の申請の仕方等分りにくいことが多い。またその情報を知る場所が少ないように思える。雨の日等子どもを遊ばせる場所が少ない。もう少し子どもと過ごせる施設が増えてくれると子育てしやすいと思います。
- うちは、母子家庭の病児育児をしている家庭です。私の学力や知識がないこともあり、専門職には就けず事務仕事の収入は限られています。その日暮らしが当たり前です。うちの家庭が大変だとは思いませんが、地域としては優しくないと思います。子どもの病院受診やお薬代、就学費、給食費も先払い後戻りという仕組み。何とも効率の悪い、そして負担の大きい仕組みどうにかならないかと。子どもとは成長します。最初に購入した制服を着続けるわけではありません。入学時補助金(しかも、後戻り金)はあっても途中での買い替えの方が高くなっているのはご存知なのか。靴も半年で買い替えることがあるんです。病児保育でも、子どもの気持ちを考えてできるだけ自分で看病してます。ただ、その中で家でできる日雇バイト的な事ができると、仕事を休む事に抵抗が少しは和らぐかと思ったり、買い物代行などあったらとか思うことは色々とあります。祖父母を頼れない、むしろ祖父母の面倒まで見ないといけない立場としては、余裕もなく、時間もないので、〇〇支援とか手続きしてる暇あったら自分で動きます。めんどくさい手続きに時間を割いてる暇は無いのです。手続きしてないので必要ないと思われてるのはお門違い。そこに時間を費やしたくない。常に時間の配分を考えながら生活してる母親は多くいるはず。役場に手続きに行くのにも仕事の休憩時間を使って足を運んで大半の時間を取られ、昼食を流し込み仕事に戻るんです。なので、支援というのであれば、そういったことも考慮し仕組みを作るべきではと私は何年も感じながらいます。
- 保育園は短期保育から通常保育移行するまでの期間がありすぎる。市役所に行く暇がないのに市役所での手続きじゃないと適応されない。電話でも対応してもらい記入手続きは電話の1週間いないに来てもらうなどの対応もありがたい。

情報発信について（3件）

- もっといろんな情報をわかりやすく発信してほしい。
- もう少し情報提供が欲しい。ネット時代でもネットができない人もいるとそういう人には対処方法はどうかですか。
- フリースクールの情報が欲しい。

相談体制、質の向上について（2件）

- 保健センターや子育て支援課で働かれ、父母に検診等に関わる職員の言葉や態度は、子育てに影響をもたらすこともあることを非常に重く考えてほしい。「異常ですよ』と言われた親は、子育てに奮闘し頑張っていることを否定されている気持ちにもなる。鹿屋市にはそういう職員が多い。残念。
- お金の相談まで対応できる、社会保障制度に明るい「使える相談者」が欲しいです。「心のお悩み」ばかりではなくて。

アンケートへの意見（1件）

- このアンケートですが、質問多すぎました。次はしたくないなど。

その他（16件）

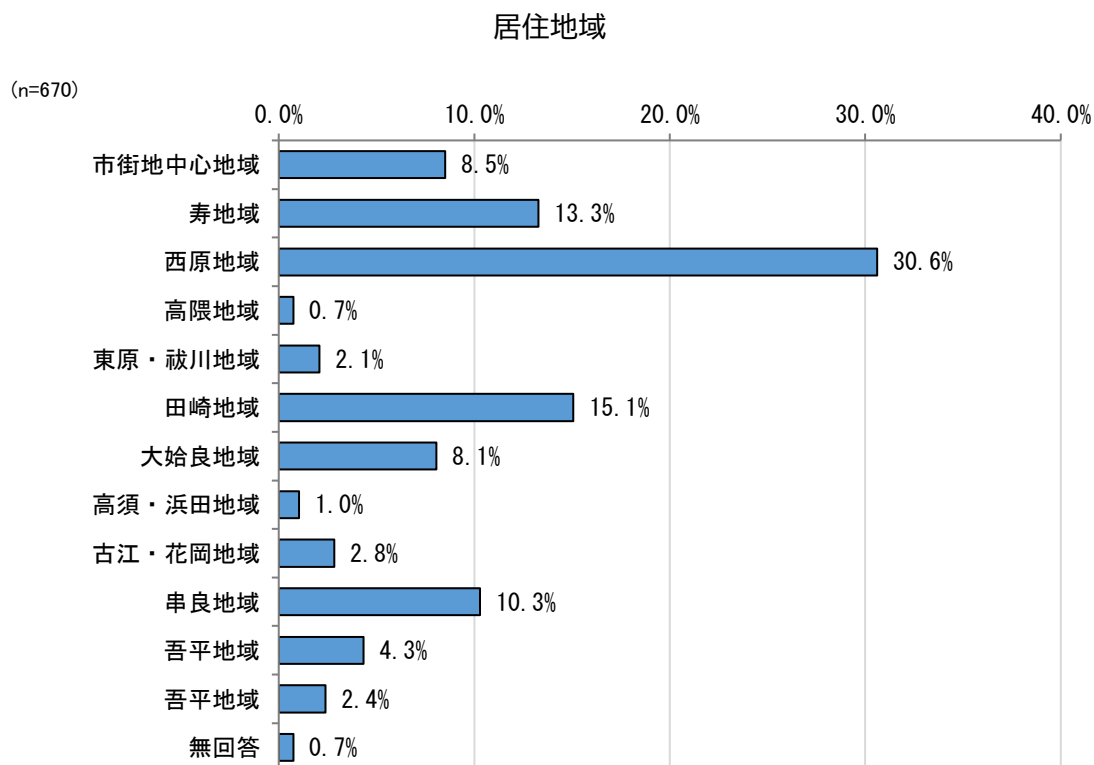
- 公共交通機関がもっと便利だといいなと思います。
- 保育士さんへの給与を上げてください。
- 放課後デイサービス等、利用させていただいております。鹿屋市主催のイベント等も多く、楽しく利用させてもらってます！
- 未就学児を持つ時が一番つらい時期であった。引っ越しを県内でも3ヶ所経験したが、子どもを連れて行ける所を探し、毎日のように出かけ、頼れる人には頼り、楽しめるところでは積極的に活動してきた。〇〇市は～と比べるつもりはないが、鹿屋市には子をもつ親なりの日々の苦労が報われる環境であってほしい。
- 通学路の整備をしてほしい。自衛隊の裏の道（医師会の前の道路）は、子どもが歩いているのに、速度を出している車が非常に多く、歩道もない。推奨している道だけではなく、実際に子どもが登校している道を市が把握して整備するべきだと思います。
- 未来ある子ども。今は他人と一緒に子育てが難しい・出来ない時代であること。
- 寿小周辺の道路を一方通行にしてほしい。道幅が狭いので通行しづらいです。
- 鹿屋では転入者の多い地域もあり、鹿児島県外出身者の核家族で生活している子育て家庭も多いと思われると思います。孤独な子育てにならないように、転入者にも寄り添った環境の充実を期待しています。
- すべてが不満。

- 色々取り組んで頂き感謝してます。これからも親や子ども達にとって全てがよりよくなるように、今後とも宜しくお願いします。ありがとうございます。
- 小学生からはあまり気にする事はない。小学生まで。特に2歳、3歳くらいまでが病気もよくするし大変だと思う。
- 兵庫県の明石市を参考にしてください。
- 学童の先生方が少人数で子どもたちのことをみています。放課後デイが増え、その放課後デイのほう負担が少ない、送迎があるという理由だけで学童の利用をあえてしないことも聞きます。放課後デイも通常学級在籍でも毎日利用している子がいる反面、学童で支援学校や支援学級に在籍している子を受け入れられてます。学童の先生方が頑張っていらっしゃるので市の補助で放課後デイ並みの報酬単価があっても良いのではないかなと感じます。発達支援が必要で放課後デイを利用するのは理解はできますが、支援が必要な子を区別することで国が目標としているインクルージョンの真逆になっていると感じます。学童の先生方のお給料を手厚くし、放課後デイの適切な支給量を検討をして欲しいです。
- のびのび子育てできていると思います。この環境が守られればと思います。
- 土日休みや、ある程度自由がきく方への支援やイベントは沢山あるが、そうでない親も沢山いるはずだと思う。仕事の都合上行きたくても行かせられない、体験させてあげられないもどかしい気持ちを持ちながら、楽しそうなイベントのチラシを見ている。
- 自分は末っ子が小学校生活もあと一年ちょっとなので特に今更意見はないですが、これから子育てする人にとって子育ては親や家族、地域、さまざまなサポートが必要と思います。鹿屋市が子育てする環境として、若い世代から魅力ある市になり、子どもが増える事を願っています。

V 調査結果（小学5年生）

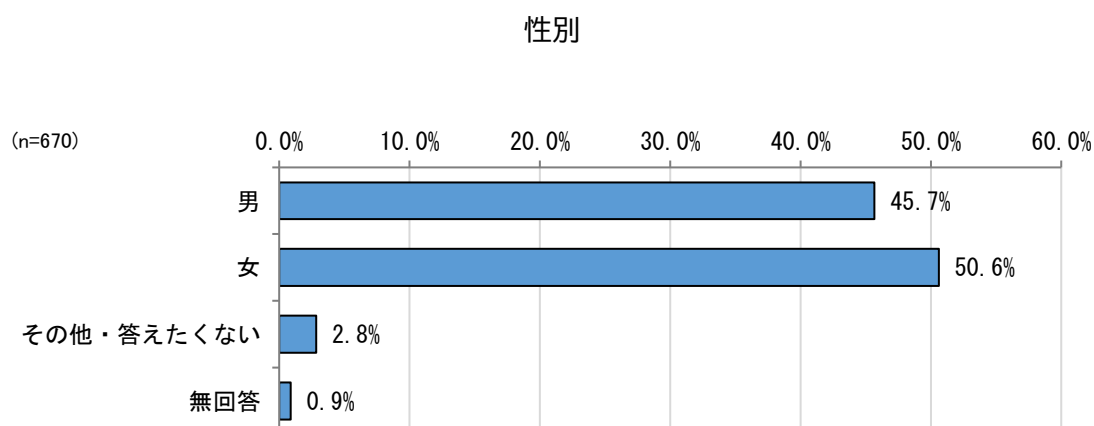
問1(1) お住まいの地域を教えてください。

地域は、「西原地域」30.6%が最も高く、次いで「田崎地域」15.1%、「寿地域」13.3%となっている。



問2 あなたの性別を教えてください。

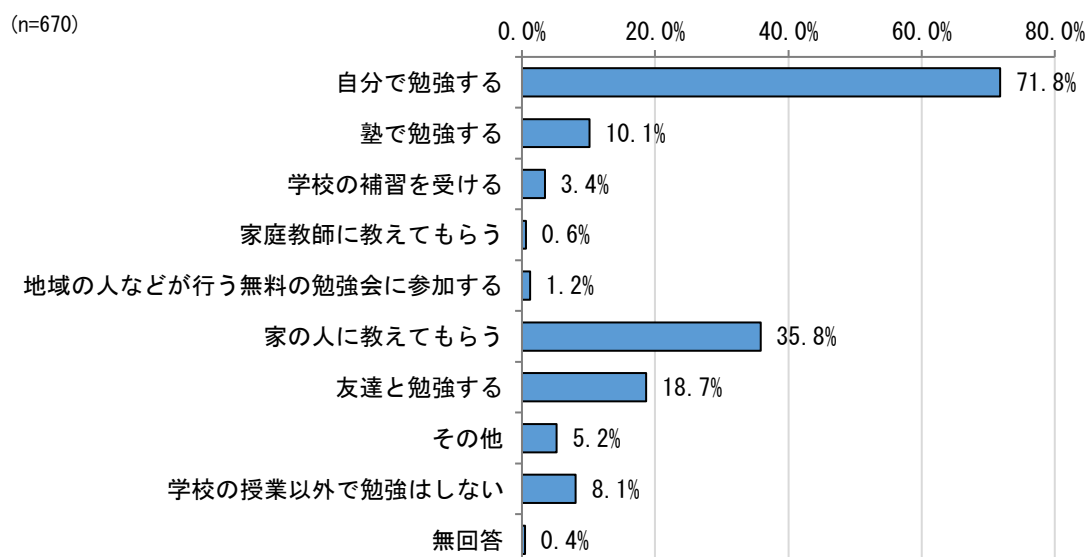
回答者の性別については、「男」45.7%、「女」50.6%、「その他・答えたくない」2.8%となっている。



問3 あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。※ 学校の宿題も含む

学校の授業以外の勉強については、「自分で勉強する」71.8%が最も高く、次いで「家の人に教えてもらう」35.8%、「友達と勉強する」18.7%となっている。

学校の授業以外の勉強について

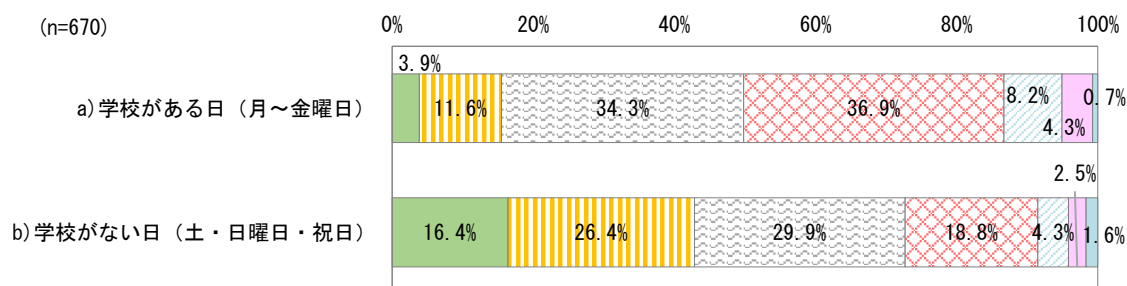


問4 あなたは、ふだん学校の授業以外に、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。※ 学校の宿題、塾の勉強も含む

ふだんの学校の授業以外の1日あたりの勉強時間について、学校がある日（月～金曜日）では「1時間以上2時間より少ない」36.9%が最も高く、次いで「30分以上1時間より少ない」34.3%となっている。学校がない日（土・日曜日・祝日）では、「30分以上1時間より少ない」29.9%が最も高く、次いで「30分より少ない」26.4%となっている。

学校の授業以外の勉強時間

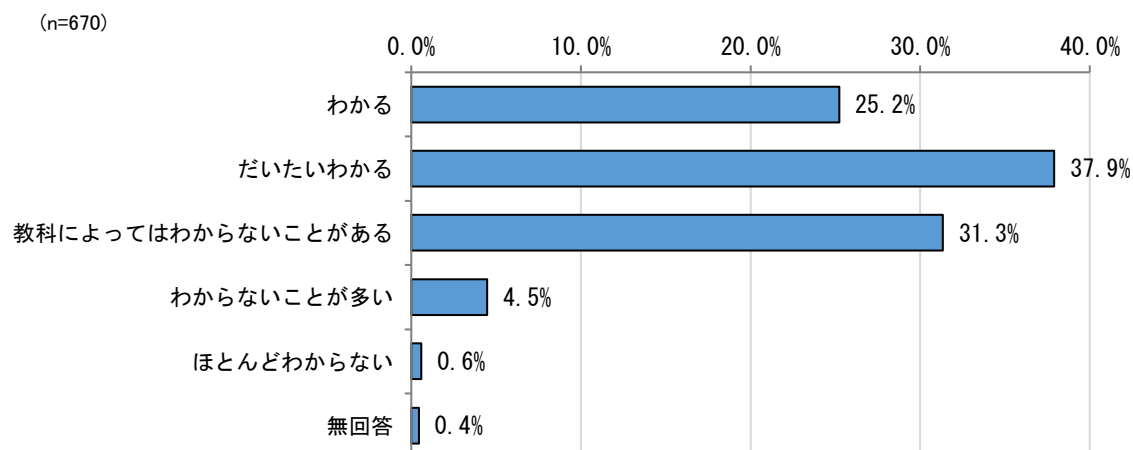
■ まったくしない ■ 30分より少ない ■ 30分以上1時間より少ない
 ■ 1時間以上2時間より少ない ■ 2時間以上3時間より少ない ■ 3時間以上
 ■ 無回答



問5 あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。

学校の授業がわからないことがあるかについては、「だいたいわかる」37.9%が最も高く、次いで「教科によってはわからないことがある」31.3%、「わかる」25.2%となっている。『わかる』（「いつもわかる」＋「だいたいわかる」）は63.1%を占めている。

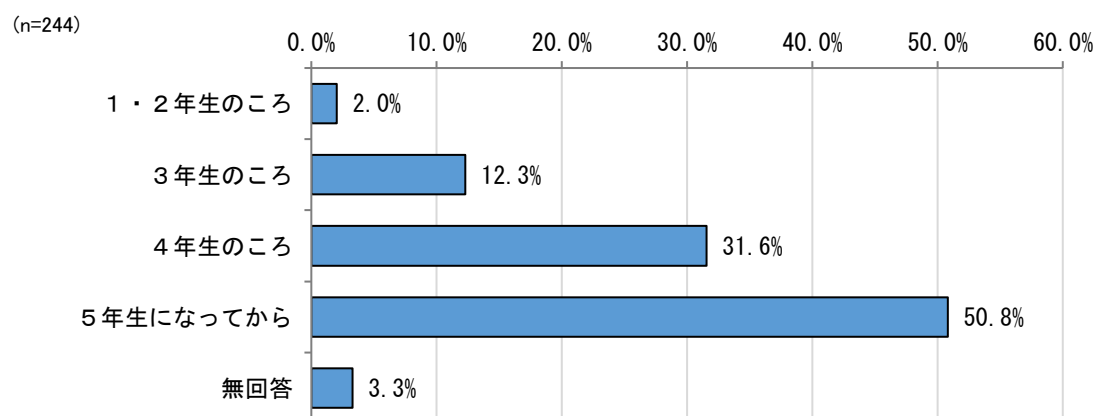
学校の授業がわからないことの有無



問6 【前の質問で「3. 教科によってはわからないことがある」「4. わからないことが多い」「5. ほとんどわからない」と答えた人にお聞きします。】いつごろから、授業がわからないことがあるようになりましたか。

授業がわからなくなった時期については、「5年生になってから」50.8%が最も高く、次いで「4年生のころ」31.6%、「3年生のころ」12.3%となっている。

授業がわからなくなった時期

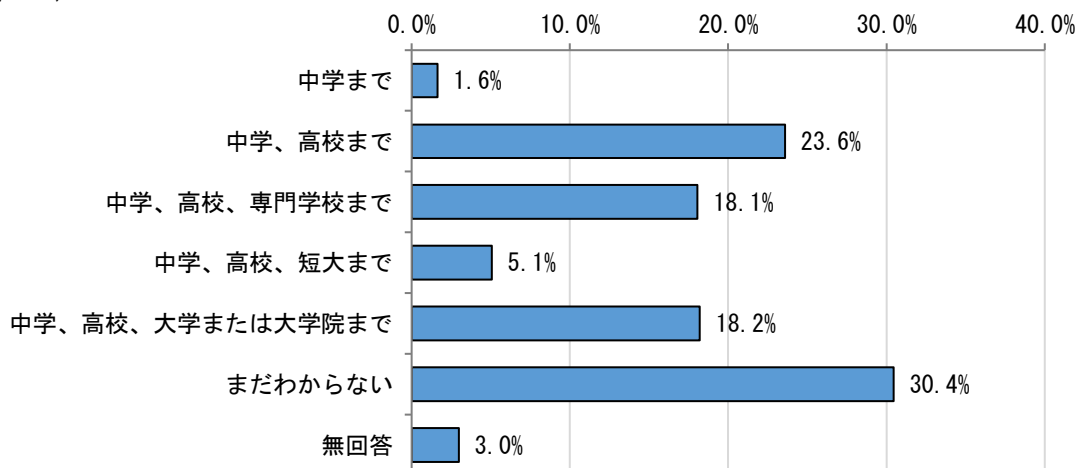


問7 あなたは、将来、どの学校まで進学して学びたいですか。

将来進学したい学校については、「まだわからない」30.4%が最も高く、次いで「中学、高校まで」23.6%、「中学、高校、大学または大学院まで」18.2%となっている。

希望する進学先

(n=670)

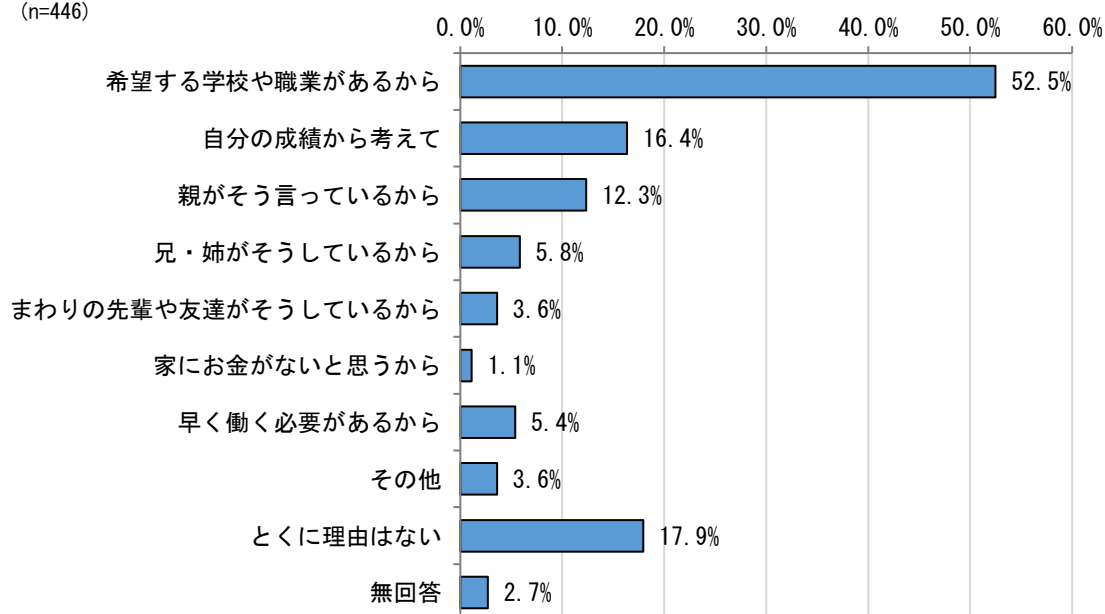


問8 前の質問で1～5と答えた場合、その理由を教えてください。

進学を希望する理由については、「希望する学校や職業があるから」52.5%が最も高く、次いで「とくに理由はない」17.9%、「自分の成績から考えて」16.4%となっている。

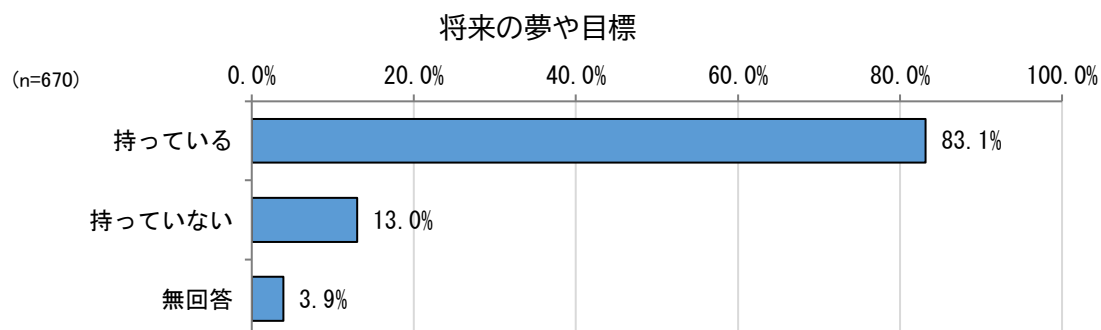
問7の進学先を希望する理由

(n=446)



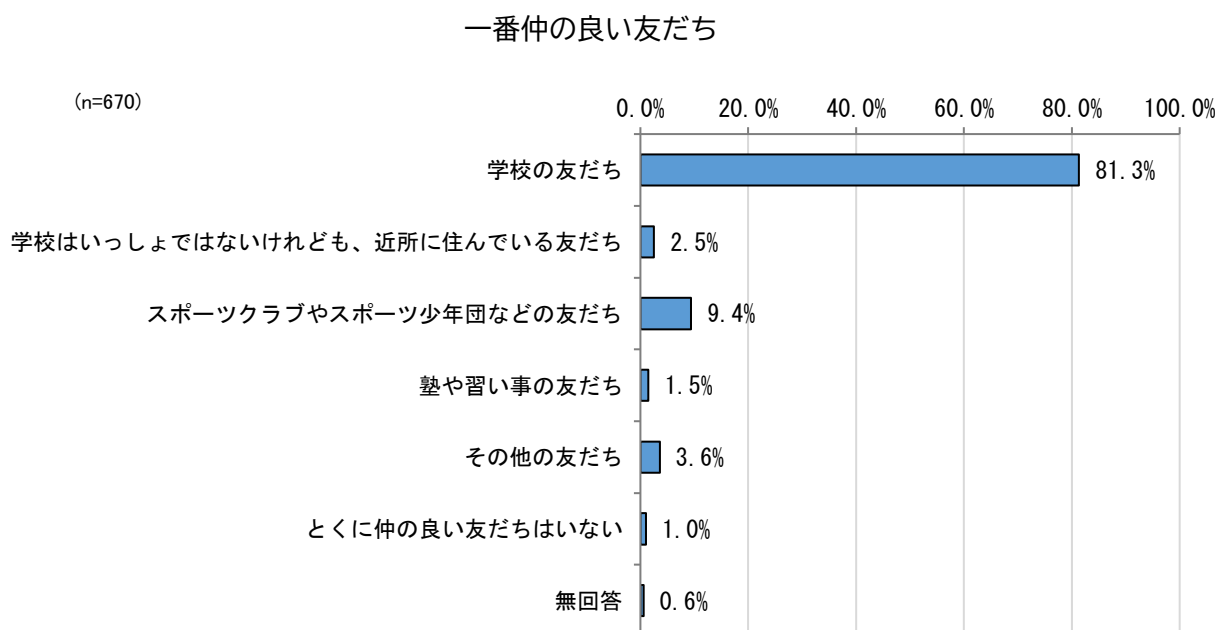
問9 あなたは、将来の夢や目標をもっていますか。

将来の夢や目標については、「持っている」83.1%、「持っていない」13.0%となっている。



問10 あなたの一番仲が良い友だちは、どのような友だちですか。

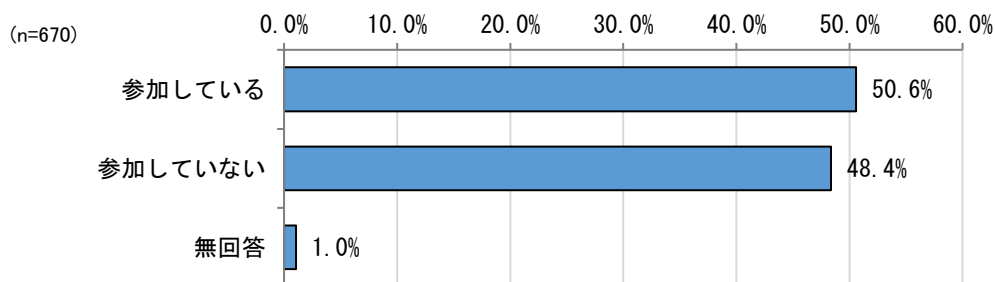
一番仲が良い友だちについては、「学校の友だち」81.3%が最も高く、次いで「スポーツクラブやスポーツ少年団などの友だち」9.4%、「その他の友だち」3.6%となっている。



問11 あなたは、スポーツクラブやスポーツ少年団などに参加していますか。

スポーツクラブやスポーツ少年団などへの参加については、「参加している」50.6%、「参加していない」48.4%となっている。

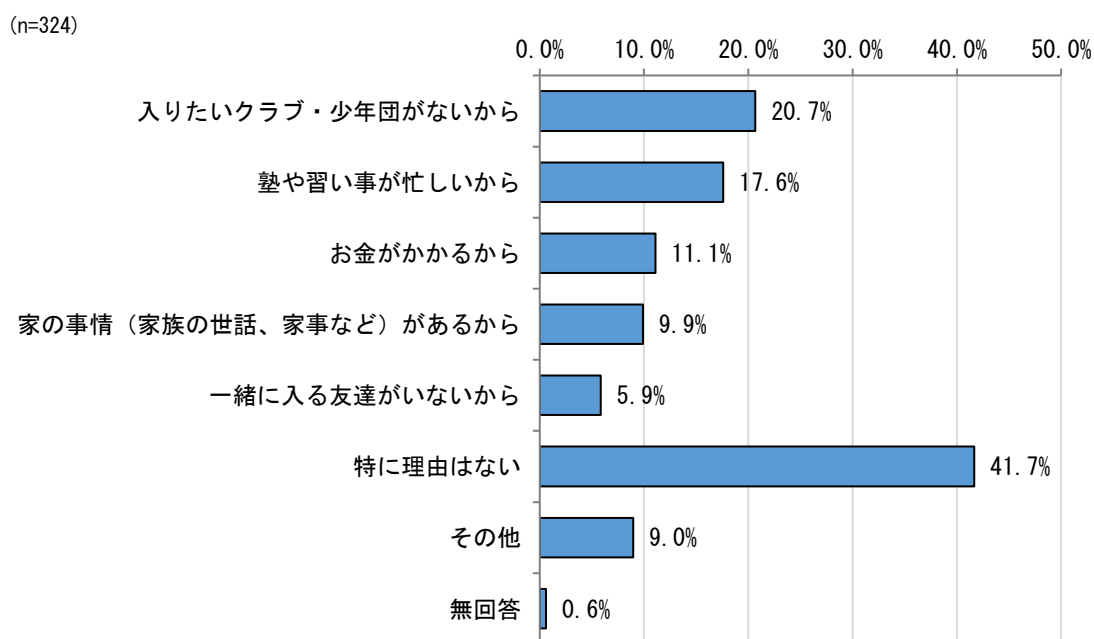
スポーツクラブやスポーツ少年団などへの参加



問12 【前の質問で「2. 参加していない」と答えた人にお聞きします】参加していない理由は何ですか。

参加していない理由については、「特に理由はない」41.7%が最も高く、次いで「入りたいクラブ・少年団がないから」20.7%、「塾や習い事が忙しいから」17.6%となっている。

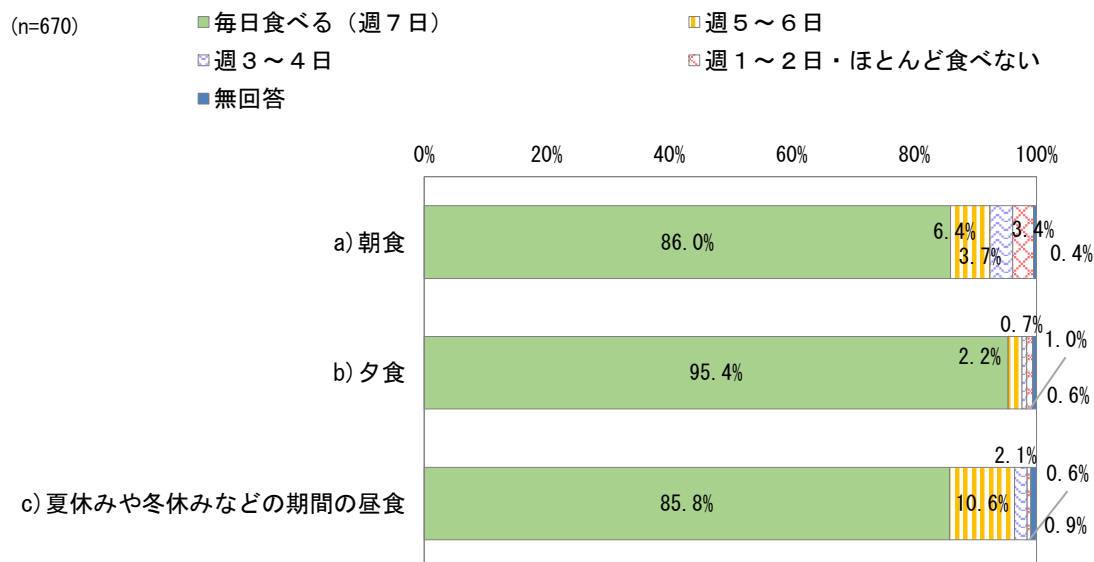
参加していない理由



問13 あなたは週にどのくらい食事をしていますか。

週の食事回数について、「a) 朝食」、「b) 夕食」「c) 夏休みや冬休みなどの期間の昼食」はいずれも「毎日食べる」が8割以上を占めている。

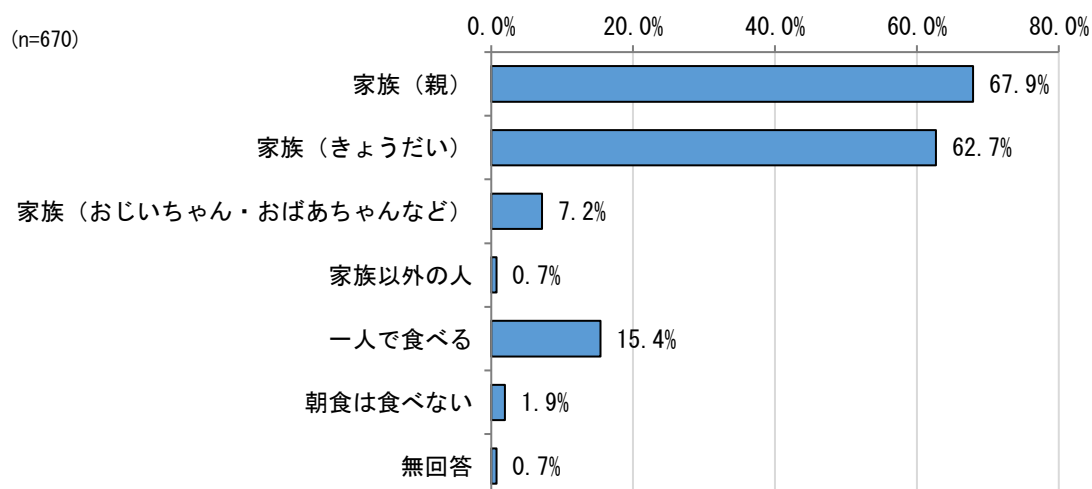
食事を取る回数



問14 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)朝食をだれとたべますか。(複数回答)

朝食を一緒に食べる人については、「家族 (親)」67.9%が最も高く、次いで「家族 (きょうだい)」62.7%、「一人で食べる」15.4%となっている。

朝食をだれと食べるか

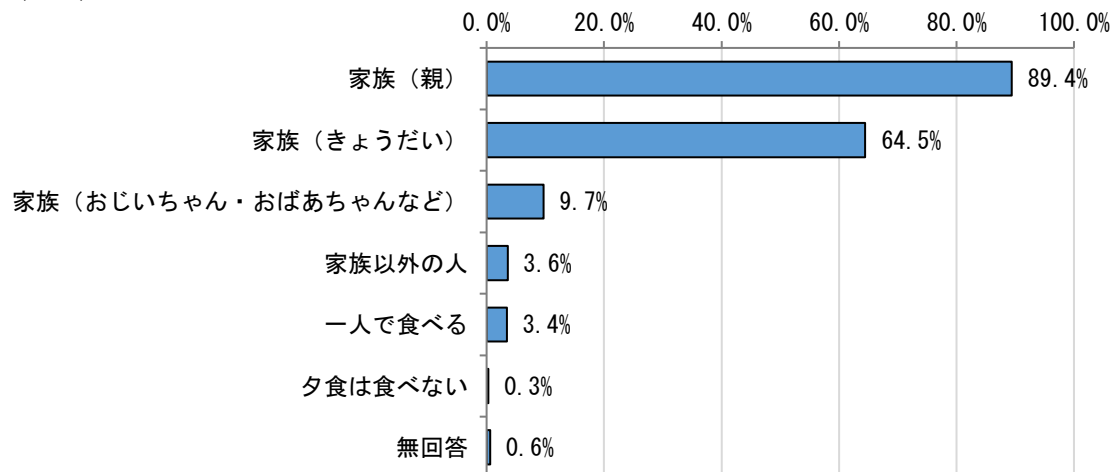


問15 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)夕食をだれとたべますか。(複数回答)

夕食と一緒に食べる人については、「家族（親）」89.4%が最も高く、次いで「家族（きょうだい）」64.5%となっている。

夕食をだれと食べるか

(n=670)



問16 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、だれとどのくらい会話や、やり取りをしますか。

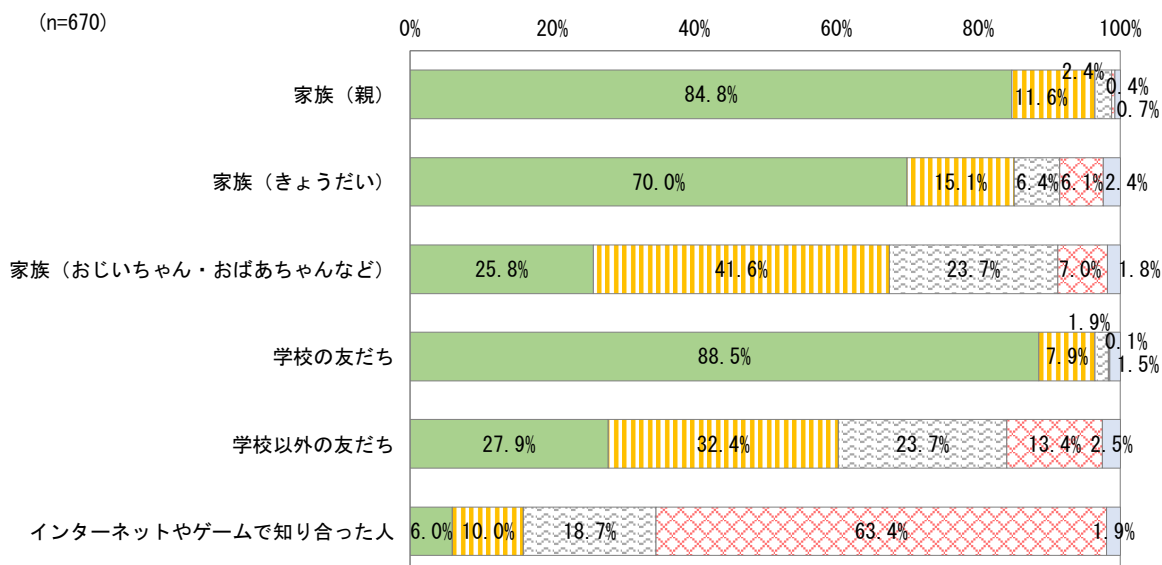
『よくある』（「よくある」＋「時々ある」）は、「家族（親）」、「学校の友だち」がいずれも96.4%と最も高く、次いで「家族（きょうだい）」85.1%となっている。

一方、『なかった』は、「インターネットやゲームで知り合った人」63.4%が最も高く、次いで「学校以外の友だち」13.4%となっている。

ふだんの会話ややり取りの頻度

■よくある ■時々ある ■あまりない ■なかった ■無回答

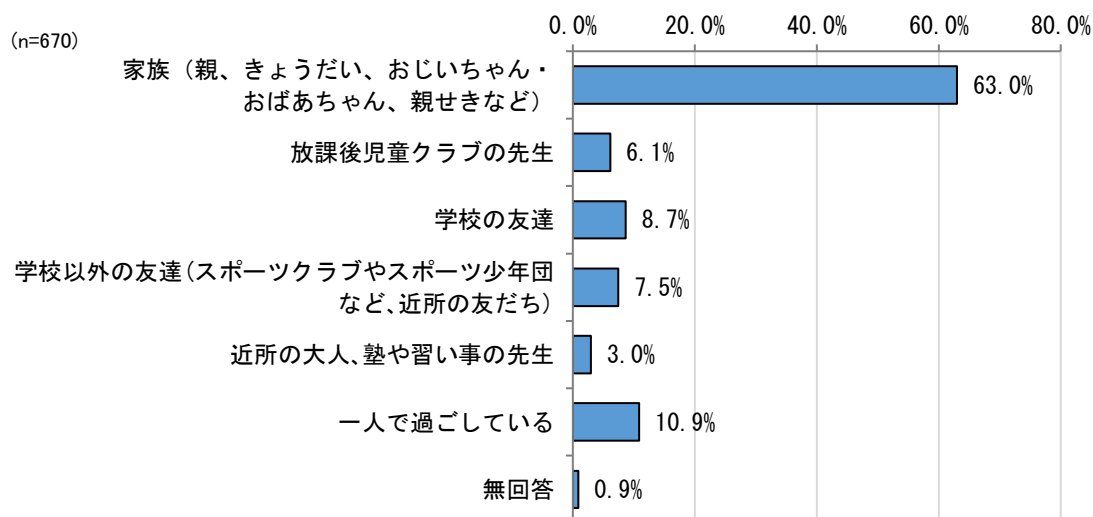
(n=670)



問17 あなたは、学校が終わってから放課後(夕方6時くらいまで)は、だれと過ごすことが多いですか。

放課後一緒に過ごす相手については、「家族（親、きょうだい、おじいちゃん・おばあちゃん、親せきなど）」63.0%が最も高く、次いで「一人で過ごしている」10.9%となっている。

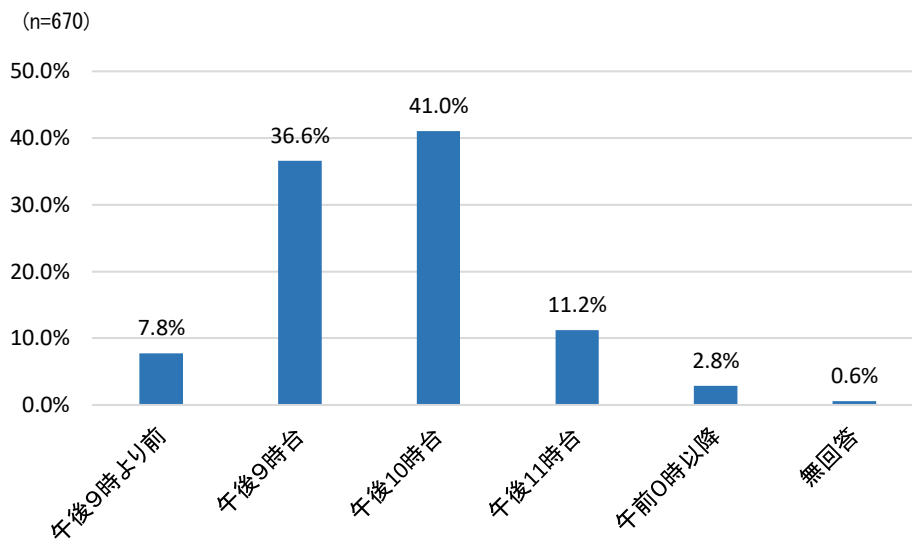
放課後に過ごす相手



問18 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、何時ごろに寝ていますか。

就寝時間については、「午後 10 時台」41.0%が最も高く、次いで「午後 9 時台」36.6%となっている。

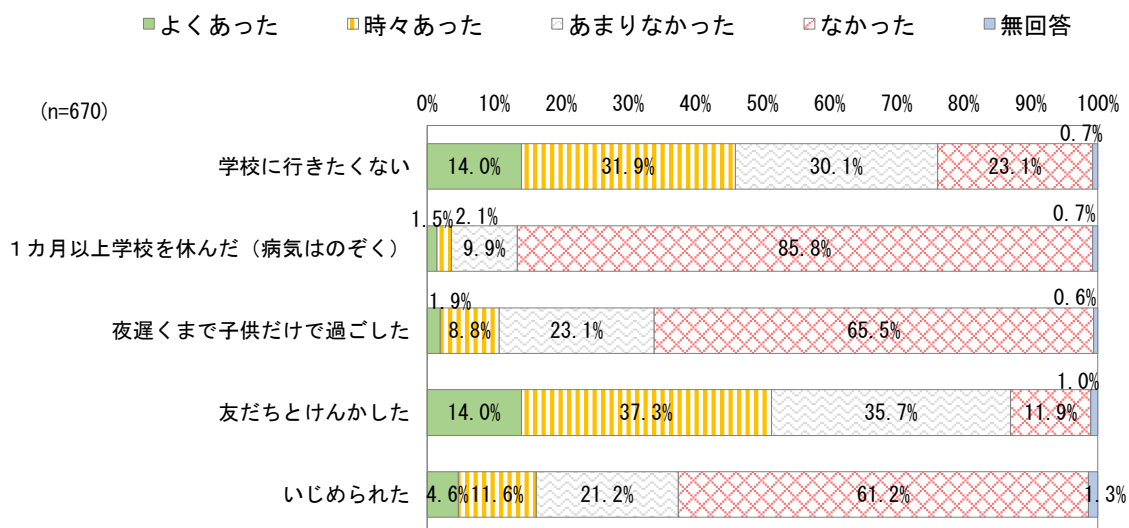
就寝時間



問19 あなたは、これまで以下のようなことがありましたか。

『あった』（「よくあった」＋「時々あった」）は「友だちとけんかした」が 51.3%、「学校に行きたくない」が 45.9%と高く、『なかった』では「1 カ月以上学校を休んだ（病気はのぞく）」85.8%が最も高くなっている。

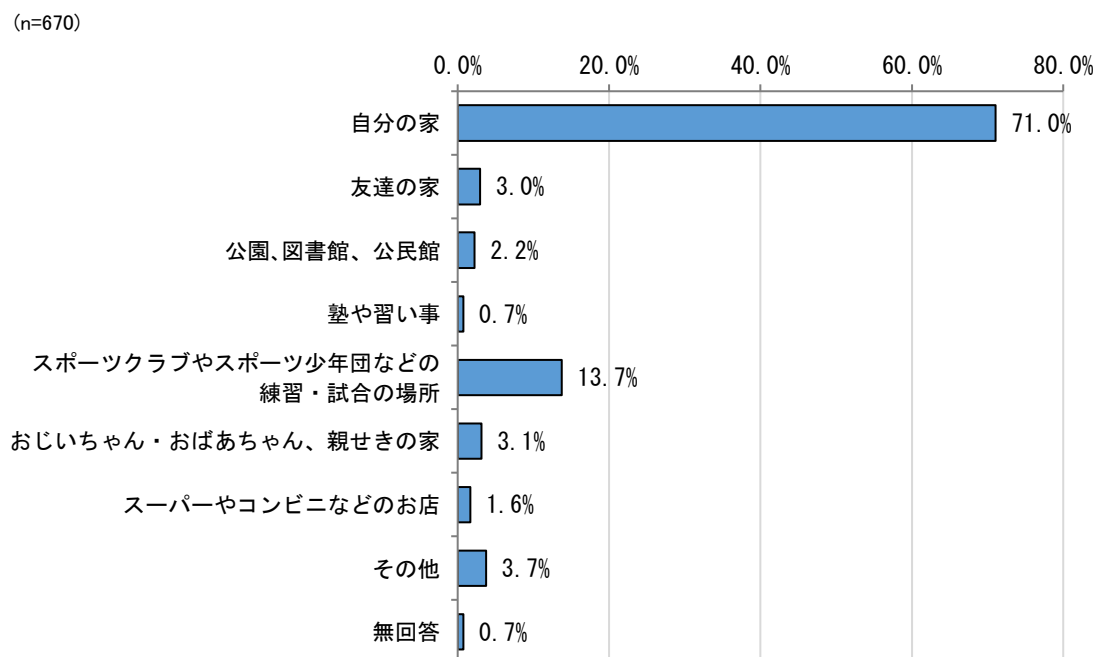
これまでにあったこと



問20 あなたは、学校がお休みの日はどこで過ごしますか。

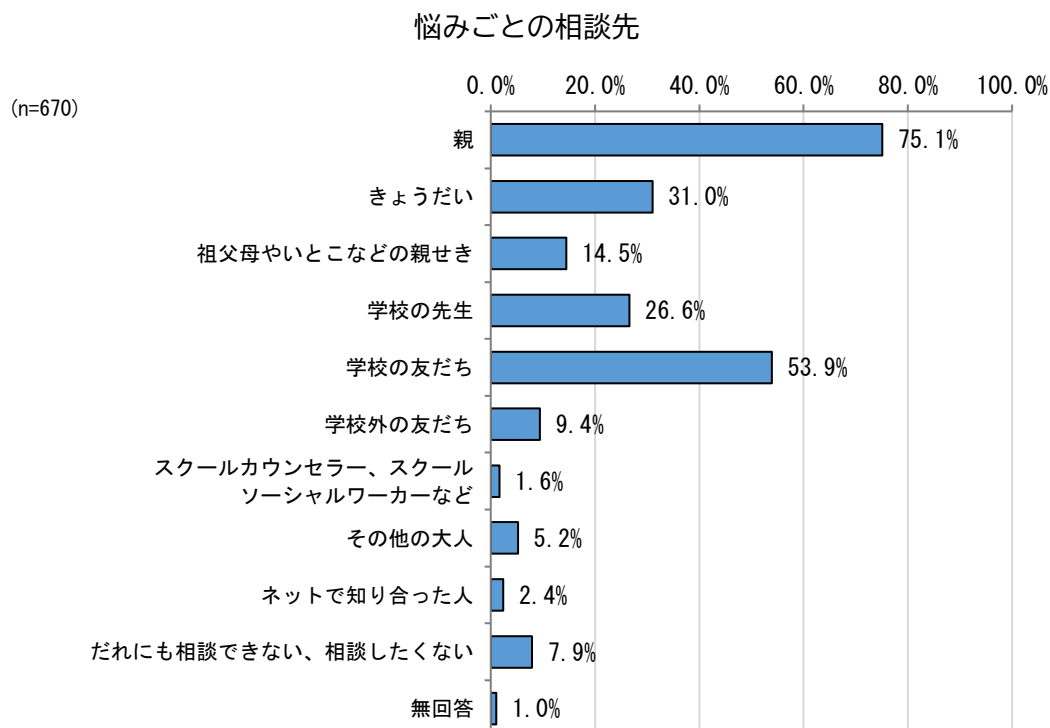
休日に過ごす場所については、「自分の家」71.0%が最も高く、次いで「スポーツクラブやスポーツ少年団などの練習・試合の場所」13.7%となっている。

休日の過ごし方



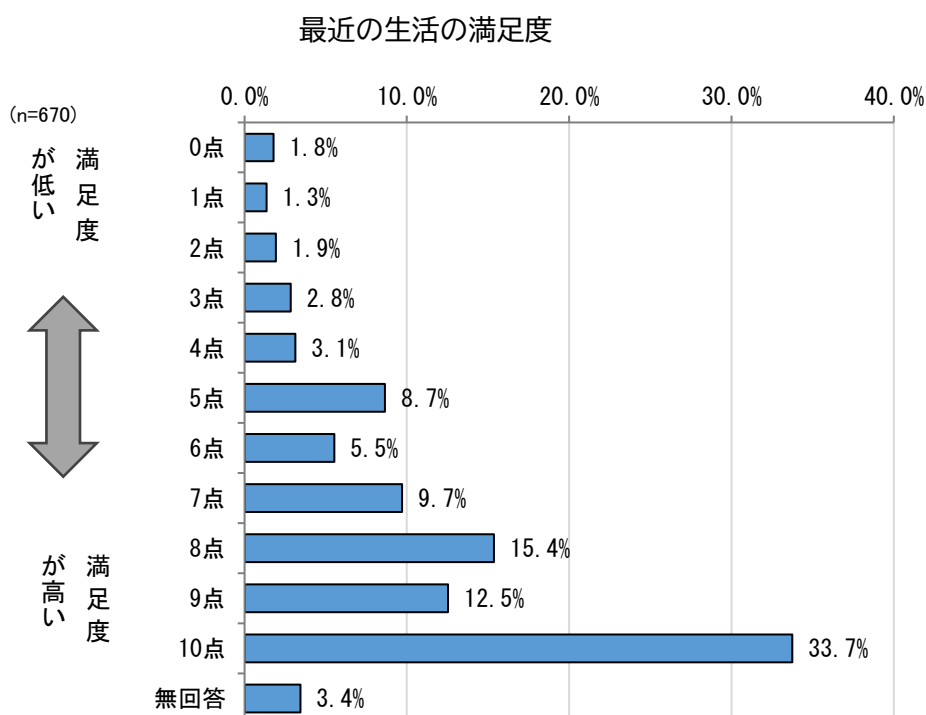
問21 あなたに困っていることや悩みごとがあるとき、あなたが相談できると思う人はだれですか。

相談できると思う人については、「親」75.1%が最も高く、次いで「学校の友だち」53.9%、「きょうだい」31.0%となっている。



問22 全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。

満足度については、「10点」33.7%が最も高く、次いで「8点」15.4%、「9点」12.5%となっている。



問23 以下のそれぞれの質問について、「あてはまらない」「まああてはまる」「あてはまる」のどれから回答してください。回答は、あなたが5年生になってからのあなたのことについて答えてください。答えに自信がなくても、全部の質問に答えてください。

『あてはまる』（「まああてはまる」＋「あてはまる」）は「仲の良い友だちがいる」96.7%が最も高く、次いで「i）年下の子供たちにやさしくしている」93.9%、「a）他人にはやさしくするようにしている。人の気持ちを考えて行動している」93.0%となっている。

一方、『あてはまらない』は「私は、他の子どもから、いじめられたり、からかわれたりする」が75.5%で最も高く、次いで「心配ごとが多くて、いつも不安だ」58.2%となっている。

5年生になってからの回答者のことについて

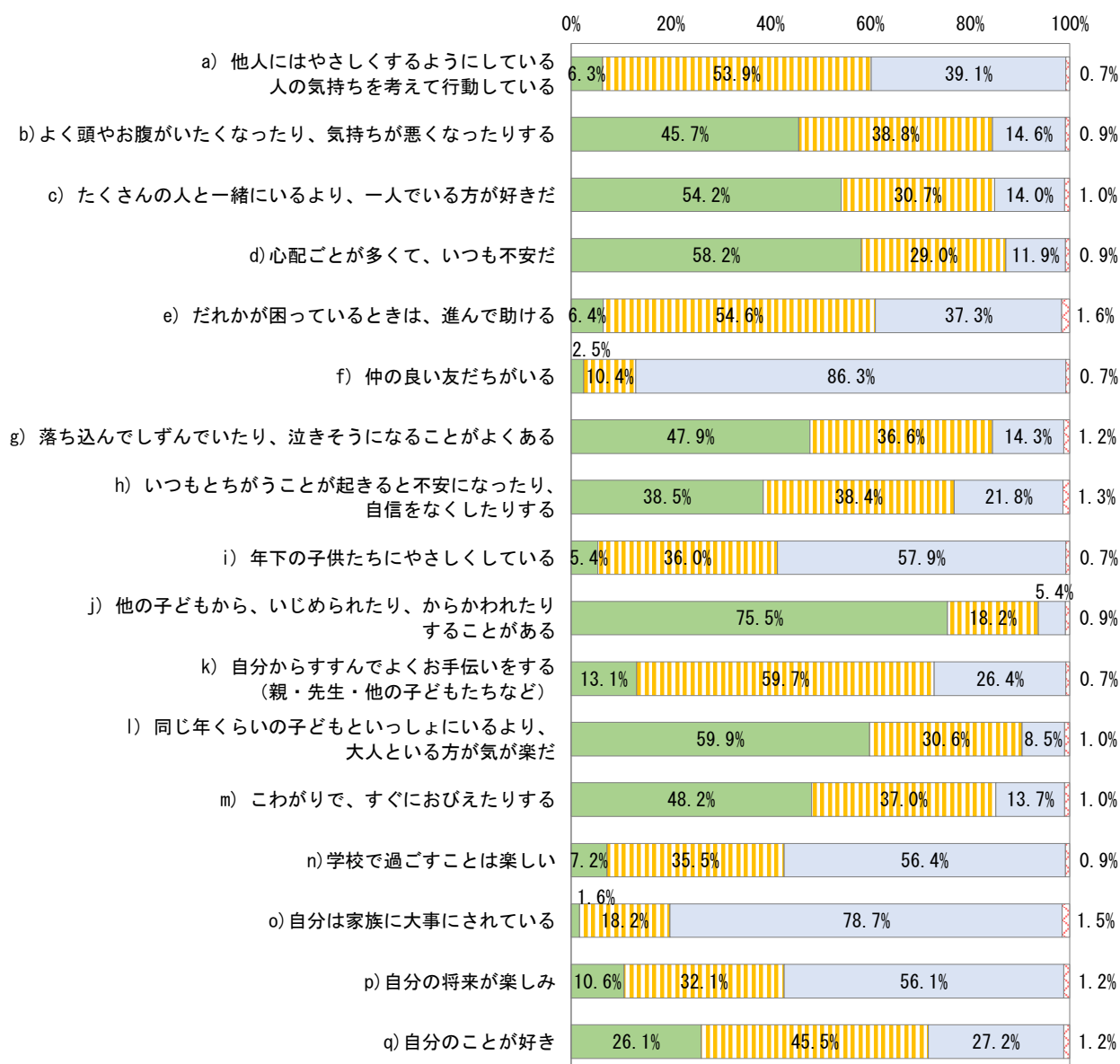
(n=670)

■ あてはまらない

■ まああてはまる

■ あてはまる

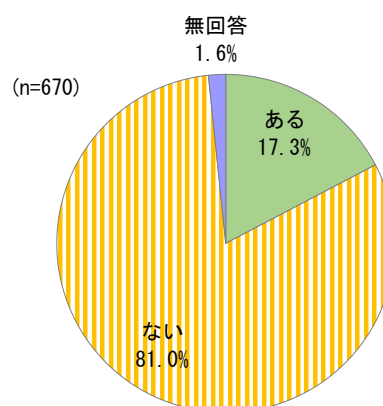
■ 無回答



問24 あなたは、自分や家族のことなどで、心配なことや困っていることがありますか

自分や家族のことなどで、心配なことや困っていることがあるかについては、「ある」17.3%、「ない」81.0%となっている。

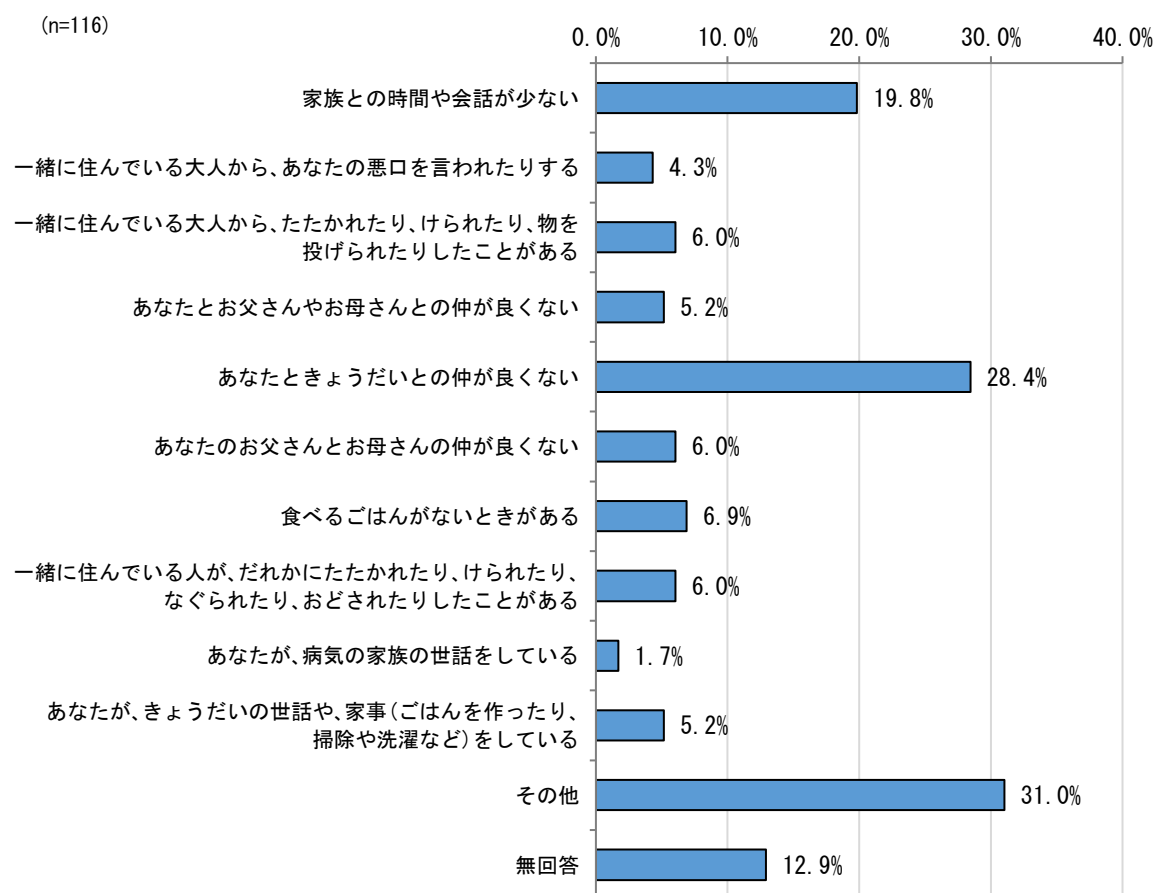
自分や家族のことなどで、心配なことや困っていること



問25 【前の設問で「1.ある」と答えた方にお聞きします】どんな心配ごとや困っていることがありますか。(複数回答)

心配ごとや困っていることについては、「その他」31.0%が最も高く、次いで「あなたときょうだいの仲が良くない」28.4%、「家族との時間や会話が少ない」19.8%となっている。

心配ごとの内容



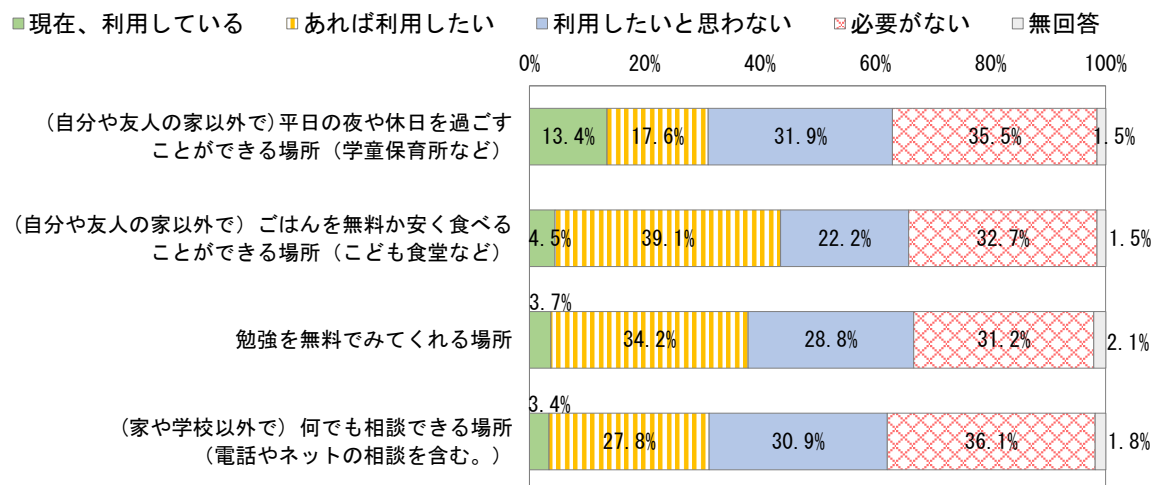
問26 あなたは、次の a～d のような場所を利用してみたいですか。

各施設等の利用状況について、「現在利用したことがある」と回答した割合が高いのは「(自分や友人の家以外で) 平日の夜や休日を過ごすことができる場所」13.4%が最も高くなっている。

一方『必要がない』は、「(家や学校以外で) 何でも相談できる場所 (電話やネットの相談を含む。)」36.1%が最も高くなっている。

利用希望

(n=670)

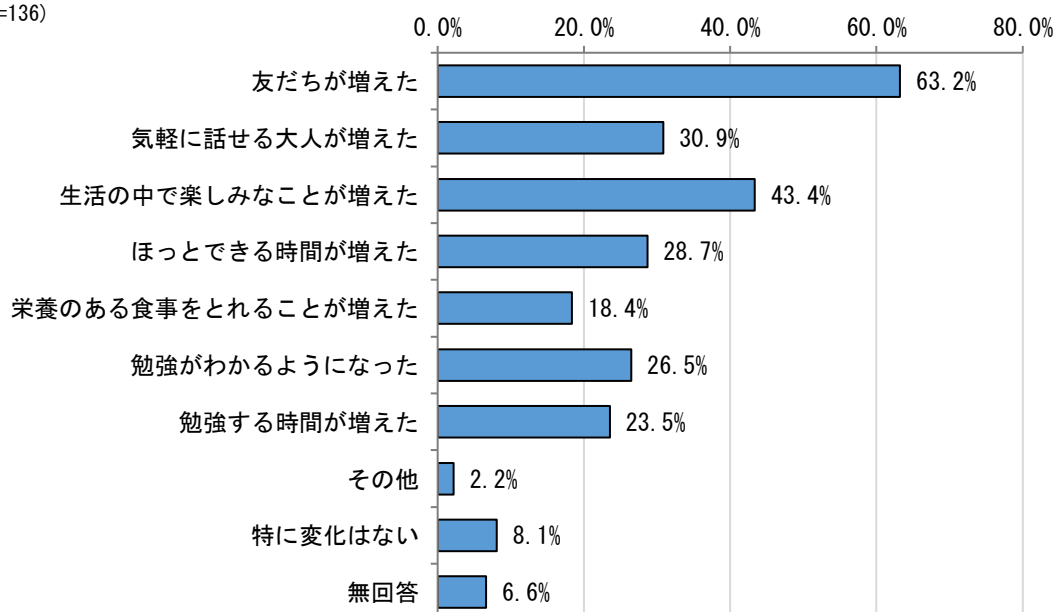


問27 【前の質問で、1つでも「1. 現在、利用している」と答えた方にお聞きします】
そこを利用していることで、以下のような変化がありましたか。(複数回答)

施設利用による変化については、「友だちが増えた」63.2%が最も高く、次いで「生活の中で楽しいことが増えた」43.4%、「気軽に話せる大人が増えた」30.9%となっている。

施設利用による変化

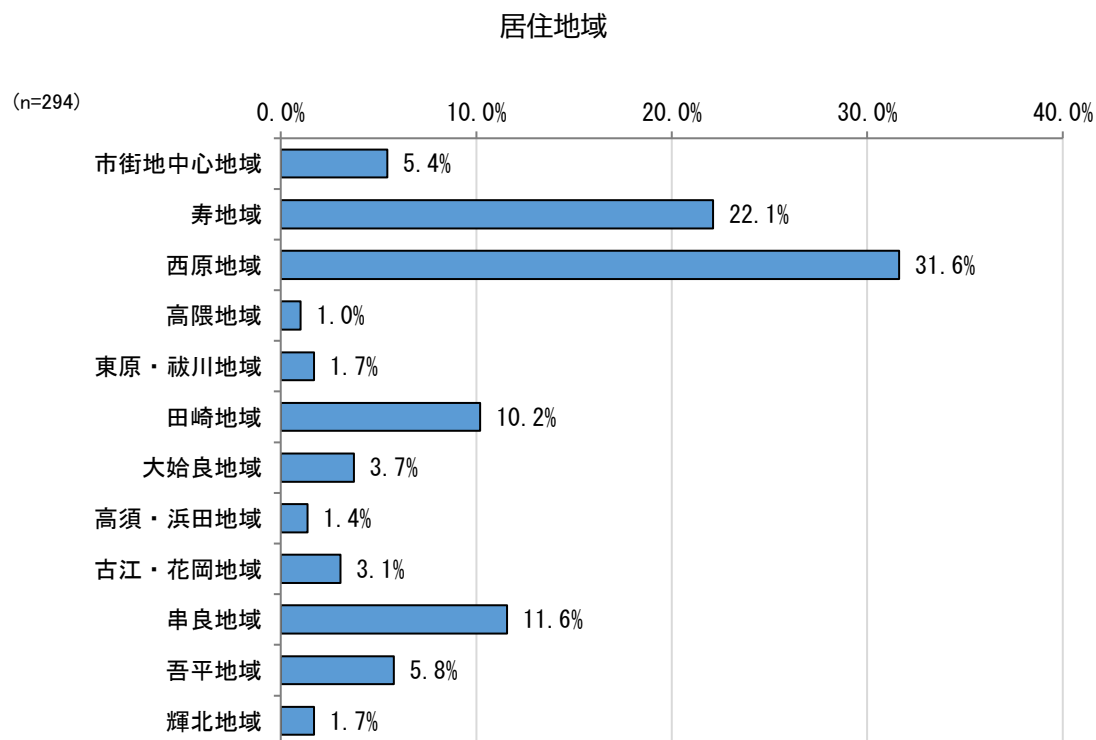
(n=136)



VI 調査結果（小学5年生保護者）

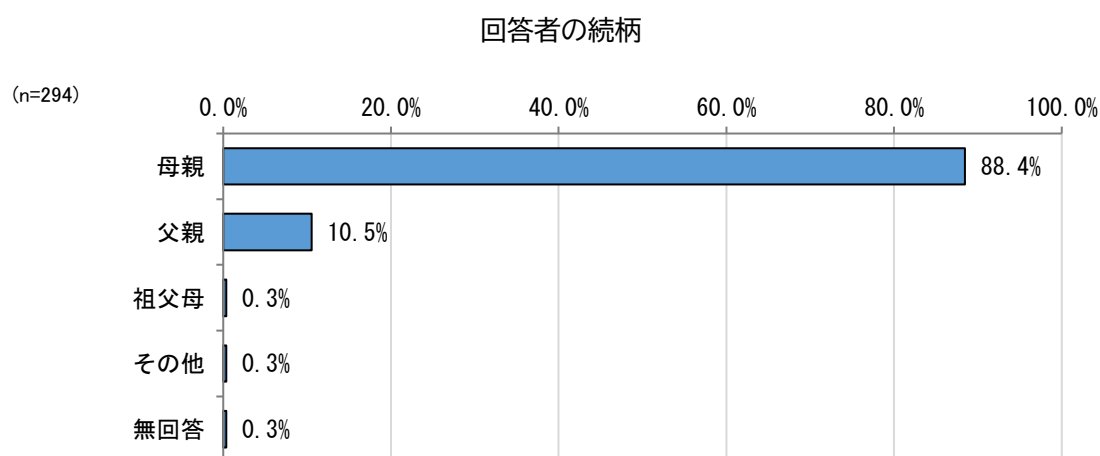
問1(1) お住まいの地域を教えてください。

居住地域は、「西原地域」31.6%が最も高く、次いで「寿地域」22.1%、「串良地域」11.6%となっている。



問2 お子さんとあなたとの関係は、次のどれにあたりますか。お子さんからみた続柄でお答えください。

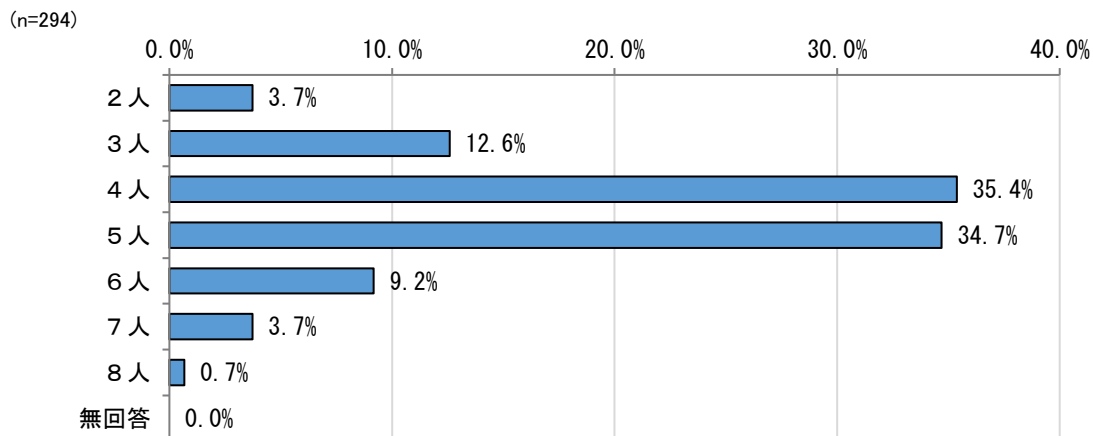
回答者の続柄については、「母親」88.4%が最も高く、次いで「父親」10.5%となっている。



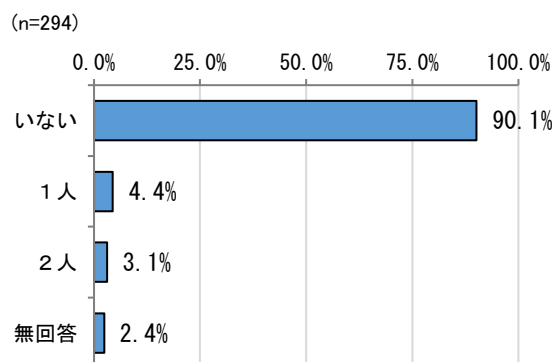
問3 お子さんと同居し、生計を同一にしているご家族の構成と人数をお答えください。
 単身赴任中の方や学業のために世帯を離れているお子さんがいる場合には、ご家族の人数
 に含めて教えてください。

生計を同一にしている家族の構成と人数については、「4人」35.4%が最も高く、次いで
 「5人」34.7%、「3人」12.6%となっている。

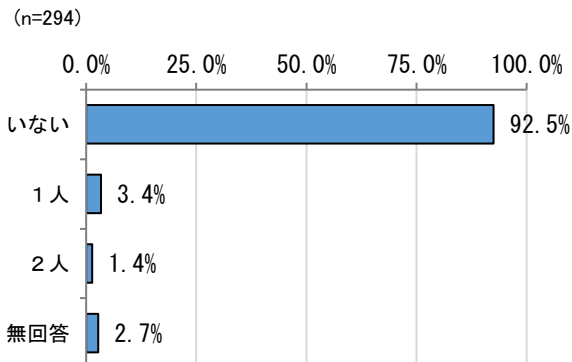
生計を同一にしている家族 h)合計



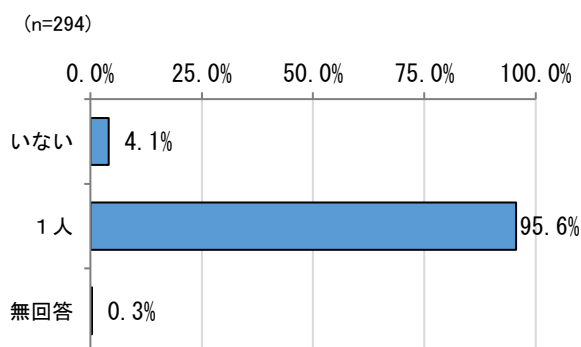
生計を同一にしている家族 a)祖母



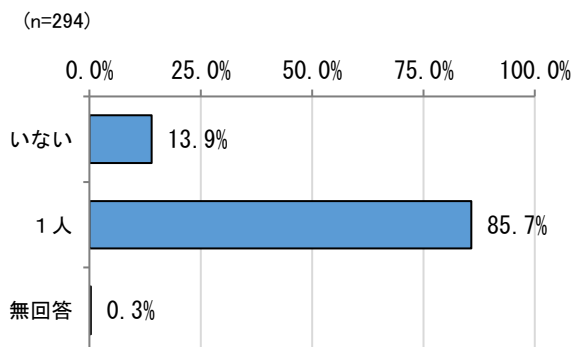
生計を同一にしている家族 b)祖父



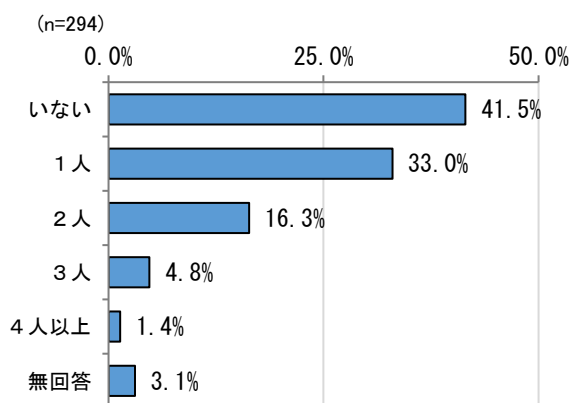
生計を同一にしている家族 c)母親



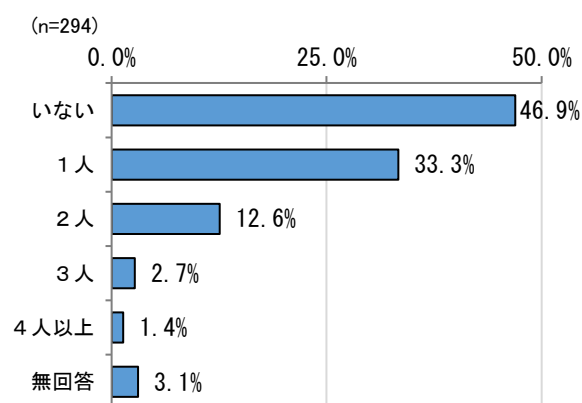
生計を同一にしている家族 d)父親



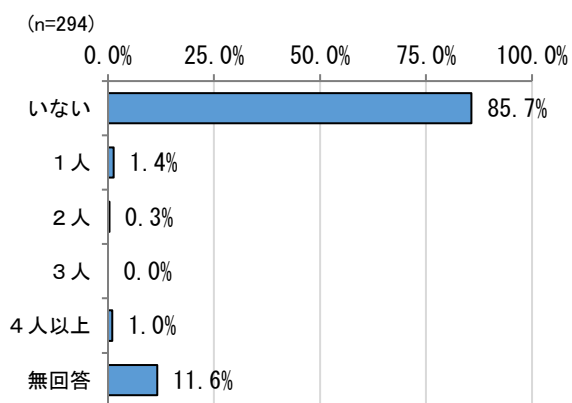
生計を同一にしている家族 e) 姉・兄



生計を同一にしている家族 f) 妹・弟



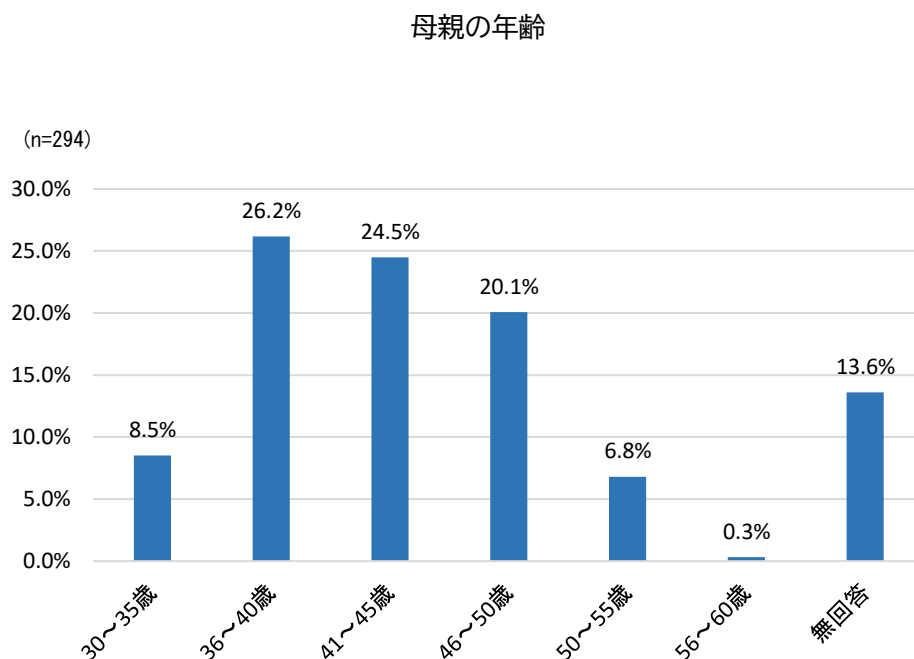
生計を同一にしている家族 g) その他



問4 お子さんの親の現在の年齢についてお答えください。

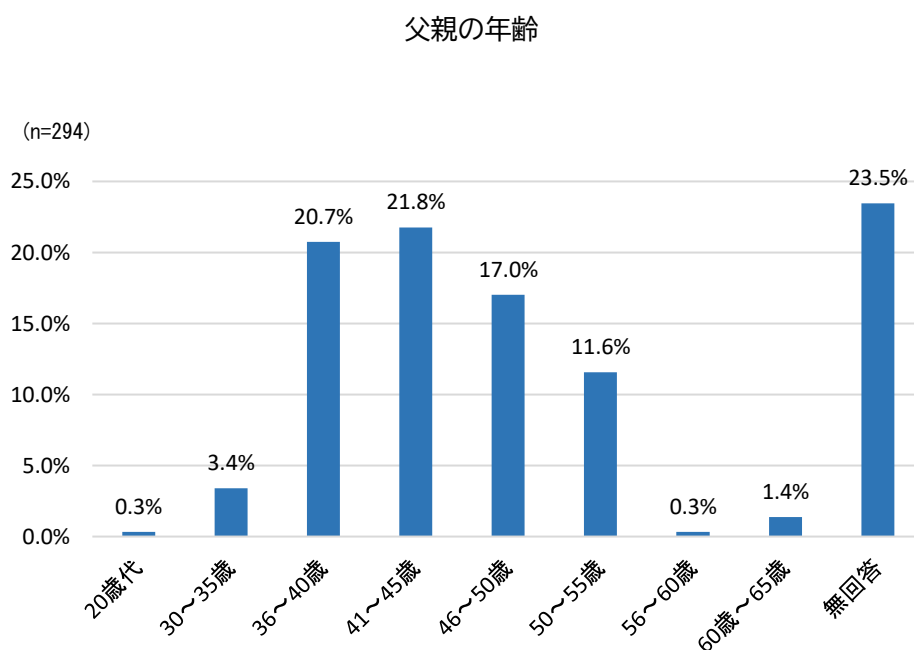
(1) 母親

母親の年齢については、「36～40 歳」26.2%が最も高く、次いで「41～45 歳」24.5%、「46～50 歳」20.1%となっている。



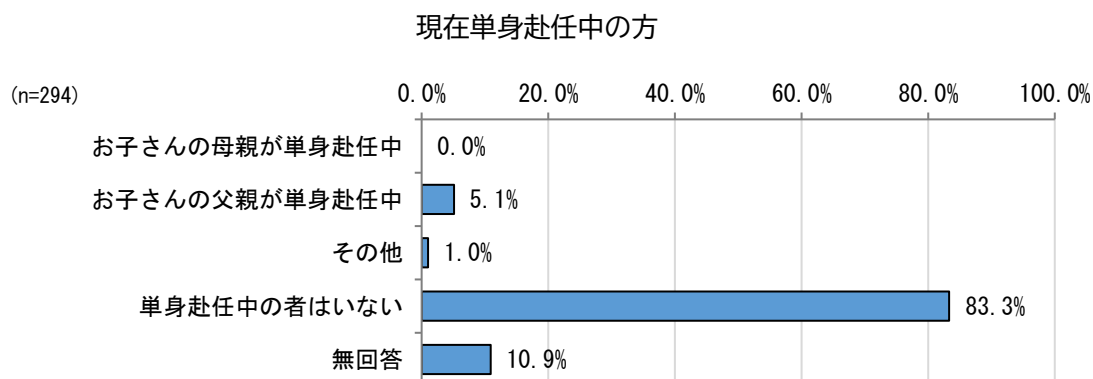
(2) 父親

父親の年齢については、「41～45 歳」21.8%が最も高く、次いで「36～40 歳」20.7%、「46～50 歳」17.0%となっている。



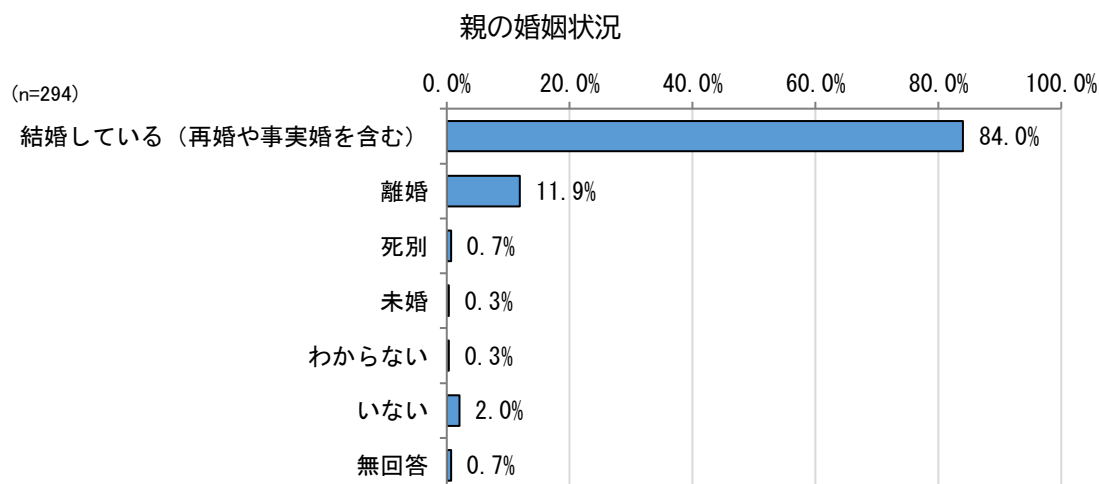
問5 お子さんのご家族のうち、現在単身赴任中の方はいらっしゃいますか。

現在単身赴任中の方については、「単身赴任中の者はいない」83.3%が最も高くなっている。



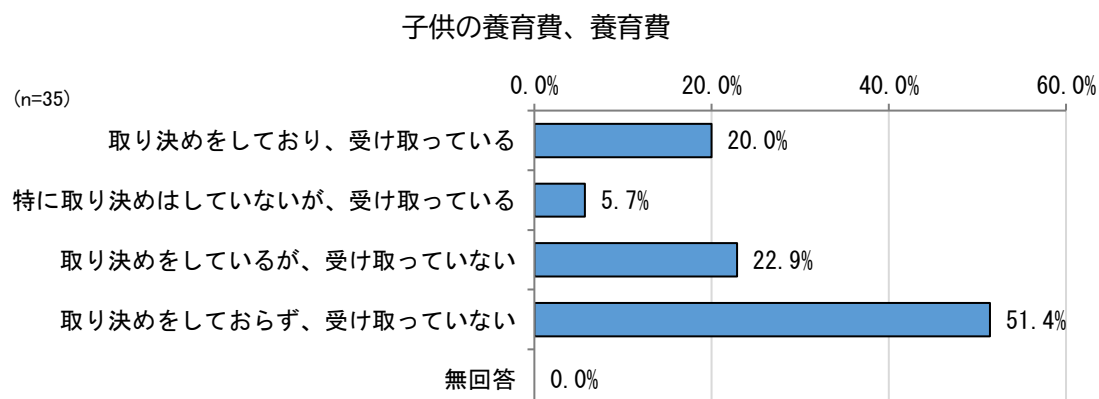
問6 お子さんと同居し、生計を同一にしている親の婚姻状況を教えてください。

親の婚姻状況については、「結婚している（再婚や事実婚を含む）」84.0%が最も高く、次いで「離婚」11.9%となっている。



問7 前問で「2. 離婚」を選んだ場合、離婚相手と子供の養育費の取り決めをしていますか。また養育費を現在受け取っていますか。

子供の養育費、養育費については、「取り決めをしておらず、受け取っていない」51.4%が最も高く、次いで「取り決めをしているが、受け取っていない」22.9%、「取り決めをしており、受け取っている」20.0%となっている。

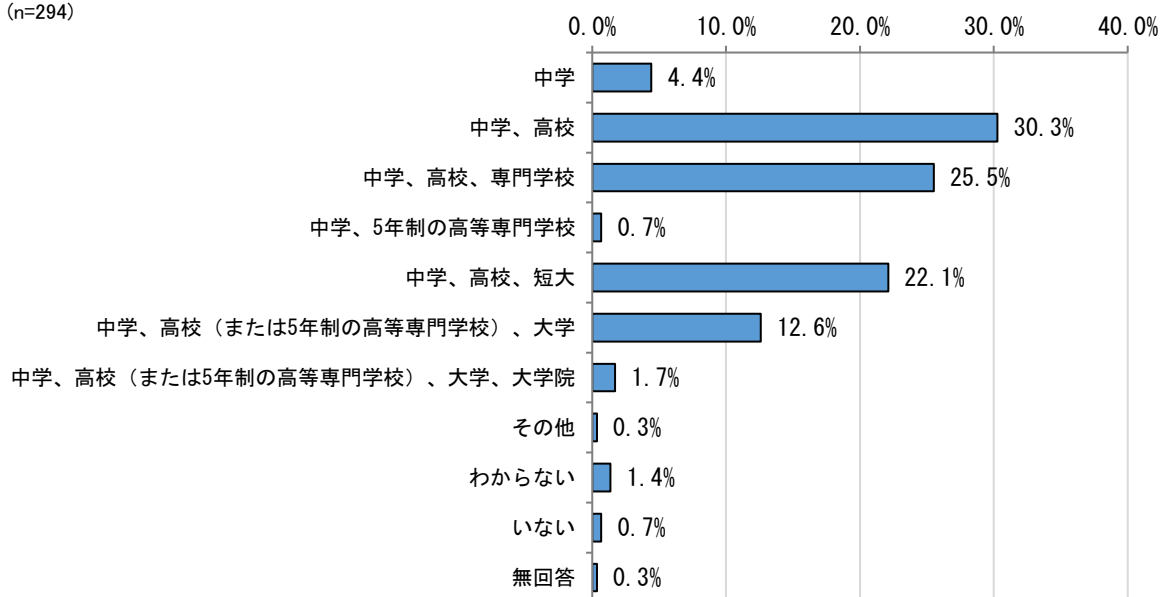


問8 お子さんの親が卒業・修了した学校をお答えください。

親の卒業・修了した学校については、母親は「中学、高校」30.3%が最も高く、次いで「中学、高校、専門学校」25.5%、「中学、高校、短大」22.1%となっている。父親は「中学、高校」37.8%が最も高く、次いで「中学、高校（または5年制の高等専門学校）、大学」18.7%、「中学、高校、専門学校」18.4%となっている。

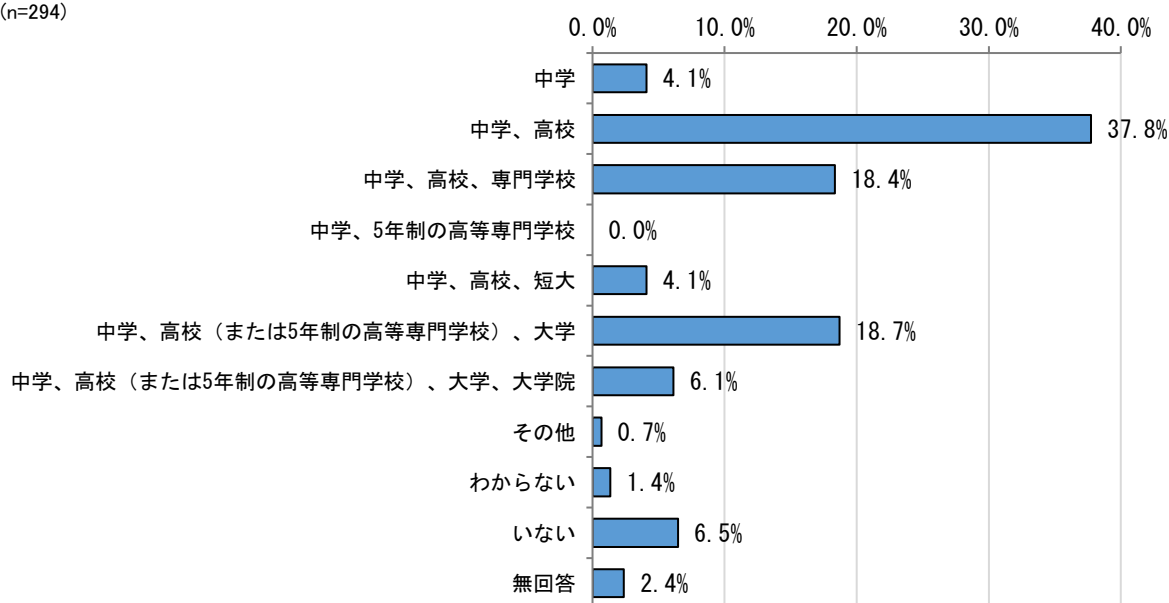
卒業・修了した学校（母親）

(n=294)



卒業・修了した学校（父親）

(n=294)

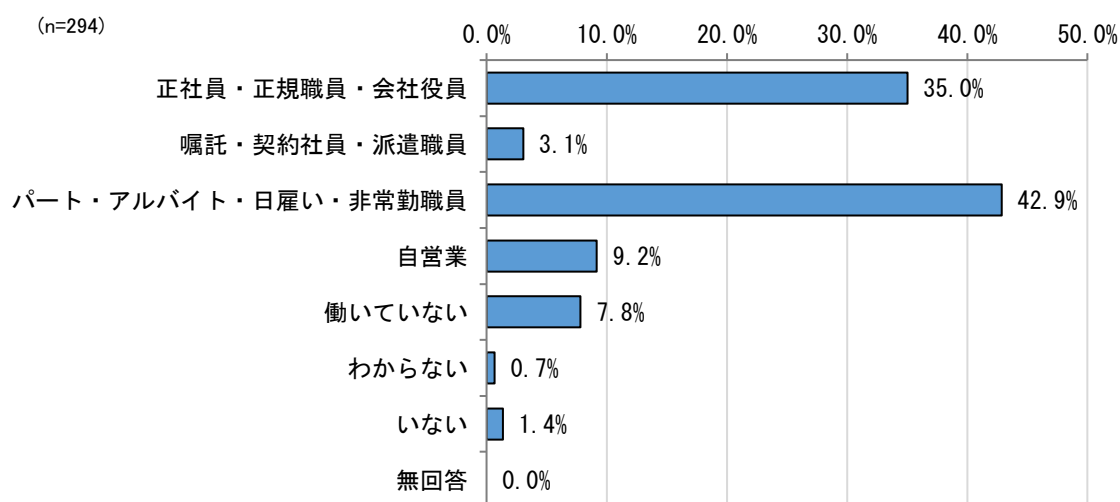


問9 お子さんの親の就労状況について、あてはまるものを回答してください。

(1) 母親

母親の就労状況については、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」42.9%が最も高く、次いで「正社員・正規職員・会社役員」35.0%となっている。

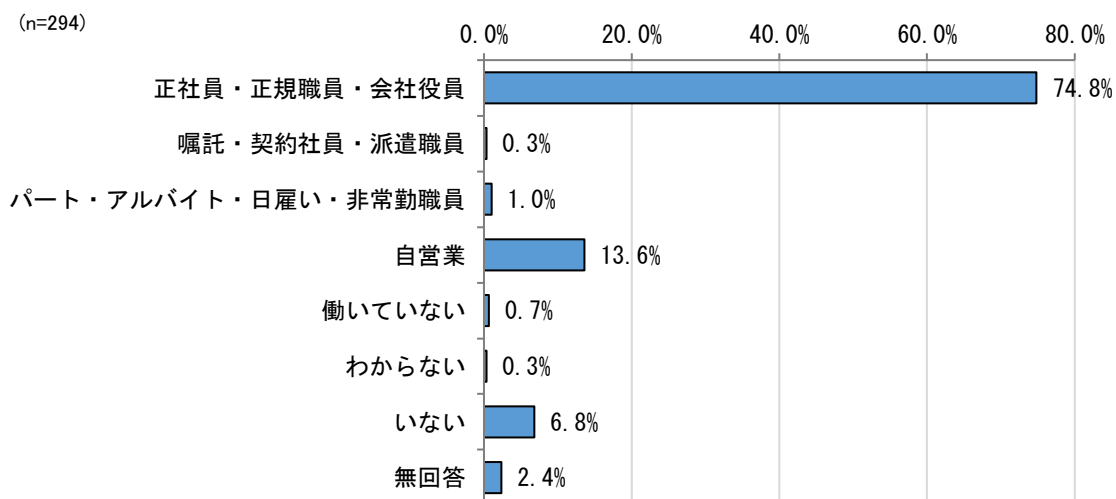
子どもの保護者の就労状況（母親）



(2) 父親

父親の就労状況については、「正社員・正規職員・会社役員」74.8%が最も高く、次いで「自営業」13.6%となっている。

子どもの保護者の就労状況（父親）

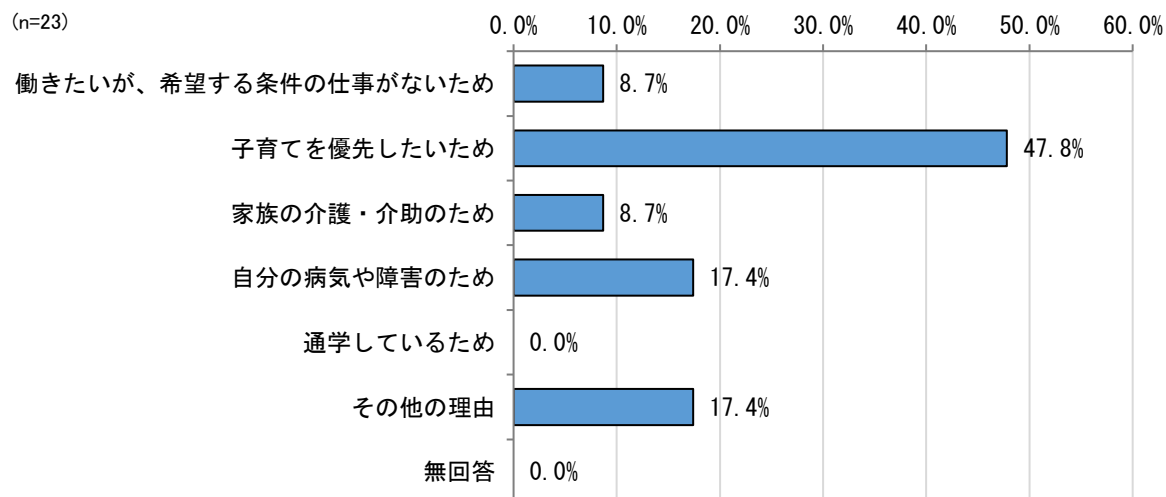


問10 前の質問で「5. 働いていない」と答えた場合、働いていない最も主な理由を教えてください。

(1) 母親

母親が働いていない最も主な理由については、「子育てを優先したいため」47.8%が最も高く、次いで「自分の病気や障害のため」、「その他の理由」がいずれも17.4%となっている。

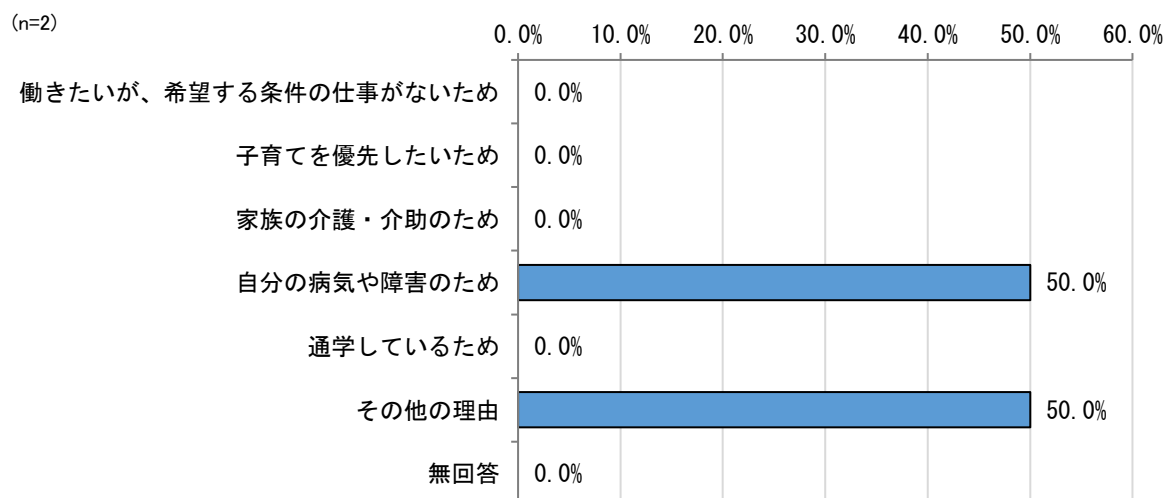
働いていない最も主な理由（母親）



(2) 父親

父親が働いていない最も主な理由については、「自分の病気や障害のため」、「その他の理由」がいずれも50.0%となっている。

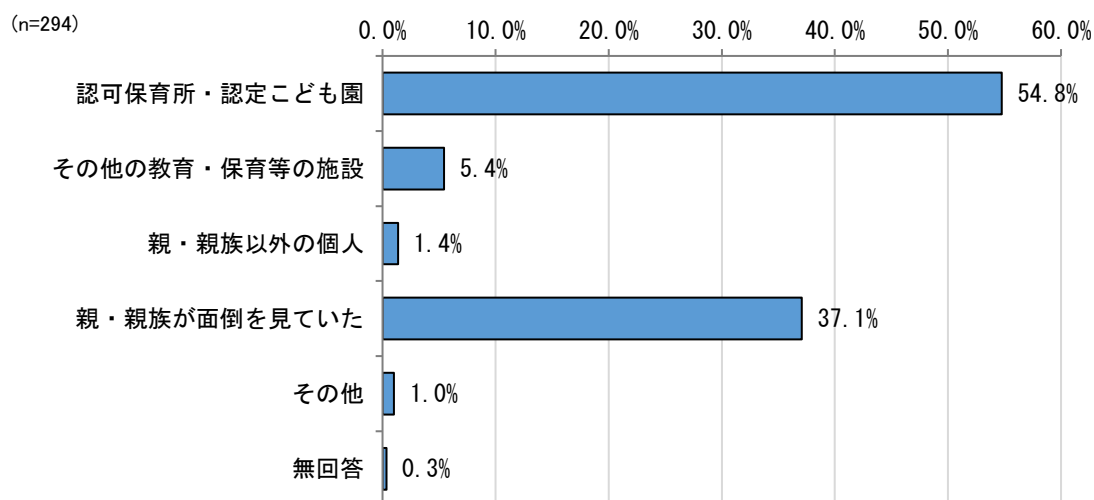
働いていない最も主な理由（父親）



問11 お子さんが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの(期間が長いもの)をお答えください。

子どもが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なものについては、「認可保育所・認定こども園」54.8%が最も高く、次いで「親・親族が面倒を見ていた」37.1%となっている。

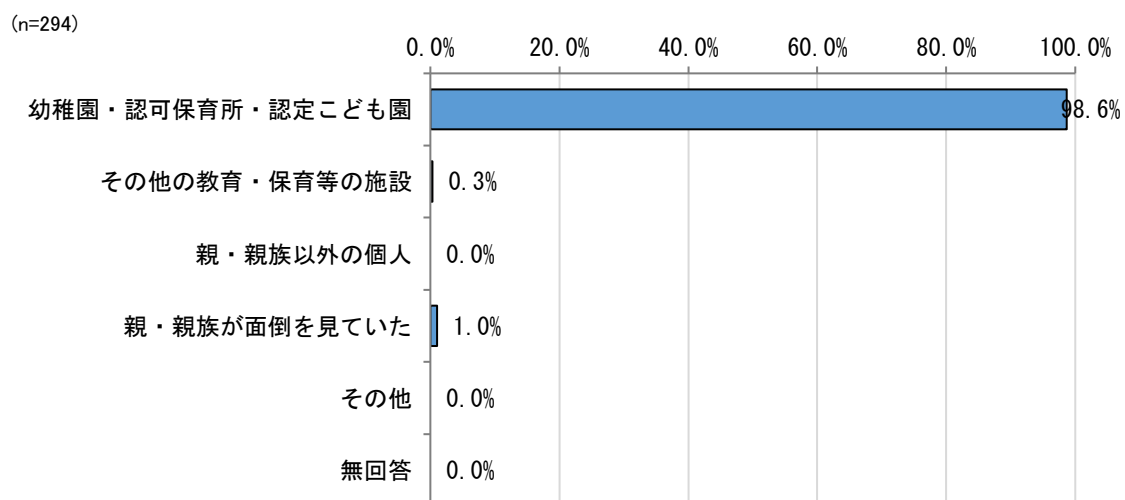
0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等



問12 お子さんが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの(期間が長いもの)をお答えください。

子どもが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なものについては、「認可保育所・認定こども園」98.6%が最も高くなっている。

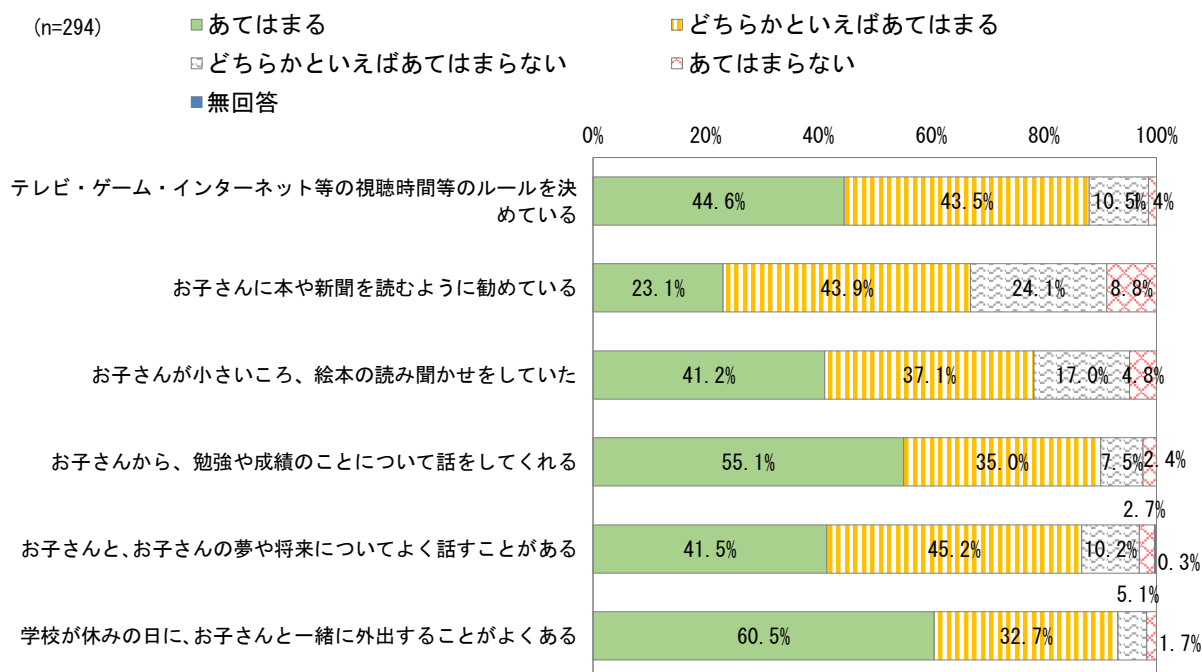
3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等



問13 あなたとお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらい当てはまりますか。

子どもとの関わり方については、『あてはまる』（「あてはまる」＋「どちらかといえばあてはまる」）と回答した人が6割以上を占めており、特に「学校が休みの日に、お子さんと一緒に外出することがよくある」93.2%が最も高くなっている。

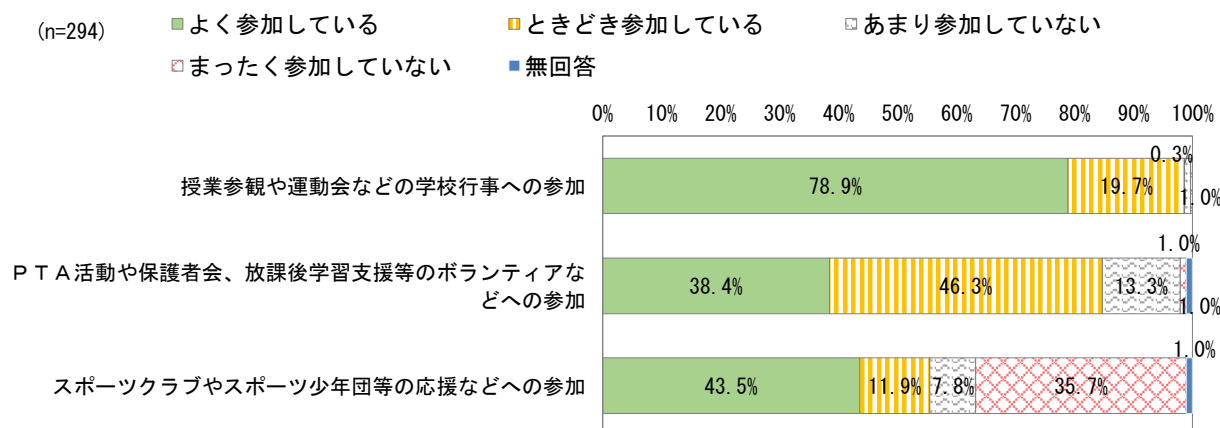
お子さんとの関わり方



問14 あなたは、次のようなことをどの程度していますか。

学校行事、ボランティアなどへの参加については、『参加している』（「よく参加している」＋「ときどき参加している」）が5割以上を占めており、特に「授業参観や運動会などの学校行事への参加」98.6%が最も高くなっている。

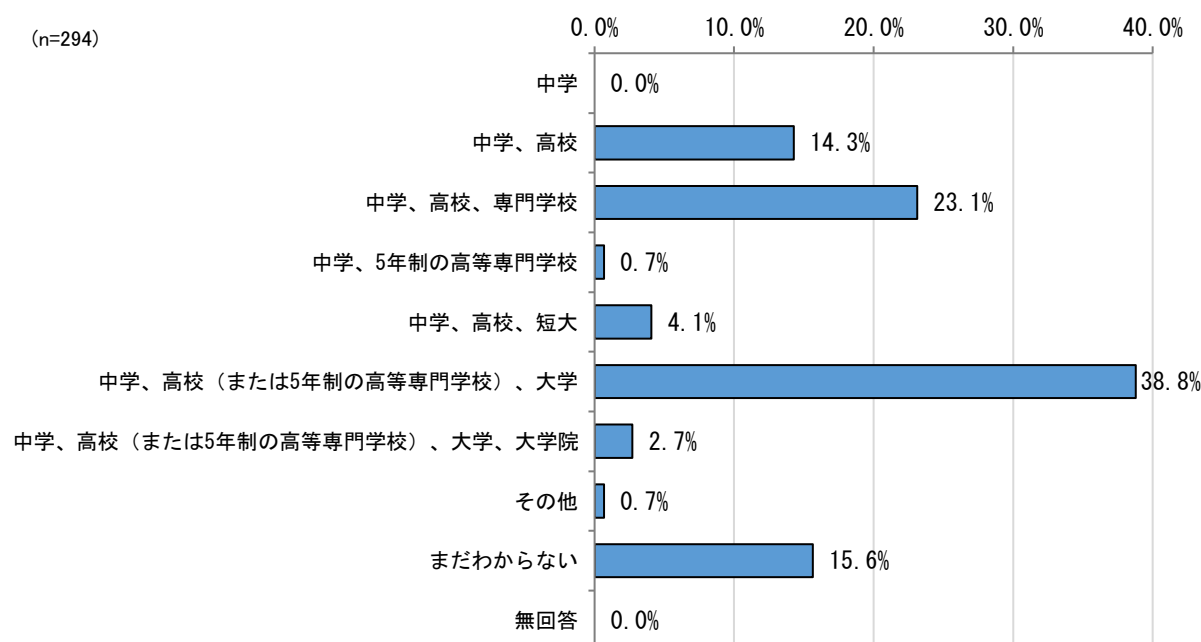
学校行事、ボランティアなどへの参加



問15 あなたは、お子さんの将来の進学について、どこまで進学してほしいと思いますか。

子どもの将来の進学の希望については、「中学、高校（または5年制の高等専門学校）、大学」38.8%が最も高く、次いで「中学、高校、専門学校」23.1%、「まだわからない」15.6%となっている。

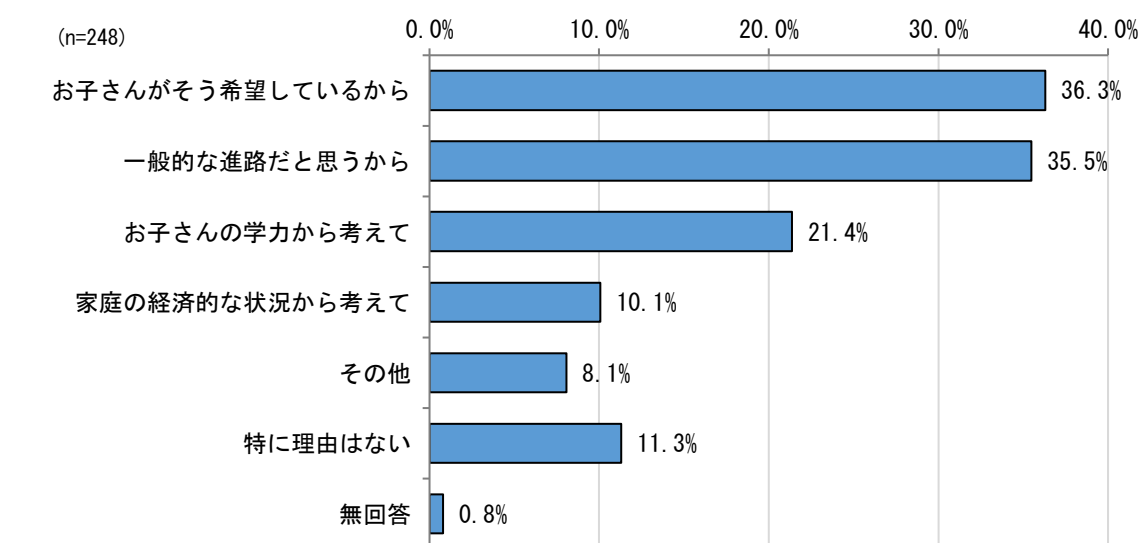
子どもの将来の進学の希望



問16 前の質問で1～8と答えた場合、その理由は何ですか。

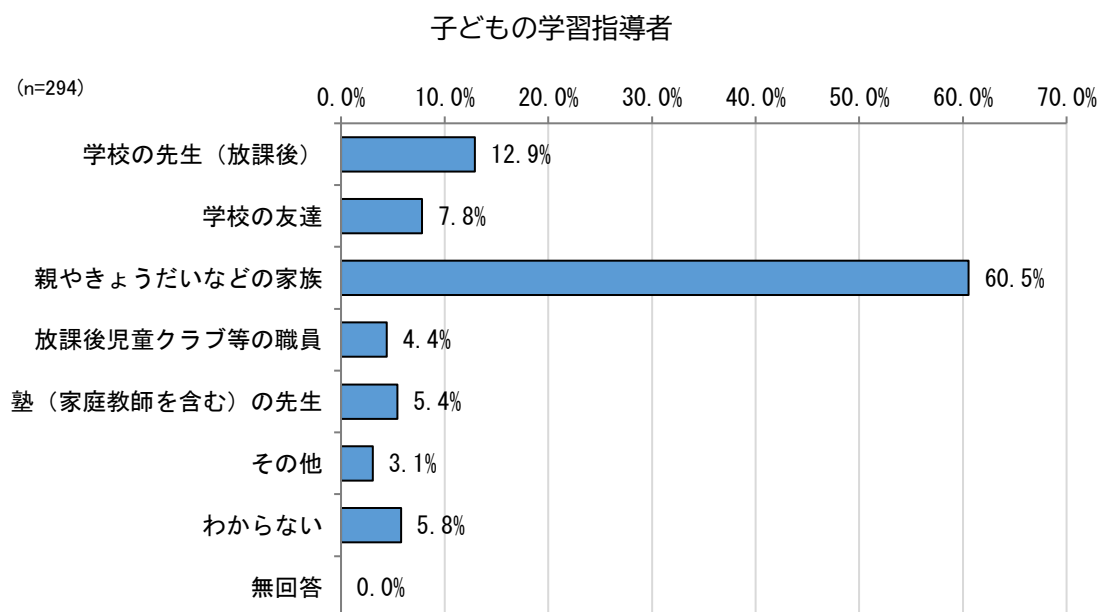
選択した進学先の回答理由については、「お子さんがそう希望しているから」36.3%が最も高く、次いで「一般的な進路だと思うから」35.5%、「お子さんの学力から考えて」21.4%となっている。

選択した進学先の回答理由



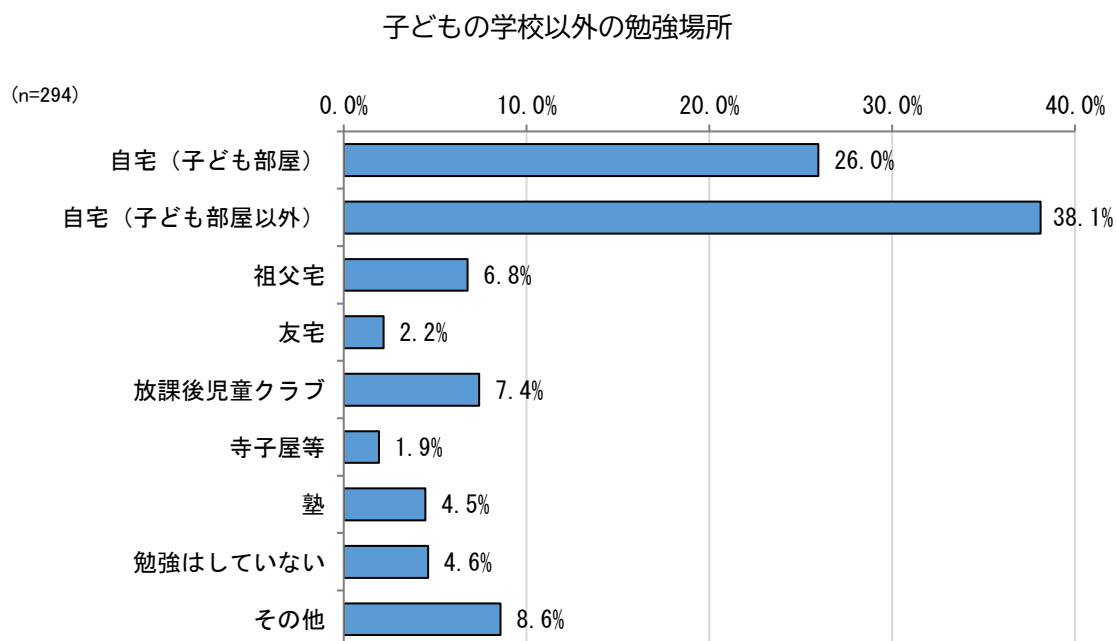
問17 お子さんは、学校での学習で分からないことを、主に誰に教えてもらっていますか。

子どもの学習指導者については、「親やきょうだいなどの家族」60.5%が最も高く、次いで「学校の先生（放課後）」12.9%となっている。



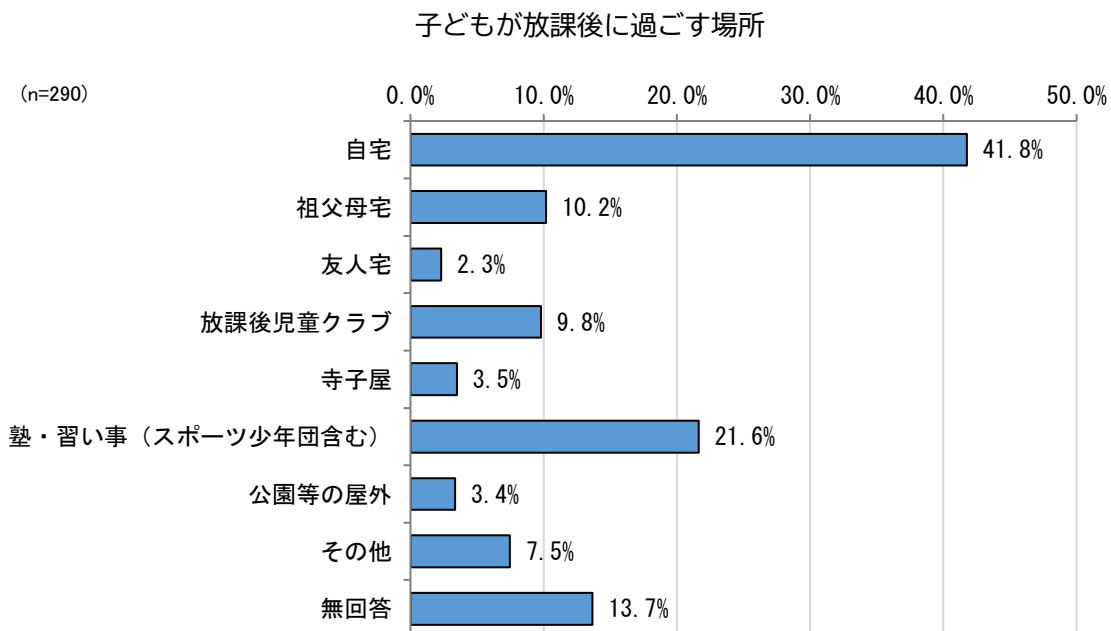
問18 お子さんが学校以外で勉強している場所について、教えてください。

子どもの学校以外の勉強場所については、「自宅（子ども部屋以外）」38.1%が最も高く、次いで「自宅（子ども部屋）」26.0%となっている。



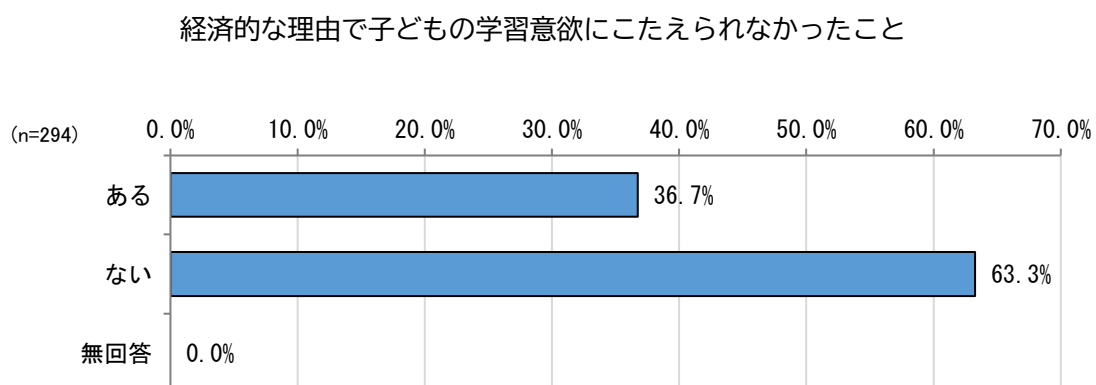
問19 お子さんが放課後に過ごす場所として、今後利用したい(適している)と思う場所を教えてください。(複数回答)

子どもが放課後に過ごす場所として、今後利用したいと思う場所は、「自宅」41.8%が最も高く、次いで「塾・習い事(スポーツ少年団含む)」21.6%、「祖父母宅」10.2%となっている。



問20 経済的な理由により、子どもの学習意欲にこたえられなかったことがありますか。

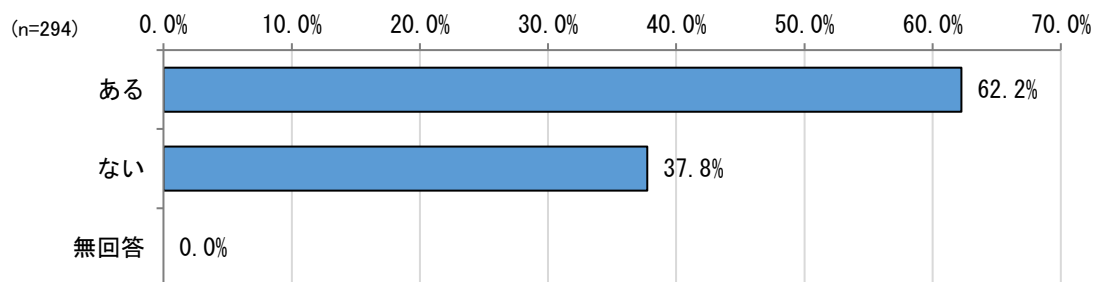
経済的な理由で子どもの学習意欲にこたえられなかったことがあるかについては、「ある」36.7%、「ない」63.3%となっている。



問21 経済的な理由により、子どもの進路選択の幅が狭くなるなど、子どもの進路に不安をいだいたことがありますか。

経済的な理由で子ども子どもの進路に不安をいだいたことがあるかについては、「ある」62.2%、「ない」37.8%となっている。

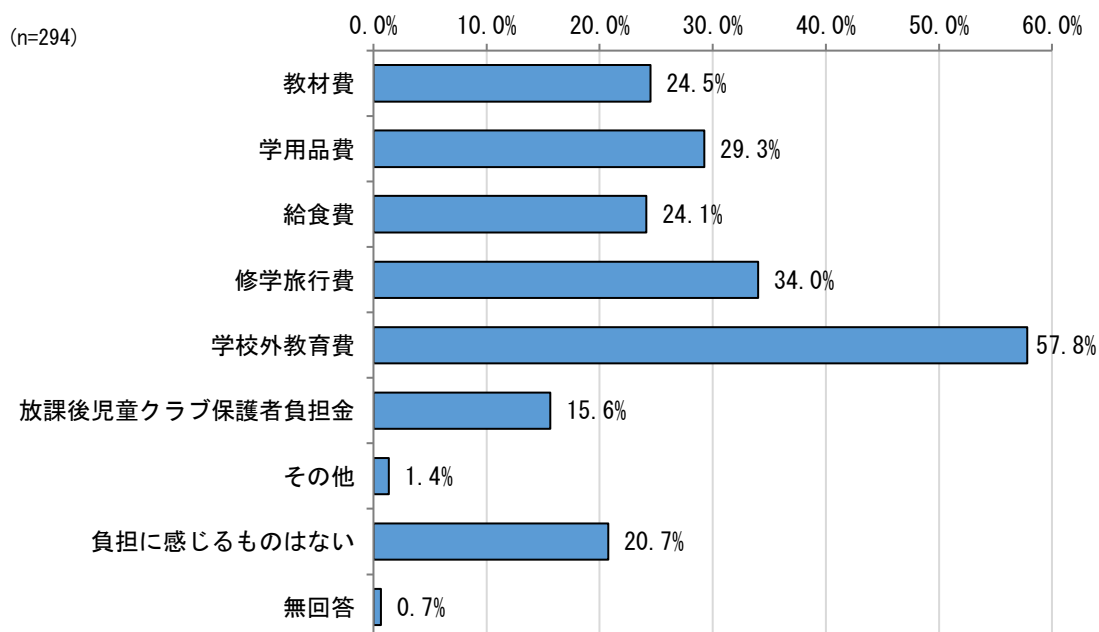
経済的な理由で子どもの進路に不安をいだいたこと



問22 教育関連の支出について、負担に感じるものはありますか。(複数回答)

教育関連の支出で負担に感じるものについては、「学校外教育費」57.8%が最も高く、次いで「修学旅行費」34.0%、「学用品費」29.3%となっている。

教育関連の支出で負担に感じるもの



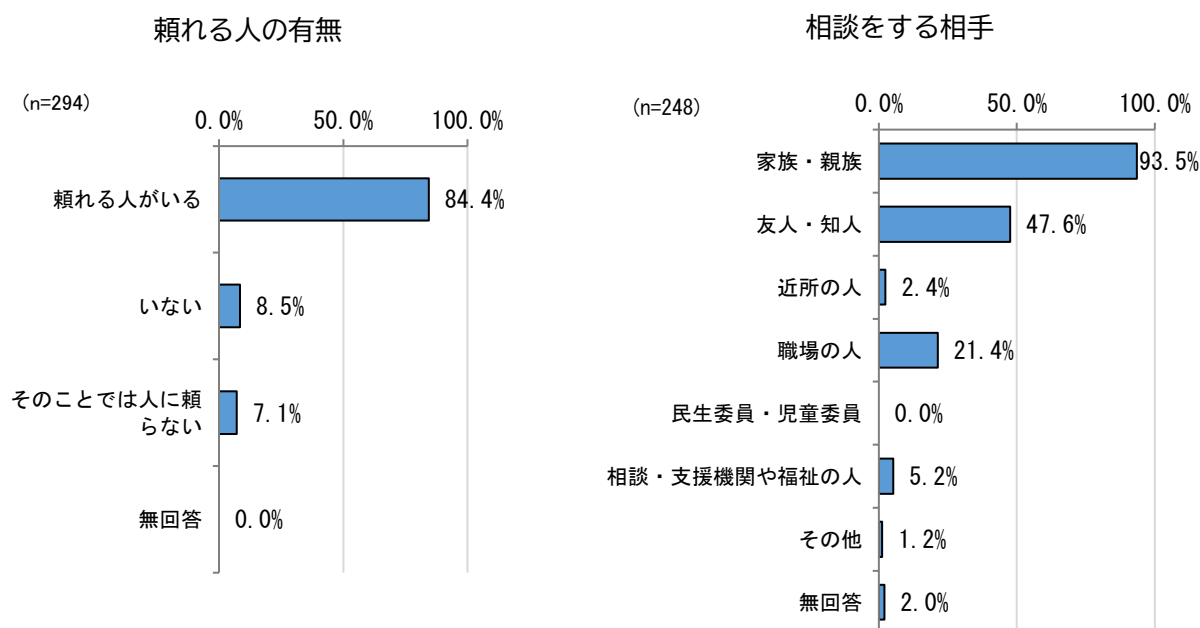
問23 あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。また、「1. 頼れる人がいる」場合、それはだれですか(複数回答)

頼れる人の有無について、「子育てに関する相談」、「重要な事柄の相談」についてはいずれも「頼れる人がいる」が8割を超えている。

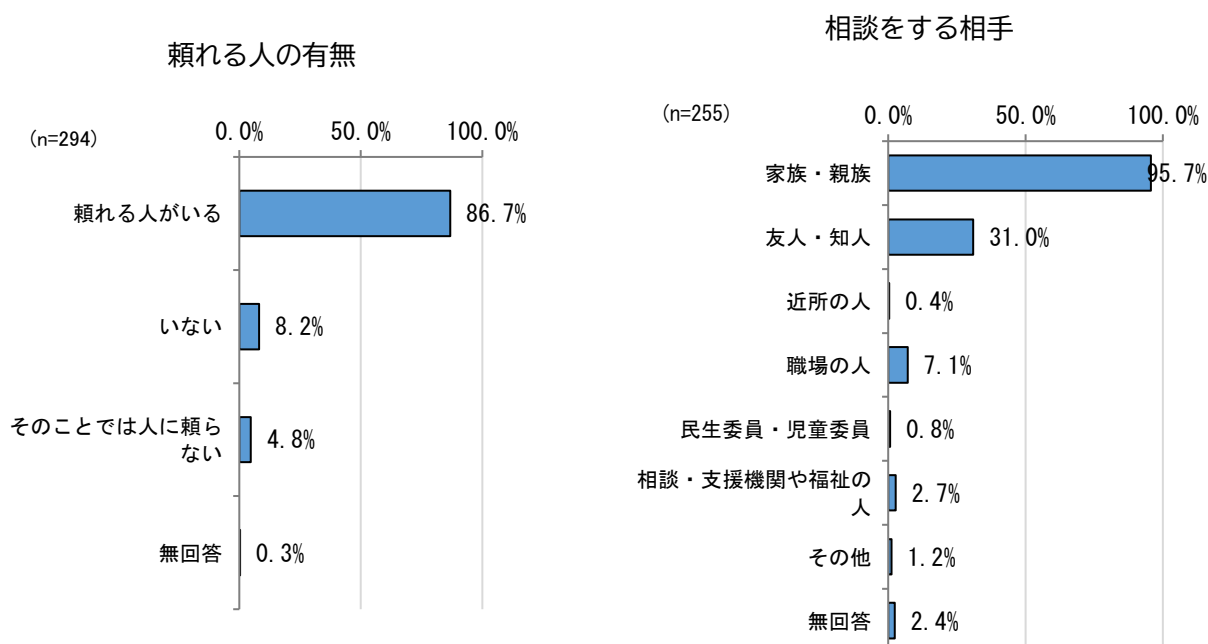
一方、頼れる人が「いない」では「いざという時のお金の援助」が22.4%と他の項目と比較して高くなっている。

頼れる人がいる場合、それは誰かについては、全ての項目で「家族・親戚」が9割を超え最も高くなっている。

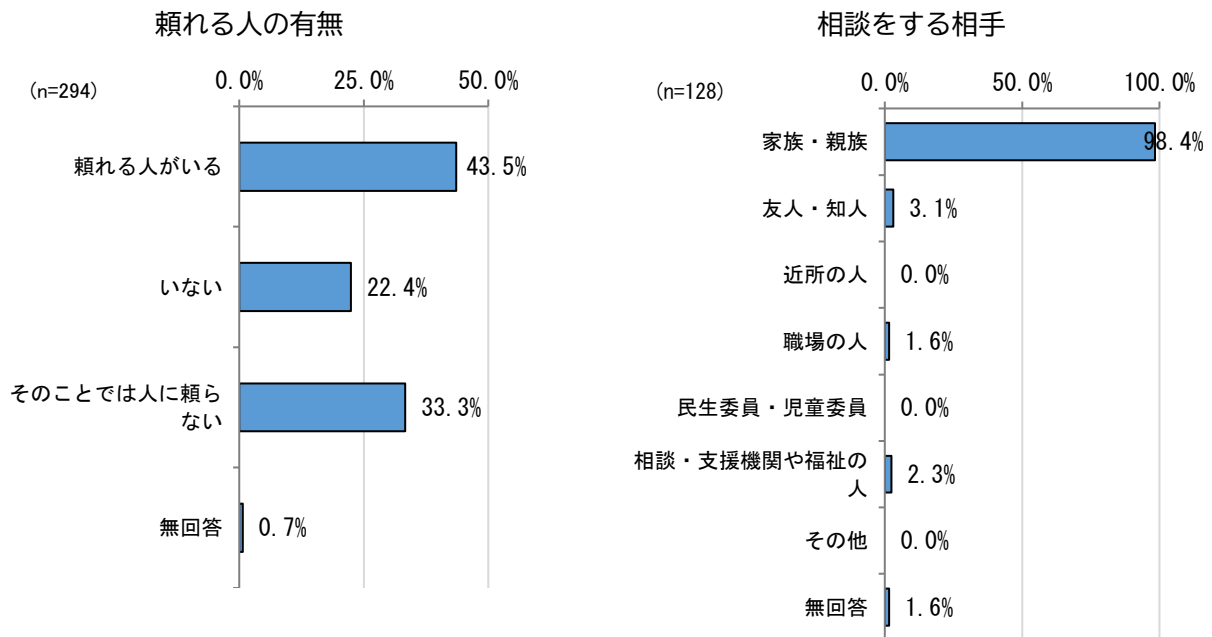
(a) 子育てに関する相談



(b) 重要な事柄の相談



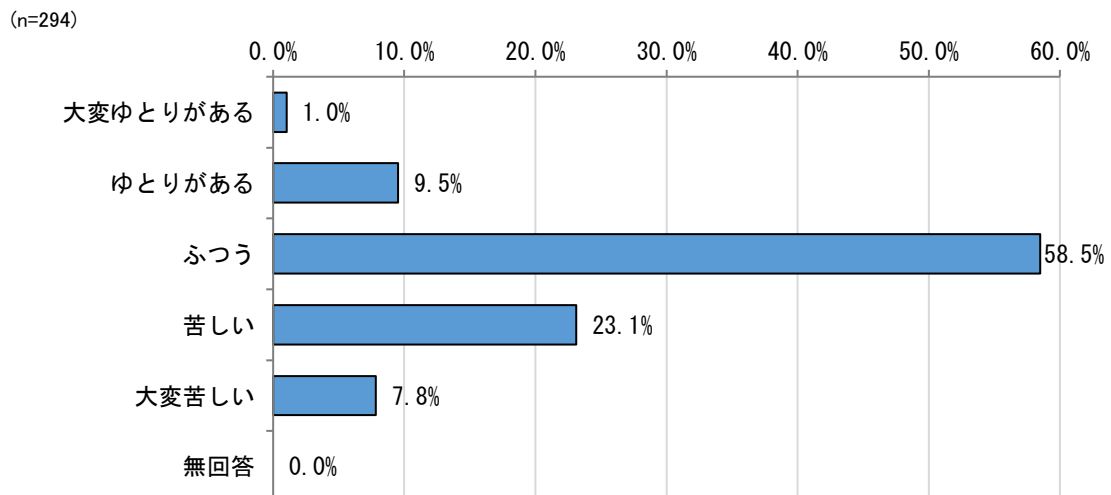
(c) いざという時のお金の援助



問24 あなたは、現在の暮らしの状況をどのように感じていますか

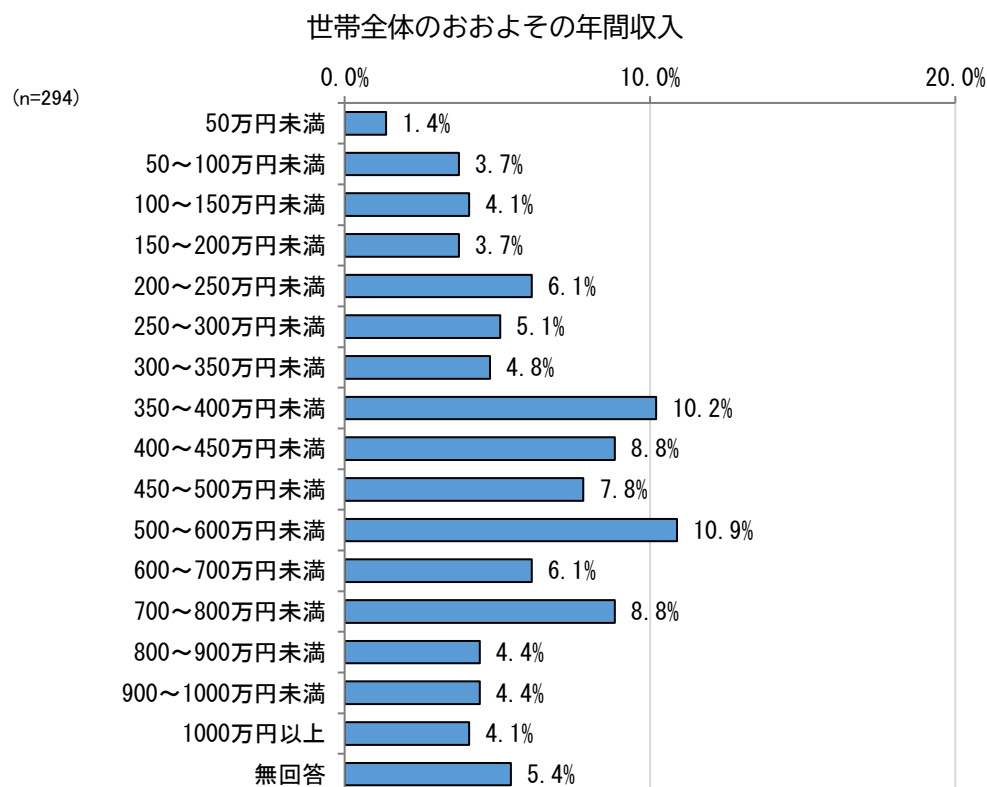
現在の暮らしの状況については、「ふつう」58.5%が最も高く、次いで「苦しい」23.1%、「ゆとりがある」9.5%となっている。

現在の暮らしの状況



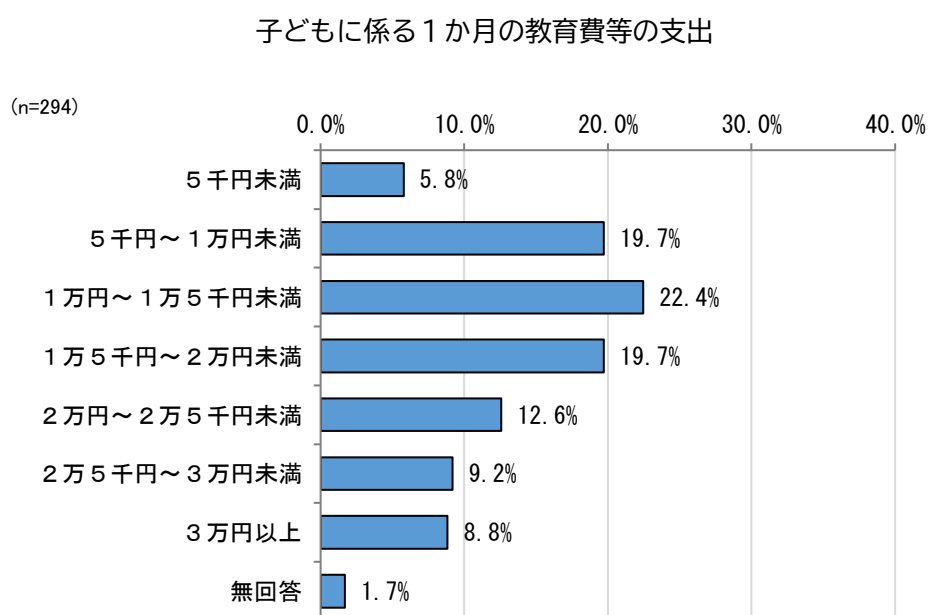
問25 令和4年の世帯全体のおおよその年間収入(税込)はいくらですか。

令和4年の世帯全体のおおよその年間収入については、「500～600万円未満」10.9%が最も高く、次いで「350～400万円未満」10.2%となっている。



問26 お子さんに係る1か月の教育費等の支出は、おおよそいくらくらいですか。

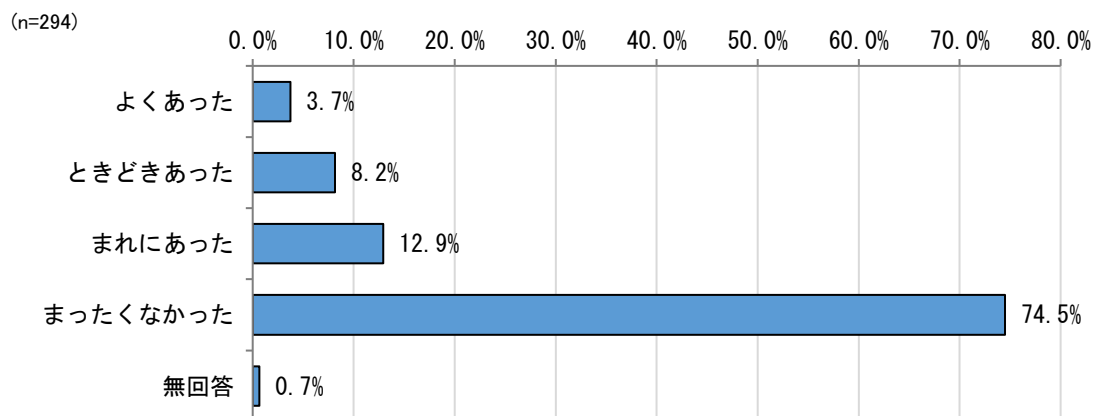
子どもに係る1か月の教育費等の支出については、「1万円～1万5千円未満」22.4%が最も高く、次いで「5千円～1万円未満」、「1万5千円～2万円未満」がいずれも19.7%、「2万円～2万5千円未満」12.6%となっている。



問27 あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品は含みません。

過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがあったかについては、「まったくなかった」74.5%が最も高く、次いで「まれにあった」12.9%となっている。

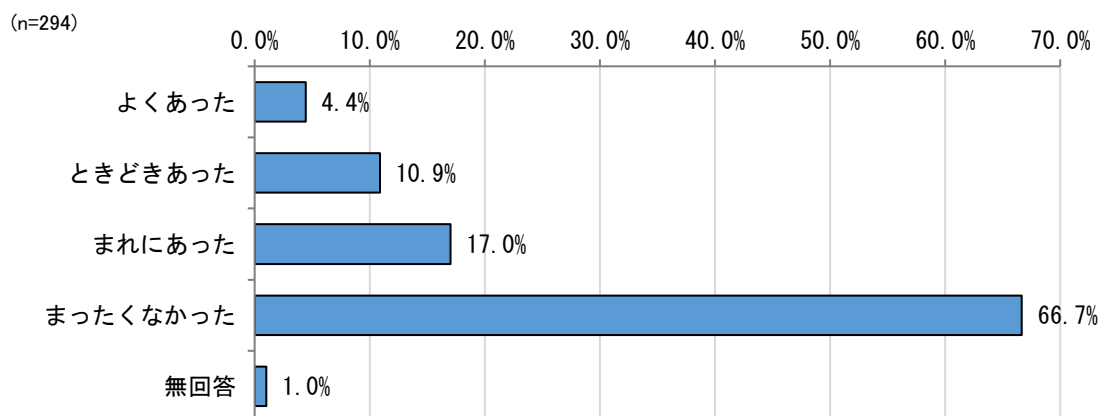
家族が必要とする食料が買えないこと



問28 あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えないことがありましたか。ただし、高価な衣服や貴金属・宝飾品は含みません。

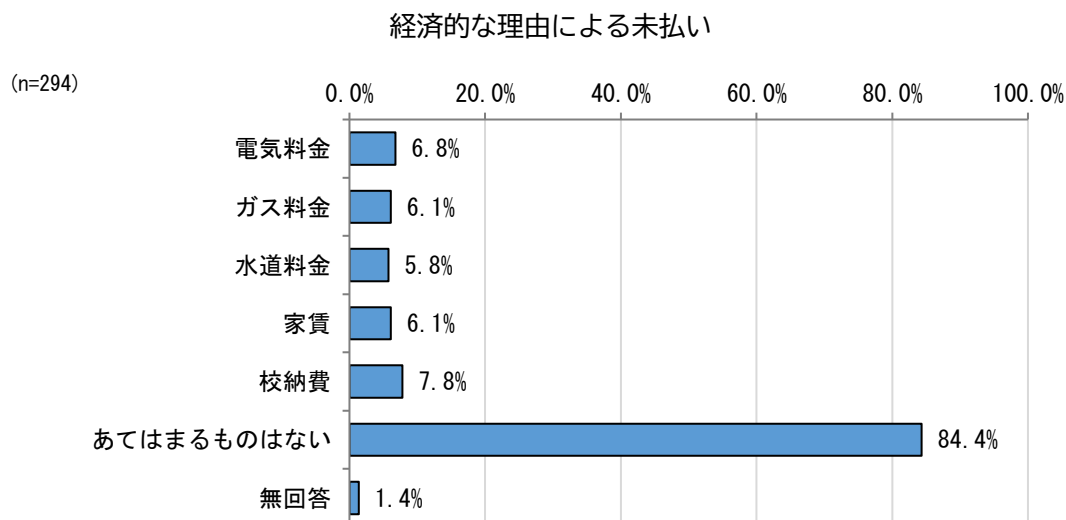
過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えないことがあったかについては、「まったくなかった」66.7%が最も高く、次いで「まれにあった」17.0%、「ときどきあった」10.9%となっている。

家族が必要とする衣服が買えないこと



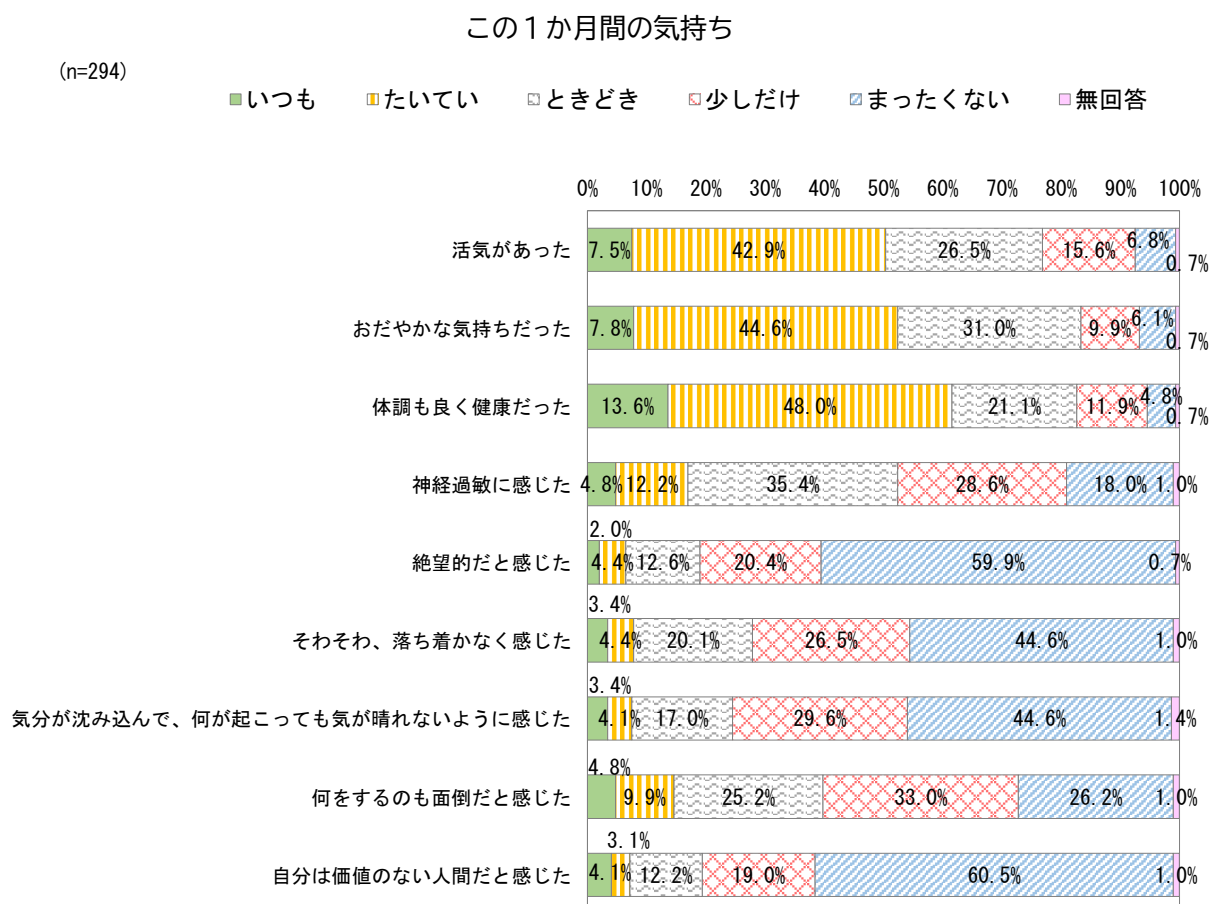
問29 あなたの世帯では、過去1年の間に、以下の料金について、経済的な理由で未払いになったことがありましたか。(複数回答)

過去1年の間に、経済的な理由で未払いになったことがあったかについては、「あてはまるものはない」84.4%が最も高くなっている。



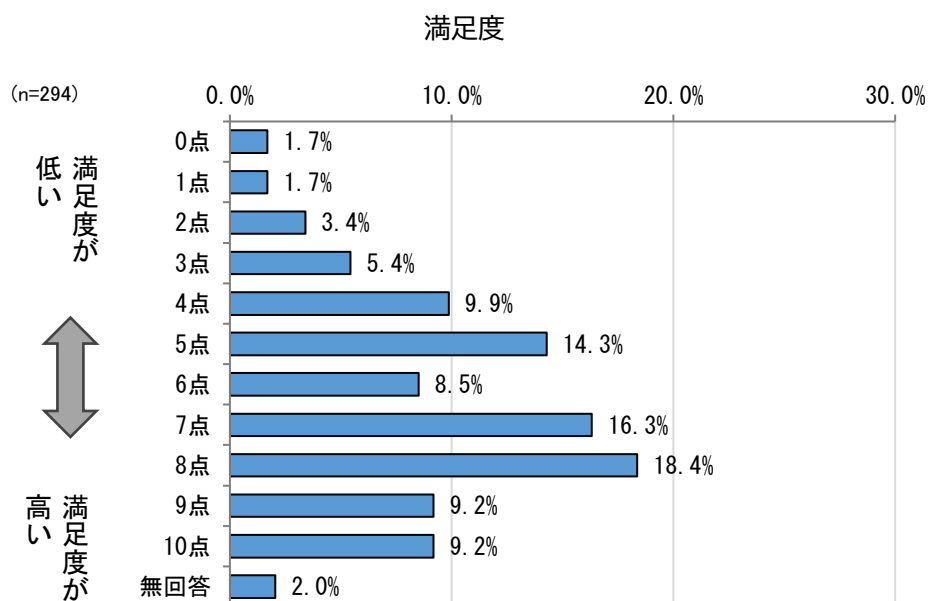
問30 この1か月間のあなたの気持ちはどのようなでしたか。

この1か月間の気持ちについては、『該当する』（「いつも」＋「たいてい」＋「ときどき」＋「少しだけ」）人の割合は、「体調も良く健康だった」が94.6%が最も高く、次いで「おだやかな気持ちだった」93.2%、「活気があった」92.5%となっている。



問31 全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。

満足度については、「8点」18.4%が最も高く、次いで「7点」16.3%、「5点」14.3%となっている。

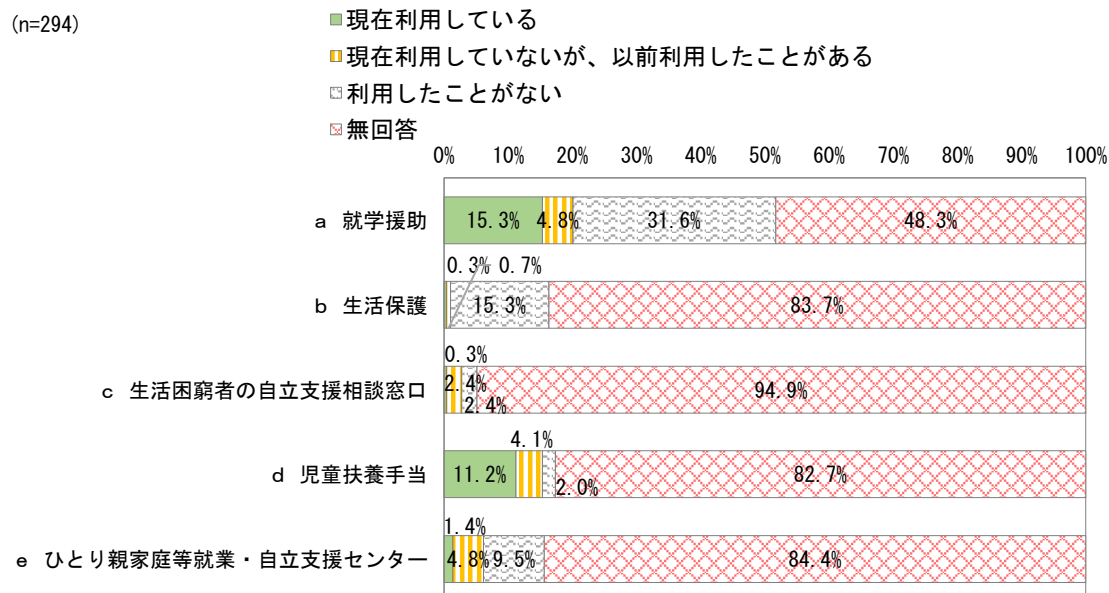


問32 あなたのご家庭では、以下の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。
また、「3. 利用したことがない」場合、その理由は何ですか。

支援制度の利用経験の「現在利用している」については、「就学援助」15.3%が最も高く、次いで「児童扶養手当」11.2%となっている。

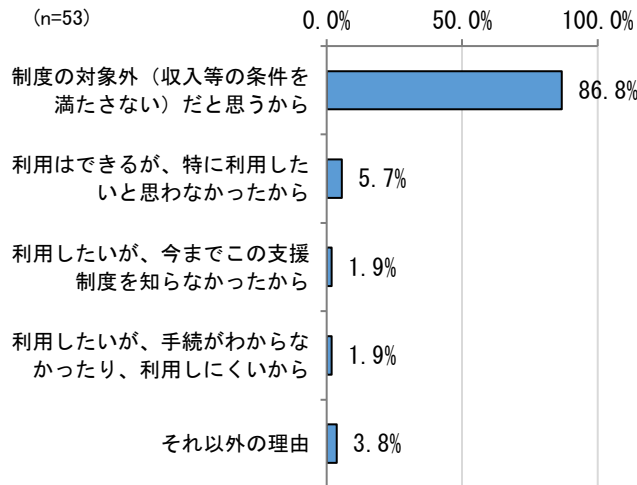
「利用したことがない」については「就学援助」31.5%が最も高く、次いで「生活保護」15.3%となっている。利用したことがない理由をみると、「就学援助」では「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから」が86.8%、「生活保護」では「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」が75.0%を占めている。

支援制度の利用経験

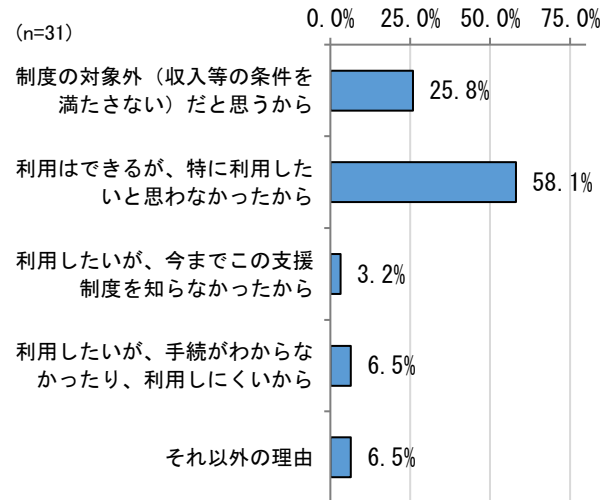


支援制度を利用したことがない理由

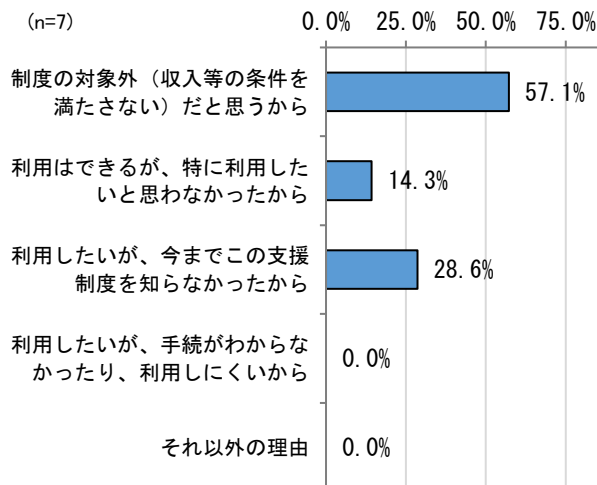
(a) 就学援助



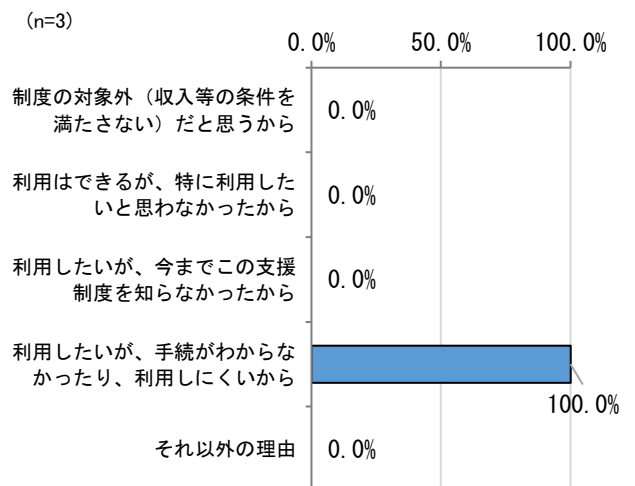
(b) 生活保護



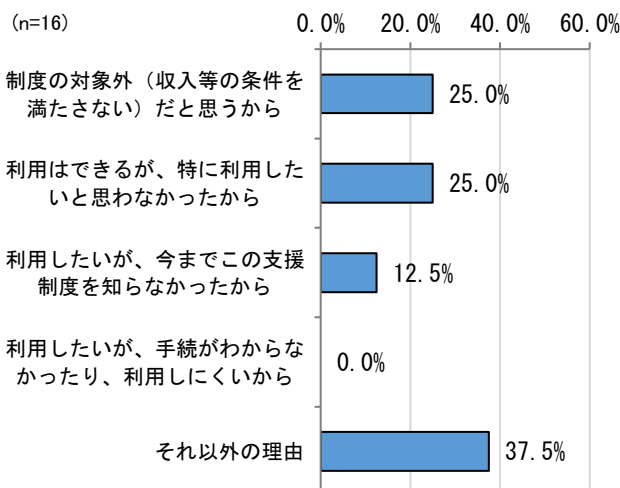
(c) 生活困窮者の自立支援相談窓口



(d) 児童扶養手当



(e) ひとり親家庭等就業・自立支援センター



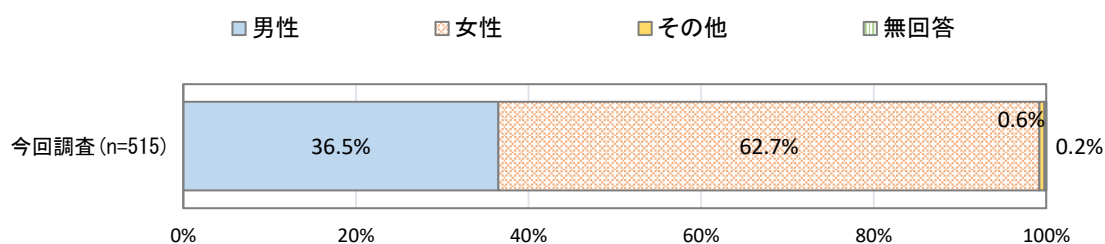
VII 調査結果（こども・若者）

1. あなた自身のことについて

問1 あなたの性別をお答えください。(1つを選択)

性別については、「男性」36.5%、「女性」62.7%となっている。

回答者の性別

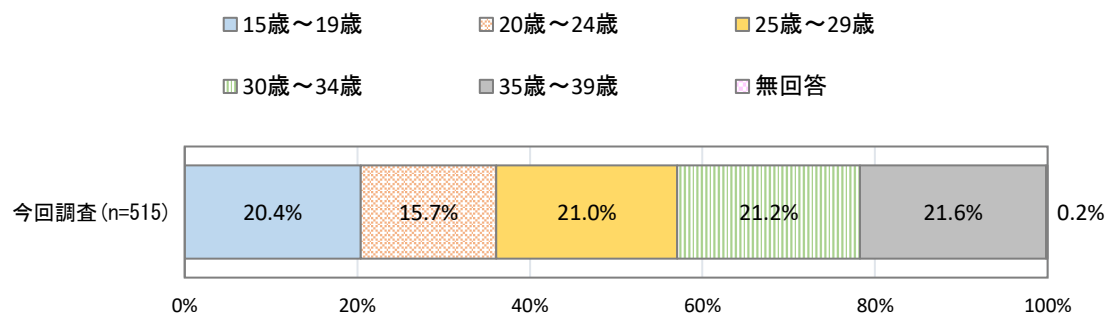


小数点第2位を四捨五入しているため、合計は100%と一致しない場合がある 上段: 回答者数 下段: 構成比 ■ 上位1項目		サンプル数	男性	女性	その他	無回答
今回調査		515	188	323	3	1
		100.0%	36.5%	62.7%	0.6%	0.2%
国比較(R4年度)		7,035	3,011	3,933	84	7
		100.0%	42.8%	55.9%	1.2%	0.1%
性別	男性	188	188	0	0	0
		100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	女性	323	0	323	0	0
		100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	その他	3	0	0	3	0
		100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
無回答		1	0	0	0	1
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
年齢別	15～19歳	105	49	55	1	0
		100.0%	46.7%	52.4%	1.0%	0.0%
	20～24歳	81	29	51	1	0
		100.0%	35.8%	63.0%	1.2%	0.0%
	25～29歳	108	34	74	0	0
		100.0%	31.5%	68.5%	0.0%	0.0%
	30～34歳	109	41	68	0	0
		100.0%	37.6%	62.4%	0.0%	0.0%
35～39歳		111	35	75	1	0
		100.0%	31.5%	67.6%	0.9%	0.0%
	無回答	1	0	0	0	1
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
婚姻状況別	未婚	267	121	144	2	0
		100.0%	45.3%	53.9%	0.7%	0.0%
	配偶者あり	226	60	165	1	0
		100.0%	26.5%	73.0%	0.4%	0.0%
	配偶者と死別	3	1	2	0	0
		100.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%
配偶者と離別(離婚)		15	5	10	0	0
		100.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%
	無回答	4	1	2	0	1
		100.0%	25.0%	50.0%	0.0%	25.0%

問2 あなたの年齢をお答えください。(1つを選択)

年齢については、「35歳～39歳」21.6%が最も高く、次いで「30歳～34歳」21.2%、「25歳～29歳」21.0%となっている。

回答者の年齢



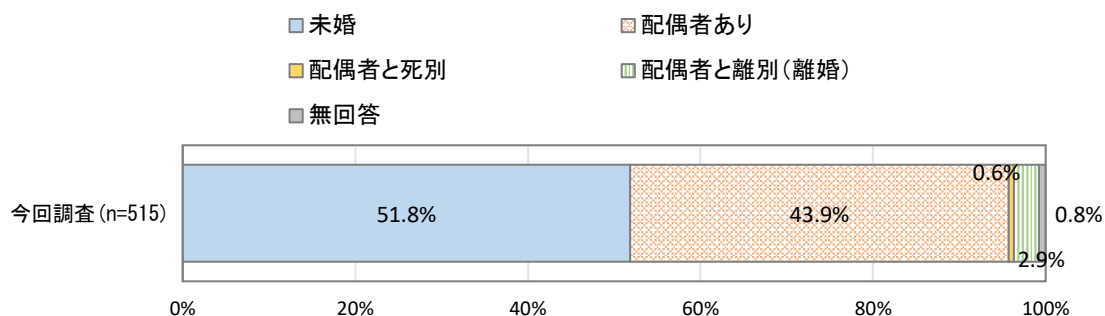
小数点第2位を四捨五入しているため、合計は100%と一致しない場合がある 上段：回答者数 下段：構成比 ■ 上位1項目		サンプル数	15歳～19歳	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	無回答
今回調査		515	105	81	108	109	111	1
国比較(R4年度)		7,035	1,294	1,182	1,309	1,470	1,787	
性別	男性	188	49	29	34	41	35	0
	女性	323	55	51	74	68	75	0
	その他	3	1	1	0	0	1	0
	無回答	1	0	0	0	0	0	1
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
年齢別	15～19歳	105	105	0	0	0	0	0
	20～24歳	81	0	81	0	0	0	0
	25～29歳	108	0	0	108	0	0	0
	30～34歳	109	0	0	0	109	0	0
	35～39歳	111	0	0	0	0	111	0
	無回答	1	0	0	0	0	0	1
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
婚姻状況別	未婚	267	101	72	55	26	13	0
	配偶者あり	226	1	9	51	77	88	0
	配偶者と死別	3	0	0	0	1	2	0
	配偶者と離別(離婚)	15	0	0	2	5	8	0
	無回答	4	3	0	0	0	0	1
		100.0%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%

問3 あなたの現在の婚姻状況をお答えください。なお、「配偶者」には、婚姻の届出をしていないが、事実上婚姻と同様の状態にある方を含めます。(1つを選択)

現在の婚姻状況については、「未婚」51.8%が最も高く、次いで「配偶者あり」43.9%となっている。

国調査（R4年度）との比較では、「未婚」の割合は、本市が国を8.8ポイント下回っている。

婚姻状況

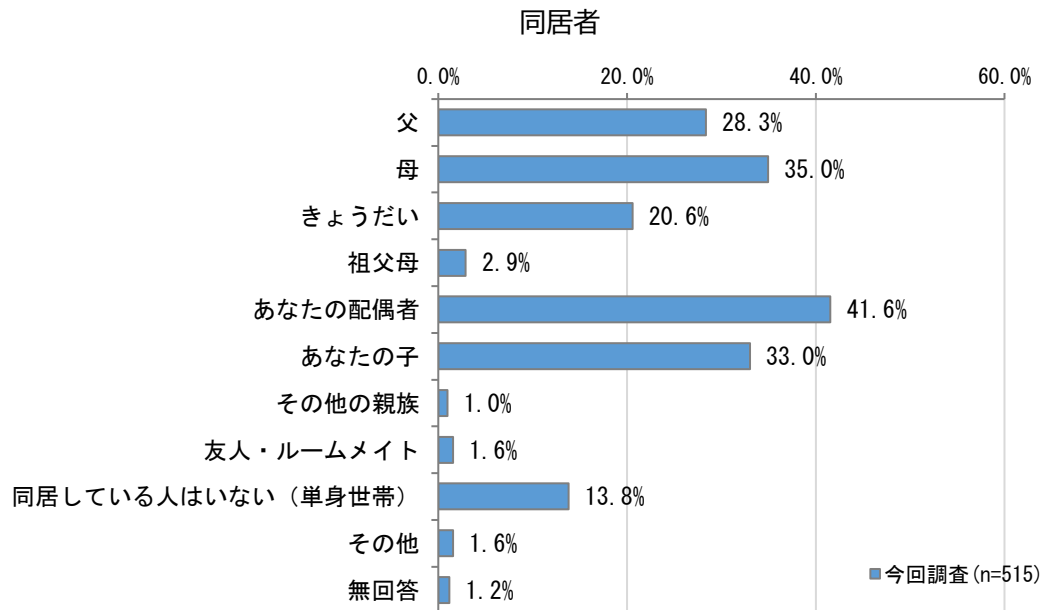


小数点第2位を四捨五入しているため、合計は100%と一致しない場合がある 上段:回答者数 下段:構成比 ■ 上位1項目		サ ン プ ル 数	未 婚	配 偶 者 あ り	配 偶 者 と 死 別	婚 配 偶 者 と 離 別 (離)	無 回 答
今回調査		515	267	226	3	15	4
		100.0%	51.8%	43.9%	0.6%	2.9%	0.8%
国比較(R4年度)		7,035	4,263	2,589	7	169	7
		100.1%	60.6%	36.8%	0.1%	2.4%	0.2%
性 別	男性	188	121	60	1	5	1
		100.0%	64.4%	31.9%	0.5%	2.7%	0.5%
	女性	323	144	165	2	10	2
		100.0%	44.6%	51.1%	0.6%	3.1%	0.6%
	その他	3	2	1	0	0	0
		100.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
年 齢 別	無回答	1	0	0	0	0	1
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	15～19歳	105	101	1	0	0	3
		100.0%	96.2%	1.0%	0.0%	0.0%	2.9%
	20～24歳	81	72	9	0	0	0
		100.0%	88.9%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	25～29歳	108	55	51	0	2	0
婚 姻 状 況 別		100.0%	50.9%	47.2%	0.0%	1.9%	0.0%
	30～34歳	109	26	77	1	5	0
		100.0%	23.9%	70.6%	0.9%	4.6%	0.0%
	35～39歳	111	13	88	2	8	0
		100.0%	11.7%	79.3%	1.8%	7.2%	0.0%
	無回答	1	0	0	0	0	1
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
婚 姻 状 況 別	未婚	267	267	0	0	0	0
		100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	配偶者あり	226	0	226	0	0	0
		100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	配偶者と死別	3	0	0	3	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
婚 姻 状 況 別	配偶者と離別(離婚)	15	0	0	0	15	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	無回答	4	0	0	0	0	4
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

問4 現在、あなたと同居している方をお答えください。なお、「配偶者」には、婚姻の届出をしていないが、事実上婚姻と同様の状態にある方を含めます。(いくつでも選択可)
※里親や児童養護施設などで暮らしている方は、「その他」をお選びください。

現在の同居者については、「あなたの配偶者」41.6%が最も高く、次いで「母」35.0%、「あなたの子」33.0%となっている。

国調査（R4年度）との比較では、「父」、「母」、「きょうだい」については国調査を5.0ポイント以上下回るが、「あなたの配偶者」は国調査を5.5ポイント上回っている。



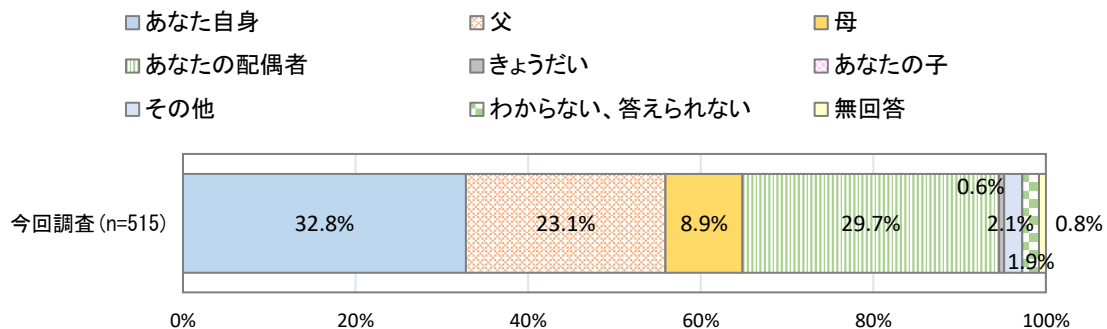
複数回答のため 合計は100%に ならない		サ ン プ ル 数	父	母	き ょう う だ い	祖 父 母	あ な た の 配 偶 者	あ な た の 子	そ の 他 の 親 族	友 人 ・ ル ー ム メ イ ト	同 居 し て い る 人 は い な い （ 単 身 世 帯 ）	そ の 他	無 回 答
上段:回答者数 下段:構成比													
■ 上位1項目													
今回調査		515	146 28.3%	180 35.0%	106 20.6%	15 2.9%	214 41.6%	170 33.0%	5 1.0%	8 1.6%	71 13.8%	8 1.6%	6 1.2%
国比較 (R4年度)		7,035	2,673 38.0%	3,222 45.8%	1,864 26.5%	549 7.8%	2,540 36.1%	2,089 29.7%	148 2.1%	113 1.6%	971 13.8%	—	21 0.3%
性 別	男性	188	63 33.5%	76 40.4%	44 23.4%	5 2.7%	56 29.8%	41 21.8%	2 1.1%	5 2.7%	35 18.6%	5 2.7%	2 1.1%
	女性	323	82 25.4%	103 31.9%	61 18.9%	9 2.8%	157 48.6%	128 39.6%	3 0.9%	3 0.9%	36 11.1%	3 0.9%	3 0.9%
	その他	3	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無回答	1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%
年 齢 別	15～19歳	105	75 71.4%	90 85.7%	70 66.7%	6 5.7%	0 0.0%	0 0.0%	3 2.9%	0 0.0%	6 5.7%	1 1.0%	0 0.0%
	20～24歳	81	32 39.5%	36 44.4%	17 21.0%	3 3.7%	7 8.6%	2 2.5%	0 0.0%	3 3.7%	27 33.3%	2 2.5%	1 1.2%
	25～29歳	108	20 18.5%	29 26.9%	13 12.0%	3 2.8%	47 43.5%	25 23.1%	2 1.9%	4 3.7%	22 20.4%	3 2.8%	2 1.9%
	30～34歳	109	12 11.0%	15 13.8%	4 3.7%	2 1.8%	73 67.0%	59 54.1%	0 0.0%	0 0.0%	12 11.0%	2 1.8%	1 0.9%
	35～39歳	111	7 6.3%	10 9.0%	2 1.8%	1 0.9%	87 78.4%	84 75.7%	0 0.0%	1 0.9%	4 3.6%	0 0.0%	1 0.9%
	無回答	1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%
婚 姻 状 況 別	未婚	267	138 51.7%	168 62.9%	103 38.6%	13 4.9%	5 1.9%	1 0.4%	3 1.1%	8 3.0%	64 24.0%	7 2.6%	1 0.4%
	配偶者あり	226	2 0.9%	5 2.2%	1 0.4%	2 0.9%	208 92.0%	156 69.0%	2 0.9%	0 0.0%	5 2.2%	0 0.0%	4 1.8%
	配偶者と死別	3	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	配偶者と離別（離婚）	15	4 26.7%	5 33.3%	1 6.7%	0 0.0%	0 0.0%	10 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	2 13.3%	1 6.7%	0 0.0%
	無回答	4	2 50.0%	2 50.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%

問5 あなたの家の生計を支えている方は主にどなたですか。また、仕送りで生計を立てている方は、その仕送りを主にしてくれている人をお答えください。(1つを選択)

家の生計を主に支えている方については、「あなた自身」32.8%が最も高く、次いで「あなたの配偶者」29.7%、「父」23.1%となっている。

国調査（R4年度）との比較では、「父」の割合は国調査を8.7ポイント下回った一方、「あなたの配偶者」は9.5ポイント上回っている。

生計を支えている方



小数点第2位を四捨五入しているため、合計は100%と一致しない場合がある 上段：回答者数 下段：構成比 ■ 上位1項目		サンプル数	あなた自身	父	母	あなたの配偶者	きょうだい	あなたの子	その他	わからない、答えられない	無回答
今回調査		515	169	119	46	153	3	0	11	10	4
		100.0%	32.8%	23.1%	8.9%	29.7%	0.6%	0.0%	2.1%	1.9%	0.8%
国比較(R4年度)		7,035	2,350	2,237	640	1,421	42	0	190	134	21
		100.0%	33.4%	31.8%	9.1%	20.2%	0.6%	0.0%	2.7%	1.9%	0.3%
性別	男性	188	97	53	20	5	1	0	4	6	2
		100.0%	51.6%	28.2%	10.6%	2.7%	0.5%	0.0%	2.1%	3.2%	1.1%
	女性	323	70	65	26	148	2	0	7	4	1
		100.0%	21.7%	20.1%	8.0%	45.8%	0.6%	0.0%	2.2%	1.2%	0.3%
	その他	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0
		100.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答		1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
年齢別	15～19歳	105	4	65	28	0	0	0	4	3	1
		100.0%	3.8%	61.9%	26.7%	0.0%	0.0%	0.0%	3.8%	2.9%	1.0%
	20～24歳	81	27	31	10	5	1	0	3	4	0
		100.0%	33.3%	38.3%	12.3%	6.2%	1.2%	0.0%	3.7%	4.9%	0.0%
	25～29歳	108	49	14	4	37	1	0	3	0	0
		100.0%	45.4%	13.0%	3.7%	34.3%	0.9%	0.0%	2.8%	0.0%	0.0%
	30～34歳	109	50	5	2	51	0	0	1	0	0
		100.0%	45.9%	4.6%	1.8%	46.8%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%
婚姻状況別	35～39歳	111	39	4	2	60	1	0	0	3	2
		100.0%	35.1%	3.6%	1.8%	54.1%	0.9%	0.0%	0.0%	2.7%	1.8%
	無回答	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	未婚	267	86	116	43	1	3	0	8	9	1
		100.0%	32.2%	43.4%	16.1%	0.4%	1.1%	0.0%	3.0%	3.4%	0.4%
	配偶者あり	226	67	1	2	152	0	0	2	0	2
		100.0%	29.6%	0.4%	0.9%	67.3%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.9%
婚姻状況別	配偶者と死別	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0
		100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	配偶者と離別(離婚)	15	13	1	0	0	0	0	0	1	0
		100.0%	86.7%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%
	無回答	4	0	1	1	0	0	0	1	0	1
		100.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%

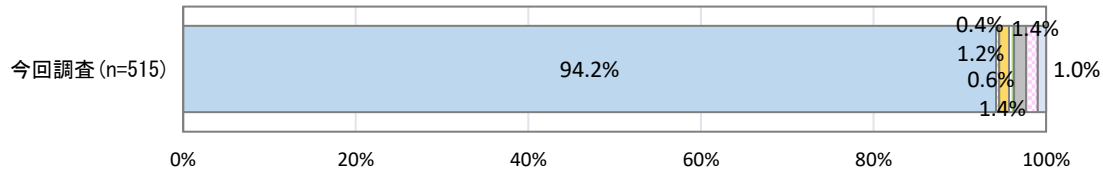
問6 あなたの家の生計を支えている方の主な収入源は何ですか。(1つを選択)

生計を支えている方の主な収入源については、「就労、事業による収入（農業収入を含む）」94.2%が最も高く、次いで「その他」、「わからない、答えられない」がいずれも1.4%となっている。その他の内容については、「仕送り」、「奨学金」という意見が多くあげられた。

国調査（R4 年度）と比較して大きな差異はみられない。

主な収入源

- 就労、事業による収入（農業収入を含む）
- 預金やその利息、財産からの収入（株の配当や不動産賃料など）
- 年金
- 生活保護
- その他
- わからない、答えられない
- 無回答



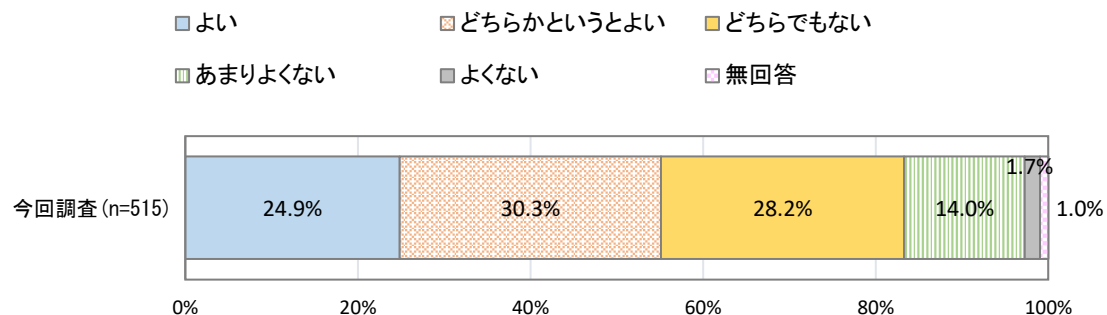
小数点第2位を 四捨五入している ため、合計は100% と一致しない場合 がある		サン プル 数	就 労 （ 農 業 収入 を 含 む）	就 業 、 事 業 による 収入	預 金 や その 利息、 株 の 財 産 からの 収入	年 金	生 活 保 護	そ の 他	わ か ら な い 、 答 え ら ない	無 回 答
上段：回答者数 下段：構成比										
上位1項目										
今回調査		515 100.0%	485 94.2%	2 0.4%	6 1.2%	3 0.6%	7 1.4%	7 1.4%	5 1.0%	
国比較（R4年度）		7,035 100.1%	6,606 93.9%	70 1.0%	162 2.3%	21 0.3%	21 0.3%	141 2.0%	14 0.3%	
性別	男性	188 100.0%	173 92.0%	2 1.1%	2 1.1%	2 1.1%	2 1.1%	4 2.1%	3 1.6%	
	女性	323 100.0%	309 95.7%	0 0.0%	4 1.2%	1 0.3%	5 1.5%	3 0.9%	1 0.3%	
	その他	3 100.0%	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	無回答	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	
年齢別	15～19歳	105 100.0%	92 87.6%	0 0.0%	3 2.9%	0 0.0%	4 3.8%	4 3.8%	2 1.9%	
	20～24歳	81 100.0%	76 93.8%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.2%	2 2.5%	2 2.5%	0 0.0%	
	25～29歳	108 100.0%	105 97.2%	1 0.9%	0 0.0%	1 0.9%	1 0.9%	0 0.0%	0 0.0%	
	30～34歳	109 100.0%	108 99.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	35～39歳	111 100.0%	104 93.7%	1 0.9%	3 2.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.9%	2 1.8%	
	無回答	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	
婚姻状況別	未婚	267 100.0%	242 90.6%	1 0.4%	6 2.2%	3 1.1%	7 2.6%	7 2.6%	1 0.4%	
	配偶者あり	226 100.0%	223 98.7%	1 0.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.9%	
	配偶者と死別	3 100.0%	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	配偶者と離別（離婚）	15 100.0%	15 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	無回答	4 100.0%	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 50.0%	

問7 あなたの暮らし向き(衣・食・住・レジャーなどの生活水準)は、世間一般と比べてみて、どれにあたると思いますか。あなたの実感でお答えください。(1つを選択)

暮らし向き（生活水準）については、「どちらかというといよい」30.3%が最も高く、次いで「どちらでもない」28.2%、「よい」24.9%となっている。『よい』（「よい」＋「どちらかというといよい」）と回答した人は全体の55.2%を占める。

国調査（R4年度）との比較では、「よい」と回答した割合は、国調査を31.9ポイント上回っている。

暮らし向き（生活水準）



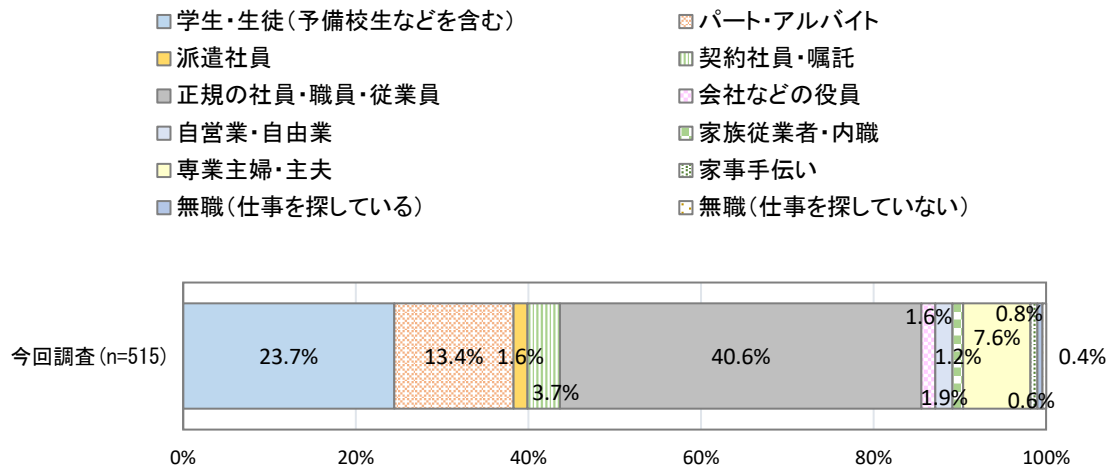
小数点第2位を四捨五入しているため、合計は100%と一致しない場合がある							
上段: 回答者数 下段: 構成比							
上位1項目		サンプル数	よい	どちらかというといよい	どちらでもない	あまりよくない	よくない
							無回答
今回調査		515	128	156	145	72	9
		100.0%	24.9%	30.3%	28.2%	14.0%	1.7%
国比較 (R4年度)		7,035	218	1,421	3,574	1,386	408
		100.1%	3.1%	20.2%	50.8%	19.7%	5.8%
性別	男性	188	42	60	52	28	4
		100.0%	22.3%	31.9%	27.7%	14.9%	2.1%
	女性	323	84	96	93	43	5
		100.0%	26.0%	29.7%	28.8%	13.3%	1.5%
	その他	3	2	0	0	1	0
		100.0%	66.7%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%
無回答		1	0	0	0	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
年齢別	15～19歳	105	52	25	20	6	1
		100.0%	49.5%	23.8%	19.0%	5.7%	1.0%
	20～24歳	81	23	26	22	10	0
		100.0%	28.4%	32.1%	27.2%	12.3%	0.0%
	25～29歳	108	16	37	38	15	2
		100.0%	14.8%	34.3%	35.2%	13.9%	1.9%
	30～34歳	109	19	32	32	22	3
		100.0%	17.4%	29.4%	29.4%	20.2%	2.8%
婚姻状況別	35～39歳	111	18	36	33	19	3
		100.0%	16.2%	32.4%	29.7%	17.1%	2.7%
	無回答	1	0	0	0	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	未婚	267	87	72	64	38	6
		100.0%	32.6%	27.0%	24.0%	14.2%	2.2%
	配偶者あり	226	37	80	76	30	0
		100.0%	16.4%	35.4%	33.6%	13.3%	0.0%
婚姻状況別	配偶者と死別	3	1	0	2	0	0
		100.0%	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%
	配偶者と離別 (離婚)	15	2	3	3	4	3
		100.0%	13.3%	20.0%	20.0%	26.7%	20.0%
	無回答	4	1	1	0	0	0
		100.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	50.0%

問8 あなたの現在、主にしていることをお答えください。(1つを選択)

現在、主にしていることについては、「正規の社員・職員・従業員」40.6%が最も高く、次いで「学生・生徒（予備校生などを含む）」23.7%、「パート・アルバイト」13.4%となっている。

国調査（R4年度）との比較では、「正規の社員・職員・従業員」と回答した割合は、国調査を6.1ポイント下回っている。

職業



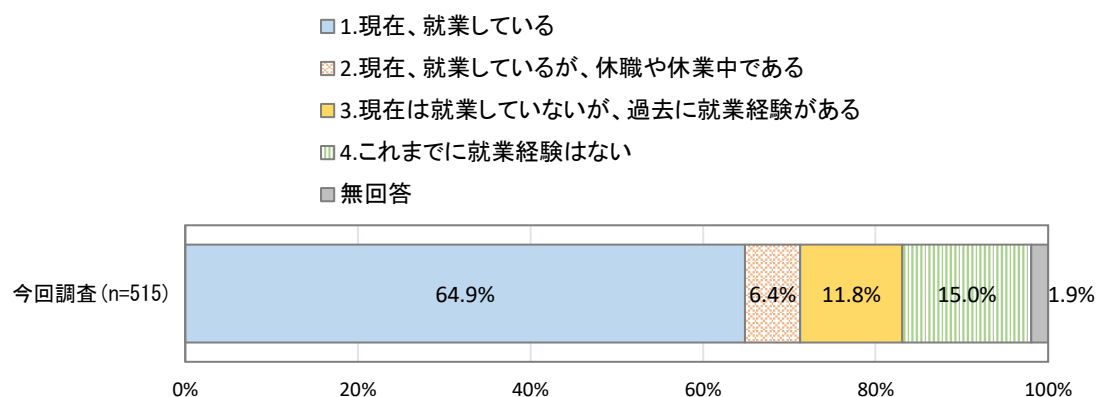
職業		サンプル数	学生・生徒（予備校生などを含む）	パート・アルバイト	派遣社員	契約社員・嘱託	正規の社員・職員・従業員	会社などの役員	自営業・自由業	家族従業者・内職	専業主婦・主夫	家事手伝い	無職（仕事を探している）	無職（仕事を探していない）	その他	無回答
今回調査		515	122	69	8	19	209	8	10	6	39	4	3	2	12	4
国比較 (R4年度)		7,035	1,590	760	148	197	3,285	70	218	28	345	35	197	91	49	21
性別	男性	188	62	9	3	6	89	5	5	0	1	0	0	0	6	2
	女性	323	59	59	5	13	119	3	5	6	38	4	3	2	6	1
	その他	3	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
年齢別	15～19歳	105	100	2	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0
	20～24歳	81	20	5	1	1	43	0	2	0	3	0	1	1	4	0
	25～29歳	108	1	12	2	9	65	1	0	1	12	1	1	1	2	0
	30～34歳	109	1	19	3	1	57	3	4	1	16	0	0	0	4	0
	35～39歳	111	0	31	2	8	43	4	4	4	8	1	1	0	2	3
	無回答	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
婚姻状況別	未婚	267	118	19	4	8	96	1	2	0	3	3	2	2	8	1
	配偶者あり	226	1	46	3	8	105	7	7	5	36	1	1	0	4	2
	配偶者と死別	3	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	配偶者と離別（離婚）	15	0	3	1	2	7	0	1	1	0	0	0	0	0	0
	無回答	4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		100.0%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%

問9 あなたの就業経験[パート・アルバイトを含む]についてお答えください。(1つを選択)

就業経験については、「現在、就業している」64.9%が最も高く、次いで「これまでに就業経験はない」15.0%、「現在は就業していないが、過去に就業経験がある」11.8%となっている。

国調査（R4年度）との比較では、「現在、就業している」と回答した割合は、国調査を6.6ポイント下回っている。

就業経験



小数点第2位を四捨五入しているため、合計は100%と一致しない場合がある 上段:回答者数 下段:構成比 ■ 上位1項目		サンプル数	現在、就業している	現在、就業しているが、休職や休業中である	現在は就業していないが、過去に就業経験がある	これまでに就業経験はない	無回答
今回調査		515	334	33	61	77	10
		100.0%	64.9%	6.4%	11.8%	15.0%	1.9%
国比較(R4年度)		7,035	5,030	260	788	936	21
		100.0%	71.5%	3.7%	11.2%	13.3%	0.3%
性別	男性	188	128	5	14	37	4
		100.0%	68.1%	2.7%	7.4%	19.7%	2.1%
	女性	323	204	28	47	39	5
		100.0%	63.2%	8.7%	14.6%	12.1%	1.5%
	その他	3	2	0	0	1	0
		100.0%	66.7%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%
無回答		1	0	0	0	0	1
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
年齢別	15～19歳	105	17	2	16	68	2
		100.0%	16.2%	1.9%	15.2%	64.8%	1.9%
	20～24歳	81	60	4	8	7	2
		100.0%	74.1%	4.9%	9.9%	8.6%	2.5%
	25～29歳	108	85	8	14	1	0
		100.0%	78.7%	7.4%	13.0%	0.9%	0.0%
	30～34歳	109	79	13	15	1	1
		100.0%	72.5%	11.9%	13.8%	0.9%	0.9%
婚姻状況別	35～39歳	111	93	6	8	0	4
		100.0%	83.8%	5.4%	7.2%	0.0%	3.6%
	無回答	1	0	0	0	0	1
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	未婚	267	151	6	30	75	5
		100.0%	56.6%	2.2%	11.2%	28.1%	1.9%
	配偶者あり	226	165	27	30	0	4
		100.0%	73.0%	11.9%	13.3%	0.0%	1.8%
婚姻状況別	配偶者と死別	3	3	0	0	0	0
		100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	配偶者と離別(離婚)	15	15	0	0	0	0
		100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	4	0	0	1	2	1
		100.0%	0.0%	0.0%	25.0%	50.0%	25.0%

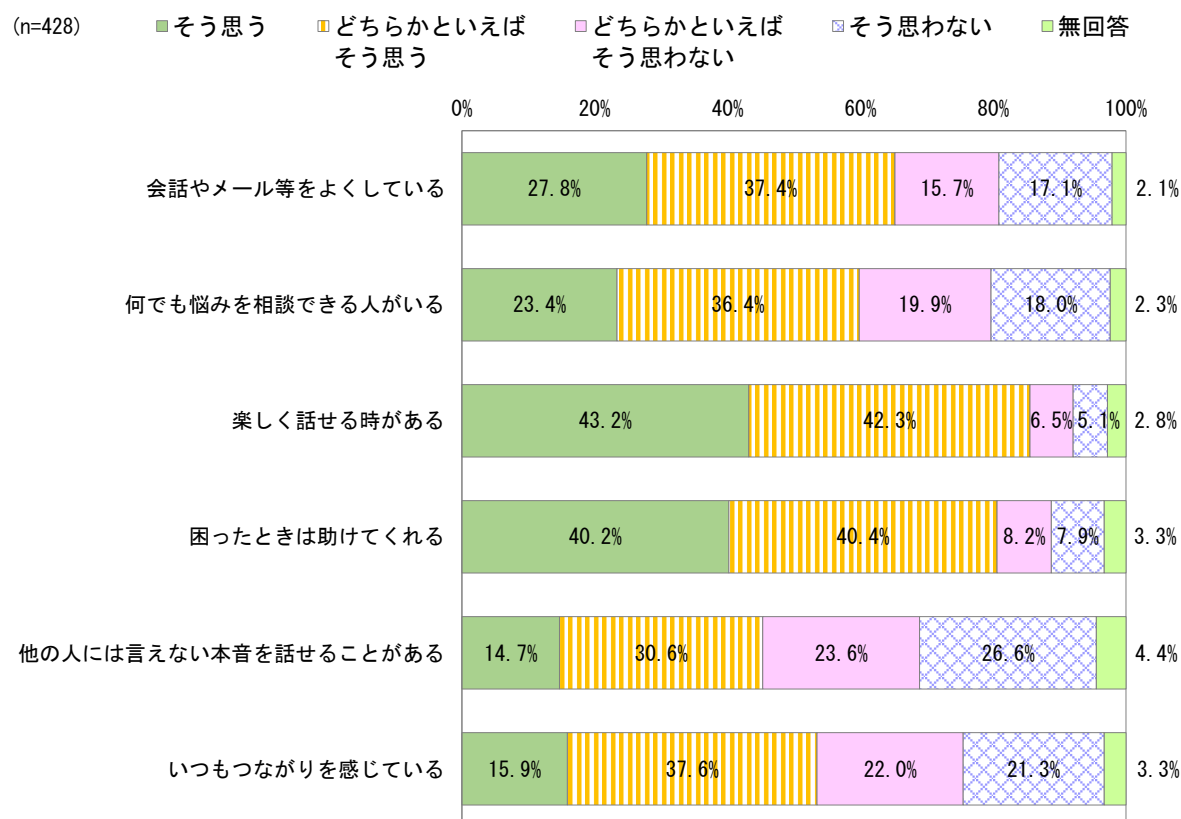
問10 【問9で「1」、「2」、「3」を選んだ方のみ、お答えください。】

次の各項目について、職場・アルバイト関係の人(現在及び過去の職場の同僚・上司・部下、その他仕事の関係で知り合った人など)と、あなたの現在のかかわりは、どのようなものですか。あなた自身にあてはまる番号をお選びください。

『そう思う』(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は「楽しく話せる時がある」85.5%が最も高く、次いで「困ったときは助けてくれる」80.6%となっている。

一方『そう思わない』(「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」)では「他の人には言えない本音を話せることがある」50.2%が最も高くなっている。

職場の人との関わりについて

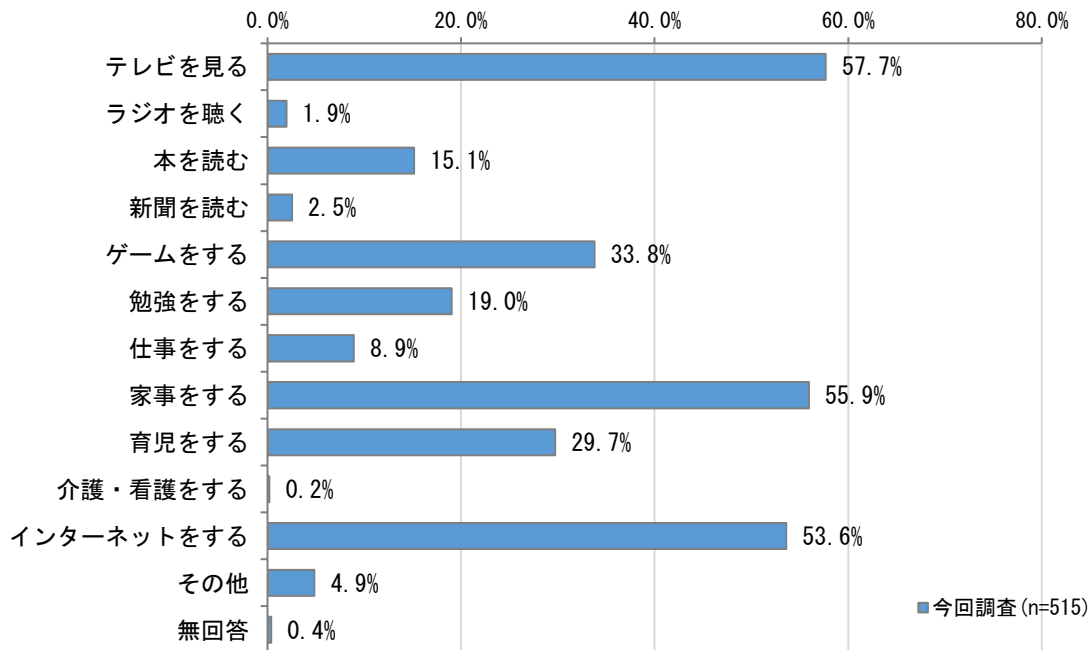


小数点第2位を 四捨五入しているため、 合計は100%と一致しない 場合がある 上段:回答者数 下段:構成比 ■ 上位1項目	サンプル数	そう 思う	そう ち ら か と い え ば	そう ち ら か と い え ば	そう 思 わ な い	無 回 答
会話やメール等をよくしている	428 100.0%	119 27.8%	160 37.4%	67 15.7%	73 17.1%	9 2.1%
何でも悩みを相談できる人がいる	428 100.0%	100 23.4%	156 36.4%	85 19.9%	77 18.0%	10 2.3%
楽しく話せる時がある	428 100.0%	185 43.2%	181 42.3%	28 6.5%	22 5.1%	12 2.8%
困ったときは助けてくれる	428 100.0%	172 40.2%	173 40.4%	35 8.2%	34 7.9%	14 3.3%
他の人には言えない本音を話せることがある	428 100.0%	63 14.7%	131 30.6%	101 23.6%	114 26.6%	19 4.4%
いつもつながりを感じている	428 100.0%	68 15.9%	161 37.6%	94 22.0%	91 21.3%	14 3.3%

問11 普段ご自宅(暮らしている場所)にいるときは、どんなことに時間を使っていますか。よくしていることをすべて選んでください。(いくつでも選択可)

在宅時どんなことに時間を使うかについては、「テレビを見る」57.7%が最も高く、次いで「家事をする」55.9%、「インターネットをする」53.6%となっている。

在宅時どんなことに時間を使うか



複数回答のため 合計は100%に ならない		サ ン プ ル 数	テ レ ビ を 見 る	ラ ジ オ を 聴 く	本 を 読 む	新 聞 を 読 む	ゲ ー ム を す る	勉 強 を す る	仕 事 を す る	家 事 を す る	育 児 を す る	介 護 ・ 看 護 を す る	イ ン タ ー ネ ッ ト を す る	そ の 他	無 回 答
今回調査		515	297	10	78	13	174	98	46	288	153	1	276	25	2
		-	57.7%	1.9%	15.1%	2.5%	33.8%	19.0%	8.9%	55.9%	29.7%	0.2%	53.6%	4.9%	0.4%
性 別	男性	188	104	6	31	12	97	47	16	75	31	1	95	8	1
		-	55.3%	3.2%	16.5%	6.4%	51.6%	25.0%	8.5%	39.9%	16.5%	0.5%	50.5%	4.3%	0.5%
	女性	323	191	4	47	1	74	50	30	212	121	0	178	16	0
		-	59.1%	1.2%	14.6%	0.3%	22.9%	15.5%	9.3%	65.6%	37.5%	0.0%	55.1%	5.0%	0.0%
性 別	その他	3	2	0	0	0	3	1	0	1	1	0	3	1	0
		-	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	100.0%	33.3%	0.0%
性 別	無回答	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		-	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
年 齢 別	15～19歳	105	64	2	23	3	49	60	0	29	0	0	63	4	0
		-	61.0%	1.9%	21.9%	2.9%	46.7%	57.1%	0.0%	27.6%	0.0%	0.0%	60.0%	3.8%	0.0%
	20～24歳	81	41	2	15	1	31	17	5	22	3	0	55	8	0
		-	50.6%	2.5%	18.5%	1.2%	38.3%	21.0%	6.2%	27.2%	3.7%	0.0%	67.9%	9.9%	0.0%
	25～29歳	108	68	2	12	2	37	7	8	64	28	1	55	5	0
		-	63.0%	1.9%	11.1%	1.9%	34.3%	6.5%	7.4%	59.3%	25.9%	0.9%	50.9%	4.6%	0.0%
	30～34歳	109	56	1	15	1	31	11	15	84	60	0	51	4	0
年 齢 別		-	51.4%	0.9%	13.8%	0.9%	28.4%	10.1%	13.8%	77.1%	55.0%	0.0%	46.8%	3.7%	0.0%
	35～39歳	111	68	3	13	6	26	3	18	89	62	0	52	4	1
		-	61.3%	2.7%	11.7%	5.4%	23.4%	2.7%	16.2%	80.2%	55.9%	0.0%	46.8%	3.6%	0.9%
	無回答	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		-	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
婚 姻 状 況 別	未婚	267	145	5	56	6	121	87	13	90	2	1	171	18	1
		-	54.3%	1.9%	21.0%	2.2%	45.3%	32.6%	4.9%	33.7%	0.7%	0.4%	64.0%	6.7%	0.4%
	配偶者あり	226	140	5	18	7	46	9	26	185	141	0	94	6	0
		-	61.9%	2.2%	8.0%	3.1%	20.4%	4.0%	11.5%	81.9%	62.4%	0.0%	41.6%	2.7%	0.0%
	配偶者と死別	3	2	0	1	0	0	0	0	3	3	0	1	0	0
		-	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%
婚 姻 状 況 別	配偶者と離別(離婚)	15	7	0	2	0	5	1	7	10	7	0	8	1	0
		-	46.7%	0.0%	13.3%	0.0%	33.3%	6.7%	46.7%	66.7%	46.7%	0.0%	53.3%	6.7%	0.0%
婚 姻 状 況 別	無回答	4	3	0	1	0	2	1	0	0	0	0	2	0	1
		-	75.0%	0.0%	25.0%	0.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	25.0%

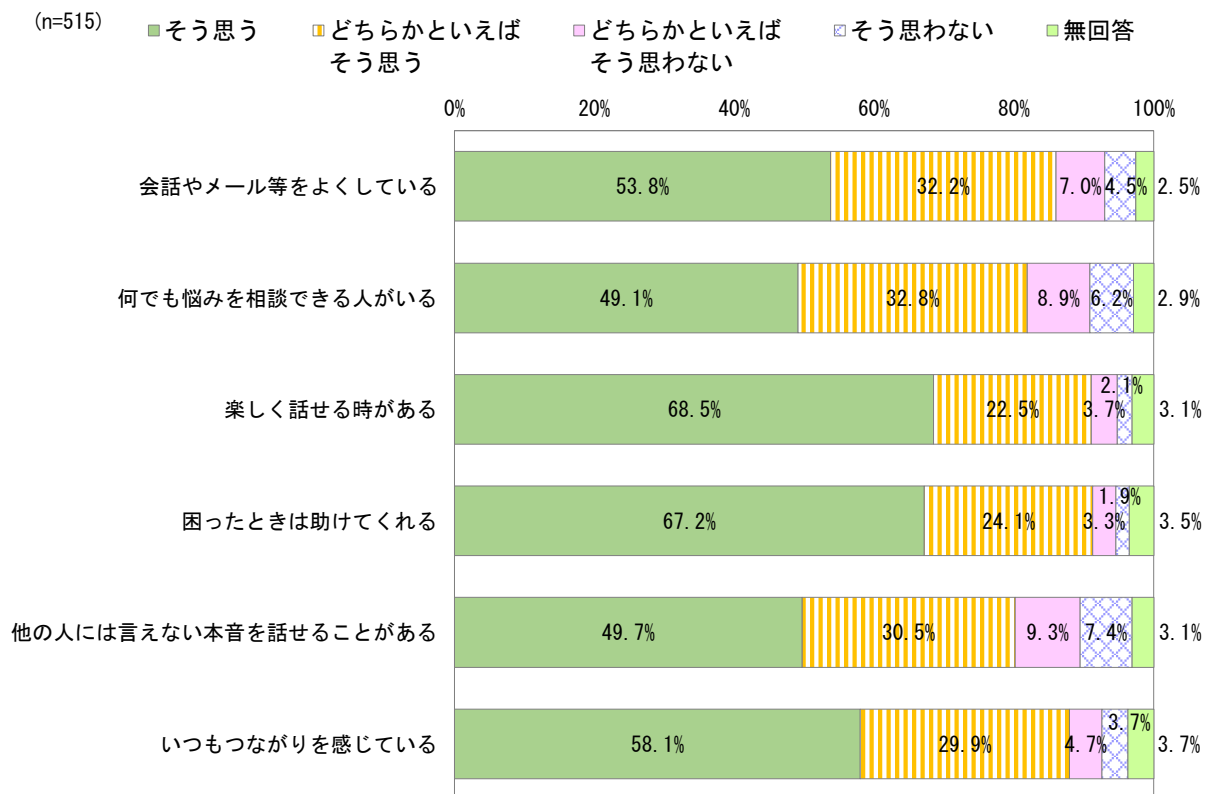
2. 家族や友人などとの関わりについて

問12 次の各項目について、家族・親族とあなたのかかわりは、どのようなものですか。
あなた自身にあてはまる番号をお選びください。

家族・親族との関わりについて、『そう思う』（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）は「困ったときは助けてくれる」91.3%が最も高く、次いで「楽しく話せる時がある」91.0%となっている。全ての項目で『そう思う』が8割を超えている。

一方、『そう思わない』（「どちらかといえばそう思わない」＋「そう思わない」）では「他の人には言えない本音を話せることがある」16.7%が最も高くなっている。

家族・親族との関わりについて



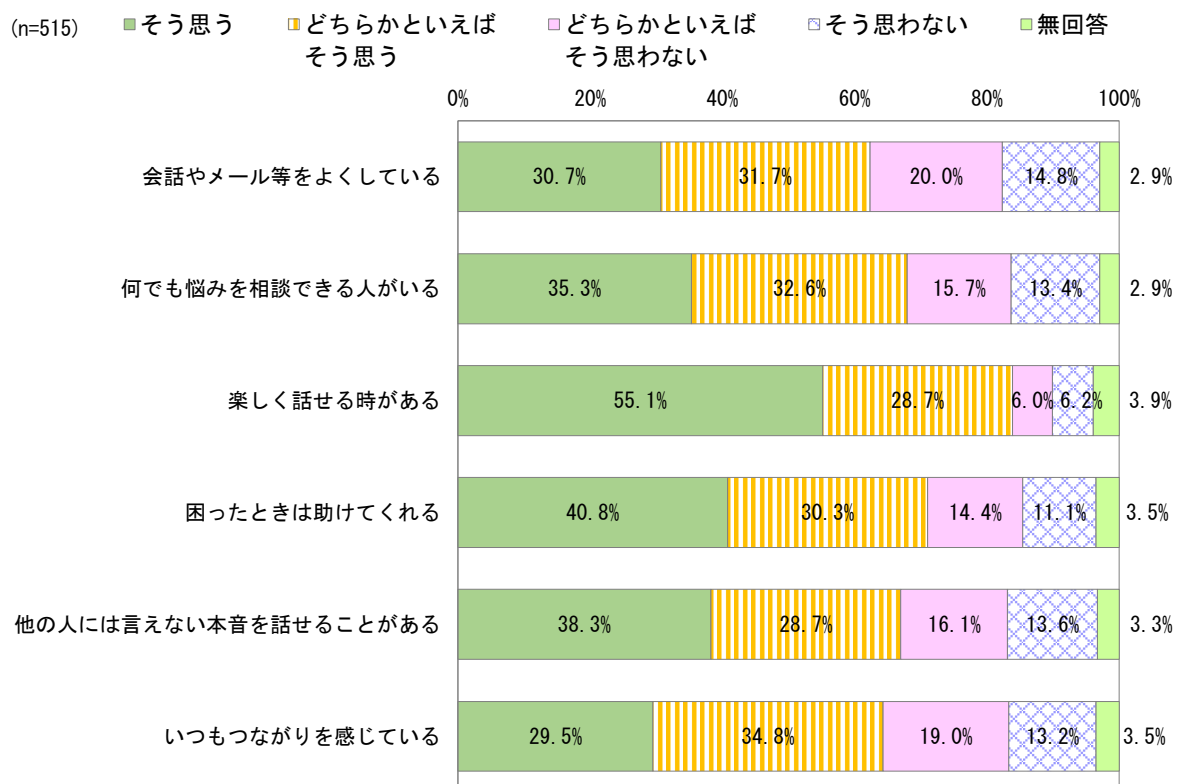
小数点第2位を 四捨五入しているため、 合計は100%と一致しない 場合がある 上段:回答者数 下段:構成比 ■ 上位1項目	サンプル数	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答
会話やメール等をよくしている	515	277	166	36	23	13
	100.0%	53.8%	32.2%	7.0%	4.5%	2.5%
何でも悩みを相談できる人がいる	515	253	169	46	32	15
	100.0%	49.1%	32.8%	8.9%	6.2%	2.9%
楽しく話せる時がある	515	353	116	19	11	16
	100.0%	68.5%	22.5%	3.7%	2.1%	3.1%
困ったときは助けてくれる	515	346	124	17	10	18
	100.0%	67.2%	24.1%	3.3%	1.9%	3.5%
他の人には言えない本音を話せることがある	515	256	157	48	38	16
	100.0%	49.7%	30.5%	9.3%	7.4%	3.1%
いつもつながりを感じている	515	299	154	24	19	19
	100.0%	58.1%	29.9%	4.7%	3.7%	3.7%

問13 次の各項目について、学校で出会った友人(現在通っている学校の友人、かつての同窓生など)と、あなたの現在のかかわりは、どのようなものですか。あなた自身にあてはまる番号をお選びください。

学校で出会った友人との関わりについて、『そう思う』(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は「楽しく話せる時がある」83.8%が最も高く、次いで「困ったときは助けてくれる」71.1%となっている。

一方、『そう思わない』(「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」)では「会話やメール等をよくしている」34.8%が最も高くなっている。

学校で出会った友人との関わりについて



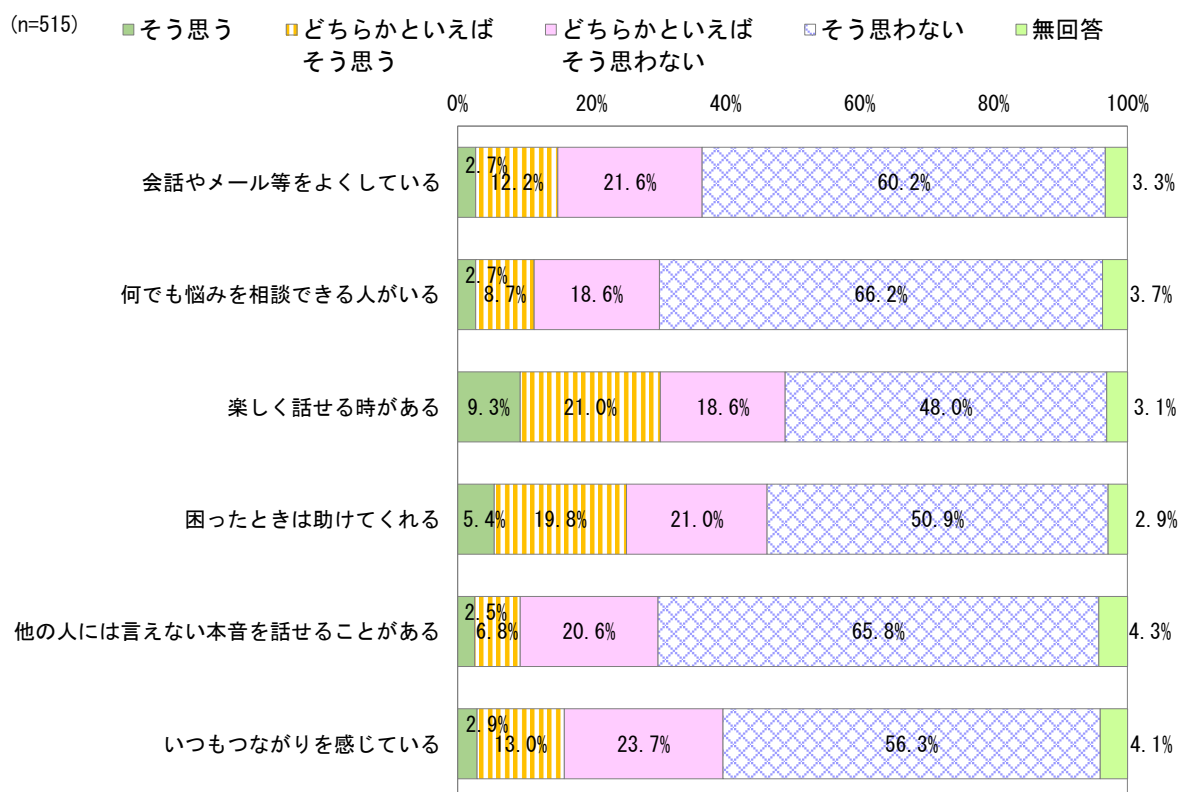
小数点第2位を 四捨五入しているため、 合計は100%と一致しない 場合がある 上段: 回答者数 下段: 構成比 ■ 上位1項目	サンプル数	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答
会話やメール等をよくしている	515 100.0%	158 30.7%	163 31.7%	103 20.0%	76 14.8%	15 2.9%
何でも悩みを相談できる人がいる	515 100.0%	182 35.3%	168 32.6%	81 15.7%	69 13.4%	15 2.9%
楽しく話せる時がある	515 100.0%	284 55.1%	148 28.7%	31 6.0%	32 6.2%	20 3.9%
困ったときは助けてくれる	515 100.0%	210 40.8%	156 30.3%	74 14.4%	57 11.1%	18 3.5%
他の人には言えない本音を話せることがある	515 100.0%	197 38.3%	148 28.7%	83 16.1%	70 13.6%	17 3.3%
いつもつながりを感じている	515 100.0%	152 29.5%	179 34.8%	98 19.0%	68 13.2%	18 3.5%

問14 次の各項目について、地域の人(近所の人、町内会などの知人、消防団などの地域活動での知人、塾や習い事での知人、参加している NPO 法人など)と、あなたのかかわりは、どのようなものですか。あなた自身にあてはまる番号をお選びください。

地域の人との関わりについて、『そう思う』(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は「楽しく話せる時がある」30.3%が最も高く、次いで「困ったときは助けてくれる」25.2%となっている。

一方、『そう思わない』(「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」)では全ての項目で6割を超えており、「他の人には言えない本音を話せることがある」86.4%が最も高くなっている。

地域の人との関わりについて



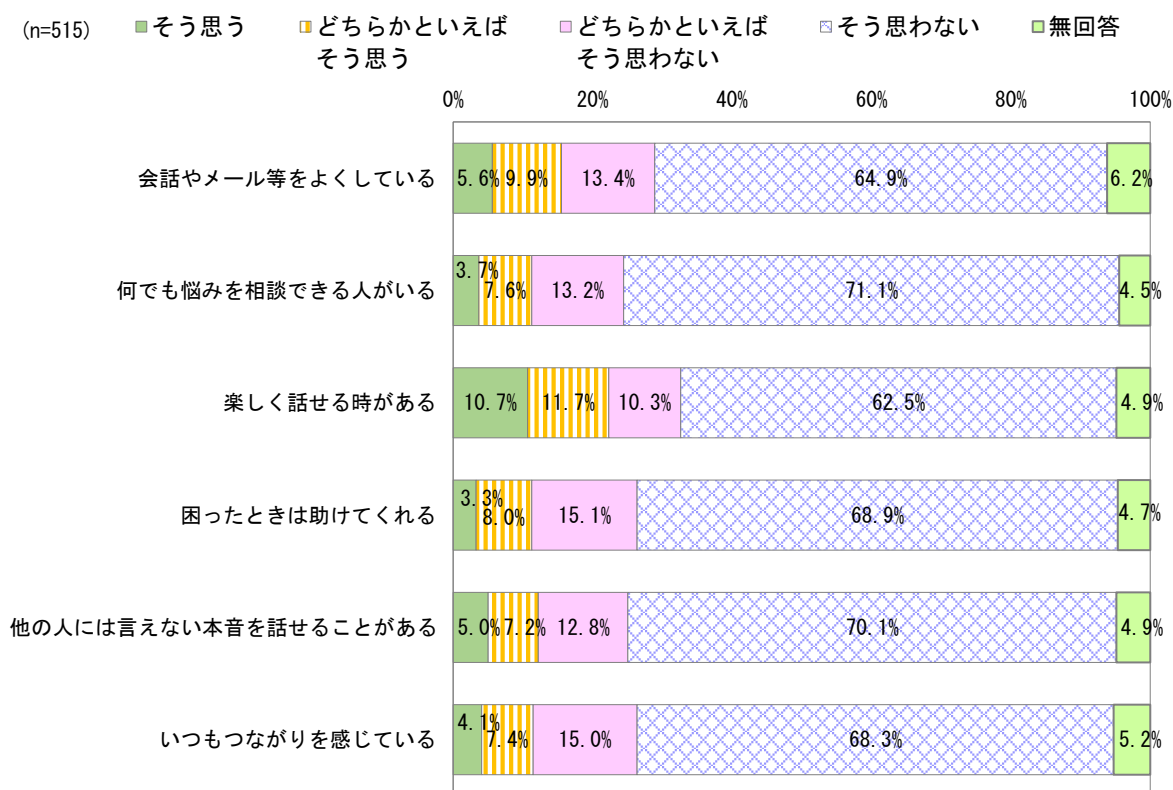
小数点第2位を 四捨五入しているため、 合計は100%と一致しない 場合がある 上段:回答者数 下段:構成比 ■ 上位1項目		そう 思う	そう どちら かとい え ば	そう どちら わかな いとい え ば	そう 思わ ない	無 回 答
会話やメール等をよくしている	515 100.0%	14 2.7%	63 12.2%	111 21.6%	310 60.2%	17 3.3%
何でも悩みを相談できる人がいる	515 100.0%	14 2.7%	45 8.7%	96 18.6%	341 66.2%	19 3.7%
楽しく話せる時がある	515 100.0%	48 9.3%	108 21.0%	96 18.6%	247 48.0%	16 3.1%
困ったときは助けてくれる	515 100.0%	28 5.4%	102 19.8%	108 21.0%	262 50.9%	15 2.9%
他の人には言えない本音を話せることがある	515 100.0%	13 2.5%	35 6.8%	106 20.6%	339 65.8%	22 4.3%
いつもつながりを感じている	515 100.0%	15 2.9%	67 13.0%	122 23.7%	290 56.3%	21 4.1%

問15 次の各項目について、インターネット上における人やグループ(実際には会ったことがなかったり、または、何回か会ったことはあっても、基本的にはインターネット中心の付き合いの人やグループ)と、あなたのかかわりは、どのようなものですか。あなた自身にあてはまる番号をお選びください。

インターネット上における人やグループについて、『そう思う』(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は「楽しく話せる時がある」22.4%が最も高くなっている。

『そう思わない』(「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」)では全ての項目が7割以上と、それぞれ高くなっており、「何でも悩みを相談できる人がある」84.3%が最も高くなっている。

インターネット上における人やグループとの関わりについて

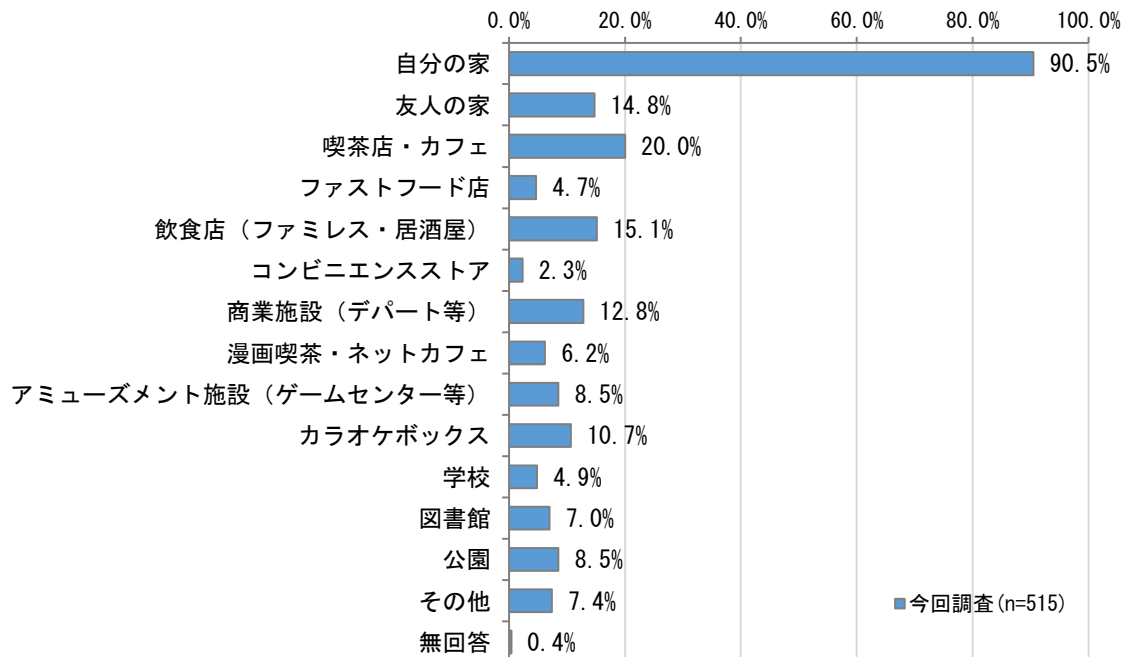


小数点第2位を 四捨五入しているため、 合計は100%と一致しない 場合がある 上段:回答者数 下段:構成比 ■ 上位1項目	サ ン プ ル 数	そ う 思 う	そ ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	そ ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ ない	そ う 思 わ ない	無 回 答
会話やメール等をよくしている	515	29	51	69	334	32
	100.0%	5.6%	9.9%	13.4%	64.9%	6.2%
何でも悩みを相談できる人がある	515	19	39	68	366	23
	100.0%	3.7%	7.6%	13.2%	71.1%	4.5%
楽しく話せる時がある	515	55	60	53	322	25
	100.0%	10.7%	11.7%	10.3%	62.5%	4.9%
困ったときは助けてくれる	515	17	41	78	355	24
	100.0%	3.3%	8.0%	15.1%	68.9%	4.7%
他の人には言えない本音を話せることがある	515	26	37	66	361	25
	100.0%	5.0%	7.2%	12.8%	70.1%	4.9%
いつもつながりを感じている	515	21	38	77	352	27
	100.0%	4.1%	7.4%	15.0%	68.3%	5.2%

問16 あなたは、仕事や学校、家事などのほかに、自由な時間を過ごす(またはほっとできる、居心地の良い場所)場合は、どのような場所で過ごすことが多いですか。
(いくつでも選択可)

自由な時間をどこで過ごすかについては、「自分の家」90.5%が最も高く、次いで「喫茶店・カフェ」20.0%、「飲食店（ファミレス・居酒屋）」15.1%となっている。

自由な時間をどこで過ごすか

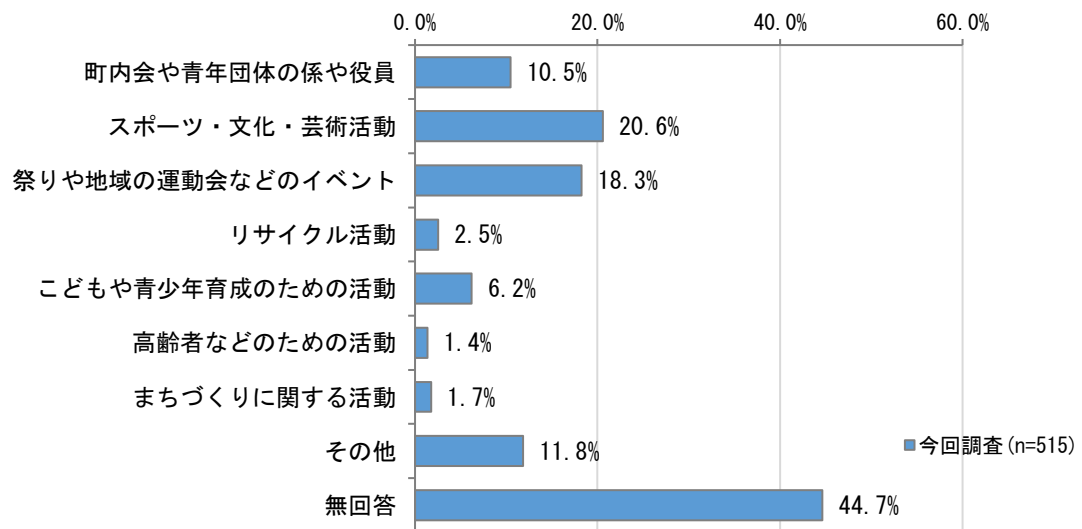


複数回答のため 合計は100%に ならない		サ ン プ ル 数	自 分 の 家	友 人 の 家	喫 茶 店・カ フェ	ファ ス ト フ ー ド 店	飲 食 店 (ファミ レス・ 居酒屋)	ア ン コ ン ビ ニ エ ン ス ス ト	等 商 業 施 設 (デ パ ー ト 等)	フ マ ン 画 喫 茶・ ネ ッ ト カ	等 設 ア ミ ュー ズ メ ン タ ー 施 (ゲー ム セ ン タ ー)	カラ オ ケ ボ ッ ク ス	学 校	図 書 館	公 園	そ の 他	無 回 答
上段:回答者数 下段:構成比																	
■ 上位1項目																	
今回調査		515	466 90.5%	76 14.8%	103 20.0%	24 4.7%	78 15.1%	12 2.3%	66 12.8%	32 6.2%	44 8.5%	55 10.7%	25 4.9%	36 7.0%	44 8.5%	38 7.4%	2 0.4%
性 別	男性	188	163 86.7%	22 11.7%	30 16.0%	10 5.3%	31 16.5%	10 5.3%	18 9.6%	18 9.6%	24 12.8%	22 11.7%	16 8.5%	14 7.4%	18 9.6%	16 8.5%	1 0.5%
	女性	323	300 92.9%	53 16.4%	72 22.3%	13 4.0%	45 13.9%	2 0.6%	48 14.9%	13 4.0%	19 5.9%	32 9.9%	9 2.8%	21 6.5%	26 8.0%	21 6.5%	1 0.3%
	その他	3	2 66.7%	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%
	無回答	1	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
年 齢 別	15～19歳	105	96 91.4%	18 17.1%	12 11.4%	10 9.5%	12 11.4%	2 1.9%	5 4.8%	4 3.8%	5 4.8%	20 19.0%	19 18.1%	12 11.4%	10 9.5%	2 1.9%	1 1.0%
	20～24歳	81	67 82.7%	18 22.2%	11 13.6%	6 7.4%	9 11.1%	4 4.9%	12 14.8%	9 11.1%	11 13.6%	8 9.9%	4 4.9%	5 6.2%	5 6.2%	7 8.6%	0 0.0%
	25～29歳	108	100 92.6%	18 16.7%	29 26.9%	5 4.6%	22 20.4%	1 0.9%	19 17.6%	6 5.6%	11 10.2%	12 11.1%	2 1.9%	6 5.6%	10 9.3%	10 9.3%	1 0.9%
	30～34歳	109	98 89.9%	14 12.8%	29 26.6%	3 2.8%	17 15.6%	4 3.7%	17 15.6%	7 6.4%	8 7.3%	8 7.3%	0 0.0%	5 4.6%	7 6.4%	9 8.3%	0 0.0%
	35～39歳	111	104 93.7%	8 7.2%	22 19.8%	0 0.0%	17 15.3%	1 0.9%	13 11.7%	5 4.5%	9 8.1%	7 6.3%	0 0.0%	8 7.2%	12 10.8%	10 9.0%	0 0.0%
	無回答	1	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
婚 姻 状 況 別	未婚	267	236 88.4%	49 18.4%	48 18.0%	21 7.9%	39 14.6%	11 4.1%	26 9.7%	21 7.9%	27 10.1%	40 15.0%	24 9.0%	27 10.1%	21 7.9%	16 6.0%	1 0.4%
	配偶者あり	226	209 92.5%	25 11.1%	51 22.6%	3 1.3%	34 15.0%	1 0.4%	37 16.4%	7 3.1%	16 7.1%	11 4.9%	1 0.4%	8 3.5%	20 8.8%	22 9.7%	1 0.4%
	配偶者と死別	3	3 100.0%	0 0.0%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	配偶者と離別(離婚)	15	14 93.3%	2 13.3%	2 13.3%	0 0.0%	4 26.7%	0 0.0%	3 20.0%	3 20.0%	1 6.7%	4 26.7%	0 0.0%	0 0.0%	3 20.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無回答	4	4 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

問17 あなたは、仕事や学校以外の活動に参加していますか。この1年以内に参加した活動をお答えください。(いくつでも選択可)

仕事や学校以外の活動への参加については、「スポーツ・文化・芸術活動」20.6%が最も高く、次いで「祭りや地域の運動会などのイベント」18.3%、「その他」11.8%となっている。その他の内容については、「参加していない」という意見が多くあげられた。

仕事や学校以外の活動への参加について



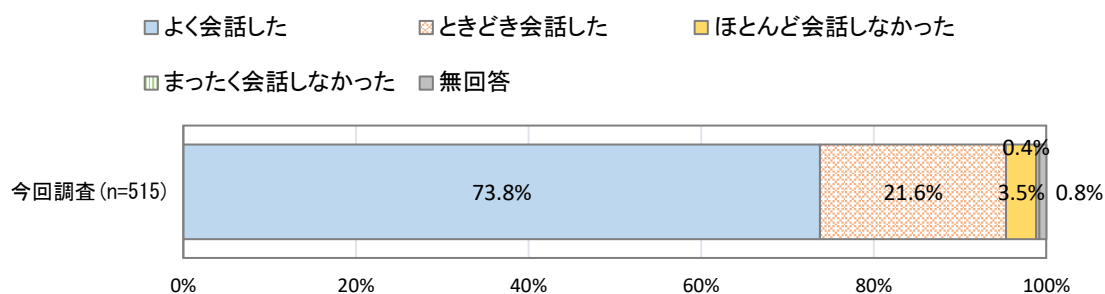
複数回答のため 合計は100%に ならない		サ ン プ ル 数	町 内 会 や 青 年 団 体 の 係 や 役 員	ス ポ ー ツ ・ 文 化 ・ 芸 術 活 動	祭 り や 地 域 の 運 動 会 な ど の イ ベ ン ト	リ サ イ ク ル 活 動	こ ど も や 青 少 年 育 成 の た め の 活 動	高 齢 者 な ど の た め の 活 動	ま ち づ く り に 関 す る 活 動	そ の 他	無 回 答
上段:回答者数 下段:構成比											
■ 上位1項目											
今回調査		515 －	54 10.5%	106 20.6%	94 18.3%	13 2.5%	32 6.2%	7 1.4%	9 1.7%	61 11.8%	230 44.7%
性 別	男性	188 －	29 15.4%	49 26.1%	31 16.5%	3 1.6%	11 5.9%	4 2.1%	5 2.7%	22 11.7%	71 37.8%
	女性	323 －	24 7.4%	56 17.3%	62 19.2%	9 2.8%	20 6.2%	3 0.9%	3 0.9%	37 11.5%	158 48.9%
	その他	3 －	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%
	無回答	1 －	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%
年 齢 別	15～19歳	105 －	7 6.7%	32 30.5%	31 29.5%	2 1.9%	5 4.8%	0 0.0%	1 1.0%	7 6.7%	36 34.3%
	20～24歳	81 －	2 2.5%	21 25.9%	8 9.9%	3 3.7%	1 1.2%	1 1.2%	2 2.5%	8 9.9%	39 48.1%
	25～29歳	108 －	9 8.3%	18 16.7%	13 12.0%	2 1.9%	4 3.7%	2 1.9%	2 1.9%	13 12.0%	59 54.6%
	30～34歳	109 －	8 7.3%	12 11.0%	16 14.7%	1 0.9%	5 4.6%	1 0.9%	1 0.9%	16 14.7%	58 53.2%
	35～39歳	111 －	28 25.2%	23 20.7%	26 23.4%	5 4.5%	17 15.3%	3 2.7%	3 2.7%	16 14.4%	38 34.2%
	無回答	1 －	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%
	未婚	267 －	12 4.5%	73 27.3%	46 17.2%	6 2.2%	9 3.4%	2 0.7%	4 1.5%	30 11.2%	115 43.1%
婚 姻 状 況 別	配偶者あり	226 －	39 17.3%	30 13.3%	45 19.9%	7 3.1%	23 10.2%	5 2.2%	5 2.2%	24 10.6%	106 46.9%
	配偶者と死別	3 －	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%
	配偶者と離別(離婚)	15 －	2 13.3%	3 20.0%	2 13.3%	2 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 33.3%	6 40.0%
	無回答	4 －	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	2 50.0%

問18 最近6か月間に、家族以外の人と会話をしましたか。(1つを選択)

家族以外の人との会話については、「よく会話をした」73.8%が最も高く、次いで「ときどき会話をした」21.6%、「ほとんど会話をしなかった」3.5%となっている。

国調査（R4年度）との比較では、「よく会話をした」の割合は、本市が国調査を34.1ポイント上回っている。

家族以外の人との会話について



小数点第2位を四捨五入しているため、合計は100%と一致しない場合がある 上段：回答者数 下段：構成比 ■ 上位1項目		サンプル数	よく会話をした	ときどき会話をした	ほとんど会話をしなかった	まったく会話をしなかった	無回答
今回調査		515	380	111	18	2	4
		100.0%	73.8%	21.6%	3.5%	0.4%	0.8%
国比較(R4年度)		494	196	191	78	24	5
		100.1%	39.7%	38.7%	15.8%	4.9%	1.0%
性別	男性	188	138	37	8	2	3
		100.0%	73.4%	19.7%	4.3%	1.1%	1.6%
	女性	323	240	73	9	0	1
		100.0%	74.3%	22.6%	2.8%	0.0%	0.3%
年齢別	その他	3	2	1	0	0	0
		100.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	1	0	0	1	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
年齢別	15～19歳	105	88	16	1	0	0
		100.0%	83.8%	15.2%	1.0%	0.0%	0.0%
	20～24歳	81	64	15	2	0	0
		100.0%	79.0%	18.5%	2.5%	0.0%	0.0%
	25～29歳	108	76	28	2	1	1
		100.0%	70.4%	25.9%	1.9%	0.9%	0.9%
	30～34歳	109	74	24	11	0	0
婚姻状況別		100.0%	67.9%	22.0%	10.1%	0.0%	0.0%
	35～39歳	111	78	28	1	1	3
		100.0%	70.3%	25.2%	0.9%	0.9%	2.7%
	無回答	1	0	0	1	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	未婚	267	203	55	5	2	2
		100.0%	76.0%	20.6%	1.9%	0.7%	0.7%
婚姻状況別	配偶者あり	226	163	51	10	0	2
		100.0%	72.1%	22.6%	4.4%	0.0%	0.9%
	配偶者と死別	3	2	1	0	0	0
		100.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	配偶者と離別(離婚)	15	10	3	2	0	0
		100.0%	66.7%	20.0%	13.3%	0.0%	0.0%
	無回答	4	2	1	1	0	0
		100.0%	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%

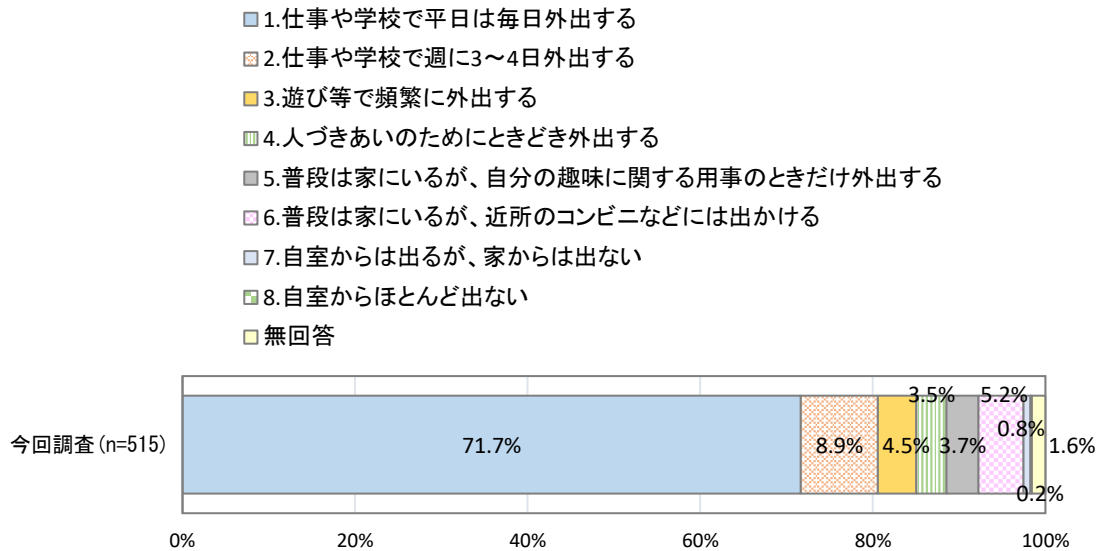
3. 外出の状況について

問19 あなたは普段どのくらい外出しますか。現在のことについてお答えください。(1つを選択)

外出の頻度については、「仕事や学校で平日は毎日外出する」71.7%が最も高く、次いで「仕事や学校で週に3～4日外出する」8.9%、「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」5.2%となっている。

国調査（R4年度）との比較では、「仕事や学校で平日は毎日外出する」の割合は、本市が国調査を2.4ポイント上回っている。

外出の頻度



小数点第2位を四捨五入しているため、合計は100%と一致しない場合がある 上段：回答者数 下段：構成比 ■ 上位1項目		サンプル数	仕事や学校で平日は毎日外出する	仕事や学校で週に3～4日外出する	遊び等で頻繁に外出する	人づきあいのためにときどき外出する	自分の趣味に関する用事のみで外出する	普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する	自室からは出るが、家からは出ない	自室からほとんど出ない	無回答
今回調査		515	369	46	23	18	19	27	4	1	8	
		100.0%	71.7%	8.9%	4.5%	3.5%	3.7%	5.2%	0.8%	0.2%	1.6%	
国比較 (R4年度)		7,035	4,875	851	267	303	366	253	49	14	56	
		99.9%	69.3%	12.1%	3.8%	4.3%	5.2%	3.6%	0.7%	0.2%	0.7%	
性別	男性	188	151	14	6	2	8	3	2	0	2	
		100.0%	80.3%	7.4%	3.2%	1.1%	4.3%	1.6%	1.1%	0.0%	1.1%	
	女性	323	216	30	17	16	11	24	2	1	6	
		100.0%	66.9%	9.3%	5.3%	5.0%	3.4%	7.4%	0.6%	0.3%	1.9%	
年齢別	その他	3	1	2	0	0	0	0	0	0	0	
		100.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	無回答	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
		100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
年齢別	15～19歳	105	88	7	2	2	2	2	1	0	1	
		100.0%	83.8%	6.7%	1.9%	1.9%	1.9%	1.9%	1.0%	0.0%	1.0%	
	20～24歳	81	56	10	5	5	0	5	0	0	0	
		100.0%	69.1%	12.3%	6.2%	6.2%	0.0%	6.2%	0.0%	0.0%	0.0%	
	25～29歳	108	72	10	8	4	9	3	1	1	0	
		100.0%	66.7%	9.3%	7.4%	3.7%	8.3%	2.8%	0.9%	0.9%	0.0%	
年齢別	30～34歳	109	67	8	6	5	7	10	2	0	4	
		100.0%	61.5%	7.3%	5.5%	4.6%	6.4%	9.2%	1.8%	0.0%	3.7%	
	35～39歳	111	85	11	2	2	1	7	0	0	3	
		100.0%	76.6%	9.9%	1.8%	1.8%	0.9%	6.3%	0.0%	0.0%	2.7%	
	無回答	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
		100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
婚姻状況別	未婚	267	207	23	5	8	10	9	2	1	2	
		100.0%	77.5%	8.6%	1.9%	3.0%	3.7%	3.4%	0.7%	0.4%	0.7%	
	配偶者あり	226	145	22	18	10	8	16	2	0	5	
		100.0%	64.2%	9.7%	8.0%	4.4%	3.5%	7.1%	0.9%	0.0%	2.2%	
	配偶者と死別	3	2	0	0	0	0	0	0	0	1	
		100.0%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	
婚姻状況別	配偶者と離別(離婚)	15	12	0	0	0	1	2	0	0	0	
		100.0%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%	
	無回答	4	3	1	0	0	0	0	0	0	0	
		100.0%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

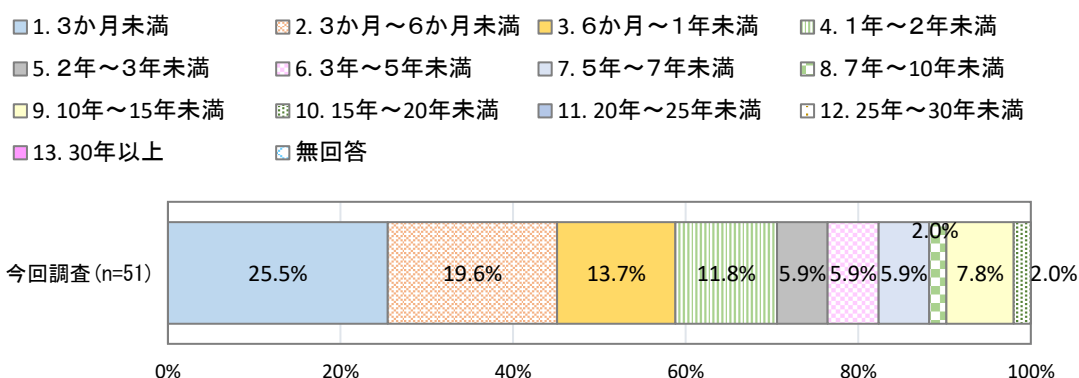
問20 【問19で「5」～「8」を選んだ方のみ、お答えください。】

あなたの外出状況が現在の状態となって、どのくらい経ちますか。(1つを選択)

現在の外出状況になってから経過した時間については、「3か月未満」25.5%が最も高く、次いで「3か月～6か月未満」19.6%、「6か月～1年未満」13.7%となっている。

国調査（R4年度）との比較では、『1年未満（「3か月未満」、「3か月～6か月未満」、「6か月～1年未満」）』と回答した割合は、本市が国調査を19.9ポイント上回っている。

現在の外出状況になってから経過した時間



小数点第2位を 四捨五入している ため、合計は100% と一致しない場合 がある		サ ン プ ル 数	3 か 月 未 満	3 か 月 ～ 6 か 月 未 満	6 か 月 ～ 1 年 未 満	1 年 ～ 2 年 未 満	2 年 ～ 3 年 未 満	3 年 ～ 5 年 未 満	5 年 ～ 7 年 未 満	7 年 ～ 1 0 年 未 満	1 0 年 ～ 1 5 年 未 満	1 5 年 ～ 2 0 年 未 満	2 0 年 ～ 2 5 年 未 満	2 5 年 ～ 3 0 年 未 満	3 0 年 以 上	無 回 答	
上段: 回答者数 下段: 構成比																	
■ 上位1項目																	
今回調査			51 100.0%	13 25.5%	10 19.6%	7 13.7%	6 11.8%	3 5.9%	3 5.9%	3 5.9%	1 2.0%	4 7.8%	1 2.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
国比較 (R4年度)		690 99.9%	123 17.8%	67 9.7%	79 11.4%	100 14.5%	104 15.1%	89 12.9%	37 5.4%	26 3.8%	32 4.6%	16 2.3%	7 1.0%	3 0.4%	1 0.1%	7 0.9%	
性 別	男性	13 100.0%	2 15.4%	2 15.4%	1 7.7%	0 0.0%	0 0.0%	2 15.4%	2 15.4%	0 0.0%	3 23.1%	1 7.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	女性	38 100.0%	11 28.9%	8 21.1%	6 15.8%	6 15.8%	3 7.9%	1 2.6%	1 2.6%	1 2.6%	1 2.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	その他	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	
	無回答	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	
年 齢 別	15～19歳	5 100.0%	1 20.0%	1 20.0%	1 20.0%	0 0.0%	1 20.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	20～24歳	5 100.0%	2 40.0%	1 20.0%	1 20.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	25～29歳	14 100.0%	4 28.6%	4 28.6%	1 7.1%	0 0.0%	2 14.3%	0 0.0%	0 7.1%	1 7.1%	1 7.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	30～34歳	19 100.0%	4 21.1%	2 10.5%	4 21.1%	3 15.8%	0 0.0%	2 10.5%	2 10.5%	0 0.0%	0 10.5%	2 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	35～39歳	8 100.0%	2 25.0%	2 25.0%	0 0.0%	2 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 12.5%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	無回答	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	
	無回答	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	
婚 姻 状 況 別	未婚	22 100.0%	7 31.8%	4 18.2%	2 9.1%	1 4.5%	1 4.5%	1 4.5%	3 13.6%	0 0.0%	2 9.1%	1 4.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	配偶者あり	26 100.0%	6 23.1%	6 23.1%	4 15.4%	4 15.4%	2 7.7%	1 3.8%	0 0.0%	1 3.8%	2 7.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	配偶者と死別	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	
	配偶者と離別（離婚）	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	無回答	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	

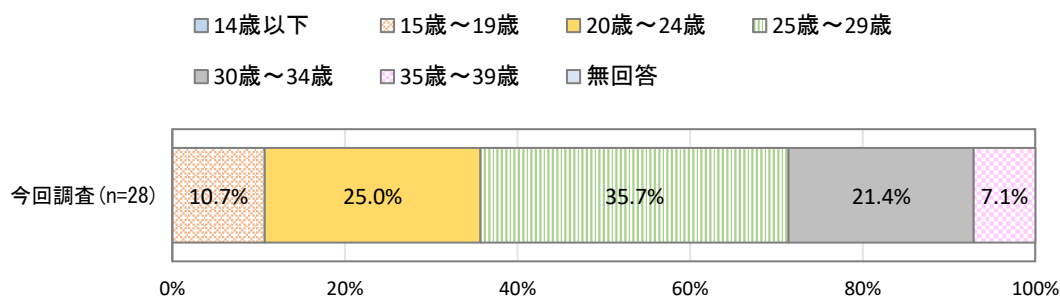
問21 【問21～問23-1は問20で「3」～「13」を選んだ方のみ、お答えください。】

あなたの外出状況が現在の状態になったのは、何歳の頃ですか。(1つを選択)

現在の外出状況になった際の回答者の年齢については、「25 歳～29 歳」35.7%が最も高く、次いで「20 歳～24 歳」25.0%、「30 歳～34 歳」21.4%となっている。

国調査（R4 年度）との比較では、「15～19 歳」と回答した割合は、いずれも本市が国調査より高く、「14 歳以下」、「35～39 歳」では本市が国調査を 5.0 ポイント以上、下回っている。

現在の外出状況になった際の回答者の年齢



小数点第2位を四捨五入しているため、合計は100%と一致しない場合がある 上段: 回答者数 下段: 構成比 ■ 上位1項目		サンプル数	14歳以下	15歳～19歳	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	無回答
今回調査		28	0	3	7	10	6	2	0
国比較 (R4年度)		494	26	46	100	122	96	63	41
性別	男性	9	0	1	3	4	1	0	0
		100.0%	0.0%	11.1%	33.3%	44.4%	11.1%	0.0%	0.0%
	女性	19	0	2	4	6	5	2	0
		100.0%	0.0%	10.5%	21.1%	31.6%	26.3%	10.5%	0.0%
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
年齢別	15～19歳	3	0	3	0	0	0	0	0
		100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20～24歳	2	0	0	2	0	0	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	25～29歳	6	0	0	3	3	0	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30～34歳	13	0	0	1	6	6	0	0
婚姻状況別	未婚	4	0	0	1	1	0	2	0
		100.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	50.0%	0.0%
	配偶者あり	0	0	0	0	0	0	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	配偶者と死別	3	0	0	0	1	1	1	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%

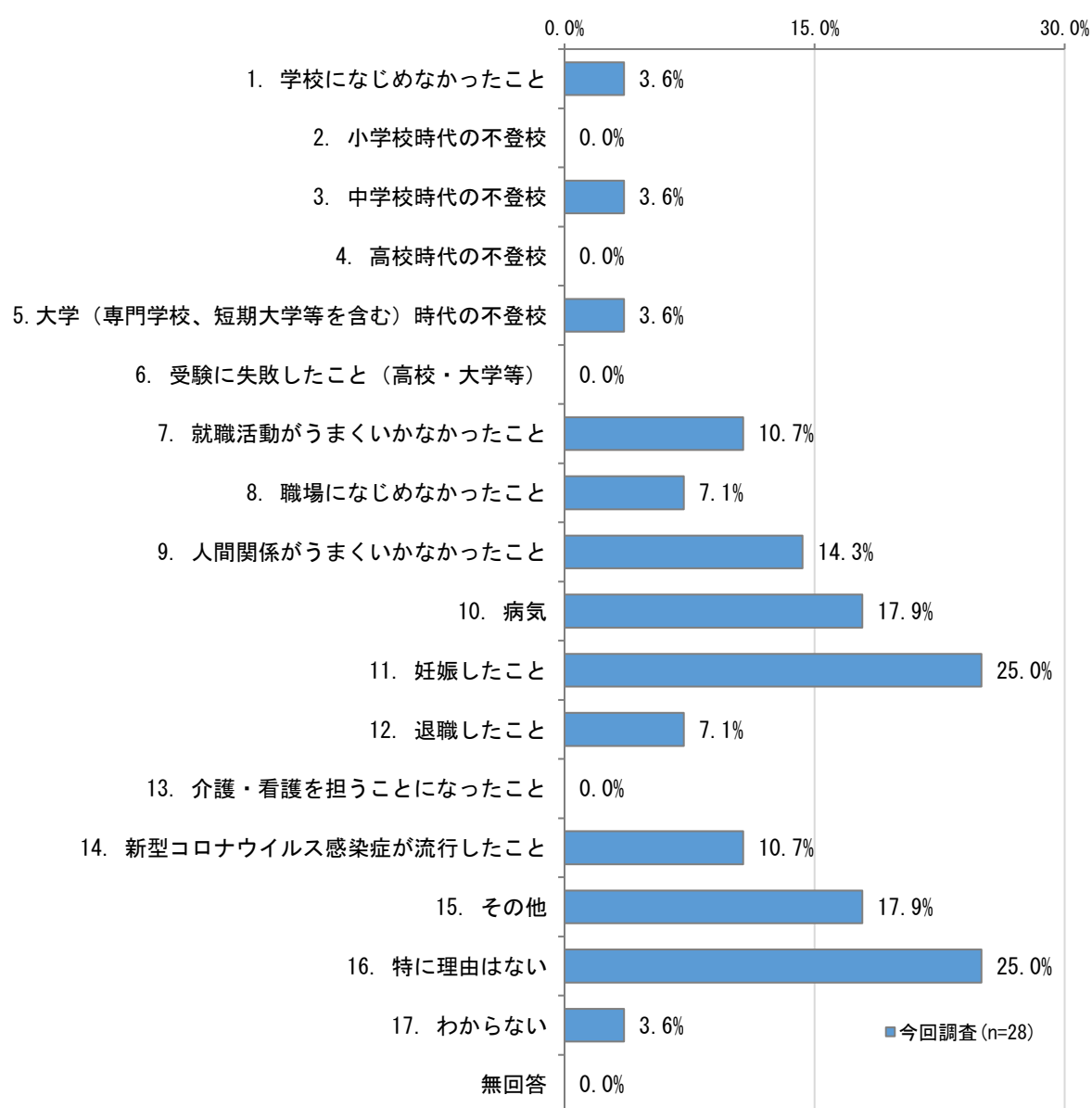
問22 あなたの外出状況が現在の状態になった主な理由は何ですか。(いくつでも選択可)

現在の外出状況になった理由については、「妊娠したこと」、「特に理由はない」がいずれも25.0%と最も高く、次いで「病気」、「その他」がいずれも17.9%、「人間関係がうまくいかなかったこと」14.3%となっている。

その他の内容については、「引越し」、「結婚」などの理由があげられた。

国調査（R4年度）との比較では、「病気」、「妊娠したこと」と回答した割合は、いずれも本市が国調査を6.0ポイント以上上回った一方、「退職したこと」、「新型コロナウイルス感染症が流行したこと」は国調査を9.0ポイント以上、下回っている。

現在の外出状況になった理由



「病気」を選択した方の病名
重症筋無力症、多巣性運動ニューロパチー
双極性障害
うつ
躁鬱

複数回答のため 合計は100%に ならない 上段: 回答者数 下段: 構成比 ■ 上位1項目		サ ン プ ル 数	た 学 校 に な じ め な か つ た こ と	小 学 校 時 代 の 不 登 校	中 学 校 時 代 の 不 登 校	高 校 時 代 の 不 登 校	大 学 （ 専 門 学 校 、 時 短 大 学 等 を 含 む ） の 不 登 校	受 験 に 失 敗 し た こ と （ 高 校 ・ 大 学 等 ）	就 活 動 が う ま く い な か つ た こ と	職 場 に な じ め な か つ た こ と
今回調査		28 -	1 3.6%	0 0.0%	1 3.6%	0 0.0%	1 3.6%	0 0.0%	3 10.7%	2 7.1%
国比較 (R4年度)		494 -	28 5.7%	8 1.6%	33 6.7%	17 3.4%	8 1.6%	6 1.2%	37 7.5%	36 7.3%
性 別	男性	9 -	1 11.1%	0 0.0%	1 11.1%	0 0.0%	1 11.1%	0 0.0%	3 33.3%	1 11.1%
	女性	19 -	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.3%
	その他	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	無回答	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
年 齢 別	15～19歳	3 -	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	20～24歳	2 -	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	25～29歳	6 -	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%
	30～34歳	13 -	1 7.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 15.4%	2 15.4%
	35～39歳	4 -	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無回答	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
婚 姻 状 況 別	未婚	11 -	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 18.2%	1 9.1%
	配偶者あり	14 -	0 0.0%	0 0.0%	1 7.1%	0 0.0%	1 7.1%	0 0.0%	1 7.1%	0 0.0%
	配偶者と死別	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	配偶者と離別（離婚）	3 -	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%
	無回答	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -

複数回答のため 合計は100%に ならない 上段: 回答者数 下段: 構成比 ■ 上位1項目		サ ン プ ル 数	か 人 間 関 係 が う ま く い な か つ た こ と	病 気	妊 娠 し た こ と	退 職 し た こ と	介 護 ・ 看 護 を 担 う こ と に な つ た こ と	新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス と 感 染 症 が 流 行 し た こ と	そ の 他	特 に 理 由 は な い	わ か ら な い	無 回 答
今回調査		28 -	4 14.3%	5 17.9%	7 25.0%	2 7.1%	0 0.0%	3 10.7%	5 17.9%	7 25.0%	1 3.6%	0 0.0%
国比較 (R4年度)		494 -	68 13.8%	57 11.5%	75 15.2%	80 16.2%	7 1.4%	146 29.6%	86 17.4%	73 14.8%	16 3.2%	4 0.8%
性 別	男性	9 -	2 22.2%	1 11.1%	0 0.0%	1 11.1%	0 0.0%	1 11.1%	1 11.1%	4 44.4%	0 0.0%	0 0.0%
	女性	19 -	2 10.5%	4 21.1%	7 36.8%	1 5.3%	0 0.0%	2 10.5%	4 21.1%	3 15.8%	1 5.3%	0 0.0%
	その他	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	無回答	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
年 齢 別	15～19歳	3 -	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%
	20～24歳	2 -	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	25～29歳	6 -	1 16.7%	1 16.7%	3 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	30～34歳	13 -	3 23.1%	2 15.4%	3 23.1%	2 15.4%	0 0.0%	2 15.4%	2 15.4%	4 30.8%	0 0.0%	0 0.0%
	35～39歳	4 -	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 50.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無回答	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
婚 姻 状 況 別	未婚	11 -	1 9.1%	4 36.4%	0 0.0%	1 9.1%	0 0.0%	1 9.1%	1 9.1%	4 36.4%	1 9.1%	0 0.0%
	配偶者あり	14 -	1 7.1%	0 0.0%	7 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 14.3%	3 21.4%	3 21.4%	0 0.0%	0 0.0%
	配偶者と死別	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	配偶者と離別（離婚）	3 -	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無回答	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -

問23 【問22で「1」～「15」を選んだ方のみ、お答えください。】

あなたの外出状況が現在の状態になった最も大きな理由は何ですか。(1つを選択)

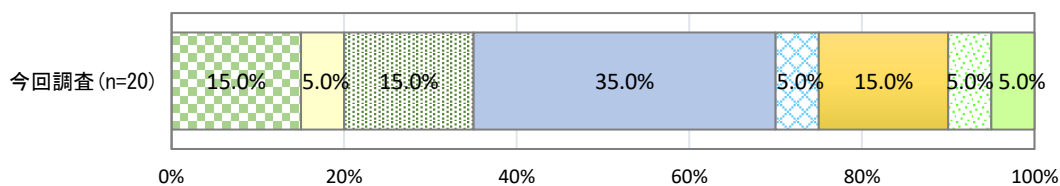
現在の外出状況になった最も大きな理由については、「妊娠したこと」35.0%が最も高く、次いで「職場になじめなかったこと」、「病気」、「その他」がいずれも15.0%となっている。

その他の内容については、「引越し」、「子どもがいるから」などの理由があげられた。

国調査（R4年度）との比較では、「職場になじめなかったこと」、「妊娠したこと」と回答した割合は、いずれも本市が国調査を12.0ポイント以上上回った一方、「新型コロナウイルス感染症が流行したこと」は国調査を20.7ポイント下回っている。

現在の外出状況になった最も大きな理由

■ 学校になじめなかったこと	■ 小学校時代の不登校
■ 中学校時代の不登校	■ 高校時代の不登校
■ 大学(専門学校、短期大学等を含む)時代の不登校	■ 受験に失敗したこと(高校・大学等)
■ 就職活動がうまくいかなかったこと	■ 職場になじめなかったこと
■ 人間関係がうまくいかなかったこと	■ 病気
■ 妊娠したこと	■ 退職したこと
■ 介護・看護を担うことになったこと	■ 新型コロナウイルス感染症が流行したこと
■ その他	■ 特に理由はない
■ わからない	■ 無回答



「病気」を選択した方の病名

重症筋無力症、多巣性運動ニューロパチー
双極性障害
うつ

小数点第2位を 四捨五入している ため、合計は100% と一致しない場合 がある 上段：回答者数 下段：構成比 ■ 上位1項目		サ ン プ ル 数	た と え に な じ め な か つ た こ と	小 学 校 時 代 の 不 登 校	中 学 校 時 代 の 不 登 校	高 校 時 代 の 不 登 校	代 の 不 登 校 大 学 （ 専 門 学 校 、 時 短 大 学 等 を 含 む ）	受 験 に 失 敗 し た こ と （ 高 校 ・ 大 学 等 ）	就 職 活 動 が う ま く い な か つ た こ と	職 場 に な じ め な か つ た こ と
今回調査		20 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 15.0%
国比較（R4年度）		401 99.8%	6 1.5%	2 0.5%	13 3.2%	8 2.0%	2 0.5%	3 0.7%	15 3.7%	9 2.2%
性 別	男性	5 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 60.0%
	女性	15 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	その他	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	無回答	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
年 齢 別	15～19歳	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	20～24歳	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	25～29歳	6 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%
	30～34歳	9 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 22.2%
	35～39歳	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無回答	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
		-	-	-	-	-	-	-	-	-
婚 姻 状 況 別	未婚	6 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%
	配偶者あり	11 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 9.1%
	配偶者と死別	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	配偶者と離別（離婚）	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無回答	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
		-	-	-	-	-	-	-	-	-

小数点第2位を 四捨五入している ため、合計は100% と一致しない場合 がある 上段：回答者数 下段：構成比 ■ 上位1項目		サ ン プ ル 数	人 間 関 係 が う ま く い な か つ た こ と	病 気	妊 娠 し た こ と	退 職 し た こ と	介 護 ・ 看 護 を 担 う こ と に な つ た こ と	新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス と 感 染 症 が 流 行 し た こ と	そ の 他	特 に 理 由 は な い	わ か ら な い	無 回 答
今回調査		20 100.0%	1 5.0%	3 15.0%	7 35.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.0%	3 15.0%	1 5.0%	1 5.0%	0 0.0%
国比較（R4年度）		401 99.8%	26 6.5%	42 10.5%	58 14.5%	37 9.2%	3 0.7%	103 25.7%	70 17.5%	2 0.5%	1 0.2%	2 0.2%
性 別	男性	5 100.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%
	女性	15 100.0%	0 0.0%	3 20.0%	7 46.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.7%	3 20.0%	1 6.7%	0 0.0%	0 0.0%
	その他	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	無回答	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年 齢 別	15～19歳	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	20～24歳	2 100.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	25～29歳	6 100.0%	0 0.0%	1 16.7%	3 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	30～34歳	9 100.0%	1 11.1%	1 11.1%	3 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 22.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	35～39歳	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%
	無回答	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
婚 姻 状 況 別	未婚	6 100.0%	0 0.0%	2 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%
	配偶者あり	11 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 63.6%	0 0.0%	0 0.0%	1 9.1%	2 18.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	配偶者と死別	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	配偶者と離別（離婚）	3 100.0%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%
	無回答	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

問23-1 あなたが相談したことのある相談先があれば、次の欄に記入してください。(自由記載)

相談先については以下4件の回答が得られた。

- 施設職員。
- 離婚する際に、鹿屋市の女性相談に相談しました。
- 子育て支援課、児相、学校、病院。
- ハローワーク。

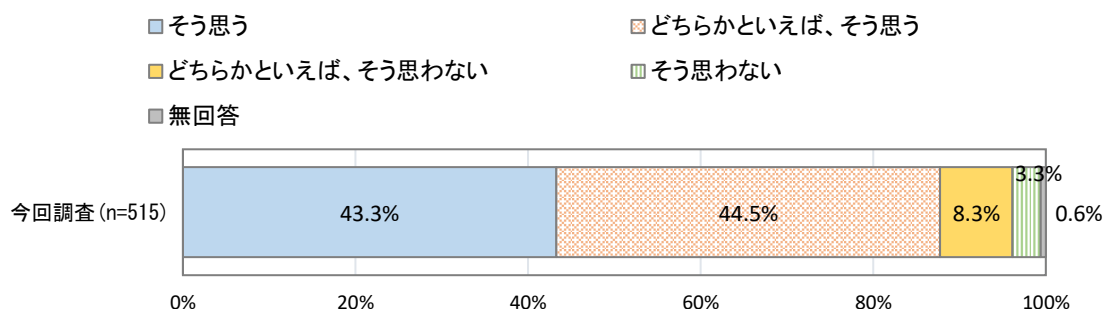
4. あなたの思いやこれまでの経験について

問24 あなたは、今、自分が幸せだと思いますか。あなたの実感をお答えください。(1つを選択)

今、自分が幸せだと思うかについては、「どちらかといえば、そう思う」44.5%が最も高く、次いで「そう思う」43.3%、「どちらかといえば、そう思わない」8.3%となっている。

『そう思う』（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）と回答した人は、全体の87.8%を占める。

今自分は幸せか



小数点第2位を四捨五入しているため、合計は100%と一致しない場合がある		上位1項目					
上段: 回答者数 下段: 構成比		サンプル数	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
今回調査		515	223	229	43	17	3
		100.0%	43.3%	44.5%	8.3%	3.3%	0.6%
性別	男性	188	77	81	21	8	1
		100.0%	41.0%	43.1%	11.2%	4.3%	0.5%
	女性	323	145	146	21	9	2
		100.0%	44.9%	45.2%	6.5%	2.8%	0.6%
	その他	3	1	1	1	0	0
		100.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%
無回答		1	0	1	0	0	0
		100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢別	15～19歳	105	61	33	8	3	0
		100.0%	58.1%	31.4%	7.6%	2.9%	0.0%
	20～24歳	81	32	37	7	5	0
		100.0%	39.5%	45.7%	8.6%	6.2%	0.0%
	25～29歳	108	47	48	11	2	0
		100.0%	43.5%	44.4%	10.2%	1.9%	0.0%
	30～34歳	109	43	51	11	4	0
		100.0%	39.4%	46.8%	10.1%	3.7%	0.0%
婚姻状況別	35～39歳	111	40	59	6	3	3
		100.0%	36.0%	53.2%	5.4%	2.7%	2.7%
	無回答	1	0	1	0	0	0
		100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	未婚	267	103	121	27	16	0
		100.0%	38.6%	45.3%	10.1%	6.0%	0.0%
	配偶者あり	226	113	100	10	0	3
		100.0%	50.0%	44.2%	4.4%	0.0%	1.3%
婚姻状況別	配偶者と死別	3	2	1	0	0	0
		100.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	配偶者と離別(離婚)	15	3	5	6	1	0
		100.0%	20.0%	33.3%	40.0%	6.7%	0.0%
	無回答	4	2	2	0	0	0
		100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%

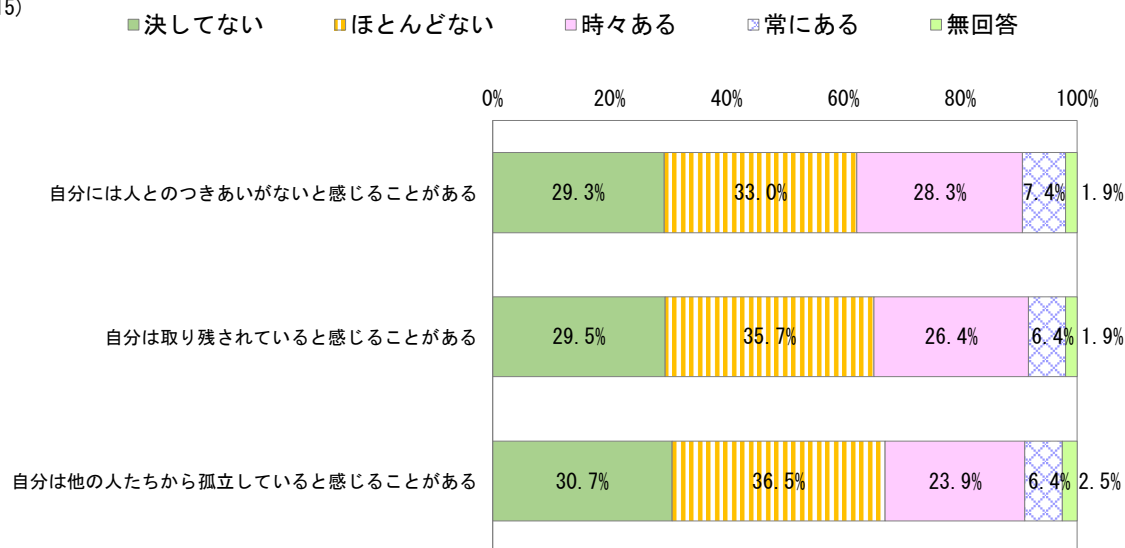
問25 次の各項目について、あなたはどれくらいの頻度で感じていますか。あなた自身にあてはまる番号をお選びください。

回答者が感じていることについて、全ての項目で『ない』（「決してない」＋「ほとんどない」）が6割を超えており、「自分は他の人たちから孤立していると感じることがある」は67.2%と最も高くなっている。

『ある』（「時々ある」＋「常にある」）では、「自分には人とのつきあいがいないと感じることがある」35.7%が最も高くなっている。

回答者が感じていること

(n=515)



小数点第2位を 四捨五入しているため、 合計は100%と一致しない 場合がある 上段:回答者数 下段:構成比 ■ 上位1項目	サンプル数	決してない	ほとんどない	時々ある	常にある	無回答
自分には人とのつきあいがいないと感じることがある	515 100.0%	151 29.3%	170 33.0%	146 28.3%	38 7.4%	10 1.9%
自分は取り残されていると感じることがある	515 100.0%	152 29.5%	184 35.7%	136 26.4%	33 6.4%	10 1.9%
自分は他の人たちから孤立していると感じることがある	515 100.0%	158 30.7%	188 36.5%	123 23.9%	33 6.4%	13 2.5%

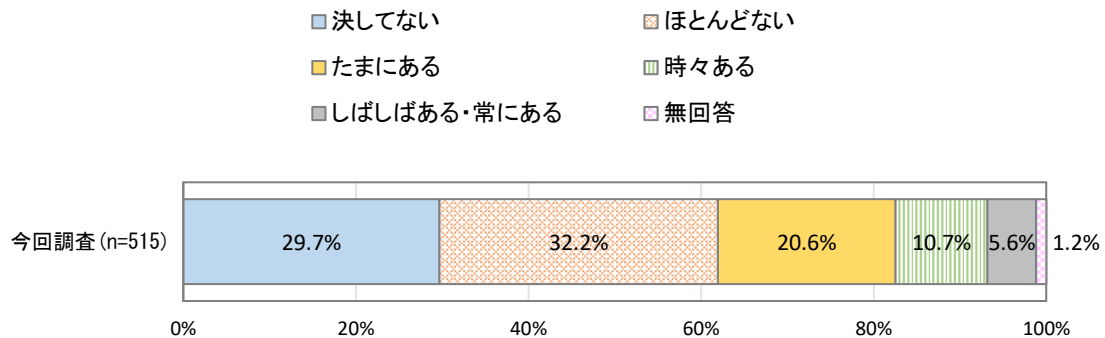
問26 あなたは、孤独であると感じることがありますか。(1つを選択)

孤独を感じるかについては、「ほとんどない」32.2%が最も高く、次いで「決してない」29.7%、「たまにある」20.6%となっている。

『ない』（「決してない」＋「ほとんどない」）と回答した人は全体の61.9%を占める。

国調査（R4年度）との比較では、「決してない」と回答した割合は、本市が国調査を14.7ポイント上回っている。

孤独を感じるか

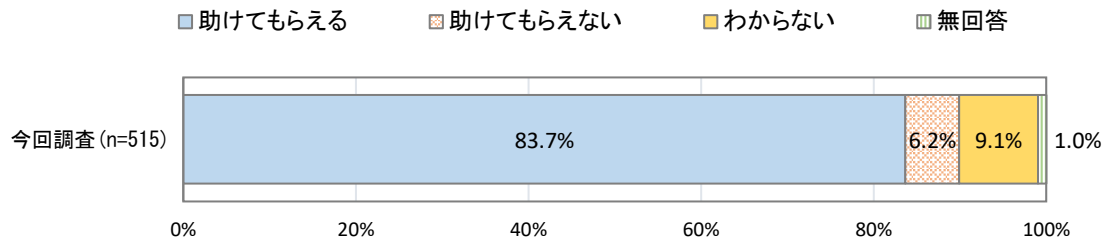


小数点第2位を 四捨五入している ため、合計は100% と一致しない場合 がある		サ ン プ ル 数	決 して ない	ほ と ん ど な い	た ま に あ る	時 々 あ る	あ る し ば し ば あ る ・ 常 に	無 回 答
上段：回答者数 下段：構成比								
■ 上位1項目								
今回調査		515 100.0%	153 29.7%	166 32.2%	106 20.6%	55 10.7%	29 5.6%	6 1.2%
国比較(R4年度)		7,035 100.1%	1,055 15.0%	2,223 31.6%	2,153 30.6%	1,041 14.8%	499 7.1%	63 1.0%
性別	男性	188 100.0%	67 35.6%	50 26.6%	41 21.8%	17 9.0%	11 5.9%	2 1.1%
	女性	323 100.0%	85 26.3%	114 35.3%	65 20.1%	38 11.8%	17 5.3%	4 1.2%
	その他	3 100.0%	1 33.3%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無回答	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%
年齢別	15～19歳	105 100.0%	34 32.4%	31 29.5%	24 22.9%	10 9.5%	4 3.8%	2 1.9%
	20～24歳	81 100.0%	23 28.4%	26 32.1%	14 17.3%	11 13.6%	6 7.4%	1 1.2%
	25～29歳	108 100.0%	36 33.3%	29 26.9%	25 23.1%	10 9.3%	7 6.5%	1 0.9%
	30～34歳	109 100.0%	30 27.5%	38 34.9%	22 20.2%	12 11.0%	7 6.4%	0 0.0%
	35～39歳	111 100.0%	30 27.0%	42 37.8%	21 18.9%	12 10.8%	4 3.6%	2 1.8%
	無回答	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%
	婚姻状況別	未婚	267 100.0%	69 25.8%	76 28.5%	60 22.5%	36 13.5%	23 8.6%
配偶者あり		226 100.0%	79 35.0%	86 38.1%	43 19.0%	13 5.8%	2 0.9%	3 1.3%
配偶者と死別		3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%
配偶者と離別（離婚）		15 100.0%	3 20.0%	4 26.7%	1 6.7%	4 26.7%	3 20.0%	0 0.0%
無回答		4 100.0%	2 50.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%

問26-1 あなたは、何か困ったことがあった場合、自分の親やきょうだいに助けてもらえると思いますか。(1つを選択)

困りごとの際に親やきょうだいに助けてもらえると思うかについては、「助けてもらえる」83.7%が最も高く、次いで「わからない」9.1%、「助けてもらえない」6.2%となっている。

困りごとの際に親や兄弟に助けてもらえると思うか



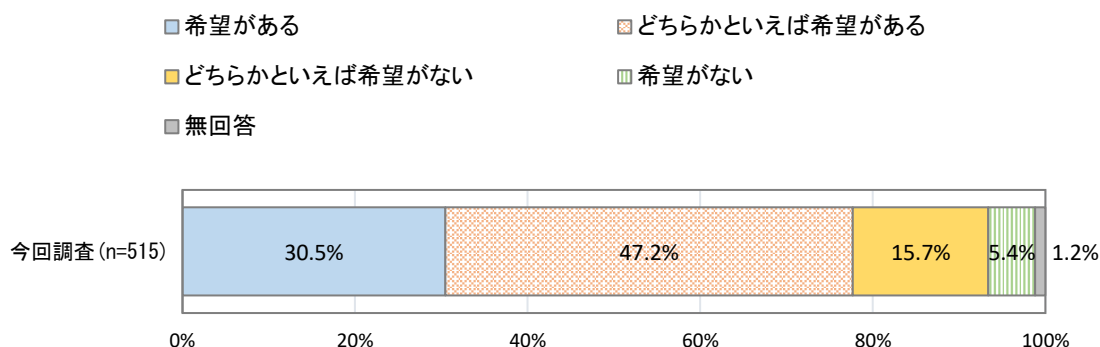
小数点第2位を四捨五入しているため、合計は100%と一致しない場合がある 上段: 回答者数 下段: 構成比 ■ 上位1項目		サンプル数	助けてもらえる	助けてもらえない	わからない	無回答
今回調査		515	431	32	47	5
		100.0%	83.7%	6.2%	9.1%	1.0%
性別	男性	188	159	13	15	1
		100.0%	84.6%	6.9%	8.0%	0.5%
	女性	323	271	19	29	4
		100.0%	83.9%	5.9%	9.0%	1.2%
年齢別	その他	3	1	0	2	0
		100.0%	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%
	無回答	1	0	0	1	0
		100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
年齢別	15～19歳	105	93	3	7	2
		100.0%	88.6%	2.9%	6.7%	1.9%
	20～24歳	81	68	9	4	0
		100.0%	84.0%	11.1%	4.9%	0.0%
	25～29歳	108	89	8	10	1
		100.0%	82.4%	7.4%	9.3%	0.9%
	30～34歳	109	88	8	13	0
婚姻状況別		100.0%	80.7%	7.3%	11.9%	0.0%
	35～39歳	111	93	4	12	2
		100.0%	83.8%	3.6%	10.8%	1.8%
	無回答	1	0	0	1	0
		100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	未婚	267	221	17	27	2
		100.0%	82.8%	6.4%	10.1%	0.7%
婚姻状況別	配偶者あり	226	195	13	15	3
		100.0%	86.3%	5.8%	6.6%	1.3%
	配偶者と死別	3	2	0	1	0
		100.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%
	配偶者と離別(離婚)	15	10	2	3	0
		100.0%	66.7%	13.3%	20.0%	0.0%
	無回答	4	3	0	1	0
		100.0%	75.0%	0.0%	25.0%	0.0%

問27 あなたは、自分の将来について明るい希望を持っていますか。(1つを選択)

将来について明るい希望を持っているかについては、「どちらかといえば希望がある」47.2%が最も高く、次いで「希望がある」30.5%、「どちらかといえば希望がない」15.7%となっている。

『希望がある』（「希望がある」＋「どちらかといえば希望がある」）と回答した人は全体の77.7%を占める。

将来について明るい希望を持っているか



小数点第2位を 四捨五入している ため、合計は100% と一致しない場合 がある		サ ン プ ル 数	希 望 が あ る	ど ち ら か と い え ば 希	ど ち ら か と い え ば 希	希 望 が な い	希 望 が な い	無 回 答
上段: 回答者数 下段: 構成比								
■ 上位1項目								
今回調査		515 100.0%	157 30.5%	243 47.2%	81 15.7%	28 5.4%	6 1.2%	
性別	男性	188 100.0%	53 28.2%	91 48.4%	35 18.6%	7 3.7%	2 1.1%	
	女性	323 100.0%	103 31.9%	151 46.7%	44 13.6%	21 6.5%	4 1.2%	
	その他	3 100.0%	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	
	無回答	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	
年 齢 別	15～19歳	105 100.0%	42 40.0%	36 34.3%	19 18.1%	6 5.7%	2 1.9%	
	20～24歳	81 100.0%	26 32.1%	35 43.2%	11 13.6%	8 9.9%	1 1.2%	
	25～29歳	108 100.0%	29 26.9%	56 51.9%	16 14.8%	6 5.6%	1 0.9%	
	30～34歳	109 100.0%	28 25.7%	58 53.2%	17 15.6%	6 5.5%	0 0.0%	
	35～39歳	111 100.0%	32 28.8%	58 52.3%	17 15.3%	2 1.8%	2 1.8%	
	無回答	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	
婚 姻 状 況 別	未婚	267 100.0%	77 28.8%	116 43.4%	47 17.6%	24 9.0%	3 1.1%	
	配偶者あり	226 100.0%	75 33.2%	118 52.2%	27 11.9%	3 1.3%	3 1.3%	
	配偶者と死別	3 100.0%	1 33.3%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	配偶者と離別（離婚）	15 100.0%	3 20.0%	6 40.0%	5 33.3%	1 6.7%	0 0.0%	
	無回答	4 100.0%	1 25.0%	1 25.0%	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	

問28 あなたは今までに、社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験がありましたか。または、現在、社会生活や日常生活を円滑に送れていない状況がありますか。
(最もあてはまる1つを選択)

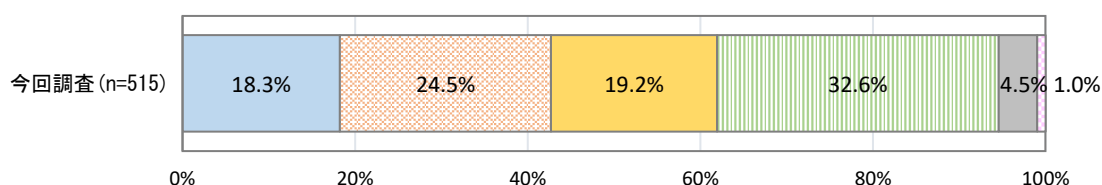
社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験については、「なかった（ない）」32.6%が最も高く、次いで「どちらかといえば、あった（ある）」24.5%、「どちらかといえば、なかった（ない）」19.2%となっている。

『あった』（「今までに経験があった（または、現在ある）」+「どちらかといえば、あった（ある）」）と回答した人は全体の42.8%を占める。

国調査（R4年度）との比較では、「今までに経験があった（または、現在ある）」と回答した割合は、本市が国調査を5.0ポイント下回っている。

社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験

- 1. 今までに経験があった（または、現在ある）
- 2. どちらかといえば、あった（ある）
- 3. どちらかといえば、なかった（ない）
- 4. なかった（ない）
- 5. わからない、答えられない
- 無回答



小数点第2位を四捨五入しているため、合計は100%と一致しない場合がある 上段：回答者数 下段：構成比 ■ 上位1項目		サンプル数	今までに経験がある（または、現在ある）	どちらかといえば、あった（ある）	どちらかといえば、なかった（ない）	なかった（ない）	わからない、答えられない	無回答
今回調査		515	94	126	99	168	23	5
		100.0%	18.3%	24.5%	19.2%	32.6%	4.5%	1.0%
国比較(R4年度)		7,035	1,639	1,534	1,477	2,146	211	28
		100.1%	23.3%	21.8%	21.0%	30.5%	3.0%	0.5%
性別	男性	188	31	39	43	64	8	3
		100.0%	16.5%	20.7%	22.9%	34.0%	4.3%	1.6%
	女性	323	63	84	55	104	15	2
		100.0%	19.5%	26.0%	17.0%	32.2%	4.6%	0.6%
その他		3	0	2	1	0	0	0
		100.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答		1	0	1	0	0	0	0
		100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢別	15～19歳	105	15	28	13	39	9	1
		100.0%	14.3%	26.7%	12.4%	37.1%	8.6%	1.0%
	20～24歳	81	17	20	17	24	2	1
		100.0%	21.0%	24.7%	21.0%	29.6%	2.5%	1.2%
	25～29歳	108	27	22	18	35	6	0
		100.0%	25.0%	20.4%	16.7%	32.4%	5.6%	0.0%
	30～34歳	109	22	26	23	34	3	1
		100.0%	20.2%	23.9%	21.1%	31.2%	2.8%	0.9%
婚姻状況別	35～39歳	111	13	29	28	36	3	2
		100.0%	11.7%	26.1%	25.2%	32.4%	2.7%	1.8%
	無回答	1	0	1	0	0	0	0
		100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	未婚	267	62	65	40	83	15	2
		100.0%	23.2%	24.3%	15.0%	31.1%	5.6%	0.7%
	配偶者あり	226	27	56	55	78	7	3
		100.0%	11.9%	24.8%	24.3%	34.5%	3.1%	1.3%
配偶者と死別		3	0	1	1	1	0	0
		100.0%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%
	配偶者と離別（離婚）	15	5	3	2	4	1	0
		100.0%	33.3%	20.0%	13.3%	26.7%	6.7%	0.0%
無回答		4	0	1	1	2	0	0
		100.0%	0.0%	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%

問29 【問29は問28で「1」又は「2」を選んだ方のみ、お答えください。】

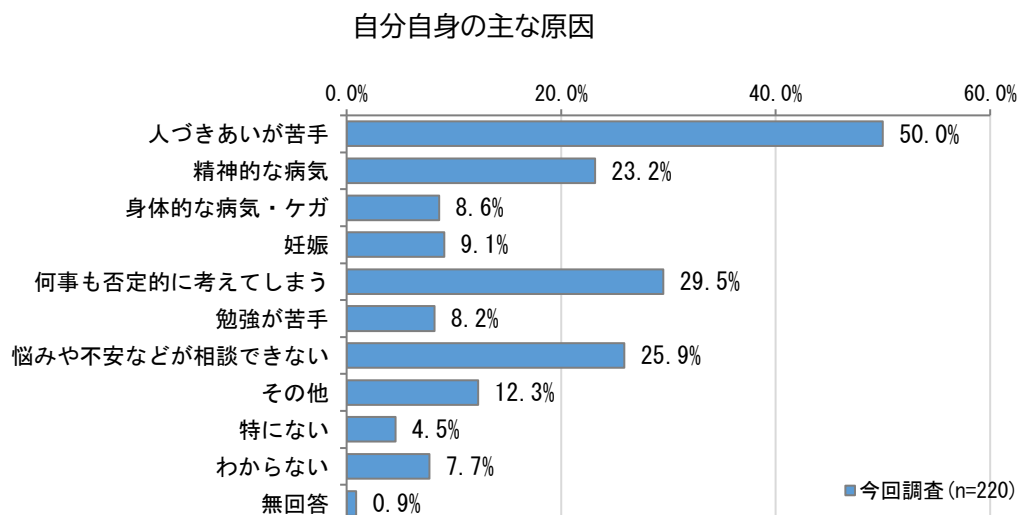
そうした問題を経験した、又は現在経験している主な原因は何ですか。

以下の(1)～(4)のそれぞれにお答えください。

(1)自分自身について

自分自身の主な原因については、「人づきあいが苦手」50.0%が最も高く、次いで「何事も否定的に考えてしまう」29.5%、「悩みや不安などが相談できない」25.9%となっている。

国調査（R4年度）との比較では、「人づきあいが苦手」、「妊娠」と回答した割合は、本市が国調査をわずかに上回っている。

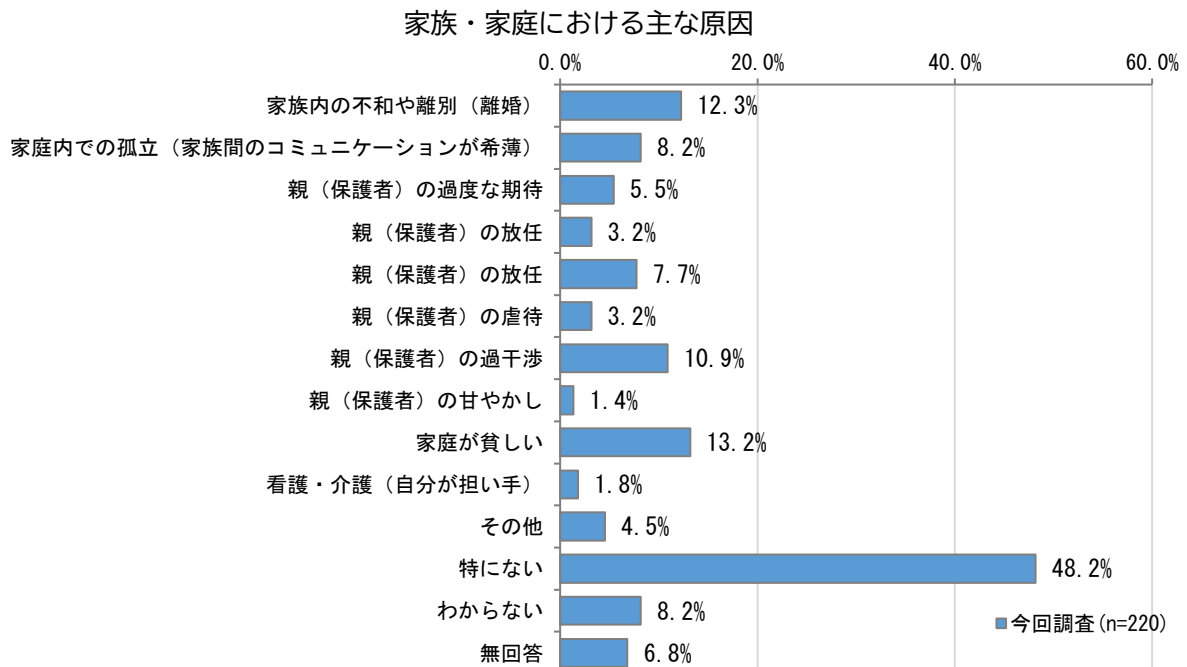


複数回答のため 合計は100%に ならない		サ ン プ ル 数	人 づ き あ い が 苦 手	精 神 的 な 病 気	身 体 的 な 病 気 ・ ケ ガ	妊 娠	何 事 も 否 定 的 に 考 え て し ま う	勉 強 が 苦 手	悩 み や 不 安 な ど が 相 談 で き な い	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
上段:回答者数 下段:構成比													
■ 上位1項目													
今回調査		220	110	51	19	20	65	18	57	27	10	17	2
		-	50.0%	23.2%	8.6%	9.1%	29.5%	8.2%	25.9%	12.3%	4.5%	7.7%	0.9%
国比較(R4年度)		3,172	1,513	863	333	193	1,031	435	869	216	238	143	13
		-	47.7%	27.2%	10.5%	6.1%	32.5%	13.7%	27.4%	6.8%	7.5%	4.5%	0.4%
性 別	男性	70	40	15	3	0	20	8	19	10	5	5	0
		-	57.1%	21.4%	4.3%	0.0%	28.6%	11.4%	27.1%	14.3%	7.1%	7.1%	0.0%
	女性	147	68	36	16	20	44	9	38	16	5	12	2
		-	46.3%	24.5%	10.9%	13.6%	29.9%	6.1%	25.9%	10.9%	3.4%	8.2%	1.4%
	その他	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
		-	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
		-	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年 齢 別	15～19歳	43	26	6	1	0	15	6	10	4	2	5	1
		-	60.5%	14.0%	2.3%	0.0%	34.9%	14.0%	23.3%	9.3%	4.7%	11.6%	2.3%
	20～24歳	37	18	13	5	1	13	4	12	4	1	1	0
		-	48.6%	35.1%	13.5%	2.7%	35.1%	10.8%	32.4%	10.8%	2.7%	2.7%	0.0%
	25～29歳	49	20	10	4	5	12	2	13	4	2	5	0
		-	40.8%	20.4%	8.2%	10.2%	24.5%	4.1%	26.5%	8.2%	4.1%	10.2%	0.0%
	30～34歳	48	23	13	3	7	13	4	16	11	2	4	0
	-	47.9%	27.1%	6.3%	14.6%	27.1%	8.3%	33.3%	22.9%	4.2%	8.3%	0.0%	
	35～39歳	42	22	9	6	7	11	1	6	4	3	2	1
		-	52.4%	21.4%	14.3%	16.7%	26.2%	2.4%	14.3%	9.5%	7.1%	4.8%	2.4%
	無回答	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
		-	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
婚 姻 状 況 別	未婚	127	69	38	11	2	46	11	39	14	5	8	1
		-	54.3%	29.9%	8.7%	1.6%	36.2%	8.7%	30.7%	11.0%	3.9%	6.3%	0.8%
	配偶者あり	83	35	11	7	16	14	5	14	10	5	7	1
		-	42.2%	13.3%	8.4%	19.3%	16.9%	6.0%	16.9%	12.0%	6.0%	8.4%	1.2%
	配偶者と死別	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
		-	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	配偶者と離別(離婚)	8	4	2	1	2	3	1	4	3	0	2	0
		-	50.0%	25.0%	12.5%	25.0%	37.5%	12.5%	50.0%	37.5%	0.0%	25.0%	0.0%
	無回答	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
		-	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

(2)家族・家庭について

家族・家庭における主な原因については、「特にない」48.2%が最も高く、次いで「家庭が貧しい」13.2%、「家族内の不和や離別（離婚）」12.3%となっている。

国調査（R4年度）との比較では、「親（保護者）の放任」、「特にない」と回答した割合は、本市が国調査をわずかに上回っている。



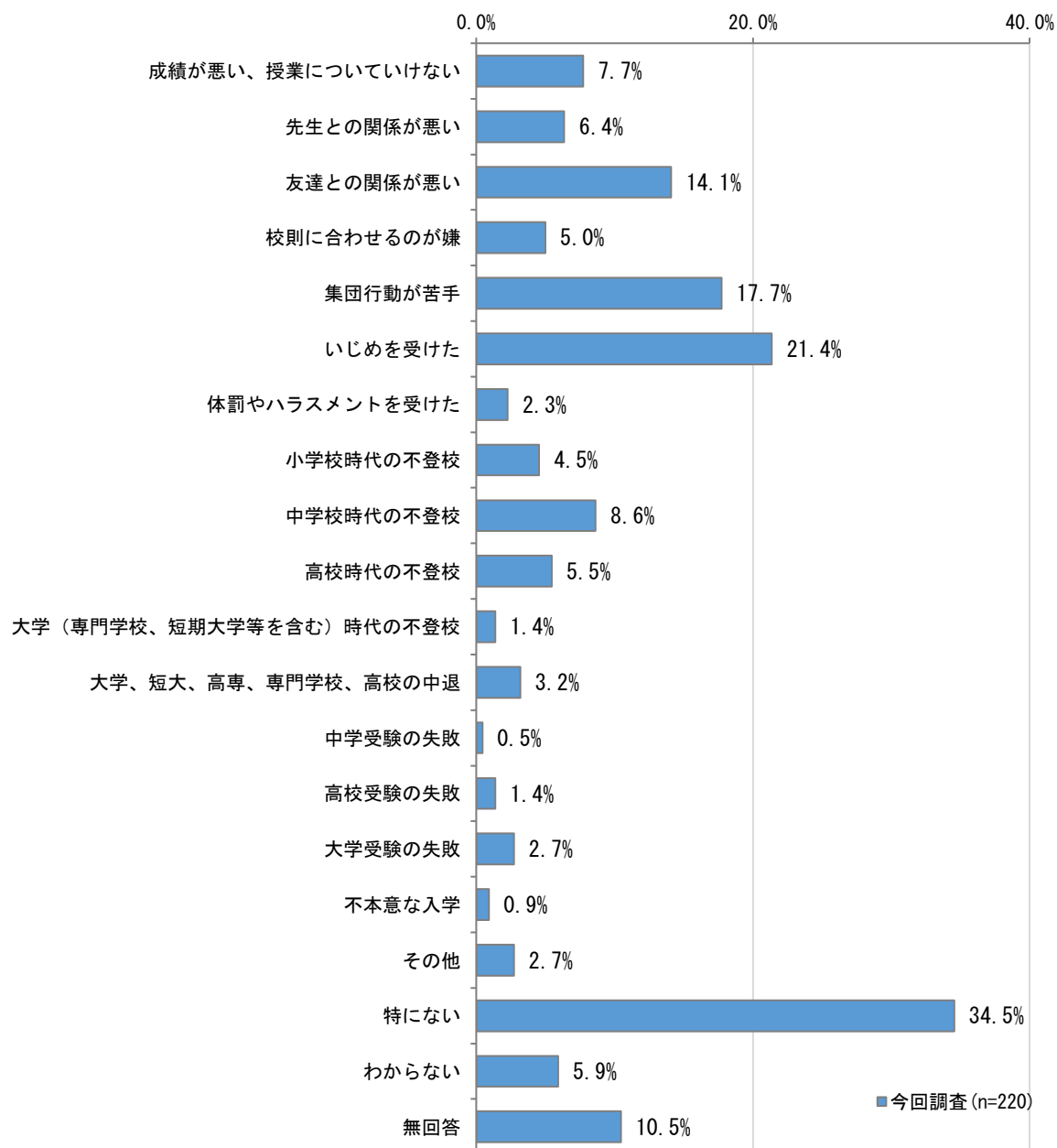
複数回答のため 合計は100%に ならない		サ ン プ ル 数	（家 族 内 の 不 和 や 離 別 ） （離婚）	家 族 内 の 孤 立 （家 族 間 の コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン が 希 薄 ）	親 （保 護 者 ） の 過 度 期 待	親 （保 護 者 ） の 放 任	親 （保 護 者 ） の 放 任	親 （保 護 者 ） の 虐 待	親 （保 護 者 ） の 過 干 渉	親 （保 護 者 ） の 甘 や か し	家 庭 が 貧 しい	看 護 ・ 介 護 （自 分 が 担 い 手 ）	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
上段:回答者数 下段:構成比																
■ 上位1項目																
今回調査		220	27 12.3%	18 8.2%	12 5.5%	7 3.2%	17 7.7%	7 3.2%	24 10.9%	3 1.4%	29 13.2%	4 1.8%	10 4.5%	106 48.2%	18 8.2%	15 6.8%
国比較(R4年度)		3,172	416 13.1%	298 9.4%	238 7.5%	124 3.9%	181 5.7%	86 2.7%	336 10.6%	117 3.7%	403 12.7%	70 2.2%	117 3.7%	1,427 45.0%	308 9.7%	60 1.9%
性 別	男性	70	6 8.6%	3 4.3%	4 5.7%	2 2.9%	4 5.7%	1 1.4%	8 11.4%	2 2.9%	7 10.0%	0 0.0%	4 5.7%	33 47.1%	10 14.3%	5 7.1%
	女性	147	21 14.3%	15 10.2%	8 5.4%	5 3.4%	13 8.8%	6 4.1%	16 10.9%	1 0.7%	22 15.0%	4 2.7%	4 2.7%	72 49.0%	8 5.4%	10 6.8%
	その他	2	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無回答	1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
年 齢 別	15～19歳	43	1 2.3%	4 9.3%	3 7.0%	0 0.0%	4 9.3%	1 2.3%	5 11.6%	0 0.0%	3 7.0%	0 0.0%	3 7.0%	24 55.8%	2 4.7%	5 11.6%
	20～24歳	37	3 8.1%	1 2.7%	6 16.2%	1 2.7%	2 5.4%	1 2.7%	8 21.6%	1 2.7%	2 5.4%	2 5.4%	2 5.4%	19 51.4%	4 10.8%	1 2.7%
	25～29歳	49	6 12.2%	2 4.1%	1 2.0%	2 4.1%	7 14.3%	2 4.1%	7 14.3%	1 2.0%	6 12.2%	1 2.0%	2 4.1%	26 53.1%	3 6.1%	3 6.1%
	30～34歳	48	11 22.9%	8 16.7%	1 2.1%	3 6.3%	1 2.1%	2 4.2%	3 6.3%	1 2.1%	12 25.0%	1 2.1%	0 0.0%	17 35.4%	5 10.4%	4 8.3%
	35～39歳	42	6 14.3%	3 7.1%	1 2.4%	1 2.4%	3 7.1%	1 2.4%	1 2.4%	0 0.0%	6 14.3%	0 0.0%	3 7.1%	19 45.2%	4 9.5%	2 4.8%
	無回答	1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
婚 姻 状 況 別	未婚	127	12 9.4%	10 7.9%	9 7.1%	2 1.6%	9 7.1%	3 2.4%	16 12.6%	3 2.4%	10 7.9%	3 2.4%	5 3.9%	65 51.2%	12 9.4%	10 7.9%
	配偶者あり	83	10 12.0%	7 8.4%	3 3.6%	3 3.6%	8 9.6%	3 3.6%	7 8.4%	0 0.0%	15 18.1%	1 1.2%	5 6.0%	38 45.8%	6 7.2%	5 6.0%
	配偶者と死別	1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
	配偶者と離別（離婚）	8	5 62.5%	1 12.5%	0 0.0%	2 25.0%	0 0.0%	1 12.5%	1 12.5%	0 0.0%	4 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%
	無回答	1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%

(3)学校について

学校における主な原因については、「特にない」34.5%が最も高く、次いで「いじめを受けた」21.4%、「集団行動が苦手」17.7%となっている。

国調査（R4年度）との比較では、「成績が悪い、授業についていけない」、「友達との関係が悪い」と回答した割合は、本市が国調査を6.0ポイント以上、下回っている。

学校における主な原因



[illegible]

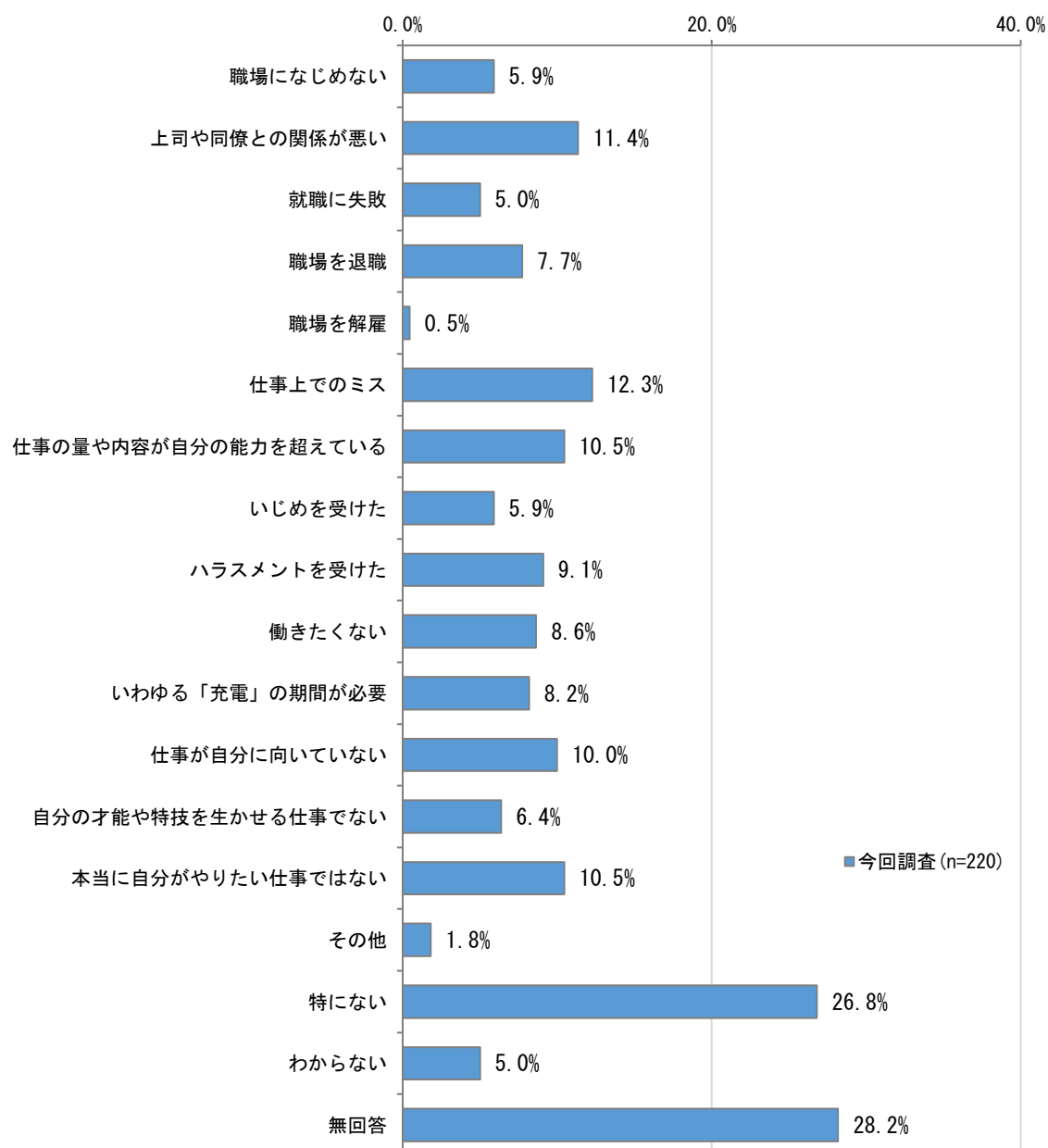
複数回答のため 合計は100%に ならない		サ ン プ ル 数	代 の 不 登 校	大 学 （ 専 門 学 校 、 短 大 等 を 含 む ） 時、 短	退 大 学 、 短 大 、 高 専 、 専 門 学 校 、 高 校 の 中	中 学 受 験 の 失 敗	高 校 受 験 の 失 敗	大 学 受 験 の 失 敗	不 本 意 な 入 学	そ の 他	特 に ない	わ か ら ない	無 回 答
上段：回答者数 下段：構成比													
■ 上位1項目													
今回調査		220	3	7	1	3	6	2	6	76	13	23	
		-	1.4%	3.2%	0.5%	1.4%	2.7%	0.9%	2.7%	34.5%	5.9%	10.5%	
国比較(R4年度)		3,172	95	92	16	70	105	105	108	958	187	95	
		-	3.0%	2.9%	0.5%	2.2%	3.3%	3.3%	3.4%	30.2%	5.9%	3.0%	
性別	男性	70	2	3	0	3	2	0	2	25	6	7	
		-	2.9%	4.3%	0.0%	4.3%	2.9%	0.0%	2.9%	35.7%	8.6%	10.0%	
	女性	147	1	4	1	0	4	2	4	48	7	16	
		-	0.7%	2.7%	0.7%	0.0%	2.7%	1.4%	2.7%	32.7%	4.8%	10.9%	
	その他	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	
	-	-	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	
	無回答	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
	-	-	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	
年 齢 別	15～19歳	43	0	1	0	1	1	0	0	12	3	3	
		-	0.0%	2.3%	0.0%	2.3%	2.3%	0.0%	0.0%	27.9%	7.0%	7.0%	
	20～24歳	37	1	2	0	0	1	0	2	16	0	4	
		-	2.7%	5.4%	0.0%	0.0%	2.7%	0.0%	5.4%	43.2%	0.0%	10.8%	
	25～29歳	49	1	2	1	0	2	1	1	16	2	3	
		-	2.0%	4.1%	2.0%	0.0%	4.1%	2.0%	2.0%	32.7%	4.1%	6.1%	
	30～34歳	48	1	2	0	2	1	0	2	13	3	8	
	-	2.1%	4.2%	0.0%	4.2%	2.1%	0.0%	4.2%	27.1%	6.3%	16.7%		
35～39歳	42	0	0	0	0	1	1	1	18	5	5		
	-	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.4%	2.4%	2.4%	42.9%	11.9%	11.9%		
	無回答	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
	-	-	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	
婚 姻 状 況 別	未婚	127	3	6	0	3	4	1	4	41	6	11	
		-	2.4%	4.7%	0.0%	2.4%	3.1%	0.8%	3.1%	32.3%	4.7%	8.7%	
	配偶者あり	83	0	1	1	0	2	1	2	29	6	12	
		-	0.0%	1.2%	1.2%	0.0%	2.4%	1.2%	2.4%	34.9%	7.2%	14.5%	
	配偶者と死別	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
		-	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	
配偶者と離別（離婚）	8	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0		
	-	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	12.5%	0.0%	
	無回答	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
	-	-	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	

(4)仕事・職場について

仕事・職場における主な原因については、「特にない」26.8%が最も高く、次いで「仕事上でのミス」12.3%、「上司や同僚との関係が悪い」11.4%となっている。

国調査（R4年度）との比較では、全ての項目で本市が国調査を下回っている。

仕事・職場における主な原因



複数回答のため 合計は100%に ならない 上段: 回答者数 下段: 構成比 ■ 上位1項目		サ ン プ ル 数	職 場 に な じ め な い	が 上 司 や 同 僚 と の 関 係	就 職 に 失 敗	職 場 を 退 職	職 場 を 解 雇	仕 事 上 で の ミ ス	分 の 能 力 を 超 え て い る	仕 事 の 量 や 内 容 が 自 分 の 能 力 を 超 え て い る	い じ め を 受 け た	た ハ ラ ス メ ン ト を 受 け
今回調査		220	13	25	11	17	1	27	23	13	20	
国比較 (R4年度)		3,172	504	736	209	349	48	504	669	190	488	
性 別	男性	70	6	6	4	10	0	10	11	7	7	
	女性	147	7	19	7	7	1	15	11	6	13	
	その他	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
	無回答	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	
		—	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	
年 齢 別	15～19歳	43	2	1	0	1	0	1	2	1	2	
	20～24歳	37	1	7	1	3	0	8	5	3	3	
	25～29歳	49	3	7	3	5	0	4	6	3	5	
	30～34歳	48	5	6	5	5	0	9	6	2	7	
	35～39歳	42	2	4	2	3	1	4	3	4	3	
	無回答	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	
		—	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	
婚 姻 状 況 別	未婚	127	9	13	7	11	0	14	12	10	12	
	配偶者あり	83	2	10	3	4	0	10	10	1	6	
	配偶者と死別	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	配偶者と離別 (離婚)	8	2	2	1	2	1	2	0	2	2	
	無回答	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	
		—	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	

複数回答のため 合計は100%に ならない 上段:回答者数 下段:構成比 ■ 上位1項目		サ ン プ ル 数	働 き た く な い	期 間 が 必 要 な 「 充 電 」 の	い わ ゆる 「 充 電 」 の	仕 事 が 自 分 に 向 い て い な い	自 分 の 才 能 や 特 技 を 生 か せ る 仕 事 で な い	本 当 に 自 分 が や り た い 仕 事 で は な い	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
今回調査		220	19 — 8.6%	18 — 8.2%	22 — 10.0%	14 — 6.4%	23 — 10.5%	4 — 1.8%	59 26.8%	11 5.0%	62 28.2%	
国比較 (R4年度)		3,172	485 — 15.3%	457 — 14.4%	542 — 17.1%	289 — 9.1%	508 — 16.0%	127 — 4.0%	898 26.3%	171 5.4%	95 3.0%	
性 別	男性	70 —	3 — 4.3%	5 — 7.1%	11 — 15.7%	7 — 10.0%	7 — 10.0%	1 — 1.4%	19 27.1%	2 2.9%	23 32.9%	
	女性	147 —	16 — 10.9%	13 — 8.8%	11 — 7.5%	6 — 4.1%	15 — 10.2%	3 — 2.0%	39 26.5%	9 6.1%	35 26.5%	
	その他	2 —	0 — 0.0%	0 — 0.0%	0 — 0.0%	1 — 50.0%	1 — 50.0%	0 — 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	無回答	1 —	0 — 0.0%	0 — 0.0%	0 — 0.0%	0 — 0.0%	0 — 0.0%	0 — 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
年 齢 別	15～19歳	43 —	0 — 0.0%	0 — 0.0%	4 — 9.3%	4 — 9.3%	5 — 11.6%	0 — 0.0%	22 51.2%	1 2.3%	13 30.2%	
	20～24歳	37 —	6 — 16.2%	5 — 13.5%	3 — 8.1%	2 — 5.4%	3 — 8.1%	1 — 2.7%	7 18.9%	1 2.7%	8 21.6%	
	25～29歳	49 —	4 — 8.2%	5 — 10.2%	4 — 8.2%	2 — 4.1%	4 — 8.2%	0 — 0.0%	8 16.3%	4 8.2%	14 28.6%	
	30～34歳	48 —	6 — 12.5%	5 — 10.4%	9 — 18.8%	6 — 12.5%	8 — 16.7%	0 — 0.0%	9 18.8%	2 4.2%	14 29.2%	
	35～39歳	42 —	3 — 7.1%	3 — 7.1%	2 — 4.8%	0 — 0.0%	3 — 7.1%	3 — 7.1%	13 31.0%	3 7.1%	13 31.0%	
	無回答	1 —	0 — 0.0%	0 — 0.0%	0 — 0.0%	0 — 0.0%	0 — 0.0%	0 — 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
婚 姻 状 況 別	未婚	127 —	10 — 7.9%	10 — 7.9%	16 — 12.6%	12 — 9.4%	15 — 11.8%	2 — 1.6%	39 30.7%	2 1.6%	37 29.1%	
	配偶者あり	83 —	7 — 8.4%	6 — 7.2%	4 — 4.8%	1 — 1.2%	6 — 7.2%	2 — 2.4%	17 20.5%	9 10.8%	21 25.3%	
	配偶者と死別	1 —	0 — 0.0%	0 — 0.0%	0 — 0.0%	0 — 0.0%	0 — 0.0%	0 — 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	
	配偶者と離別 (離婚)	8 —	2 — 25.0%	2 — 25.0%	2 — 25.0%	1 — 12.5%	2 — 25.0%	0 — 0.0%	3 37.5%	0 0.0%	3 37.5%	
	無回答	1 —	0 — 0.0%	0 — 0.0%	0 — 0.0%	0 — 0.0%	0 — 0.0%	0 — 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	

問31 【問30で「1」又は「2」を選んだ方のみ、お答えください。】

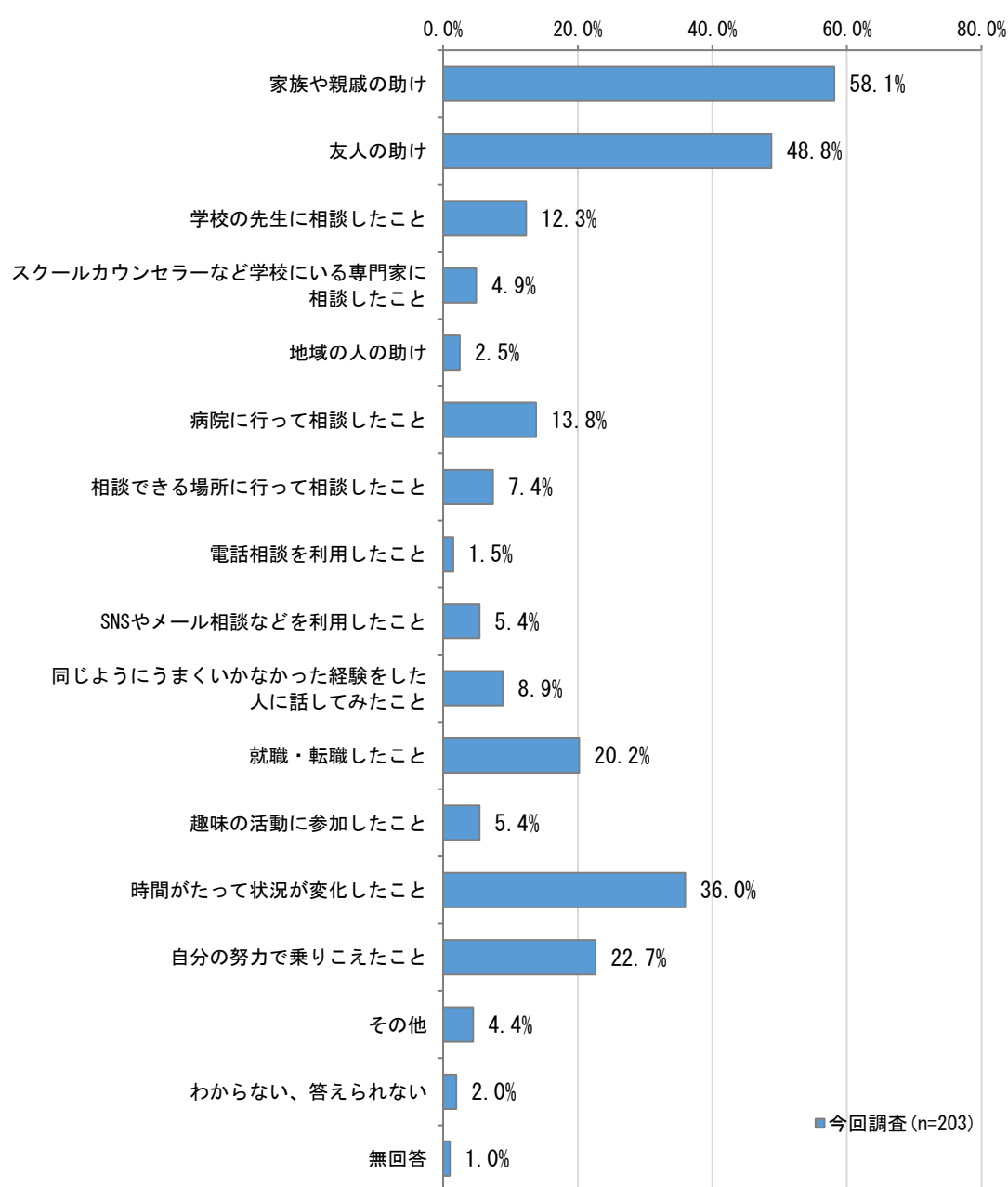
状態が改善したきっかけや改善に役立ったことは何だと思いますか。

(いくつでも選択可)

状態の改善に役立ったことについては、「家族や親戚の助け」58.1%が最も高く、次いで「友人の助け」48.8%、「時間がたって状況が変化したこと」36.0%となっている。

国調査（R4年度）との比較では、「SNSやメール相談などを利用したこと」、「同じようにうまくいかなかった経験をした人に話してみたこと」と回答した割合は、本市が国調査をわずかに上回るが、その他の項目では国調査を下回っている。

状態の改善に役立ったこと



複数回答のため 合計は100%に ならない 上段: 回答者数 下段: 構成比 上位1項目		サンプル数	SNSやメール相談などを 利用したこと	人 に 話 し て み た こ と	同 じ よ う に う ま く い か な	就 職 ・ 転 職 し た こ と	趣味の活動に参加したこと	時間がたつて状況が変化したこと	自分の努力で乗りこえたこと	その他	わからない、答えられない	無回答
今回調査		203 —	11 —	18 —	41 —	11 —	73 —	46 —	9 —	4 —	2 —	
国比較 (R4年度)		2,343 —	96 —	171 —	612 —	255 —	991 —	736 —	192 —	54 —	7 —	
性別	男性	67 —	2 —	7 —	13 —	4 —	18 —	11 —	2 —	3 —	1 —	
	女性	134 —	9 —	11 —	28 —	7 —	53 —	35 —	7 —	1 —	1 —	
	その他	1 —	0 —	0 —	0 —	0 —	1 —	0 —	0 —	0 —	0 —	
	無回答	1 —	0 —	0 —	0 —	0 —	1 —	0 —	0 —	0 —	0 —	
		—	0.0% —	0.0% —	0.0% —	0.0% —	100.0% —	0.0% —	0.0% —	0.0% —	0.0% —	
年齢別	15～19歳	37 —	5 —	3 —	0 —	2 —	12 —	6 —	1 —	1 —	2 —	
	20～24歳	35 —	2 —	5 —	4 —	2 —	14 —	7 —	2 —	1 —	0 —	
	25～29歳	48 —	2 —	3 —	11 —	3 —	15 —	12 —	3 —	2 —	0 —	
	30～34歳	45 —	2 —	0 —	14 —	2 —	15 —	11 —	1 —	0 —	0 —	
	35～39歳	37 —	0 —	7 —	12 —	2 —	16 —	10 —	2 —	0 —	0 —	
	無回答	1 —	0 —	0 —	0 —	0 —	1 —	0 —	0 —	0 —	0 —	
		—	0.0% —	0.0% —	0.0% —	0.0% —	100.0% —	0.0% —	0.0% —	0.0% —	0.0% —	
婚姻状況別	未婚	112 —	9 —	10 —	19 —	7 —	40 —	20 —	4 —	3 —	2 —	
	配偶者あり	80 —	1 —	6 —	19 —	3 —	30 —	22 —	5 —	1 —	0 —	
	配偶者と死別	2 —	0 —	0 —	1 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	
	配偶者と離別(離婚)	8 —	1 —	2 —	2 —	1 —	2 —	4 —	0 —	0 —	0 —	
	無回答	1 —	0 —	0 —	0 —	0 —	1 —	0 —	0 —	0 —	0 —	
		—	0.0% —	0.0% —	0.0% —	0.0% —	100.0% —	0.0% —	0.0% —	0.0% —	0.0% —	

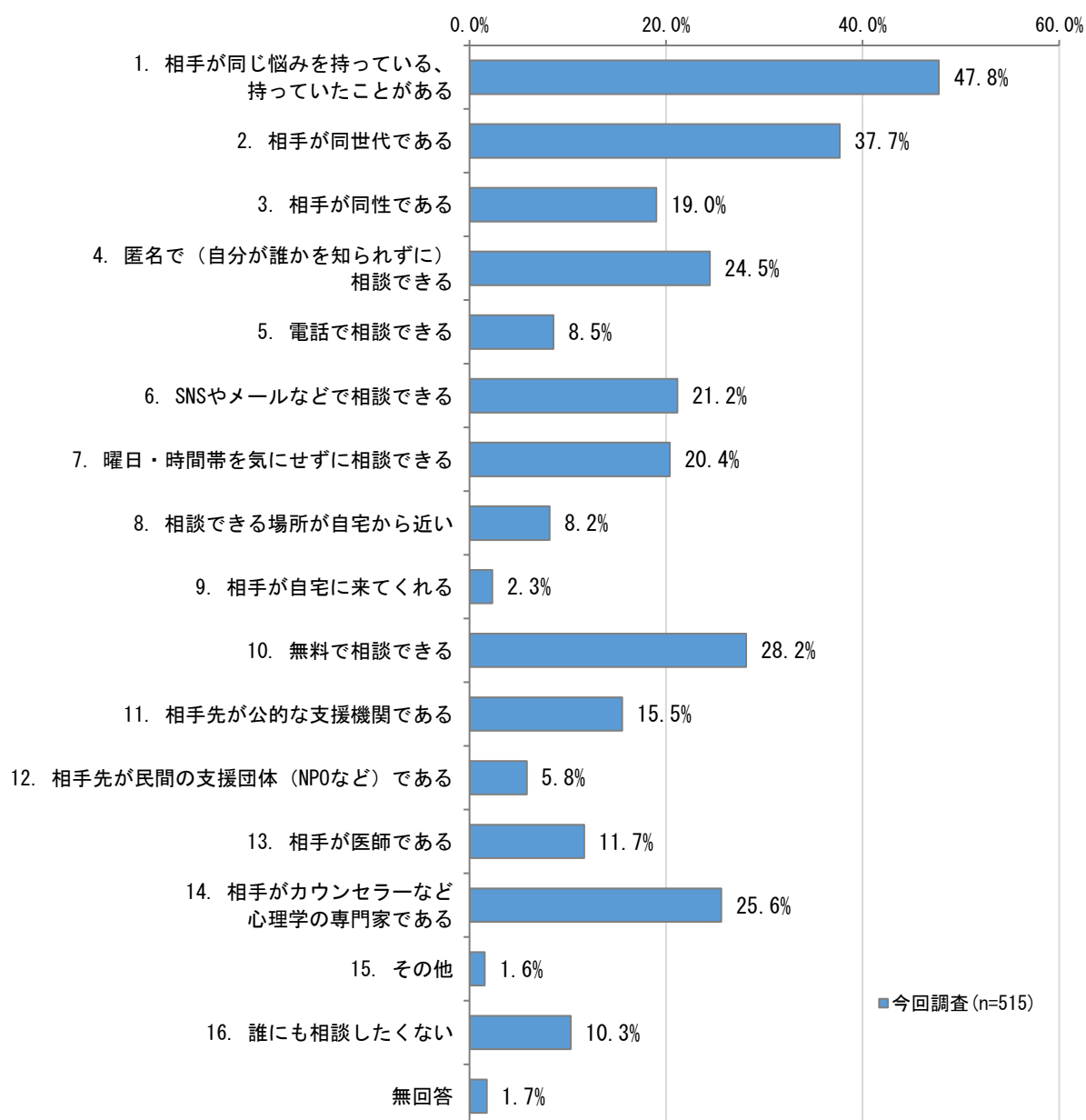
複数回答のため 合計は100%に ならない 上段: 回答者数 下段: 構成比 ■ 上位1項目		サ ン プ ル 数	家 族 や 親 戚 の 助 け	友 人 の 助 け	学 校 の 先 生 に 相 談 し た こ と	学 校 に い る 専 門 家 に 相 談 し た こ と	ス ク ー ル カ ウ ン セ ー ラ ー な ど	地 域 の 人 の 助 け	病 院 に 行 っ て 相 談 し た こ と	相 談 で き る 場 所 に 行 っ て 相 談 し た こ と	電 話 相 談 を 利 用 し た こ と
今回調査		203 —	118 58.1%	99 48.8%	25 12.3%	10 4.9%	5 2.5%	28 13.8%	15 7.4%	3 1.5%	
国比較 (R4年度)		2,343 —	1,176 50.2%	897 38.3%	232 9.9%	136 5.8%	35 1.5%	471 20.1%	141 6.0%	19 0.8%	
性別	男性	67 —	41 61.2%	24 35.8%	8 11.9%	3 4.5%	3 4.5%	6 9.0%	4 6.0%	0 0.0%	
	女性	134 —	77 57.5%	74 55.2%	16 11.9%	7 5.2%	2 1.5%	21 15.7%	10 7.5%	2 1.5%	
	その他	1 —	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	無回答	1 —	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 100.0%	1 100.0%	1 100.0%	
年 齢 別	15～19歳	37 —	25 67.6%	26 70.3%	12 32.4%	4 10.8%	1 2.7%	2 5.4%	3 8.1%	2 5.4%	
	20～24歳	35 —	19 54.3%	18 51.4%	8 22.9%	2 5.7%	2 5.7%	8 22.9%	1 2.9%	0 0.0%	
	25～29歳	48 —	26 54.2%	19 39.6%	1 2.1%	2 4.2%	0 0.0%	4 8.3%	3 6.3%	0 0.0%	
	30～34歳	45 —	28 62.2%	18 40.0%	2 4.4%	2 4.4%	2 4.4%	8 17.8%	2 4.4%	0 0.0%	
	35～39歳	37 —	20 54.1%	18 48.6%	2 5.4%	0 0.0%	0 0.0%	5 13.5%	5 13.5%	0 0.0%	
	無回答	1 —	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 100.0%	1 100.0%	1 100.0%	
婚 姻 状 況 別	未婚	112 —	68 60.7%	60 53.6%	20 17.9%	8 7.1%	4 3.6%	22 19.6%	9 8.0%	2 1.8%	
	配偶者あり	80 —	43 53.8%	34 42.5%	4 5.0%	2 2.5%	1 1.3%	4 5.0%	3 3.8%	0 0.0%	
	配偶者と死別	2 —	2 100.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	配偶者と離別 (離婚)	8 —	5 62.5%	4 50.0%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	2 25.0%	0 0.0%	
	無回答	1 —	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 100.0%	1 100.0%	1 100.0%	

問32 あなたが、社会生活や日常生活を円滑に送ることができない状態となったときに、家族や知り合い以外に相談するとすれば、どのような人や場所なら、相談したいと思いますか。
(いくつでも選択可)

相談したい人や場所については、「相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある」47.8%が最も高く、次いで「相手が同世代である」37.7%、「無料で相談できる」28.2%となっている。

国調査（R4年度）との比較では、「誰にも相談したくない」と回答した割合は、本市がわずかに国調査を上回るが、その他の項目では国調査を下回っている。

相談したい人や場所



複数回答のため 合計は100%に ならない		サ ン プ ル 数	相 手 が 同 じ 悩 み を 持 っ て い る こ と が あ る	相 手 が 同 世 代 で あ る	相 手 が 同 性 で あ る	匿 名 で 知 ら れ ず に 自 分 が 誰 か と 相 談 で き る	電 話 で 相 談 で き る	S N S や メ ー ル な ど で 相 談 で き る	曜 日・ 時 間 帯 を 気 に せ ず に 相 談 で き る	相 談 で き る 場 所 が 自 宅 か ら 近 い	
上段:回答者数 下段:構成比											
■ 上位1項目											
今回調査		515	246 47.8%	194 37.7%	98 19.0%	126 24.5%	44 8.5%	109 21.2%	105 20.4%	42 8.2%	
国比較(R4年度)		7,035	3,743 53.2%	2,188 31.1%	1,301 18.5%	2,272 32.3%	851 12.1%	1,942 27.6%	1,942 27.6%	908 12.9%	
性 別	男性	188	83 44.1%	79 42.0%	23 12.2%	34 18.1%	17 9.0%	27 14.4%	28 14.9%	8 4.3%	
	女性	323	162 50.2%	115 35.6%	75 23.2%	92 28.5%	26 8.0%	81 25.1%	77 23.8%	34 10.5%	
	その他	3	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	
	無回答	1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
年 齢 別	15～19歳	105	61 58.1%	54 51.4%	28 26.7%	27 25.7%	5 4.8%	18 17.1%	22 21.0%	5 4.8%	
	20～24歳	81	29 35.8%	34 42.0%	14 17.3%	12 14.8%	9 11.1%	17 21.0%	12 14.8%	5 6.2%	
	25～29歳	108	51 47.2%	36 33.3%	19 17.6%	28 25.9%	5 4.6%	27 25.0%	28 25.9%	9 8.3%	
	30～34歳	109	47 43.1%	35 32.1%	19 17.4%	33 30.3%	17 15.6%	28 25.7%	28 25.7%	15 13.8%	
	35～39歳	111	58 52.3%	35 31.5%	18 16.2%	26 23.4%	7 6.3%	19 17.1%	15 13.5%	8 7.2%	
	無回答	1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
婚 姻 状 況 別	未婚	267	121 45.3%	115 43.1%	51 19.1%	61 22.8%	20 7.5%	56 21.0%	58 21.7%	19 7.1%	
	配偶者あり	226	111 49.1%	69 30.5%	42 18.6%	59 26.1%	21 9.3%	49 21.7%	38 16.8%	20 8.8%	
	配偶者と死別	3	3 100.0%	2 66.7%	1 33.3%	2 66.7%	0 0.0%	2 66.7%	2 66.7%	0 0.0%	
	配偶者と離別(離婚)	15	8 53.3%	7 46.7%	3 20.0%	3 20.0%	2 13.3%	2 13.3%	5 33.3%	3 20.0%	
	無回答	4	3 75.0%	1 25.0%	1 25.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	2 50.0%	0 0.0%	
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

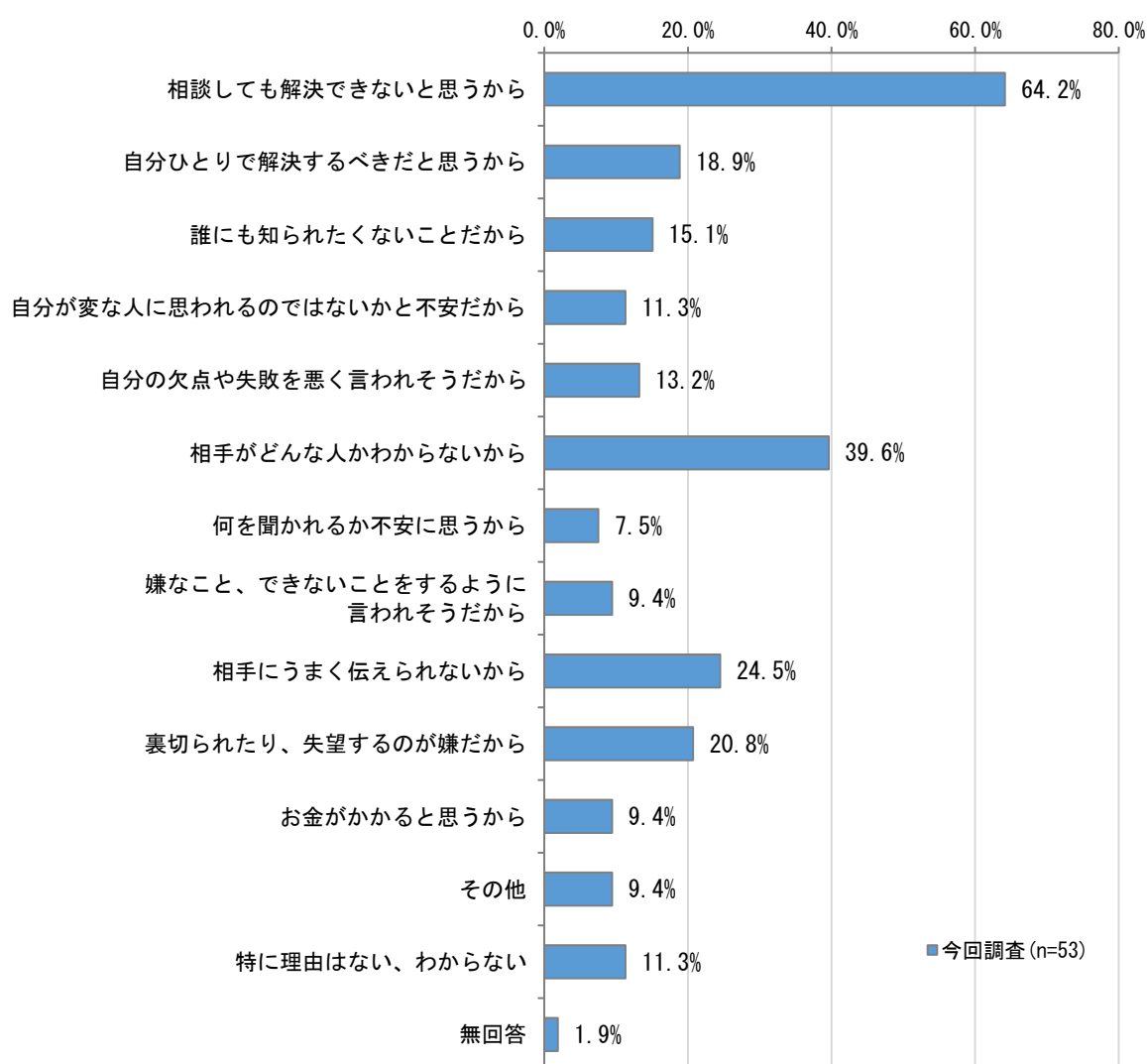
複数回答のため 合計は100%に ならない		サ ン プ ル 数	相 手 が 自 宅 に 来 て く る	無 料 で 相 談 で き る	機 関 で あ る 相 手 先 が 公 的 な 支 援	相 手 先 が 民 間 の 支 援 と あ る 相 手 先 が N P O な ど	相 手 が 医 師 で あ る	相 手 が 心 理 学 の 専 門 家 で あ る	そ の 他	い 誰 に も 相 談 し た く な い	無 回 答
上段:回答者数 下段:構成比											
■ 上位1項目											
今回調査		515 -	12 2.3%	145 28.2%	80 15.5%	30 5.8%	60 11.7%	132 25.6%	8 1.6%	53 10.3%	9 1.7%
国比較(R4年度)		7,035 -	190 2.7%	2,455 34.9%	1,104 15.7%	507 7.2%	1,027 14.6%	2,047 29.1%	120 1.7%	696 9.9%	56 0.8%
性 別	男性	188 -	3 1.6%	41 21.8%	37 19.7%	13 6.9%	23 12.2%	48 25.5%	2 1.1%	14 7.4%	4 2.1%
	女性	323 -	9 2.8%	104 32.2%	42 13.0%	17 5.3%	36 11.1%	84 26.0%	5 1.5%	38 11.8%	5 1.5%
	その他	3 -	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%
	無回答	1 -	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
年 齢 別	15～19歳	105 -	1 1.0%	29 27.6%	18 17.1%	7 6.7%	10 9.5%	24 22.9%	0 0.0%	14 13.3%	0 0.0%
	20～24歳	81 -	2 2.5%	14 17.3%	6 7.4%	4 4.9%	7 8.6%	17 21.0%	4 4.9%	11 13.6%	3 3.7%
	25～29歳	108 -	3 2.8%	36 33.3%	10 9.3%	5 4.6%	10 9.3%	26 24.1%	1 0.9%	12 11.1%	0 0.0%
	30～34歳	109 -	3 2.8%	34 31.2%	20 18.3%	5 4.6%	14 12.8%	37 33.9%	2 1.8%	6 5.5%	4 3.7%
	35～39歳	111 -	3 2.7%	32 28.8%	25 22.5%	9 8.1%	18 16.2%	28 25.2%	1 0.9%	10 9.0%	2 1.8%
	無回答	1 -	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
婚 姻 状 況 別	未婚	267 -	5 1.9%	74 27.7%	43 16.1%	20 7.5%	25 9.4%	62 23.2%	2 0.7%	32 12.0%	4 1.5%
	配偶者あり	226 -	6 2.7%	62 27.4%	34 15.0%	8 3.5%	31 13.7%	64 28.3%	6 2.7%	19 8.4%	4 1.8%
	配偶者と死別	3 -	0 0.0%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	配偶者と離別(離婚)	15 -	1 6.7%	6 40.0%	1 6.7%	0 0.0%	2 13.3%	4 26.7%	0 0.0%	2 13.3%	1 6.7%
	無回答	4 -	0 0.0%	1 25.0%	2 50.0%	2 50.0%	2 50.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

問33 【問32で「16 誰にも相談したくない」を選んだ方のみ、お答えください。】
相談したくないと思う理由は何ですか。(いくつでも選択可)

相談したくないと思う理由については、「相談しても解決できないと思うから」64.2%が最も高く、次いで「相手がどんな人かわからないから」39.6%、「相手にうまく伝えられないから」24.5%となっている。

国調査（R4年度）との比較では、「相談しても解決できないと思うから」、「相手がどんな人かわからないから」と回答した割合は、本市が国調査を9.0ポイント以上上回った一方、「誰にも知られたくないことだから」、「何を聞かれるか不安に思うから」、「嫌なこと、できないことをするように言われそうだから」は国調査を5.0ポイント以上下回っている。

相談したくないと思う理由



複数回答のため 合計は100%に ならない		サ ン プ ル 数	相 談 し て も 解 決 で き な い と 思 う か ら	自 分 ひ と り で 解 決 す る べ き だ と 思 う か ら	誰 に も 知 ら れ た く な い こ と だ か ら	自 分 が 変 な 人 に 思 わ れ る の で は な い か と わ な い か ら	自 分 の 欠 点 や 失 敗 を 悪 く 言 わ れ そ う だ か ら	相 手 が ど ん な 人 か わ か ら な い か ら	何 を 聞 か れ る か 不 安 に 思 う か ら
上段: 回答者数 下段: 構成比									
■ 上位1項目									
今回調査									
国比較 (R4年度)		53 —	34 — 64.2%	10 — 18.9%	8 — 15.1%	6 — 11.3%	7 — 13.2%	21 — 39.6%	4 — 7.5%
性 別	男性	14 —	6 — 42.9%	5 — 35.7%	2 — 14.3%	2 — 14.3%	2 — 14.3%	3 — 21.4%	0 — 0.0%
	女性	38 —	27 — 71.1%	5 — 13.2%	6 — 15.8%	4 — 10.5%	5 — 13.2%	18 — 47.4%	4 — 10.5%
	その他	1 —	1 — 100.0%	0 — 0.0%	0 — 0.0%	0 — 0.0%	0 — 0.0%	0 — 0.0%	0 — 0.0%
	無回答	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —
	年 齢 別	15～19歳	14 —	10 — 71.4%	2 — 14.3%	0 — 0.0%	1 — 7.1%	2 — 14.3%	7 — 50.0%
20～24歳	11 —	7 — 63.6%	3 — 27.3%	1 — 9.1%	1 — 9.1%	1 — 9.1%	4 — 36.4%	0 — 0.0%	
25～29歳	12 —	7 — 58.3%	2 — 16.7%	3 — 25.0%	2 — 16.7%	2 — 16.7%	2 — 16.7%	0 — 0.0%	
30～34歳	6 —	4 — 66.7%	1 — 16.7%	2 — 33.3%	2 — 33.3%	2 — 33.3%	4 — 66.7%	2 — 33.3%	
35～39歳	10 —	6 — 60.0%	2 — 20.0%	2 — 20.0%	0 — 0.0%	0 — 0.0%	4 — 40.0%	1 — 10.0%	
無回答	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	
婚 姻 状 況 別	未婚	32 —	20 — 62.5%	6 — 18.8%	4 — 12.5%	5 — 15.6%	6 — 18.8%	12 — 37.5%	2 — 6.3%
	配偶者あり	19 —	12 — 63.2%	2 — 10.5%	4 — 21.1%	1 — 5.3%	1 — 5.3%	8 — 42.1%	2 — 10.5%
	配偶者と死別	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —
	配偶者と離別(離婚)	2 —	2 — 100.0%	2 — 100.0%	0 — 0.0%	0 — 0.0%	0 — 0.0%	1 — 50.0%	0 — 0.0%
	無回答	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —

複数回答のため 合計は100%に ならない		サ ン プ ル 数	わ れ そ う だ か ら	嫌 な こ と 、 で き な い 言 い	相 手 に う ま く 伝 え ら れ な い か ら	裏 切 ら れ た り 、 失 望 す る の が 嫌 だ か ら	お 金 が か か る と 思 う か ら	そ の 他	特 に 理 由 は な い 、 わ か ら な い	無 回 答
上段: 回答者数 下段: 構成比										
■ 上位1項目										
今回調査		53 —	5 9.4%	13 24.5%	11 20.8%	5 9.4%	5 9.4%	6 11.3%	1 1.9%	
国比較 (R4年度)		695 —	105 15.1%	161 23.2%	111 16.0%	65 9.4%	44 6.3%	86 12.4%	8 1.2%	
性 別	男性	14 —	2 14.3%	2 14.3%	1 7.1%	1 7.1%	0 0.0%	4 28.6%	1 7.1%	
	女性	38 —	3 7.9%	11 28.9%	10 26.3%	4 10.5%	4 10.5%	2 5.3%	0 0.0%	
	その他	1 —	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	無回答	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	
年 齢 別	15～19歳	14 —	0 0.0%	4 28.6%	5 35.7%	1 7.1%	2 14.3%	1 7.1%	1 7.1%	
	20～24歳	11 —	1 9.1%	3 27.3%	1 9.1%	1 9.1%	2 18.2%	1 9.1%	0 0.0%	
	25～29歳	12 —	1 8.3%	2 16.7%	1 8.3%	0 0.0%	1 8.3%	2 16.7%	0 0.0%	
	30～34歳	6 —	2 33.3%	3 50.0%	2 33.3%	2 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	35～39歳	10 —	1 10.0%	1 10.0%	2 20.0%	1 10.0%	0 0.0%	2 20.0%	0 0.0%	
	無回答	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	
	無回答	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	
婚 姻 状 況 別	未婚	32 —	3 9.4%	9 28.1%	9 28.1%	3 9.4%	4 12.5%	5 15.6%	1 3.1%	
	配偶者あり	19 —	2 10.5%	4 21.1%	2 10.5%	1 5.3%	1 5.3%	1 5.3%	0 0.0%	
	配偶者と死別	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	
	配偶者と離別(離婚)	2 —	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	無回答	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	

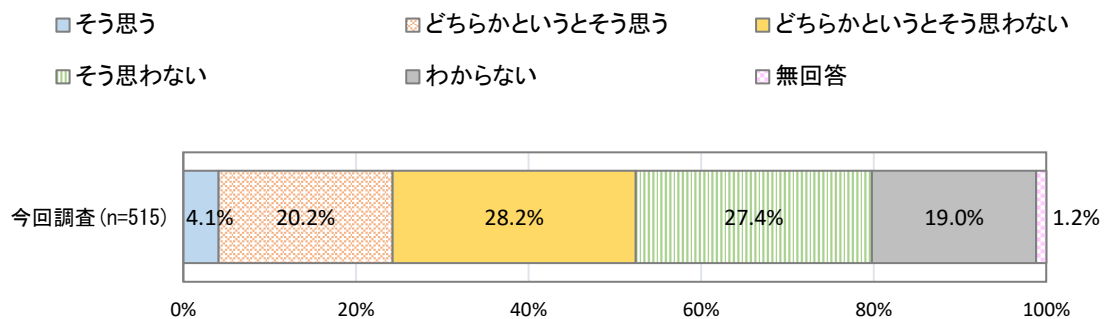
問34 令和5年12月に「こども大綱」が閣議決定され、大綱が目指す姿として、「こどもまんなか社会」(全てのこども・若者が身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることができる社会)が掲げられています。以下のことについて、どのように思いますか。
(それぞれ1つに○)

(1)「こどもまんなか社会の実現に向かっている」(全てのこども・若者が身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることができる社会の実現に向かっている)と思いますか。

こどもまんなか社会の実現については、「どちらかというと思わない」28.2%が最も高く、次いで「そう思わない」27.4%、「どちらかというと思う」20.2%となっている。

『そう思う』(「そう思う」+「どちらかというと思う」)と回答した人は全体の24.3%を占める。

「こどもまんなか社会の実現に向かっている」と思うか

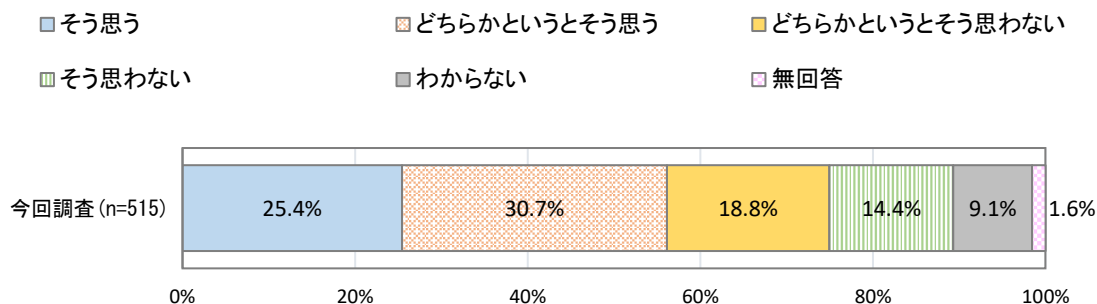


小数点第2位を 四捨五入している ため、合計は100% と一致しない場合 がある		上段: 回答者数 下段: 構成比		上位1項目							
		サ ン プ ル 数	そ う 思 う	ど ち ら か と い う と そ	ど ち ら か と い う と そ	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答			
今回調査		515 100.0%	21 4.1%	104 20.2%	145 28.2%	141 27.4%	98 19.0%	6 1.2%			
性別	男性	188 100.0%	12 6.4%	37 19.7%	53 28.2%	50 26.6%	33 17.6%	3 1.6%			
	女性	323 100.0%	9 2.8%	67 20.7%	90 27.9%	90 27.9%	64 19.8%	3 0.9%			
	その他	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 66.7%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%			
	無回答	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%			
年齢別	15～19歳	105 100.0%	10 9.5%	25 23.8%	26 24.8%	20 19.0%	23 21.9%	1 1.0%			
	20～24歳	81 100.0%	1 1.2%	13 16.0%	31 38.3%	17 21.0%	18 22.2%	1 1.2%			
	25～29歳	108 100.0%	3 2.8%	21 19.4%	30 27.8%	32 29.6%	21 19.4%	1 0.9%			
	30～34歳	109 100.0%	6 5.5%	15 13.8%	27 24.8%	41 37.6%	19 17.4%	1 0.9%			
	35～39歳	111 100.0%	1 0.9%	30 27.0%	31 27.9%	30 27.0%	17 15.3%	2 1.8%			
	無回答	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%			
婚姻状況別	未婚	267 100.0%	12 4.5%	49 18.4%	78 29.2%	69 25.8%	56 21.0%	3 1.1%			
	配偶者あり	226 100.0%	8 3.5%	52 23.0%	62 27.4%	65 28.8%	36 15.9%	3 1.3%			
	配偶者と死別	3 100.0%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%			
	配偶者と離別(離婚)	15 100.0%	0 0.0%	2 13.3%	3 20.0%	6 40.0%	4 26.7%	0 0.0%			
	無回答	4 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 50.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%			

(2)「子どもは権利の主体である」(子どもは社会の一員として、大人と対等に、意見を発する(尊重される)権利を有する)と思いますか。

「子どもは権利の主体である」と思うかについては、「どちらかというと思う」30.7%が最も高く、次いで「そう思う」25.4%、「どちらかというと思わない」18.8%となっている。『そう思う』と回答した人は全体の56.1%を占める。

「子どもは権利の主体である」と思うか

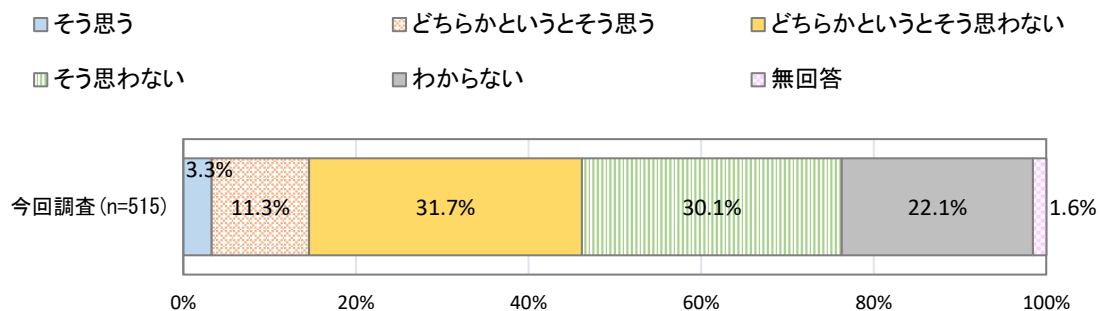


小数点第2位を 四捨五入している ため、合計は100% と一致しない場合 がある		サ ン プ ル 数	そ う 思 う	ど ち ら か と い う と そ う 思 う	ど ち ら か と い う と そ う 思 わ ない	そ う 思 わ ない	わ か ら な い	無 回 答
上段: 回答者数 下段: 構成比								
■ 上位1項目								
今回調査		515	131	158	97	74	47	8
性別	男性	188	46	57	33	33	15	4
		100.0%	24.5%	30.3%	17.6%	17.6%	8.0%	2.1%
	女性	323	85	100	64	38	32	4
		100.0%	26.3%	31.0%	19.8%	11.8%	9.9%	1.2%
	その他	3	0	1	0	2	0	0
		100.0%	0.0%	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%
年齢別	無回答	1	0	0	0	1	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	15～19歳	105	25	26	21	22	10	1
		100.0%	23.8%	24.8%	20.0%	21.0%	9.5%	1.0%
	20～24歳	81	21	24	16	9	10	1
		100.0%	25.9%	29.6%	19.8%	11.1%	12.3%	1.2%
婚姻状況別	25～29歳	108	32	33	16	12	13	2
		100.0%	29.6%	30.6%	14.8%	11.1%	12.0%	1.9%
	30～34歳	109	26	35	22	17	7	2
		100.0%	23.9%	32.1%	20.2%	15.6%	6.4%	1.8%
	35～39歳	111	27	40	22	13	7	2
		100.0%	24.3%	36.0%	19.8%	11.7%	6.3%	1.8%
婚姻状況別	無回答	1	0	0	0	1	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	未婚	267	65	75	49	47	27	4
		100.0%	24.3%	28.1%	18.4%	17.6%	10.1%	1.5%
	配偶者あり	226	59	78	44	24	17	4
		100.0%	26.1%	34.5%	19.5%	10.6%	7.5%	1.8%
婚姻状況別	配偶者と死別	3	3	0	0	0	0	0
		100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	配偶者と離別（離婚）	15	3	5	2	2	3	0
		100.0%	20.0%	33.3%	13.3%	13.3%	20.0%	0.0%
	無回答	4	1	0	2	1	0	0
		100.0%	25.0%	0.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%

(3)「子ども政策に関して自身の意見が聴いてもらえている」と思いますか。

「子ども政策に関して自身の意見が聴いてもらえている」と思うかについては、「どちらかというそう思わない」31.7%が最も高く、次いで「そう思わない」30.1%、「わからない」22.1%となっている。『そう思う』と回答した人は全体の14.6%を占める。

「子ども政策に関して自身の意見が聴いてもらえている」と思うか

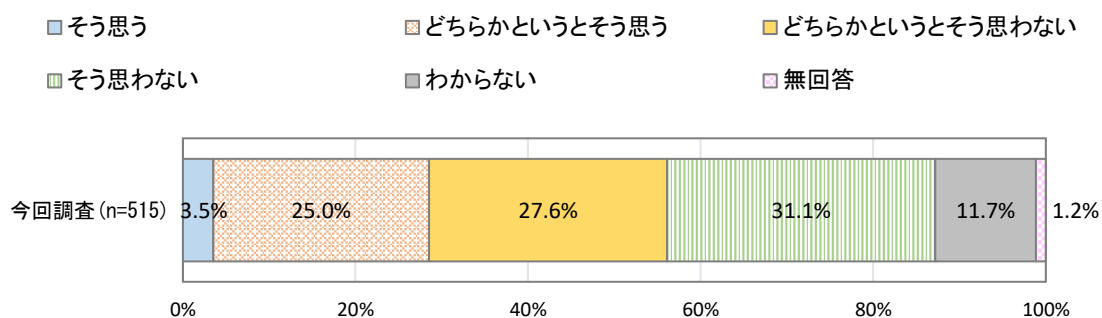


小数点第2位を 四捨五入している ため、合計は100% と一致しない場合 がある		サ ン プ ル 数	そ う 思 う	ど ち ら か と い う と そ う 思 う	ど ち ら か と い う と そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
上段:回答者数 下段:構成比								
■ 上位1項目								
今回調査		515	17	58	163	155	114	8
		100.0%	3.3%	11.3%	31.7%	30.1%	22.1%	1.6%
性別	男性	188	6	25	56	59	39	3
		100.0%	3.2%	13.3%	29.8%	31.4%	20.7%	1.6%
	女性	323	11	33	105	95	74	5
		100.0%	3.4%	10.2%	32.5%	29.4%	22.9%	1.5%
	その他	3	0	0	1	1	1	0
		100.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%
年齢別	無回答	1	0	0	1	0	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	15～19歳	105	7	13	33	21	30	1
		100.0%	6.7%	12.4%	31.4%	20.0%	28.6%	1.0%
	20～24歳	81	2	9	29	24	16	1
		100.0%	2.5%	11.1%	35.8%	29.6%	19.8%	1.2%
	25～29歳	108	4	11	32	34	26	1
	100.0%	3.7%	10.2%	29.6%	31.5%	24.1%	0.9%	
婚姻状況別	30～34歳	109	2	10	31	44	19	3
		100.0%	1.8%	9.2%	28.4%	40.4%	17.4%	2.8%
	35～39歳	111	2	15	37	32	23	2
		100.0%	1.8%	13.5%	33.3%	28.8%	20.7%	1.8%
	無回答	1	0	0	1	0	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
婚姻状況別	未婚	267	11	28	84	78	63	3
		100.0%	4.1%	10.5%	31.5%	29.2%	23.6%	1.1%
	配偶者あり	226	4	29	75	70	43	5
		100.0%	1.8%	12.8%	33.2%	31.0%	19.0%	2.2%
	配偶者と死別	3	1	0	0	1	1	0
		100.0%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%
婚姻状況別	配偶者と離別（離婚）	15	0	1	2	6	6	0
		100.0%	0.0%	6.7%	13.3%	40.0%	40.0%	0.0%
	無回答	4	1	0	2	0	1	0
		100.0%	25.0%	0.0%	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%

(4)「結婚、妊娠、子ども・子育てに温かい社会の実現に向かっている」と思いますか。

「結婚、妊娠、子ども・子育てに温かい社会の実現については、「そう思わない」31.1%が最も高く、次いで「どちらかというと思わない」27.6%、「どちらかというと思う」25.0%となっている。『そう思う』と回答した人は全体の28.5%を占める。

「結婚、妊娠、子ども・子育てに温かい社会の実現に向かっている」と思うか

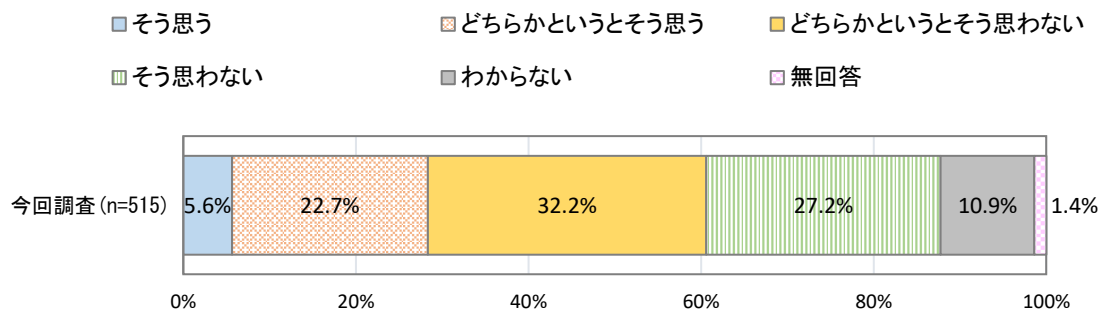


小数点第2位を 四捨五入している ため、合計は100% と一致しない場合 がある		サ ン プ ル 数	そ う 思 う	ど ち ら か と い う と そ	う ど ち ら か と い う と そ	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
上段:回答者数 下段:構成比								
■ 上位1項目								
今回調査		515	18	129	142	160	60	6
性別	男性	188	6	46	50	61	22	3
		100.0%	3.2%	24.5%	26.6%	32.4%	11.7%	1.6%
	女性	323	12	83	91	96	38	3
		100.0%	3.7%	25.7%	28.2%	29.7%	11.8%	0.9%
	その他	3	0	0	1	2	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%
年齢別	無回答	1	0	0	0	1	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	15～19歳	105	9	30	18	23	24	1
		100.0%	8.6%	28.6%	17.1%	21.9%	22.9%	1.0%
	20～24歳	81	1	21	26	25	7	1
		100.0%	1.2%	25.9%	32.1%	30.9%	8.6%	1.2%
	25～29歳	108	3	22	33	38	11	1
	100.0%	2.8%	20.4%	30.6%	35.2%	10.2%	0.9%	
婚姻状況別	30～34歳	109	0	23	28	47	10	1
		100.0%	0.0%	21.1%	25.7%	43.1%	9.2%	0.9%
	35～39歳	111	5	33	37	26	8	2
		100.0%	4.5%	29.7%	33.3%	23.4%	7.2%	1.8%
	無回答	1	0	0	0	1	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
婚姻状況別	未婚	267	12	63	67	83	39	3
		100.0%	4.5%	23.6%	25.1%	31.1%	14.6%	1.1%
	配偶者あり	226	5	64	68	68	18	3
		100.0%	2.2%	28.3%	30.1%	30.1%	8.0%	1.3%
	配偶者と死別	3	1	0	1	0	1	0
		100.0%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%
	配偶者と離別（離婚）	15	0	2	5	7	1	0
	100.0%	0.0%	13.3%	33.3%	46.7%	6.7%	0.0%	
婚姻状況別	無回答	4	0	0	1	2	1	0
		100.0%	0.0%	0.0%	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%

(5)「あなたの周りには、こどもや若者の遊びや体験活動の機会や場が十分にある」と思いますか。

「こどもや若者の遊びや体験活動の機会や場が十分にある」と思うかについては、「どちらかというところ、そう思う」32.2%が最も高く、次いで「そう思う」27.2%、「どちらかというところ、そう思う」22.7%となっている。『そう思う』と回答した人は全体の28.3%を占める。

「こどもや若者の遊びや体験活動の機会や場が十分にある」と思うか

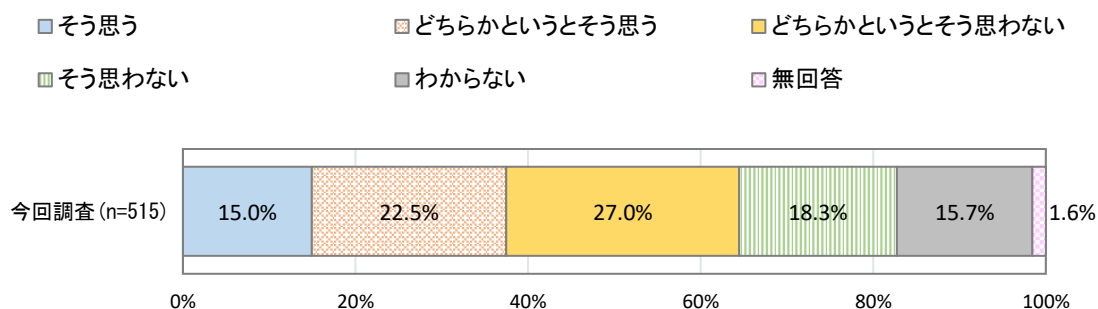


小数点第2位を 四捨五入している ため、合計は100% と一致しない場合 がある		上段: 回答者数 下段: 構成比		上位1項目							
		サンプル 数	そう 思う	ど ち ら か と い う と そ	ど ち ら か と い う と そ	う 思 わ な い	ど ち ら か と い う と そ	そう 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答	
今回調査		515	29	117	166	140	56	7			
		100.0%	5.6%	22.7%	32.2%	27.2%	10.9%	1.4%			
性別	男性	188	21	39	53	51	21	3			
		100.0%	11.2%	20.7%	28.2%	27.1%	11.2%	1.6%			
	女性	323	8	76	111	89	35	4			
		100.0%	2.5%	23.5%	34.4%	27.6%	10.8%	1.2%			
	その他	3	0	2	1	0	0	0			
		100.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%			
年齢別	無回答	1	0	0	1	0	0	0			
		100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
	15～19歳	105	16	24	34	21	9	1			
		100.0%	15.2%	22.9%	32.4%	20.0%	8.6%	1.0%			
	20～24歳	81	2	17	31	18	12	1			
		100.0%	2.5%	21.0%	38.3%	22.2%	14.8%	1.2%			
	25～29歳	108	5	26	33	28	15	1			
	100.0%	4.6%	24.1%	30.6%	25.9%	13.9%	0.9%				
婚姻状況別	30～34歳	109	3	26	22	42	14	2			
		100.0%	2.8%	23.9%	20.2%	38.5%	12.8%	1.8%			
	35～39歳	111	3	24	45	31	6	2			
		100.0%	2.7%	21.6%	40.5%	27.9%	5.4%	1.8%			
	無回答	1	0	0	1	0	0	0			
		100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
婚姻状況別	未婚	267	21	60	83	67	33	3			
		100.0%	7.9%	22.5%	31.1%	25.1%	12.4%	1.1%			
	配偶者あり	226	7	54	78	64	19	4			
		100.0%	3.1%	23.9%	34.5%	28.3%	8.4%	1.8%			
	配偶者と死別	3	1	0	1	0	1	0			
		100.0%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%			
婚姻状況別	配偶者と離別（離婚）	15	0	3	2	8	2	0			
		100.0%	0.0%	20.0%	13.3%	53.3%	13.3%	0.0%			
	無回答	4	0	0	2	1	1	0			
		100.0%	0.0%	0.0%	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%			

(6)「子ども・若者の心身の健康等についての情報提供やこころのケアが十分だ」と思いますか。

「子ども・若者の心身の健康等についての情報提供やこころのケアが十分だ」と思うかについては、「どちらかというと思わない」27.0%が最も高く、次いで「どちらかというと思う」22.5%、「そう思う」18.3%となっている。『そう思う』と回答した人は全体の37.5%を占める。

「子ども・若者の心身の健康等についての情報提供やこころのケアが十分だ」と思うか



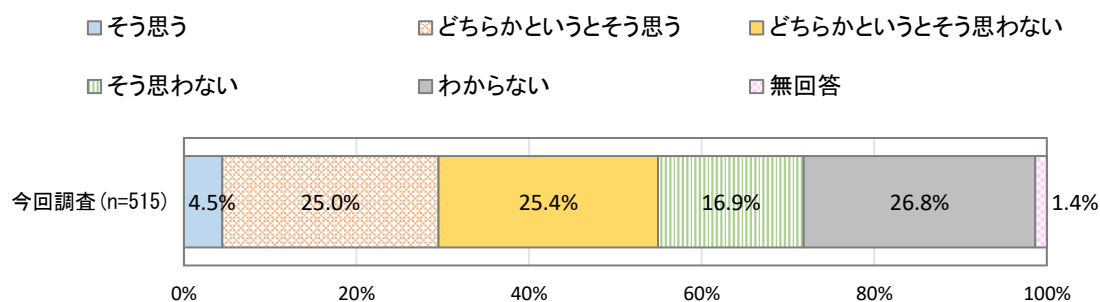
小数点第2位を四捨五入しているため、合計は100%と一致しない場合がある 上段: 回答者数 下段: 構成比 ■ 上位1項目		サンプル数	そう思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	そう思わない	わからない	無回答
今回調査		515	77	116	139	94	81	8
		100.0%	15.0%	22.5%	27.0%	18.3%	15.7%	1.6%
性別	男性	188	26	42	50	37	29	4
		100.0%	13.8%	22.3%	26.6%	19.7%	15.4%	2.1%
	女性	323	50	73	88	56	52	4
		100.0%	15.5%	22.6%	27.2%	17.3%	16.1%	1.2%
	その他	3	0	1	1	1	0	0
		100.0%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%
無回答		1	1	0	0	0	0	0
		100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢別	15～19歳	105	22	21	23	22	15	2
		100.0%	21.0%	20.0%	21.9%	21.0%	14.3%	1.9%
	20～24歳	81	11	18	24	17	10	1
		100.0%	13.6%	22.2%	29.6%	21.0%	12.3%	1.2%
	25～29歳	108	17	23	29	18	20	1
		100.0%	15.7%	21.3%	26.9%	16.7%	18.5%	0.9%
	30～34歳	109	12	27	22	23	23	2
		100.0%	11.0%	24.8%	20.2%	21.1%	21.1%	1.8%
婚姻状況別	35～39歳	111	14	27	41	14	13	2
		100.0%	12.6%	24.3%	36.9%	12.6%	11.7%	1.8%
	無回答	1	1	0	0	0	0	0
		100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	未婚	267	41	53	74	57	38	4
		100.0%	15.4%	19.9%	27.7%	21.3%	14.2%	1.5%
	配偶者あり	226	31	60	61	32	38	4
		100.0%	13.7%	26.5%	27.0%	14.2%	16.8%	1.8%
婚姻状況別	配偶者と死別	3	3	0	0	0	0	0
		100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	配偶者と離別(離婚)	15	0	2	4	5	4	0
		100.0%	0.0%	13.3%	26.7%	33.3%	26.7%	0.0%
	無回答	4	2	1	0	0	1	0
		100.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%

(7)「障がいのある子ども・若者、発達に特性のある子ども・若者の地域社会への参加・包容(インクルージョン)が推進されている」と思いますか。

インクルージョンの推進については、「わからない」26.8%が最も高く、次いで「どちらかというと思わない」25.4%、「どちらかというと思う」25.0%となっている。

『そう思う』と回答した人は全体の29.5%を占める。

「障がいのある子ども・若者、発達に特性のある子ども・若者の地域社会への参加・包容(インクルージョン)が推進されている」と思うか

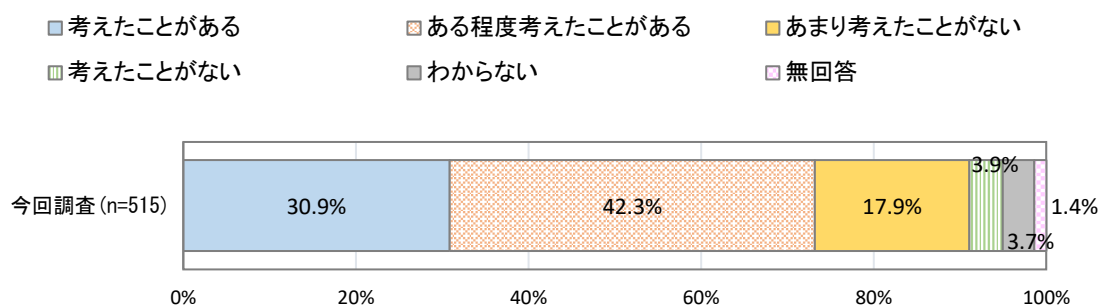


小数点第2位を 四捨五入している ため、合計は100% と一致しない場合 がある		サ ン プ ル 数	そ う 思 う	ど ち ら か と い う と そ う 思 う	ど ち ら か と い う と そ う 思 わ ない	そ う 思 わ ない	わ か ら な い	無 回 答
上段: 回答者数 下段: 構成比								
上位1項目								
今回調査		515	23	129	131	87	138	7
性別	男性	188	15	49	39	37	45	3
		100.0%	8.0%	26.1%	20.7%	19.7%	23.9%	1.6%
	女性	323	7	79	92	49	92	4
		100.0%	2.2%	24.5%	28.5%	15.2%	28.5%	1.2%
	その他	3	0	1	0	1	1	0
		100.0%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%
	無回答	1	1	0	0	0	0	0
		100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢別	15～19歳	105	12	30	18	14	30	1
		100.0%	11.4%	28.6%	17.1%	13.3%	28.6%	1.0%
	20～24歳	81	1	21	28	11	19	1
		100.0%	1.2%	25.9%	34.6%	13.6%	23.5%	1.2%
	25～29歳	108	2	24	29	22	30	1
		100.0%	1.9%	22.2%	26.9%	20.4%	27.8%	0.9%
	30～34歳	109	6	25	19	22	35	2
		100.0%	5.5%	22.9%	17.4%	20.2%	32.1%	1.8%
35～39歳	111	1	29	37	18	24	2	
	100.0%	0.9%	26.1%	33.3%	16.2%	21.6%	1.8%	
	無回答	1	1	0	0	0	0	0
		100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
婚姻状況別	未婚	267	16	70	63	44	71	3
		100.0%	6.0%	26.2%	23.6%	16.5%	26.6%	1.1%
	配偶者あり	226	6	55	63	39	59	4
		100.0%	2.7%	24.3%	27.9%	17.3%	26.1%	1.8%
	配偶者と死別	3	0	1	0	1	1	0
		100.0%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%
配偶者と離別（離婚）	15	0	3	3	3	6	0	
		100.0%	0.0%	20.0%	20.0%	20.0%	40.0%	0.0%
	無回答	4	1	0	2	0	1	0
		100.0%	25.0%	0.0%	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%

(8)「自分の将来についての人生設計(ライフプラン)について」考えたことがありますか。

ライフプランを考えたことがあるかについては、「ある程度考えたことがある」42.3%が最も高く、次いで「考えたことがある」30.9%、「あまり考えたことがない」17.9%となっている。『考えたことがある』（「考えたことがある」＋「ある程度考えたことがある」）と回答した人は全体の73.2%を占める。

「自分の将来についての人生設計（ライフプラン）について」
考えたことがあるか



小数点第2位を四捨五入しているため、合計は100%と一致しない場合がある		上段: 回答者数		下段: 構成比		上位1項目	
		サンプル数	考えたことがある	ある程度考えたことがある	あまり考えたことがない	考えたことがない	無回答
今回調査		515	159	218	92	20	19
		100.0%	30.9%	42.3%	17.9%	3.9%	3.7%
性別	男性	188	56	75	42	5	7
		100.0%	29.8%	39.9%	22.3%	2.7%	3.7%
	女性	323	103	139	50	15	12
		100.0%	31.9%	43.0%	15.5%	4.6%	3.7%
	その他	3	0	3	0	0	0
年齢別	15～19歳	105	42	38	16	5	3
		100.0%	40.0%	36.2%	15.2%	4.8%	2.9%
	20～24歳	81	29	28	11	6	6
		100.0%	35.8%	34.6%	13.6%	7.4%	7.4%
	25～29歳	108	33	49	20	1	4
		100.0%	30.6%	45.4%	18.5%	0.9%	3.7%
	30～34歳	109	25	51	26	2	3
		100.0%	22.9%	46.8%	23.9%	1.8%	2.8%
婚姻状況別	35～39歳	111	30	51	19	6	3
		100.0%	27.0%	45.9%	17.1%	5.4%	2.7%
	無回答	1	0	1	0	0	0
		100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	未婚	267	86	107	49	11	11
		100.0%	32.2%	40.1%	18.4%	4.1%	4.1%
	配偶者あり	226	66	107	38	5	6
婚姻状況別		100.0%	29.2%	47.3%	16.8%	2.2%	2.7%
	配偶者と死別	3	1	0	0	1	1
		100.0%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%
	配偶者と離別(離婚)	15	5	2	5	2	1
		100.0%	33.3%	13.3%	33.3%	13.3%	6.7%
	無回答	4	1	2	0	1	0
		100.0%	25.0%	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%

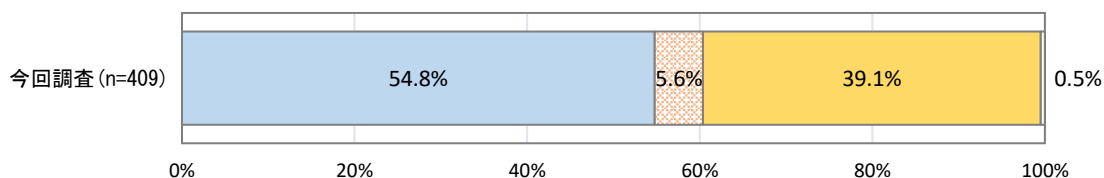
問35 あなたは結婚していますか。(1つを選択)

※なお、この調査の中で、「結婚」とは法律に基づく結婚のことを指します。

結婚しているかについては、「結婚している(現在、配偶者あり)」54.8%が最も高く、次いで「結婚したことがない」39.1%、「結婚したことはあるが、今はそうではない(離婚又は死別した)」5.6%となっている。

結婚しているか

- 1. 結婚している(現在、配偶者あり)
- 2. 結婚したことはあるが、今はそうではない(離婚又は死別した)
- 3. 結婚したことがない
- 無回答



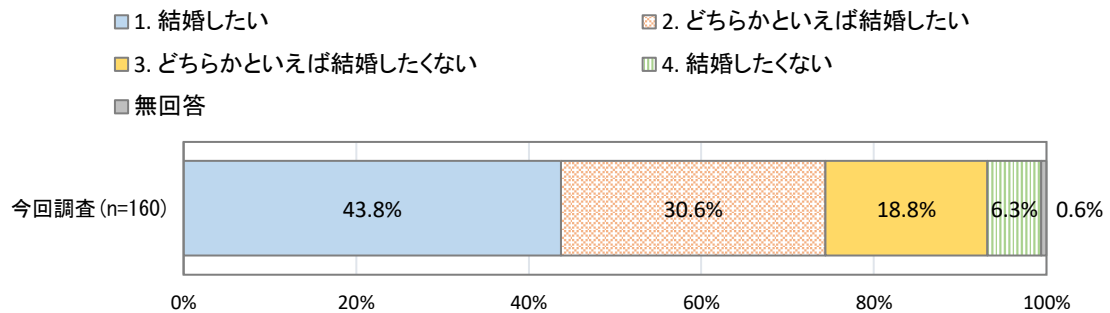
小数点第2位を 四捨五入している ため、合計は100% と一致しない場合 がある		サ ン プ ル 数	配 偶 者 あ り ） 結 婚 し て い る （ 現 在 、	が、 結 婚 し た こ と は あ る が、 今 は そ う で は な い （ 離 婚 又 は 死 別 し た ）	結 婚 し た こ と が な い	無 回 答
上段：回答者数 下段：構成比						
■ 上位1項目						
今回調査		409 100.0%	224 54.8%	23 5.6%	160 39.1%	2 0.5%
性 別	男性	139 100.0%	59 42.4%	8 5.8%	71 51.1%	1 0.7%
	女性	268 100.0%	164 61.2%	15 5.6%	88 32.8%	1 0.4%
	その他	2 100.0%	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%
	無回答	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —
	年 齢 別	15～19歳	0 —	0 —	0 —	0 —
20～24歳		81 100.0%	9 11.1%	2 2.5%	70 86.4%	0 0.0%
25～29歳		108 100.0%	50 46.3%	4 3.7%	54 50.0%	0 0.0%
30～34歳		109 100.0%	78 71.6%	7 6.4%	24 22.0%	0 0.0%
35～39歳		111 100.0%	87 78.4%	10 9.0%	12 10.8%	2 1.8%
無回答		0 —	0 —	0 —	0 —	0 —
婚 姻 状 況 別		未婚	166 100.0%	1 0.6%	5 3.0%	160 96.4%
	配偶者あり	225 100.0%	222 98.7%	1 0.4%	0 0.0%	2 0.9%
	配偶者と死別	3 100.0%	1 33.3%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%
	配偶者と離別（離婚）	15 100.0%	0 0.0%	15 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無回答	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —

問36 【問35で「3. 結婚したことがない」を選んだ方のみ、お答えください。】

あなたは将来結婚を考えていますか。(1つを選択)

将来結婚を考えているかについては、「結婚したい」43.8%が最も高く、次いで「どちらかといえば結婚したい」30.6%、「どちらかといえば結婚したくない」18.8%となっている。

将来結婚を考えているか



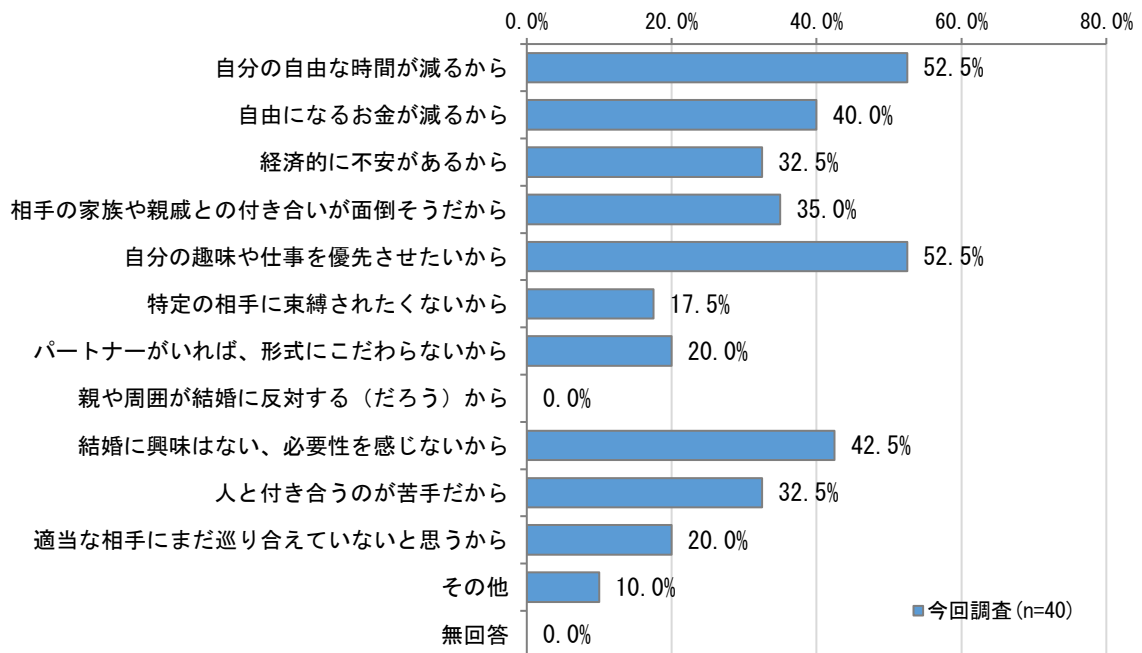
小数点第2位を 四捨五入している ため、合計は100% と一致しない場合 がある		上段:回答者数 下段:構成比		上位1項目			
		サ ン プ ル 数	結 婚 し た い	ど ち ら か と い え ば 結 婚 し た い	ど ち ら か と い え ば 結 婚 し た く な い	結 婚 し た く な い	無 回 答
今回調査		160 100.0%	70 43.8%	49 30.6%	30 18.8%	10 6.3%	0.6%
性別	男性	71 100.0%	30 42.3%	22 31.0%	12 16.9%	6 8.5%	1.4%
	女性	88 100.0%	40 45.5%	27 30.7%	18 20.5%	3 3.4%	0.0%
	その他	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0.0%
	無回答	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	-
年 齢 別	15～19歳	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	-
	20～24歳	70 100.0%	32 45.7%	19 27.1%	12 17.1%	6 8.6%	1.4%
	25～29歳	54 100.0%	26 48.1%	16 29.6%	10 18.5%	2 3.7%	0.0%
	30～34歳	24 100.0%	7 29.2%	12 50.0%	5 20.8%	0 0.0%	0.0%
	35～39歳	12 100.0%	5 41.7%	2 16.7%	3 25.0%	2 16.7%	0.0%
	無回答	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	-
	婚姻状況別	未婚	160 100.0%	70 43.8%	49 30.6%	30 18.8%	10 6.3%
婚姻 状 況 別	配偶者あり	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	-
	配偶者と死別	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	-
	配偶者と離別(離婚)	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	-
	無回答	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	-

問37 【問36で「3」～「4」を選んだ方のみ、お答えください。】

結婚を考えていない理由はなんですか。(複数選択可)

結婚を考えていない理由については、「自分の自由な時間が減るから」、「自分の趣味や仕事を優先させたいから」がいずれも52.5%と最も高く、次いで「結婚に興味はない、必要性を感じないから」42.5%、「自由になるお金が減るから」40.0%となっている。

結婚を考えていない理由

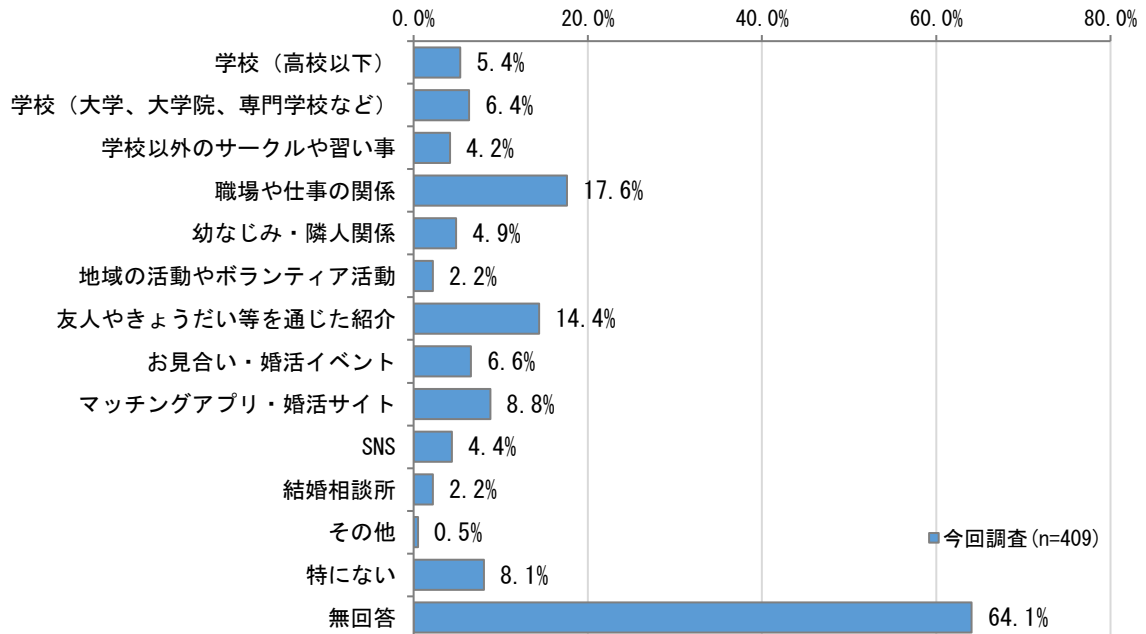


複数回答のため 合計は100%に ならない 上段: 回答者数 下段: 構成比 ■ 上位1項目		サ ン プ ル 数	減 自 分 の 自 由 な 時 間 が	自 由 に な る お 金 が 減 る か ら	経 済 的 に 不 安 が あ る か ら	う だ か ら の 付 き 合 い が 面 倒 そ う だ か ら	自 分 の 趣 味 や 仕 事 を 優 先 さ せ た い か ら	特 定 の 相 手 に 束 縛 さ れ た く な い か ら	バ ー ト ナ ー が い れ ば 、 形 式 に こ だ わ ら な い か ら	親 や 周 圍 が 結 婚 に 反 対 す る （ だ ろ う ） か ら	結 婚 に 興 味 は な い か 、 必 要 性 を 感 じ な い か ら	手 と 付 き 合 う の が 苦 手 だ か ら	適 当 な 相 手 に ま だ 巡 り 合 え て い な い か ら	そ の 他	無 回 答
今回調査		40	21 52.5%	16 40.0%	13 32.5%	14 35.0%	21 52.5%	7 17.5%	8 20.0%	0 0.0%	17 42.5%	13 32.5%	8 20.0%	4 10.0%	0 0.0%
性 別	男性	18	8 44.4%	7 38.9%	6 33.3%	6 33.3%	7 38.9%	1 5.6%	2 11.1%	0 0.0%	8 44.4%	7 38.9%	2 11.1%	2 11.1%	0 0.0%
	女性	21	13 61.9%	9 42.9%	7 33.3%	8 38.1%	14 66.7%	6 28.6%	6 28.6%	0 0.0%	8 38.1%	6 28.6%	6 28.6%	1 4.8%	0 0.0%
	その他	1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%
	無回答	0	— —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —
年 齢 別	15～19歳	0	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —
	20～24歳	18	9 50.0%	5 27.8%	4 22.2%	4 22.2%	8 44.4%	2 11.1%	3 16.7%	0 0.0%	8 44.4%	6 33.3%	3 16.7%	2 11.1%	0 0.0%
	25～29歳	12	9 75.0%	9 75.0%	5 41.7%	7 58.3%	9 75.0%	3 25.0%	3 25.0%	0 0.0%	4 33.3%	3 25.0%	4 33.3%	2 16.7%	0 0.0%
	30～34歳	5	2 40.0%	2 40.0%	4 80.0%	2 40.0%	2 40.0%	1 20.0%	2 40.0%	0 0.0%	3 60.0%	3 60.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	35～39歳	5	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	2 40.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 40.0%	1 20.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無回答	0	— —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —
婚 姻 状 況 別	未婚	40	21 52.5%	16 40.0%	13 32.5%	14 35.0%	21 52.5%	7 17.5%	8 20.0%	0 0.0%	17 42.5%	13 32.5%	8 20.0%	4 10.0%	0 0.0%
	配偶者あり	0	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —
	配偶者と死別	0	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —
	配偶者と離別（離婚）	0	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —
	無回答	0	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —

問38 結婚相手と知り合うきっかけ(またはきっかけとして期待するもの)はどのようなことですか。(複数選択可)

結婚相手と知り合うきっかけについては、「職場や仕事の関係」17.6%が最も高く、次いで「友人やきょうだい等を通じた紹介」14.4%、「マッチングアプリ・婚活サイト」8.8%となっている。

結婚相手と知り合うきっかけ

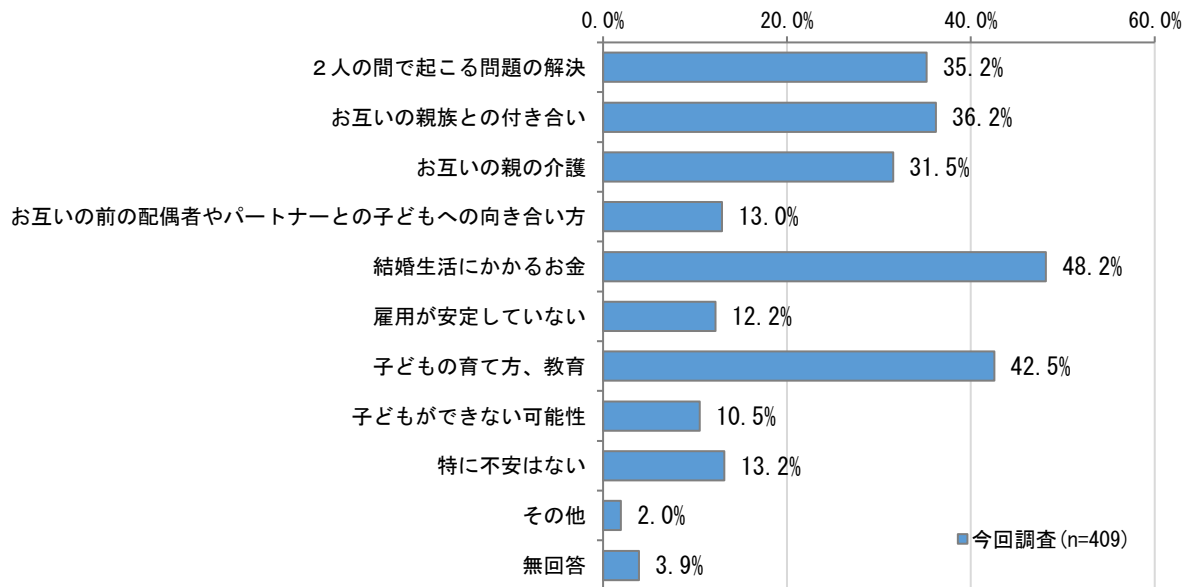


複数回答のため 合計は100%に ならない		サ ン プ ル 数	学 校 （ 高 校 以 下 ）	学 校 （ 大 学 、 専 門 学 校 な ど ）	学 校 以 外 の サ ー ク ル や 習 い 事	職 場 や 仕 事 の 関 係	幼 な じ み ・ 隣 人 関 係	地 域 の 活 動 や ボ ラ ン テ ィ ア 活 動	友 人 や き ょう だ い 等 を 通 じ た 紹 介	お 見 合 い ・ 婚 活 イ ベ ン ト	婚 活 サ イ ト	マ ッ チ ン グ ア プ リ ・ 婚 活 サ イ ト	S N S	結 婚 相 談 所	そ の 他	特 に な い	無 回 答
上段:回答者数 下段:構成比																	
上位1項目																	
今回調査		409	22 5.4%	26 6.4%	17 4.2%	72 17.6%	20 4.9%	9 2.2%	59 14.4%	27 6.6%	36 8.8%	18 4.4%	9 2.2%	2 0.5%	33 8.1%	262 64.1%	
性別	男性	139	10 7.2%	12 8.6%	6 4.3%	32 23.0%	11 7.9%	6 4.3%	22 15.8%	17 12.2%	17 12.2%	8 5.8%	4 2.9%	0 0.0%	12 8.6%	76 54.7%	
	女性	268	12 4.5%	14 5.2%	11 4.1%	40 14.9%	9 3.4%	3 1.1%	37 13.8%	10 3.7%	19 7.1%	10 3.7%	5 1.9%	2 0.7%	20 7.5%	185 69.0%	
	その他	2	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	
	無回答	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	
年齢別	15～19歳	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	
	20～24歳	81	15 18.5%	17 21.0%	9 11.1%	33 40.7%	11 13.6%	2 2.5%	20 24.7%	2 2.5%	6 7.4%	6 7.4%	2 2.5%	0 0.0%	16 19.8%	19 23.5%	
	25～29歳	108	4 3.7%	5 4.6%	4 3.7%	21 19.4%	4 3.7%	4 3.7%	24 22.2%	14 13.0%	18 16.7%	9 8.3%	4 3.7%	2 1.9%	9 8.3%	58 53.7%	
	30～34歳	109	1 0.9%	1 0.9%	2 1.8%	11 10.1%	4 3.7%	1 0.9%	9 8.3%	10 9.2%	9 8.3%	3 2.8%	3 2.8%	0 0.0%	4 3.7%	87 79.8%	
	35～39歳	111	2 1.8%	3 2.7%	2 1.8%	7 6.3%	1 0.9%	2 1.8%	6 5.4%	1 0.9%	3 2.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 3.6%	98 88.3%	
	無回答	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	
婚姻状況別	未婚	166	21 12.7%	25 15.1%	17 10.2%	71 42.8%	20 12.0%	9 5.4%	57 34.3%	27 16.3%	35 21.1%	18 10.8%	9 5.4%	2 1.2%	33 19.9%	21 12.7%	
	配偶者あり	225	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	224 99.6%	
	配偶者と死別	3	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%	
	配偶者と離別（離婚）	15	1 6.7%	1 6.7%	0 0.0%	1 6.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.7%	0 0.0%	1 6.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	14 93.3%	
	無回答	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	

問39 あなたが、結婚生活について不安に感じることはありますか。(複数選択可)

結婚生活について不安に感じることについては、「結婚生活にかかるお金」48.2%が最も高く、次いで「子どもの育て方、教育」42.5%、「お互いの親族との付き合い」36.2%となっている。

結婚生活について不安に感じること

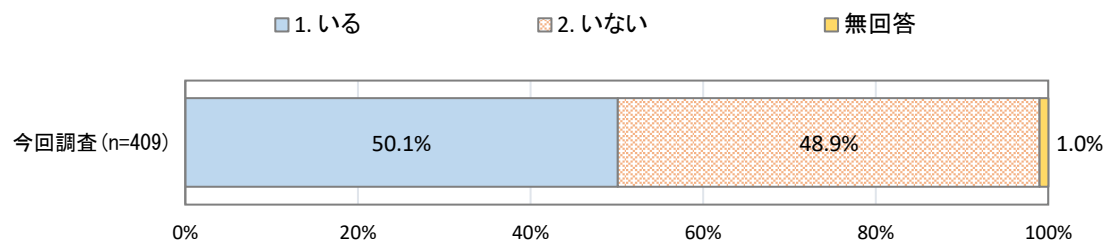


複数回答のため 合計は100%に ならない 上段:回答者数 下段:構成比 ■ 上位1項目		サ ン プ ル 数	2 人 の 間 で 起 こ る 問 題	お 互 い の 親 族 と の 付 き 合 い	お 互 い の 親 の 介 護	お 互 い の 前 の 配 偶 者 と の 子 ど も へ の 向 き 合 い 方	金 婚 活 に か か る お 金	雇 用 が 安 定 し て い な い	子 ど も の 育 て 方 、 教 育	子 ど も が で き な い 可 能 性	特 に 不 安 は な い	そ の 他	無 回 答
今回調査		409	144	148	129	53	197	50	174	43	54	8	16
性別	男性	139	46	45	45	21	60	25	56	15	17	2	7
	女性	268	98	103	83	32	137	25	117	28	36	6	9
	その他	2	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
年齢別	15～19歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	20～24歳	81	27	27	15	10	40	10	27	10	10	2	7
	25～29歳	108	46	52	32	15	62	13	47	18	12	2	4
	30～34歳	109	40	37	40	18	43	14	49	10	19	0	3
	35～39歳	111	31	32	42	10	52	13	51	5	13	4	2
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
婚姻状況別	未婚	166	70	78	53	26	81	25	55	25	20	4	14
	配偶者あり	225	64	58	70	22	108	19	112	17	33	3	1
	配偶者と死別	3	0	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0
	配偶者と離別(離婚)	15	10	11	6	5	8	6	4	1	1	1	1
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

問40 あなたはお子さんがいますか。(1つを選択)

子どもがいるかについては、「いる」50.1%、「いない」48.9%となっている。

子どもがいるか



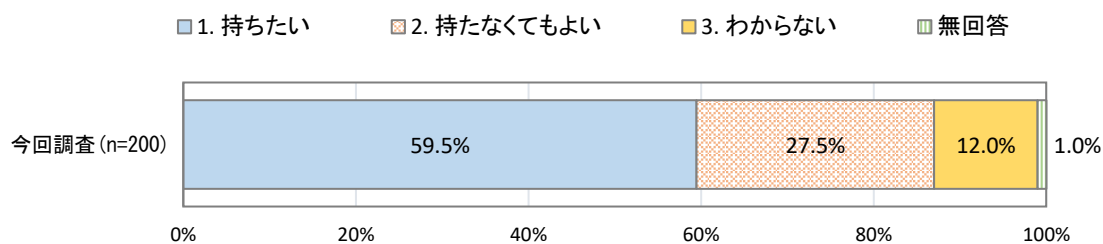
小数点第2位を 四捨五入している ため、合計は100% と一致しない場合 がある		サン プル 数	い る	い ない	無回 答
上段: 回答者数 下段: 構成比					
上位1項目					
今回調査		409	205	200	4
		100.0%	50.1%	48.9%	1.0%
性別	男性	139	54	83	2
		100.0%	38.8%	59.7%	1.4%
	女性	268	150	116	2
		100.0%	56.0%	43.3%	0.7%
	その他	2	1	1	0
		100.0%	50.0%	50.0%	0.0%
無回答		0	0	0	0
		-	-	-	-
年 齢 別	15～19歳	0	0	0	0
		-	-	-	-
	20～24歳	81	7	74	0
		100.0%	8.6%	91.4%	0.0%
	25～29歳	108	34	74	0
		100.0%	31.5%	68.5%	0.0%
	30～34歳	109	72	36	1
		100.0%	66.1%	33.0%	0.9%
35～39歳		111	92	16	3
		100.0%	82.9%	14.4%	2.7%
	無回答	0	0	0	0
		-	-	-	-
婚 姻 状 況 別	未婚	166	7	159	0
		100.0%	4.2%	95.8%	0.0%
	配偶者あり	225	183	39	3
		100.0%	81.3%	17.3%	1.3%
	配偶者と死別	3	2	0	1
		100.0%	66.7%	0.0%	33.3%
	配偶者と離別(離婚)	15	13	2	0
		100.0%	86.7%	13.3%	0.0%
無回答		0	0	0	0
		-	-	-	-

問41 【問40で「2. いない」を選んだ方のみ、お答えください。】

あなたは将来子どもを持ちたいですか。(1つを選択)

将来子どもを持ちたいかについては、「持ちたい」59.5%、「持たなくてもよい」27.5%、「わからない」12.0%となっている。

将来子どもを持ちたいか



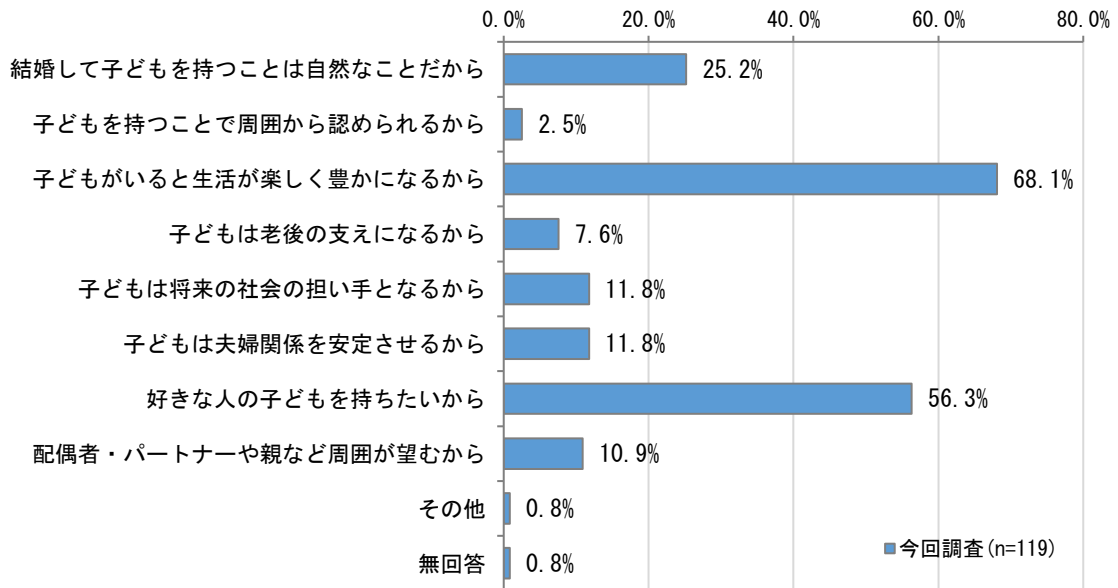
小数点第2位を 四捨五入している ため、合計は100% と一致しない場合 がある		サ ン プ ル 数	持 ち た い	持 た な く て も よ い	わ か ら な い	無 回 答
上段:回答者数 下段:構成比						
■ 上位1項目						
今回調査		200	119	55	24	2
性別	男性	83	47	20	14	2
		100.0%	56.6%	24.1%	16.9%	2.4%
	女性	116	72	34	10	0
		100.0%	62.1%	29.3%	8.6%	0.0%
	その他	1	0	1	0	0
		100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
無回答		0	0	0	0	0
		-	-	-	-	-
年 齢 別	15～19歳	0	0	0	0	0
		-	-	-	-	-
	20～24歳	74	42	21	9	2
		100.0%	56.8%	28.4%	12.2%	2.7%
	25～29歳	74	45	20	9	0
		100.0%	60.8%	27.0%	12.2%	0.0%
	30～34歳	36	24	10	2	0
	100.0%	66.7%	27.8%	5.6%	0.0%	
35～39歳		16	8	4	4	0
		100.0%	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%
	無回答	0	0	0	0	0
		-	-	-	-	-
婚 姻 状 況 別	未婚	159	86	47	24	2
		100.0%	54.1%	29.6%	15.1%	1.3%
	配偶者あり	39	32	7	0	0
		100.0%	82.1%	17.9%	0.0%	0.0%
	配偶者と死別	0	0	0	0	0
		-	-	-	-	-
	配偶者と離別（離婚）	2	1	1	0	0
	100.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	
無回答		0	0	0	0	0
		-	-	-	-	-

問42 【問41で「1」を選んだ方のみ、お答えください。】

子どもを持ちたいと思う理由は何ですか。(〇は3つまで)

子どもを持ちたいと思う理由については、「子どもがいると生活が楽しく豊かになるから」68.1%が最も高く、次いで「好きな人の子どもを持ちたいから」56.3%、「結婚して子どもを持つことは自然なことだから」25.2%となっている。

子どもを持ちたいと思う理由

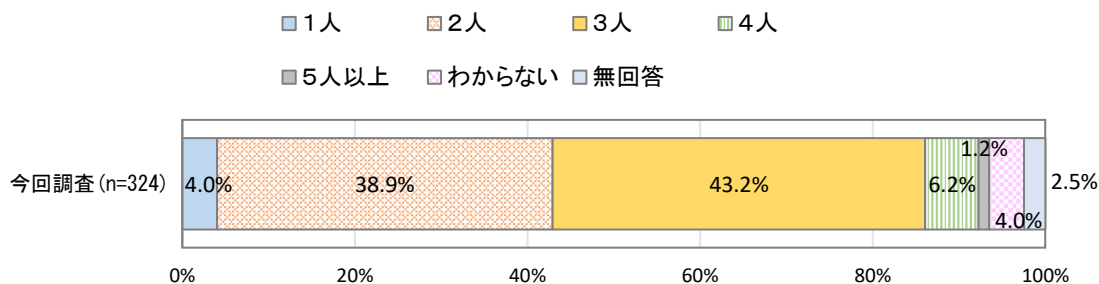


複数回答のため 合計は100%に ならない		サ ン プ ル 数	だ か ら	結 婚 し て 自 然 な こ と と 持 つ	周 圍 か ら 認 め ら れ る こ と で	子 ど も が 楽 し く い る こ と な る 活	子 ど も は 老 後 の 支 え に な る か ら	子 ど も は 未 来 の 社 会 の 担 い 手 と な る か ら	子 ど も は 夫 婦 関 係 を 安 定 さ せ る か ら	持 ち た い か ら	か や 配 偶 者 な ど 周 圍 が 望 む か ら	そ の 他	無 回 答
上段:回答者数 下段:構成比													
上位1項目													
今回調査		119	30 25.2%	3 2.5%	81 68.1%	9 7.6%	14 11.8%	14 11.8%	67 56.3%	13 10.9%	1 0.8%	1 0.8%	
性 別	男性	47	14 29.8%	0 0.0%	31 66.0%	5 10.6%	7 14.9%	6 12.8%	28 59.6%	3 6.4%	0 0.0%	2 2.1%	
	女性	72	16 22.2%	3 4.2%	50 69.4%	4 5.6%	7 9.7%	8 11.1%	39 54.2%	10 13.9%	1 1.4%	0 0.0%	
	その他	0	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	
	無回答	0	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	
年 齢 別	15～19歳	0	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	
	20～24歳	42	9 21.4%	1 2.4%	35 83.3%	3 7.1%	4 9.5%	3 7.1%	21 50.0%	2 4.8%	1 2.4%	0 0.0%	
	25～29歳	45	15 33.3%	1 2.2%	28 62.2%	3 6.7%	3 6.7%	6 13.3%	24 53.3%	8 17.8%	0 0.0%	0 0.0%	
	30～34歳	24	4 16.7%	0 0.0%	12 50.0%	3 12.5%	6 25.0%	5 20.8%	17 70.8%	3 12.5%	0 0.0%	1 4.2%	
	35～39歳	8	2 25.0%	1 12.5%	6 75.0%	0 0.0%	1 12.5%	0 0.0%	5 62.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	無回答	0	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	
婚 姻 状 況 別	未婚	86	21 24.4%	2 2.3%	57 66.3%	7 8.1%	10 11.6%	11 12.8%	44 51.2%	8 9.3%	1 1.2%	1 1.2%	
	配偶者あり	32	9 28.1%	1 3.1%	24 75.0%	2 6.3%	4 12.5%	3 9.4%	22 68.8%	5 15.6%	0 0.0%	0 0.0%	
	配偶者と死別	0	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	
	配偶者と離別(離婚)	1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	無回答	0	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	0 —	

問43 【問43から問45は、問40で「1」又は問 41 で「1」を選んだ方のみ、お答えください。】
あなたにとって理想とする子どもの数は何人ですか。(○は1つ)

理想とする子どもの数については、「3人」43.2%が最も高く、次いで「2人」38.9%となっている。

理想とする子どもの数

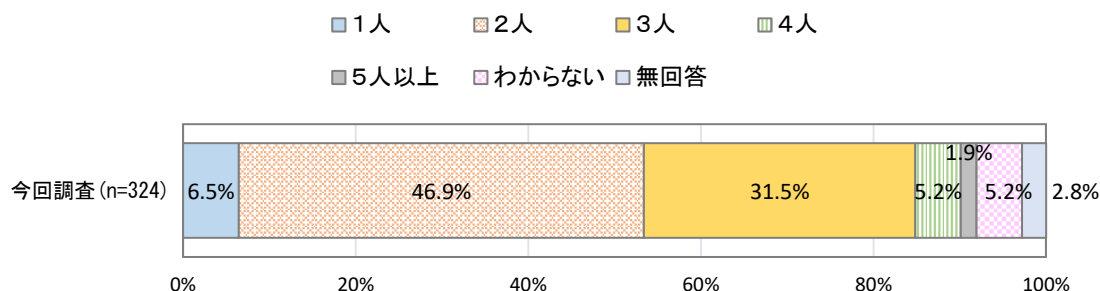


小数点第2位を 四捨五入している ため、合計は100% と一致しない場合 がある		サ ン プ ル 数	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人 以 上	わ か ら な い	無 回 答
上段: 回答者数 下段: 構成比									
■ 上位1項目									
今回調査		324	13	126	140	20	4	13	8
		100.0%	4.0%	38.9%	43.2%	6.2%	1.2%	4.0%	2.5%
性 別	男性	101	6	44	40	2	1	5	3
		100.0%	5.9%	43.6%	39.6%	2.0%	1.0%	5.0%	3.0%
	女性	222	7	81	100	18	3	8	5
		100.0%	3.2%	36.5%	45.0%	8.1%	1.4%	3.6%	2.3%
	その他	1	0	1	0	0	0	0	0
		100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
年 齢 別	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
		-	-	-	-	-	-	-	-
	15～19歳	0	0	0	0	0	0	0	0
		-	-	-	-	-	-	-	-
	20～24歳	49	1	22	20	1	0	3	2
		100.0%	2.0%	44.9%	40.8%	2.0%	0.0%	6.1%	4.1%
	25～29歳	79	4	29	37	7	0	1	1
	100.0%	5.1%	36.7%	46.8%	8.9%	0.0%	1.3%	1.3%	
30～34歳	96	4	36	42	4	3	4	3	
	100.0%	4.2%	37.5%	43.8%	4.2%	3.1%	4.2%	3.1%	
35～39歳	100	4	39	41	8	1	5	2	
	100.0%	4.0%	39.0%	41.0%	8.0%	1.0%	5.0%	2.0%	
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	
	-	-	-	-	-	-	-	-	
婚 姻 状 況 別	未婚	93	3	42	36	1	0	4	7
		100.0%	3.2%	45.2%	38.7%	1.1%	0.0%	4.3%	7.5%
	配偶者あり	215	9	77	99	18	3	8	1
		100.0%	4.2%	35.8%	46.0%	8.4%	1.4%	3.7%	0.5%
	配偶者と死別	2	0	0	1	0	1	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%
配偶者と離別（離婚）	14	1	7	4	1	0	1	0	
	100.0%	7.1%	50.0%	28.6%	7.1%	0.0%	7.1%	0.0%	
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	
	-	-	-	-	-	-	-	-	

問44 あなたは、実際に何人の子どもを持ちたいですか。現在おられるお子さんとこれから持ちたいお子さんの数を含めてお答えください。(〇は1つ)

実際に持ちたい子どもの数については、「2人」46.9%が最も高く、次いで「3人」31.5%となっている。

実際に持ちたい子どもの数

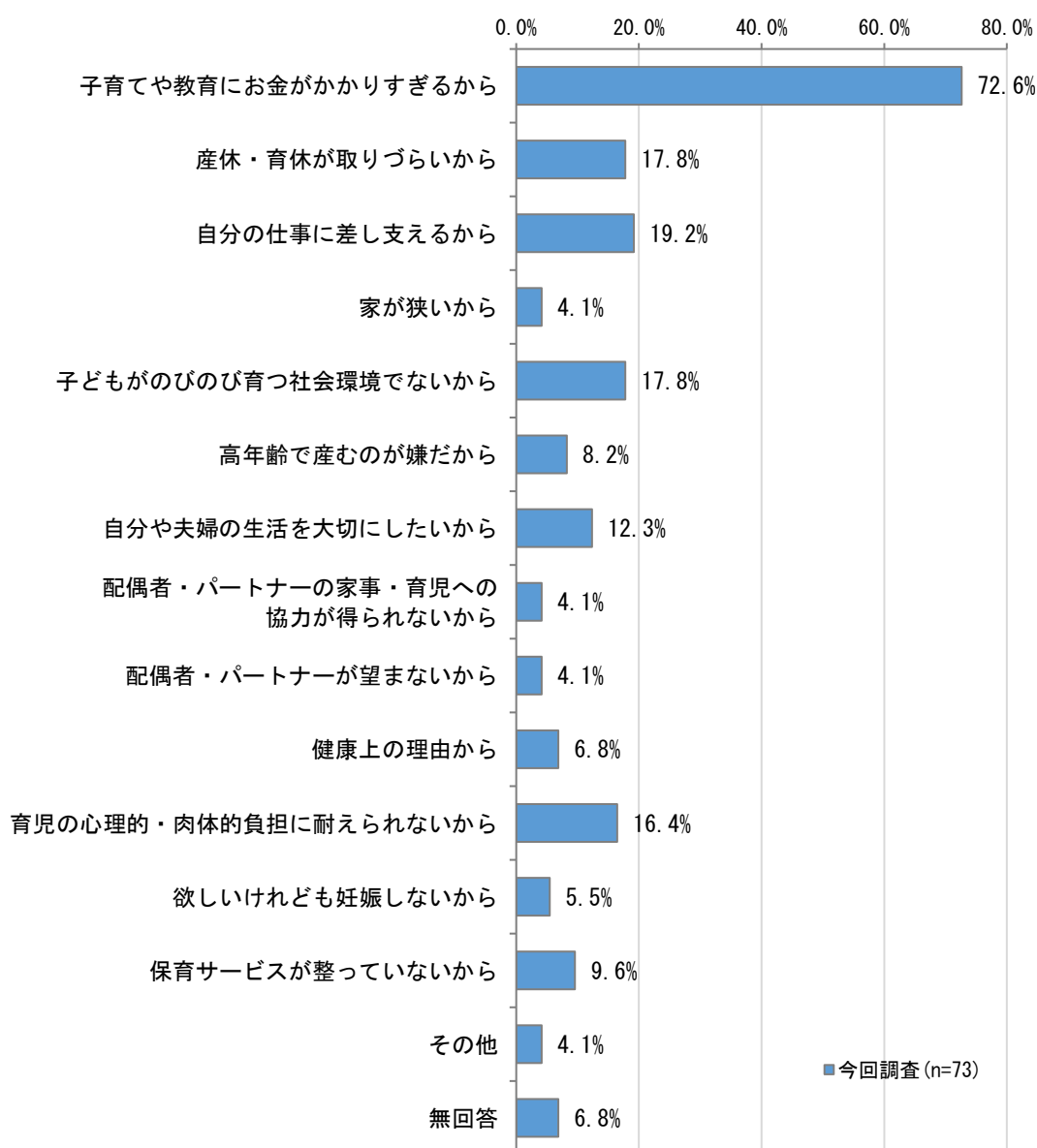


小数点第2位を 四捨五入している ため、合計は100% と一致しない場合 がある		サ ン プ ル 数	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人 以 上	わ か ら な い	無 回 答
上段: 回答者数 下段: 構成比									
■ 上位1項目									
今回調査		324 100.0%	21 6.5%	152 46.9%	102 31.5%	17 5.2%	6 1.9%	17 5.2%	9 2.8%
性別	男性	101 100.0%	6 5.9%	51 50.5%	30 29.7%	4 4.0%	0 0.0%	6 5.9%	4 4.0%
	女性	222 100.0%	15 6.8%	100 45.0%	72 32.4%	13 5.9%	6 2.7%	11 5.0%	5 2.3%
	その他	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無回答	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
年 齢 別	15～19歳	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	20～24歳	49 100.0%	3 6.1%	25 51.0%	14 28.6%	1 2.0%	0 0.0%	4 8.2%	2 4.1%
	25～29歳	79 100.0%	6 7.6%	36 45.6%	26 32.9%	5 6.3%	2 2.5%	2 2.5%	2 2.5%
	30～34歳	96 100.0%	8 8.3%	45 46.9%	32 33.3%	2 2.1%	2 2.1%	4 4.2%	3 3.1%
	35～39歳	100 100.0%	4 4.0%	46 46.0%	30 30.0%	9 9.0%	2 2.0%	7 7.0%	2 2.0%
	無回答	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	婚 姻 状 況 別	未婚	93 100.0%	2 2.2%	47 50.5%	26 28.0%	2 2.2%	0 0.0%	8 8.6%
配偶者あり		215 100.0%	17 7.9%	96 44.7%	74 34.4%	14 6.5%	6 2.8%	7 3.3%	1 0.5%
配偶者と死別		2 100.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%
配偶者と離別(離婚)		14 100.0%	1 7.1%	9 64.3%	2 14.3%	1 7.1%	0 0.0%	1 7.1%	0 0.0%
無回答		0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -

問45 問44の実際に持ちたい子どもの数が、問43の理想の子どもの数より少ない方にお尋ねします。その理由は何ですか。(〇は3つまで)

実際に持ちたい子どもの数が理想の数より少ない理由については、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」72.6%が最も高く、次いで「自分の仕事に差し支えるから」19.2%、「産休・育休が取りづらいから」、「子どもがのびのび育つ社会環境でないから」がいずれも17.8%となっている。

実際に持ちたい子どもの数が理想の数より少ない理由



複数回答のため 合計は100%に ならない		サ ン プ ル 数	子 育 て や 教 育 に お 金 が か か り ず ぎ る か ら	産 休 ・ 育 休 が 取 り づ ら い か ら	自 分 の 仕 事 に 差 し 支 える か ら	家 が 狭 い か ら	ら つ 社 会 環 境 で な い の び か 育	子 ど も が の び の び か 育	だ か ら 高 年 齢 で 産 む の が 嫌	自 分 や 夫 婦 の 生 活 を 大 切 に し た い か ら	配 偶 者 ・ バ ー ト ナ ー の 家 事 ・ 育 児 へ の 協 力 が 得 ら れ な い か ら
上段:回答者数 下段:構成比											
■ 上位1項目											
今回調査											
性 別	男性	73 18 - 72.6%	53 13 - 24.6%	13 1 - 17.8%	14 3 - 19.2%	3 1 - 4.1%	13 4 - 17.8%	6 1 - 8.2%	9 4 - 12.3%	3 0 - 4.1%	
	女性	55 40 - 72.7%	40 12 - 28.6%	12 2 - 21.8%	11 2 - 20.0%	2 2 - 3.6%	9 5 - 16.4%	5 5 - 9.1%	5 5 - 9.1%	3 3 - 5.5%	
	その他	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%	
	無回答	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%	
年 齢 別	15～19歳	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%
	20～24歳	9 9 - 100.0%	9 3 - 33.3%	3 2 - 22.2%	2 0 - 0.0%	2 2 - 22.2%	2 0 - 0.0%	0 0 - 0.0%	1 1 - 11.1%	0 0 - 0.0%	
	25～29歳	18 17 - 94.4%	17 3 - 16.7%	3 2 - 11.1%	2 2 - 11.1%	2 4 - 22.2%	4 1 - 5.6%	1 1 - 5.6%	1 1 - 11.1%	0 0 - 0.0%	
	30～34歳	25 16 - 64.0%	16 4 - 16.0%	4 4 - 16.0%	4 1 - 4.0%	1 4 - 16.0%	4 2 - 8.0%	2 6 - 24.0%	6 2 - 8.0%	2 2 - 8.0%	
	35～39歳	21 11 - 52.4%	11 3 - 14.3%	3 6 - 28.6%	6 0 - 0.0%	0 3 - 14.3%	3 3 - 14.3%	1 1 - 4.8%	1 1 - 4.8%	1 1 - 4.8%	
	無回答	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%	
婚 姻 状 況 別	未婚	12 11 - 91.7%	11 4 - 33.3%	4 2 - 16.7%	2 0 - 0.0%	0 2 - 16.7%	2 1 - 8.3%	1 1 - 8.3%	1 1 - 11.1%	0 0 - 0.0%	
	配偶者あり	57 41 - 71.9%	41 9 - 15.8%	9 11 - 19.3%	11 3 - 5.3%	3 10 - 17.5%	10 5 - 8.8%	5 7 - 12.3%	7 3 - 5.3%	3 3 - 5.3%	
	配偶者と死別	1 0 - 0.0%	0 0 - 0.0%	0 0 - 0.0%	0 0 - 0.0%	0 0 - 0.0%	0 0 - 0.0%	0 0 - 0.0%	0 0 - 0.0%	0 0 - 0.0%	
	配偶者と離別(離婚)	3 1 - 33.3%	1 0 - 0.0%	0 1 - 33.3%	1 0 - 0.0%	0 1 - 33.3%	1 0 - 0.0%	0 1 - 33.3%	1 1 - 33.3%	0 0 - 0.0%	
	無回答	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%	0 0 - 0%	

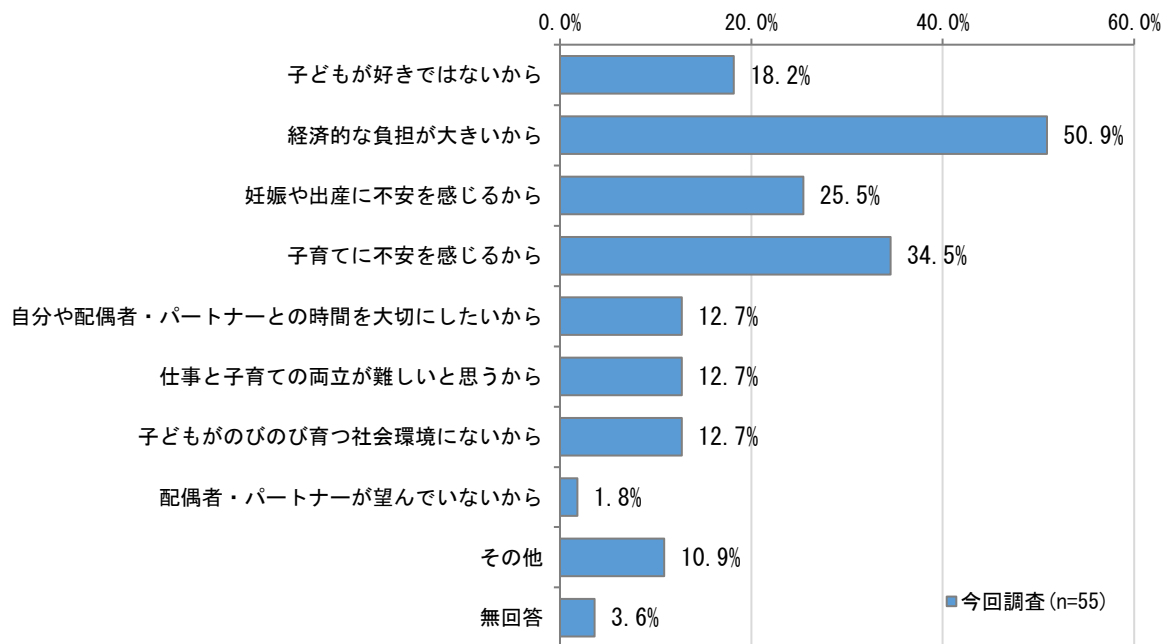
複数回答のため 合計は100%に ならない 上段: 回答者数 下段: 構成比 ■ 上位1項目		サ ン プ ル 数	が 配 偶 者 ・ バ ー ト ナ ー に 望 ま な い か ら	健 康 上 の 理 由 か ら	い 的 育 児 の 負 担 に 耐 え ら れ な い か ら	欲 し い け れ ど も 妊 娠 し な い か ら	て い な い か ら 保 育 サ ー ビ ス が 整 つ て い な い か ら	そ の 他	無 回 答
今回調査		73	3 4.1%	5 6.8%	12 16.4%	4 5.5%	7 9.6%	3 4.1%	5 6.8%
性別	男性	18	2 11.1%	0 0.0%	5 27.8%	0 0.0%	2 11.1%	0 0.0%	2 11.1%
	女性	55	1 1.8%	5 9.1%	7 12.7%	4 7.3%	5 9.1%	3 5.5%	3 5.5%
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
		-	-	-	-	-	-	-	-
年齢別	15～19歳	0	0	0	0	0	0	0	0
	20～24歳	9	1 11.1%	0 0.0%	2 22.2%	0 0.0%	1 11.1%	0 0.0%	0 0.0%
	25～29歳	18	0 0.0%	0 0.0%	4 22.2%	0 0.0%	1 5.6%	1 5.6%	0 0.0%
	30～34歳	25	1 4.0%	4 16.0%	3 12.0%	1 4.0%	3 12.0%	1 4.0%	1 4.0%
	35～39歳	21	1 4.8%	1 4.8%	3 14.3%	3 14.3%	2 9.5%	1 4.8%	4 19.0%
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
		-	-	-	-	-	-	-	-
婚姻状況別	未婚	12	0 0.0%	0 0.0%	3 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 8.3%
	配偶者あり	57	3 5.3%	5 8.8%	8 14.0%	4 7.0%	6 10.5%	2 3.5%	4 7.0%
	配偶者と死別	1	0	0	0	0	0	1	0
	配偶者と離別(離婚)	3	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
		-	-	-	-	-	-	-	-

問46 【問41で「2」を選んだ方のみ、お答えください。】

「持たなくてもよい」と思う理由は何ですか。(〇は2つまで)

子どもを持たなくてもよいと思う理由については、「経済的な負担が大きいから」50.9%が最も高く、次いで「子育てに不安を感じるから」34.5%、「妊娠や出産に不安を感じるから」25.5%となっている。

子どもを持たなくてもよいと思う理由

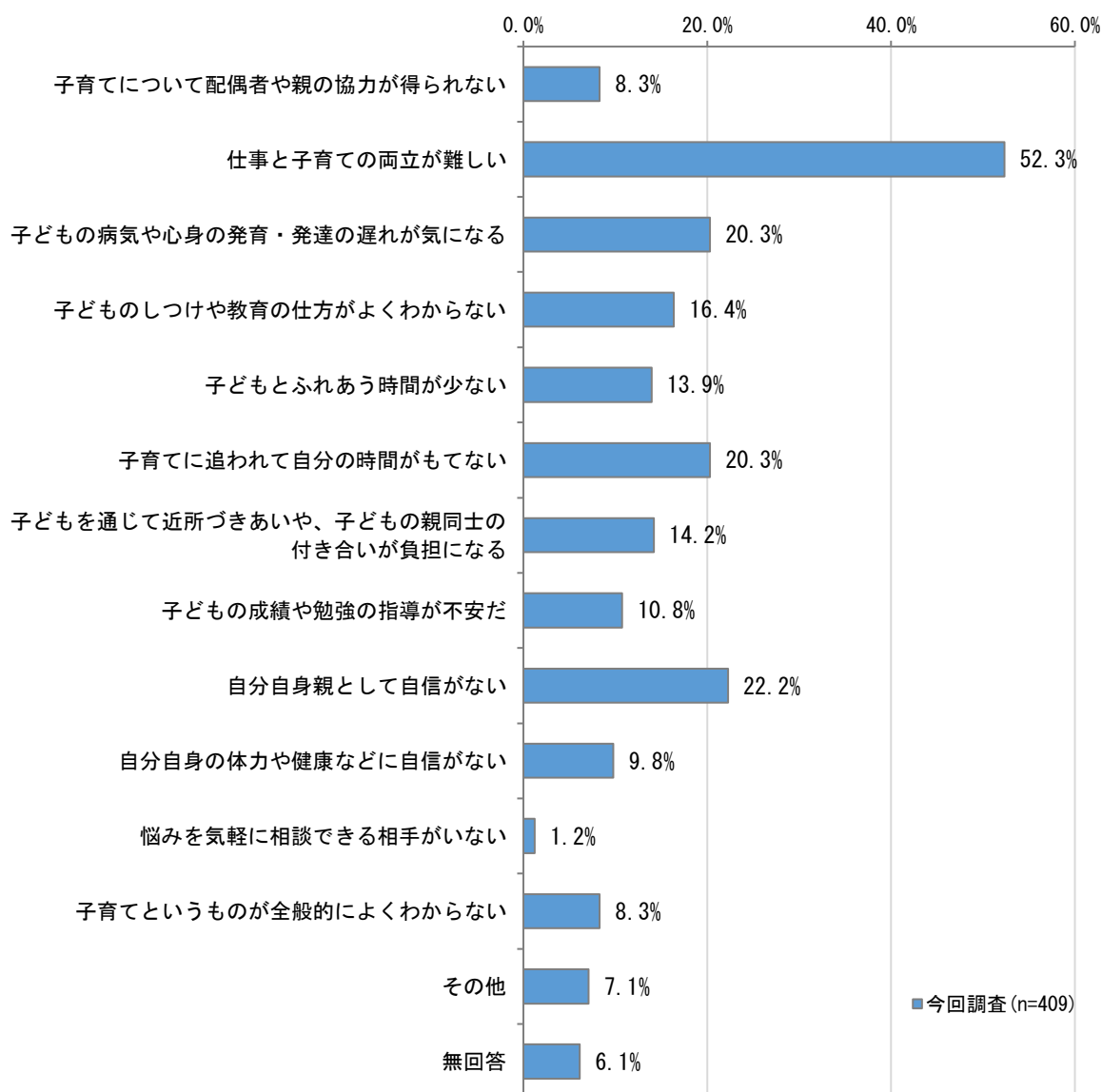


複数回答のため 合計は100%にならない 上段: 回答者数 下段: 構成比 ■ 上位1項目		サンプル数	子どもが好きではないから	経済的な負担が大きいから	妊娠や出産に不安を感じるから	子育てに不安を感じるから	切にしたいから	自分や配偶者・パートナーとの時間を大切にしたいから	仕事と子育ての両立が難しいと思うから	子どもがのびのび育つ社会環境にないから	配偶者・パートナーが望んでいないから	その他	無回答
今回調査		55	10 18.2%	28 50.9%	14 25.5%	19 34.5%	7 12.7%	7 12.7%	7 12.7%	7 12.7%	1 1.8%	6 10.9%	2 3.6%
性別	男性	20	5 25.0%	10 50.0%	3 15.0%	7 35.0%	3 15.0%	3 15.0%	3 15.0%	2 10.0%	1 5.0%	1 5.0%	0 0.0%
	女性	34	5 14.7%	18 52.9%	11 32.4%	12 35.3%	4 11.8%	4 11.8%	4 11.8%	5 14.7%	0 0.0%	4 11.8%	2 5.9%
	その他	1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%
	無回答	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年齢別	15～19歳	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	20～24歳	21	5 23.8%	9 42.9%	5 23.8%	9 42.9%	2 9.5%	1 4.8%	3 14.3%	0 0.0%	1 4.8%	1 4.8%	1 4.8%
	25～29歳	20	2 10.0%	12 60.0%	3 15.0%	6 30.0%	3 15.0%	4 20.0%	3 15.0%	0 0.0%	4 20.0%	1 5.0%	1 5.0%
	30～34歳	10	3 30.0%	5 50.0%	5 50.0%	3 30.0%	1 10.0%	1 10.0%	1 10.0%	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	35～39歳	4	0 0.0%	2 50.0%	1 25.0%	1 25.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%
	無回答	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
婚姻状況別	未婚	47	8 17.0%	22 46.8%	11 23.4%	17 36.2%	6 12.8%	7 14.9%	7 14.9%	0 0.0%	5 10.6%	2 4.3%	2 4.3%
	配偶者あり	7	2 28.6%	5 71.4%	3 42.9%	2 28.6%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	配偶者と死別	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	配偶者と離別(離婚)	1	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%
	無回答	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -

問47 将来、子育てをする上で不安なことは何ですか。(〇は3つまで)

子育てをするうえで不安なことについては、「仕事と子育ての両立が難しい」52.3%が最も高く、次いで「自分自身親として自信がない」22.2%、「子どもの病気や心身の発育・発達の遅れが気になる」、「子育てに追われて自分の時間がもてない」がいずれも20.3%となっている。

子育てをするうえで不安なこと



複数回答のため 合計は100%に ならない 上段: 回答者数 下段: 構成比 ■ 上位1項目		サ ン プ ル 数	親 の 協 力 が 得 ら れ な い	子 育 て の 両 立 が 難 し い	子 ど も の 病 気 や 心 身 の 発 達 の 遅 れ が 気 に な る	子 ど も の し つ け や 教 育 の 仕 方 が よ く わ か ら な い	少 子 ど も と ふ れ あ う 時 間 が な い	時 間 が も て な い	の あ い ど も を 通 じ て 近 所 づ き の 付 き 合 い が 負 担 に な る
今回調査		409	34 8.3%	214 52.3%	83 20.3%	67 16.4%	57 13.9%	83 20.3%	58 14.2%
性 別	男性	139	7 5.0%	63 45.3%	28 20.1%	24 17.3%	22 15.8%	21 15.1%	17 12.2%
	女性	268	27 10.1%	151 56.3%	55 20.5%	43 16.0%	35 13.1%	62 23.1%	41 15.3%
	その他	2	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無回答	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
年 齢 別	15～19歳	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	20～24歳	81	4 4.9%	41 50.6%	17 21.0%	19 23.5%	8 9.9%	9 11.1%	7 8.6%
	25～29歳	108	14 13.0%	56 51.9%	31 28.7%	15 13.9%	10 9.3%	29 26.9%	18 16.7%
	30～34歳	109	4 3.7%	59 54.1%	24 22.0%	26 23.9%	17 15.6%	29 26.6%	16 14.7%
	35～39歳	111	12 10.8%	58 52.3%	11 9.9%	7 6.3%	22 19.8%	16 14.4%	17 15.3%
	無回答	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
婚 姻 状 況 別	未婚	166	15 9.0%	83 50.0%	35 21.1%	28 16.9%	13 7.8%	28 16.9%	23 13.9%
	配偶者あり	225	17 7.6%	125 55.6%	45 20.0%	35 15.6%	40 17.8%	52 23.1%	33 14.7%
	配偶者と死別	3	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%
	配偶者と離別(離婚)	15	2 13.3%	5 33.3%	3 20.0%	3 20.0%	4 26.7%	3 20.0%	1 6.7%
	無回答	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -

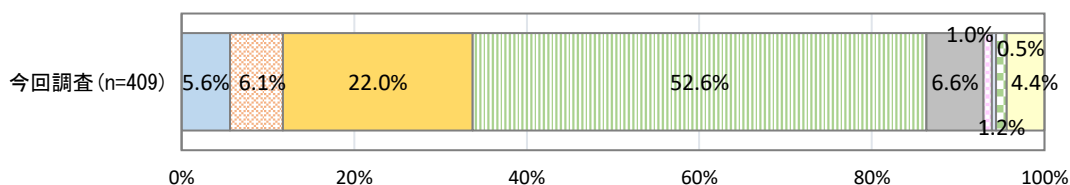
複数回答のため 合計は100%に ならない 上段: 回答者数 下段: 構成比 ■ 上位1項目		サ ン プ ル 数	導 子 ど も の 不 安 な 成 績 や 勉 強 の 指 導	な い 自 分 自 身 親 と し て 自 信 が	ど 自 分 自 身 の 体 力 や 健 康 な	相 悩 み を い 気 軽 に 相 談 で き る	的 子 に 育 て よ く と わ か ら な い の が 全 般	そ の 他	無 回 答
今回調査		409	44 10.8%	91 22.2%	40 9.8%	5 1.2%	34 8.3%	29 7.1%	25 6.1%
性 別	男性	139	20 14.4%	33 23.7%	11 7.9%	1 0.7%	16 11.5%	12 8.6%	10 7.2%
	女性	268	24 9.0%	58 21.6%	29 10.8%	4 1.5%	18 6.7%	16 6.0%	14 5.2%
	その他	2	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%
	無回答	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
年 齢 別	15～19歳	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	20～24歳	81	7 8.6%	23 28.4%	3 3.7%	2 2.5%	14 17.3%	6 7.4%	5 6.2%
	25～29歳	108	8 7.4%	29 26.9%	11 10.2%	2 1.9%	7 6.5%	5 4.6%	5 4.6%
	30～34歳	109	13 11.9%	25 22.9%	14 12.8%	0 0.0%	7 6.4%	5 4.6%	7 6.4%
	35～39歳	111	16 14.4%	14 12.6%	12 10.8%	1 0.9%	6 5.4%	13 11.7%	8 7.2%
	無回答	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
婚 姻 状 況 別	未婚	166	14 8.4%	58 34.9%	19 11.4%	3 1.8%	23 13.9%	8 4.8%	9 5.4%
	配偶者あり	225	28 12.4%	28 12.4%	16 7.1%	2 0.9%	10 4.4%	20 8.9%	15 6.7%
	配偶者と死別	3	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%
	配偶者と離別(離婚)	15	1 6.7%	4 26.7%	4 26.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.7%	1 6.7%
	無回答	0	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -

問48 あなたは、自分自身の仕事と結婚・子育てについて、どのような希望がありますか。
(○は1つ)

仕事と結婚・子育ての希望については、「子どもは持つが、子どもの成長に応じて働き方を変えていく」52.6%が最も高く、次いで「子どもは持つが、子どもの成長に関係なく働き続ける」22.0%、「子どもを持つことを機に、いったん退職するが、子どもの手が離れたら働く」6.6%となっている。

仕事と結婚・子育ての希望

- 結婚せず、子どもを持たず、働き続ける
- 子どもを持たないで働き続ける
- 子どもは持つが、子どもの成長に関係なく働き続ける
- 子どもは持つが、子どもの成長に応じて働き方を変えていく
- 子どもを持つことを機に、いったん退職するが、子どもの手が離れたら働く
- 子どもを持つたら退職し、育児に専念する
- 子どもの有無に関係なく、結婚後は働かない
- その他
- 無回答

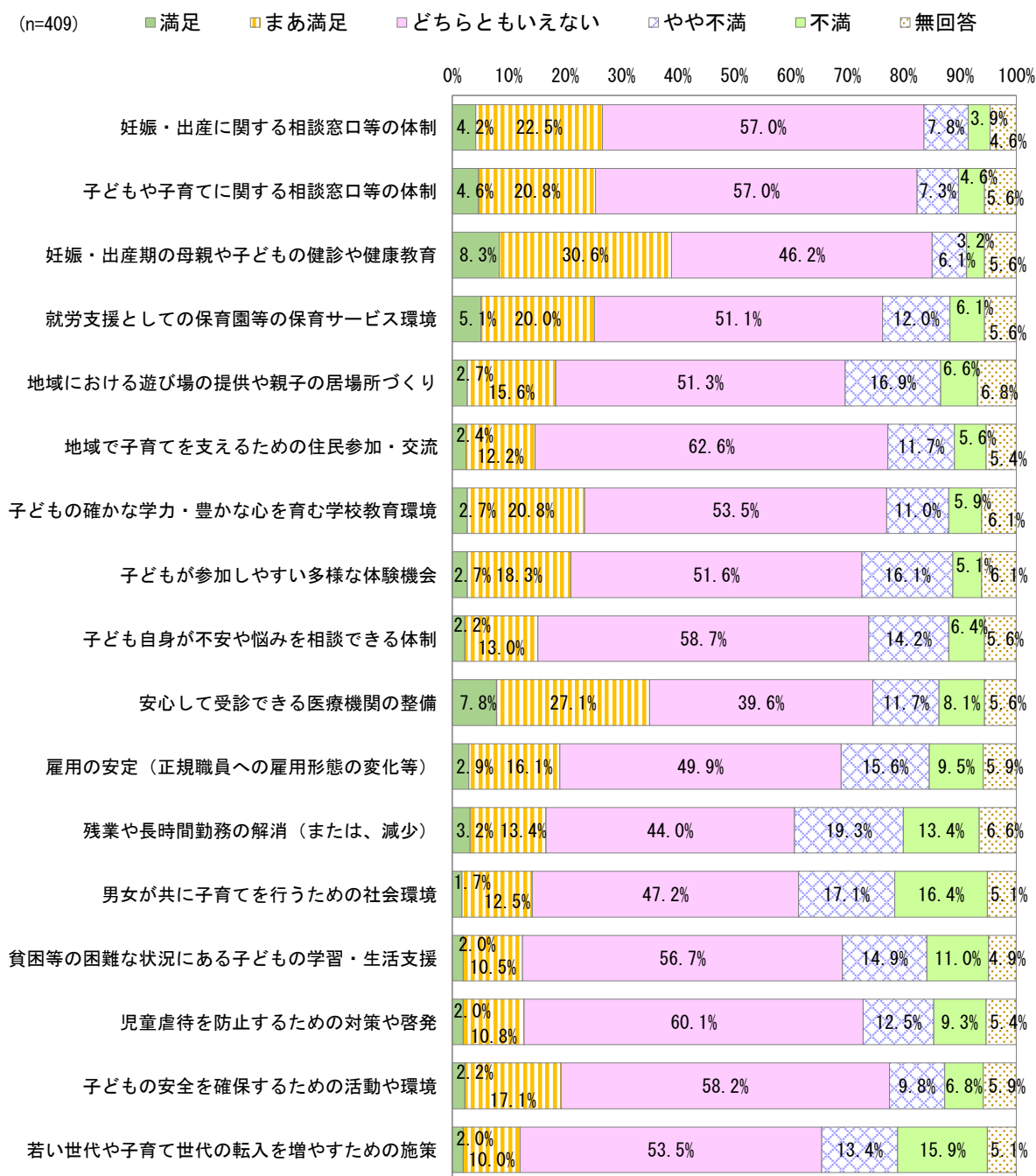


小数点第2位を四捨五入しているため、合計は100%と一致しない場合がある 上段: 回答者数 下段: 構成比 ■ 上位1項目		サンプル数	結婚せず、働き続ける	子どもを持たないで働き続ける	子どもは持つが、子どもの成長に関係なく働き続ける	子どもは持つが、子どもの成長に応じて働き方を変えていく	子どもを持つことを機に、いったん退職するが、子どもの手が離れたら働く	子どもを持つたら退職し、育児に専念する	子どもの有無に関係なく、結婚後は働かない	その他	無回答
今回調査		409	23	25	90	215	27	4	2	5	18
		100.0%	5.6%	6.1%	22.0%	52.6%	6.6%	1.0%	0.5%	1.2%	4.4%
性別	男性	139	11	10	59	49	0	0	0	4	6
		100.0%	7.9%	7.2%	42.4%	35.3%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	4.3%
	女性	268	11	15	31	165	27	4	2	1	12
		100.0%	4.1%	5.6%	11.6%	61.6%	10.1%	1.5%	0.7%	0.4%	4.5%
	その他	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0
		100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
年齢別	15～19歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	20～24歳	81	7	13	13	35	6	1	0	3	3
		100.0%	8.6%	16.0%	16.0%	43.2%	7.4%	1.2%	0.0%	3.7%	3.7%
	25～29歳	108	7	5	21	62	7	0	1	0	5
		100.0%	6.5%	4.6%	19.4%	57.4%	6.5%	0.0%	0.9%	0.0%	4.6%
	30～34歳	109	5	5	28	57	7	3	0	1	3
		100.0%	4.6%	4.6%	25.7%	52.3%	6.4%	2.8%	0.0%	0.9%	2.8%
35～39歳		111	4	2	28	61	7	0	1	1	7
		100.0%	3.6%	1.8%	25.2%	55.0%	6.3%	0.0%	0.9%	0.9%	6.3%
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
婚姻状況別	未婚	166	22	21	31	73	11	1	0	4	3
		100.0%	13.3%	12.7%	18.7%	44.0%	6.6%	0.6%	0.0%	2.4%	1.8%
	配偶者あり	225	0	4	52	136	13	3	2	1	14
		100.0%	0.0%	1.8%	23.1%	60.4%	5.8%	1.3%	0.9%	0.4%	6.2%
	配偶者と死別	3	0	0	1	1	1	0	0	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
配偶者と離別(離婚)		15	1	0	6	5	2	0	0	0	1
		100.0%	6.7%	0.0%	40.0%	33.3%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%
無回答		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

問49 あなたは、次の①～⑰の少子化対策や出産、子育てに関わる環境について、どれくらい満足していますか。(①～⑰についてそれぞれお答えください)

少子化対策や出産、子育てに関わる環境の満足度については、多くの項目で「どちらともいえない」が5割を超えている。『満足』（「満足」＋「まあ満足」）では「妊娠・出産期の母親や子どもの健診や健康教育」38.9%が最も高く、次いで「安心して受診できる医療機関の整備」34.9%となっている。一方、『不満』（「やや不満」＋「不満」）では「残業や長時間勤務の解消（または、減少）」32.7%が最も高くなっている。

少子化対策や出産、子育てに関わる環境の満足度



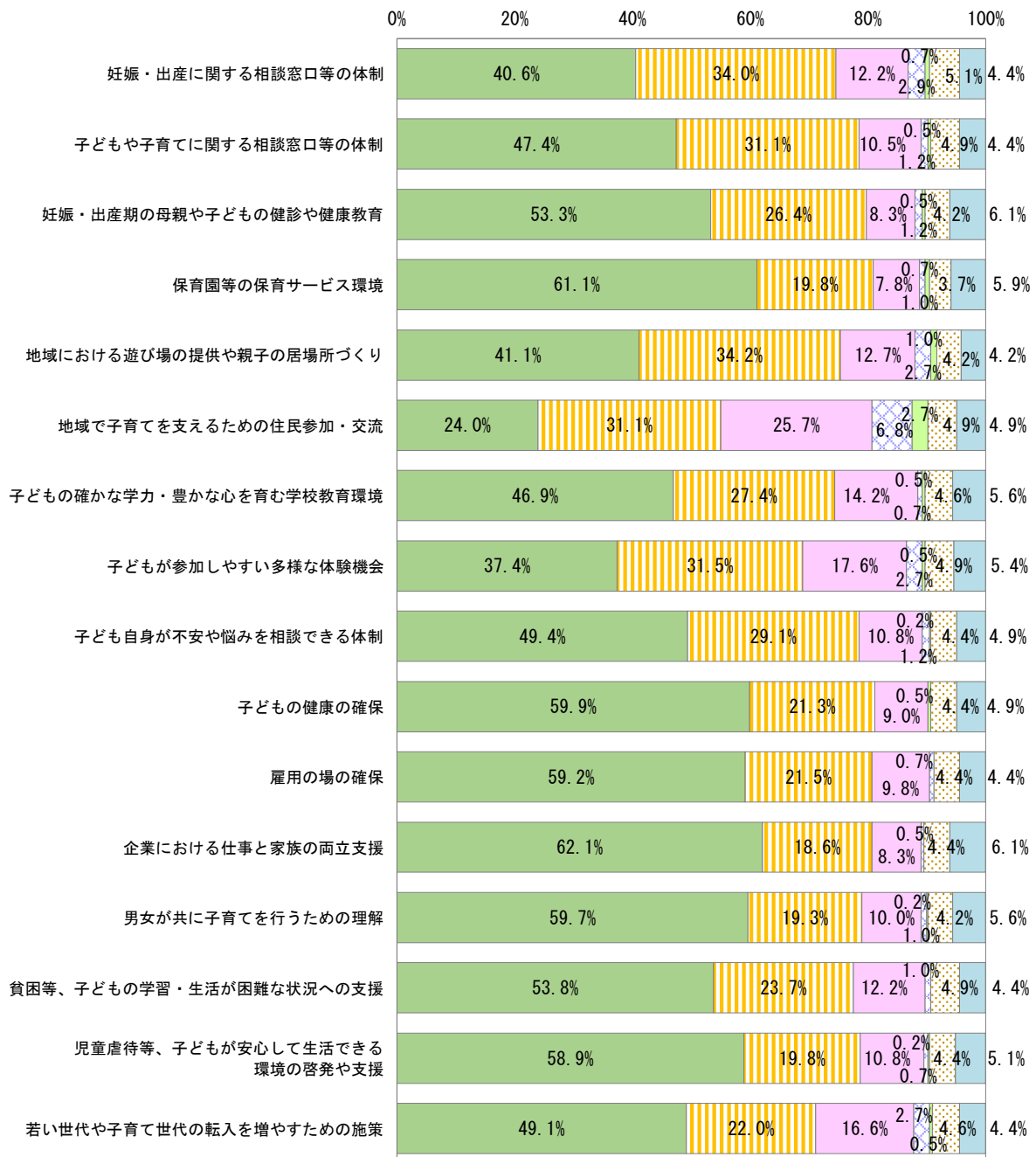
小数点第2位を 四捨五入しているため、 合計は100%と一致しない 場合がある 上段：回答者数 下段：構成比 ■ 上位1項目	サ ン プ ル 数	満 足	ま あ 満 足	ど ち ら と も い え な い	やや 不 満	不 満	無 回 答
妊娠・出産に関する相談窓口等の体制	409 100.0%	17 4.2%	92 22.5%	233 57.0%	32 7.8%	16 3.9%	19 4.6%
子どもや子育てに関する相談窓口等の体制	409 100.0%	19 4.6%	85 20.8%	233 57.0%	30 7.3%	19 4.6%	23 5.6%
妊娠・出産期の母親や子どもの健診や健康教育	409 100.0%	34 8.3%	125 30.6%	189 46.2%	25 6.1%	13 3.2%	23 5.6%
就労支援としての保育園等の保育サービス環境	409 100.0%	21 5.1%	82 20.0%	209 51.1%	49 12.0%	25 6.1%	23 5.6%
地域における遊び場の提供や親子の居場所づくり	409 100.0%	11 2.7%	64 15.6%	210 51.3%	69 16.9%	27 6.6%	28 6.8%
地域で子育てを支えるための住民参加・交流	409 100.0%	10 2.4%	50 12.2%	256 62.6%	48 11.7%	23 5.6%	22 5.4%
子どもの確かな学力・豊かな心を育む学校教育環境	409 100.0%	11 2.7%	85 20.8%	219 53.5%	45 11.0%	24 5.9%	25 6.1%
子どもが参加しやすい多様な体験機会	409 100.0%	11 2.7%	75 18.3%	211 51.6%	66 16.1%	21 5.1%	25 6.1%
子ども自身が不安や悩みを相談できる体制	409 100.0%	9 2.2%	53 13.0%	240 58.7%	58 14.2%	26 6.4%	23 5.6%
安心して受診できる医療機関の整備	409 100.0%	32 7.8%	111 27.1%	162 39.6%	48 11.7%	33 8.1%	23 5.6%
雇用の安定(正規職員への雇用形態の変化等)	409 100.0%	12 2.9%	66 16.1%	204 49.9%	64 15.6%	39 9.5%	24 5.9%
残業や長時間勤務の解消(または、減少)	409 100.0%	13 3.2%	55 13.4%	180 44.0%	79 19.3%	55 13.4%	27 6.6%
男女が共に子育てを行うための社会環境	409 100.0%	7 1.7%	51 12.5%	193 47.2%	70 17.1%	67 16.4%	21 5.1%
貧困等の困難な状況にある子どもの学習・生活支援	409 100.0%	8 2.0%	43 10.5%	232 56.7%	61 14.9%	45 11.0%	20 4.9%
児童虐待を防止するための対策や啓発	409 100.0%	8 2.0%	44 10.8%	246 60.1%	51 12.5%	38 9.3%	22 5.4%
子どもの安全を確保するための活動や環境	409 100.0%	9 2.2%	70 17.1%	238 58.2%	40 9.8%	28 6.8%	24 5.9%
若い世代や子育て世代の転入を増やすための施策	409 100.0%	8 2.0%	41 10.0%	219 53.5%	55 13.4%	65 15.9%	21 5.1%

問50 あなたは、次の①～⑯について、出産や子育てへの支援としてどのくらい重要だと思いますか。(①～⑯についてそれぞれお答えください)

出産や子育てへの支援としての重要度については、「地域で子育てを支えるための住民参加・交流」を除く全ての項目で『重要』（「重要」＋「まあ重要」）がいずれも7割を超えており、「子どもの健康の確保」は81.2%と最も高くなっている。一方、『重要でない』（「あまり重要でない」＋「重要でない」）では「地域で子育てを支えるための住民参加・交流」が最も高くなっている。

出産や子育てへの支援としての重要度

(n=409) ■重要 ■まあ重要 ■どちらともいえない ■あまり重要でない ■重要でない ■わからない ■無回答

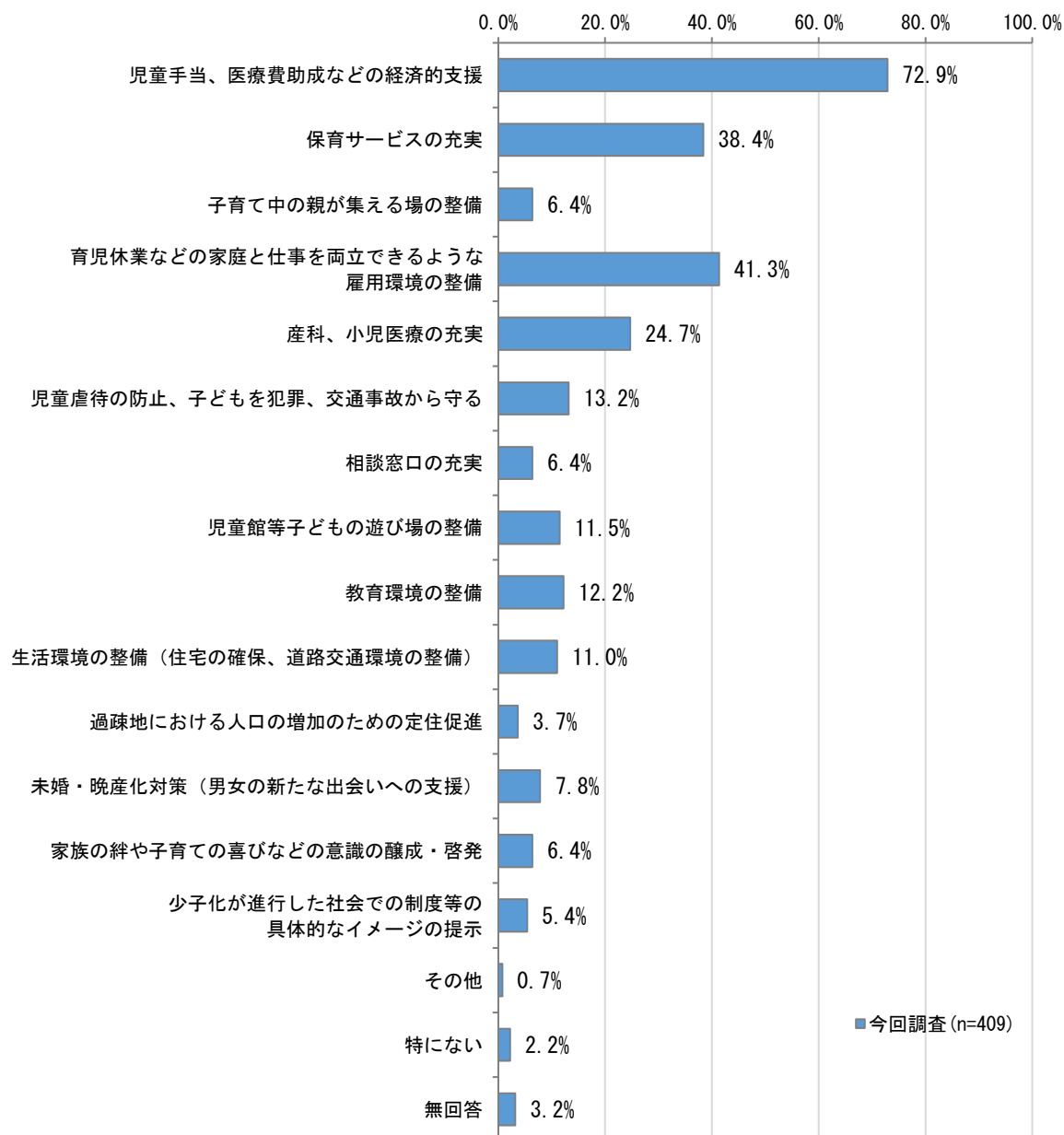


小数点第2位を 四捨五入しているため、 合計は100%と一致しない 場合がある 上段: 回答者数 下段: 構成比 ■ 上位1項目	サ ン プ ル 数	重 要	ま あ 重 要	ど ち ら と も い え な い	あ ま り 重 要 で な い	重 要 で な い	わ か ら な い	無 回 答
妊娠・出産に関する相談窓口等の体制	409 100.0%	166 40.6%	139 34.0%	50 12.2%	12 2.9%	3 0.7%	21 5.1%	18 4.4%
子どもや子育てに関する相談窓口等の体制	409 100.0%	194 47.4%	127 31.1%	43 10.5%	5 1.2%	2 0.5%	20 4.9%	18 4.4%
妊娠・出産期の母親や子どもの健診や健康教育	409 100.0%	218 53.3%	108 26.4%	34 8.3%	5 1.2%	2 0.5%	17 4.2%	25 6.1%
保育園等の保育サービス環境	409 100.0%	250 61.1%	81 19.8%	32 7.8%	4 1.0%	3 0.7%	15 3.7%	24 5.9%
地域における遊び場の提供や親子の居場所づくり	409 100.0%	168 41.1%	140 34.2%	52 12.7%	11 2.7%	4 1.0%	17 4.2%	17 4.2%
地域で子育てを支えるための住民参加・交流	409 100.0%	98 24.0%	127 31.1%	105 25.7%	28 6.8%	11 2.7%	20 4.9%	20 4.9%
子どもの確かな学力・豊かな心を育む学校教育環境	409 100.0%	192 46.9%	112 27.4%	58 14.2%	3 0.7%	2 0.5%	19 4.6%	23 5.6%
子どもが参加しやすい多様な体験機会	409 100.0%	153 37.4%	129 31.5%	72 17.6%	11 2.7%	2 0.5%	20 4.9%	22 5.4%
子ども自身が不安や悩みを相談できる体制	409 100.0%	202 49.4%	119 29.1%	44 10.8%	5 1.2%	1 0.2%	18 4.4%	20 4.9%
子どもの健康の確保	409 100.0%	245 59.9%	87 21.3%	37 9.0%	0 0.0%	2 0.5%	18 4.4%	20 4.9%
雇用の場の確保	409 100.0%	242 59.2%	88 21.5%	40 9.8%	3 0.7%	0 0.0%	18 4.4%	18 4.4%
企業における仕事と家族の両立支援	409 100.0%	254 62.1%	76 18.6%	34 8.3%	2 0.5%	0 0.0%	18 4.4%	25 6.1%
男女が共に子育てを行うための理解	409 100.0%	244 59.7%	79 19.3%	41 10.0%	4 1.0%	1 0.2%	17 4.2%	23 5.6%
貧困等、子どもの学習・生活が困難な状況への支援	409 100.0%	220 53.8%	97 23.7%	50 12.2%	4 1.0%	0 0.0%	20 4.9%	18 4.4%
児童虐待等、子どもが安心して生活できる環境の啓発や支援	409 100.0%	241 58.9%	81 19.8%	44 10.8%	3 0.7%	1 0.2%	18 4.4%	21 5.1%
若い世代や子育て世代の転入を増やすための施策	409 100.0%	201 49.1%	90 22.0%	68 16.6%	11 2.7%	2 0.5%	19 4.6%	18 4.4%

問51 あなたは、子どもを健やかに産み育てるためにどのようなことを期待しますか。
(〇は3つまで)

子どもを健やかに産み育てるために期待することについては、「児童手当、医療費助成などの経済的支援」72.9%が最も高く、次いで「育児休業などの家庭と仕事を両立できるような雇用環境の整備」41.3%、「保育サービスの充実」38.4%となっている。

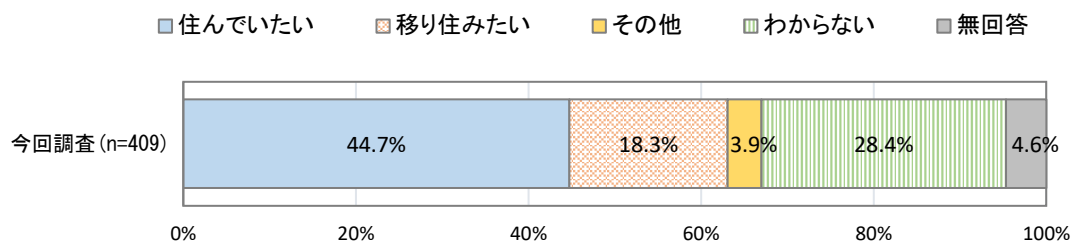
子どもを健やかに産み育てるために期待すること



問52 あなたは、将来も鹿屋市に住んでいたいと思いますか。(〇は1つ)

将来も鹿屋市に住みたいかについては、「住んでいたい」44.7%が最も高く、次いで「わからない」28.4%、「移り住みたい」18.3%となっている。

将来も鹿屋市に住みたいか



小数点第2位を 四捨五入している ため、合計は100% と一致しない場合 がある		サ ン プ ル 数	住 ん で い た い	移 り 住 み た い	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
上段：回答者数 下段：構成比							
■ 上位1項目							
今回調査		409 100.0%	183 44.7%	75 18.3%	16 3.9%	116 28.4%	19 4.6%
性 別	男性	139 100.0%	57 41.0%	29 20.9%	5 3.6%	39 28.1%	9 6.5%
	女性	268 100.0%	124 46.3%	46 17.2%	11 4.1%	77 28.7%	10 3.7%
	その他	2 100.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無回答	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
年 齢 別	15～19歳	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
	20～24歳	81 100.0%	29 35.8%	18 22.2%	3 3.7%	27 33.3%	4 4.9%
	25～29歳	108 100.0%	36 33.3%	27 25.0%	7 6.5%	32 29.6%	6 5.6%
	30～34歳	109 100.0%	55 50.5%	18 16.5%	4 3.7%	28 25.7%	4 3.7%
	35～39歳	111 100.0%	63 56.8%	12 10.8%	2 1.8%	29 26.1%	5 4.5%
	無回答	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -
婚 姻 状 況 別	未婚	166 100.0%	55 33.1%	37 22.3%	8 4.8%	59 35.5%	7 4.2%
	配偶者あり	225 100.0%	117 52.0%	36 16.0%	7 3.1%	54 24.0%	11 4.9%
	配偶者と死別	3 100.0%	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	配偶者と離別（離婚）	15 100.0%	8 53.3%	2 13.3%	1 6.7%	3 20.0%	1 6.7%
	無回答	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -	0 -

問53 最後に、鹿屋市の結婚、妊娠、子育て、青少年や若者に対する施策などについてご意見等がありましたらご自由にお書きください。

寄せられたご意見を下記に掲載した。

- 不妊治療助成金 10 万円まで、本当に助かります。回数制限は増やしてほしい。現 5 回→10 回とか。若い人たちがもっと生活が楽になるような制度をつくってほしい。
- 出産、結婚するにあたって、費用面がとても心配で踏み切れなくなる人もいるので、給付制度をもっと充実してほしい。
- どの地域でも、経済を回していくのは子育て世代だと思っています。親は子どものためであれば、お金も体力も使います。物価高や増税によって、国に対する不信感ばかり募っている今、子育て世代がエネルギーを失っていく市町村から廃れていくと考えます。鹿屋市も外国人が増えました。市内にとどまる若者が少なければ仕方のないことかもしれません。でも、外国人が住みやすい町よりも、鹿屋市の子ども達（子育て世代）が住みやすい町を一番に目指して欲しいです。
- 幼児の保育施設の給食費の助成や医療費を一旦立て替えずに受診できるなど、県内の他市町村でされていることが鹿屋市でされていないことが少し残念です。鹿屋は好きなところなので、胸を張ってまわりにおすすめできる町になってほしいと思います。
- イオンモールみたいな大型ショッピングセンターを作してほしい。リナシティは買い物できないただの施設だと思う。
- 習い事や趣味。興味、関心と今後の進路。スマートフォン（デジタル機器類）普及。
- 生活保護などにお金を使いすぎている。見直しをした方が良い。0～18 歳までの育児、子育てはお金の負担が大きいので、負担を減らせるような取組みをしてほしい。収入が多い人と少ない人は生活しやすい状況だが、中間層の方は税金なども多く生活が苦しい。貧困層や一人親への給付ばかりありすぎる。共働きが多い中で、保育園や学童が少ない。預かる時間も 18 時まででは短い。送り迎えに間に合わない。これからの未来のために真剣に少子化対策に取り組んでください。こんな住みづらい世の中では、子どもを産んで育てていくなんて難しいことに気付いてください。
- 働ける場所と預けられる場所の確保が同時に整えられる環境を作してほしい。母子、父子に優しい制度が増えてほしい。手当等の制度も手厚く、無駄な税金の使い方をしないで有効にお願いいたします。
- 仕事がしたくても子どもが体調不良の時に預けられる所が一箇所しかないため、困っています。病児保育を増やしてほしいです。鹿屋は大きな市なのに、一箇所は少ないです。都城市は病児の助成もあるようです。近い市なのでいろいろ参考にされたいかがでしょうか。
- 子育て中ですが、保育園利用の短時間、標準時間を標準時間のみにしてほしい。急な残業で延長料金が発生する場合がある。残業を断りづらい時もある。療育利用となるが、手続き後家族に丸投げすぎて仕事しながら相談員さん、事業所探しと大変である。その場合の相談できる場所がほしい。物価高等で子育て、育休期間中の金銭面の心配がある。オムツも 1 袋 1000 円超えているので、オムツ券の見直しをしてほしい。

- おむつ助成券があるように、ミルク助成券もあったら助かる。国保の人も出産手当のようなものが少しでもあればよいと思う。
- もっと都会になって欲しい。
- 私は高校卒業後は県外の専門学校に行ってから、鹿屋にまた戻ってこようと考えている。そこで自分の店を出したり、地域の活動などのお手伝いをしたいと考えている。学校の授業で過疎化の話を聞いてから、この町をよりよくしていきたいと考えた。リナシティ辺りに店を出したい。リナシティや迎町の街並みが好きで、ずっと思っていた。最近、バスのことについて考えている。市内にはバス、市電、電車があって、利用者が多い。鹿屋が少ない理由は何だろうとか友達に聞いたりすると、お金が掛かるからと言われた。自分が店を出した時にバスを使ってきた人にはサービスをするとかで、バスの利用率を上げられるのかなと考えている。向江町の雰囲気が好きだから、写真を撮る場所にしたりとか。向江町の空いている建物を使って、遊び場（ゲームセンター、本屋、ショッピング等）を作る。
- 市の取り組んでいることがよく分からない（情報が入らない事と、私が知ろうとしていないため）。
- 虐待等がある保育園があるので、市役所が見回るべきである。一時的な見回りではなく、きちんとすべきである。
- 他市町村と比べて、鹿屋市の施策は遅いと思う。鹿屋市の充実度が低いとよく聞くので、このまま住み続けていくのは不安です。
- 保育園、学校とサポートが弱いと感じます。共働きが普通になっているうえで、サポートが少ない、税金だけ高く徴収されており何に使われているかわからない。移住してきたが、補助金も無く子育て世代には向かない地域かと思う。
- 医療費を無償化してほしい手当も増やしてほしい。
- 私は串良小学校地区に住んでいます、学校に通わせることにとても安心感があります。子供も学校が好きで元気に通ってくれています、先生方もとてもよく親切に接してくれます。ただ出産に関しては仕事との両立(子供の病気など)が大変だと感じています。あと近隣と比べ鹿屋は支援が少ないと感じることもあります。
- もっと子供が遊べる施設を作ってほしい。有料でもいいので。
- 結婚、妊娠、子育てだけに限らず色々な制度等を用意しているにも関わらず、わたしたち市民から、このような制度があるとお伺いしたのですが、等と問い掛けなければ、市からの制度を知らされない。いくら良い制度を用意していても、市民が知らなければ意味がないのに、知らせてくれない。
- 子供のいる家庭への補助金や支援金をもっと拡充してほしい。希望する保育園や幼稚園にスムーズに入園できる体制を整えてほしい。一歳までオムツにかかる費用を無料化してほしい（明石市を参照）産婦人科を増やしてほしい。保育料無料化（都城市は出来ているのに、鹿屋市は無理なの？）子供や若者の遊び場を確保してほしい。
- 鹿屋にもっと出会いの場がほしい。

- 鹿屋市の市長や議員と、若者自身や子育てに携わる人達と語り合える機会があれば良いのではないのでしょうか？保育園等でも意見を聞いてみると見えてくるものがある気がします。
- 低所得者、非課税世帯への支援は多くありますが、子育て世帯を応援する施策が少ないように感じています。一定以上の所得がある世帯は、先を考えて子どもを産まない、生活能力が低い世帯が安易な考えで多くの子を産み、生まれた子どもが貧しい思いをするというような社会構造になってしまっているように感じます。施策では、保育料の無償化が政治をアピールする道具の様に各自治体で行われていますが、保育園の利用も保護者の自由な選択によるものであり不公平感を感じています。理想の子どもの数を保護者が選択する形で産み育てられる施策として、児童手当の様な形式の子ども一人あたりいくらというような給付を望みます。
- 鹿屋市は賃金が低いので結婚しても子供を育てていける安定した雇用環境、賃金を上げて頂くことが、若者が離れていかない対策になるのではないかと思います。出会いを求めている方もいると思うので積極的に婚活イベントも開催して、出会いの場もあるといいのかなと思います。
- 発達障害を抱える子供たちが通える、学習支援・指導してくれる場所があってくれたら、と常々思っています。
- 子育てや出産育児の支援制度がイマイチ分からないので細かく SNS 等で分かりやすく説明して欲しいです。
- 企業や町の発展、若者が仕事や暮らしに不満を持たない街づくり今の鹿屋市で仕事をしてても賃金が低ければ発展は無い若者は離れていくばかり、また若者が遊べる場所も少ないので鹿屋にいるメリットは正直ないし他県からわざわざ来ようとも思わない。
- 0～2歳児の保育料無償化を実施して欲しいです。
- 人口の割に保育園の数が少なく、どこもいっぱい入れない。子供を預けなきゃ仕事も出来ない。人口の割に対策が間に合って無さすぎる。
- 子どもが放課後集まれる施設があると嬉しかったです。私自身家に居場所がなかったの
- 出会いの場の推進産婦人科等の推進。
- 小学校の施設整備を早急にお願いしたい。トイレを洋式に。
- 鹿屋市が独自にしている施策についてまだまだ知らないことが沢山あります。ただよく目にするのは鹿屋市は子供が育てやすい町というものです。確かに子供たちが遊べる健康センターの「あそびば」はとても良いと思います。なので育てやすいのかもなとは思いますが。今は未婚ですが、将来お世話になる機会があったら相談してみようと思います。
- 今後鹿屋市で子育てしていく中で、休日家族で遊びに行けるような施設やイベントがあると嬉しいです。
- 鹿屋市はお金がない他の町や市に比べたら支援金が足りないと思う。
- 婚活費用補助など、結局給料が少ないからから婚活費用に回す分がない。

- 結婚、妊娠、子育てへの経済的不安が大きすぎる。
- 移住者です。自然がたくさんで天気の良い日は子どもがのびのび遊べる公園等が多く助かります。一方、子連れで雨の日に出かけるのが大変です。屋根付きの駐車場が併設したショッピングモール等の施設が欲しいです。そういうところで、自然以外からも人工的な季節の装飾等を見て子どもの視覚的刺激を養いたい、たくさんの選択肢を増やしてあげたいです。休日はいつも鹿児島市内の方へ出掛けてしまい、この街でお金を使おうという気持ちになりません。
- 子供を沢山育てても、教育費などで苦労しない安定した教育を受けれる環境を作って欲しいです。
- 屋外、屋内ともに子どもが遊べる場所、施設等がたくさんあればいいなと思う。
- 転勤などで周りに親族や知人がいない人へのサポートをしてほしいです。
- 学童の数を増やして欲しい小学校の校区にいて、遠いところが多い。通学路の整備等が必要。
- 妊娠を希望する方への対応を分かりやすく掲示して欲しい。
- 大阪から鹿屋市に引っ越してきてまだ間もないので、保育所の待機児童等の問題はわかりませんが、少子高齢化が進んできているにも関わらず妊娠出産・子供の遊び場が少なく他県他市に比べて劣っていると思います。イオン等もなく歩道もなかったり、あっても街灯がなく夜は真っ暗が当たり前で草が生い茂っていて歩くにも大変だったり。今のところ「鹿屋市で産みたい」という鹿屋市独自の魅力的な理由がまだ見つけれません。アカチャンホンポやトイザラスもなく、子供用おもちゃ等を買える場所が少ない。東京のように出産応援ギフトなどあれば産む人も増えるのではないのでしょうか？鹿屋市はどこにお金をかけているのか、全くわかりません。
- 少子化が問題になっているが、物価の高騰や基本給が少し上がっても税金に引かれ給料が上がっても手取りがむしろ下がっている。生活水準が潤えば心の余裕もあり、子育てに対する気持ちも十分に注げると思うが、今のままでは、子どもを産んでも貧しい暮らししか出来ない為子どもを産む方は少ないと思う。鹿屋市もオムツ券等あるが12枚では足りない。オムツは毎日使うもので1ヶ月に最低でもオムツ券を2枚は使う。子育てするにはお金がかかるから未満児も保育料無償化にして欲しい。仕事も子育てもしては体が持たないのが実態。子どもとの時間も大切にしないとただ育つだけになる。色んなことを伝えて教えていきたくても仕事もフルで働いては関わりが少ない。時短勤務にしても、給料が少ないのに社会保険等引かれパートの人より少ないことに不満を感じる。そういうところも改善して欲しいです。
- こどもが働きたいと思う企業の誘致。
- 保育料全年齢無償化を希望したい。
- 不妊治療の助成金はまだ足りないと思います。また他の自治体の子育て支援をうらやましく思います。若者の流出を防ぐためにも、魅力ある街づくりに予算をもっと割いてください。(買い物のも都城市、霧島市、姶良市に行きますが、鹿屋市にももっと買い物できる施設があればと願います)。

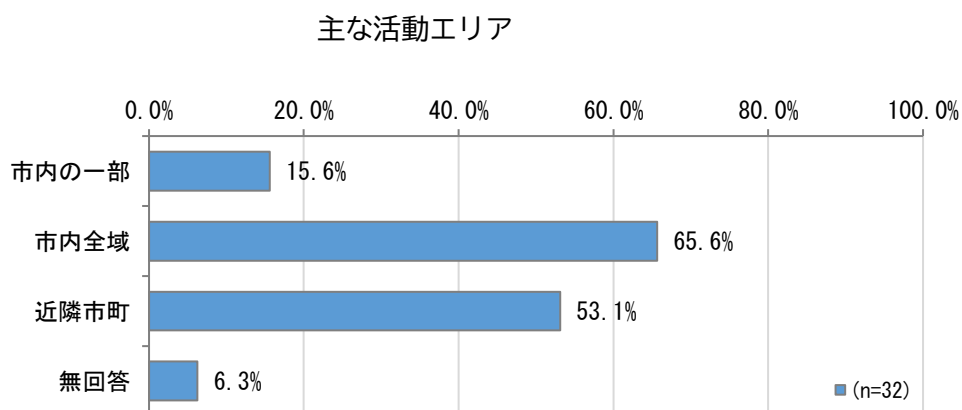
- 乳幼児健診の時間帯や対応の仕方、迅速さなどに課題があると思います。小さい子が長時間、子ども2人のお母さんなど、顔が疲弊しています。ぜひ見に行かれてください。子どもの医療の窓口負担「0」にしてほしいです。1度、2か月後に振り込まれる額に誤りがありました。振込手数料、煩雑さも窓口負担がなくなること改善されるのでは？1号認定での年少（満3歳クラス）の預かり保育料の補助、及び3歳未満児の家庭保育の預かり料の補助があれば助かります。
- 子供の医療費の支払いを医療機関でなくていいようにしてほしい。
- もっと僕たち若者が受け取れるお金の事や特別なサービスなどをしっかりと教えてほしい。ただでさえ安い給料なのに、物価は上がるし、色々と高くて苦しい生活を送っているのもっと生活にゆとりを持てるようなサービスを教えてほしいです。お願いします。
- 産科が少ないと思う。
- 「あそVIVA!」の利用をしたことがあるのですが、事前に登録や予約が必要など、小さな子どもがいる世帯にとって、とても使い勝手が悪いと思います。大型遊具も3歳以上と設けていますが、兄弟で利用するときなど、上の子ばかりトランポリンや大型遊具で遊んで、3歳未満の子どもがそれを見て泣いてしまい大変です。安全面での事なのでしょうが、もう少し自由に遊べる様にして欲しいです。行きたいときに行けて、全員が楽しめるようにしてください。

VIII 調査結果（事業所）

1. 事業所概要

①主な活動エリア（複数回答）

主な活動エリアについては、「市内全域」65.6%が最も高く、次いで「近隣市町」53.1%、「市内の一部」15.6%となっている。



【市内の一部】具体的エリア

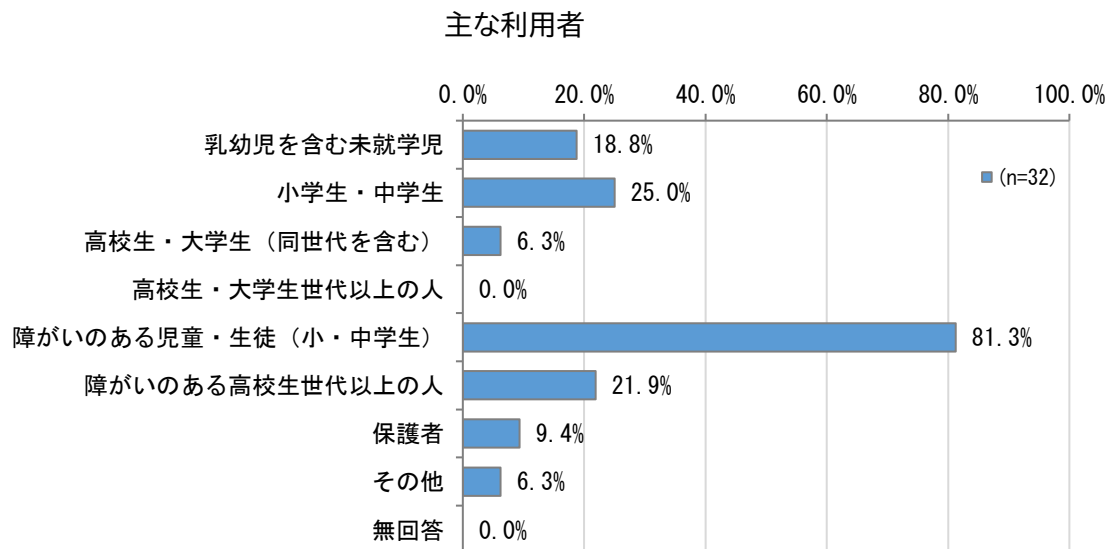
西原・大始良・花岡・寿
送迎時間の許す範囲
送迎の可能な範囲
鹿屋市内(旧輝北町を除く)
寿、上小原、串良、祓川

【近隣市町】具体的エリア

大崎町・志布志
鹿屋市に近い市町村
肝付町(旧高水)、東串良
移動時間を考慮した、社会資源
垂水・東串良
大崎町
大隅半島、霧島市、始良市
肝付町(旧内之浦町を除く)
志布志、垂水、大崎、東串良、錦江、南大隅
垂水市、南大隅町、肝付町、東串良町、大崎町
肝付町
肝付町、東串良町
鹿屋市、東串良町

②主な利用者（複数回答）

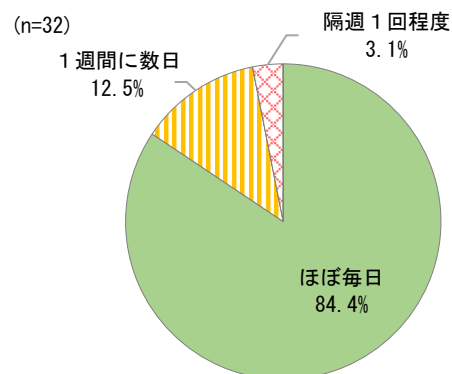
主な利用者については、「障がいのある児童・生徒（小・中学生）」81.3%が最も高く、次いで「小学生・中学生」25.0%、「障がいのある高校生世代以上の人」21.9%となっている。



その他回答
障がいのある未就学児
障がいのある未就学児、高校生

③活動頻度（複数回答）

活動頻度については、「ほぼ毎日」84.4%が最も高く、次いで「活動頻度」12.5%、「隔週1回程度」3.1%となっている。



④活動内容（自由回答）

No.	回答内容
1	放課後等デイサービス。
2	普段の生活に必要な日常的なことはもちろん、施設内活動等様々な体験や自然に触れ合うことによって、自信や経験を重ね今を大切に子どもたちが笑顔の溢れる楽しい活動。
3	■児童発達支援事業所あのね ・個別支援(年長組) (あいうえおの練習・書き方、数字の練習、書き方、製作、点線なぞり等) ・小集団レク (ルールのあるゲーム・リトミック、運動遊び、音楽遊び、買い物訓練、調理活動) ・外出活動 (ハイキング、海水浴、公園遊び、自然の家活動参加、ボルタリング) ■放課後等デイサービスおすみ Kids ・個別支援(学習・音読・製作・書道教室・お話の時間) ・小集団レク (運動・バスケ・水泳・野球・ルールのあるゲーム) ・外出活動 (魚釣り体験・公園遊び・登山・自然の家での活動参加・ボルタリング)
4	利用児の特性をふまえた、5領域全般の活動。
5	毎月、第2、第4金曜日に市立図書館の絵本コーナーにて絵本を読んだり、わらべ歌遊びをしています。
6	10分集中、10分トランポリンなどを通して、楽しみながら自分の五感に刺激を与えたり、「できる」という喜びを感じたりしてもらっています。
7	柔道を通した自立支援。
8	障害のある児童・生徒の療育・不登校児童の支援。
9	英語療養(Zoomレッスン)、トランポリン。
10	不登校児童生徒および保護者に対する相談、学習支援など。
11	市内各小中学校通学路の巡回指導、教育相談事業。
12	小集団療育・個別療育(ST言語聴覚士・保育士・心理士)。
13	クラシックバレエ・クッキング・動物の世話・戸外遊び・運動・カラオケ・外出・絵画・造形。
14	通所支援未来所・福祉型短期入所。
15	放課後等の療育活動。
16	障がいのある児童、生徒の療育。
17	児童の養育、保護者生活援助、地域福祉活動、安全防災活動。
18	運動、ソーシャルスキル、その他5領域に合わせた支援。
19	児童発達支援、放課後等デイサービス。
20	月の製作、運動遊び、集団ゲーム、リトミック等。
21	遊びを通して生きる力を身につける。(小集団での遊び、自転車、動物とのふれあい、公園施設での遊び)
22	小1～高3までの利用者様の支援。
23	発達障がいがある子どもたちへの支援。
24	放課後等デイサービス、生活介護。
25	放課後等に障害児への療育(遊び学びSST等を行なう)。

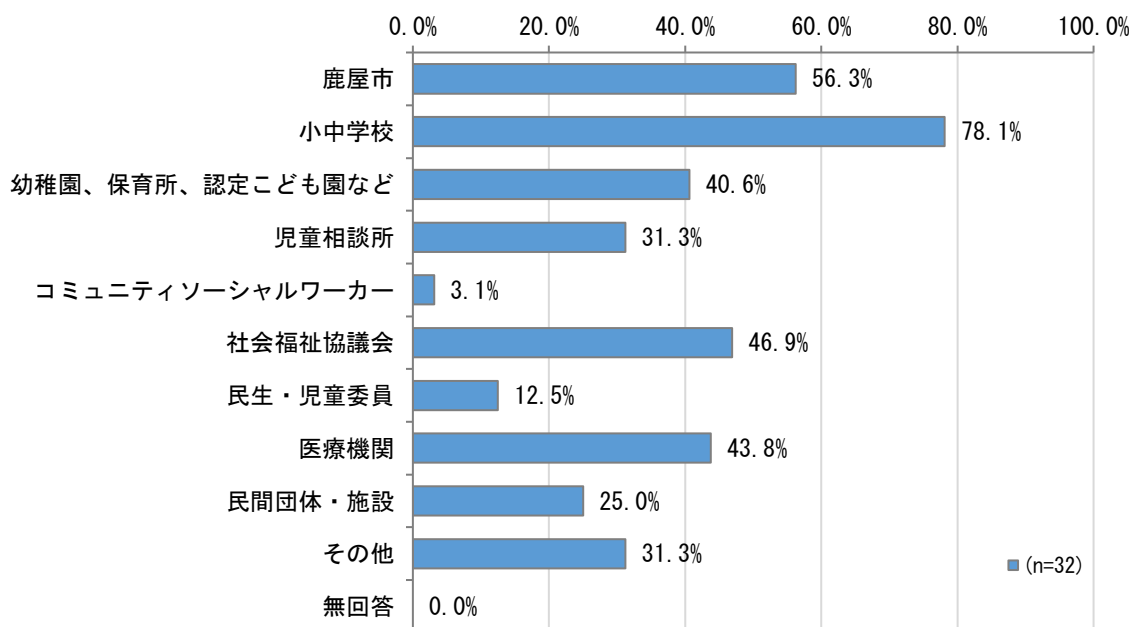
⑤団体・組織を立ち上げた経緯（自由回答）

No.	回答内容
1	児童養護施設大隅学舎で20数年勤務してきた中で、多様化する子どもたちともしっかりと個別に関わり、落ち着いた雰囲気の中で活動をしたり、話をしたりと、じっくりと関わる場所や時間をもっと違った形でできないかと思ったことがきっかけです。またその中で家族の背景を見ることができ、家族支援も必要不可欠であり、母親支援、兄妹支援など家族全体をトータルで支えていかなければならないと感じることが多くあった為、大隅学舎の理念と同じく「子ども」「家庭」「地域」を柱に何とか事業所ができること、困っている所に手を差し伸べる、学校との連携、保育園や幼稚園との連携を行いながら、タイムリーに相談などができる環境設定をしていくことが必要であると、事業所を立ち上げました。
2	地域にニーズがあったため。
3	人員増加
4	昭和60年に図書館から読み聞かせの依頼があり、それから今日まで続いています。
5	利用人数増加。
6	障害があってもなくても、自分に誇りを持ち、自分を好きになり、みんなに愛される存在であると感じられるような生活をしてもらいたいという思いから立ち上げました。
7	自信の生活の安定のため。
8	鹿児島県発達障害地域支援専門員に任命されたことがきっかけ。
9	それぞれの特性やお困り感から、怒られたり注意されることも多い子どもたちが、楽しみながら習得したことで周りを驚かせ、褒められる！他にはない学びと自己肯定感の形成をお伝えしたいという思い、子どもたちの未来を明るくしたいという思いがあります。
10	不登校児童生徒が、学校以外に通える場所として、平成20年度より設置。主に相談や学習支援を行っている。
11	S60年、県・市の情勢から設立。
12	1人の子どもを自立した人間として、さらには自由な社会を担っていくことができる人間として育てる。社会的な評価で自分を測るのではなく、自分で測る基準となる軸を自分の中に持つ子どもを育てる。
13	大隅半島では、重度の障がい児の支援がない。子ども達のショートステイがない(医ケア児)。
14	家庭で養育できない乳幼児を児童相談所経由でお預かりし、24時間365日完全体制で養育する児童福祉施設。看護師・保育士・栄養士・ソーシャルワーカー・心理職などがチームで養育を行い、児相や市町村、医療機関等との連携で家庭、里親、児童養護施設につなぐ役割。
15	震災孤児支援。
16	平成7年心身障害児小規模通園事業として鹿屋市より委託を受けスタートし、現在に至る。
17	1人の子どもを自立した人間としてさらには自由な社会を担っていくことができる人間として育てることを目的としている。
18	前勤務先での経営陣との価値観の相違。
19	身近に発達障がいがある子どもたちがおり、療育へ通いたいと声を聞き、開設しました。

2. 事業所の活動状況について

問1 現在、連携をしている機関はありますか。（複数回答）

現在連携をしている機関については、「小中学校」78.1%が最も高く、次いで「鹿屋市」56.3%、「社会福祉協議会」46.9%となっている。



【鹿屋市】連携部署名

子育て支援課
福祉政策課
保健福祉課
子育て支援
教育委員会
地域活力推進課
教育委員会、子ども家庭課、福祉、健康推進
子ども家庭課・子育て支援課
子ども家庭課
福祉課
保健福祉部

その他回答

相談支援事業所
子育てサークル
市相談員
警察、ハローワーク、保護同会
障がい者施設
相談事業所
他放デイ
警察
特別支援学校

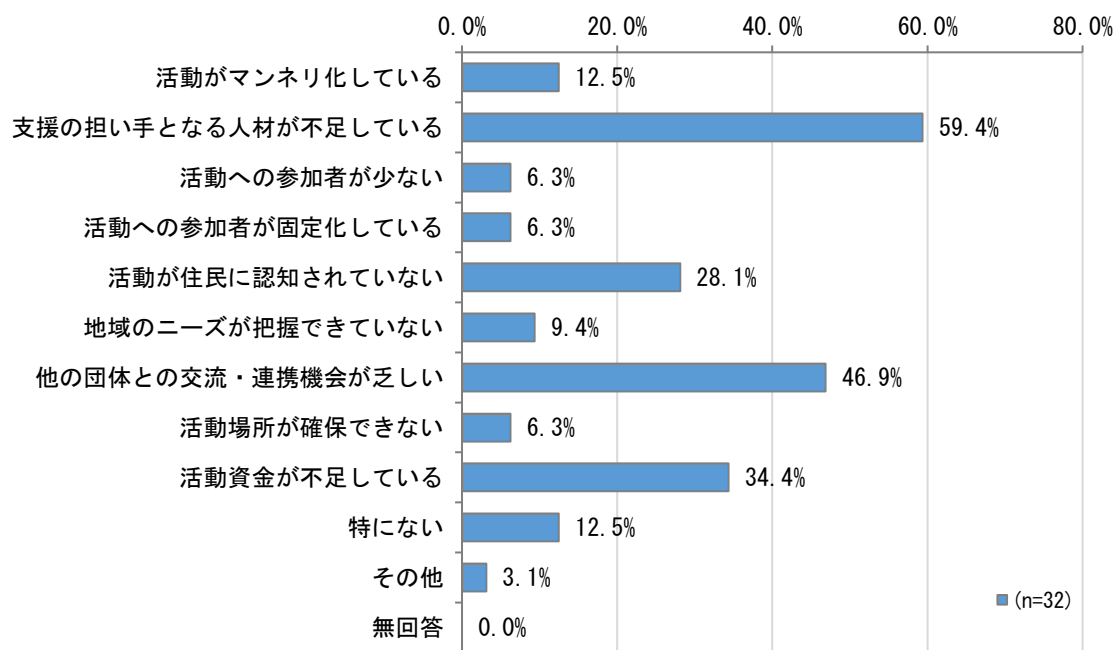
【民間団体・施設】名称

放課後等デイサービス 笑光
ヒューマンルーツ
大隅学舎、つながりパーソナルサービスセンター
家庭支援センターつながり
相談支援事業所
大隅学舎
ドルフィン
こはる日和

問2 現在、活動している中で困っていることを教えてください。（複数回答）

活動している中で困っていることについては、「支援の担い手となる人材が不足している」59.4%が最も高く、次いで「他の団体との交流・連携機会が乏しい」46.9%、「活動資金が不足している」34.4%となっている。

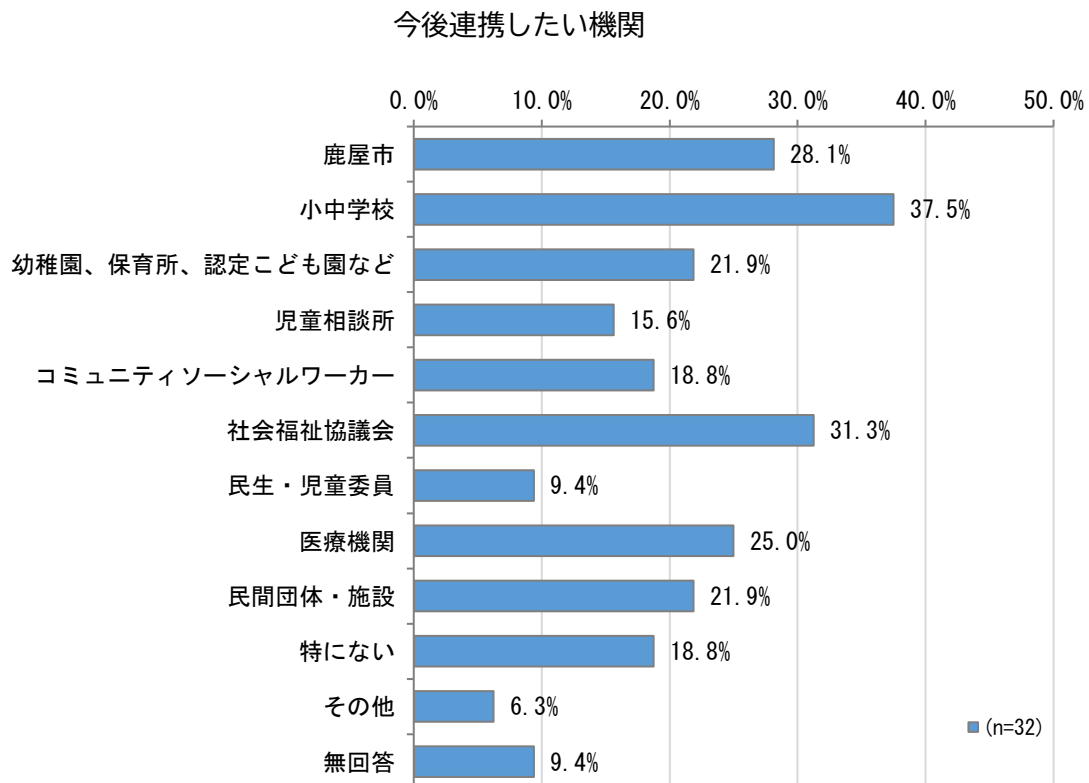
活動している中で困っていること



その他回答
人材の悩み

問3 今後、連携したい機関はありますか。（複数回答）

今後連携したい機関については、「小中学校」37.5%が最も高く、次いで「社会福祉協議会」31.3%、「鹿屋市」28.1%となっている。



【鹿屋市】連携部署名
子育て支援課
学校など、福祉課、地域課など
連携できる部署すべて
子育て支援課・学校教育課
子ども家庭課・子育て支援課
福祉政策課
保健福祉部

【民間団体・施設】名称
警察
フリースクールなど
放デイ
大隅学舎
老人ホーム、福祉施設
就労継続支援事業所

その他回答
警察
地域

問4 連携したい理由を教えてください。（自由回答）

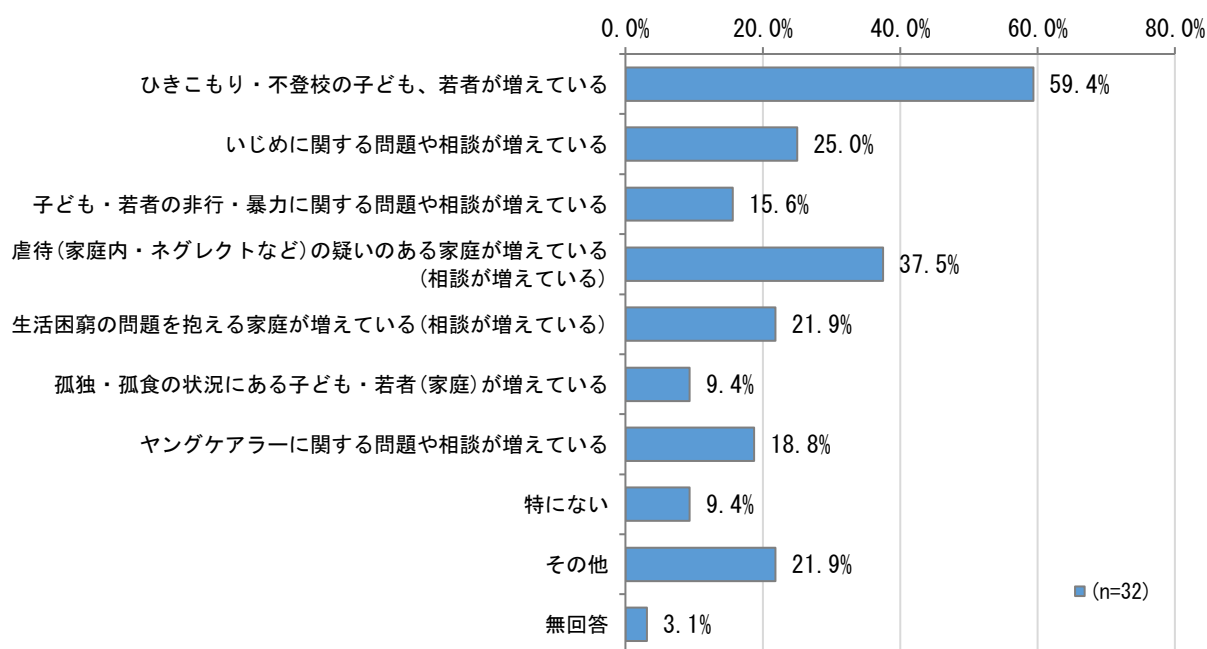
連携したい理由については以下 18 件の回答が得られた。

No.	回答内容	連携機関
1	活動中に利用者様がケガなどがあつた際に対応して頂くため。	医療
2	学校での様子等、事業所ではわからない(見えない)部分を知る機会がほしい。	各学校
3	子どもをとりまく情報(SNS)で自殺などがいるので、情報がほしい(何とか食い止めたい)。	警察
4	情報量がある、法的な知識がある(提出できる情報が限られるが)。	警察
5	インクルーシブに配慮する。環境を整えるために。	鹿屋市子育て支援課・学校教
6	他事業所などの連携・交流。	社会福祉協議会
7	就労準備型放課後等デイサービスなので、児童生徒、主に高校生には就労について考え、知り、体験をしていく経験を得るため。	就労継続支援事業所
8	利用児童の学校での様子を知りたい。情報共有したい。	小学校
9	小学校との連携時間が少ない。	小中学
10	地域交流として関わり、利用者のことを知ってもらって少しでも共存できる社会になってほしい。	小中学校
11	サービス提供の質の向上。	地域
12	色んな機関だけではなく共通のお子様への支援が実施できるように連携を積極的に行っていきたい。	放デイ
13	地域の中で、発達に障がいのある児の情報など共有できると良い。	民生・児童委員
14	在園時の様子や支援方法、取り組みなどの情報共有を詳しく行いたい。	幼稚園・保育所・認定こども園など
15	活動の中に外部とのコミュニケーションをとり、お互いの価値観や考えを知り交流することで、精神的な満足感や安心感を得られるのではないかなと思う為。	老人ホーム、福祉施設
16	学校との連携は重要であると考えます。	小学校
17	療育中やショートステイ、オンライン相談の対応について、相談がスムーズにできるようになるとよい。	医療
18	利用者様が虐待の疑い等あつた際に相談するため。	児童相談所

問5 活動をされていて、子ども・若者の課題としてどのようなことがみられますか。（複数回答）

子ども・若者の課題については、「ひきこもり・不登校の子ども、若者が増えている」59.4%が最も高く、次いで「虐待（家庭内・ネグレクトなど）の疑いのある家庭が増えている（相談が増えている）」37.5%、「いじめに関する問題や相談が増えている」25.0%となっている。

子ども・若者の課題



その他回答
自殺
家族での躾や言葉の使い方の教育が薄れていることが多い
学校や教員との不適応
サービス利用幅が少ない、特別支援学校への送り、保護者
ネット依存による影響
不安やストレスを抱える子どもが多い
障がい児に対する理解

問6 上記の具体例などについて記入してください。（自由回答）

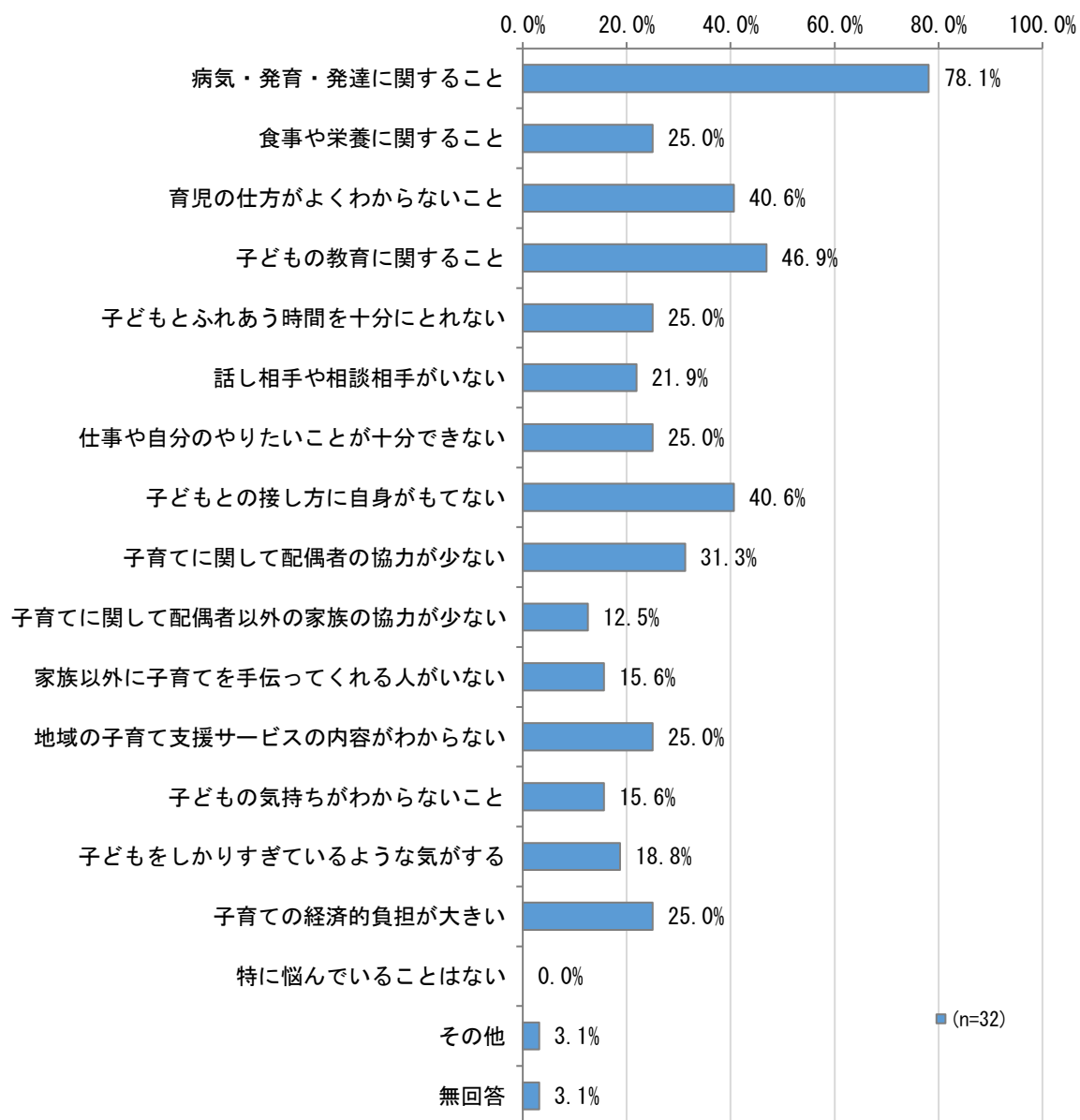
子ども・若者の課題の具体例については以下 16 件の回答が得られた。

No.	回答内容
1	すぐ「死にたい」という子ども。SNSで何が起きているのか知りたい。
2	言葉を知らない(語らいが少ない)児が多い。善悪の基準が(規範意識)が薄い児が多い。本来は家庭で教育すべきことだと思う。
3	家族に時間的余裕などがなく、子どもとの愛着関係が保ちづらいことも多いように感じます。
4	増えてはいないが、ある一定数それぞれあると思われる。
5	学校行事や対応への不満、教職員の指導に対する相談などが増えている。
6	友達との関わり、担任との関わり、部活の先生との関わりにより、人間関係の悩みとしての相談が増えている。
7	不登校児童の利用について問い合わせが増えてきた。衣服がタバコ臭い。持ち物が洗濯されていない(何日も同じ服を着ている)。下の子の面倒を見ている。
8	利用児童の持ち物が洗濯されていない。前の日の荷物のままだったりする。傷・アザがあるなど。
9	園・事業所での昼食費の請求。不規則な生活、いじめなどによる不登校。
10	学校送迎に関して、放デイ利用日は事業所に相談できるとか。
11	下の子のお世話の為、上の兄弟がお休みしてお世話をしていたという案件などありました。
12	ひきこもり傾向にあるが、時々学校に行けている。保護者が家にいても手がかからないのでと言われている。
13	小中学生の不登校の支援が必要(生徒・保護者)。
14	生活困窮における療育環境が整っていない。
15	周囲と比べられたり、自分の思いが伝えられなかったり、時間に縛られることで他害や自傷をする子どもがみられる。
16	不登校になった児童が、家の中だけで過ごしている実態があり、学校に行けなくてもせめて放デイでの活動を継続させ社会性などを身につけさせたいと保護者や相談事業所から相談がきている。

問7 日々子どもや若者、その保護者と接する中で、保護者が子育てに関してどのような悩みや問題を抱えていると感じますか。（複数回答）

保護者が抱える悩みや問題については、「病気・発育・発達に関すること」78.1%が最も高く、次いで「子どもの教育に関すること」46.9%、「育児の仕方がよくわからないこと」、「子どもの接し方に自身が持てない」がいずれも40.6%となっている。

保護者が抱える悩みや問題



その他回答
就労の問題

問8 活動する際に、大切にされていること、工夫していることを教えてください。（自由回答）

活動する際の大切にしている、工夫していることについては以下 24 件の回答が得られた。

No.	回答内容
1	まずは家族の思いを大切にし、保育などに情報共有している。
2	利用児の個性を分析し、それぞれの児に合わせた支援を実行している。
3	子ども達の心を読み、語りを届けていくことで、楽しさを共有していきたいと思っています。
4	子ども本人や家族の希望や思いを尊重し、それぞれがいつも笑顔で楽しくすごせるようになることを最重要と考えて支援を行っていきます。
5	地域の社会資源の活用。
6	1人1人に合った支援。
7	保護者の方々によって子育て方針が違うことを念頭に入れておく。
8	利用者や保護者の医師や思いなどを尊重し、支援を行うようにしている。子ども達やご家族が笑顔で過ごすことができる環境を作る、できたことなど、子どもの頑張りをほめる。
9	児童生徒のみならず、保護者の方の相談にも積極的に取り組み、保護者間でつながりをもって子育てができる環境づくり。
10	巡回指導では小・中・高校生に期待されるよう、丁寧な声掛け。教育相談では傾聴に徹し、関係機関との連携を意識。
11	先回りしない、否定しない。本人が危険察知できる範囲の安全確保。
12	インクルーシブを意識している。障がいがあってもそうでなくても長期休みや土日を利用し、活動を行っている。
13	お子さまが将来を安心安全に送ることができるよう、支援を心がけていくという風に職員に指導しています。
14	親子を支えるために必要な各機関との顔の見える関係形成と情報共有。家庭、里親、児童養護施設との養育や子どもの育ちのつながり。
15	子どもの個性を大切にしながら興味のあるものを引き出し、楽しみながら療育に繋げていく。
16	ニーズの中心をしっかりとつかむこと。情報の整理。
17	一人一人の特性に合わせて支援、愛情を持って接している。
18	子どもの成長を促す活動を取り入れるようにしている。
19	それぞれの子どもの特性に合った支援、子どものできるところは子どもに任せて、出来ないところだけを手伝う。
20	少しでも不安やストレスが軽減できるように寄り添えるよう心掛けています。
21	事業所を利用されるお子さまだけでなく、保護者と話せる機会を設けている。
22	月1回支援会議を開き、情報共有などを行い、利用者様一人一人に合った声かけや接し方ができるようにしています。
23	楽しく居心地のよい場所にすること、できることはなるべく自分でできるように関わること。
24	児童生徒が、これから社会に出て周囲の支援(制度も含む)を受けながら自立していけるよう社会性を身につけること、自分に自身が持てる技術(パソコン)を習得することを日々支援しています。

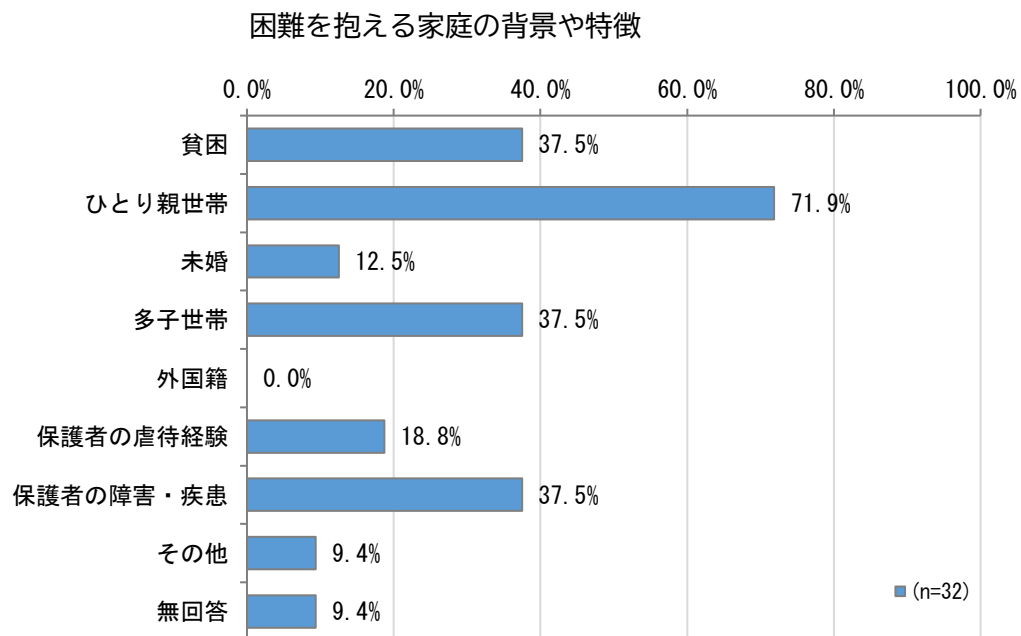
問9 活動する中で、特に難しかった(難しい)と感じる点はどのようなことがありますか。
(自由回答)

活動する際に特に難しいと感じる点については以下 18 件の回答が得られた。

No.	回答内容
1	場所やスタッフに慣れるまでに時間を要する。
2	軽度の障がいの児と、重度な障がいの児が同じ環境で過ごすことに難しさを感じている。
3	雨天時の活動場所。
4	家庭不和にある子ども達の支援は難しいです。
5	学校との連携ができる学校と、そうでない学校がある。
6	場所により活動の制限、ネットワーク環境の制限など。
7	巡回指導では自転車のヘルメット着用について声掛けするが、改善には親の理解が必要。教育相談では関係機関とのつながり(学校など)を希望されない場合の対応。
8	活動の発展・展開・幅。
9	人材や訪問先の理解。
10	人の気持ちの理解や気持ちのコントロール等、伝えていくには繰り返し伝えていくので、他害のあるお子さまへの配慮は必要で難しさを感じます。
11	精神疾患や知的に課題のある保護者との関わり。
12	多動、指示が入りづらい子どもには言葉のコミュニケーションが難しい。
13	精神疾患の保護者とのコミュニケーション。
14	地域との交流。
15	子どもの気持ちをどこまで受容したらいいか。
16	子どもに対する思いや理想が高いと感じる。十分な信頼関係の築き方が難しい。時間が必要と感じる。
17	利用者の思いが分からないため、表情やしぐさで判断しているが、これでよいのか合っているのか迷ってしまう。
18	児童生徒1人1人発達が違い、各々に応じた支援をしていくよう努力している。

問10 困難を抱える家庭において、どのような背景や特徴がみられますか。（複数回答）

困難を抱える家庭の背景や特徴については、「ひとり親世帯」71.9%が最も高く、次いで「貧困」、「多子世帯」、「保護者の障害・疾患」がいずれも37.5%、「保護者の虐待経験」18.8%となっている。



その他回答
信頼関係の構築、愛着関係
親子関係
小学校の転勤によるひとりでの子育て

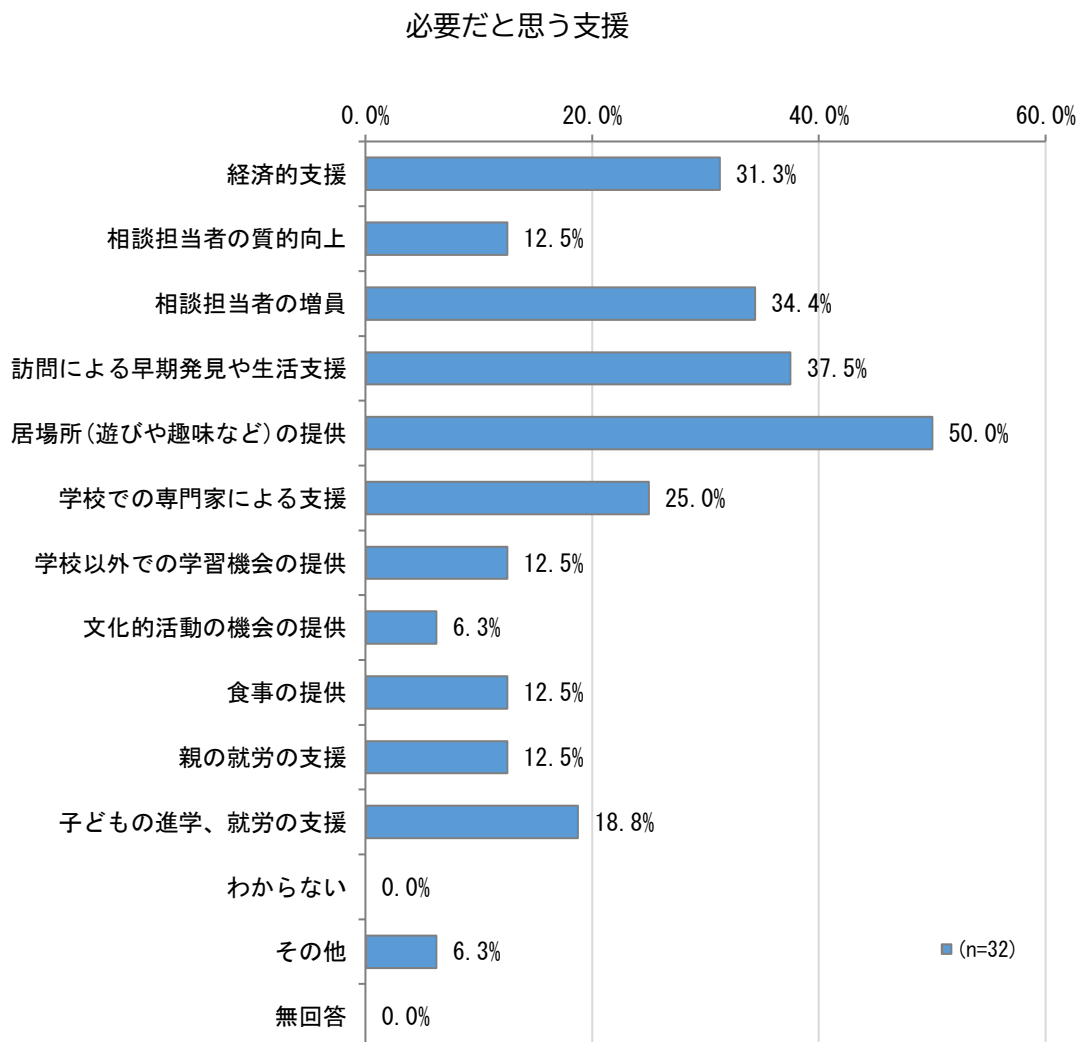
問11 貴団体(組織)が今後力を入れたい活動や取り組みたいことがあればご記入ください。(自由回答)

今後力を入れたい活動や取り組みたいことについては以下 18 件の回答が得られた。

No.	回答内容
1	家族支援:母親の悩みを聞き、子育てが楽しいものにしていく。虐待防止:母親が疲れていると手を上げることなどがあるため、ストレスが子育てに向かないようにする。
2	より深く、1人1人の特性や個性を捉えたうえでより早く成長していけるよう、支援の質を向上させたい。
3	学校、地域、その他さまざまな機関と共に、最善の支援に取り組んでいきたいと思います。
4	不登校児の自信と将来に希望につなげるため、安心できる居場所作りと学習、学びの機会を提供していきたい。
5	地域と共に、療育を展開することが出来たらと考えます。
6	通学距離によって来所できないことがないように、今後、増設できたらと考えている。市内全域の児童生徒への支援を続けたい。
7	相談機関、支援団体など、官民間わず連携を図るネットワーク作り。
8	子どもから大人までの支援と、地域との交流。医ケア児のショートステイ。グループホーム及び生活保護相談。
9	人との関わりなしでは、人生を謳歌することは難しいと思います。そういった点からSSTを中心として、他人との関わりといったところに力を入れて取り組んでいこうと考えております。
10	子ども意見表明支援員(子どもアドボケイト)の養成。
11	地域活動に参加。
12	地域の子育て支援、入所児童の自立支援、子どもの居場所の確保、不登校生徒への支援。
13	一人一人に合った支援、個別でも一人一人と向き合い取り組んでいきたい。スタッフ一人一人の教育、質の向上。
14	不登校児の受け入れ。
15	地域との関わり、連携、協力等。
16	外部との交流。
17	本事業所はアート活動を通して、支援活動を行っております。昨年も開催しましたが、今年も個展を開き、利用者様に達成感を保護者様には普段の頑張りをみて頂きたいです。
18	昨年、一般のパソコン検定受験の指定を受けたので、今後も検定を実施し自分の所属する放デイだけでなく、他放デイや一般の方々の参加も受け入れ、広く門扉を開いていきたい。

問12 支援が必要な子ども(保護者含む)・若者に対し、どのような支援がもっと必要だと思いますか。(選択は3つまで)

必要だと思う支援については、「居場所(遊びや趣味など)の提供」50.0%が最も高く、次いで「訪問による早期発見や生活支援」37.5%、「相談担当者の増員」34.4%となっている。



その他回答
第3の居場所
語り合える場の提供

問13 鹿屋市の子ども・若者への支援(方法や現在の課題など)について、ご意見やご提案などがあれば自由に記入ください。(自由回答)

鹿屋市の子ども・若者への支援についての意見・提案については以下13件の回答が得られた。

No.	回答内容
1	中学生・高校生になると、携帯電話でのやりとりで自殺者を募ったり、恋人探しや立ちんぼ(パパ活)等の噂があがっている。夜の朝日町にもあきらかに高校生と思われる子ども達がキャッチをしている所を目撃したこともある。声をかけると逃げる。そういう場面に出くわした時に常に思うことがあるが、「親はどうなってるのか？」と怒りが出てくる。親がしっかりと教育をしていればこういうことは起こらないと思うが、その家庭の状況等ははどうすることもできないのかと思う。何かできないか？どうすれば若者をしっかりと支援できるのか？などの課題はあるが、まずは家族の支援だと思います。家庭が安定していれば子ども達も夜の街にでることなければ「死にたい」ということはないであろう。SNSだけの世界にはまり、学校も不登校、行き場がなくウロウロしている、第3の居場所を早急に鹿屋市も進めるべきであり、彷徨って悩んでいる子ども達が安心して行ける場所作りが今まさに求められている気がしている。
2	現在、通所支援事業所に対する市の補助金があり、利用者のサービス利用負担額は実質0円。利用上限額4600円、37,200円については、利用者の実費とすることで、親として放デイ・児発を利用する際の「療育」としての意識が向上するのではないかと？
3	子ども達が公園や道を歩いていて触れ合える「パブリックアート」があれば楽しいのになと思います。「あの公園にいけばあのくまさんに会える」といった発見です。触ったり、乗ってみたり、お話をしたり…という想像をしています。小さい子どもだけでなく、中高生も癒されると思います。
4	今問題になっている、教員の働き方や学校の在り方について、先生がいっぱいいっぱいでは、子ども達に対して指導や関わりが持てないのではないかと思います。多様性や個性が重視される風潮の中で、学校自体が規則や体制の維持に時間と労力を費やし、子ども達への目配り・気配りを行う余裕がないのではと感じます。
5	西原にある児童センターのような施設が寿方面にはない。学習センター、健プラなどは年齢制限があり、予約や保護者の同伴を求められたりで、子ども・若者が気軽に立ち寄れる場所ではないと思う。図書コーナーを各地域に設置してはどうか。
6	子ども達の思いやご家族の思いに寄り添い、理解を求める必要があると思います。学習に関しても、子どもや保護者に負担となるような行いはいかならないかと思ひます。子どもたちが笑顔で、楽しく学校生活を送ることができる体制づくりの必要があるのではないのでしょうか？
7	子ども自身で相談できる地域が必要だと思います。困りごとを聞いてもらえる。学校スクールカウンセラーも時間に制約があることや、学校内では相談できないこともある。
8	鹿屋市以外の場所で就労していた経験がありますが、まだ手厚い支援をされているなど感じております。以前社協の研修に参加させていただきましたが、とても勉強になりましたので機会があればそのような研修を開催して頂けると助かります。
9	いつもお世話になっております。今後も様々な面で連携、協働をお願いいたします。
10	不登校生徒の生活や保護者との関係、学校との連携、関係機関との協働など家庭に関する全ての関係機関を招集して調査、検討、実働できるネットワークが必要。要保護児童対策協議会の開催数の増加。
11	障害のある子供達、未就学児にも働く(職場)の体験ができると良いかなと思います。どんな事にも興味津々で遊んでいます。
12	子どもや若者を支援している人たちの支援策も是非検討してほしいです。
13	利用している児童生徒の中で、放デイだけでなく短期入所もしたいのだが、市にお願いをしても受け入れ場所が少ないうえに、もう予定が入っていて希望が受け入れられていないと話をよく聞いています。受け入れ場所の増加をお願い致します。

資料編（調査票）

1. 未就学児

子ども・子育て支援に関するアンケート調査

調査へのご協力をお願い

皆様には日ごろから市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

鹿屋市では、国の子ども・子育て支援法に基づく、「子ども・子育て支援事業計画」を作成し、各種事業に取り組んでいます。

本調査は、令和7年度からの5年間を計画期間とする次期計画の策定にあたり、子育ての状況や保護者の皆様の教育・保育・子育て支援に関する「現在の利用状況」や「今後の利用希望」について把握するために鹿屋市が実施するものです。調査結果は、今後の鹿屋市の子育て支援施策の検討にあたり、大変貴重な資料となります。

つきましては、調査の趣旨をご理解いただき、率直なご意見等をお聞かせくださいますよう、ご協力お願いいたします。

令和5年 11 月

鹿屋市長 中西 茂

【回答方法】

- ※ この調査は、令和5年 11 月 1 日現在、鹿屋市にお住まいの方で未就学のお子様がいらっしゃる保護者の方に協力をお願いするものです。
- ※ この調査は、無記名で個人が特定されることはありません。
- ※ 調査結果は、全て統計的に処理した上、計画の策定及び施策の実施の目的に限り用いられます。
- ※ タブレット端末や、お持ちのスマートフォンなどで、下記の QR コードから WEB アンケートにアクセスして回答してください。
- ※ タブレット端末等が使用できない方につきましては、本調査票に直接記入の上、同封の返信用封筒にてご返送ください。（切手不要）
- ※ 回答は、令和5年 11 月 1 日現在の状況で、年齢が一番下のお子さんについて回答してください。（本調査票では、「末子のお子さん」と表記しています）
- ※ 設問によっては、複数選択いただくものや数字を選んでいただくものもあります。
- ※ 時間を記入いただく設問につきましては、時間は 30 分を境に、切捨て又は切り上げてご記入ください。例) 7:20 なら 7:00 とし、17:30 なら 18:00 としてお考えください。

【WEB アンケート用 QR コード】

回答期限 令和5年 12 月 26 日（火）
https://questant.jp/q/kanoya_1

<回答サイトの QR コード>



[問合せ先]

〒893-8501 鹿屋市共栄町 20 番 1 号
鹿屋市 保健福祉部 子育て支援課 保育幼稚園係
電話：0994-31-1134（直通）

この調査票における用語の定義・解説は以下のとおりです。参考にしてご回答ください。

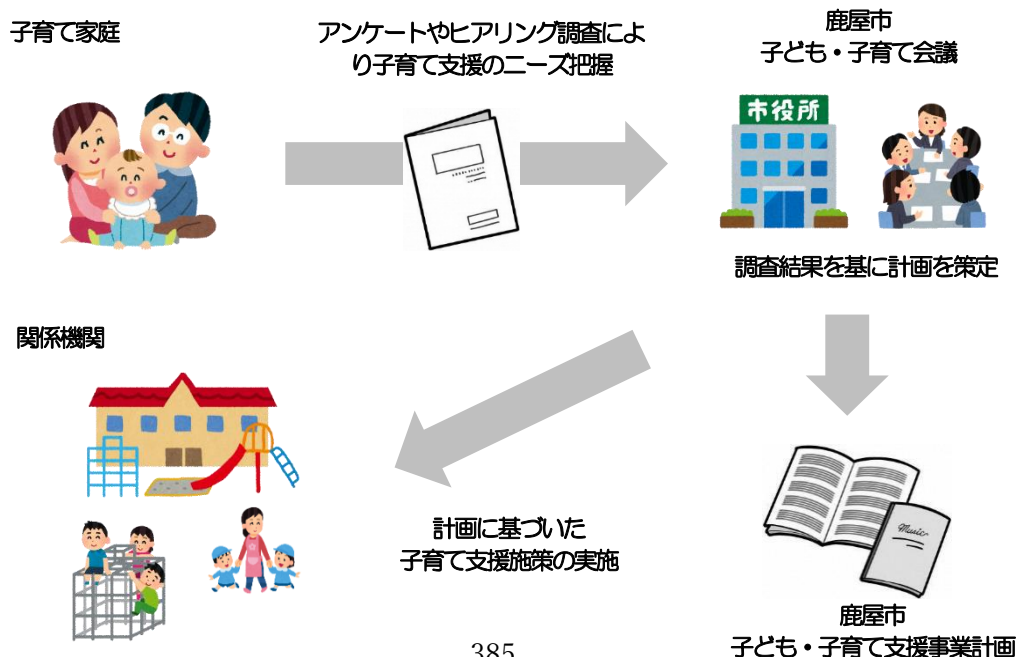
(用語の定義)

幼稚園	学校教育法に定める、3～5歳児に対して学校教育を行う施設（学校教育法第22条）
保育所	児童福祉法に定める、保育を必要とする0～5歳児に対して保育を行う施設（児童福祉法第39条）
認定こども園	幼稚園と保育所の機能を併せ持つ施設（就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律第2条第6項）
子育て	教育・保育その他の子どもの健やかな成長のために行われる支援
教育	家庭での教育、幼児期の学校における教育の意味で用いています

(用語の解説)

一時預かり	保護者の仕事や、傷病、冠婚葬祭など、一時的に子どもの保育ができない場合に、保育所などで一時的に子どもを保育する事業
幼稚園の預かり保育	通常の就園時間を延長して預かる事業
認可保育所	国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けた定員20人以上のもの
認定こども園	幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設
小規模な保育施設	国が定める最低基準に適合した施設で市町村の認可を受けた定員概ね6～19人のもの
家庭的保育	家庭的な雰囲気のもとで5人以下の子どもを保育する事業
事業所内保育施設	企業が主に従業員用に運営する施設
認可外保育所	認可保育所、認定こども園及び地域型保育事業以外の保育施設
企業主導型保育施設	企業が主に従業員用に運営する認可外の施設
居宅訪問型保育	ベビーシッターのような保育者が子どもの家庭で保育する事業
ファミリー・サポート・センター	利用会員とサポート会員の相互援助活動として、保育所等の送迎や子どもの預かり等を行う事業
病児保育	病気の回復期にある児童を、保護者が勤務などの事由により、家庭での保育が困難な場合に利用できる事業
放課後児童クラブ	地域によって学童保育などと呼ばれています。保護者が就労等により昼間家庭にいない場合などに、指導員の下、子どもの生活の場を提供するもの
寺子屋	生涯学習の拠点施設である公民館等を活用し、異年齢での学習を希望したり、学ぶ環境が十分整っていない小学生を対象に実施するものです。週1回の学習と月1回の体験活動が原則ですが、地域によって異なります

いただいた回答は、鹿屋市の子育て支援の充実に生かされます。



住まいの地域についておたずねします。

問1 お住まいの「地域」、「小学校区」を下の表の番号からそれぞれ選びご記入ください。なお、小学校区がわからない場合は、お近くの小学校区をお選びください。

(1) 地域		(2) 小学校区	
地域	町 丁 目 名	小学校区	
1.市街地中心地域	古前城町 本町 新栄町 朝日町 向江町 共栄町 北田町 大手町 西大手町 曾田町 白崎町 王子町 打馬1～2丁目 下祓川町 西 祓川町	1.鹿屋小学校区 2.祓川小学校区 3.東原小学校区	
2.寿地域	寿1～8丁目 新川町 旭原町 札元1～2丁目 笠之原町	4.笠野原小学校区 5.寿小学校区	
3.西原地域	新生町 上谷町 西原1～4丁目 大浦町 郷之原町 今坂町 上野町 野里町	6.寿北小学校区 7.田崎小学校区	
4.高隈地域	上高隈町 下高隈町	8.西原小学校区 9.西原台小学校区	
5.東原・祓川地域	東原町 上祓川町 祓川町	10.花岡小学校区 11.野里小学校区	
6.田崎地域	田崎町 川西町 川東町 永野田町 名貴町	12.大始良小学校区 13.南小学校区	
7.大始良地域	飯隈町 池園町 萩塚町 星塚町 下堀町 田淵町 大始良町 獅子目町 南町 横山町	14.西俣小学校区 15.高隅小学校区	
8.高須・浜田地域	高須町 浜田町 永小原町	16.大黒小学校区	
9.古江・花岡地域	小野原町 天神町 船間町 古江町 古里町 白水町 海道町 花岡町 根木原町 花里町 有武町 小薄町 高牧町		
10.串良地域	細山田 有里 岡崎 下小原 上小原	17.串良小学校区 18.細山田小学校区 19.上小原小学校区	
11.吾平地域	上名 下名 麓	20.吾平小学校区 21.鶴峰小学校区 22.下名小学校区	
12.輝北地域	上百引 下百引 平房 市成 諏訪原	23.輝北小学校区	

末子のお子さんご家族の状況についておたずねします。

問2 末子のお子さんの生年月をご記入ください。

平成・令和 年 月生まれ

問3 末子のお子さんのきょうだいは何人いらっしゃいますか。末子のお子さんを含めた人数をご記入ください。

きょうだい数 人

問4 この調査票をご回答される方はどなたですか。末子のお子さんからみた関係でお答えください。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 母親 2. 父親 3. その他（ ）

問5 この調査票をご回答されている方の配偶関係についてお答えください。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 配偶者がいる 2. 配偶者はいない

問6 ご家庭で末子のお子さんの子育て（教育を含む）を主に行っているのはどなたですか。お子さんからみた関係で当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 父母ともに 2. 主に母親 3. 主に父親
4. 主に祖父母 5. その他（ ）

子育ての環境についておたずねします。

問7 末子のお子さんの子育て（教育を含む）に日常的に関わっている方はどなた（施設）ですか。お子さんからみた関係で当てはまる番号 すべて に○をつけてください。

1. 父母ともに 2. 母親 3. 父親 4. 祖父母
5. 幼稚園 6. 保育所 7. 認定こども園 8. 障がい児通所・入所施設
9. その他（ ）

問8 末子のお子さんの子育て（教育を含む）に、もっとも影響を与えると思われる環境 すべて に○をつけてください。

1. 家庭 2. 地域 3. 幼稚園 4. 保育所 5. 認定こども園
6. 障がい児通所・入所施設 7. その他（ ）

問9 日頃、末子のお子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 日常的に祖父母等の親族にみてもらえる
2. 緊急時または用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる
3. 日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる
4. 緊急時または用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる
5. いずれもない

問9-1 問9で「1.」または「2.」に○をつけた方におたずねします。

祖父母等の親族にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる
2. 祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である
3. 祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である
4. 自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい
5. 子どもの教育や発達にとってふさわしい環境であるか、少し不安がある
6. その他（ ）

問9-2 問9で「3.」または「4.」に○をつけた方におたずねします。

友人・知人にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる
2. 友人・知人の身体的負担が大きく心配である
3. 友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である
4. 自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい
5. 子どもの教育や発達にとってふさわしい環境であるか、少し不安がある
6. その他（ ）

問10 末子のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人はいますか（または、場所がありますか。）当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. はい	⇒問10-1へ	2. いいえ	⇒問11へ

問10-1 問10で「1.はい」に○をつけた方におたずねします。

お子さんの子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先は、誰（どこ）ですか。当
てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 祖父母等の親族	2. 友人や知人
3. 近所の人	4. 子育て支援施設 (地域子育て支援センター、つどいの広場等)・NPO
5. 保健所・保健相談センター	6. 保育士や幼稚園教諭
7. 民生委員・児童委員	8. かかりつけの医師
9. インターネットのサイトへの書き込みやSNS 等による相談	10. 自治体の子育て関連担当窓口
11. 支援事業所の相談支援専門員	
12. その他(【例】ベビーシッター	)

問11 子育て（教育を含む。）をする上で、周囲（身近な人、行政など）からどのようなサポートがあればよいとお考えでしょうか。ご自由にお書きください。

末子のお子さんの保護者の就労状況についておたずねします。

※問12～問14までの注意点

- ・「フルタイム」⇒1週5日程度・1日8時間程度の就労
「パート・アルバイト等」⇒「フルタイム」以外の就労としてお答えください。
- ・母親、父親それぞれについてお答えください。(母子家庭・父子家庭の場合はあてはまる間のみお答えください。)

問12 末子のお子さんの保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をおたずねします。母親・父親の就労状況について、母親・父親それぞれ当てはまる番号1つに○をつけてください。

就労状況	母親	父親	
フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	1	1	⇒問13へ
フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	2	2	
パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	3	3	
パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	4	4	
以前は就労していたが、現在は就労していない	5	5	⇒問14へ
これまで就労したことがない	6	6	

- 問 13** 問 12 で「1. ～4.」（就労している）に○をつけた方（母親・父親それぞれ）におたずねします。
 週当たりの「就労日数」、1 日当たりの「就労時間（残業時間を含む）」をお答えください。就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。
 また、家を出る時刻と帰宅時刻をお答えください。時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。
 産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。
 時間は、0 8 時、1 8 時のように 2 4 時間制でご記入ください。

母親	1 週当たりの就労日数 日	1 日当たりの就労時間 時間
	家を出る時刻 時	帰宅時刻 時
父親	1 週当たりの就労日数 日	1 日当たりの就労時間 時間
	家を出る時刻 時	帰宅時刻 時

- 問 13-1** 問 12 で「3.4.」（パート・アルバイト等で就労している）に○をつけた方（母親・父親それぞれ）におたずねします。該当しない方は、問 14 へお進みください。
 フルタイムへの転換希望はありますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

就 労 希 望	母親	父親
フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある	1	1
フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない	2	2
パート・アルバイト等の就労を続けることを希望	3	3
パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい	4	4

- 問 14** 問 12 で「5. 以前は就労していたが、現在は就労していない」または「6. これまで就労したことがない」に○をつけた方（母親・父親それぞれ）におたずねします。該当しない方は、問 15 へお進みください。
 就労したいという希望はありますか。当てはまる番号・記号にそれぞれ 1 つに○をつけ、該当する 内には数字をご記入ください。

就労希望	母親	父親
子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）	1	1
1 年より先、一番下の子どもが 歳になったところに就労したい	2	2
就労したいが、家庭状況（看護、介護、疾病等）により就労することができない	3	3
すぐにでも、または 1 年以内に就労したい	4	4
【母親】 →希望する就労形態 ア. フルタイム イ. パートタイム・アルバイト等（「ア」以外） 1 週当たり 日 1 日当たり 時間		
【父親】 →希望する就労形態 ア. フルタイム イ. パートタイム・アルバイト等（「ア」以外） 1 週当たり 日 1 日当たり 時間		

末子のお子さんの平日の定期的な教育・保育事業の利用状況についておたずねします。

※ ここでいう「定期的な教育・保育事業」とは、月単位で定期的に利用している事業を指します。
具体的には、幼稚園や保育所など、問 15-1 に示した事業が含まれます。

問 1 5 末子のお子さんは現在、幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育事業」を利用されていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. 利用している ⇒問 15-1 へ

2. 利用していない ⇒問 15-5 へ

問 1 5 - 1 問 15 で「1. 利用している」に○をつけた方におたずねします。

末子のお子さんは、平日どのような教育・保育事業を利用していますか。年間を通じて「定期的に」利用している事業をお答えください。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 幼稚園 (通常の就園時間の利用) 2. 幼稚園の預かり保育 (通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ) 3. 幼稚園の2歳児預かり保育 (入園前の2歳児の定期的な利用) 4. 認可保育所 (国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けたもの) 5. 認定こども園の保育施設部分 (幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設) 6. 認定こども園の幼稚園(教育)部分 (幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設) 7. 認定こども園の預かり保育 (幼稚園部分利用者の通常の教育時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ)	8. 小規模な保育施設 (国が定める最低基準に適合した施設で市町村の認可を受けた定員概ね6～19人のもの) 9. 家庭的保育 (養育者の家庭等で子どもを保育する事業) 10. 事業所内保育施設 (企業が主に従業員用に運営する施設で市の認可を受けたもの) 11. 企業主導型保育施設 (企業が主として従業員用に運営・管理を行う施設で国からの助成を受けるもの) 12. その他の認可外の保育施設 13. 居宅訪問型保育 (ベビーシッターのような保育者が子どもの家庭で保育する事業) 14. ファミリー・サポート・センター (利用会員とサポート会員の相互援助活動として、保育所等の送迎や子どもの預かり等を行う事業) 15. その他 ()

問 1 5 - 2 問 15 で「1. 利用している」に○をつけた方におたずねします。

現在、利用している教育・保育事業の実施場所についておたずねします。「1.」「2.」のいずれかに○をつけてください。

1. 鹿屋市内

2. 他の市町

問15-3 問15で「1.利用している」に○をつけた方におたずねします。

平日に定期的に利用している教育・保育事業について、現在どのくらい利用していますか。
また、希望としてはどのくらい利用したいですか。1週当たり何日、1日当たり何時間（何時から何時まで）かを具体的な数字をご記入ください。時間は、必ず（例）09時～18時のように24時間制でご記入ください。

※時間は30分を境に、切捨て又は切り上げてご記入ください。
例:07:20なら7:00とし、17:30なら18:00としてお考えください。

現在	1週当たり	日	1日当たり	時間	時～ 時
希望	1週当たり	日	1日当たり	時間	時～ 時

問15-4 問15で「1.利用している」に○をつけた方におたずねします。

平日に定期的に教育・保育事業を利用されている理由についておたずねします。主な理由として当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 子どもの教育や発達のため
2. 子育てをしている方が現在就労している（または産休・育休中）
3. 子育てをしている方が就労予定がある／求職中である
4. 子育てをしている方が家族・親族などを介護している
5. 子育てをしている方が病気や障がいがある
6. 子育てをしている方が学生である
7. その他（）

問15-5 問15で「2.利用していない」に○をつけた方におたずねします。

利用していない理由は何ですか。理由としてもっとも当てはまる番号すべてに○をつけてください。また11を選択の場合は、に年齢をご記入ください。

1. （子どもの教育や発達のために）家庭での保育が必要と考えている
2. 家庭での保育が可能で、利用する必要がない
3. 子どもの祖父母や親戚の人がみている
4. 近所の人や父母の友人・知人がみている
5. 利用したいが、保育所等の利用の条件に当てはまらない
6. 利用したいが、保育・教育の事業に空きがない
7. 利用したいが、医療的ケア児に対応できる保育・教育事業に空きがない
8. 利用したいが、経済的な理由で事業を利用できない
9. 利用したいが、延長・夜間等の時間帯の条件が合わない
10. 利用したいが、事業の質や場所など、納得できる事業がない
11. 子どもがまだ小さいため（歳くらいになったら利用しようと考えている）
12. その他（）

問15-6 問15で「2.利用していない」に○をつけた方にうかがいます。

教育・保育事業を月に10時間程度利用することが可能な場合、利用したいと思いますか。

「利用したい」の場合は、日数、時間数及び時間帯をご記入ください。

※サービスの利用に当たっては、一定の利用料が発生すると仮定します。

1. 利用したい
1週当たり 日 1回あたり 時間 時間帯 時から時まで
2. 利用したいと思わない

問16 すべての方におたずねします。

現在、利用している、利用していないにかかわらず、末子のお子さんの平日の教育・保育事業として、「定期的に」利用したいと考える事業をお答えください。当てはまる番号すべてに○をつけてください。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。

※国は、令和元年 10 月から、3 歳から 5 歳までのすべてと 0 歳から 2 歳の住民税非課税世帯を対象として幼稚園、保育所、認定こども園などの利用料を無償化しています。利用無償化を踏まえてご回答ください。

1. 幼稚園 (通常の就園時間の利用) 2. 幼稚園の預かり保育 (通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ) 3. 認可保育所 (国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けた定員20人以上のもの) 4. 認定こども園 (幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設) 5. 小規模な保育施設 (国が定める最低基準に適合した施設で市町村の認可を受けた定員概ね6～19人のもの)	6. 家庭的保育 (家庭的な雰囲気のもとで5人以下の子どもを保育する事業) 7. 事業所内保育施設 (企業が主に従業員用に運営する施設) 8. 企業主導型保育施設 (企業が主に従業員用に運営する認可外の施設) 9. その他の認可外の保育施設 10. 居宅訪問型保育 (ベビーシッターのような保育者が子どもの家庭で保育する事業) 11. ファミリー・サポート・センター (地域住民が子どもを預かる事業) 12. その他 []

参考 利用料 (令和5年4月現在)

1. 幼稚園 保育料 月額約25,000円 2. 幼稚園の預かり保育 ①3歳児以上 利用料金は園によって独自に設定 ②2歳児 利用料金は園によって独自に設定 3. 認可保育所 世帯の所得状況・児童年齢に応じた保育料設定 保育料 月額0円～50,000円 4. 認定こども園 ①保育施設部分 世帯の所得状況・児童年齢に応じた保育料設定 保育 (2・3号) 認定 月額0円～50,000円 ②幼稚園(教育)部分 世帯の所得状況・児童年齢に応じた保育料設定 教育 (1号) 認定 月額0円～20,500円 ③預かり保育 利用料金は園によって独自に設定 5. 小規模保育施設 認可保育所と同じ	6. 家庭的保育 認可保育所と同じ 7. 事業所内保育施設 認可保育所と同じ 8. 企業主導型保育施設 利用料金は園によって独自に設定 9. その他の認可外の保育施設 利用料金は園によって独自に設定 10. 居宅訪問型保育 認可保育所と同じ 11. ファミリー・サポート・センター 月曜日から金曜日 (午前7時から午後7時) 1時間 600円 上記以外1時間 700円

問16-1 教育・保育事業を利用したい場所についておたずねします。いずれか 1 つに○をつけてください。

1. 鹿屋市内

2. 他の市町

問16-2 問16で「1. 幼稚園（通常の就園時間の利用）」または「2. 幼稚園の預かり保育」に○をつけ、かつ「3. ～12.」にも○をつけた方におたずねします。特に幼稚園（幼稚園の預かり保育をあわせて利用する場合を含む）の利用を強く希望しますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. はい

2. いいえ

末子のお子さんの地域の子育て支援事業の利用状況についておたずねします。

問17 末子のお子さんは、現在、地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過ごしたり、相談をしたり、情報提供を受けたりする場で、「子育て支援センター」「つどいの広場」等と呼ばれています。なお、「あそ VIVA! かのや」は除きます。）を利用していますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。また、おおよその利用回数（頻度）を数字でご記入ください。

1. 地域子育て支援拠点事業（子育て支援センター・つどいの広場）

1 週当たり 回 または 1 ヶ月当たり 回程度

2. 利用していない

問18 問17のような地域子育て支援拠点事業について、今は利用していないが、できれば今後利用したい、あるいは、すでに利用している方は、今後利用日数を増やしたいと思いますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。また、おおよその利用回数（頻度）をご記入ください。

1. 利用していないが、今後利用したい

1 週当たり 回 または 1 ヶ月当たり 回程度

利用したい時間帯 時～ 時

2. すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい

1 週当たり 更に 回 または 1 ヶ月当たり 更に 回程度

利用したい時間帯 時～ 時

3. 新たに利用したいとは思わない、利用日数を増やしたいとは思わない

問 19 下記の事業で知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後、利用したいと思うものをお答えください。①～⑦の事業ごとに、A～Cのそれぞれについて、⑧の事業についてはCについて、「ア. はい」「イ. いいえ」のいずれかに○をつけてください。

	A 知っている	B これまでに利用 したことがある	C 今後利用したい
①すくすくルーム (子育て世代支援センター)	ア. はい イ. いいえ	ア. はい イ. いいえ	ア. はい イ. いいえ
②パパママ教室、育児教室	ア. はい イ. いいえ	ア. はい イ. いいえ	ア. はい イ. いいえ
③訪問指導・母子相談	ア. はい イ. いいえ	ア. はい イ. いいえ	ア. はい イ. いいえ
④家庭教育に関する学級・相談事業	ア. はい イ. いいえ	ア. はい イ. いいえ	ア. はい イ. いいえ
⑤教育相談室	ア. はい イ. いいえ	ア. はい イ. いいえ	ア. はい イ. いいえ
⑥パパ・ママ・子どもの便利帳	ア. はい イ. いいえ	ア. はい イ. いいえ	ア. はい イ. いいえ
⑦かのやライフ (アプリ)	ア. はい イ. いいえ	ア. はい イ. いいえ	ア. はい イ. いいえ
⑧子育て支援アプリ”かのや育 memo。(かのやはぐめも)”			ア. はい イ. いいえ



末子のお子さんの土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望についておたずねします。

問 20 末子のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、定期的な教育・保育事業の利用希望はありますか（一時的な利用は除きます）。当てはまる番号 1 つに○をつけ、希望がある場合は、利用したい時間帯をご記入ください。時間は、必ず（例）09時から18時 のように24時間制でお答えください。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。

※ 保育・教育事業とは、幼稚園、保育所、認可外保育施設などの事業を指しますが、親族・知人による預かりは含みません。

（1）土曜日

1. 利用する必要はない	}	利用したい時間帯	□ □ 時から □ □ 時
2. ほぼ毎週利用したい			
3. 月に 1～2 回は利用したい			

（2）日曜・祝日

1. 利用する必要はない	}	利用したい時間帯	□ □ 時から □ □ 時
2. ほぼ毎週利用したい			
3. 月に 1～2 回は利用したい			

問 20-1 問 20 の（1）または（2）で、「3. 月に 1～2 回は利用したい」に○をつけた方におたずねします。

毎週ではなく、たまに利用したい理由は何ですか。当てはまる番号 すべて に○をつけてください。

1. 月に数回仕事が入るため	2. 平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため
3. 親族の介護や手伝いが必要なため	4. 息抜きのため
5. その他（	）

問 21 「幼稚園」を利用されている方におたずねします。

末子のお子さんについて、夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用を希望しますか。希望がある場合は、利用したい時間帯をご記入ください。時間は、必ず（例）09時～18時のように24時間制でお答えください。

1. 利用する必要はない	}	利用したい時間帯	□ □ 時から □ □ 時
2. 休みの期間中、ほぼ毎日利用したい			
3. 休みの期間中、週に数日利用したい			

問 21-1 問 21 で、「3. 休みの期間中、週に数日利用したい」に○をつけた方におたずねします。

毎日ではなく、たまに利用したい理由はなんですか。当てはまる番号 すべて に○をつけてください。

1. 週に数回仕事が入るため	2. 買い物等の用事をまとめて済ませるため
3. 親等親族の介護や手伝いが必要なため	4. 息抜きのため
5. その他（	）

末子のお子さんの病気の際の対応についておたずねします。
(平日の教育・保育を利用する方のみ)

問22 平日の定期的な教育・保育の事業を利用していると答えた保護者の方（問15で1に○をつけた方）におたずねします。利用していらない方は、問23にお進みください。

この1年間に、末子のお子さんが病気やケガで通常の事業が利用できなかったことはありますか。

1. あった	⇒問22-1へ	2. なかった	⇒問23へ

問22-1 問22で「1. あった」に○をつけた方におたずねします。

末子のお子さんが病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法として当てはまる記号すべてに○をつけ、それぞれの日数もご記入ください。（半日程度の対応の場合も1日とカウントしてください。）

1年間の対処方法	日数
ア. 父親が休んだ	日
イ. 母親が休んだ	日
ウ. (同居者を含む) 親族・知人に子どもをみてもらった	日
エ. 父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた	日
オ. 病児保育事業を利用した	日
カ. ベビーシッターを利用した	日
キ. ファミリー・サポート・センターを利用した	日
ク. 仕方なく子どもだけで留守番をさせた	日
ケ. その他 ()	日

問22-2 問22-1で「ア.」「イ.」のいずれかに回答した方におたずねします。

その際、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思われましたか。当てはまる番号1つに○をつけ、日数についてもご記入ください。なお、病児保育事業の利用には、一定の利用料がかかります。

1. できれば病児・病後児保育施設等を利用したい ⇒ 日	⇒問22-3へ
2. 利用したいとは思わない	⇒問22-4へ

問22-3 問22-2で「1. できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」に○をつけた方におたずねします。上記の目的で子どもを預ける場合、下記のいずれの事業形態が望ましいと思われますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 他の施設（例：幼稚園・保育所等）に併設した施設で子どもを保育する事業
2. 医療機関に併設した施設で子どもを保育する事業
3. 地域住民等が子育て家庭等の身近な場所で保育する事業（例：ファミリー・サポート・センター等）
4. その他 ()

問22-4 問22-2で「2.利用したいとは思わない」に○をつけた方におたずねします。
 そう思われる理由について当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 病気の子どもを他人に看てもらうのは不安	2. 地域の事業の質に不安がある
3. 地域の事業の利便性（立地や利用可能時間日数など）がよい	4. 利用料がかかる・高い
5. 利用料がわからない	6. 親が仕事を休んで対応する
7. 親戚に看てもらう	8. その他（ ）

問22-5 問22-1で「ウ。」から「ケ。」のいずれかに回答した方におたずねします。
 その際、「できれば父母いずれかが仕事を休んで看たい」と思われましたか。当てはまる番号
1つに○をつけ、「ウ」から「ケ」の日数のうち仕事を休んで看たかった日数についてもご記入
 ください。

1. できれば仕事を休んで看たい ⇒ ☐ ☐ 日 ⇒問23へ
2. 休んで看することは非常に難しい ⇒問22-6へ

問22-6 問22-5で「2. 休んで看することは非常に難しい」に○をつけた方におたずねします。
 そう思われる理由について当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 子どもの看護を理由に休みがとれない	2. 自営業なので休めない
3. 休暇日数が足りないので休めない	4. その他（ ）

末子のお子さんの「不定期」の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用についておたずねします。

問23 末子のお子さんについて、日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業はありますか。ある場合は、当てはまる番号すべてに○をつけ、1年間の利用日数（おおよそ）もご記入ください。

利用している事業	日数（年間）
1. 一時預かり （私用など理由を問わずに保育所などで一時的に子どもを保育する事業）	☐ ☐ 日
2. 幼稚園の預かり保育 （通常の就園時間を延長して預かる事業のうち、不定期に利用する場合のみ）	☐ ☐ 日
3. 認定こども園の預かり保育 （幼稚園機能利用者の通常の教育時間を延長して預かる事業のうち、不定期に利用する場合のみ）	☐ ☐ 日
4. ファミリー・サポート・センター （利用会員とサポート会員の相互援助活動として、保育所等の送迎や子どもの預かり等を行う事業）	☐ ☐ 日
5. 認可外保育施設の夜間保育	☐ ☐ 日
6. ベビーシッター	☐ ☐ 日
7. その他（ ）	☐ ☐ 日
8. 利用していない ⇒問23-1へ	

問23-1 問23で「8. 利用していない」と回答した方におたずねします。

現在利用していない理由は何ですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 特に利用する必要がない
2. 利用したい事業が地域にない
3. 地域の事業の質に不安がある
4. 地域の事業の利便性（立地や利用可能時間・日数など）がよくない
5. 利用料がかかる・高い
6. 利用料がわからない
7. 自分が事業の対象者になるのかわからない
8. 事業の利用方法（手続き等）がわからない
9. その他（

問24 末子のお子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、年間何日くらい事業を利用する必要があると思いますか。利用希望の有無について当てはまる番号・記号すべてに○をつけ、利用したい日数の合計と、目的別の内訳の日数をご記入ください。なお事業の利用に当たっては、一定の利用料がかかります。

利用希望		日数（年間）
1. 利用したい ⇒問 24-1 へ		計 □□ 日
ア. 私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的		□□ 日
イ. 冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院 等		□□ 日
ウ. 不定期の就労		□□ 日
エ. その他（ ）		□□ 日
2. 利用する必要はない ⇒問 25 へ		

問24-1 問24で「1.利用したい」に○をつけた方におたずねします。

問 24 の目的でお子さんを預ける場合、下記のいずれの事業形態が望ましいと思われますか。

当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 大規模施設で子どもを保育する事業（例：幼稚園・保育所等）
2. 小規模施設で子どもを保育する事業（例：地域子育て支援センター等）
3. 地域住民等が子育て家庭等の近くの場所で保育する事業（例：ファミリー・サポート・センター等）
4. その他（ ）

問25 末子のお子さんについて、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族（兄弟姉妹含む。）の育児疲れや育児不安、病気など）により、泊りがけで年間何日くらい家族以外に預ける必要があると思いますか。

短期入所生活援助事業（ショートステイ）（児童養護施設等で一定期間、子どもを保護する事業）の利用希望の有無について当てはまる番号・記号すべてに○をつけ、必要な泊数をご記入ください（利用したい泊数の合計と、目的別の内訳の泊数を□内に数字でご記入ください。数字は一桁に一字）。

なお事業の利用に当たっては、一定の利用料がかかります。

1. 利用したい	計	□ □ 泊
ア. 冠婚葬祭		□ □ 泊
イ. 保護者や家族の育児疲れ・不安		□ □ 泊
ウ. 保護者や家族の病気		□ □ 泊
エ. その他（		□ □ 泊
2. 利用する必要はない		



**末子のお子さんが5歳以上(回答日現在)である方に、
小学校就学後の放課後の過ごし方についておたずねします。**

⇒ 末子のお子さんが4歳以下(回答日現在)の方は、問30へお進みください

問26 末子のお子さんが5歳以上(回答日現在)である方におたずねします。

末子のお子さんについて、小学校低学年（1～3年生）のうちは、放課後（平日の小学校終了後から夕方まで）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。当てはまる番号すべてに○をつけ、それぞれ希望する週当たり日数をご記入ください。また、「放課後児童クラブ」の場合には、利用を希望する時間をご記入ください。時間は、必ず（例）18時のように24時間制でご記入ください。

「放課後児童クラブ」・・・地域によって学童保育などと呼ばれています。保護者が就労等により昼間家庭にいない場合などに、指導員の下、子どもの生活の場を提供するものです。

なお、事業の利用に当たっては、一定の利用料がかかります。

※1 「寺子屋」・・・生涯学習の拠点施設である公民館等を活用し、異年齢での学習を希望したり、学ぶ環境が十分整っていない小学生を対象に実施するものです。週1回の学習と月1回の体験活動が原則ですが、地域によって異なります。

放課後の過ごし方	日数
1. 自宅	週 ☐ 日くらい
2. 祖父母宅や友人・知人宅	週 ☐ 日くらい
3. 習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）	週 ☐ 日くらい
4. 寺子屋 ※1	週 ☐ 日くらい
5. 放課後児童クラブ（学童保育）	週 ☐ 日くらい
	→下校時から ☐ 時まで
6. ファミリー・サポート・センター	週 ☐ 日くらい
7. その他（公民館、公園など）	週 ☐ 日くらい

問27 末子のお子さんが5歳以上である方におたずねします。

末子のお子さんについて、小学校高学年（4～6年生）になったら、放課後（平日の小学校終了後から夕方まで）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。当てはまる番号すべてに○をつけ、それぞれの週当たり日数をご記入ください。また、「放課後児童クラブ」の場合には利用を希望する時間をご記入ください。時間は、必ず（例）18時のように24時間制でご記入ください。

放課後の過ごし方	日数
1. 自宅	週 ☐ 日くらい
2. 祖父母宅や友人・知人宅	週 ☐ 日くらい
3. 習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）	週 ☐ 日くらい
4. 寺子屋	週 ☐ 日くらい
5. 放課後児童クラブ（学童保育）	週 ☐ 日くらい
	→下校時から ☐ 時まで
6. ファミリーサポートセンター	週 ☐ 日くらい
7. その他（公民館、公園など）	週 ☐ 日くらい

※先のことになりますが、現在お持ちのイメージでお答えください。

問28 問26または問27で「5. 放課後児童クラブ（学童保育）」に○をつけた方におたずねします。

末子のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、放課後児童クラブの利用希望はありますか。なお、事業の利用には、一定の利用料がかかります。（1）（2）それぞれについて、当てはまる番号1つに○をつけてください。また利用したい時間帯をご記入ください。時間は、（例）09時～18時のように24時間制でご記入ください。

（1）土曜日

1. 低学年（1～3年生）の間は利用したい	利用したい時間帯	
2. 高学年（4～6年生）になっても利用したい		時から 時
3. 利用する必要はない		

（2）日曜日・祝日

1. 低学年（1～3年生）の間は利用したい	利用したい時間帯	
2. 高学年（4～6年生）になっても利用したい		時から 時
3. 利用する必要はない		

問29 末子のお子さんについて、お子さんの夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望はありますか。なお、事業の利用には、一定の利用料がかかります。当てはまる番号

1つに○をつけてください。また利用したい時間帯をご記入ください。時間は、（例）09時～18時のように24時間制でご記入ください。

1. 低学年（1～3年生）の間は利用したい	利用したい時間帯	
2. 高学年（4～6年生）になっても利用したい		時から 時
3. 利用する必要はない		



すべての方に、育児休業や短時間勤務制度など、職場の両立支援制度についておたずねします。

問30 末子のお子さんが生まれた時、父母のいずれかまたは双方が育児休業を取得しましたか。母親、父親それぞれについて、当てはまる番号1つに○をつけてください。また、取得していない方はその理由を（ ）内にご記入ください。

母親（いずれかに○）	父親（いずれかに○）
1.働いていなかった 2.取得した（取得中である） 3.取得していない ⇒取得していない理由を、<u>下から番号を選んで記入ください。</u>（いくつでも） ▲	1.働いていなかった 2.取得した（取得中である） 3.取得していない ⇒取得していない理由を、<u>下から番号を選んで記入ください。</u>（いくつでも） ▲

取得していない理由

1. 職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった
2. 仕事が忙しかった
3. (産休後に) 仕事に早く復帰したかった
4. 仕事に戻るのが難しそうだった
5. 昇給・昇格などが遅れそうだった
6. 収入減となり、経済的に苦しくなる
7. 保育所(園)などに預けることができた
8. 配偶者が育児休業制度を利用した
9. 配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった
10. 子育てや家事に専念するため退職した
11. 職場に育児休業の制度がなかった(就業規則に定めがなかった)
12. 有期雇用のため育児休業の取得要件を満たさなかった
13. 育児休業を取得できることを知らなかった
14. 産前産後の休暇(産前6週間、産後8週間)を取得できることを知らず、退職した
15. その他(

問30-1 子どもが原則1歳（保育所における保育の実施が行われないなど一定の要件を満たす場合は最長2歳）になるまで育児休業給付が支給される仕組み、子どもが満3歳になるまでの育児休業等（法定の育児休業及び企業が法定を上回る期間設けた育児休業に準ずる措置）期間について健康保険及び厚生年金保険の保険料が免除になる仕組みがありますが、そのことをご存じでしたか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

1. 育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた
2. 育児休業給付のみ知っていた
3. 保険料免除のみ知っていた
4. 育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった

問30-2 問 30 で「2. 取得した（取得中である）」と回答した方（母親・父親それぞれ）におたずねします。

育児休業取得後、職場に復帰しましたか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

内容	母親	父親	
育児休業取得後、職場に復帰した	1	1	⇒問30-3へ
現在も育児休業中である	2	2	⇒問30-9へ
育児休業中に退職した	3	3	⇒問31へ

問30-3 問 30-2 で「1. 育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方（母親・父親それぞれ）におたずねします。

育児休業から職場に復帰したのは、年度初めの保育所入所に合わせたタイミングでしたか。あるいはそれ以外でしたか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

※年度初めでの認可保育所入所を希望して、1月～2月頃復帰して一時的に認可外保育所に入所した場合なども「1.」に当てはまります。また、年度初めでの入所を希望して復帰したが、実際には希望する保育所に入所できなかったという場合も「1.」を選択してください。

内容	母親	父親
年度初めの入所に合わせたタイミングだった	1	1
それ以外だった	2	2

問30-4 育児休業からは、「実際」にお子さんが何歳何ヶ月のときに職場復帰しましたか。また、お勤め先の育児休業の制度の期間内で、何歳何ヶ月のときまで取りたかったですか。母親・父親それぞれ数字でご記入ください

母親	実際の取得期間 歳 カ月	希望 歳 カ月
父親	実際の取得期間 歳 カ月	希望 歳 カ月

問30-5 お勤め先に育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合、「希望」としてはお子さんが何歳何ヶ月のときまで取りたかったですか。母親・父親それぞれ数字でご記入ください。

母親	希望 歳 カ月
父親	希望 歳 カ月

問30-6 問30-4で実際の復帰と希望が異なる方におたずねします。
希望の時期に職場復帰しなかった理由についておたずねします。

(1)「希望」より早く復帰した方 ※母親・父親それぞれ当てはまる番号すべてに○をつけてください。

内容	母親	父親
希望する保育所に入るため	1	1
配偶者や家族の希望があったため	2	2
経済的な理由で早く復帰する必要があった	3	3
人事異動や業務の節目の時期に合わせるため	4	4
【母親】その他（ ） 【父親】その他（ ）	5	5

(2)「希望」より遅く復帰した方 ※母親・父親それぞれ当てはまる番号すべてに○をつけてください。

内容	母親	父親
希望する保育所に入れなかったため	1	1
自分や子どもなどの体調が思わしくなかったため	2	2
配偶者や家族の希望があったため	3	3
職場の受け入れ態勢が整っていなかったため	4	4
子どもをみてくれる人がいなかったため	5	5
【母親】その他（ ） 【父親】その他（ ）	6	6

問30-7 問30-2で「1. 育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方におたずねします。
育児休業からの職場復帰時には、短時間勤務制度を利用しましたか。母親・父親それぞれ当てはまる番号1つに○をつけてください。

内容	母親	父親
利用する必要がなかった（フルタイムで働きたかった、もともと短時間勤務だった）	1	1
利用した	2	2
利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）	3	3

問30-8 問30-7で「3.利用したかったが、利用しなかった（利用できなかった）」と回答した方におたずねします。
 短時間勤務制度を利用しなかった（利用できなかった）理由は何ですか。母親・父親それぞれ当てはまる理由をすべてに○をつけてください。

内容	母親	父親
職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった	1	1
仕事が忙しかった	2	2
短時間勤務にすると給与が減額される	3	3
短時間勤務にすると保育所の入所申請の優先順位が下がる	4	4
配偶者が育児休業制度や短時間勤務制度を利用した	5	5
配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、子どもをみてくれる人がいた	6	6
子育てや家事に専念するため退職した	7	7
職場に短時間勤務制度がなかった（就業規則に定めがなかった）	8	8
短時間勤務制度を利用できることを知らなかった	9	9
その他（ ）	10	10

問30-9 問30-2で「2.現在も育児休業中である」と回答した方におたずねします。
 末子のお子さんが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得しますか。または、預けられる事業があっても1歳になる前に復帰しますか。母親・父親それぞれ当てはまる番号1つに○をつけてください。

内容	母親	父親
1歳になるまで育児休業を取得したい	1	1
1歳になる前に復帰したい	2	2

すべての方に、鹿屋市の子育ての環境や支援についておたずねします

問 31 子どもを健やかに生み育てる上で、どのような悩みや不安等に対して、市に支援を期待しますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

【子どもに関すること】

1. 病気や発育・発達に関すること
2. 食事や栄養に関すること
3. 子育ての方法がよく分からない
4. 子どもとの接し方に自信が持てない
5. 子どもとの時間を十分に取れない
6. 登園（登校）拒否などの問題について
7. 友達づきあい（いじめ等を含む）に関すること
8. 子どもの教育に関すること
9. その他（ ）
10. 特になし

【親自身に関すること】

1. 話し相手や相談相手がいない
2. 仕事や自分のやりたいことが十分にできない
3. 一人のゆっくりする時間がとれない
4. 子育てによる心身の疲れが大きい
5. 忙しくて睡眠不足である
6. 子どもを叱りすぎているような気がし、しつけに自信がない
7. 子育てのストレスで、子育てに影響が出ていると思う
8. 配偶者・パートナーと子育てに関して意見が合わない
9. 親族や周りの人と子育てに関して意見が合わない
10. 家庭の事情により、子育てがままならない
11. 子育てについて、親族・近所の人など周りの見る目が気になる
12. その他（ ）
13. 特になし

【協力・支援体制について】

1. 子育てに関しての配偶者・パートナーの協力が少ない
2. 配偶者・パートナー以外に子育てを手伝ってくれる人がいない
3. 地域の子育て支援サービスの内容や利用の方法が分からない
4. 気軽に相談できる場が少ない、またはない
5. 子育てに関する知識やアドバイスをしてくれる人や場が少ない、またはない
6. 一時預かり・延長保育・病児保育・ショートステイ等が充実していない
7. 小学校入学に関する相談場所・人が分からない
8. 虐待（疑いも含む）に関する相談場所・人が分からない
9. 親自身の心身や就労など相談できる場・人が少ない、またはない
10. 家庭内トラブルを相談する場・人が少ない、またはない
11. 障がいのある子どもへの支援や利用の方法が分からない
12. その他（ ）
13. 特になし

【環境について】

1. 住居が狭い
2. 近くに働く場が少ない, または多い
3. 買い物する場が少ない, または多い
4. 子どもの遊び場が少ない, または多い
5. 近くに専門医 (小児科等) がない
6. 子どもに関する行政手続きが分かりにくい
7. その他 ()
8. 特になし

【経済について】

1. 子育てで出費がかさむ
2. 予防接種 (自己負担分) が高い
3. その他 ()
4. 特になし

問32 鹿屋市の子育ての環境や支援への満足度について当てはまる番号1つに○をつけてください。

満足度が低い

1

2

3

4

5

満足度が高い

問33 最後に、教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。



2. 小学校児童

子ども・子育て支援に関するアンケート調査

調査へのご協力をお願い

皆様には日ごろから市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

鹿屋市では、国の子ども・子育て支援法に基づく、「子ども・子育て支援事業計画」を作成し、各種事業に取り組んでいます。

本調査は、令和7年度からの5年間を計画期間とする次期計画の策定にあたり、子育ての状況や保護者の皆様の教育・保育・子育て支援に関する「現在の利用状況」や「今後の利用希望」について把握するために鹿屋市が実施するものです。調査結果は、今後の鹿屋市の子育て支援施策の検討にあたり、大変貴重な資料となります。

つきましては、調査の趣旨をご理解いただき、率直なご意見等をお聞かせくださいますよう、ご協力をお願いいたします。

令和5年 11 月

鹿屋市長 中西 茂

【回答方法】

- ※ この調査は、小学生のお子さんがいらっしゃる保護者の方に協力をお願いするものです。
- ※ この調査は、無記名で個人が特定されることはありません。
- ※ 調査結果は、全て統計的に処理した上、計画の策定及び施策の実施の目的に限り用いられます。
- ※ タブレット端末や、お持ちのスマートフォンなどで、下記の QR コードから WEB アンケートにアクセスして回答してください。
- ※ タブレット端末等が使用できない方につきましては、下記問合せ先までご連絡ください。
- ※ 回答は、令和5年 11 月 1 日現在の状況で、学年が一番下のお子さんについて回答してください。
- ※ 設問によっては、複数選択いただくものや数字を選んでいただくものもあります。
- ※ 時間を記入いただく設問につきましては、時間は 30 分を境に、切捨て又は切り上げてご記入ください。 例):7:20 なら 7:00 とし、17:30 なら 18:00 としてお考えください。

<回答サイトの QR コード>

【WEB アンケート用 QR コード】

回答期限 令和5年 12 月 26 日（火）

https://questant.jp/q/kanoya_2



[問合せ先]

〒893-8501 鹿屋市共栄町 20 番 1 号
鹿屋市 保健福祉部 子育て支援課 保育幼稚園係
電話：0994-31-1134（直通）

この調査票における用語の定義・解説は以下のとおりです。参考にしてご回答ください。

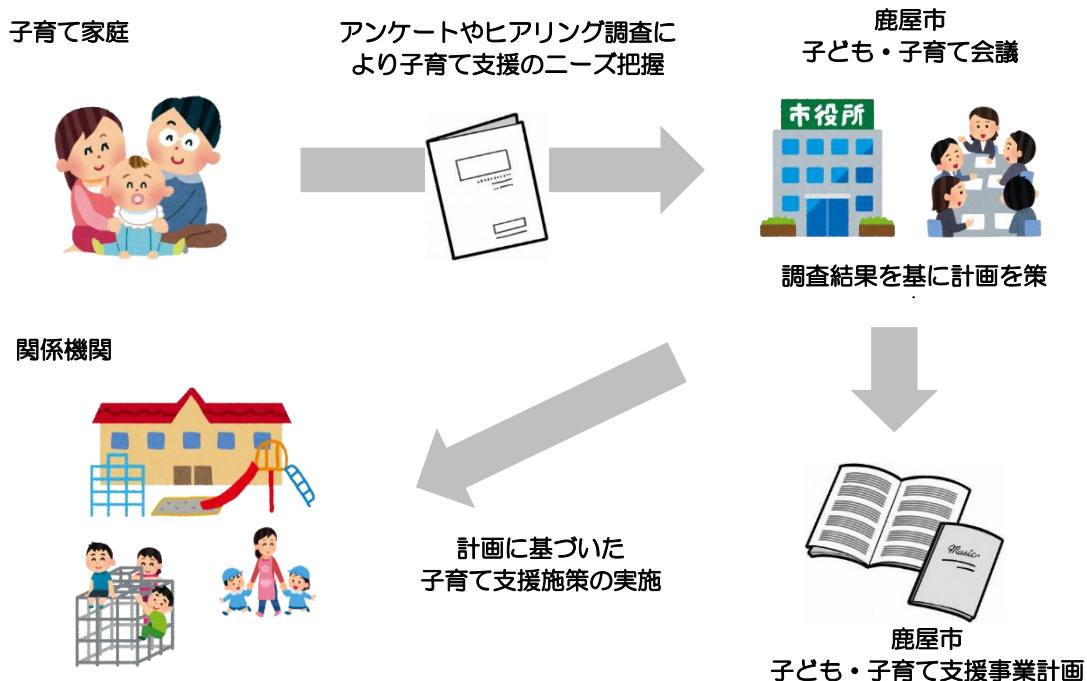
(用語の定義)

幼稚園	学校教育法に定める、3～5歳児に対して学校教育を行う施設（学校教育法第22条）
保育所	児童福祉法に定める、保育を必要とする0～5歳児に対して保育を行う施設（児童福祉法第39条）
認定こども園	幼稚園と保育所の機能を併せ持つ施設（就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律第2条第6項）
子育て教育	教育・保育その他の子どもの健やかな成長のために行われる支援 家庭での教育、幼児期の学校における教育の意味で用いています

(用語の解説)

ファミリー・サポート・センター	利用会員とサポート会員の相互援助活動として、保育所等の送迎や子どもの預かり等を行う事業
放課後児童クラブ	地域によって学童保育などと呼ばれています。保護者が就労等により昼間家庭にいない場合などに、指導員の下、子どもの生活の場を提供するもの
寺子屋	生涯学習の拠点施設である公民館等を活用し、異年齢での学習を希望したり、学ぶ環境が十分整っていない小学生を対象に実施するものです。週1回の学習と月1回の体験活動が原則ですが、地域によって異なります
児童センター	18歳までの子供を対象に遊びを中心とした幅広い活動の機会を提供する場

いただいた回答は、鹿屋市の子育て支援の充実に生かされます。



住まいの地域についておたずねします。

問1 お住まいの「地域」、「小学校区」を下の表の番号からそれぞれ選びご記入ください。なお、小学校区がわからない場合は、お近くの小学校区をお選びください。

(1) 地域		(2) 小学校区	

地域	町 丁 目 名	小学校区
1.市街地中心地域	古前城町 本町 新栄町 朝日町 向江町 共栄町 北田町 大手町 西大手町 曾田町 白崎町 王子町 打馬1～2丁目 下祓川町 西 祓川町	1.鹿屋小学校区 2.祓川小学校区 3.東原小学校区
2.寿地域	寿1～8丁目 新川町 旭原町 札元1～2丁目 笠之原町	4.笠野原小学校区 5.寿小学校区
3.西原地域	新生町 上谷町 西原1～4丁目 大浦町 郷之原町 今坂町 上野町 野里町	6.寿北小学校区 7.田崎小学校区
4.高隈地域	上高隈町 下高隈町	8.西原小学校区 9.西原台小学校区
5.東原・祓川地域	東原町 上祓川町 祓川町	10.花岡小学校区 11.野里小学校区
6.田崎地域	田崎町 川西町 川東町 永野田町 名貴町	12.大始良小学校区 13.南小学校区
7.大始良地域	飯隈町 池園町 萩塚町 星塚町 下堀町 田淵町 大始良町 獅子目町 南町 横山町	14.西俣小学校区 15.高隅小学校区
8.高須・浜田地域	高須町 浜田町 永小原町	16.大黒小学校区
9.古江・花岡地域	小野原町 天神町 船間町 古江町 古里町 白水町 海道町 花岡町 根木原町 花里町 有武町 小薄町 高牧町	
10.串良地域	細山田 有里 岡崎 下小原 上小原	17.串良小学校区 18.細山田小学校区 19.上小原小学校区
11.吾平地域	上名 下名 麓	20.吾平小学校区 21.鶴峰小学校区 22.下名小学校区
12.輝北地域	上百引 下百引 平房 市成 諏訪原	23.輝北小学校区

封筒の宛名のお子さんをご家族の状況についておたずねします。

問2 宛名のお子さんの生年月をご記入ください。

平成・令和（ ）年（ ）月生まれ	小学（ ）年生

問3 宛名のお子さんのきょうだいは何人いらっしゃいますか。宛名のお子さんを含めた人数をご記入ください。
2人以上のお子さんがいらっしゃる場合は、末子の生年月をご記入ください。

きょうだい数（ ）人	末子の生年月 平成・令和（ ）年（ ）月生まれ

問4 この調査票をご回答される方はどなたですか。宛名のお子さんからみた関係でお答えください。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 母親	2. 父親	3. その他（ ）

問5 この調査票をご回答されている方の配偶関係についてお答えください。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 配偶者がいる	2. 配偶者はいない

問6 ご家庭で宛名のお子さんの子育て（教育を含む）を主に行っているのはどなたですか。お子さんからみた関係で当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 父母ともに	2. 主に母親	3. 主に父親
4. 主に祖父母	5. その他（ ）	

問9 子育てをする上で、周囲（身近な人、行政など）からどのようなサポートがあればよいとお考えでしょうか。ご自由にお書きください。

宛名のお子さんの保護者の就労状況についておたずねします。

問10 宛名のお子さんの保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をおたずねします。
 母親・父親の就労状況について、母親・父親それぞれ当てはまる番号 1 つに○をつけてください。
 母子家庭・父子家庭のかたはいずれか片方に○をつけてください)

就労状況	母親	父親	
「フルタイム」で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	1	1	⇒ 問10-1へ
「フルタイム」で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	2	2	
「パート・アルバイト等」で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	3	3	
「パート・アルバイト等」で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	4	4	
以前は就労していたが、現在は就労していない	5	5	⇒ 問12へ
これまで就労したことがない	6	6	

※「フルタイム」：1週5日程度・1日8時間程度の就労

※「パート・アルバイト等」：「フルタイム」以外の就労

問10-1 問10で「1.～4.」（就労している）に○をつけた方におたずねします。

週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間（残業時間を含む）」をお答えください。就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。

また、家を出る時刻と帰宅時刻をお答えください。時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。

産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。

※母親・父親それぞれに記入をお願いします。

（母子家庭・父子家庭のかたはいずれか片方に記入をお願いします）

母親	1 週当たり （ ） 日	1 日当たり （ ） 時間
	家を出る時刻 （ ） 時	帰宅時刻 （ ） 時
父親	1 週当たり （ ） 日	1 日当たり （ ） 時間
	家を出る時刻 （ ） 時	帰宅時刻 （ ） 時

- 問 1 1** 問 10 で「3.4.」（パート・アルバイト等で就労している）に○をつけた方におたずねします。該当しない方は、問 12 へお進みください。
フルタイムへの転換希望はありますか。母親・父親それぞれ当てはまる番号 1 つに○をつけてください。
（母子家庭・父子家庭のかたはいずれか片方に○をつけてください）

就 労 希 望	母親	父親
フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある	1	1
フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない	2	2
パート・アルバイト等の就労を続けることを希望	3	3
パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい	4	4

※「フルタイム」：1週5日程度・1日8時間程度の就労

※「パート・アルバイト等」：「フルタイム」以外の就労

- 問 1 2** 問 10 で「5. 以前は就労していたが、現在は就労していない」または「6. これまで就労したことがない」に○をつけた方におたずねします。該当しない方は、問 13 へお進みください。
就労したいという希望はありますか。母親・父親それぞれ当てはまる番号・記号にそれぞれ 1 つに○をつけ、該当する（ ）内には数字をご記入ください。
（母子家庭・父子家庭のかたはいずれか片方に○をつけてください）

就労希望	母親	父親
子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）	1	1
1 年より先、一番下の子どもが（ ）歳になったころに就労したい	2	2
就労したいが、家庭状況（看護、介護、疾病等）により就労することができない	3	3
すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい	4	4

↓（4 と回答した方）希望する番号・記号に○をつけ、該当する（ ）内には数字をご記入ください

母親	父親
1. フルタイム	1. フルタイム
2. パートタイム・アルバイト等（「1」以外） ⇒1 週当たり（ ）日 1 日当たり（ ）時間	2. パートタイム・アルバイト等（「1」以外） ⇒1 週当たり（ ）日 1 日当たり（ ）時間

※「フルタイム」：1週5日程度・1日8時間程度の就労

※「パート・アルバイト等」：「フルタイム」以外の就労

宛名のお子さんの放課後（平日の小学校終了後）や休日の過ごし方についておたずねします。

※お子さんの現在の年齢に関わらずお答えください。

問13 宛名のお子さんについて、**小学校低学年（1～3年生）**のうちは、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたい（過ごさせたかった）と思いますか。当てはまる番号すべてに○をつけ、それぞれ希望する週当たり日数をご記入ください。また、「放課後児童クラブ」の場合には、利用を希望する時間もご記入ください。時間は、必ず（例）18時のように24時間制でご記入ください。

「放課後児童クラブ」・・・地域によって学童保育などと呼ばれています。保護者が就労等により昼間家庭にいない場合などに、指導員の下、子どもの生活の場を提供するものです。なお、事業の利用にあたっては、一定の利用料がかかります。

「寺子屋」・・・生涯学習の拠点施設である公民館等を活用し、異年齢での学習を希望したり、学ぶ環境が十分整っていない小学生を対象に実施するものです。週1回の学習と月1回の体験活動が原則ですが、地域によって異なります。

放課後の過ごし方	日数	
1. 自宅	週	日くらい
2. 祖父母宅や友人・知人宅	週	日くらい
3. 習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、スポーツ少年団、学習塾など）	週	日くらい
4. 寺子屋	週	日くらい
5. 放課後児童クラブ【学童保育】	週	日くらい
	→下校時から	時まで
6. ファミリー・サポート・センター	週	日くらい
7. 児童センター	週	日くらい
8. その他（公民館、公園など）	週	日くらい

問14 宛名のお子さんについて、**小学校高学年（4～6年生）**になったら（の方は）、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。（過ごさせていますか。）当てはまる番号すべてに○をつけ、それぞれの週当たり日数をご記入ください。また、「放課後児童クラブ」の場合には利用を希望する時間もご記入ください。時間は、必ず（例）18時のように24時間制でご記入ください。

放課後の過ごし方	日数	
1. 自宅	週	日くらい
2. 祖父母宅や友人・知人宅	週	日くらい
3. 習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、スポーツ少年団、学習塾など）	週	日くらい
4. 寺子屋	週	日くらい
5. 放課後児童クラブ【学童保育】	週	日くらい
	→下校時から	時まで
6. ファミリー・サポート・センター	週	日くらい
7. 児童センター	週	日くらい
8. その他（公民館、公園など）	週	日くらい

※低学年の方は将来のことになりますが、現在お持ちのイメージでお答えください。

■「放課後児童クラブ」・・・地域によって学童保育などと呼ばれています。保護者が就労等により昼間家庭にいない場合などに、指導員の下、子どもの生活の場を提供するものです。なお、事業の利用にあたっては、一定の利用料がかかります。

「寺子屋」・・・生涯学習の拠点施設である公民館等を活用し、異年齢での学習を希望したり、学ぶ環境が十分整っていない小学生を対象に実施するものです。週1回の学習と月1回の体験活動が原則ですが、地域によって異なります。

問15 問13または問14で「5. 放課後児童クラブ（学童保育）」に○をつけた方におたずねします。

宛名のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、放課後児童クラブの利用希望はありますか。なお、事業の利用には、一定の利用料がかかります。（1）（2）それぞれについて、当てはまる番号1つに○をつけてください。また利用したい時間帯をご記入ください。時間は、必ず（例）9時～18時のように24時間制でご記入ください。

（1）土曜日

1. 低学年（1～3年生）の間は利用したい	利用したい時間帯
2. 高学年（4～6年生）になっても利用したい	（ ）時から（ ）時
3. 利用する必要はない	

（2）日曜日・祝日

1. 低学年（1～3年生）の間は利用したい	利用したい時間帯
2. 高学年（4～6年生）になっても利用したい	（ ）時から（ ）時
3. 利用する必要はない	

問16 宛名のお子さんについて、お子さんの夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望はありますか。なお、事業の利用には、一定の利用料がかかります。当てはまる番号1つに○をつけてください。また利用したい時間帯をご記入ください。時間は、必ず（例）9時～18時のように24時間制でご記入ください。

1. 低学年（1～3年生）の間は利用したい	利用したい時間帯
2. 高学年（4～6年生）になっても利用したい	（ ）時から（ ）時
3. 利用する必要はない	

宛名のお子さんの病気の際の対応についておたずねします。

問17 この1年間に、宛名のお子さんが病気やケガで学校に行けなかったことはありますか。

1. あった	⇒ 問18-1へ	2. なかった	⇒ 問19へ

問18 問17で「1. あった」に○をつけた方におたずねします。

宛名のお子さんが病気やけがで小学校に通うことができなかった場合に、この1年間に行った対処方法として当てはまる記号すべてに○をつけ、それぞれの日数もご記入ください。（半日程度の対応の場合も1日とカウントしてください。）

1年間の対処方法	平日の日数	土日祝の日数
ア. 父親が休んだ	日	日
イ. 母親が休んだ	日	日
ウ. （同居者を含む）親族・知人に子どもをみてもらった	日	日
エ. 父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた	日	日
オ. ファミリー・サポート・センターを利用した	日	日
カ. 仕方なく子どもだけで留守番をさせた	日	日
キ. 病児保育を利用した	日	日
ク. その他（ ）	日	日

問18-1 問18で「ウ。」～「ク。」のいずれかに○をつけた方におたずねします。

その際、「できれば父母いずれかが仕事を休んで看たい」と思われましたか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. できれば仕事を休んで看たい ⇒ ()日 ⇒ 問19へ
2. 休んで看ることは非常に難しい ⇒ 問18-3へ

問18-2 問18-1で「2 休んで見ることは非常に難しい」に○をつけた方におたずねします。

そう思われる理由は何ですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 子どもの看護を理由に休みがとれない
2. 勤務先に看護休暇等の制度がない
3. 自営業なので休めない
4. 休暇日数が足りないので休めない
5. 仕事が忙しくて休めない
6. その他（ ）

問18-3 その他、お子さんの病気の際の対応について、ご意見がございましたらお書きください。

すべての方に、鹿屋市の子育ての環境や支援についておたずねします

問19 子どもを健やかに生み育てる上で、どのような悩みや不安等に対して、市に支援を期待しますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

【子どもに関すること】

1. 病気や発育・発達に関すること
2. 食事や栄養に関すること
3. 子育ての方法がよく分からない
4. 子どもとの接し方に自信が持てない
5. 子どもとの時間を十分に取れない
6. 登園（登校）拒否などの問題について
7. 友達づきあい（いじめ等を含む）に関すること
8. 子どもの教育に関すること
9. その他（）
10. 特になし

【親自身に関すること】

1. 話し相手や相談相手がいらない
2. 仕事や自分のやりたいことが十分に出来ない
3. 一人のゆっくりする時間がとれない
4. 子育てによる心身の疲れが大きい
5. 忙しくて睡眠不足である
6. 子どもを叱りすぎているような気がし、しつけに自信がない
7. 子育てのストレスで、子育てに影響が出ていると思う
8. 配偶者・パートナーと子育てに関して意見が合わない
9. 親族や周りの人と子育てに関して意見が合わない
10. 家庭の事情により、子育てがままならない
11. 子育てについて、親族・近所の人など周りの見目が気になる
12. その他（）
13. 特になし

【協力・支援体制について】

1. 子育てに関しての配偶者・パートナーの協力が少ない
2. 配偶者・パートナー以外に子育てを手伝ってくれる人がいない
3. 地域の子育て支援サービスの内容や利用の方法が分からない
4. 気軽に相談できる場が少ない、もしくはない
5. 子育てに関する知識やアドバイスをしてくれる人や場が少ない、もしくはない
6. 一時預かり・延長保育・病児保育・ショートステイ等が充実していない
7. 小学校入学に関する相談場所・人が分からない
8. 虐待（疑いも含む）に関する相談場所・人が分からない
9. 親自身の心身や就労など相談できる場・人が少ない、もしくはない
10. 家庭内トラブルを相談する場・人が少ない、もしくはない
11. 障がいのある子どもに対する支援や利用の方法が分からない
12. その他（）
13. 特になし

【環境について】

1. 住居が狭い
2. 近くに働く場が少ない, もしくはない
3. 買い物する場が少ない, もしくはない
4. 子どもの遊び場が少ない, もしくはない
5. 近くに専門医 (小児科等) がない
6. 子どもに関する行政手続きが分かりにくい
7. その他 ()
8. 特になし

【経済について】

1. 子育てで出費がかさむ
2. 予防接種 (自己負担分) が高い
3. その他 ()
4. 特になし

問20 鹿屋市の子育ての環境や支援への満足度について当てはまる番号1つに○をつけてください。

満足度が低い		満足度が高い
1	2 3 4	5

問21 最後に、教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

3. 小学5年生

こ せいかつじょうきょうちょうさ 子どもの生活状況調査



ちょうさ きょうりょく ねが 調査へのご協力をお願い

皆様には日ごろから市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

鹿屋市では、こどもが夢や希望をもって健やかに成長できる社会を目指して、子どもと家庭の生活状況を把握することにより、安心してよりよい生活を送ることができるよう「子どもの生活状況調査」を実施します。このアンケートは市内の小学5年生と、その保護者の方をお願いするものです。

趣旨をご理解いただき、率直なご意見等をお聞かせくださいますようご協力をお願いいたします。

令和5年 11 月

鹿屋市長 中西 茂

【はじめにお読みください】

- この調査は、お子さんやご家庭の生活の状況などについてお聞きします。
- この調査は、お名前を答える質問はありません。ご回答は統計的に処理され、個人が特定されることはありません。（ID 番号は、データ整理のために使用するものであり、個人を特定するものではありません。）
- それでは、小学5年生は【小学5年生・児童】へ、保護者は【保護者】へ、お進みください。
- ※ 【小学5年生・児童】には、説明を再度していますので、よくお読みになり回答へお進みください。

【小学5年生・児童】	【保護者】
※ 自分の思う答えを回答してください。まちがった答えや正しい答えはありません。 ※ 答えたくない質問は答えなくてよいです。（質問はとばして、次に進んでください。） ※ あなたがどのように答えたかは、だれにも分かりません。学校の先生に見られることはありません。 【回答方法】 ・下の QR コードをタブレット端末で読み込んで、WEB アンケートにアクセスしてください。 ・アンケートの最初に、左下の【ID 番号】を入力してください。入力しても、あなたがどのように答えたか、分かることはありません。  ⇐ 【児童用 QR コード】 https://questant.jp/q/kanoya_3 （回答期限） 令和5年 12 月 21 日（木）	【回答方法】 ・お持ちのスマートフォンなどで、下記の QR コードから WEB アンケートにアクセスして回答してください。 ・QR コードは「児童用」と質問内容が違いますので、お間違いないようお願いいたします。 ・アンケートの最初に左下の【ID 番号】を入力してください。（番号を入力しても個人が特定されることはありません。） 【保護者用 QR コード】⇒ https://questant.jp/q/kanoya_4 （回答期限） 令和5年 12 月 26 日（火） 

【ID 番号】

【問合せ先】 鹿屋市 子育て支援課 保育幼稚園係
電話：0994-31-1134（直通）

この調査票における用語の定義・解説は以下のとおりです。参考にしてご回答ください。

(用語の定義)

幼稚園	学校教育法に定める、3～5歳児に対して学校教育を行う施設（学校教育法第22条）
保育所	児童福祉法に定める、保育を必要とする0～5歳児に対して保育を行う施設（児童福祉法第39条）
認定こども園	幼稚園と保育所の機能を併せ持つ施設（就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律第2条第6項）
子育て	教育・保育その他の子どもの健やかな成長のために行われる支援
教育	家庭での教育、幼児期の学校における教育の意味で用いています

(用語の解説)

認可保育所	国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けた定員20人以上のもの
認定こども園	幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設
就学援助	経済的理由により子供の就学が困難な場合に、学用品費等を補助する制度
生活保護	病気や失業などにより生活費等に困り、他に方法がないときに一定の援助が受けられる制度
生活困窮者の自立支援相談窓口	お金、仕事、住宅など、様々な課題を抱えた生活に困窮する方のための相談窓口。専門の支援員が具体的な支援プランを作成し、課題の解決に向けた支援を行う
児童扶養手当	所得が一定水準以下のひとり親世帯の生活支援のための手当。（児童手当とは異なります。）
ひとり親家庭等就業・自立支援センター	ひとり親の方が、仕事探しに関する相談や講習を受けられる支援センター。養育費の取り決めなどに関する相談も受けられる。

いただいた回答は、鹿屋市の子育て支援の充実に生かされます。

子育て家庭



アンケートやヒアリング調査により
子育て支援のニーズ把握



鹿屋市
子ども・子育て会議



調査結果を基に計画を策定

関係機関



計画に基づいた
子育て支援施策の実施



鹿屋市
子ども・子育て支援事業計画

問1 住んでいる「地域」、「小学校区」を下の表からそれぞれ選び番号をご記入ください。なお、小学校区がわからない場合は、お近くの小学校区をお選びください。

(1) 地域		(2) 小学校区	

地域	町 丁 目 名	小学校区
1.市街地中心地域	古前城町 本町 新栄町 朝日町 向江町 共栄町 北田町 大手町 西大手町 曾田町 白崎町 王子町 打馬1～2丁目 下祓川町 西 祓川町	1.鹿屋小学校区 2.祓川小学校区 3.東原小学校区
2.寿地域	寿1～8丁目 新川町 旭原町 札元1～2丁目 笠之原町	4.笠野原小学校区 5.寿小学校区
3.西原地域	新生町 上谷町 西原1～4丁目 大浦町 郷之原町 今坂町 上野町 野里町	6.寿北小学校区 7.田崎小学校区
4.高隈地域	上高隈町 下高隈町	8.西原小学校区 9.西原台小学校区
5.東原・祓川地域	東原町 上祓川町 祓川町	10.花岡小学校区 11.野里小学校区
6.田崎地域	田崎町 川西町 川東町 永野田町 名貴町	12.大始良小学校区 13.南小学校区
7.大始良地域	飯隈町 池園町 萩塚町 星塚町 下堀町 田淵町 大始良町 獅子目町 南町 横山町	14.西俣小学校区 15.高隅小学校区
8.高須・浜田地域	高須町 浜田町 永小原町	16.大黒小学校区
9.古江・花岡地域	小野原町 天神町 船間町 古江町 古里町 白水町 海道町 花岡町 根木原町 花里町 有武町 小薄町 高牧町	
10.串良地域	細山田 有里 岡崎 下小原 上小原	17.串良小学校区 18.細山田小学校区 19.上小原小学校区
11.吾平地域	上名 下名 麓	20.吾平小学校区 21.鶴峰小学校区 22.下名小学校区
12.輝北地域	上百引 下百引 平房 市成 諏訪原	23.輝北小学校区

問2 あなたの性別を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

1. 男	2. 女	3. その他・答えたくない

問3 あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。

※勉強には学校の宿題もふくみます。(1～8については、あてはまるものすべてに○)

1. 自分で勉強する
2. 塾で勉強する
3. 放課後児童クラブで勉強する
4. 家庭教師に教えてもらう
5. 家の人に教えてもらう
6. 友達と勉強する
7. その他
8. 学校の授業以外で勉強はしない

問4 あなたは、ふだん学校の授業以外に、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。

※学校の宿題をする時間や、塾などで勉強する時間も合計します。

(a,bそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	まったくしない	30分より少ない	1時間より少ない 30分より多い	2時間より少ない 1時間より多い	3時間より少ない 2時間より多い	3時間以上
a) 学校がある日 (月～金曜日)	1	2	3	4	5	6
b) 学校がない日 (土・日曜日・祝日)	1	2	3	4	5	6

問5 あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。(あてはまるもの1つに○)

1. わかる。⇒問7に進んでください。	2. だいたいわかる。⇒問7に進んでください。
3. 教科によってはわからないことがある	4. わからないことが多い
5. ほとんどわからない	



問6 前の質問で「3. 教科によってはわからないことがある」「4. わからないことが多い」「5. ほとんどわからない」と答えた人にお聞きします。

いつごろから、授業がわからないことがあるようになりましたか。(あてはまるもの1つに○)

1. 1・2年生のころ	2. 3年生のころ
3. 4年生のころ	4. 5年生になってから

問7 あなたは、将来、どの学校まで進学して学びたいですか。(あてはまるもの1つに○)

1. 中学まで
2. 中学、高校まで
3. 中学、高校、専門学校まで
4. 中学、高校、短大まで
5. 中学、高校、大学または大学院まで
6. まだわからない、⇒問10に進すすんでください。

▶ 問8 前の質問で1～5と答えた場合、その理由を教えてください。
(1～9については、あてはまるものすべてに○)

1. 希望する学校や職業があるから
2. 自分の成績から考えて
3. 親がそう言っているから
4. 兄・姉がそうしているから
5. まわりの先輩や友達がそうしているから
6. 家にお金がないと思うから
7. 早く働く必要があるから
8. その他
9. とくに理由はない

問9 あなたは、将来の夢や目標をもっていますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 持っている
2. 持っていない

問10 あなたの一番仲が良い友だちは、どのような友だちですか。(あてはまるもの1つ○)

1. 学校の友だち
2. 学校はいっしょではないけれども、近所に住んでいる友だち
3. スポーツクラブやスポーツ少年団などの友だち
4. 塾や習い事の友だち
5. その他の友だち
6. とくに仲の良い友だちはいない

問11 あなたは、スポーツクラブやスポーツ少年団などに参加していますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 参加している⇒ 問13に進んでください。
2. 参加していない

▶ 問12 前の質問で「2. 参加していない」と答えた人にお聞きします。
参加していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 入りたいクラブ・少年団がないから
2. 塾や習い事が忙しいから
3. お金がかかるから
4. 家の事情(家族の世話、家事など)があるから
5. 一緒に入る友達がいないから
6. 特に理由はない
7. その他

問 13 あなたは週にどのくらい食事をしていますか。(a～c それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	毎日食べる (週7日)	週5～6日	週3～4日	週1～2日 ほとんど食べない
a) 朝食	1	2	3	4
b) 夕食	1	2	3	4
c) 夏休みや冬休みなどの期間の昼食	1	2	3	4

問 14 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)朝食をだれとたべますか。
(1～6については、あてはまるものすべてに○)

1. 家族（親）
2. 家族（きょうだい）
3. 家族（おじいちゃん・おばあちゃんなど）
4. 家族以外の人
5. 一人で食べる
6. 朝食は食べない

問 15 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)夕食をだれとたべますか。
(1～6については、あてはまるものすべてに○)

1. 家族（親）
2. 家族（きょうだい）
3. 家族（おじいちゃん・おばあちゃんなど）
4. 家族以外の人
5. 一人で食べる
6. 夕食は食べない

問 16 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、だれとどのくらい会話や、やり取りをしますか。

	よくある	時々ある	い う ま う よ	な か っ た
①家族（親）	1	2	3	4
②家族（きょうだい）	1	2	3	4
③家族（おじいちゃん・おばあちゃんなど）	1	2	3	4
④学校の友だち	1	2	3	4
⑤学校以外の友だち	1	2	3	4
⑥インターネットやゲームで知り合った人	1	2	3	4

問 17 あなたは、学校が終わってから放課後(夕方 6 時くらいまで)は、だれと過ごすことが多いですか。
(いっしょに過ごすことが一番多い人に○)

1. 家族(親、きょうだい、おじいちゃん・おばあちゃん、親せきなど)
2. 放課後児童クラブの先生
3. 学校の友達
4. 学校以外の友達(スポーツクラブやスポーツ少年団など、近所の友だち)
5. 近所の大人、塾や習い事の先生
6. 一人で過ごしている

問 18 あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、何時ごろに寝ていますか。(あてはまるもの 1 つに○)。

1. 午後 9 時より前
2. 午後 9 時台
3. 午後 10 時台
4. 午後 11 時台
5. 午前 0 時以降

問 19 あなたは、これまで以下のようなことがありましたか。

	た く う つ	た き ま う つ	か う ま う つ た	な か う つ た
①学校に行きたくない	1	2	3	4
②1 カ月以上学校を休んだ(病気はのぞく)	1	2	3	4
③夜遅くまで子供だけで過ごした	1	2	3	4
④友だちとけんかした	1	2	3	4
⑤いじめられた	1	2	3	4

問 20 あなたは、学校がお休みの日はどこで過ごしますか。(一番多く過ごす場所に○)

1. 自分の家
2. 友達の家
3. 公園、図書館、公民館
4. 塾や習い事
5. スポーツクラブやスポーツ少年団などの練習・試合の場所(サッカー場や野球場など)
6. おじいちゃん・おばあちゃん、親せきの家
7. スーパーやコンビニなどのお店
8. その他

問 21 あなたに困っていることや悩みごとがあるとき、あなたが相談できると思う人はだれですか。
(1～9については、あてはまるものすべてに○)

1. 親
2. きょうだい
3. 祖父母やいとこなどの親せき
4. 学校の先生
5. 学校の友だち
6. 学校外の友だち
7. スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど
8. その他の大人(学童保育所の人、塾・習い事・スポーツ少年団などの先生や監督・コーチ、地域の人など)
9. ネットで知り合った人
10. だれにも相談できない、相談したくない

問 22 全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。「0」(まったく満足していない)から「10」(十分に満足している)の数字で教えてください。(あてはまるもの1つに○)。

0 まったく満足していない									10 十分に満足している	
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

問 23 以下のそれぞれの質問について、「1. あてはまらない」「2. まああてはまる」「3. あてはまる」のどれかから回答してください。回答は、あなたが 5 年生になってからのあなたのことについて答えてください。答えに自信がなくても、全部の質問に答えてください。
(a～o それぞれについて、あてはまるもの 1 つに○)。

	あてはまらない	まああてはまる	あてはまる
a) 他人にはやさしくするようにしている。人の気持ちを考えて行動している	1	2	3
b) よく頭やお腹がいたくなったり、気持ちが悪くなったりする。	1	2	3
c) たくさんの人と一緒にいるより、一人でいる方が好きだ	1	2	3
d) 心配ごとが多くて、いつも不安だ	1	2	3
e) だれかが困っているときは、進んで助ける	1	2	3
f) 仲の良い友だちがいる	1	2	3
g) 落ち込んでしずんでいたり、泣きそうになることがよくある	1	2	3
h) いつもとちがうことが起きると不安になったり、自信をなくしたりする	1	2	3
i) 年下の子供たちにやさしくしている	1	2	3
j) 他の子どもから、いじめられたり、からかわれたりすることがある。	1	2	3
k) 自分からすすんでよくお手伝いをする（親・先生・他の子どもたちなど）。	1	2	3
l) 同じ年くらいの子供ともいっしょにいるより、大人という方が気が楽だ	1	2	3
m) こわがりで、すぐにおびえたりする。	1	2	3
n) 学校で過ごすことは楽しい	1	2	3
o) 自分は家族に大切にされている	1	2	3
p) 自分の将来が楽しみ	1	2	3
q) 自分のことが好き	1	2	3

問 24 あなたは、自分や家族のことなどで、心配なことや困っていることがありますか。(あてはまるもの1つに○)

1. ある

2. ない ⇒問 26 に進んでください。

▶ **問 25** どんな心配ごとや困っていることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 家族との時間や会話が少ない
2. 一緒に住んでいる大人から、あなたの悪口を言われたりする
3. 一緒に住んでいる大人から、たたかれたり、けられたり、物を投げられたりしたことがある
4. あなたとお父さんやお母さんとの仲が良くない
5. あなたときょうだいとの仲が良くない
6. あなたのお父さんとお母さんの仲が良くない
7. 食べるごはんがないときがある
8. 一緒に住んでいる人が、だれかにたたかれたり、けられたり、なぐられたり、おどされたりしたことがある
9. あなたが、病気の家族の世話をしている
10. あなたが、きょうだいの世話や、家事(ごはんを作ったり、掃除や洗濯など)をしている
11. その他

※上のようなことで、つらい気持ちの場合は、市の相談窓口(子育て支援課：0994-35-1061)、学校のスクールカウンセラーや「チャイルドライン(子どものための相談先)」(フリーダイヤル 0120-99-7777)に話してみてください。

問 26 あなたは、次の a～d のような場所を利用してみたいですか。(a～d それぞれについて、あてはまるもの 1 つに○)

	現在、 利用している	利用しない		
		あれば 利用したい	利用し てみたいが ない	必要 がない
a) (自分や友人の家以外で)平日の夜や休日を過ごすことができる場所 (学 童保育所など)	1	2	3	4
b)(自分や友人の家以外で) ごはんを無料か安く食べることができる場所 (こども食堂など)	1	2	3	4
c) 勉強を無料でみてくれる場所	1	2	3	4
d) (家や学校以外で) 何でも相談できる場所 (電話やネットの相談を含 む。)	1	2	3	4

問 27 前の質問で、1 つでも「1. 現在、利用している」と答えた方にお聞きします。そこを利用しているこ
とで、以下のような変化がありましたか。(1～8 については、あてはまるものすべてに○)

1. 友だちが増えた
2. 気軽に話せる大人が増えた
3. 生活の中で楽しいことが増えた
4. ほっとできる時間が増えた
5. 栄養のある食事をとれることが増えた
6. 勉強がわかるようになった
7. 勉強する時間が増えた
8. その他
9. 特に変化はない

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

4. 小学5年生保護者

こ
せいかつじょうきょうちょうさ
子どもの生活状況調査



ちょうさきょうりよくねが
調査へのご協力のお願い

皆様には日ごろから市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

鹿屋市では、こどもが夢や希望をもって健やかに成長できる社会を目指して、子どもと家庭の生活状況を把握することにより、安心してよりよい生活を送ることができるよう「子どもの生活状況調査」を実施します。このアンケートは市内の小学5年生と、その保護者の方にお問い合わせするものです。

趣旨をご理解いただき、率直なご意見等をお聞かせくださいますようご協力をお願いいたします。

令和5年11月
鹿屋市長 中西 茂

【はじめにお読みください】 ○ この調査は、お子さんやご家庭の生活の状況などについてお聞きします。 ○ この調査は、お名前を答える質問はありません。ご回答は統計的に処理され、個人が特定されることはありません。(ID番号は、データ整理のために使用するものであり、個人を特定するものではありません。) ○ それでは、小学5年生は【小学5年生・児童】へ、保護者は【保護者】へ、お進みください。 ※ 【小学5年生・児童】には、説明を再度していますので、よくお読みになり回答へお進みください。	
【小学5年生・児童】 ※ 自分の思う答えを回答してください。まちがった答えや正しい答えはありません。 ※ 答えたくない質問は答えなくてよいです。(質問はとばして、次に進んでください。) ※ あなたがどのように答えたかは、だれにも分かりません。学校の先生に見られることはありません。 【回答方法】 ・下のQRコードをタブレット端末で読み込んで、WEBアンケートにアクセスしてください。 ・アンケートの最初に、左下の【ID番号】を入力してください。入力しても、あなたがどのように答えたか、分かることはありません。  ⇐【児童用QRコード】 https://questant.jp/q/kanoya_3 (回答期限) 令和5年12月21日(木)	【保護者】 【回答方法】 ・お持ちのスマートフォンなどで、下記のQRコードからWEBアンケートにアクセスして回答してください。 ・QRコードは「児童用」と質問内容が違いますので、お間違いのないようお願いいたします。 ・アンケートの最初に左下の【ID番号】を入力してください。(番号を入力しても個人が特定されることはありません。) 【保護者用QRコード】⇒ https://questant.jp/q/kanoya_4 (回答期限) 令和5年12月26日(火) 

【ID番号】

【問合せ先】 鹿屋市 子育て支援課 保育幼稚園係
電話：0994-31-1134 (直通)

この調査票における用語の定義・解説は以下のとおりです。参考にしてご回答ください。

（用語の定義）

幼稚園	学校教育法に定める、3～5歳児に対して学校教育を行う施設（学校教育法第22条）
保育所	児童福祉法に定める、保育を必要とする0～5歳児に対して保育を行う施設（児童福祉法第39条）
認定こども園	幼稚園と保育所の機能を併せ持つ施設（就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律第2条第6項）
子育て	教育・保育その他の子どもの健やかな成長のために行われる支援
教育	家庭での教育、幼児期の学校における教育の意味で用いています

（用語の解説）

認可保育所	国が定める最低基準に適合した施設で都道府県等の認可を受けた定員20人以上のもの
認定こども園	幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設
就学援助	経済的理由により子供の就学が困難な場合に、学用品費等を補助する制度
生活保護	病気や失業などにより生活費等に困り、他に方法がないときに一定の援助が受けられる制度
生活困窮者の自立支援相談窓口	お金、仕事、住宅など、様々な課題を抱えた生活に困窮する方のための相談窓口。専門の支援員が具体的な支援プランを作成し、課題の解決に向けた支援を行う
児童扶養手当	所得が一定水準以下のひとり親世帯の生活支援のための手当。（児童手当とは異なります。）
ひとり親家庭等就業・自立支援センター	ひとり親の方が、仕事探しに関する相談や講習を受けられる支援センター。養育費の取り決めなどに関する相談も受けられる。

いただいた回答は、鹿屋市の子育て支援の充実に生かされます。

子育て家庭



アンケートやヒアリング調査により
子育て支援のニーズ把握



鹿屋市
子ども・子育て会議



調査結果を基に計画を策定

関係機関



計画に基づいた
子育て支援施策の実施



鹿屋市
子ども・子育て支援事業計画

この調査で「お子さん」とは、調査対象となる小学5年生のお子さんのことをいいます。「親」「母親」「父親」とは、継母や継父、母親や父親に代わる保護者の方を含みます。

問1 お住まいの「地域」、「小学校区」を下の表の番号からそれぞれ選びご記入ください。なお、小学校区がわからない場合は、お近くの小学校区をお選びください。

(1) 地域		(2) 小学校区	
地域	町 丁 目 名	小学校区	
1.市街地中心地域	古前城町 本町 新栄町 朝日町 向江町 共栄町 北田町 大手町 西大手町 曾田町 白崎町 王子町 打馬1～2丁目 下祓川町 西祓川町	1.鹿屋小学校区 2.祓川小学校区 3.東原小学校区 4.笠野原小学校区 5.寿小学校区 6.寿北小学校区 7.田崎小学校区 8.西原小学校区 9.西原台小学校区 10.花岡小学校区 11.野里小学校区 12.大始良小学校区 13.南小学校区 14.西俣小学校区 15.高隅小学校区 16.大黒小学校区	
2.寿地域	寿1～8丁目 新川町 旭原町 札元1～2丁目 笠之原町		
3.西原地域	新生町 上谷町 西原1～4丁目 大浦町 郷之原町 今坂町 上野町 野里町		
4.高隈地域	上高隈町 下高隈町		
5.東原・祓川地域	東原町 上祓川町 祓川町		
6.田崎地域	田崎町 川西町 川東町 永野田町 名貫町		
7.大始良地域	飯隈町 池園町 萩塚町 星塚町 下堀町 田淵町 大始良町 獅子目町 南町 横山町		
8.高須・浜田地域	高須町 浜田町 永小原町		
9.古江・花岡地域	小野原町 天神町 船間町 古江町 古里町 白水町 海道町 花岡町 根木原町 花里町 有武町 小薄町 高牧町		
10.串良地域	細山田 有里 岡崎 下小原 上小原	17.串良小学校区 18.細山田小学校区 19.上小原小学校区	
11.吾平地域	上名 下名 麓	20.吾平小学校区 21.鶴峰小学校区 22.下名小学校区	
12.輝北地域	上百引 下百引 平房 市成 諏訪原	23.輝北小学校区	

問 2 お子さんとあなたとの関係は、次のどれにあたりますか。お子さんからみた続柄でお答えください。

(あてはまるもの 1 つに○)

1. 母親	2. 父親
3. 祖父母	4. その他

問 3 お子さんと同居し、生計を同一にしているご家族の構成と人数をお答えください。単身赴任中の方や学業のために世帯を離れているお子さんがいる場合には、ご家族の人数に含めて教えてください。(a～h それぞれについて、あてはまるもの 1 つに○)

a) 祖母	b) 祖父	c) 母親	d) 父親	h) 合計 (あなたや対象のお子さんを含む)
0. いない 1. 1人 2. 2人	0. いない 1. 1人 2. 2人	0. いない 1. 1人	0. いない 1. 1人	2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人 6. 6人 7. 7人 8. 8人 9. 9人 10. 10人以上
e) 姉・兄	対象のお子さん (本人)	f) 妹・弟	g) その他	
0. いない 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上	1人	0. いない 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上	0. いない 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上	

問 4 お子さんの親の現在の年齢についてお答えください。

(母親・父親それぞれについて数字で回答、いない場合やわからない場合は「ー」と記入)

母親	歳	父親	歳

問 5 お子さんのご家族のうち、現在単身赴任中の方はいらっしゃいますか。

(1～3については、あてはまるものすべてに○)

1. お子さんの母親が単身赴任中	2. お子さんの父親が単身赴任中
3. その他	4. 単身赴任中の者はいない

問 6 お子さんと同居し、生計を同一にしている親の婚姻状況を教えてください。
(あてはまるもの1つに○)

1. 結婚している（再婚や事実婚を含む。）

2. 離婚

3. 死別

4. 未婚

5. わからない

6. いない

▶ **問 7** 前問で「2. 離婚」を選んだ場合、離婚相手と子供の養育費の取り決めをしていますか。
また養育費を現在受け取っていますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 取り決めをしており、受け取っている

2. 特に取り決めはしていないが、受け取っている

3. 取り決めをしているが、受け取っていない

4. 取り決めをしておらず、受け取っていない

問 8 お子さんの親が卒業・修了した学校をお答えください。
(a,b それぞれについて、あてはまるものひとつに○)

	a) 母親	b) 父親
中学	1	1
中学、高校	2	2
中学、高校、専門学校	3	3
中学、5年制の高等専門学校	4	4
中学、高校、短大	5	5
中学、高校（または5年制の高等専門学校）、大学	6	6
中学、高校（または5年制の高等専門学校）、大学、大学院	7	7
その他	8	8
わからない	9	9
いない	10	10

問 9 お子さんの親の就労状況について、あてはまるものを回答してください。
(a,b それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	a) 母親	b) 父親
正社員・正規職員・会社役員	1	1
嘱託・契約社員・派遣職員	2	2
パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員	3	3
自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む。)	4	4
働いていない(専業主婦／主夫を含む。)	5	5
わからない	6	6
いない	7	7

▶ **問 10** 前の質問で「5. 働いていない」と答えた場合、働いていない最も主な理由を教えてください。
(a,b それぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	a) 母親	b) 父親
働きたいが、希望する条件の仕事がないため	1	1
子育てを優先したいため	2	2
家族の介護・介助のため	3	3
自分の病気や障害のため	4	4
通学しているため	5	5
その他の理由	6	6

問 11 お子さんが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの(期間が長いもの)をお答えください。(あてはまるもの1つに○)

1. 認可保育所・認定こども園
2. その他の教育・保育等の施設
3. 親・親族以外の個人
4. 親・親族が面倒を見ていた
5. その他

問 12 お子さんが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの(期間が長いもの)をお答えください。(あてはまるもの1つに○)

1. 幼稚園・認可保育所・認定こども園
2. その他の教育・保育等の施設
3. 親・親族以外の個人
4. 親・親族が面倒を見ていた
5. その他

問 13 あなたとお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらい当てはまりますか。
(a～f それぞれについて、あてはまるもの 1 つに○)

	あてはまる	あてはまる ほとんど当てはまる	あてはまらない ほとんど当てはまらない	あてはまらない
a) テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている	1	2	3	4
b) お子さんに本や新聞を読むように勧めている	1	2	3	4
c) お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた	1	2	3	4
d) お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれる	1	2	3	4
e) お子さんと、お子さんの夢や将来についてよく話することがある	1	2	3	4
f) 学校が休みの日に、お子さんと一緒に外出することがよくある	1	2	3	4

問 14 あなたは、次のようなことをどの程度していますか。(a,b それぞれについて、あてはまるもの 1 つに○)

	よく参加している	ときどき参加している	ほとんど参加していない	まったく参加していない
a) 授業参観や運動会などの学校行事への参加	1	2	3	4
b) P T A 活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加	1	2	3	4
c) スポーツクラブやスポーツ少年団等の応援などへの参加	1	2	3	4

問 15 あなたは、お子さんの将来の進学について、どこまで進学してほしいと思いますか。(あてはまるものひとつに○)

1. 中学
2. 中学、高校
3. 中学、高校、専門学校
4. 中学、5年制の高等専門学校
5. 中学、高校、短大
6. 中学、高校（または5年制の高等専門学校）、大学
7. 中学、高校（または5年制の高等専門学校）、大学、大学院
8. その他
9. まだわからない。⇒問 17 に進すすんでください。

問 16 前の質問で1～8と答えた場合、その理由は何ですか。
(1～5については、あてはまるものすべてに○)

1. お子さんがそう希望しているから
2. 一般的な進路だと思うから
3. お子さんの学力から考えて
4. 家庭の経済的な状況から考えて
5. その他
6. 特に理由はない

問 17 お子さんは、学校での学習で分からないことを、主に誰に教えてもらっていますか。
(あてはまるものひとつに○)

1. 学校の先生（放課後）
2. 学校の友達
3. 親やきょうだいなどの家族
4. 放課後児童クラブ等の職員
5. 塾（家庭教師を含む）の先生
6. その他
7. わからない

問 18 お子さんが学校以外で勉強している場所について、教えてください。
(時間が長いものから、あてはまるもの3つ選択)

1 番 目	2 番 目	3 番 目
1. 自宅（子ども部屋） 2. 自宅（子ども部屋以外） 3. 祖父母宅 4. 友人宅 5. 放課後児童クラブ 6. 寺子屋等 7. 塾 8. 勉強はしていない 9. その他		

問 19 お子さんが放課後に過ごす場所として、今後利用したい（適している）と思う場所を教えてください。

（今後利用したい順に、あてはまるもの3つ選択）

1. 自宅
2. 祖父母宅
3. 友人宅
4. 放課後児童クラブ
5. 寺子屋
6. 塾・習い事（スポーツ少年団含む）
7. 公園等の屋外
8. その他

問 20 経済的な理由により、子どもの学習意欲にこたえられなかったことがありますか。

（あてはまるものひとつに○）

1. ある
2. ない

問 21 経済的な理由により、子どもの進路選択の幅が狭くなるなど、子どもの進路に不安をいだいたことがありますか。（あてはまるものひとつに○）

1. ある
2. ない

問 22 教育関連の支出について、負担に感じるものはありますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 教材費
2. 学用品費
3. 給食費
4. 修学旅行費
5. 学校外教育費（塾・習い事等（スポーツ少年団含む）の費用）
6. 放課後児童クラブ保護者負担金
7. その他
8. 負担に感じるものはない

問 23 あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。

(a～c それぞれについて、1～3のあてはまるもの1つに○)

また、「1. 頼れる人がいる」場合、それはだれですか。(①～⑦のあてはまるものすべてに○)

	a) 子育てに関する相談	b) 重要な事柄の相談	c) いざという時のお金の援助
頼れる人がいる	1	1	1
家族・親族	①	①	①
友人・知人	②	②	②
近所の人	③	③	③
職場の人	④	④	④
民生委員・児童委員	⑤	⑤	⑤
相談・支援機関や福祉の人	⑥	⑥	⑥
その他	⑦	⑦	⑦
いない	2	2	2
そのことでは人に頼らない	3	3	3

①～⑦のあてはまるものすべてに○をつけた場合

問 24 あなたは、現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 大変ゆとりがある
2. ゆとりがある
3. ふつう
4. 苦しい
5. 大変苦しい

問 25 世帯全体のおおよその年間収入(税込)はいくらですか。(あてはまるもの1つに○)

※令和4年の年間収入についてお答えください。

※収入には、同居し、生計を同一にしている家族全員の以下の収入が含まれます。

- ・勤め先収入（定期収入、賞与等）
- ・事業収入（原材料費、人件費、営業上の諸経費等を除く）、内職収入（材料費等を除く）
- ・公的年金・恩給、その他の社会保障給付金（生活保護、児童手当、児童扶養手当等）
- ・農林漁業収入（農機具等の材料費、営業上の諸経費等を除く）
- ・資産収入（預貯金利子、家賃収入等。家・土地などの資産売却代金や生命保険・損害保険からの受取金等は除く。）
- ・その他の収入（仕送り、養育費、個人年金、各種祝い金等）

1. 50万円未満
2. 50～100万円未満
3. 100～150万円未満
4. 150～200万円未満
5. 200～250万円未満
6. 250～300万円未満
7. 300～350万円未満
8. 350～400万円未満
9. 400～450万円未満
10. 450～500万円未満
11. 500～600万円未満
12. 600～700万円未満
13. 700～800万円未満
14. 800～900万円未満
15. 900～1000万円未満
16. 1000万円以上

問 26 お子さんに係る1カ月の教育費等の支出は、おおよそいくらくらいですか。(給食費・学級費・塾や習い事(スポーツクラブや少年団含む)の月謝・放課後児童クラブ利用料等)

1. 5千円未満
2. 5千円～1万円未満
3. 1万円～1万5千円未満
4. 1万5千円～2万円未満
5. 2万円～2万5千円未満
6. 2万5千円～3万円未満
7. 3万円以上

問 27 あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品は含みません。(あてはまるもの1つに○)

1. よくあった
2. ときどきあった
3. まれにあった
4. まったくなかった

問 29 あなたの世帯では、過去 1 年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えないことがありましたか。ただし、高価な衣服や貴金属・宝飾品は含みません。(あてはまるもの 1 つに○)

1. よくあった
2. ときどきあった
3. まれにあった
4. まったくなかった

問 30 あなたの世帯では、過去 1 年の間に、以下の料金について、経済的な理由で未払いになったことがありましたか。(1～3 については、あてはまるものすべてに○)

1. 電気料金
2. ガス料金
3. 水道料金
4. 家賃
5. 校納費（給食費、学級費、PTA 会費など）
4. あてはまるものはない

問 31 次の a)～f)の質問について、この 1 か月間のあなたの気持ちはどのようでしたか。(a～f それぞれについて、あてはまるもの 1 つに○)。

	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	まったくない
a)活気があった	1	2	3	4	5
b)おだやかな気持ちだった	1	2	3	4	5
c)体調も良く健康だった	1	2	3	4	5
d) 神経過敏に感じた	1	2	3	4	5
e) 絶望的だと感じた	1	2	3	4	5
f)そろそろ、落ち着かなく感じた	1	2	3	4	5
g) 気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じた	1	2	3	4	5
h) 何をするのも面倒だと感じた	1	2	3	4	5
i) 自分は価値のない人間だと感じた	1	2	3	4	5

問 32 全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。「0」（まったく満足していない）から「10」（十分に満足している）の数字で教えてください。(あてはまるもの 1 つに○)。

0 まったく満足していない						10 十分に満足している				
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

問 33 あなたのご家庭では、以下の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。(a～e それぞれについて、1～3のあてはまるもの1つに○) また、「3. 利用したことがない」場合、その理由は何ですか。(①～⑤のあてはまるもの1つに○)

	a 就学援助 ※1	b 生活保護 ※2	c 生活困窮者の自立 支援相談窓口 ※3	d 児童扶養手当 ※4	e ※5 母子家庭等就業・ 自立支援センタ―
現在利用している	1	1	1	1	1
現在利用していないが、以前利用したことがある	2	2	2	2	2
利用したことがない	3	3	3	3	3
制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから	①	①	①	①	①
利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	②	②	②	②	②
利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	③	③	③	③	③
利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	④	④	④	④	④
それ以外の理由	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤

①③
②⑤
の
あ
て
は
ま
る
も
の
1

(参考)

- ※1 就学援助：経済的理由により子供の就学が困難な場合に、学用品費等を補助する制度。
- ※2 生活保護：病気や失業などにより生活費等に困り、他に方法がないときに一定の援助が受けられる制度。
- ※3 生活困窮者の自立支援相談窓口：お金、仕事、住宅など、様々な課題を抱えた生活に困窮する方のための相談窓口。専門の支援員が具体的な支援プランを作成し、課題の解決に向けた支援を行う。
- ※4 児童扶養手当：所得が一定水準以下のひとり親世帯の生活支援のための手当。(児童手当とは異なります。)
- ※5 母子家庭等就業・自立支援センター：ひとり親の方が、仕事探しに関する相談や講習を受けられる支援センター。養育費の取り決めなどに関する相談も受けられる。

質問は以上になります。ご協力ありがとうございました。

こども・若者の意識と生活に関する調査

調査へのご協力をお願い

皆様には日ごろから市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

本調査は、こども・若者に関する計画（令和7年度からの5年間）を策定するにあたり、こども・若者世代の生活実態を把握し計画の基礎資料とするために行うものです。

つきましては、調査の趣旨をご理解いただき、率直なご意見等をお聞かせくださいますよう、ご協力お願いいたします。

令和6年4月

調査の取扱いと回答方法

鹿屋市長 中西 茂

- ・調査の対象者は、市内にお住まいの15歳～39歳までの方の中から、無作為に選んでいます。
- ・調査票には、あて名のご本人がお答えください。この調査は無記名ですので、お名前を書く必要はありません。
- ・この調査票は、調査の目的以外には使用しません。ご回答は統計的に処理され、個人が特定されることはありません。
- ・タブレット端末や、お持ちのスマートフォンなどで、下記のQRコードからWEBアンケートにアクセスして回答してください。
- ・タブレット端末等が使用できない方につきましては、下記問合せ先までご連絡ください。
- ・質問内容について、回答番号をお選びください。質問は、すべての方にお答えいただく質問と、あてはまる方だけにお答えいただく質問があります。注意書きに沿ってお答えください。

<回答サイトのQRコード>

【WEB アンケート用 QR コード】

回答期限 令和6年4月15日（月）



<https://form.qooker.jp/Q/auto/ja/kanoyakodomo/1/>

【問合せ先】〒893-8501 鹿屋市共栄町 20 番 1 号

鹿屋市 保健福祉部 子育て支援課 保育幼稚園係

電話：0994-31-1134（直通）

あなた自身のことについて、お聞きします。

問1 あなたの性別をお答えください。(1つを選択)

1. 男性	2. 女性	3. その他

問2 あなたの年齢をお答えください。(1つを選択)

1. 15歳～19歳	2. 20歳～24歳
3. 25歳～29歳	4. 30歳～34歳
5. 35歳～39歳	

問3 あなたの現在の婚姻状況をお答えください。なお、「配偶者」には、婚姻の届出をしていないが、事実上婚姻と同様の状態にある方を含めます。(1つを選択)

1. 未婚	2. 配偶者あり
3. 配偶者と死別	4. 配偶者と離別(離婚)

問4 現在、あなたと同居している方をお答えください。なお、「配偶者」には、婚姻の届出をしていないが、事実上婚姻と同様の状態にある方を含めます。(いくでも選択可)

※里親や児童養護施設などで暮らしている方は、「10.その他」をお選びください。

1. 父	2. 母
3. きょうだい	4. 祖父母
5. あなたの配偶者	6. あなたの子
7. その他の親族	8. 友人・ルームメイト
9. 同居している人はいない(単身世帯)	10. その他()

問5 あなたの家の生計を支えている方は主にどなたですか。また、仕送りで生計を立てている方は、その仕送りを主にしてくれている方をお答えください。(1つを選択)

1. あなた自身	2. 父
3. 母	4. あなたの配偶者
5. きょうだい	6. あなたの子
7. その他()	8. わからない、答えられない

問6 あなたの家の生計を支えている方の主な収入源は何ですか。(1つを選択)

- | |
|----------------------------------|
| 1. 就労、事業による収入(農業収入を含む) |
| 2. 預金やその利息、財産からの収入(株の配当や不動産賃料など) |
| 3. 年金 |
| 4. 生活保護 |
| 5. その他() |
| 6. わからない、答えられない |

問7 あなたの暮らし向き(衣・食・住・レジャーなどの生活水準)は、世間一般と比べてみて、どれにあたると思いますか。あなたの実感でお答えください。(1つを選択)

1. よい	2. どちらかというといよい
3. どちらでもない	4. あまりよくない
5. よくない	

問8 あなたの現在、主にしていることをお答えください。(1つを選択)

1. 学生・生徒(予備校生などを含む)	2. パート・アルバイト
3. 派遣社員	4. 契約社員・嘱託
5. 正規の社員・職員・従業員	6. 会社などの役員
7. 自営業・自由業	8. 家族従業者・内職
9. 専業主婦・主夫	10. 家事手伝い
11. 無職(仕事を探している)	12. 無職(仕事を探していない)
13. その他(	

問9 あなたの就業経験〔パート・アルバイトを含む〕についてお答えください。(1つを選択)

- | |
|---------------------------|
| 1. 現在、就業している |
| 2. 現在、就業しているが、休職や休業中である |
| 3. 現在は就業していないが、過去に就業経験がある |
| 4. これまでに就業経験はない |

▶ 問9で「1」、「2」、「3」を選んだ方のみ、お答えください。

問10 次の各項目について、職場・アルバイト関係の人(現在及び過去の職場の同僚・上司・部下、その他仕事の関係で知り合った人など)と、あなたの現在のかかわりは、どのようなものですか。あなた自身にあてはまる番号をお選びください。

	そう思う	思う	思わない	そう思わない
ア) 会話やメール等をよくしている	1	2	3	4
イ) 何でも悩みを相談できる人がいる	1	2	3	4
ウ) 楽しく話せる時がある	1	2	3	4
エ) 困ったときは助けてくれる	1	2	3	4
オ) 他の人には言えない本音を話せることがある	1	2	3	4
カ) いつもつながりを感じている	1	2	3	4

問11 普段ご自宅(暮らしている場所)にいるときは、どんなことに時間を使っていますか。よくしていることをすべて選んでください。(いくつでも選択可)

1. テレビを見る	2. ラジオを聴く
3. 本を読む	4. 新聞を読む
5. ゲームをする	6. 勉強をする
7. 仕事をする	8. 家事をする
9. 育児をする	10. 介護・看護をする
11. インターネットをする	12. その他()

あなたの家族や友人などとの関わりについて、お聞きします。

問 12 次の各項目について、家族・親族とあなたのかかわりは、どのようなものですか。あなた自身にあてはまる番号をお選びください。

	そう思う	そう思う くらい	そう思わない くらい	そう思わない
ア) 会話やメール等をよくしている	1	2	3	4
イ) 何でも悩みを相談できる人がいる	1	2	3	4
ウ) 楽しく話せる時がある	1	2	3	4
エ) 困ったときは助けてくれる	1	2	3	4
オ) 他の人には言えない本音を話せることがある	1	2	3	4
カ) いつもつながりを感じている	1	2	3	4

問 13 次の各項目について、学校で出会った友人（現在通っている学校の友人、かつての同窓生など）と、あなたの現在のかかわりは、どのようなものですか。あなた自身にあてはまる番号をお選びください。

	そう思う	そう思う くらい	そう思わない くらい	そう思わない
ア) 会話やメール等をよくしている	1	2	3	4
イ) 何でも悩みを相談できる人がいる	1	2	3	4
ウ) 楽しく話せる時がある	1	2	3	4
エ) 困ったときは助けてくれる	1	2	3	4
オ) 他の人には言えない本音を話せることがある	1	2	3	4
カ) いつもつながりを感じている	1	2	3	4

問 14 次の各項目について、地域の人（近所の人、町内会などの知人、消防団などの地域活動での知人、塾や習い事での知人、参加している NPO 法人など）と、あなたのかかわりは、どのようなものですか。あなた自身にあてはまる番号をお選びください。

	そう思う	そう思う くらい	そう思わない くらい	そう思わない
ア) 会話やメール等をよくしている	1	2	3	4
イ) 何でも悩みを相談できる人がいる	1	2	3	4
ウ) 楽しく話せる時がある	1	2	3	4
エ) 困ったときは助けてくれる	1	2	3	4
オ) 他の人には言えない本音を話せることがある	1	2	3	4
カ) いつもつながりを感じている	1	2	3	4

問 15 次の各項目について、インターネット上における人やグループ（実際には会ったことがなかったり、または、何回か会ったことはあっても、基本的にはインターネット中心の付き合いの人やグループ）と、あなたのかかわりは、どのようなものですか。あなた自身にあてはまる番号をお選びください。

	そう思う	そう思う （やや）	そうわな （やや）	そうわな い
ア) 会話やメール等をよくしている	1	2	3	4
イ) 何でも悩みを相談できる人がいる	1	2	3	4
ウ) 楽しく話せる時がある	1	2	3	4
エ) 困ったときは助けてくれる	1	2	3	4
オ) 他の人には言えない本音を話せることがある	1	2	3	4
カ) いつもつながりを感じている	1	2	3	4

問 16 あなたは、仕事や学校、家事などのほかに、自由な時間を過ごす（またはほっとできる、居心地の良い場所）場合は、どのような場所で過ごすことが多いですか。（いくつでも選択可）

1. 自分の家	2. 友人の家
3. 喫茶店・カフェ	4. ファストフード店
5. 飲食店（ファミレス・居酒屋）	6. コンビニエンスストア
7. 商業施設（デパート等）	8. 漫画喫茶・ネットカフェ
9. アミューズメント施設（ゲームセンター等）	10. カラオケボックス
11. 学校	12. 図書館
13. 公園	14. その他（ ）

問 17 あなたは、仕事や学校以外の活動に参加していますか。この1年以内に参加した活動をお答えください。（いくつでも選択可）

1. 町内会や青年団体の係や役員	2. スポーツ・文化・芸術活動
3. 祭りや地域の運動会などのイベント	4. リサイクル活動
5. こどもや青少年育成のための活動	6. 高齢者などのための活動
7. まちづくりに関する活動	8. その他（ ）

問 18 最近6か月間に、家族以外の人と会話しましたか。（1つを選択）

1. よく会話した	2. ときどき会話した
3. ほとんど会話しなかった	4. まったく会話しなかった

あなたの外出の状況について、お聞きします。

問 19 あなたは普段どのくらい外出しますか。現在のことについてお答えください。(1つを選択)

1. 仕事や学校で平日は毎日外出する →問 24へ
2. 仕事や学校で週に3～4日外出する →問 24へ
3. 遊び等で頻繁に外出する →問 24へ
4. 人づきあいのためにときどき外出する →問 24へ
5. 普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事するときだけ外出する
6. 普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
7. 自室からは出るが、家からは出ない
8. 自室からほとんど出ない

→ **問 19で「5」～「8」を選んだ方のみ、お答えください。**

問 20 あなたの外出状況が現在の状態となって、どのくらい経ちますか。(1つを選択)

1. 3か月未満 →問 24へ	2. 3か月～6か月未満 →問 24へ
3. 6か月～1年未満	4. 1年～2年未満
5. 2年～3年未満	6. 3年～5年未満
7. 5年～7年未満	8. 7年～10年未満
9. 10年～15年未満	10. 15年～20年未満
11. 20年～25年未満	12. 25年～30年未満
13. 30年以上	

→ **問 21～問 23-1は問 20で「3」～「13」を選んだ方のみ、お答えください。**

問 21 あなたの外出状況が現在の状態になったのは、何歳の頃ですか。(1つを選択)

1. 14歳以下	2. 15歳～19歳
3. 20歳～24歳	4. 25歳～29歳
5. 30歳～34歳	6. 35歳～39歳

問 22 あなたの外出状況が現在の状態になった主な理由は何ですか。(いくつでも選択可)

1. 学校になじめなかったこと
2. 小学校時代の不登校
3. 中学校時代の不登校
4. 高校時代の不登校
5. 大学（専門学校、短期大学等を含む）時代の不登校
6. 受験に失敗したこと（高校・大学等）
7. 就職活動がうまくいかなかったこと
8. 職場になじめなかったこと
9. 人間関係がうまくいかなかったこと
10. 病気（病名： ）
11. 妊娠したこと
12. 退職したこと
13. 介護・看護を担うことになったこと
14. 新型コロナウイルス感染症が流行したこと
15. その他（ ）
16. 特に理由はない →問 24 へ
17. わからない →問 24 へ

→ **問 22 で「1」～「15」を選んだ方のみ、お答えください。**

問 23 あなたの外出状況が現在の状態になった最も大きな理由は何ですか。(1つを選択)

1. 学校になじめなかったこと
2. 小学校時代の不登校
3. 中学校時代の不登校
4. 高校時代の不登校
5. 大学（専門学校、短期大学等を含む）時代の不登校
6. 受験に失敗したこと（高校・大学等）
7. 就職活動がうまくいかなかったこと
8. 職場になじめなかったこと
9. 人間関係がうまくいかなかったこと
10. 病気（病名： ）
11. 妊娠したこと
12. 退職したこと
13. 介護・看護を担うことになったこと
14. 新型コロナウイルス感染症が流行したこと
15. その他（ ）
16. 特に理由はない
17. わからない

問 23-1 あなたが相談したことのある相談先があれば、次の欄に記入してください。(自由記載)

あなたの思いやこれまでの経験について、お聞きします。

問 24 あなたは、今、自分が幸せだと思いますか。あなたの実感をお答えください。(1つを選択)

1. そう思う
2. どちらかといえば、そう思う
3. どちらかといえば、そう思わない
4. そう思わない

問 25 次の各項目について、あなたはどれくらいの頻度で感じていますか。あなた自身にあてはまる番号をお選びください。

	決してない	ほとんどない	時々ある	常にある
ア) 自分には人とのつきあいが無いと感じることがある	1	2	3	4
イ) 自分は取り残されていると感じることがある	1	2	3	4
ウ) 自分は他の人たちから孤立していると感じることがある	1	2	3	4

問 26 あなたは、孤独であると感じることがありますか。(1つを選択)

1. 決してない
2. ほとんどない
3. たまにある
4. 時々ある
5. しばしばある・常にある

問 26-1 あなたは、何か困ったことがあった場合、自分の親やきょうだいに助けてもらえると思いますか。(1つを選択)

1. 助けてもらえる
2. 助けてもらえない
3. わからない

問 27 あなたは、自分の将来について明るい希望を持っていますか。(1つを選択)

1. 希望がある
2. どちらかといえば希望がある
3. どちらかといえば希望がない
4. 希望がない

問 28 あなたは今までに、社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験がありましたか。または、現在、社会生活や日常生活を円滑に送れていない状況がありますか。(最もあてはまる1つを選択)

1. 今までに経験があった(または、現在ある)
2. どちらかといえば、あった(ある)
3. どちらかといえば、なかった(ない)
4. なかった(ない)
5. わからない、答えられない

→ **問 29**は問 28で「1」又は「2」を選んだ方のみ、お答えください。

問 29 そうした問題を経験した、又は現在経験している主な原因は何ですか。以下の(1)～(4)のそれぞれにお答えください。

(1) 自分自身について(いくつでも選択可)

1. 人づきあいが苦手
2. 精神的な病気
3. 身体的な病気・ケガ
4. 妊娠
5. 何事も否定的に考えてしまう
6. 勉強が苦手
7. 悩みや不安などが相談できない
8. その他()
9. 特にない
10. わからない

(2) 家族・家庭について(いくつでも選択可)

1. 家族内の不和や離別(離婚)
2. 家庭内での孤立(家族間のコミュニケーションが希薄)
3. 親(保護者)の過度な期待
4. 親(保護者)の放任
5. 親(保護者)の厳しいしつけ
6. 親(保護者)の虐待
7. 親(保護者)の過干渉
8. 親(保護者)の甘やかし
9. 家庭が貧しい
10. 看護・介護(自分が担い手)
11. その他()
12. 特にない
13. わからない

1. 成績が悪い、授業についていけない
2. 先生との関係が悪い
3. 友達との関係が悪い
4. 校則に合わせるのが嫌
5. 集団行動が苦手
6. いじめを受けた
7. 体罰やハラスメントを受けた
8. 小学校時代の不登校
9. 中学校時代の不登校
10. 高校時代の不登校
11. 大学（専門学校、短期大学等を含む）時代の不登校
12. 大学、短大、高専、専門学校、高校の中退
13. 中学受験の失敗
14. 高校受験の失敗
15. 大学受験の失敗
16. 不本意な入学
17. その他（ ）
18. 特にない
19. わからない

1. 職場になじめない
2. 上司や同僚との関係が悪い
3. 就職に失敗
4. 職場を退職
5. 職場を解雇
6. 仕事上でのミス
7. 仕事の量や内容が自分の能力を超えている
8. いじめを受けた
9. ハラスメントを受けた
10. 働きたくない
11. いわゆる「充電」の期間が必要
12. 仕事が自分に向いていない
13. 自分の才能や特技を生かせる仕事でない
14. 本当に自分がやりたい仕事ではない
15. その他（ ）
16. 特にない
17. わからない

問 30 あなたは今までに、社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった状態が改善した経験がありましたか。(最もあてはまる1つを選択)

1. あった	2. どちらかといえば、あった
3. どちらかといえば、なかった	4. なかった
5. わからない	

問 30 で「1」又は「2」を選んだ方のみ、お答えください。

問 31 状態が改善したきっかけや改善に役立ったことは何だと思いますか。(いくつでも選択可)

1. 家族や親戚の助け	2. 友人の助け
3. 学校の先生に相談したこと	4. スクールカウンセラーなど学校にいる専門家に相談したこと
5. 地域の人々の助け	6. 病院に行って相談したこと
7. 相談できる場所に行って相談したこと	8. 電話相談を利用したこと
9. SNS やメール相談などを利用したこと	10. 同じようにうまくいかなかった経験をした人に話してみたこと
11. 就職・転職したこと	12. 趣味の活動に参加したこと
13. 時間がたって状況が変化したこと	14. 自分の努力で乗り越えたこと
15. その他 ()	16. わからない、答えられない

全ての方にお聞きします。

問 32 あなたが、社会生活や日常生活を円滑に送ることができない状態となったときに、家族や知り合い以外に相談するとすれば、どのような人や場所なら、相談したいと思いますか。(いくつでも選択可)

1. 相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある
2. 相手が同世代である
3. 相手が同性である
4. 匿名で（自分が誰かを知られずに）相談できる
5. 電話で相談できる
6. SNS やメールなどで相談できる
7. 曜日・時間帯を気にせずに相談できる
8. 相談できる場所が自宅から近い
9. 相手が自宅に来てくれる
10. 無料で相談できる
11. 相手先が公的な支援機関である
12. 相手先が民間の支援団体（NPO など）である
13. 相手が医師である
14. 相手がカウンセラーなど心理学の専門家である
15. その他（

16. 誰にも相談したくない

➡ 問32で「16 誰にも相談したくない」を選んだ方のみ、お答えください。

問33 相談したくないと思う理由は何ですか。(いくつでも選択可)

1. 相談しても解決できないと思うから
2. 自分ひとりで解決するべきだと思うから
3. 誰にも知られたくないことだから
4. 自分が変な人に思われるのではないかと不安だから
5. 自分の欠点や失敗を悪く言われそうだから
6. 相手がどんな人かわからないから
7. 何を聞かれるか不安に思うから
8. 嫌なこと、できないことをするように言われそうだから
9. 相手にうまく伝えられないから
10. 裏切られたり、失望するのが嫌だから
11. お金がかかると思うから
12. その他（
13. 特に理由はない、わからない

全ての方にお聞きします。

問 34 令和5年12月に「こども大綱」が閣議決定され、大綱が目指す姿として、「こどもまんなか社会」(全てのこども・若者が身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることができる社会)が掲げられています。以下のことについて、どのように思いますか。(それぞれ1つに○)

- (1)「こどもまんなか社会の実現に向かっている」(全てのこども・若者が身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることができる社会の実現に向かっている)と思いますか。

1. そう思う	2. どちらかというと思う
3. どちらかというと思わない	4. そう思わない
5. わからない	

- (2)「子どもは権利の主体である」(子どもは社会の一員として、大人と対等に、意見を発する(尊重される)権利を有する)と思いますか。

1. そう思う	2. どちらかというと思う
3. どちらかというと思わない	4. そう思わない
5. わからない	

- (3)「子ども政策に関して自身の意見が聴いてもらえている」と思いますか。

1. そう思う	2. どちらかというと思う
3. どちらかというと思わない	4. そう思わない
5. わからない	

- (4)「結婚、妊娠、子ども・子育てに温かい社会の実現に向かっている」と思いますか。

1. そう思う	2. どちらかというと思う
3. どちらかというと思わない	4. そう思わない
5. わからない	

- (5)「あなたの周りには、こどもや若者の遊びや体験活動の機会や場が十分にある」と思いますか。

1. そう思う	2. どちらかというと思う
3. どちらかというと思わない	4. そう思わない
5. わからない	

- (6)「子ども・若者の心身の健康等についての情報提供やこころのケアが十分だ」と思いますか。

1. そう思う	2. どちらかというと思う
3. どちらかというと思わない	4. そう思わない
5. わからない	

- (7)「障がいのある子ども・若者、発達に特性のある子ども・若者の地域社会への参加・包容(インクルージョン)が推進されている」と思いますか。

1. そう思う	2. どちらかというと思う
3. どちらかというと思わない	4. そう思わない
5. わからない	

- (8)「自分の将来についての人生設計(ライフプラン)について」考えたことがありますか。

1. 考えたことがある	2. ある程度考えたことがある
3. あまり考えたことがない	4. 考えたことがない
5. わからない	

20 歳以上の方について、お聞きします。(15 歳～19 歳の方への質問は以上です。)

問 35 あなたは結婚していますか。(1 つを選択)

※なお、この調査の中で、「結婚」とは法律に基づく結婚のことを指します。

1. 結婚している(現在、配偶者あり) →問 39 へ
2. 結婚したことはあるが、今はそうではない(離婚又は死別した) →問 39 へ
3. 結婚したことがない

▶ **問 35 で「3. 結婚したことがない」を選んだ方のみ、お答えください。**

問 36 あなたは将来結婚を考えていますか。(1 つを選択)

1. 結婚したい
2. どちらかといえば結婚したい
3. どちらかといえば結婚したくない →問 37 へ
4. 結婚したくない →問 37 へ

▶ **問 36 で「3」～「4」を選んだ方のみ、お答えください。**

問 37 結婚を考えていない理由は何ですか。(複数選択可)

1. 自分の自由な時間が減るから
2. 自由になるお金が減るから
3. 経済的に不安があるから
4. 相手の家族や親戚との付き合いが面倒そうだから
5. 自分の趣味や仕事を優先させたいから
6. 特定の相手に束縛されたくないから
7. パートナーがいれば、形式にこだわらないから
8. 親や周囲が結婚に反対する(だろう) から
9. 結婚に興味はない、必要性を感じないから
10. 人と付き合うのが苦手だから
11. 適当な相手にまだ巡り合えていないと思うから
12. その他 ()

問 38 結婚相手と知り合うきっかけ(またはきっかけとして期待するもの) はどのようなことですか。(複数選択可)

1. 学校(高校以下)
2. 学校(大学、大学院、専門学校など)
3. 学校以外のサークルや習い事
4. 職場や仕事の関係
5. 幼なじみ・隣人関係
6. 地域の活動やボランティア活動
7. 友人やきょうだい等を通じた紹介
8. お見合い・婚活イベント
9. マッチングアプリ・婚活サイト
10. SNS
11. 結婚相談所
12. その他 ()
13. 特にない

問39 あなたが、結婚生活について不安に感じることはありますか。(複数選択可)

1. 2人の間で起こる問題の解決
2. お互いの親族との付き合い
3. お互いの親の介護
4. お互いの前の配偶者やパートナーとの子どもへの向き合い方
5. 結婚生活にかかるお金
6. 雇用が安定していない
7. 子どもの育て方、教育
8. 子どもができない可能性
9. 特に不安はない
10. その他（

全ての方にお聞きます。

問 40 あなたはお子さんがいますか。(1つを選択)

1. いる →問 43 へ

2. いない

→問 40 で「2. いない」を選んだ方のみ、お答えください。

問 41 あなたは将来子どもを持ちたいですか。(1つを選択)

1. 持ちたい →問 42 へ

2. 持たなくてもよい →問 46 へ

3. わからない →問 47 へ

→問 41 で「1」を選んだ方のみ、お答えください。

問 42 子どもを持ちたいと思う理由は何ですか。(○は3つまで)

1. 結婚して子どもを持つことは自然なことだから
2. 子どもを持つことで周囲から認められるから
3. 子どもがいると生活が楽しく豊かになるから
4. 子どもは老後の支えになるから
5. 子どもは将来の社会の担い手となるから
6. 子どもは夫婦関係を安定させるから
7. 好きな人の子どもを持ちたいから
8. 配偶者・パートナーや親など周囲が望むから
9. その他 ()

問 43 から問 45 は、問 40 で「1」又は問 41 で「1」を選んだ方のみ、お答えください。

問 43 あなたにとって理想とする子どもの数は何人ですか。(○は1つ)

1. 1人
2. 2人
3. 3人
4. 4人
5. 5人以上
6. わからない

問 44 あなたは、実際に何人の子どもを持ちたいですか。現在おられるお子さんとこれから持ちたいお子さんの数を含めてお答えください。(○は1つ)

1. 1人
2. 2人
3. 3人
4. 4人
5. 5人以上
6. わからない

問 45 問 44 の実際に持ちたい子どもの数が、問 43 の理想の子どもの数より少ない方にお尋ねします。その理由は何ですか。(○は3つまで)

1. 子育てや教育にお金がかかりすぎるから
2. 産休・育休が取りづらいから
3. 自分の仕事に差し支えるから
4. 家が狭いから
5. 子どもがのびのび育つ社会環境でないから
6. 高年齢で産むのが嫌だから
7. 自分や夫婦の生活を大切にしたいから
8. 配偶者・パートナーの家事・育児への協力が得られないから
9. 配偶者・パートナーが望まないから
10. 健康上の理由から
11. 育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから
12. 欲しいけれども妊娠しないから
13. 保育サービスが整っていないから
14. その他（)

問 41 で「2」を選んだ方のみ、お答えください。

問 46 「持たなくてもよい」と思う理由は何ですか。(○は2つまで)

1. 子どもが好きではないから
2. 経済的な負担が大きいから
3. 妊娠や出産に不安を感じるから
4. 子育てに不安を感じるから
5. 自分や配偶者・パートナーとの時間を大切にしたいから
6. 仕事と子育ての両立が難しいと思うから
7. 子どもがのびのび育つ社会環境にないから
8. 配偶者・パートナーが望んでいないから
9. その他（)

全ての方にお聞きします。

問 47 将来、子育てをする上で不安なことは何ですか。(○は3つまで)

1. 子育てについて配偶者や親の協力が得られない
2. 仕事と子育ての両立が難しい
3. 子どもの病気や心身の発育・発達の遅れが気になる
4. 子どものしつけや教育の仕方がよくわからない
5. 子どもとふれあう時間が少ない
6. 子育てに追われて自分の時間がもてない
7. 子どもを通じて近所づきあいや、子どもの親同士の付き合いが負担になる
8. 子どもの成績や勉強の指導が不安だ
9. 自分自身親として自信がない
10. 自分自身の体力や健康などに自信がない
11. 悩みを気軽に相談できる相手がいらない
12. 子育てというものが全般的によくわからない
13. その他 ()

問 48 あなたは、自分自身の仕事と結婚・子育てについて、どのような希望がありますか。(○は1つ)

1. 結婚せず、子どもを持たず、働き続ける
2. 子どもを持たないで働き続ける
3. 子どもは持つが、子どもの成長に関係なく働き続ける
4. 子どもは持つが、子どもの成長に応じて働き方を変えていく
5. 子どもを持つことを機に、いったん退職するが、子どもの手が離れたら働く
6. 子どもを持ったら退職し、育児に専念する
7. 子どもの有無に関係なく、結婚後は働かない
8. その他 ()

問 49 あなたは、次の①～⑰の少子化対策や出産、子育てに関わる環境について、どれくらい満足していますか。(①～⑰についてそれぞれお答えください)

	満足	まあ満足	どちらともいえない	やや不満	不満
①妊娠・出産に関する相談窓口等の体制	1	2	3	4	5
②子どもや子育てに関する相談窓口等の体制	1	2	3	4	5
③妊娠・出産期の母親や子どもの健診や健康教育	1	2	3	4	5
④就労支援としての保育園等の保育サービス環境	1	2	3	4	5
⑤地域における遊び場の提供や親子の居場所づくり	1	2	3	4	5
⑥地域で子育てを支えるための住民参加・交流	1	2	3	4	5
⑦子どもの確かな学力・豊かな心を育む学校教育環境	1	2	3	4	5
⑧子どもが参加しやすい多様な体験機会	1	2	3	4	5
⑨子ども自身が不安や悩みを相談できる体制	1	2	3	4	5
⑩安心して受診できる医療機関の整備	1	2	3	4	5
⑪雇用の安定（正規職員への雇用形態の変化等）	1	2	3	4	5
⑫残業や長時間勤務の解消（または、減少）	1	2	3	4	5
⑬男女が共に子育てを行うための社会環境	1	2	3	4	5
⑭貧困等の困難な状況にある子どもの学習・生活支援	1	2	3	4	5
⑮児童虐待を防止するための対策や啓発	1	2	3	4	5
⑯子どもの安全を確保するための活動や環境	1	2	3	4	5
⑰若い世代や子育て世代の転入を増やすための施策	1	2	3	4	5

問 50 あなたは、次の①～⑯について、出産や子育てへの支援としてどのくらい重要だと思いますか。(①～⑯についてそれぞれお答えください)

	重要	まあ重要	重要でない	わからない		
①妊娠・出産に関する相談窓口等の体制	1	2	3	4	5	6
②子どもや子育てに関する相談窓口等の体制	1	2	3	4	5	6
③妊娠・出産期の母親や子どもの健診や健康教育	1	2	3	4	5	6
④保育園等の保育サービス環境	1	2	3	4	5	6
⑤地域における遊び場の提供や親子の居場所づくり	1	2	3	4	5	6
⑥地域で子育てを支えるための住民参加・交流	1	2	3	4	5	6
⑦子どもの確かな学力・豊かな心を育む学校教育環境	1	2	3	4	5	6
⑧子どもが参加しやすい多様な体験機会	1	2	3	4	5	6
⑨子ども自身が不安や悩みを相談できる体制	1	2	3	4	5	6
⑩子どもの健康の確保	1	2	3	4	5	6
⑪雇用の場の確保	1	2	3	4	5	6
⑫企業における仕事と家庭の両立支援	1	2	3	4	5	6
⑬男女が共に子育てを行うための理解	1	2	3	4	5	6
⑭貧困等、子どもの学習・生活が困難な状況への支援	1	2	3	4	5	6
⑮児童虐待等、子どもが安心して生活できる環境の啓発や支援	1	2	3	4	5	6
⑯若い世代や子育て世代の転入を増やすための施策	1	2	3	4	5	6

問51 あなたは、子どもを健やかに産み育てるためにどのようなことを期待しますか。(〇は3つまで)

1. 児童手当、医療費助成などの経済的支援
2. 保育サービスの充実
3. 子育て中の親が集える場の整備
4. 育児休業などの家庭と仕事を両立できるような雇用環境の整備
5. 産科、小児医療の充実
6. 児童虐待の防止、子どもを犯罪、交通事故から守る
7. 相談窓口の充実
8. 児童館等子どもの遊び場の整備
9. 教育環境の整備
10. 生活環境の整備（住宅の確保、道路交通環境の整備）
11. 過疎地における人口の増加のための定住促進
12. 未婚・晩産化対策（男女の新たな出会いへの支援）
13. 家族の絆や子育ての喜びなどの意識の醸成・啓発
14. 少子化が進行した社会での制度等の具体的なイメージの提示
15. その他（
16. 特になし

問 52 あなたは、将来も鹿屋市に住んでいたいと思いますか。(○は1つ)

1. 住んでいたい	2. 移り住みたい
3. その他(具体的に:)	4. わからない

問 53 最後に、鹿屋市の結婚、妊娠、子育て、青少年や若者に対する施策などについてご意見等がありましたらご自由にお書きください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

6. 事業所

鹿屋市子ども・若者支援に関する支援者調査(ご協力のお願い)

皆様には日ごろから鹿屋市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、本市では、子ども・若者に関する計画（令和7年度からの5年間）を策定するにあたり、日常的に子どもや若者、そのご家族を支えていただいている皆さまから、様々な状況をお聞かせいただくため調査を実施する運びとなりました。

調査方法では、支援者などを特定することなく、調査結果につきましては、今後の支援施策の充実に向けた基礎資料として活用させていただきますので、関係者の皆さまにおかれましては、ご多忙のところ大変恐縮ではございますが、本調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

ご不明な点などございましたら、お気軽にお問い合わせください。

令和6年4月

【ご回答にあたってのお願い】

- ① ご回答は、選択肢にチェックをつけてお選びください。【例: ☒
- ② チェックをつける数が設問によって異なりますので、注意書きに従ってください。
また、()の記載がある欄については、()内に具体的な内容をご記入ください。
- ③ 回答しにくい設問がありましたら回答せずに、次の設問に進んでいただいてもかまいません。
- ④ ご記入いただいた内容につきましては、調査の目的以外に使用いたしません。
- ⑤ ご記入が済みましたら、お手数ですが、同封の返信用封筒に入れ、ポストに投函ください。
提出（投函）期限：令和6年4月24日（水）

【問合せ先】 鹿屋市 保健福祉部 子育て支援課 保育幼稚園係

電話：0994-31-1134（直通）

■ はじめに、この調査票にご記入いただく貴団体(組織)の概要をご記入ください。

団体(組織)の名称 (支援者の場合は専門職名)			
代表者		記入者	
所在地		連絡先	

主な活動エリア (いくつでも選択可)	☐ 市内の一部	⇒ 具体的に ()
	☐ 市内全域	
	☐ 近隣市町	⇒ 具体的に ()
主な利用者 (いくつでも選択可)	☐ 乳幼児を含む未就学児	☐ 小学生・中学生
	☐ 高校生・大学生（同世代を含む。）	☐ 高校生・大学生世代以上の人
	☐ 障がいのある児童・生徒（小・中学生）	☐ 障がいのある高校生世代以上の人
	☐ 保護者	☐ その他 ()
活動頻度 (いずれかを選択可)	☐ ほぼ毎日	☐ 1週間に数日
	☐ 1週間に1日	☐ 隔週1回程度
	☐ 月に1回程度	☐ 不定期
活動内容 (自由記載)		
団体・組織を立ち上げた経緯 (自由記載)		

貴団体(組織)の活動状況についてお伺いします。

問1 現在、連携をしている機関はありますか。(いくつでも選択可)	
☐ 鹿屋市(部署名:)	☐ 小中学校
☐ 幼稚園、保育所、認定こども園など	☐ 児童相談所
☐ コミュニティソーシャルワーカー	☐ 社会福祉協議会
☐ 民生・児童委員	☐ 医療機関
☐ 民間団体・施設(名称:)	
☐ その他()	
問2 現在、活動している中で困っていることを教えてください。(いくつでも選択可)	
☐ 活動がマンネリ化している	☐ 支援の担い手となる人材が不足している
☐ 活動への参加者が少ない	☐ 活動への参加者が固定化している
☐ 活動が住民に認知されていない	☐ 地域のニーズが把握できていない
☐ 他の団体との交流・連携機会が乏しい	☐ 活動場所が確保できない
☐ 活動資金が不足している	☐ 特にない
☐ その他()	
問3 今後、連携したい機関はありますか。(いくつでも選択可)	
☐ 鹿屋市(部署名:)	☐ 小中学校
☐ 幼稚園、保育所、認定こども園など	☐ 児童相談所
☐ コミュニティソーシャルワーカー	☐ 社会福祉協議会
☐ 民生・児童委員	☐ 医療機関
☐ 民間団体・施設(名称:)	☐ 特にない
☐ その他()	
問4 連携したい理由を教えてください。(自由記載)	
上記(問3)機関() 理由	
上記(問3)機関() 理由	
問5 活動をされていて、子ども・若者の課題としてどのようなことがみられますか。(いくつでも選択可)	
☐ ひきこもり・不登校の子ども、若者が増えている	
☐ いじめに関する問題や相談が増えている	
☐ 子ども・若者の非行・暴力に関する問題や相談が増えている	
☐ 虐待(家庭内・ネグレクトなど)の疑いのある家庭が増えている(相談が増えている)	
☐ 生活困窮の問題を抱える家庭が増えている(相談が増えている)	
☐ 孤独・孤食の状況にある子ども・若者(家庭)が増えている	
☐ ヤングケアラーに関する問題や相談が増えている	
☐ 特にない	
☐ その他()	
問6 上記の具体例などについて記入してください。(自由記載)	

問7 日々子どもや若者、その保護者と接する中で、保護者が子育てに関してどのような悩みや問題を抱えていると感じますか。(いくつでも選択可)

☐ 病気・発育・発達に関すること	☐ 食事や栄養に関すること
☐ 育児の仕方がよくわからないこと	☐ 子どもの教育に関すること
☐ 子どもとふれあう時間を十分にとれない	☐ 話し相手や相談相手がいない
☐ 仕事や自分のやりたいことが十分できない	☐ 子どもとの接し方に自身がもてない
☐ 子育てに関して配偶者の協力が少ない	☐ 子育てに関して配偶者以外の家族の協力が少ない
☐ 家族以外に子育てを手伝ってくれる人がいない	☐ 地域の子育て支援サービスの内容がわからない
☐ 子どもの気持ちがよくわからないこと	☐ 子どもをしかりすぎているような気がする
☐ 子育ての経済的負担が大きい	☐ 特に悩んでいることはない
☐ その他 ()	

問8 活動する際に、大切にされていること、工夫していることを教えてください。(自由記載)

問9 活動する中で、特に難しかった(難しい)と感じる点はどのようなことがありますか。(自由記載)

問10 困難を抱える家庭において、どのような背景や特徴がみられますか。(いくつでも)

- ☐ 貧困
☐ ひとり親世帯
☐ 未婚
☐ 多子世帯
☐ 外国籍
☐ 保護者の虐待経験
☐ 保護者の障害・疾患
☐ その他 ()

問11 貴団体(組織)が今後力を入れた活動や取り組みたいことがあればご記入ください。(自由記載)

鹿屋市の子ども・若者支援に関する施策についてお伺いします。

問12 支援が必要な子ども(保護者含む)・若者に対し、どのような支援がもっと必要だと思いますか。(主な3つまで)

☐ 経済的支援	☐ 相談担当者の質的向上
☐ 相談担当者の増員	☐ 訪問による早期発見や生活支援
☐ 居場所(遊びや趣味など)の提供	☐ 学校での専門家による支援
☐ 学校以外での学習機会の提供	☐ 文化的活動の機会の提供
☐ 食事の提供	☐ 親の就労の支援
☐ 子どもの進学、就労の支援	☐ わからない
☐ その他 ()	

問13 鹿屋市の子ども・若者への支援（方法や現在の課題など）について、ご意見やご提案などがあれば自由に記入ください。(自由記載)